# 元朝秘史蒙古語文法講義

## ——附 元朝秘史蒙古語辭典——

小澤 重男 著

風間書房

# A Grammar on the Language of "Secret History of Mongols"

*by*

Shigeo Ozawa

KAZAMA SHOBO
Tokyo Japan

# 「はしがき」に代えて

昭和59 (1984) 年の2月から平成元 (1989) 年の2月まで，まる6年間をかけて，私は『元朝秘史全釈 (上・中・下)』，『元朝秘史全釈続攷 (上・中・下)』全六巻を上梓し，江湖の御批判を仰ぐ機会をもった。そして，最後の巻『全釈続攷 (下)』の「あとがき」において，私は，次の機会に“元朝秘史蒙古語文法”の執筆に向う旨の文を草した。その時から4年間の時間を閲した現在，私はその約束のなかば近くを果しえた感をもつ。残余のほぼ$\frac{1}{2}$は再び次の機会に預けることをお赦し願わねばならないが，しかし，本巻に記述した部分は秘史蒙古語の動詞論の大部分をカヴァーすることが出来たので，秘史蒙古語を読解する上での，ささやかな一助たり得たと考える。

*　　*　　*　　*

私は，言語研究における音声と文字を扱う部分及び語彙論は文法には含めない立場に立つので，秘史蒙古語文法についても，大きく「動詞論」，「実詞論」，「虚辞論」，「文論」の四部に分けて執筆を進めた。本巻では，上述のようにその中心をなす「動詞論」の大半を記述し終えたので，次の機会には残りの総ての部分を含めて，秘史蒙古語文法の記述を完了したい考えである。草稿の時点では，本書一巻の中に秘史蒙古語文法の総てを収めうると考えていたが，動詞論に思わぬ紙幅を費し，又，今まで上記全六巻に分載されていた「元朝秘史蒙古語辞典」をまとめて (多くの誤植を正し，体裁を整えて) 一書の形で収め，更に，上記六巻全巻にわたる「語句・事項総索引」をも注入した結果，「実詞論」以下を次巻にゆずることになった。再度，おゆるしを乞う次第である。

秘史蒙古語の研究は，私の生涯の中で，大きな時間を占めた研究であったが，何とか近い将来にその終点に到し得ようかとの予想を立てられそうな昨今である。

## 2 「はしがき」に代えて

モンゴル系の言語の研究には，未だ行なわれなければならぬ，多くの研究作業が残っている。私の残された生涯の中で，その何分の一が実現できるか，その予見はもとより困難であるが，その何分の一の実現に向って今後も精進を重ねたい所存である。

最後に，今回も本書の出版に際し，多大な御好意と御協力を賜わった風間書房社長，風間務氏，及び本書の編集にひと方ならぬ御協力をいただいた編集部の佐藤和久氏の両氏に深甚なる感謝を捧げると共に，困難な印刷に携さわって下さった中台整版の関係者各位にも心からの謝意を表明するものである。

又，本書所収の「元朝秘史蒙古語辞典」の作成には，東京学芸大学講師斉藤純男氏，「語句・事項総索引」の作成には，東京外国語大学助手[illegible]氏の大きな協力を受けた。両氏の御援助なかりせば，この二者の作成は困難に陥ったであろう。記して篤い感謝の念を明かにしたい。

平成五年，新春吉日。

冬晴れの日，入間川の寓居にて。　　小沢重男

（なお，本書は平成4年度文部省科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を受けて出版されたものである。文部省当局の御好意に，これ亦，大きな感謝の念を禁じ得ない）。

# 凡　例

1. 秘史の原文は，四部叢刊十二巻本に依ったが，葉徳輝十二巻本及びソ連十五巻本(パンクラートフ氏の序文をもつソ連版，モスクワ，1962)，静嘉堂文庫十五巻本（原山煌氏の御好意で，氏の作成になる「ソ連本・陸氏本異同対照表」を利用させていただいた）を適宜参照して原文校合を行った。又，『額尔登泰烏云達賚校勘蒙古秘史　校勘本』(呼和浩特1980)，『Bayar : Mongɢul-un niɢuča tobčiyan(巴雅尔：蒙古秘史上・中・下)』(呼和浩特1981)をも参考に供した。

2. 本書の結講は，節毎（従来の訳註書に於ても，原文は節毎に分けられているが，これは勿論，便宜上のことであって，漢字音訳原文に第一節，第二節などと記されているものではない）に分けた原文とその傍訳，その下に施したローマ字転写，更にその下に記した日本語直訳，そして節毎に附した訳文と註釈とから成る。註釈は，余りにも紙数をとるので語学的註釈を専らとし，歴史学にわたる註釈は，〔実録〕,〔村・秘〕その他に見られる優れた註釈にゆずった。

3. 秘史原文の表示は，従来の訳註書に従い，十二巻本全体を282節に分けて行うが，本書では，この節分けに加えて，巻数，葉数，行数をあわせ示した。例えば，§5（一3六～3十）は第五節，この第五節は巻一の第3葉の六行目から同3葉の十行目までに亙ることを示している。なお，行数は一葉の表面から裏面へかけての通し行数である。

4. モンゴル語の固有名詞の日本語表記は片仮名を以て表わし，転写字aをア，eをエ，iをイ，o,öをオ，u，üをウでそれぞれ表記し，これらの母音を伴う音節，例えばqa，ke，ki，qo，kö，qu，küカ，ケ，キ，コ，クで表わした。(qoとkö；quとküはカナ表記では区別がなくなるが，転写字が施されているので問題はない)。tu，tü；du，düはトゥ；ドゥで表わし，ču，čü；ju，juはチュ；ヂュで表記した。

3. 秘史原文のローマ字転写は『服部四郎：元朝秘史の蒙古語を表わす漢字の研究』所収の「音訳漢字順位表」の第一種転写を参考にしてモンゴル語を十分考慮に入れた私自身の決定した転写字に従って行った。転写に関して特に必要と思われるものについては本文中に注記したが，総体として以下の諸点に御留意願いたい。

1. 近年のモンゴル語研究の成果を取り入れて，若干の語に長母音の表記を行った。(1)

2. モンゴル語の対格語尾表記のために用いられた「亦，亦」及び母音の後に用いられたこの二字はyiと転写し，それ以外の場合はiで転写した。例えば，阿中合亦aqa-yi(兄を)，荅亦孫dayisun(敵)，亦舌列古ireku(来る)の如し。

3. モンゴル語の属格語尾を表記した「因」及び母音の後に用いられた「因，寅」はyinと転写した。例えば，阿中合因aqa-yin(兄の)，帖因teyin(そのように)，阿寅勒ayi(n)l(アイル)の如し。なお，「引者」はinjeでyinjeとはしない。

4. 你刊(一)，篾舌児干(善射者)の刊，干は服部先生の第一転写ではk'an，kanであるが，モンゴル語を考慮してken，genと転写する。兀該(～でない)，斡歌歹(オゴデイ)の該，歹もモンゴル語を考慮してgai̯，dai̯，ではなくgei̯，dei̯と転写する。

昂客(和平)，桑沽舌児(セングル河)の昂，桑も同様に，ang，sangではなくeng，sengと転写する。

中合札舌児(土地)，中合舌剌(黒い)の「中合」は前者ではǧajar，後者ではqaraと転写し分ける。これもモンゴル語を考慮に入れた転写である。中忽児班(三)ǧurban，中忽舌剌(雨)quraのǧu-;qu-も同様である。

5. 埃，擺，歹，中孩，台，中灰，恢など語末に-i̯をもつ二重母音はai̯(ei̯)bai̯，dai̯(dei̯)，qai̯～ǧai̯，tai̯(tei̯)，qui̯，küi̯のように転写し，保，倒，卯，耨など語末に-u̯をもつ二重母音もbau̯，dau̯，mau̯，neü̯と転写した。

---

(1) 服部四郎：「蒙古祖語の母音の長さ」，『言語研究』36号，東京，1959.

N. Poppe: On the Velar Stops in Intervocalic position in Mongolian. Ural-Altaische Jahrbücher, Band XXXI.

N. Poppe: The Primary Long Vowels in Mongolian. Journal de la Société Finno-Ougrienne 63,1962.

野村正良：「原蒙古語の母音体系に就いての研究」，名古屋，1979.

---

〔註〕この凡例は『全釈続攷(下)』の凡例をそのまま踏襲したものであるが，次の点でつけ加えた処がある。

ローマ字転写字として k, g, t, d,(極く稀に č, ǰ)を追加した。例えば「客ト帖-」kebte-《横たわる》は時に「格ト帖-」gebte-として現われるが，これはkebte-の書写上の変種と認めgebte-とする。(漢字面の「格」を尊重してgeとする)。又，「中合屯」qatun《后》は，屢々「中合敦」qadunとしても現われ，数量的には「中合敦」の方が優勢である。これには，それなりの理由を認め得るが，やはり漢字面を尊重しqadunと転写を施した。　(以上)

# 略 語 表

参考文献類，その他の略語を以下に掲げる。

〔B.M.N.〕 Bayar：Mongɢul-un niɢuča tobčiyan. 呼和浩特，1983.

〔C.S.H.〕 F.W.Cleaves：The Secret History of the Mongols, Cambridge Massachusetts, London, England. 1982.

〔Č.M.K〕 Čoyijingǰab：MongɢOl kelen-ü ǰüi-yin sudlul, Köke qota, 1989.

〔E.A.N.T.〕 Eldengteị, Ardaǰab: MongɢUl-un niɢuča tobčiy-a—seyiregülel tayilburi. 呼和浩特，1986, 12.

〔H.G.G.〕 E.Heanisch：Die Geheime Geschichichte der Mongolen. Leipzig, 1948.

〔H.N.T.〕 E.Haenisch：Manghol un Niuca Tobca'an, Wiesbaden, 1962.

〔H.G.K.〕 服部四郎：元朝秘史の蒙古語を表わす漢字の研究．東京，1946.

〔H.M.E.〕 Hangin Gombojab：Mongolian English Dictionary, 私家版.

〔H.T.S.〕 W. Hung：The Transmission of the Book Known as the Secret History of the Mongols, HJAS, Vol.14, No 3 and 4, 1951.

〔H.W.M.〕 E.Haenisch：Wörterbuch zu Manghol-un Niuča Tobča'an, Leipzig, 1939.

〔K.M.R.F.〕 J.E.Kowalewski：Dictionnaire-Mongol-Russe-Français, Kasan, 1844-1849.

〔K.K.J.〕 貝塚茂樹，藤野岩友，小野忍 編：角川漢和中辞典，東京，1959.

〔K.S.H.〕 Kei Kwei Sun：The Secret History of the Mongol Dynasty, Aligarh, 1957.

〔Ko.K.J.〕 諸橋轍次，鎌田正，米山寅太郎：広漢和辞典，東京，1981.

〔L.H.Y.〕 M.Lewicki：La Langue Mongole des Transcriptions Chinoises du XIVe Siècle. Le Houa-yi yi-yu de 1389.

〔L.M.E.〕 F.D.Lessing：Mongolian-English Dictionary, Berkley and Los-Angels, 1960.

〔L.N.V.I.〕 L.Ligeti：Notes sur le vocabulaire mongol d'Istanboul, Acta Orientalia Hungarica, Vol. XVI, 1963.

〔L.S.H.〕 L.Ligeti：Secrete History of Mongols.（村上教授より借用のゼロックス・コピー本）

## 8 略語表

〔L.H.S.〕 L.Ligeti : Histoire Secrète des Mongols, Akademiaii Kiadó, Budapest, 1971.

〔L.V.I.〕 L.Ligeti : Un vocabulaire mongol d'Istanboul, Acta Orientalia Hungarica, Vol. XIV, 1962.

〔M.D.O.〕 A.Mostaert : Dictionnaire Ordos, New York. London, 1968, 1968.

〔M.Q.P.〕 A.Mostaert : Sur Quelque Passages de L'histoire Secrète des Mongols, Cambridge, Massachusets, 1953.

〔O.M.X.〕 小沢重男：現代モンゴル語辞典，東京，1983.

〔P.H.S.〕 P.Pelliot : Histoire Secrète des Mongols, Paris, 1949.

〔P.M.L.〕 N.Poppe : Das mongolische Sprachmaterial einer Leidener Handshrift, Известия Академии Наук ССР. 1927-8.

〔P.P.S.〕 N.Poppe : The Mongolian Monuments in Hp'ags-pa Script, Second Edition translated and edited by J.R.Krueger, Wiesbaden. 1957.

〔P.G.W.M〕 N.Poppe: Grammar of Written Mongolian. Wiesbaden, 1954.

〔R.I.S.H.〕 I. de.Rachewilz : Index to the Secret History of the Mongols, Bloomington, 1972.

〔R.K.W.〕 G.J.Ramstedt : Kalmückisches Wörterbuch, Helsinki, 1935.

〔R.S.H.〕 I.de.Rachewilts : The Secret History of the Mongols, Papers on Far Eastern History4～31,1971～1985(巻一から巻十二まで全巻の訳註).

〔S.M.D.M.〕 A. de Smedt et A.Mostaert : Dictionnaire-Monguor-Français. Peip'ing, 1933.

〔Š.M.T.〕 Šaǧja : Mongɢul üsüg-ün dürim-ün toli bičig,(内蒙古人民出版社), 北京，1960.

〔T.K.J.〕 藤堂明保：学研漢和大辞典，東京，1981.

〔T.M.E.J.〕 D.Tömörtogoo：現代蒙英日辞典(小沢・蓮見訳)，東京，1979.

〔T.M.G.T.〕 A.Temir : Moǧolların gizli tarihi, Ankara, 1948.

〔U.S.H〕 Urgunge Onon; The History and the Life of Chinggis Khan, LIEDEN, NEW YORK, KOBENHAVEN, KÖLN. 1990.

〔Д.Н.Т.〕 Ц.Дамдинсүрэн : Монголын нууц товчоо, Улаанбаатар, 1976.

〔Д.Т.〕 В.М.Наделяев, Д.М.Насилов, Э.Р.Тенишев, А.М.Щербак : Древнетюркский словарь, Ленинград, 1969.

〔Да.Н.Т.〕 Т.Дашцэдэн : Монголын нууц товчоо, Улаанбаатар, 1985.

〔Г.М.Р.〕 К.Ѳ.Голстунский：Монгольско-русский словарь, С-Петербургъ, 1893

〔К.С.С.〕 С.А.Козин：Сокровенное сказание, монгольская хроника 1240г.под названием Mongγol-un Niγuča Tobčiyan, Юань Чао Би Ши, монгольский обыденный изборник, том I, Москва-Ленинград, 1941.

〔Л.М.Р.〕 Лувсандэндэв：Монгольско-русский словарь, Москва, 1957.

〔Л.М.Х.〕 Ш.Лувсанвандан：Орчин цагийн монгол хэлний зүй, Улаанбаатар, 1967.

〔Л.М.Б.〕 Ш.Лувсанвандан：Орчин цагийн монгол хэлний бүтэц, Улаанбаатар, 1968.

〔П.М.А.〕 Н.Н.Поппе：Монгольский словарь, Мукаддимат ал-Адаб, Часть I－II, Москва-Ленинград, 1938.

〔П.Н.Т.〕 Н.Пэрлээ：Нууц товчоонд гардаг газар усны зарим нэрийг хайж олсон нь. Улаанбаатар, 1968.

〔Р.М.Б.〕 Б.Ринчен：Монгол бичгийн хэлний зүй, I～IV. Улаанбаатар, 1964～67.

〔Р.Т.Н.〕 В.В.Радловъ：Опытъ словаря тюркскихъ наречій, С-Петербургъ, 1893-1911.

〔Ц.М.Х.〕 Я.Цэвэл：Монгол хэлний товч тайлбар толь, Улаанбаатар, 1966.

〔Ч.Б.Р.〕 К.М.Черемисов：Бурятско-русский словарь, Москва, 1973.

〔那・实〕 那珂通世：成吉思汗実録, 東京, 旧版, 1907, 新版, 1943.

〔小・祕〕 小林高四郎：蒙古の祕史, 東京, 1941.

〔白・音・祕〕 白鳥庫吉：蒙文音訳元朝祕史, 東京, 1943.

〔村・祕〕 村上正二：モンゴル祕史1～3, 東京, 1970～76.

〔道・祕〕 道潤梯歩：蒙古祕史, 呼和浩特, 1979.

〔札・蒙・新〕 札奇斯欽：蒙古祕史新譯並註釈, 台北, 1979.

〔内・蒙・漢〕 内蒙古大学蒙古語文研究室編：蒙漢辞典, 呼和浩特, 1976.

〔内・祕・校〕 額尔登泰, 烏云達赉：蒙古祕史, 校勘本, 呼和浩特, 1980.

〔蒙・祕・選〕 額尔登泰, 烏云達赉, 阿薩拉图：《蒙古祕史》語彙選釈, 呼和浩特, 1980.

〔花・都・祕〕 花赛, 都嘎尔札布：《蒙古祕史》校勘本, 呼倫貝尔, 1984.

〔Ma.N.T.〕 Mangsang：Mongγul-un niγuča tobčiyan. 呼和浩特, 1985.

〔蒙・分〕 蒙文分類辞典, 新版, 呼和浩特, 1978.

〔土・漢〕 土漢対照詞彙, 互助土族自治県, 1982.

〔布・東〕 布和等編：東郷語詞彙, 呼和浩特, 1982.

〔恩・達〕 恩和巴圖：達漢小詞典, 呼和浩特, 1983.

〔恩・達・詞〕 恩和巴圖等編：達斡尔語詞彙, 呼和浩特, 1984.

## 10 略語表

〔哈・土・詞〕 哈斯巴特尔等編：土族語詞彙，呼和浩特，1985.
〔陳・保・詞〕 陳乃雄等編：保安語詞彙，呼和浩特，1985.
〔保・裕・詞〕 保朝魯等編：東部裕固語詞彙，呼和浩特，1984.
〔武・巴・詞〕 武達等編：巴尔虎土語詞彙，呼和浩特，1983.
(bur.)ブリヤート方言 (cha.)チャハル方言 (dag.)ダウール方言
(kalm.)カルムク方言 (khal.)ハルハ方言 (mo.)蒙古文語
(mid.mo.)中世モンゴル語 (mogh.)モゴール方言 (mong.)モングォール方言
(ord.)オルドス方言 (pao.)保安方言 (tung.)東郷方言 (yog.)東部裕固方言
(paks.)パクパ蒙古語 (華甲・乙・丙)華夷訳語 甲種本，乙種本，丙種本
(三合)三合便覧 (盧)盧龍塞略 (至元)至元訳語
(武)武備志 (蒙總)蒙文總彙

なお，その他の参考文献については，本文中に，随時註記した。

# 目　　次

「はしがき」に代えて……1
凡例……3
略語表……7

元朝秘史蒙古語文法講義
第一部　動詞論
第一講　動詞の終止形〔Ⅰ〕……3
第二講　動詞の終止形〔II〕……79
第三講　動詞の形動詞形……116
第四講　動詞の副動詞形〔Ⅰ〕……171
第五講　動詞の副動詞形〔II〕……218

付録　再考すべき若干の章句……273

元朝秘史蒙古語辞典……281
元朝秘史全釈語句・事項総索引……571

あとがき……1

# 第　一　部

## (動詞論)

# 第一部　動　詞　論

## 第一講　動詞の終止形〔I〕

蒙古語の動詞は，その職能の点から見て，終止形，形動詞形，副動詞形の三範疇に分けて記述するのが適切である。元朝秘史蒙古語も，勿論，この例に洩れない。これらの諸形は，殆ど総て，動詞語幹に接尾される語尾によって表現される。それ故，蒙古語の動詞の記述は，これら諸活用語尾の記述にあてられることになる。

〖I〗 終止形。終止形は，文を終止させる職能をもつ。終止形語尾は，時制を表示する敍時語尾群〈A〉と，命令・希望・懸念などを表示する敍想語尾群〈B〉との二群に分れる。以下，〈A〉語尾群と〈B〉語尾群とに分けて，実例を以て例示する。

1. 〈A〉語尾群。以下の諸語尾が〈A〉に属する時制語尾である。

(a) -mu², -mui², (-mi)

(b) -yu², (-yui²), -yi

(c) -u², -ui², -i; -ai²

(d) -ba², -bai², -bi

(e) -ǰu'ū², -ǰu'ūi², -ǰi'āi²～-ǰigi

(f) -la'ā², -la'āi²; -lu'ā², -lu'āi², -ligi～-liyi

(g) -'ā², -'āi²

この [A] 群の諸語尾の中に，我々は，「秘史蒙古語」にのみ存在する大きな特徴を見ることが出来る。それは，男性単数形，女性単数形，及び（男・女）複数形という，性・数による語尾の使い分けである。その特徴が最も顕著に見

てとれるのは (d), (e), (f) の諸語尾においてであるが, (b), (c) においても原則的に, 上の特徴は読みとれる。ただ (a) と (g) においては, 女性形として期待される -mi と -'ī は発見されない。以下, 順を追って [A] 語尾群の用例を吟味する。

### 《a》 -mu², -mui², (-mi)

〈1〉 §15 (一九四～九七) 朶奔篾児干 牙温 古温 赤 客延

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 甚麼 | 人 | 你 | 麼道 |
| ドブン・メルゲン | "如何なる | ya'ūn | kü'ün | či | keyēn |
| | | | 人ぞ | 汝" | と |

阿撒中忽阿速 帖舌列 古温 鳴詰列舌論 必馬阿里黒伯牙兀歹 牙苔周

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 問 | 呵 | 那 | 人 | 説 | 我 | 姓 氏 | 窮乏着 |
| asagu'āsu | | tere | kü'ün | ügülerün | bi | Ma'ālig=baya'ūdai yadaju | |
| 問わば | | かの | 人 | 言うに | "我 | マアリグ・バヤウダイなり, | 困乏して |

迸歩木 帖舌列 戈舌劣額速 訥 米(中)合 納察 納苔斡克……客主兀 (1)

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 行着 | 那 | 野物 | 的 | 肉 | 裏 | 我行 与 …… | | 説了 |
| yabumu | tere | görö'ēsün-ü | | miqan-ača | | nada ög……kējü'ü | | |
| あり, | その | かもしか | の | 米 | を | 我に 与えよ……"と云えり。 | | |

〈2〉 §171 (六七六～七七) 額担 客列 亦舌列兀魯額惕 成吉思中合罕

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 這 | 話 | 来了 | | 太祖 | 皇帝 |
| ene | kele | ire'ūlü'ēd | | Činggis | qahān |
| この | 言を | 来さしめて | | チンギス | 可汗の |

鳴詰列舌論 兀舌魯兀敦 主舌児扯歹 額賓 赤 牙兀 客額木 赤馬宜

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 説 | 姓 | 人名 | 伯父 | 你 | 甚麼 | 説有 | | 你行 |
| ügülerün | Uru'ūd-un | Jürčedei | ebin | či | ya'ū | ke'ēmü | | čimayi |
| 言うに | "ウルウド族の | デュルチェデイ | 伯父 | 汝は | 何と | 言う, | | 汝を |

葬来刺牙 客額罷 (2)

| | |
|---|---|
| 教做先鋒 | 説了 |
| manglailaya | ke'ēbe |
| 先鋒となさん" | と云えり。 |

〈3〉 §101 (二46六～46九)

別勤古台因 額客宜 孫都剌温勤都周
人名的 母行 教養騎着
Belgütei-yin eke-yi sundula'ū(n)lduju
ベルゲテイの 母 を あい乗りさせて

中豁牙児 闊陽 亦訥 扯児別格勤者温勤周 中合荅舌剌周 古児抽 亦舌列額(陽)
両箇 脚 他的 垂 着 点 着 到着 来 了
qoyar kōd inu čerbegelje'ū(n)ljü qadaraju kürčü ire'ēd
二本の 足を ←彼女の ぶらぶら垂らせ 騎走し 到り 来て

額捏 帖児堅 朶脱舌剌 牙温 帖額周 阿木 客額罷 中豁阿黒臣 額篾堅
這 車 内 甚麼 戴着 有 説了 名 老婦人
ene tergen dotora ya'ūn te'ējü amu ke'ēbe Go'āgčin emegen
"この 車の 中に 何 つみて ある" と云えり。 ゴアクチン 老婆の

鳴詁列舌論 翁中合孫 帖額周 阿木 客額畢 (3)
説 毛 戴着 有 説了
ügülerün ungɢasun te'ējü amu ke'ēbi.
言うに "羊毛 つみて あり" と云えり。

〈4〉 §77 (二9九～10一)

泰亦赤兀惕阿中合迭兀因 中合失温
種名 兄弟的 苦
Taiyiči'ūd aqa de'ū-yin ɢaši'ūn
"タイチウド 兄弟(から)の 苦しみが

倒兀孫牙丹 哈赤客捏 阿不舌闌 赤荅中忽訥 客額周 不恢突児
受 不得 誉 誰行 報 能麼 説着 有的時
dau'ūsun yadan hači ken-e aburan čidaqun-ū ke'ējü büküi-dür
終りかね, うらみ 誰もて 報じ 得べきや" と云いて ある に

納馬宜也勤 你覩訥 速舌里木孫 阿馬訥中合中合孫 孛勤中合梅 塔 (4)
将我 為甚 眼的 毛 口的 梗 做有 您
namayi yēkin nidün-ü surimusun aman-u qaɢasun bolɢamui ta.
"我を 如何そ 目 の まつ毛, 口 の とげ となすや 汝等。"

〈5〉 §170 (六3三～3五)

札木中合 鳴詁列舌論 田迭 兀舌魯兀惕
人名 説 那裏 種
Jamuqa ügülerün tende Uru'ūd
ヂャムカの 言うに "そこに ウルウド,

忙中忽傷 客延 亦舌児堅 亦訥備 帖迭 亦舌児堅 亦訥 中合傷中忽動都梅者
種 慶道 百始 他的有 那 百姓 他的 斯殺 有
Mangɡūd keyēn irgen inu büi, tede irgen inu qadquldumui~je. (5)
マングト と云う 人衆 ←彼のあり。 彼等 人衆は ←彼の (よく) 戦い合うぞ"

〈6〉 §199 (八10八～11一) 必荅泥 額赤捏 別舌児 孛額速 亦列
俺 行 背処 也 有呵 対面
bidan-i ečine ber bö'ēsü ile
"我等を 影に あり て も 面前の

篾図 中豁羅別舌児 孛額速 斡亦中剌 篾図 薛傷乞周 迓歩阿速 迭額舌列
般 遠 也 有呵 近 般 想 者 行 呵 上
metü qola ber bö'ēsü oyira metü sedkijü yabu'āsu de'ēre
如く 遠 く に ありても 近くが 如く 想い 行かば 上

騰格舌理迭 別舌児 亦協額克迭梅者 塔 客延 札舌児里黒 孛勒罷 (6)
天 行 也 被護助 有也者 您 慶道 聖旨 做了
tenggeri-de ber ihe'ēgdemüi~je ta keyēn jarlig bolba.
天 に ぞ 加護さる べし 汝等" と 勅 せり。

〈7〉 §166 (五40五～40九) 札木中合 兀勒斤鳴詰列舌論 帖木真 安荅
人名 讃 説 名 契交
Jamuqa ulgin ügülerün Temüjin anda
ヂヤムカ 讃して言うに "テムヂン 盟友

米訥 乃馬訥 塔楊中罕突舌児 客列禿 額勒赤禿 備由 阿蠻亦訥
我的 種 的 人名 行 話有的 使臣有的 有 口 他的
minu Naiman-u Tayang qan-dur keletü elčitü büyü, aman inu
←わが ナイマン族の タヤン 汗 に 通ぜる 使者もちて あり, 口は ←彼の

額赤格可兀 客額周 阿木 阿不舌里 亦訥 斡額舌列 備由 亦帖格主兀
父 子 説着 有 徳性 他的 另 有 倚仗 着
ečige kö'ū ke'ējü amu aburi inu ö'ēre büyü, itegejü'ū
「父 子」 と云いて あり, 性は ← 彼の 異なりて あり, 信じてか

阿梅 塔 額薛 撚迭額速 塔納 牙兀 孛勒中忽 (7)
有 您 不曾 攙 先 呵 您行 如何 中
amui ta, ese nende'ēsü tan-a ya'ū bolqu
ある 汝等, 急襲 せざれば 汝等に 何が 起らむ"

〈1〉の yadaǰu yabumu は《困乏して（困労して）歩いている》と直訳できる語句である。動詞語幹 yada-は《疲労する，疲れはてる》を意味するが，《～し難い，～しかねる》の意にも屢々用いられる動詞である。yabu-は一般に《行く》と解される語幹であるが，《歩いて進む》が原義で，こゝでも“私，マアリグ・バヤウダイは疲れはてて歩いてます”を表わすのが yadaǰu yabumu である。この -mu は，この例から知られるように，《現に行なわれている動作——動詞の表わす意義は大きく分けて動作（行動）・状態・存在を表示するものと定義しうるが，特に必要のない場合は，これら三者を「動作」によって代表させる。以下これに倣う——》を表示する。動作の主体は bi Ma'ālig=baya'ūdaį という一人の男性である。序いでながら附言すれば，Ma'ālig は不詳の語であるが，baya'ūdaį の語幹の baya-は実詞 bayan《富んだ，裕福な》を意味する語であるから，baya'ūdaį——-(ū)daį は「氏族；部族」を意味する接辞——Ma'ālig=baya'ūdaį という個有名は《困窮者》のイメージから遠い。この Ma'ālig=baya'ūdaį が“yadaǰu yabumu”というのは，何か特別な事情を意味しているのかも知れぬ。

〈2〉の či ya'ū ke'ēmü の -mü も《何と言う》の主体は či《汝》で，この či は勿論，単数の男性である。この場合の《何と言う》の《言う》は厳密には《これから言》うのであるからテンスとしては未来に属する動作に対して用いられている。-mu[2] は——muį[2] も——この様に，未来の動作に対しても用いられる。

〈3〉の ya'ūn te'ējü amu と ungɢasun te'ējü amu は《何をつんであるか》，《羊毛をつんである》とも読めないこともないが，むしろ日本語の《何がつんであるか》，《羊毛がつんである》に解する方がよいと思う。前者の如く解するとすれば，ya'ūn, ungɢasun でなく ya'ū, ungɢasu の方が秘史蒙古語においても希ましいと思われる（現代モンゴル語なら，この様な場合には，必ず юу тээж байна (вэ)? унгас тээж байна となる）。amu はこの場合，助動詞であるが，《現につんである》状態，又は《現につまれている存在》を表

わしている。

〈4〉, 〈5〉, 〈6〉 は -mui̯² の文例である。〈4〉 の bolcamui̯ ta 《(～と) 為す (や), 汝等》, 〈5〉 の qadquldumui̯-je 《戦い合うぞ》, 〈6〉 ihe'ēgdemüi̯-je ta 《加護さるべしぞ, 汝等》 の 《(～と) 為す》, 《戦い合う》, 《加護される》 主体が, 総て複数の主体である——ta 《汝等》, tede irgen 《彼等人衆》——ことに注目しなければならない。〈4〉 の bolcamui̯ の -mui̯ は "汝等が我を〈目のまつ毛, 口中の刺〉としている" 現状を表わし, 〈5〉 の qadquldumui̯-je は "よく戦い合う" という事実が一般認識 (というと少し大袈裟だが) として表現され, 〈6〉 の ihe'ēgdemüi̯ 《加護さるべし》 は未来に属する動作である。なお 〈7〉 は a-《ある; いる》 における amu の単数性, amui̯ の複数性を明示する証例として示した。

以上の事実から, 男性単数形-mu², 複数形 (複数では原則として男性・女性の区別はない) -mui̯² の区別の存在が認知される。

-mu(i̯)²——mu² と -mui̯² の両方を示す方法として -mu(i̯)² と表記する。他の諸語尾においても同様。例えば -ba(i̯)² は -ba² と bai̯² とを合わせ表示する——の意義素を《ある動作が現時点で遂行されつゝあり, 又将来においても遂行される》と措定することができる。又, この語尾は,《ある動作に対する, 現時点での一般的認識》をも表現すると言うことが出来よう。

他の諸語尾との比較から, -mu(i̯)² にも女性単数形としての *-mi が期待されるが, 今までのところ,「秘史蒙古語」以外の文献にも, この形は実証されない。その唯一の例外は,「ライデン語彙[1]」における qarqami の -mi である。

ポッペ博士は, この語に *qarqami̯* (?) の如く疑問符を附して -mi に疑問を投げかけられ,

> Vielleicht Praes. vom Verbum *qarqa-*, vgl. mo. *ɣarɣa-* 'herausgehen lassen'

とされている。動詞語幹 garga-《出す》 に -mi が接尾されていることは明かであるから, この -mi は, 当時すでに失なわれていた *-mi の名残りかも知

れぬ。他の実例が切望される。

なお，秘史全巻に亙っての -mu² の実例は66例，-mui² の実例は63例で，ほぼ互角というところ。これら全例を通して，上述の -mu² の単数男性形なることは全く疑問の余地なしと断じうるが，-mui² の複数形なること，-mu² の如く明断しかねる，少なからぬ実例に逢着する。

これは，-i 系語尾——筆者は -mui², -bai², -ǰu'ūi², -la'āi² 等々の語末に -i をもつ諸語尾を -i 系語尾と呼ぶ——の総てに言い得ることであり，これについては，特に一項目を立てて後述する。

### 《b》 -yu², (-yui²), -yi

ポッペ博士によって deductive present《演繹的現在》と呼ばれる，この語尾 -yu² は秘史蒙古語においては全86例を数える。しかし，その$\frac{2}{3}$の57例は「備由～慊由」——これをヘーニッシュ[(2)]氏は buiyu，ペリオ[(3)]氏は büyü，コージン[(4)]氏は biyu，リゲティ[(5)]氏は büyyü，ダシツェデン[(6)]氏は buyu とそれぞれ転写するが，筆者は büyü と転写し，結果的にペリオ氏のそれと一致する。その理由については註7を参照——であり，その他は18語幹に接尾された29例であるから，-mu(i)² に比すれば，その使用範囲は限られていると言えよう。以下に実例を挙げる。

〈1〉 §188(七5五～5七)

| 的的克撒中合侖 | 涅坤 | 兀速納 | 王中罕 |
|---|---|---|---|
| 地名 的 | 水名 | 水行 | 人名 |
| Didig=saqal-un | Nekün=usun-a | | Ong qan |
| デイディク・サカル の | ネクン 川 に | | オン 汗は |

| 杭中合周 | 幹舌羅中忽 | 孛侖 | 乃馬訥 | 中合舌剌兀勤 | 中豁舌里速別赤 | 突舌児 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 渇 着 | 入 | 做 | 種名的 | 哨望的 | 人名 | 行 |
| hangɢaǰu | oroqu | bolun | Naiman-u | qara'ūl | Qori=sübeči-dür | |
| 渇して | 到達することになり | | ナイマン族の | 斥候， | コリ・スベチ に | |

斡舌羅主兀 必 王中罕脩由 客額速 兀禄 塔紉 額薛 不失舌列周 田迭
入了来 我 人名 有 説呵 不 認 不曽 信 者 那裏
oruǰu'ū bi Ong qan büyü ke'ēsü ülü tanin ese büširejü tende
入った。 "我 オン 汗 なり" と云わば (彼は) 識らず 信ぜずして そこに

阿剌主兀 (8)
殺了来
alaǰu'ū.
殺せり。

〈2〉 §147 (四50二～50六) 成吉思中合罕 鳴詁列舌論 歹亦孫 迓歩黒三
太祖 皇帝 説 敵 行了的
Činggis qahān ügülerün daiyisun yabuɢsan
チンギス 可汗の 言うに "敵 (たりて) 行ける

古温 阿剌黒撒你顔 歹亦速舌児中合黒撒 你顔 別耶延 你兀周 客列邉
人 殺了的 自的行 反做了的 自的行 身自的行 蔵 着 話自的行
kü'ūn alaɢsan-iyān daiyisurqaɢsan-iyān beye-yēn ni'ūju kele-bēn
人は 殺生せるを (己が), 敵対せる を (己が) 自ら 隠し, 言を (己が)

不察周 阿由〈由〉 額捏不舌侖 客額速 門荅 阿剌黒撒你顔
誹着 怕 有 這箇 呵 説呵 却 殺了的 自的行
bučaǰu ayu〈yu〉, ene bürün kē'ēsü munda alaɢsan-iyān
秘して 恐るものなり, 此奴 は と云わば 逆に 殺生せるを (己が),

歹亦速舌児中合黒撒 你顔 兀禄 不察(你) 門荅 只安 備由 (9)
反做了的 自的行 不 隠誹 却 告 有
daiyisurqaɢsan-iyān ülü buča〈n〉 munda ǰi'ān büyü.
敵対せる を (己が) 秘 せ ず, 逆に 告げて あり。"

〈3〉 §65 (一45七～45九) 訥温可兀惕 馬訥 嫩禿黒 中合舌剌由
児 孩児 俺的 営盤 看 有
"nu'ūn kö'ūd manu nuntuɢ qarayu,
"男の 子は ← 我等の 居営地を 守るものなり,

斡勤可温 馬訥 汪格兀者克迭由 也速該中忽荅 格児 圖児 米訥 斡都牙
女 孩児 俺的 顔色 看 有 名 親家 家 裏 我的 去来
ökin kö'ūn manu öngge üǰegdeyü, Yesügei quda ger-tür minu oduya,
女の 子は← 我等の 顔貌を見らるるなり, イエスゲイ 親族よ 包 に ← 我が 行かむ,

斡勤米訥兀出兀堅備由　中忽荅兀者禿該　客額周……。(10)
女子 我的 小 有　親家 看　說着
ökin minu üčü'ügen büyü, quda üjetügei ke'ējü…….
娘 ←我 が おさなく あるなり, 親族よごらんあれ" と云いて……。

〈4〉 §188 (七6十～7二) 帖舌列 兀格突舌児 額篾 亦訥 鳴詁列舌論
那 言語裏 妻 他的 說
tere üge-dür eme inu ügülerün
その 言 に 妻の ←彼の 言うに

額篾古温 那中孩 你兀舌児台 客額克迭宜者 必 阿勒壇 盞討兀 別舌児
婦 人 的 面皮有的 被說 也者 我 金 盃 也
eme kü'ūn noqai ni'ūrtai ke'ēgdeyi-je bi, altan jantau'ū ber
"「女 人は 犬 (の如き) 顔あり」 と言わるるなり 我, 黄金の 盃 をば

亦訥 斡克 兀孫別舌児 兀惕中忽周 兀兀禿中孩 客額主為。(11)
他的 与 水 也 汲 着 飲 者 說了有
inu ög, usun ber udquju u'ūtucai ke'ējü'ūi.
←彼の 与えよ, 水 をば 汲みて 飲まめん" と云えり,

〈5〉 §55 (一35五～35九) 田迭訶 額侖兀真 鳴詁列舌論 帖迭中
那裏 婦 人 名 說 那
tende Hö'ēlün=üjin ügülerün tede
そこに ホエルン・ウヂンの 言うに "彼等

忽児班 (口)合舌剌泥 兀中合巴兀赤 赤舌来 赤舌来 阿察 不速惕備
三箇 人 行 覚 慶 你 顔色 顔色 行 不是 有
gurban haran-i uqaba'ū či, čirai čirai-āča busud büi,
三 人 を 覚れるか 汝, 顔 顔 から 異りてあり,

阿民 圖児 赤訥 古児恢 赤来壇備 阿民 額列 赤訥 孛額速 完勒只格
性命 裏 你的 到的 顔色毎有 性命 但 你的 有 呵 車 前
amin-ṭür činu kürkūi čiraitan büi, amin ele činu bö'ēsü ölǰige
命 に ← 汝の 到る 顔をもちてあり, 命 だに ← 汝の あらば 車の前室

土屯 斡乞惕 中合舌剌兀土屯 中合禿惕備 阿民 額列 赤訥 孛額速
毎 女子毎 黒車 毎 婦人 有 性命 但 你的 有呵
tutum ökid qara ū tutum qatud büi, amin ele činu bö'ēsü
ごとに 乙女連, 黒枠 (の車) ごとに 女連 あり, 命 だに ← 汝の あらば

斡乞中合禿　斡魯亦者　赤……。(12)
女子　婦人　得　也者　你
ōki　qatu　oluyi~je　či……。
乙女・婦女を　得るものなり　汝……"。

以上の5例から -yu[2] が男性単数形，-yi が女性単数形なることが知られる。その意義素は《ある動作が従前からの知識によって，現に行なわれる》と措定される，日本語では《知っての如く，知られているように～する，～するものだ》と訳せば当る。

〈1〉の bi Ong qan büyü は《知って通り，我は王汗である》の意で，王汗は当時ケレイド族の大王として草原社会の覇者であったことからすれば王汗の bi Ong qan büyü と発した büyü は -yü の意をよく示している。

〈2〉の kele-bēn bučaju ayuyu も "一般的には，敵対行動をとったことを隠し，何も言わず恐れるものである" を意味し，bučaju ayuyu《秘して恐る》の ayuyu はこのニュアンスをよく伝えている。

一般的常識からすれば，当然 kele-bēn bučaju ayuyu なのだが，munda ji'ān büyü《むしろ逆に告げている》となる。この ji'ān büyü の büyü は "今，彼が現実に告げたように，知っての通り《告げている》" という状況で用いられたものである。秘史蒙古語における bü-《ある，いる》と a-《ある，いる》との意義の相違については後述する機会があるが büyü<bü-yü は屢々用いられる形であるのに ayu<a-yu が一例も見られないのは，その意義素に帰因するものである。なお，原文の「阿由（怕有）」を「阿由〈由〉」と校したのは傍訳の（怕有）を参照した処置で，夙にヘーニッシュ氏，ラケヴィルツ氏，リゲティ氏等も ayuyu と校している。筆者の『元朝秘史全釈（下）』の p. 173 では「阿由」のままになっているので「阿由〈由〉」と校さねばならない。又，原文の「兀禄　不察」の「不察」をヘーニッシュ氏，コージン氏は bučaju と校し，ペリオ氏も bučaju? とし，ラケヴィルツ氏は buca[?]，リゲティ氏も buca[sic] とされている。ダシツェデン氏は buča のままである。しかし，これは「不察〈你〉buča〈n〉」と校すべきものである。bučaju と校する

場合には，上の否定辞は「額薛 ese」であって，「兀禄 ülü」ではない。連接接合副動詞 -ju を否定するのは ese であって ülü ではない。然るに，ここでは ülü buča と見えるのであるから，これは当然 ülü bučan と校さねばならない。同時接合副動詞 -n を否定するのは「兀禄 ülü」である。(8)

-yi は -yu² の女性形である。文例〈4〉,〈5〉からその事実が知られる。〈4〉の ke'ēgdeyi-je の主語 bi が女人であることは行文からして何の疑いもない。〈5〉の oluyi-je の主語は čiledü——Hö'ēlün=üjin の夫，上の引用中には出て来てないが——であって女性ではないが，文例から知られる通り，この文はホェルン夫人(フジン)の語った文そのものである。それ故，こゝに oluyu-je でなく oluyi-je が用いられたと見ることができる。この -yi は“命さえあれば，（女人は多いのだから，一般的に考えれば）女人は得られるものである”の意を表わすのに適切な語尾として用いられている。

複数形と目される *-yui² は，現在までの処，現存の文献からは発見されない。

### (c) -u², -ui², -i; -ai²

この -u² 系語尾——こゝでは，-u², -ui², -i; -ai² を一括してこの様に呼ぶ——も主に「秘史蒙古語」にのみ見られる特徴的語尾である。他の文献の用例を殆ど参考に出来ないので，この語尾の意義素の措定には困難を伴なうが，面白いことに動詞語幹 ayis-《現に近づきつつある》に -ui² が附されたと認められる文語形 ayisui，ハルハ方言の aйcyй，オルドス方言の $\ddot{a}s^{u}\bar{i}$ などの一語が現在まで残っているので，これらの表わす意味の考察が手助けになる。先ず文例を以下に示す。

〈1〉 §172 (六11九～11十)

| 兀都舌児 | 格格延 | 孛勒中合周 | 兀者額速 |
|---|---|---|---|
| 日 | 明 | 教做着 | 看 呵 |
| üdür | gegeyēn | bolgaju | üje'ēsü |
| 日を | 明るく | させて | 見れば |

中豁亦納察 你刊古溫 阿亦速 古舌児抽 亦舌列額速 孛斡舌児出阿主兀(13)
後 行 一箇 人 来有 到着 来 阿 人 名 有
qoyina-ča niken kü'ün ayisu, kürčü ire'ēsü Bo'ōrču aju'ū.
後 より 一人の 人 近づきつつあり, 到り 来れば ボオールチユ なりき。

〈2〉 §91 (二32一～32二) 中豁亦納察 合舌闌 兀不児速不児 捏客周
自 後 人毎 陸 続 襲着
qoyina-ča haran ubur subur nekejü
後え より 人々 陸続と 追い

阿亦速 你刊 察(中)合安 秣舌驪禿 古温 兀兀児中合 把舌里周 中合黒察阿児
来了 一箇 白 馬 有的 人 套馬竿 拿着 独自
ayisu, niken čaca'ān moritu kü'ün u'ūrga barilju gagča'ār
来りつつあり, 一人の 白 馬に乗れる人 馬捕竿をつかみて ひとり

恢亦徹周 阿亦速。(14)
趕上着 来了
güiyičejü ayisu.
追いつき 来つつあり。

〈3〉 §255 (二32一～32二) 額捏 兀格突舌児 成吉思中合罕 札舌児里黒
這 言語裏 太祖 皇帝 聖旨
ene üge-dür Činggis qahān jarlig
この 言 に チンギス 可汗 勅して

孛魯舌侖 斡歌歹 額亦門 兀格思 鳴詁列古 孛額速 孛魯者 客額罷原作別(15)
飲 人名 這般每 言語每 説 的 有呵 中也者 説了
bolurun "Ögödei eyimün üges ügülekü bö'ēsü bolu-je" ke'ēbe.
く曰 "オゴデイ かかる 言を 申すこと あらば よからむぞ" と云いぬ

〈4〉 §265 (二2十～3三) 成吉思中合罕 鳴詁列舌論 唐兀惕 亦舌児堅
太祖 皇帝 説 種名 百姓
Činggis qahān ügülerün "Tangūd irgen
チンギス 可汗の 言うに "ダングトの 人衆

必荅泥 主舌魯格 牙荅周 中合舌里罷原作伯 客額坤 必荅 額勒臣 馬中合
咱 行 心 不能着 回了 説他的 咱每 使臣 且
bidan-i jürüge yadaju qariba ke'ēkün, bida elčin maqa
我等 を 心 愴して 帰れり' と云わむ, 我等 使者を か

亦列周 額勤赤泥 門 額捏 撊斡舌児中合傍塔 莎必剌周 兀格 阿訥
教去着 使臣 行 只 遣 地名 行 試 着 言語 他的
ilejü elčin-i mun ene Čo'ōrqad-ta sobilaju üge anu
遣わし 使者の（帰れるまで） まさに この チヨオールカドで 養生し 言を ←彼等の

兀中合周 亦出阿速 孛魯者 客額周……。(16)
省着 退呵 中也者 説着
uqaju ičú'āsu bolu-je" ke'ējü…….
吟味して 退かば よからむぞ" と云いて……。

〈5〉 §136 (四19六～19八) 額朶額 巴撒 歹亦孫突舌児 失中罕 歹亦孫
如今 再 敵 行 挨着 敵
"edō'e basa daiyisun-dur šiqan daiyisun
"今 また 敵 に 近づき 敵に

木傍古 孛魯宜 客額額傍 成吉思中合罕 主舌児勤突舌児 秣(舌)驪剌罷原作伯 (17)
他毎也 做了 説了 太祖 皇帝 種 行 上 馬 了
mud kü boluyi" ke'ē'ēd Činggis qahān Jürkin-dür morilaba.
彼等 は ならんとず" とて チンギス 可汗 ヂユルキン族に 出馬せり。

〈6〉 §199 (八7八～8二) 中合札舌侖 中豁剌宜 薛傍乞周 扯舌里昆
地 的 遠 行 想 着 軍 的
gajar-un qola-yi sedkijü čerig-ün
地 の 遠きを 思い, 軍 の

兀剌阿 禿舌魯埃 兀都兀牙 中合亦舌剌剌(傍)中渾 古捏速邊巴舌剌埃
馬疋 瘦 未 行 愛惜 您 行粮自的行 了
ula'ā turu'āi üdu'ūi-e qayiraladqun künesü-bēn bara'āi
馬 いまだ痩せざるに 愛惜せよ, 粮食を（已が） 終らざ

兀都兀〈耶〉 中忽赤阿傍中渾 阿黒騮 禿舌侖巴舌剌阿速 中合亦舌剌剌阿速 兀禄
未 行 省 惜 您 騸馬 瘦 了 了 呵 愛 惜 呵 不
üdü'ūi-e quči'ādqun acta turun bara'āsu qayirala'āsu ülü
る に 節約せよ, 去勢馬 痩せ果てなば 愛惜すとも せん

孛魯宜 古捏孫巴舌闌巴舌剌阿速 中忽察阿速 兀魯 孛魯宜。(18)
中有 行 粮 了 了 呵 省惜 呵 不 中有
boluyi künesün baran bara'āsu quča'āsu ülü boluyi.
なし, 糧 食 尽き 果てなば 節倹すとも せんなし。

〈7〉 §100 (二44十～45二)

中豁阿(黒)臣 額篾堅 鳴詁列舌論 必
婦人名 老婦 説 我
Go'āgčin emegen ügülerün bi
ゴアクチン 老婆の 言うに "我は

帖木只訥埃備 也客 格児 圖児 中豁紐 乞児中合舌剌 亦舌列列額 格児
人名 的 有 大 家 裏 羊 剌 来 了 家
Temüjin-ü-ēi yeke ger-tür qonin qirgara irele'ē ger-
テムヂン家の者なり, 主 家 に 羊(の毛)を かりに 来れり, 包

禿舌里頭 中合舌里周 阿亦石 客額畢。(19)
自的行 回着 来有 説了
tür-iyēn qariju ayiši ke'ēbi.
に ←自分の 帰り 来りつつあり" と云えり。

〈8〉 §254 (二25二～25五)

主舌魯格揑徹 脱舌列克先 額客余延
心 行 生了的 母 自的行
jürügen-eče töregsen eke-yüyēn
心臓 より 生れし 母 を(己が)

赤馬惕中合阿速 赤納舌児 亦訥 者乞舌児抽 札里舌剌兀勒魯阿速 兀禄
教惟 呵 情 他的 冷 着 教 息 呵 不
čimadqa'āsu činar inu jekirčü jalira'ū[l]lu'āsu ülü
苛なましめば 心性 ← 彼女の 冷えて 息ましめんとすれど 詮

孛里 客額里迭徹 脱舌列克先 額客余延 格木舌里兀《舌》魯額速 格訥額舌児
中 肚皮 行 生了的 母 自的行 教 怨 呵 怨 悔
boli, ke'ēli-deče töregsen eke-yüyēn gemüri'ūlü'ēsü genü'ēr
なし, 肚 より 生れし 母 を(己が) 悲しめ ば 悲悔 ←

亦訥 格思格額速 兀禄 孛里。(20)
他的 消 呵 不 中
inu gesge'ēsü ülü boli.
彼女の 融かしめんとすれど 詮 なし。

〈9〉 §109 (三14一～14三)

脱黒脱阿別乞宜 客卜帖額(惕) 孛額帖列
人名 行 睡着 有間
Togto'ā=beki-yi kebte'ēd bö'ētele
トクトア・ベキ が 睡って いる間に

古舌児古宜　勤勤中豁沐舌漣捏　不坤　只中合臣　不矚中合臣　戈舌劣兀魯臣
到的行　河名　河　行　有的　打魚的每　捕貂鼠的每　捕野獣的每
kürkü-yi　Qilqu　müren-ne　bükün　ǰiɢačin　bulucačin　görö'ülüčin
到ること　を　キルコ　河　に　いる　漁夫達　貂鼠取り達　猟師達

塔勤必黒撒揚　荅因　阿亦石　客延　雪泥　都鄰　客連　古舌児堅　斡揚出為。(21)
放来的　敵人　来也　慶道　夜　兼行　言語　送到　去了
talbiɢsad　dayīn　aiši　keyen　söni　dülin　kelen　kürgen　odču'ūi.
"放ちたる　敵　来りつつあり"とて　夜を徹して　言を　送り　行けり。

〈10〉 §255 (十28七～28十)　額捏　兀格突(舌)児　察阿歹　木赤勤者周
這　言語　裏　人名　咽　着
ene　üge-dür　Ča'ādaj　mučilǰejü
この　言　に　チャアーダイ　微笑して

鳴詁列舌侖　拙赤因　古出禿宜　額舌児迭門　中合舌里兀　兀禄　鳴詁連
説　人名的　気力有的行　技能的　回　不　説
ügülerün　J̌oči-yin　küčütü-yi　erdem-ün　qari'ū　ülü　ügülen,
言う　"ヂョチの　力ある　を,　技能　の　返答を　言わず,

阿馬阿舌児　阿剌黒三　阿赤阿速　兀禄　孛里　兀格額舌児　兀窟兀魯克先
口教　殺了的　默呵　不　中　言語教　死了的
ama'ār　alaɢsan　ači'āsu　ülü　boli,　üge'ēr　ükü'ūlügsen
口もて　殺せるは　積まんとせど　詮なし,　言葉もて　死なせしは

兀赤顔速　兀禄孛里。(22)
剣呵　不中
übči'ēsü　ülü boli.
剣がさんとせど　詮なし。"

〈11〉 §195(七35五～35八)　納中忽中崑訥　朶舌羅納只　中豁舌児埋　荅阿舌鄰
山名　崖的　東　辺　裙　経過
Naqu ɢun-u　doronaǰi　qormui　da'ārin
ナクの懸崖の　東　脛を　経て

察乞舌児馬兀揚　古舌児抽　阿亦速中灰　突舌児　成吉思中合罕訥　中合舌瞰兀勤
地名　到着　来的　時　太祖　皇帝的　哨望的
Čaqirma'ūd　kürčü　ayisuqui-dur　Činggis qahan-u　qara'ūl
チャヤキルマウードに　到り　近づく時　チンギス　可汗の　哨兵

[illegible]

兀者周 乃蠻 古舌児抽 阿亦賽 客延 客連 古舌児格額速……。(23)
見着 種名 到着 来也 慶道 話 送到 呵……
üǰeǰü Naiman kürčü ayisai keyēn kelen kürge'ēsü……。
見て "ナイマン族 到り 近づきつつあり"と 言を 送らば……。

〈12〉 §195 (七33三～33五) 帖迭 牙兀惕 斡欒中豁你惕赤那 忽勒迭周
那的每 甚麼每 多 羊 每 狼 趕着
tede ya'ūd olon qonid čino hüldeǰü
"あの 何と 多くの 羊を 狼の 追いて

中豁圍突舌児 古中児帖列 忽勒迭周 亦舌列古 篾圖 額迭 牙兀惕 哈舌闌
圈子 裏 直到 趕着 来的 般 這的每 甚麼每 人
qoton-dur kürtele hüldeǰü irekü metü ede ya'ūd haran
かこい に まで 追い 来る 如く, これら 如何なる 人々

帖曰 忽勒迭周 阿亦賽 客延 阿撒黑罷。(24)
那般 趕 着 来也 慶道 問 了
teyin hüldeǰü ayisai keyēn asaɢba.
かく 追い 来りつつある力"と 問いぬ。

〈13〉 §195 (七34三～34四) 斤只邊 木勒禿勒迭周 額朶額 額薛兀
鉄索自的行 被説 着 如今 不曾慶
ginǰi-bēn mültüldeǰü edö'ē ese'ū
"鎖を (己が) 脱されて 今 *ずや

不黑撒周 阿黑撒惕 巴牙思抽 帖因 失列篾勒徨 阿亦賽 帖迭 客額主為。(25)
拘束着 有的每 喜歓着 那般 垂涎 着 来也 那的每 説了
buɢsaǰu aɢsad bayasču teyin šilemeǰen ayisai tede ke'ējü'ūi
怒りを抱き ありし者ども 喜びて かく 涎垂らしつ 来りつつあら* 彼等" と云えり。

〈14〉 §129 (四3八～4三) 迭兀邉 紿察舌里 阿剌(黒)荅罷巴原作 客延
中兄弟的 人名 行 被殺 了 慶道
de'ū-bēn Taičar-i alaɢdaba keyēn
"弟 を (己が) タイチヤルを 殺されぬ" とて

札木舌合 帖舌里兀田 札荅舌闌 哈舌児班 中忽舌児班 中合鄰 那闊扯周
人々 等項 種名 十 三 部 做伴着
J̌amuqa teri'ūten J̌adaran harban ɢurban qarin nökočejü
ヂヤムカを 頭とする ヂヤダラン, 十 三 部族が 連合三

中忽舌児班 土箴場 孛勒周 阿剌忙忙場土舌児中合兀的牙舌児 荅巴周 成吉思
三 万 敬着 山名 伏着 越過着 太祖
gurban tümed bolju Ala'ū'ūd Turga'ūd-iyar dabaju Činggis
三 万と なりて アラウート トルガウト山を 越之 チンギス

中合罕突舌児 秣舌驟剌周 阿亦賽客延 亦乞舌列薛徹 木勒客脱塔黒 孛舌羅勒歹
皇帝 行 上馬 着 来也 厥道 種名 処 人名 人名
qahān-dur morilaju ayisaį keyēn Ikires-eeče Mülke=totag Boroldaį
可汗 に 出馬し 来りつつあり"とて イキレス族から ムルケ・トタグ, ボロルダイ

(中)豁牙舌児 成吉思中合罕泥 古(舌)連勒古迭 不恢突舌児 客連 古舌児堅
両箇 太祖 皇帝 行 地名 行 有 時 話 送到
qoyar Činggis qahān-i küre(n)lgü-de büküį-dür kelen kürgen
二人 チンギス 可汗 の クレルグ に ある 時 言を 送り

亦舌列主為。(26)
来了
irejüküį.
来れり

以上14例を挙げたが，この -u 系語尾の用例は秘史蒙古語においてもそれ程多くはないので，以上の14例は，この語尾の意義素の解明には十分であろう。因みに -u 系語尾の全例を以下に挙げておこう。

| | -u | -uį(-uyi) | -i | -aį |
|---|---|---|---|---|
| ayis- | 阿亦速(15例) | ナシ | 阿亦石(7例) | 阿亦賽(7例) |
| bol- | 孛魯(者)(3例) | 孛魯宜(3例) | 孛里(3例) | (bolaį) |

この他に，不確実な例として，上述の「阿余兀魯 ayu'ūl-u」(六21六) の -u,「多ト禿来 (者) dobtul-aį~je」(六4五) の ~aį を入れても，この -u 系語尾の用例は40例に過ぎない。更に，この語尾の接尾された語幹は ayis- と bol- に限られるので，秘史蒙古語の時点において，-u 系語尾は特殊な語尾であったと結論づけられる。文語形に ayisuį (ハルハ方言形 ayčyй) のみが現在まで残っているのも秘史の時代の現象をそのまま現代にまで持ち越した感を与える。

ここで上記の文例を吟味して見よう。〈1〉の ayisu は「日が明けて見ると，後から誰かが，こちらに ayisu（近づいてくる）」として用いられ，〈2〉の二つの ayisu も nekeǰü ayisu, güiyiǐečeǰü ayisu で，ともに“今現に”《追い来りつつある》，《追いつき来りつつある》という《現在進行》中の動作を表わしている。そして，その現在進行中の動作の主体はいずれも単数の主体であること行文から明示されている。

〈3〉,〈4〉の bolu~je の -u は《是である》の意を示す bol- に附され，後続の ~je と共に，その《是なる》ことを現に強く肯定する用法で，〈1〉,〈2〉の現在進行中の動作を示す意味の一変形と考えられる。

〈5〉の daiyisun mud kü boluyi の boluyi は漢字面「孛魯宜」に従って boluyi となるが，これは -lui を表わす適切な漢字を欠くための処置であり，-ui と見て大過ない。パクパ文字蒙古語においても例えば，動詞の過去時制の -bai[2]に当る形を，時に -bei，時に -beyi と表記し，三人称命令形 -tucai[2] に当る形を，一方で -tuqai，一方で -tuqayi と表記し，そこに表記上の揺れが見られる。

この boluyi (bolui) は《今，現になりつつある》の意と解すると誠に収まりがよい。〈1〉,〈2〉の現在進行中の動作を表示する意と同様と見られる。〈6〉の二つの boluyi (bolui) の -uyi (-ui) は〈3〉,〈4〉の bolu の -u と同じ用法であり，ülü が前置されて，その否定形になっている。〈5〉,〈6〉ともに bol-《なる；是である（の否定）》の主体が複数である点だけが異っている。即ち，bolu は男性単数形，boluyi (-ui) は複数形である。

〈7〉〈9〉の ayiši,〈8〉〈10〉の boli の -i は女性単数形と規定し得よう。〈7〉の qariǰu ayiši《帰り来つつあり》の主体はテムヂン一家の忠実な召使い，老婆ゴアクチンである。ついでながら，ここに，-ba[2] の女性形語尾 -bi が ke'ēbi の中に現われている。〈9〉の ayiši の主体は talbiɢsad dayin《放ちたる敵人》であって女性ではない。どうしてここに女性形語尾 -i が用いられたか。筆者は，当時のテムヂン，チンギス可汗軍にとって“敵”は“弱きもの，劣れるも

の”と見做されていたと考える。それ故，dayin に対し，女性形 ayiši が用いられたものと思われる。

〈8〉の ülü boli の -i も額客 eke《母》——この場合は拙赤，察阿歹，斡歌歹などの母，孛児帖 Börte，即ちテムヂンの糟糠の妻のことである——についての描写に用いられている。-i が用いられる必然性がここにある。しかし，〈10〉の boli の -i に関してはその必然性が，はっきりしない。今後の課題として残しておきたい。

〈11〉から〈14〉までの4例は ayisaị の用例である。この -aị も文脈から複数形なること確実である。〈11〉の ayisaị《近づきつつあり》の主体は Naị-man 部族である。秘史蒙古語では「部族」は複数扱いを受けていることも確実である。〈12〉の ayisaị の主体は ede ya'ūd haran《これら，如何なる人々》であり，〈13〉の場合は，bucsaju acsad《怒りを抱きありし者ども》であり，〈14〉の ayisaị の主体も《ヂャムカを頭とするヂャダラン部族》である。上の事実から見て，-aị が複数の機能を示すことは明かである。ここに，しかし，問題がある。

ayis- については，ayis-u，ayiš-i，ayis-ai が実証され，それぞれ男性単数形，女性単数形，複数形なること上述の如くであるが，何故か，ayis-uị（漢字面では「阿亦速宜」従って，転写面では ayis-uyi として現われる可能性が高いが）が見られない。

bol- については，bol-u，bol-uyi (-uị)，bol-i が見られ，bol-aị は見られない。（蒙古語文語の bol-aị は，形の上からは bol- に -aị のついた形と同形であるが，こゝで問題にしている -u 系語尾の一員としての -aị であるか否か，文語の bolaị を精査する必要があり，現段階においては，確言は出来ない）。

一方，秘史蒙古語において，複数形として期待される *ayisuyi (*ayisuị) は，秘史においては実証されない。ayis- においては ayisaị が，bol- においては boluyi (boluị) が，複数形である。即ち -aị と -uyi (-uị) がともに秘

史蒙古語に於ては複数形として機能しているのである。この -ai̯ と -uyi (-ui̯) との関係をいかに考えるか，これが，現在の筆者には不明である。又，これと関連して，文語形では ayisu でなく，少くとも形の上では，秘史に一例も見られない ayisui[9], odui̯ のみが見られ，又，ハルハ方言等の口語の分野でも aŭ-cyŭ のみが用いられ，秘史の ayisu に当る形が用いられないのは何故か，これも未解決の問題である，この二点は今後の考究にかゝるが，何かよいお考えがあれば，御教示を賜われば幸甚である。

以上 -u² 系語尾の諸例の吟味から，この語尾の意義素を《動作が現に進行中》と措定する。そして，その現に進行中の動作への話し手の強い好悪の感情が示される場合もあると言うことができる。

なお，筆者は上例〈5〉の boluyi を，かって，bol-u-yi と分析し，-yi を前述の -yu の女性形と見て，そのように記述したことがあるが，現在では上述の如く，bol-uyi と見て -uyi は複数形とする見解をとる。

以上で -u² 系語尾の記述を終えることにするが，最後に，次の特徴を述べておかねばならない。それは -u² 系の語尾は総て，対話文（会話文）の中に於てのみ用いられ，敍述文——いわゆる地の文——に於て用いられた例は一例も見られないことである。このことは，何を意味するかと言えば，この -u 系語尾は，話し言葉において多用された語尾であったということである，更に，ayisu の頻用は，この語尾 -u² のもつ意義素が，動詞 ayis- の意義素とよく合致したからとも言えよう。

### 《d》 -ba², -bai̯², -bi

上述の (a)～(c) の語尾群は時制的観点から見れば，現在時制 (the present tense) に属す語尾である。以下の (d) から (g) までの語尾群は過去時制 (the past tense) に属する語尾となるが，その意義素は，それぞれ異なり，従来，その規定が不分明の嫌いがあった。本書では，その点の解明に意を注いだ。

-ba² 系語尾から始めよう。この語尾 -ba², -bai̯² が蒙古語文語においても

常用される語尾であることは周知の事実であるが，-bi の方は文語には，私の知る限りでは発見されない。ただパクパ字蒙古文献に僅か一例のみではあるが見い出されることを附言しておこう。(10)

〈1〉 §106（三7六～8二）

札木中合 巴撒 鳴詁列舌論
人名 再 說
J̌amuqa basa ügülerün
ヂャムカ また 言うに

帖木真安荅 脫斡舌鄰勤中罕 阿中合 中豁牙舌剌 鳴詁列客延 鳴詁列舌論
人名 契合 人名 皇帝 兄 兩箇行 說 慶道 說
Temüǰin anda To'ōri(n)l qan aqa qoyar-a ügüle keyēn ügülerün
"テムヂン盟友 トオーリル 汗 兄 二人に 言へ と 言うに

必不舌侖 中合舌額阿禿 禿乞顏 撒出罷 必 中合舌剌不中合因
我 呵 遠看見的 英頭自的行 祭了也 我 黑 強牛的
bi bürün qara'ātu tuɢ-iyān sačuba bi qara buqa-yin
「我 は 遠くより見ゆる 旗幟を（己が） 祭れり 我 黒き 牡牛の

阿舌剌孫你牙舌児 不克里克先 不舌児乞舌連 不恢 擣兀禿 可兀舌児格邊
皮子 教 慢 了的 擊 擊 有的 声有的 鼓 自的行
arasun-iyār bürigsen bürkiren bükü̱i dau̱'ūtu kō'ūrge-bēn
皮 もて はりたる とどろき わたる 者の出ずる 太鼓 を（己が）

迭列揚罷 必 中合舌剌中忽舌児都你顏 兀訥罷 必 中合唐中忽迭額里顏
打了也 我 黑 快馬 自的行 騎 了也 我 鋼硬 衣裳 自的行
deledbe bi, qara qurdun-iyān unuba bi, qatangɢu de'ēl-iyēn
打てり 我, 黒き 速馬 に（己が） 騎せり 我, 鋼鉄の如き衣 を（己が）

額木思罷 必 中合壇 只荅班 把舌黒罷 必 中合揚中忽舌剌速禿 速木你顏
穿了也 我 鋼 箭自的行 拿了也 我 有挑皮 的 箭 自的行
emüsbe bi, qatan ǰida-bān bariba bi, qadqurāsutu sumun-iyān
つけたり 我, 鋼鉄の 槍 を(己が) とれり 我, 山桃皮をまける 矢 を（己が）

斡那剌罷 必 中合阿揚篾舌児乞揚途舌児 中合揚中忽(勤)敬 秣舌驪剌牙
扣了也 我 姓 氏 行 斯 殺 上馬咱
onolaba bi, Qa'ād=merkid-tür qadquldun morilaya
番えたり 我, カアード・メルキド族に 戰い合いに 出馬せん

孛額(陽)客延　鳴詁列……。(27)
便　慶道　說
bö'ēd'keyēn　ügüle……。
ぞ」　と　言え……。"

〈2〉 §179 (六34八～35三)　巴撒　成吉思中合罕　札木中合安荅荅
再　太祖　皇帝　人名　契交行
basa Činggis qahān Jamuqa anda-da
また　チンギス可汗　ヂャムカ　盟友　に

鳴詁列客延　鳴詁列舌論　中罕　額赤格迭徹　米訥　兀瞻牙荅周
說　慶道　說　皇帝　父　行　我的　見　不得着
ügüle keyēn　ügülerün　qan　ečige-deče　minu　üjen yadaju
言へ　と　言うに　"汗なる　父　より　←　我が　(我を)嫌いて

中合中合察兀勒罷　赤　兀舌里荅　孛速黒三　必荅訥　中罕　額赤格因　闊闊
教分離了　你　先　起身的　咱的　皇帝　父　的　青
qaqača'ūlba　či,　urida　bosuqsan　bidan-u　qan ečige-yin　kökö
遮ざからしめたり　汝,　さきに　起きしが　←　我等の　比なる　父　の　青き

充兀兀中忽　不列額　納荅　兀舌里荅　孛思抽　兀黒荅舌侖　忝亦荅罷者　赤
鐘　飲　有来　我行　先　起着　被飲的　鉢　了也者　你
čung u'ūqu büle'ē,　nada　urida　bosču　ūqdarūn　naiyidaba-je či,
杯を　飲む　なりき,　我に　先に　起き　飲まるる時,　(我を)妬みたり　汝,

額朶額　中罕　額赤格因　闊闊　充　把中剌(陽)中渾　客堆者　中豁舌羅(陽)中渾塔
如今　皇帝　父　的　青　鐘　飲了着　幾多　費的　煞
edō'ē　qan ečige-yin　kökö　čung　baradqun　kedüi-je　qorodqun ta
今や　和なる　父　の　青き　杯　を(飲み)ほせ,　いかほどにても　少くせよ　汝"

客額周　亦列罷原作別(28)
說着　去了
ke'ējü　ilebe.
とて　遣りぬ。

〈3〉 §136 (四19八～20一)　主舌児乞泥　客魯舌洌訥　闊朶額阿舌剌侖
種　行　河名　的　地名　的
Jürkin-i Kelüren-ü Ködö'ē=aral-un
ヂュルキン族が　ケルレン河の　コデエ・アラル　の

朶羅安孛動荅兀楊塔　不恢突舌児　亦舌児堅　亦訥　倒児里罷原作佰撒察別乞
地名　行　有時　百姓　他的　擄掠了　人名
Dolo'ān=bolda'ūd-ta　büküi-dür　irgen　inu　dau'ūliba,　Sača=beki
ドロアン・ボルダグ　に　いる　時に　人衆を　←　その　襲いとれり。　サチャ・ベキ

泰出　中豁牙舌児　啜延　別〔也〕昔顔　都塔阿罷原作佰(29)
人名　両箇　少　畐身　自的行　走　了
Taiču　qoyar　čöyēn　beyes-iyēn　duta'āba.
タイチュ　二人は　少なき　身もて　逃走せり。

〈4〉§120（三34二～34七）巴舌魯剌撒察　中忽必来　中忽都思
種名　行　人名　人名
Barulas-ača　Qubilai　Qudus
バロラス族より　クビライ，　クドゥス

阿中合納舌児　迭兀捏舌児　亦舌列罷原作佰　忙中忽荅察　哲台　多中豁動中忽徹児必
兄　毎　弟　毎　来了　行　人名　人名
aqa　nar　de'ü　ner　irebe.　Mangɢūdača　J̌etei　Doqolqu=čerbi
兄　弟　達　来れり。　マングード族より　ヂェテイ，ドコルク・チェルビ

阿中合迭兀　中豁牙舌児　亦舌列罷。(30)
兄　弟　両箇　来了
aqa　de'ü　qoyar　irebe.
兄　弟　二人　来れり。

〈5〉§177（六26一～26八）赤　阿米安　中忽舌羅中渾　兀魯昔顔　格周
你　性命自的行　刁了　百姓　自的行　撒着
"či　ami-'ān　quroɢun　ulus-iyān　gējü
"汝は　命　を(己が)　おしみ　民　を(己が)　捨て

啜延古温　土蹥阿周　中合舌児抽　中合舌剌乞荅敬　古舌児中罕突舌児
少　人　走　着　出着　種　的　人名　皇帝　行
čöyēn　kü'ūn　duta'āju　ɢarču　Qara=qitad-un　Gür qan-dur,
僅かな人　逃げ　出て　カラ・キタド　の　グル　汗　に，

垂沐舌洌捏　撒舌児荅児侖　中合札舌剌　斡楊罷者　赤　你刊桓　兀禄
河名　河　行　回回　的　地　行　了　也者　你　一年　不
Čuǐ　müren-e　Sarta'ūl-un　ɢaǰar-a　odba-je　či,　niken hon　ülü
チュイ　河　なる　サルタウール　の　地　に　行けるそ　汝，　一年

倒兀孫　巴撒　古舌児中罕納察　歹只周　中合舌児抽　委兀敬　唐兀敬

受　再　人名 皇帝 処　反着　出着　種的　種的

daų'ūsun　basa　Gür qan-nača　daįjiju　garču　Uį'ūd-un　Tangūd-un

終らずして　また　グル 汗 より　背き　いで，　ウィウルの，　タングードの

中合札舌里牙舌児　牙但周　阿亦速舌侖　塔奔　亦馬阿楊　失舌児戈列周

地 行依着　窮乏着　来 時　五箇　羔羯　拘 着

ɕajar-iyār　yada(n)ju　ayisurun　tabun　ima'ād　širgölejü

地 に　疲れ　来るに　五匹の　山羊に　シルゴをつけて

撒阿周　亦哑周　騷篾額訥　赤孫　中合納周　亦哑周　中合黒察　莎中豁舌児

摘着　喫着　駝駝 的　血　刺着　喫着　独　瞎

sa'āju　idejü,　teme'ēn-ü　čisun　qanaju　idejü,　gaɢča　soqor

乳を搾り　食べ，　駝駝 の　血を　嚙血し　食べ，　唯一匹の　めくらの

中合里温　秣舌驪禿　亦舌列罷者罷原作別　赤 (31)

黒鬃尾黄　馬 有的　来了 也者　你

qali'ūn　moritu　irebe~je　či"

黒鬃黄尾の馬にのみ　乗れるぞ　汝"

〈6〉 §209 (九1四～1八)　額迭 中忽必来 者勒篾 者別 速別格台

這毎　人名　人名　人名　人名

ede　Qubilaį　Jelme　Jebe　Sübegetei

これ等　クビライ　ヂェルメ　ヂェベ　スベゲテイ

塔　朶舌児邉　那中合昔顔　薛(惕)乞克先突舌児　勺舌里兀勒周　亦列額速

您　四箇　狗毎自的行　想了的 行　教指 着　教去 着

ta　dörben　noqas-iyān　sedkigsen-dūr　jori'ūlju　ile'ēsü

汝等　四　犬 を(己が)　思いし(処) に　向わせ　遣らば

古舌児客額克先突(舌)児　古舌魯坎客侖　中合勒　客額克先突舌児

到 説来的 行　石 擣砕　惹　説来的 行

kür　ke'ēgsen-dür　kürü kemkelün　qal　ke'ēgsen-dür

"到れ" と言える 時，　石を 砕き，　"襲へ"　と言える 時，

中合苔中〈舎〉中合侖　超堅　〈赤〉剌兀泥　超兀侖　扯額勒兀速泥　你禿侖

崖 擣 破　明　石 行　砕　深 水 行　断絶

qada qamqalun　čeų̈gen　čila'ūn-i　čeų̈'ūlün　če'ēl usun-i nitulun

岩を 砕き　光る　石 を　砕きわり，　深き 水 を　断ちて

阿伯者塔。(32)
有来 也者 您
abaị-je ta.
あり ぞ 汝等。

〈7〉 §174 (六16九～17二) 忙中豁侖 斡欒勤 札木中合魯阿
達達的 多半 人名 一同
Mongcol-un olongkin J̌amuqa-lu'ā
モンゴル の 大部は ヂャムカと共に,

阿勒壇 舌忽察中児 魯阿 必丹突舌児備 帖木真魯額 歹亦只周
人名 人名 一同 咱 行 有 人名 一同 反着
Altan Qučar-lu'ā bidan-dur büị. Temüǰin-lü'ē daịyiǰiǰü
アルタン タチャル と共に 我等 に あり。 テムヂン と 離反し

中合舌魯黒三 忙中豁勤 中合阿斡惕中渾 帖迭 秣舌驎 兀訥阿壇 抹敦
出了的 達達 那裏 去 那每 馬 單騎的有 木
garugsan Mongcol qa'ā odqun tede, morin unu'ātan, modun
出でたる モンゴル 何処へ行かん 彼等, 馬の のりものをもち, 木の

捏木舌列田 孛勤罷伯原作 帖迭。(33)
遮蔽的 做了 那裏
nemüreten bolba(baị) tede.
蔽いものをもつ に到れり 彼等。

〈8〉 §129 (四4七～4十) 成吉思中合罕 札木中合荅 田迭
太祖 皇帝 人名 行 那裏
Činggis qahān J̌amuqa-da tende
チンギス 可汗 ヂャムカ に そこに

歌多勒格克迭周 斡那訥 哲舌列捏 中合卜赤中合牙 中豁舌児罷伯原作 札木中合
被推動着 河名的 地名行 狭処 鉢了 人名
ködölgegdejü Onon-u J̌eren-e qabčiqaị-a qorba. J̌amuqa
うち負かされ オノン河の ヂェレネ 峡間 に 身をさけぬ。 ヂャムカの

鳴詁列舌論 斡那訥 哲舌列捏迭 中豁舌児中合罷伯原作 必荅 客額周
説 河名的 地名行 教躲了 咱 説着
ügülerün Onon-u J̌erene-de qorqaba(baị) bida ke'ēǰü
言うに "オノン の ヂェレネ に 追いこめ り 我等" とて

中合舌里舌命……。(34)
回時
qarirun…….
帰る時……。

〈9〉 §136 (四20六～20八) 撒察 泰出 (中)豁牙舌児 鳴詁列舌論
人名 人名 両箇 説
Sača Taičču qoyar ügülerün
サチャ タイチェ 二人の 言うに

鳴詁列克先 兀格都舌里顔 巴 額薛 古舌児罷原作伯 兀格思突舌児 馬訥
説了的 言語裏 自的行 俺 不曽 到了 言語毎 裏 俺的
ügülegsen üge-dür-iyēn ba ese kürbe(bei), üges-tür manu
"言いし 言 に←己が 我等 到らざりき, 言 に←我等の

古舌児格 客額額惕 兀格昔顔 篾迭舌列周 土失周 斡克罷原作伯 (35)
教到 説了 言語。自的行 教知着 伸類着 与了
kürge ke'ē'ēd üges-īyēn mederejü tüsijü ögbe(bei.)
到らしめよ" とて 言 を(己が) 自ら知りて ゆだね 与えたり。

〈10〉 §248 (十6八～7三) 成吉思中合罕 額耶突舌児 阿訥
大祖 皇帝 商量 裏 他的
Činggis qahān eye-dür anu
チンギス 可汗 和議 に← 彼等の

斡舌羅周 中豁塔惕 中豁塔惕圖舌児 額額舌列惕 保兀鳥撒惕 扯舌里兀的
従着 城子毎 城子毎 裏 攻 下的 軍 毎行
oroǰu qotad qotad-tur e'ēred bauʼūgsad čeriʼŭd-i
入りて 城 城 に 囲み攻め 駐留せる 兵士等を

中合舌里兀勤周 亦出罷原作伯 王京丞相 莫州撫州担舌列禿 中豁失兀納
教回 着 退了 人名 郡名 名字 有的 荷 行
qariʼūlǰu ičuba(baị). Ongging=čingseng Moǰu Fuǰu neretü qošiʼūn-a
帰らしめ 退けり。 オンギン・丞相 莫州, 撫州の名をもつ 山鼻 に

古舌児帖列 成吉思中合阿泥 忽迭周 中合舌里罷 阿兀舌剌孫 額惕 必荅訥
直到 大祖 皇帝 行 逆着 回了 段匹 財物 咱的
kürtele Činggis qa'ān-i hūdejü qariba. a'ūrasun ed bidan-u
到るまで チンギス 可汗 を 送り 帰りぬ。 絹布 物品を 我等 の

扯舌里兀扯 荅阿(中)灰阿察 阿赤周 乞不兀的牙舌児 阿赤阿班 塔塔周
軍 每 儘 力 馱着 黙綱 教 馱 自的 縛 着
čeri'üd da'āquị-ača ačiju kibu'ūd-iyār ačị'ā-bān tataju
兵士等 耐える ほどに 積みて, 熟綱 もて 荷 を(己が) 縛り

迓歩罷原作倡(36)
行 了
yabuba(baị).
行けり。

〈11〉 §17 (一10四～10五) 帖因阿塔剌 朶奔篾児干兀該孛勤罷
那般 住間 無 做 了
teyin atala Dobun=mergen ügeị bolba.
かく あるうちに ドブン・メルゲン 死 せ り。

朶奔篾児格泥 兀該 孛魯黒撒訥(中)豁亦納 阿闌中豁阿 額舌列 兀該為
行 無 做 了 的 後 婦人名 丈夫 無
Dobun=mergen-i ügeị bolugsan-u qoyin-a Alan=go'ā ere ügei'ūị
ドブン・メルゲン の 死 せる の 後 アラン・ゴア 夫 なく

孛額楊 中忽児班 可兀楊 脫舌列温勤畢。(37)
便 三箇 児子毎 生 了
bö'ēd gurban kö'ūd töre'ūlbi.
ありて 三人の 子を 生めり。

〈12〉 §40 (一23六) 帖舌列 敦荅 客額里台 額篾 孛端察舌児途児
那 半孕 肚皮 有的 婦人 行
tere dunda ke'ēliteị eme Bodončar-tur
その 姙娠 せる 女 ボドンケヤルの許に

亦舌列周 可兀列畢。(38)
来着 児生了
irejü kö'ūlebi.
来りて 子を生めり。

〈13〉 §155 (五25八～25十) 也速干中合敦 額格赤額 兀者額楊
名 娘子 姐姐 自的。 見 了
Yesügen qatun egeči-yēn üje'ēd
イェスゲン 妃 姉 を(己が) 見て

兀舌里荅　鳴詁列克先　兀格突舌児　古舌侖　孛思抽　撒兀黒三
先前　説了的　言語　裏　到着　起着　坐了的
urida　ügülegsen　üge-dür　kürün　bosču　sa'ūgsan
さきに　言いし　言　に　到り　起ちて　坐れる

撒兀舌鄰都舌里顔　撒兀勒周　門　斡額孫　朶舌羅撒兀畢。(39)
位子　自的行　教坐着　他　自己　下　坐了
sa'ūrin-dur-iyān　sa'ūlju　mun　ö'ēsün　doro　sa'ūbi.
席　に←己が　坐らしめ　彼女　自ら　下に　坐れり。

〈14〉§156（五24八～25一）　塔塔舌児　亦舌児格泥　倒鄰巴舌剌周
種　百姓　行　擄了　着
Tatar　irgen-i　daulin baraju
タタル　人衆　を　掠奪し　終り

你刊兀都舌児　成吉思中合罕　中合荅　撒兀周　温荅剌勒都舌侖　也遂中合敦
一　日　太祖　皇帝　外面　坐着　共飲　時　名　娘子
niken üdür　Činggis qahān　gadā　sa'ūju　undalaldurun　Yesüi qadun
ある　日　チンギス　可汗　外に　坐り　飲みあう時　イェスイ　妃,

也速干中合敦　只舌里訥　敦荅　撒兀周　温荅剌勒敦　不恢突舌児
名　娘子　両箇的　中間　坐着　共飲　有的時
Yesügen qadun　jirin-ü　dunda　sa'ūju　undalaldun　büküi-dür
イェスゲン　妃　二人　の　間に　坐り　飲み合い　ある　に

也遂中合敦　也客迭　嘯兀舌列勒畢。(40)
名　娘子　大行　嘆息　了
Yesüi qadun　yekede　seü'ūrelbi.
イェスイ　妃　いたく　嘆息せり。

〈15〉§189（七10六～10八）　額朶額　那中合訥　擣温　亦都舌列恢
如今　狗　的　声　将近的
edö'ē　noqan-u　dau'ūn　idüreküi
今や　犬どもの　声　（悪の）近づく

中忽察勒中忽察梅　中合敦訥　必荅訥　古舌児別速曰　札撒黒　中忽舌児察
吠　吠　有　娘子的　咱　的　人名　的　法度　鋒利
qučal qučamui,　qadun-u　bidan-u　Gürbesü-yin　jasag　qurča
吠えを　吠えてあり,　妃　の←我等　の　グルベス　の　規律　きびしく

孛勒畢。(41)
做了
bolbi.
なれり。

上掲15例の内，〈1〉-〈5〉は -ba² の用例，〈6〉-〈10〉は -baị² の用例，そして〈11〉-〈15〉は -bi の用例である。-ba² が男性単数形，-bi が女性単数形なること極めて明白であるが，-baị² に関しては問題がある。ここには複数形と見て疑いなき用例のみを示したが，-baị² には複数形以外の職能もある。これは上述したように -ị 系語尾全体にかゝわる問題なので，後段で一括して扱うことにする。

さて，蒙古語文語をはじめとし，現行するモンゴル系の言語には，いわゆる過去時制の語尾が三種類ある。文語に例をとれば，-ba(ị)²，-juquị²，-luɢ·a² の三語尾である。これら三種の語尾が，意義素の上でどの様な相違があるかは従来，明確であるとは言い難い。筆者は「秘史蒙古語」という共時面で，これら各語尾の意義素を措定し，その意義上の相違を明かにしたい。先ず -ba² 系語尾——上記の -u² 系語尾に倣う。以下同様——から始めよう。

〈1〉はヂャムカが盟友テムヂン（後のチンギス可汗）とケレイトの族長，トオリル・オン汗に伝えた，ヂャムカの言葉の中で用いられた -ba² の用例である。sačuba bi《祭れり我》，deledbe bi《打ち鳴らしたり我》，unuba bi《騎れり我》，emüsbe bi《身につけたり我》，bariba bi《執れり我》，onolɔba bi《矢を番えたり我》ともにヂャムカ自身が自分自身の動作を言表した形で，対話文の中における一人称 bi《私》の動作を言表した用法である。

〈2〉は成吉思可汗がヂャムカに対して発した言葉の中で，成吉思可汗がヂャムカの行為に言及して，qaɢača'ūlba či《離さしめたり汝》，naịyidaba-je či《嫉めり汝》の či《汝》に明かなように，第二人称の動作を言表した用法である。〈5〉の odba-je či《行きたり汝》，irebe-je či《来たれり》もこの用例に数えられる。

〈3〉，〈4〉の ke'ēbe《～と云えり》は〈1〉，〈2〉，〈5〉とは異なり，対話文

ではなく敍述文における第三者（三人称）の動作の言表である。〈2〉の末尾の ...ke'ējü ilebe《……とて遣わしぬ》の ilebe はこの範疇に入る。

-ba 系語の使用例は秘史全巻を通じて総計803例の多きにのぼるが，これは秘史という文献が，テムヂン・チンギス可汗の編年的一代記の性格をもち，且，-ba² 系語尾がモンゴル系の言語における，最も一般的な過去時制語尾であることから推して，当然の数である。

現在，我々の見ることの出来る秘史の流布本では，十巻本，十五巻本を問わず，この -ba² 系語尾は，殆ど総て漢字「罷」によって一律に表記されている。これは，「罷」の字の意味が過去の事象を表現するのによく適するからである。しかし，周知のように§103以後（十巻本の巻三以後）から「客額罷別原作」，「孛勒中合罷伯原作」の如き註記「原作別」，「原作伯」が現われ——巻二の冒頭§69にも「亦舌列罷別原作」が2回，「孛魯罷伯原作」が1回現われるが，それ以後は，この註記は姿を消して，§103以後復活する——，現存の「罷」系本の原本として，「巴(伯)～別」系本のあったことが知られる。巻一，巻二には（一21三）「多汪中豁闊巴」，（一21五，二33七）「客額別」のように「巴～別」(-ba～-be) が若干ではあるが用いられ，これは母音調和による交替形を表記したことは自明なので，現存の「罷」系本の前に「巴(伯)～別」系本が存在したことは明かである。現存の「罷」系本の巻三以後に現われる上述の註記は，基本的には男性語幹に「原作伯」，女性語幹に「原作別」の方針を以て施されているが，「原作伯」の方は女性語幹にも屢々施されている——例えば，（三34三，五，九）「亦舌列罷伯原作」の如く——ので「伯」は男性・女性の区別なく用いられたと見るべきである。（十14七）には「斡舌羅兀勒罷八原作」の如く「八」が唯一見られるが，この「八」は華夷訳語甲種本の来文の（華甲Ⅱ，b13四，八）などに「歹亦只八（反了）」，「中合舌里八（回了）」として見える「八」と同一であり，又，この来文においては，「八」の他に「巴，別，伯」が -ba² 系語の表記に用いられ，秘史巻一，巻二における表記法と類似する。元朝秘史の漢字音訳年代と華夷訳語のそれとの前後関係については詳しく論ずべきであるが，それは今後の考究にゆずり，こゝでは秘史巻

一，巻二の -ba² 系語尾の表記法の華夷訳語来文の表記法との類似のみを指摘しておくにとゞめる。

さて，本題にもどって -ba² 系の語尾の使用例をもう一度吟味しよう。

文例〈1〉,〈2〉,〈5〉の対話文における -ba² は一人称の bi, 二人称の či が現実に行った動作の確認者としての言表であるところに大きな特徴がある。即ち -ba² によって表示された動作は話し手或いは書き手によって確認された，或いは確認扱いされた動作である。この“確認扱いされた動作”について言及する必要がある。以下に文例を更に二つ加える。

〈16〉 §59 (一40六～40十)

塔塔舌里 倒兀里周 亦舌列〈額〉速 田迭
膚着 来了呵 那裏
Tatar-i daų'ūliju ire'ēsü tende
タタル族を 掠取して 来れば そこに

訶額侖兀真 客額里台 不舌侖 斡難訥迭里温孛勤苔中合 不恢突児
名 懐孕 〈有着〉 河名的 地名 有時
Ho'ēlün=üjin ke'ēliteį bürün Onan-nu Deli'ūn=boldac-a büküi-dür
オエルン・ウヂン 懐任して ありて オノン河 の デリウーン・ボルダグ に ある 時

勺卜田迭 成吉思中合罕 脫舌列主為 脫舌列恢突児 巴舌剌温中合児禿舌里顔
正 那裏 皇帝 生了有来 生 時 右 手 自的行
jöb tende Činggis qahān törejü'üį, törekü̧i-dür bara'ūn gar-tur-iyān
まさにその地にて チンギス 可汗 生れたり。 生まるる に 右の 手 に (己が)

失阿因帖堆 那敦(ロ)合惕渾 脫舌列主為 塔塔舌侖 帖木真兀格宜
髀石的 骰 血塊 握着 生了有来 的 行
ši'ā-yin tedüį nödün hadqun törejü'üį Tatar-un Temüjin-üge-yi
踝骨 ほどの 血塊を 握りて 生れたり。 "タタル族の テムヂン・ウゲ を

阿(卜)赤舌剌黒三突児 脫(舌)列罷客延 帖木真捏舌列 斡克恢 帖亦模。(42)
将来 時 生了 慶道 名字 与的 那般有
abčiraqsan-dur törebe keyēn Temüjin nere ögküį teyimü.
連れ る 時に 生れぬ" とて テムヂンの 名を 与えるは かくなり。

〈17〉 §60 (一41四～41八)

也速該把阿禿舌侖 訶額侖兀只捏扯
名 的 名 処
Yesügeį ba'ātur-un Hö'ēlün=üjin-eče
イェスゲイ・バアートル の ホエルン夫人 より

帖木真 中合撒児 中合赤温 帖木格 額迭朶児邉可兀惕 脫舌列罷 帖木倫
名 名 名 名 這 四 子每 生了 名
Temüjin Qasar Qači'ūn Temüge ede dörben kö'ūd törebe. Temülün
テムヂン カサル カチウン テムゲ これら 四人の 子 生れぬ。 テムルン

担舌列台 你刊斡勤 脫舌列畢 帖木真泥 也孫納速禿 不恢突児
名字 的 一 女 生了 行 九 歲 有 時
neretei niken ökin törebi. Temüjin-i yesün nasutu büküi-dür
なる名の 一人の 娘 生れぬ テムヂン の 九 才にて ある 時

拙赤中合撒児 朶羅安納速禿不列額 中合赤温額勤赤 塔奔納速禿 不列額
名 七 歲 有来 名 五 歲 有来
Joči=qasar dolo'ān nasutu büle'ē, Qači'ūn=elči tabun nasutu büle'ē,
ヂョチ・サル 七才 にて ありき, カチウン・エルチ 五 才にて ありき,

帖木格斡惕赤斤 中忽難不列額 帖木倫斡列格台不列額。(43)
名 三歲 有来 名 搖車的 有来
Temüge=odčigin gunan büle'ē, Temülün ölegetei büle'ē.
テムゲ・オドチギン 三才 なりき, テムルン 搖らんの中にありき。

この秘史巻一の§59, §60はテムヂンの出生とテムヂンの弟妹, 即ちテムヂン家の構成を述べたくだりである。"タタール族のテムヂン・ウゲを連れて来た時に生れた" と云ってテムヂンという名が与えられたと書かれているが, この "生れた" が《確認扱いされた動作》である。秘史の著者はテムヂンが "生れた" ことを厳密に確認したわけでは勿論ないが "タタールのテムヂン・ウゲを捕虜にした時にテムヂンが生れた" というのは, いわば《確認事項》として取扱われたのである。それ故, 前文に二度現われる törejü'üi《生れた》が keyēn で導かれた対話文の中では törebe になっているのである。ここに -ju'u$^2$ 系語尾との -ba$^2$ 系の語尾の相違がすでに垣間見られるが, -ju'u$^2$ 系語尾については後に詳述する。

800余例の多きにのぼる -ba$^2$ 系語尾のほぼ3分の2は上述の対話文 (quotative sentence) の中で用いられているが, 敍述文 (narrative sentence) に用いられている用例も少なくはない。文例〈3〉,〈4〉は, その中のほんの二, 三例に過ぎないが, ここに用いられる -ba$^2$ 系語尾も《確認された動作》を示

すものと解しうるので——後述の -ǰu'ū 系語尾との対比において明らかになる——-ba² 系語尾の意義素を《過去の動作の確認》と措定し，**「確認過去」の語尾**と呼ぶ。確認される過去故に，その過去は現在の用例では近い過去を示すことが多く，秘史では "edö'ē《今》……-ba²《～した》" の形が対話文の用例の場合には屢々見られることになる（この形の文例については，後述の -la'ā 系語尾との対比において明らかになる）。

秘史における -ba² 系語尾は上述の如く，文の主語の性・数によって使い分けられているが，この使い分けは，1664年の作と言われる通称「蒙古源流」では，すでに完全に失なわれている。この，性・数による使い分けの崩壊がいつ頃始まり，いつ頃終了したかの調査・研究を筆者は未だ行っていないが，出実実詞形成接辞 -tu²～-taị²～-tan² の同様の現象の調査・研究とともに，残された課題の一つである。臆測するに，この現象の崩壊は14世紀後半に始まり15世紀後半には完了したのであるまいか。後考に委ねたい。

最後に複数形の -baị² について一言しておく。この -baị² は，漢字面では「伯」で表記されていることが殆んどで，〈6〉の「阿伯者塔」では，本文で「伯」が用いられている例である。他の圧倒的に多くの場合は註記「原作伯」によって表わされる。それは〈7〉の「孛勒罷原作伯」，〈8〉の「斡克罷原作伯のように，動詞語幹が男性母音の bol-，女性母音の ög- と関係なく，複数形の場合は「伯」のみで表わされている。複数形でない場合は，女性語幹の場合は当然「斡克罷原作別」，「客額罷原作別」，「亦舌列罷原作別の如く，「別」-be によって表記される。

なお，「伯」が複数表示の語尾であることは，動詞の対動形（ある動作を相手方と対立する形で協同して行う形）語尾 -ldu²- を伴う動詞語幹の註記は必ず「原作伯」が記されていることも「伯」が複数形を示すことをよく物語っている。

例えば（三23四，26一）「客額勒都罷原作伯」，（四46八）「帖別舌鄰勒都罷原作伯」《抱き合った》，（六27三）「勺魯中合勒都罷者罷原作伯必荅 ǰolucalduba(bai)-ǰe bida」《相遇せしぞ我等》のように牧挙に遑がない。

又，ire-《来る》の如き女性語幹が「伯」の註記でなく，いわば正規の「別」

の註記が施されている場合は，正しく単数形である。

（六26七）　中合黒察　莎中豁舌児　中合里温　秣舌臘禿　亦舌列罷者罷原作別（44）

独　瞎　黒黄尾黄　馬　有的　来了　也者

gaǥča　soqor　qali'ūn　moritu　irebe-je

ひとり　めくらの　カリウン　馬にのって　来りし　ぞ

上例の「罷原作別」はその一例である，秘史蒙古語では，-bai² はこの様に複数形としての機能を未だはっきり持っていた事が知られる。

### (e)　-ǰu'ū²(-ču'ū²)，-ǰu'ūi²(-ču'ūi²)，-ǰi'āi[-ǰigi(-čigi)]

この -ǰu'ū² 系語尾は，意義素の点で前項の -ba² 系語尾と対照的な語尾である。そこで，-ba² 系語尾と対照する意味で，以下に長文の文例を示す，秘史巻六の§183，§184の文章である。

〈1〉§183（六44八～47一）　成吉思中合罕　門　巴勒渚納

太祖　皇帝　只　河名（行）

Činggis qahān　mun　Baljuna

チンギス　可汗は　その　バルヂュナ湖で

兀速闌　不〈恢〉突舌児　中合撒舌児　額篾可兀邉　也古　也松格

飲　有　時　人　名　妻　子自的行　人名　人名

usulan　bükü-dür　Qasar　eme kö'ü-bēn　Yegü　Yesüngge

（馬群等に）水をやり　ある　時　カサルは　妻　子　を(己が)，イェク　イェスンゲ

禿中忽壇　中忽舌児班　可兀的顔　王中罕突児　格周　啜延別耶思

人名　等　三酋　子毎　自的行　人名　行　撒著　少　暨身

Tuǥ tan　ǥurban　kö'üd-iyēn　Ong qan-dur　gējü　čöyēn　beyes

トゥグ　等　三人　子達　を(己が)　オン　汗　のもとに　おきて　少なき　身の

那可的耶舌里顔　中合舌児出　阿中合余安客延　成吉思中合阿泥　額舌鄰

伴当毎　領着自的行　出　著　兄　自　行慶道　太祖　皇帝　行　導

nököd-iyēr-iyēn　garču　aqa-yu'ān　keyēn　Činggis qa'ān-i　erin

遊友　もて←己が　出て　"兄　を(自分の)"　とて　チンギス　可汗　を　探し

中合舌剌温磧都訥　你舌路矶惕　乞古舌里周　斡侖　牙丹　牙但周　失舌里

山　名　的　横　毎　縁　著　得　不能　困乏　著　生皮

Qara'ūn=ǰidün-ü　niru'ūd　kigürijü　olun　yadan　yada(n)ju　širi

カラウーン・ヂドゥン　の　尾根を　横切りて　得られず　困乏して　皮

失舌児不孫 亦径周 迂歩阿㑹 巴勤渚納荅 成吉思中合罕突舌児 揑亦列罷原作別
筋 喫着 行了 水名 行 太祖 皇帝 行 相合了
širbusun ideǰü yabu'ād Balǰuna-da Činggis qahān-dur neyilebe.
脾を 食し 行きて バルヂュナ湖にて チンギス 可汗 に 合せり。

中合撒舌里 亦舌列兀魯〈額〉㑹 巴牙思抽 成吉思中合罕 王中罕突舌児 額勤臣
人名 行 教来了 喜欲着 大祖 皇帝 人名 行 使臣
Qasar-i ire'ūlü'ēd bayasču Činggis qahān "Ong qan-dur elči
カサル を 来さしめて 喜び チンギス 可汗は "オン 汗 に 使者を

亦列〈耶〉客延 額耶禿周 沼兀舌里耶歹 中合里兀荅舌児 兀舌良中合歹
遠咱 慶道 商量 着 種 人名 種
ileye" keyēn eyetüǰü J̌eǖ'ūriyedeį Qali'ūdar, Uriyangqadaį
遣らん" と 議して ヂェウリイェデイ氏の カリウダル, ウリヤンカダ氏の

察中忽舌児中罕 中豁牙舌里牙舌児 鳴詁列周 亦列舌侖 中罕 額赤格迭
人名 両箇行 教 説 到 去的 皇帝 父 行
Čaqurqan qoyar-iyār ügüleǰü ilerün qan ečige-de
チャクルカン 二人 もて 言い 遣るに "汗なる 父 に

中合撒舌侖 兀格客延 鳴詁列㑹呻 客延 鳴詁列舌論 阿中合顔
人名 的 言語 慶道 説 您 慶道 説 兄 自的行
Qasar-un üge keyēn ügüledkün keyēn ügülerün 'aqa-yān
「カサル の 言」 とて 申せ と 言うに 『兄 を(己が)

中合舌瞰周 中合舌剌阿 亦訥 札ト中合罷 中孩亦周 (口)合兀魯中合 亦訥
望着 形影 他的 不見了 踏着 道路 他的
qaraǰu qara'ā inu ǰabqaba, qaiyiǰu ha'ūluca inu
望みて 姿を ← 彼の 失えり, 探し尋ねて 路跡を ← 彼の

斡侖 牙荅罷原作伯 中孩亦剌周 擣兀班 額薛 莎那思荅罷原作伯 豁㑹
得 不能了 叫着 声 自的。 不曽 被聴得了 星毎
olun yadaba, qaiyilaǰu ḍaų'ū-bān ese sonosdaba, hod
得ざりき, 叫びて 声 を(己が) 聞かれざりき, 星々を

中合舌瞰周 兀舌児邦 迭(舌)列禿 孛勤周 格ト帖木 必 額篾可温 米訥
望着 枕頭有的 倣着 臥有 我 妻 子 我的
qaraǰu urbang deretü bolǰu gebtemü bi, eme kö'ūn minu
望みて 草木の根を 枕と なし 臥せり 我, 妻 子は ← 我が

中罕 額赤格突舌児備 亦帖兼只 額舌列延 斡魯阿速 中罕 額赤格突舌児
皇帝 父 行 有 倚仗 指望 得啊 皇帝 父 行
qan ečige-dür büj, itegemji ereyēn olu'āsu qan ečige-dür
汗なる 父の もとに あり, 信 望を 得なば 汗なる 父の もとに

斡陽中忽 必 客額周 亦列罷別原作 客延 鳴詁列陽呻 巴撒 鳴詁列舌論 巴
去 我 説着 去了 暫道 説 您 再 説 俺
odqu bi ke'ējü ilebe' keyēn ügüledkün, basa ügülerün ba
行かむ 我』 とて 遣せり, と 申 せ" また 言うに "我等は

塔泥 兀荅阿舌闌 歌多勒周 客魯舌洌訥 阿舌児中合勒苟吉迭 孛勒札勒都牙
您行 随 即 動 着 河 名 的 地 名 行 相 約 〈咱〉
tan-i uda'āran ködöljü Kelüren-ü Arcal-geūgi-de boljalduya,
貴下に 続き 動きて ゲルレン河 の アルガル・ゲウギ にて 約会せん,

塔 田迭 亦舌列陽坤 客延 孛勒札勒都周 帖堆 中合里兀荅舌児
您 那裏 来 您 暫道 約会了 着 即便 人 名
ta tende iredkün keyēn boljalduju tedüi Qali'ūdar,
貴下 そこに 来れ" と 約し かくて カリウダル,

察中忽舌児中罕 中豁牙舌里 亦列額陽 主舌児扯歹 阿舌児中孩 中豁牙舌里
人 名 両箇行 教去了 人 名 人 名 両箇行
Čaqurqan qoyar-i ile'ēd Jürčedei Arqai qoyar-i
チクルカン 両者 を 遣りて ヂュルチェデイ, アルカイ 二名 を

阿勒斤赤剌周 巴勉渚納 納浯(舌)剌察 成吉思中合罕 兀荅阿舌闌
頭 唷 倣着 水 名 海子 処 太 祖 皇帝 随 即
alginčilaju Baljuna na'ūr-ača Činggis qahān uda'āran
先鋒軍となし バルヂュナ 湖 より チンギス 可汗 続きて

額兀速勒扯周 中合舌侖 秣舌驪剌黒撒阿舌児 客魯舌洌訥 阿舌児中合勒苟吉迭
共起 着 出 上馬 依着 河名 的 地 名 行
e'ūsūlčejü garun morilacsa'ār Kelüren-ü Arcal=geūgi-de
発ち合い 出て 上陣しつつ ケルレン河 の アルガル・ゲウギ に

古舌児罷原作別 (45)
到了
kürbe.
到りぬ。

## 〈2〉 §184 (六48一～49九) 中合里兀荅舌児 察中忽舌児中罕

人名 Qali'ūdar カリウダル　　人名 Čaqurqan チャクルカン

中豁牙舌児 両箇 qoyar 二人　王中罕突舌児 人名 行 Ong qan-dur オン 汗のもとに　古舌児抽 到着 kürčü 到りて　中合撒舌侖 人名 的 Qasar-un "カサル の　兀格 言語 üge 言" 客延 麼道 keyēn とて　額你迭徹 自這裏 ende-če ここ より

鳴詰列周 説着 ügüleǰü 言い　亦列克先 去了的 ilegsen 遣りたる　兀格思 言語每 üges 言々を　鳴詰列主為 説了 有 ügüleǰü'ūi. 語れり。　王中罕 人名 Ong qan オン 汗　阿勒壇帖中児篾 金 撒 帳 altan terme 黄金の 帳を

孛思中合周 起 着 bosqaǰu 起て　格捏惕 不意 gened 心ゆるし　中忽舌林闌 做筵席 qurimlan 宴をはり　阿主為 有来 aǰu'ūi. ありき。　中合里兀荅舌児 人名 Qali'ūdar カリウダル,　察中忽舌児中罕 人名 Čaqurqan チャクルカン

中豁牙舌侖 両箇的 qoyar-un 二人 の　兀格突舌児 語 裏 üge-dür 言 に　王中罕 人名 Ong qan オン 汗　鳴詰列舌論 説 ügülerün 曰く　帖因 那般 teyin "さも　孛額速 有呵 bö'ēsü あらば,　中合撒舌児 人名 Qasar カサル

亦舌列禿該 教来者 iretügei 来れかし"　客額周 説着 ke'ējü とて　亦帖兼只 倚仗的 itegemji "信ある　亦禿舌児格泥 人名 行 Itürgen-i イトゥルゲンを　亦列耶 教去咱 ileye 遣らん"　客延 麼道 keyēn とて　亦列勒都主為 共教去了 ileldüǰü'ūi, 共に遣りき。

帖堆 即便 tedüi かく　亦舌列額揭 来了 ire'ēd 来りて　孛勒札勒中合札舌剌 約会 地 行 boǰal gaǰar-a 約会の 地 なる　阿舌児中合勒荷吉迭 地名 行 Arɢal=geǖgi-de アルガル・ゲウギ に　古(舌)児恢魯額 纔 到 kürküi-lü'ē 到れ ば

巴舌魯阿 巴魯阿 baru'ā 人影　也客宜 也容宜 yeke-yi 大なる を　兀者周 見着 üǰeǰü 見　亦禿(舌)児堅 人名 Itürgen イトゥルゲン　額勒臣 使臣 elči 使者　中合舌鄰 回 qarin 返り　禿塔阿主兀 走 了 duta'āǰu'ū. 逃走せり。

中合里兀荅舌命 秣舌驎 中忽舌児敬 阿主兀 中合里兀荅舌児 癸趕扯周
人名的 馬 快 有来 人名 趕上着
Qali'ūdar-un morin qurdun aǰu'ū. Qali'ūdar güiyičeǰū
カリウダル の 馬 速く ありき。 カリウダル 追いつきて

把舌里中忽 主魯格 牙荅周 兀中里荅温 中豁亦納温 亦訥 豁黒脆舌里中罕
拿的 心 不能着 前 後 他的 横断
bariqu jirüge yadaǰu urida'ūn qoyina'ūn inu hoctorigan
捉うる 心 ためらい 前を 後を ← 彼の よぎり

迸歩中灰突児 察中忽舌児中合訥 秣舌驎 兀荅安 阿主兀 中豁亦納察 速木納
行時 人名的 馬 遅 有来 自後 前的
yabuquǰ-dur Čaqurqan-u morin uda'ān aǰu'ū. qoyina-ča sumun-u
行く 時 チャクルカン の 馬 おそく ありき, 後より 矢 の

古(舌)児恢 兀主兀舌列 亦禿舌児格訥 阿勒壇 額篾額勒禿 中合舌剌阿黒騨曰
到的 梢頭行 人名的 金 鞍有的 黒 騨馬的
kürküi üǰü'ür-e Itürgen-ü altan eme'ēltü qara acta-yin
とどく さきに イトゥルゲンの 黄金の 鞍もてる 黒き 去勢馬の

中忽揚忽札兀舌児 撒兀壇剌 中合舌児鐃主兀 田迭 亦禿舌児格泥
腎尖 坐直到 射了 那裏 人名行
ɢuyang huǰa'ūr sa'ūtala qarbuǰu'ū. tende Itürgen-i
後脚の つけ根を (馬が)坐るまで 射れり。 そこに イトゥルゲンを

中合里兀荅舌児 察中忽舌児中罕 中豁牙舌児 把舌里周 成吉思中合《中》罕突舌児
人名 人名 両箇 拿着 太祖 皇帝 行
Qali'ūdar Čaqurqan qoyar bariǰu Činggis qahān-dur
カリウダル チャクルカン 二人を 捉え チンギス 可汗 に

阿卜赤舌剌罷原作伯 成吉思中合罕 亦禿舌児堅突舌児 兀禄 客列列勒敬
将来了 太祖 皇己 人名 行 不 説話
abčirba. Činggis qahān Itürgen-dür ülü kelelelduün
つれ来りぬ。 チンギス 可汗 イトゥルゲン に 言葉をかわさず,

中合撒舌児突舌児 阿卜抽 斡都惕中渾 中合撒舌児 篾迭禿該 客額罷原作別
人名行 将着 去您 人名 知道者 撤了
Qasar-dur abču odudqun, Qasar medetügeǐ ke'ēbe.
"カサル に つれ 行け, カサル 知るべし" と云いぬ。

阿ト抽 斡都阿速 中合撒舌児 亦禿舌児堅突舌児 兀禄 客列列勒敬 門
将着 去 呵 人名 人名 行 不 説話 只
abču odu'āsu Qasar Itürgen-dür ūlū kelelelldün mun
つれ 行けば カサル イトゥルゲン に 言葉をかわさず その

田迭 察ト赤周 格罷原作別 (46)
那裏 吹着 撤了
tende čabčiju gēbe.
場にて 斬り 棄てり。

〈3〉 §144 (四36五～三38) 乃馬訥 不亦舌魯黒中罕 阿勒台因
極 人名 地名 的
Naiman-u Buyiruc qan Altai-yin
ナイマン族の ブイルグ 汗は アルタイ の

額不舌児 兀魯黒塔黒 勺舌鄰 中合中合孩 闊多勒主為 篾舌児乞敬 脫黒脫阿
前 地名 指着 離着 動有 種的 人名
ebür Uluctag jorin qacačan ködöljü'ūi, Merkid-ün Tocto'ā
南 ウルタグ を 指し はなれ 動けり。 メルキト族の トクトア

因 可温 中忽禿 薛涼格 勺舌鄰 闊多勒主為 斡亦舌剌敬 中忽都(中)合別乞
的 児子 名 地名 指着 動了有 種名的 人名
-yin kö'ūn Qutu Selengge jorin ködöljü'ūi. Oyirad-un Quduca=beki
の 子 クトゥは セレンゲ河を 指して 動けり。 オイラド族の クドゥガ・ベキ

槐 迭篾壓 失思吉思 勺舌鄰 闊多勒主為 泰亦赤兀敦 阿兀出
林 争 地名 指着 動了有 種名 人名
hoi temečen Šisgis jorin ködöljü'ūi. Taiyiči'ūd-un A'ūču
森を 求めて シスギス 指して 動けり。 タイチウート族の アウチュ・

把阿禿舌児 斡難 勺舌鄰 闊多勒主為 札木中合 斡額舌里顔 中合
勇士 河名 指着 動了有 人名 自 皇帝
ba'ātur Onan jorin ködöljü'ūi Jamuqa ö'ēr-īyēn qa
バートルは オナン河 を目指して 移動せり。 ヂャムカは 己(おのれ)を 汗と

額児古克薛惕 亦舌児格泥 倒兀里阿惕 額(舌)洏古涅 忽舌魯兀 札木中合 (中)合鄰
擦了拾的毎 百姓 行 槍了 河名 順着 人名 回
ergügsed irgen-i daų'ūli'ād Ergün-e huru'ū Jamuqa qarin
推挙せし 人衆 を 掠奪し エルグネ河を 下りて ヂャムカ 返り

闊多勒主為 阿泥 帖因 不塔剌黑荅周 王中孛 額舌衂古涅 忽舌魯兀
動 了有 他每行 那般 潰 散 着 人 名 河 名 順着
ködölǰü'ūi, ani teyin butalaɑdaǰu Ong qan Ergüne huru'ū
動けり。 彼等を かく 潰散されて オン 汗 エルグネ河を 下りて

札木中合宜 捏客罷 成吉思(中)合罕 斡難 竹克 泰亦赤兀敦 阿兀出
人 名 行 追襲了 名 皇帝 河名 処 種 的 人名
J̌amuqa-yi nekebe. Činggis qahān Onan ǰüg Taiyiči'ūd-un A'ūču
ヂャムカ を 追えり。 チンギス 可汗は オナン河 へ タイチウード族の アウーチュ・

把阿禿舌里 捏客罷 阿兀出把阿禿舌児 兀魯思禿舌里顔 古(舌)魯額惕
勇 士行 追襲了 人名 勇 士 百姓共 自的行 到 る
ba'ātur nekebe. A'ūču ba'ātur ulus-tur-iyān kürü'ēd
バアートゥルを 追えり。 アウーチュ・バアートゥルは 民 に ← 己が 到りて

兀魯昔顔 都舌児別兀侖 闊多勒格額惕 阿兀出把阿禿舌児 (中)豁敦斡舌児長
百姓自的行 忙 走 動 了 人名 人 名
ulus-iyān dürbe'ūlün ködölge'ēd A'ūču ba'ātur Qodung=orčang
民 を(己が) 忙しめ 動かし アウーチュ・バートゥル, コドゥン・オルチャン

泰亦赤兀惕 斡納訥 赤納只 額帖額惕 許列兀惕 禿剌思壇 扯(舌)里兀的顔
種 每 河 的 那廂 一辺 多余 方牌有的每 軍每自的行
Taiyiči'ūd Onan-u činaǰi ete'ēd hüle'ūd tulastan čeri'ūd-iyēn
タイチウード族は オナン河の かなたなる 側に 残余の 盾もてる 兵士等 を(己が)

札撒周 中合惕中渾勒都牙 客延 札撒周 擺主為 成吉思中合罕 古舌魯額惕
整治着 斷 殺 唯 慶道 整治着 立着有 名 皇帝 到了
ǰasaǰu qadqulduya keyēn ǰasaǰu baiǰu'ūi. Činggis qahān kürü'ēd
整え "会戦せん" とて 整え 立てり。 チンギス 可汗 到りて

泰亦只〔兀惕〕魯阿 中合惕中渾勒都罷 馬石 額客舌侖額客舌侖 中合惕中渾勒都周
種 和他 斷 殺 了 好生 翻覆翻覆 斷 殺 着
Taiyiǰi'ūd-lu'ā qadqulduba. maši ekērün ekērün qadqulduǰu
タイチウード族 と 会戦せり まさに 繰返し 繰返し 会戦し

只勒荅 孛(勒)荅周 門 中合惕渾勒都黑三 中合札舌剌 失禿(勒)都周 中豁那罷
晩 被敵着 只 斷 殺 的 地 行 相 抗 着 宿了
ǰilda boldaǰu mun qadqulducsan caǰar-a šitüldüǰü qonuba.
日暮れに なられ その 会戦せる 地に 相抗して 宿れり。

兀魯思 巴 都舌児別周 阿亦速舌侖 門古 田迭 扯舌里兀惨魯額邊
百姓每 也 忙起 着 来 時 也 那裏 軍 每 自的行
ulus ba dürbeǰü ayisurun mun-kü tende čeri'ŭd-lü'ē-bēn
民 も 急ぎて 来るに まさに そこにて 兵士等 と ← 己が

中含禿 古舌列額列周 中豁那勸都罷。(47)
一処 札営 着 共宿 了
qamtu küre'ēleǰü qonolduba.
共に 営をかまえて 宿り合いたり。

〈4〉 §1 (一1三, 四, 六) 成吉思(中)合罕訥 忽札兀児 迭額舌列
名 皇帝 的 根 原 上
Činggis qahān-u huǰa'ūr de'ēre
チンギス 可汗 の 根源は 上

騰格舌理額扯 札牙阿禿 脫舌列克先 孛児帖赤那 阿主兀 格児該 亦訥
天 処 命有的 生了的 蒼色 狼 有 妻 他的
tenggeri-eče ǰaya'ātu töregsen Börte=čino aǰu'ū. gergeǰ inu
矢 よりの 命運もて 生れし ボルテ・チノ なりき。 妻 ← 彼の

中豁埃 馬舌闌勒 阿只埃 騰汲思客禿勸周 亦舌列罷 斡難 沐舌漣訥
惨白色 鹿 有来 水名 波 着 来了 河名 河 的
Qo'āi mara(n)l aǰi'āi. Tenggis ketüljü irebe. Onan müren-nü
コアイ・マラル なりき。 テンギス水を 渡りて 来れり。 オナン 河 の

帖舌里兀揑 不峨(中)罕(中)合勸敦納 嫩禿黒剌周 脫舌列克先 巴塔赤罕阿主兀。(48)
源 行 山 名 行 営盤徹若 生(了)的 人名 有来
teri'ŭn-e Burqan=qaldun-na nuntuclaǰu töregsen Batačiqan aǰu'ū.
源 なる ブルカン・カルドゥン山に 居営して 生れたるは バタチガン なりき。

上の§183は，チンギス可汗がケレイド族との死闘の末，わずか19人の復臣の部下と共にバルヂュナ湖に落ちのび，その濁水を飲んで，再起を誓いあったと言う，いわゆる「濁水の誓い」の場に，チンギス可汗の弟カサルが妻子をケレイトの王汗のもとに残せるまま帰還し，その残した妻子の引渡しの懇願に，カリウダル，チャクルカンの二名を王汗の許へ，使者とし遣わしたくだりである。

そして，それに続く§184は王汗がカサルの願いを受け入れ，イトゥルゲン

なる使者をチンギス陣営に赴かせるが，イトゥルゲンは，その陣営のたゞならぬ気配を察して逃亡をはかる。しかし，カリウダル，チャクルカンに捕えられカサルに処断されることが述べられている。

以上の内容を理解した上で，§183，§184の文中に用いられた -ba² 系語尾と -ǰu'ū² 系語尾を観察して見よう。

§183には-ǰu'ū²系語尾が一つも見られないのに対し，§184では反対に-ǰu'ū²系語尾が優勢である。これは何故だろうか。§183，§184の文は，少くともテンスという観点から見れば，そこには，何等の相違は認められない。それは，この2節に亘る文章を通読していただければ，直ちに了解されるところである。筆者が長文に亘る§183，§184を敢て文例としてここに表示したのも，先ず第一に，この点を知っていたゞきたかったからである。即ち -ba² 系語尾と -ǰu'ū² 系語尾の相違は，テンスには求められないということである。それなら，どうして現実にこの様な違いが認められるのか。それは話し手或いは書き手の過去に対する動作の把握の仕方にある。即ちその相違は，-ba² 系語尾が過去の動作を確認（或いは確認扱い）の立場から把握するのに対し，-ǰu'ū² 系語尾は，過去の動作を不確認（或は不確認扱い）の立場から把握する点にある。

§183の文は，いわばチンギス可汗側（サイド）で起った内容の記述であり，その動作は話し手（この場合は秘史のこの文の書き手）にとって確認された動作であり——少くとも確認扱いできる動作であり——ここに -ba² 系語尾のみが現われているのは当然である。（「秘史」という文献の著者は不明であるが，成吉思可汗側（サイド）の有力な影の家臣であったことは自明の事柄に属する）。

§183の中の，カサルが Balǰunada Činggis qahān-dur neyilebe《バルヂュナ湖でチンギス可汗に合した》ことを秘史の著者（編者）は自ら確認したか，或いは確認扱い出来るほど確かな動作として把握したのである。その他の ǰabqaba, yadaba, sonosdaba, ilebe はカサル自身の言葉として語られた対話文の中にあり，当然 -ba² 系語尾が用いられて然るべき処であり，文末の

kürbe《到った》についても，上の neyilebe と同一に見ることができる。

次節§184に移ると，一転して -ju'u² 系の語尾が現われる。先ず最初の ügülejü'üi はカサルの使者としてのカリウダル，チャクルカン二人が《話した，語った》のであり，秘史の書き手は，この二人の使者の《話した》動作を勿論確認したわけでない。又，次の qurimlan aju'üi《宴を催していた》動作も不確認の動作である。残りの ileldüjü'üi《(使者を)遣り合った》，duta'āju'ū《逃げた》，aju'ū《であった》，qarbuju'ū《射た》も総て，話し手（この場合は，秘史の書き手）にとって不確認の動作である。

しかし，カリウダルとチャクルカンの二人が王汗の使者イトゥルゲンをチンギス可汗の許に abčiraba《連れて来た》のは，ここに -ba が用いられていることによって，確認された動作であろうことが知られるしチンギス可汗が，"カサルが知るべし（カサルに任せよ)"「と云った」ことや，文末の gēbe《棄てた》ことも，話し手《秘史の書き手》によって，その動作が確認されたので ke'ēbe, gēbe と -be が用いられたと言うことが出来る。

〈3〉の文中に五回現われる ködöljü'üi《移動した》はその主体がそれぞれナイマン族のブイルク汗，メルキド族のトクトアの息子のクトゥ，オイラド族のクドガ・ベキ，タイチウド族のアウチュ・バァトル，そしてヂャムカである。これらの人々は，総てテムヂンをバルヂュナ湖に追いつめた敵将の族長であり，アンティ・テムヂン陣営に属する人々である。これらの人々の《移動せし》ことを総て ködöljü'üi の如く，-ju'u² 系語尾によって秘史の書き手は表現した。筆者は，この事実に注目したい。彼等の《移動した》動作は，確かに秘史の書き手によって目前で確認された動作ではあるまい。しかし，戦の帰趨を分けた，この種の"移動せり"が，秘史の書き手によって認知されなかったことも，これ亦，あり得ないことである。

-ba² 系語尾に「確認扱い」を認めたのと同じ立場に立って，筆者は，-ju'ū² 系語尾にも「不確認扱い」を認めたい。上の数個の ködöljü'üi は，この「不確認扱い」の -jü'üi として処理するのが適切と考えられる。

この確認扱い対不確語扱いの考えを，視野を拡げて別の角度から眺めると，更に興味深い事実が現われてくる。

「元朝秘史」という文献の中で展開される，チンギスを中心とする人間関係を大きく，チンギス陣営 [A] 対非チンギス陣営 [B] に二分した時，この [A] 陣営に属する人間の行った動作は「確認扱い」されて -ba² 系語尾で表示され，之に反し [B] 陣営に属する人々の行った動作は「不確認扱い」されて -ǰu'ū² 系語尾で表示されるということである。文例〈3〉の多くの ködöljü'ūi はこの大きな原側がそのまゝ適用された諸例であり，又，〈3〉に現われる nekebe《追撃せり》，qonoba《宿れり》，qonolduba《共に宿れり》などの -ba² 系語尾も，この原側に立って見れば当然の帰結である。

秘史という文献の世界では，上の様に，チンギス可汗 vs 非チンギス可汗の構図の下に，多くの事象を語りうるが，当然のことながら，この様な構図のわく外で行われる，或いは行なわれた動作も勿論存在する。

文例〈4〉はその種の動作が，秘史蒙古語では，如何に表現されているかを示す好例である。文例〈4〉は秘史巻一，冒頭の一文である。

この冒頭の一文はチンギス可汗の遠祖を語ったモンゴル族の族祖伝説の最初の部分である。こゝには，未だ「チンギス vs. 非チンギス」の構図はない。ここで「確認対非確認」の原理はどのように適用されうるか。

《チンギス可汗の根元は，上天よりの命運もて生れしボルテ・チノなりき。その妻コアイ・マラルなりき》

上の二つの“なりき”に当る蒙古語は aǰu'ū，aǰi'āi である。この両形は，いうまでもなく，a-ǰu'ū，a-ǰi'ai からなり，-ǰu'ū² 系語尾が存在を意味する動詞語幹に接尾された形である。

存在——存在も状態も動作の一つの現われ方である——を意味する a-《ある，いる》に -ǰu'ū² 系の語尾が附された aǰu'ū は，上の原則に従えば《あった，いた》存在を，話し手（書き手）が不確認の立場で把握したことを示す形といえる。《あった，いた》という過去の存在を確認してないことは，その過

去における存在《あった，いた》が，話し手（書き手）にとって「未知の存在」であったことに通じる。

「確認 vs 不確認」が，ここでは——存在を意味する動詞の場合には——「既知 vs 未知」という姿を変えた図式で，よりよく説明される可能性がある。

実は，モンゴル系の言語には，《ある，いる》を意味するもう一つの動詞語幹 bü- がある。この bü- は次項で述べる -la'ā 系語尾と合して秘史蒙古語では主として「不列額」büle'ē の形のもとに現われる。

本項の aǰu'ū に対する，これ以上の探求は，従って，次項の büle'ē への言及の際まで一時預っておきたい。

ここでは，aǰu'u(i) は「事物の過去における存在を不確認の立場で把握した形」としておくことにする。

さて，aǰu'ū の説明が長くなってしまったが，〈4〉には Tenggis ketüljü irebe《テンギスを渡りて来りぬ》の irebe が見える。この -be は如何に見るべきか。秘史の書き手にとって，irebe は勿論，確認された《来た》ではあり得ないから，これは“確認扱い”された -be である。それでは，この -be がどうして確認扱いされ得るか。それは，前文でボルテ・チノとコアイ・マラルの二者が紹介され，その既知の情報の上に立った二者の行った動作として irebe が確認扱いされたのであると見ることができる。秘史における，この種の $-ba^2$ 系語尾の用例は間々見られるところである。

以上，$-ba^2$ 系語尾との対比の上で $-ǰu'u^2$ 系語尾の表わす意義の検討を行った。この検討をふまえて，$-ǰu'ū^2$ 系語尾の意義素を《ある動作が，過去において，話し手（書き手）の不確認のまゝに行なわれた》と措定する。別な表現を用いれば《話し手の不確認のままに行なわれた過去の動作》と言うことも出来よう。

最後に，$-ǰu'ū^2$ ($-ču'ū^2$) が男性単数形，$-ǰu'ūi^2$ が複数形なることを文例に従って実証しておこう。

〈2〉の ügülejü'üi《話した》の主語はカリウダルとチャクルカン，二人の使

臣であり，従って複数形 -jü'üi が用いられている。

qurimlan aju'ui も《宴を催していた》のは王中合であるが，実質的には勿論，王罕を長とするケレイド族全員である。従って aju'üi となる。

ileldüjü'üi も成吉思可汗と王中罕の両方が ileldü- したので -jü'üi が用いられた。

次の duta'āju'ū《逃亡した》の主語はイトゥルゲンであるから，当然 -ju'ū である。

次の二つの aju'ū はともに馬について述べたもので，これも当然単数形である。

qarbuju'ū《射た》の主語はチャクルカンであって，これ亦 -ju'ū が用いらるべきものである。

以上，-ju'ū が男性・単数形，-ju'üi が複数形なることに疑義はない。

次に〈4〉の aji'āi である。この aji'āi は，§155（五22九）にも nadača egeči Yesüi nereteį nadača de'ēre qan kü'ün-e jokiquį aji'āi-je.《我より，姉のイェスイなる者，我より増して汗(カン)なる人に適するなるぞ》と見え，女性形単数形と見ることが許されよう。秘史には見えないが，他の諸語尾との対比から見て，当然期待される女性形 -jigi (-čigi) が [S. M. I. 1315](11) に実証されるのは興味深い。

この -jigi と秘史の -ji'āi との関係如何について考えるべきであるが，暫らくは措く。

なお，aju'ū(i)は時に，テンスの観点から見ると，〈過去〉とは見られない場合が少数ではあるが散見される。それ等についても後にふれる機会があろう。

### 《f》 -la'ā², -la'āi², -lu'ā², -lu'āi², -ligi～-liyi

上記の諸語尾を前述に倣って -la'ā² 系語尾と呼ぶ。筆者は曽て，小論「中世蒙古語の動詞語尾の体系」(12)において，中世蒙古語の動詞終止形語尾群に，性・数による使い分けが存在し，それらが，男性単数形，女性単数形，複数形の範

疇に分けられることを説いた。本稿でも，その枠組みに従って記述を進めているが，上記の拙論では，諸語尾の意義素の記述まで考察を加えることが出来なかった。今回は，その欠を補うために，専ら，上掲論文の基盤の上に立って，又その後の研究の上に立って，意義素の記述に努めながら筆を進めて来ている。(a)～(e) の諸語尾についても，上の観点からの記述に従ったし，今後もこの態度を持しつゝ記述する所存である。

ところで，これから取りあげる -la'ā² 系語尾は，筆者に上掲論文を執筆させた直接の動機となった語尾群なのである。その意味で，この -la'ā² 系語尾には，筆者は一種の愛着と懐しさを今でも感じている。閑話休題。

-la'ā² 系語尾の問題点の一つは，蒙古語文語では主流をなす -lugā² に当る秘史蒙古語形 -lu'ā(i)² が，秘史蒙古語では非主流であり，主流をなすのは -la'ā(i)² であるという事実である。

-lu'ā(i)² の用例は秘史12巻に亘って30例を数えるが，-la'ā(i)² の用例は，その倍近い51例を数える。動詞語幹 bü- に，語尾 -la'ā(i)² の附された büle'ē (186例)，büle'ēi (36例) を加えれば -la'ā² 系語尾そのものの使用例は多数にのぼるが，büle'ē, büle'ēi は別に考察することにし，先ず -lu'ā(i)² と -la'ā(i)² の関係を吟味する必要がある。

蒙古語文語でも古い文献では，例えば [S. M. I. 1335], [S. M. I. 1338][13], [I. A. 1340][14] に見られるように，büle'ē に当る bülege が主流であって，bülüge はテュルケスタン蒙古語文書[15]の一部にはじめて現われる。従って，bülegē に限って言えば，文語でも -legē が主に用いられていたと言えよう。

こゝで，-la'ā² と -lu'ā の関係についての考察に入ろう。

## 1. -la'ā²～-la'ēi²

〈1〉 §93(一34七～35二) 納中忽伯顔訥 格児圖児 古児罷 納中忽伯顔

人名的 家裏 到了 人名

Naqu bayan-nu ger-tür kürbe. Naqu=bayan

ナク・バヤン の 包(ゲル) に 到れり。 ナク・バヤン

可兀邊　孛斡児出宜　札(ト)中合周　你孫　你勒下速巴児　阿主兀　格捏帖

人名行　失着　涕　涙教　有来　忽然

kö'ü-bēn　Bo'ōrču-yi　jabqaju　nisun　nilbusu-bār　aju'ū.　gened

子を(己ガ)　ボオールチュを　失いて　鼻水　涙もて　ありき。　不意に

古児帖周　可兀邊　兀者周　你刊帖　委亦剌木　你刊帖　董中豁都木

到着　児自的,　見着　一次　哭有　一次　怪有

kürtejü　kö'ü-bēn　üjejü　nikente　uiyilamu,　nikente　dungodumu.

帰り到られて,　子を(己が)　見て　一たびは　泣き　一たびは　叱責せり。

可温亦訥　孛斡児出鳴詁列舌論　牙温孛勒罷　撒因那可児　蒙塔你周

児子他的　人名　説　甚麼　做了　好伴當　艱難

kö'ūn inu　Bo'ōrču　ügülerün　ya'ūn bolba　sayin nökör　mungtaniju

子←彼の　ボオールチュの　言うに　"何ぞ起れる,　よき伴　艱難して

阿亦孫　阿主兀　那可徹周　斡都剌阿必　額朶額　亦舌列罷客額惕　合温(勒)周

来　有来　做伴着　去了来我　如今　来了説了　走馬着

ayisun　aju'ū.　nökŏčejü　odula'ā bi,　edō'ē　irebe kē'ēd　ha'ū(n)lju

来り　ありき。　伴たりて　行きぬ我,　今　帰り来れり"とて　馳け

斡惕抽　客額舌列　不中忽黒三　南不中合　撒兀魯中合班　阿(ト)赤舌剌罷。(49)

去着　野地裏　蓋了的　皮桶　皮斗自的行　将来了

odču　ke'ēr-e　bugugsan　nambuca　sa'ūluca-bān　abčiraba.

行きて　草原に　隠せる　皮袋　皮桶を(己が)　持ち来れり。

## 〈2〉 §102(一48八～49三)

額迭中忽児班篾児乞惕　額児帖訥　訶額侖

遣　三箇種名　在先的　母名

ede gurban Merkid　erten-ü　Hö'ēlün

これら　三姓(ブルバン)　メルキド族は　"古き日の　ホエルン。

額客宜　赤列都〔迭扯〕　不里周　阿ト塔剌埃客延　額朶額　帖舌列斡雪(勒)斡旋

母行　人名自　奪着　被要了　麼道　如今　那　雪報

eke-yi　Čiledü-deče　buliju　abtala'āi　keyēn　edō'ē　tere　ösöl　ösön

エケを　チレドより　奪い　取られぬ"とて　今　力の　双みを　報じ

亦舌列(克)薛(惕)　阿主兀　帖迭　篾児乞惕　鳴詁列勒都舌論　訶額侖訥

来了　有来　那　種名　共説　母名的

iregsed　aju'ū.　tede　Merkīd　ügüleldürün　"Hö'ēlün-nü

来りし　なりき。　かれ等　メルキド族の　言い合うに　ホエルンの

哈赤阿不舌闡 額朶額 額篾昔阿訥 阿不罷 哈赤顔 阿不舌剌罷 必荅
譬 報 如今 婦人毎 他的 要了 譬 自的行 報 了 咱
hači aburan edö'ē emes-i anu abuba. hači-yān aburaba bida
仇を 取り, 今 女達を ←彼等の とれり。 仇 を(己が) 取れり 我等"

客額勒都周 不嶋中罕中合勒敦納察 保兀周 格亦惕禿舌里顔 阿只舌剌罷。(50)
共説着 山 名 自 下着 家裏毎 自的行 回去了
ke'ēldüjü Burqan=qaldun-nača bau'ūju geyid-tür-iyēn ajiraba.
と云い合いて ブルカン・カルドゥン山 より 下りて 家々 に ←己が 帰還せり。

〈3〉 §108 (三12三～12七) 札木中合 鳴詁列舌論 孛舌羅安 別舌児
人 名 説 風雪 也
Jamuqa ügülerün boro'ān ber
ジャムカの 言う "風雪 なり

孛魯阿速 孛勒札勒突舌児 中忽舌剌別舌児孛魯阿速 中忽舌剌勒突舌児 不
做 呵 約 会 裏 雨 也 做呵 聚会 裏 休
bolu'āsu boljal-dur, qura ber bolu'āsu qural-dur bū
とも 約会 に, 雨 なり とも 集会 に

中豁只荅牙 額薛兀 客額勒都列埃 必荅 忙中豁勒 者 安荅中合舌児壇
落後咱 不曽 共説 来麼 咱毎 達達的 応許声 做誓 有的毎
qojidaya ese'ū ke'ēldüle'ēi bida, Monggol je andaqartan
おくれまい」 と云いあわざりや 我等, 「モンゴル族は 『ヂェー』の宣誓をもつ

不速禿 者迭扯 中豁只荅黒撒泥 者舌児格迭扯 中合舌児中合牙 客額勒都列埃
不有来麼 応許 行 落後 的 行 班列 裏 教出去咱 共 説 来
busutū, je-deče qojidaqsan-i jerge-deče qarqaya ke'ēldüle'ēi
に非ずや,『ヂェー』より おくれたる を 順列 より 出さん」 と云いあえり"

客額罷。(51)
説了
ke'ēbe.
と云いぬ。

〈4〉 §118 (三31二～31六) 訶額侖額客宜 董中豁都阿 兀都兀耶
婦人名 母 行 作 声 未
Hö'ēlün=eke-yi dungqodu'ā üdü'ūi-e
ホエルン・エケ の 言発せ ざ る に

孛舌児帖兀真 鳴詰列舌論 札木中合安荅 委亦当中合 客額克顚 不列額
婦人名 説 人名 契合 好薬旧 被説 有来
Börte=uǰin ügülerün J̌amuqa anda uiyidangga ke'ēgden büle'ē,
ボルテ・ウヂンの 言う "ヂャムカ 盟友 あき易し' と云われ ありき,

額朶額 必荅納察 委亦惕中忽 察黒孛勒罷 禿中合舌侖 札木中合 安荅因
如今 咱每 行 厭 的 時 做了 恰纔的 人名 契合 的
edö'ē bidan-ača uiyidqu čag bolba, tuɢar-un J̌amuqa anda-yin
今 我等 より 飽くる 時に なれり, さきほど の ヂャムカ 盟友 の

客列列克先 客連 必荅突舌児 孛額惕 折失古 兀格備由……。(52)
説来的 話 咱每 行 便 欲圖的 言語 有
kelelegsen kelen bida-dur bö'ēd ješikü üge büyü.
語りし 言葉, 我等 に ぞ たくらむ 言 なり。

〈5〉 §163 (五34二～35一) 額迭 朶(舌)児邉 曲魯兀的 古(舌)児恢因
這 四 傑 到 時
ede dörben külü'ūd-i kürkü-yin
これら 四人の 俊傑の 到る

兀舌里荅 忽剌安中忽惕荅 乘昆 擺亦勒都中忽 孛侖 秣舌驢訥安 中忽牙
先 地名 行 人名 対陣 做 馬 自的 腿
urida Hula'ān=ɢud-da Senggüm baiyilduqu bolun morin-u'ān ɢuya
さきに フラーン・ゴド にて セングム 対戦する にいたり, 馬 の(己が) 復脚を

中合黒荅周 阿卜荅中忽 孛勒周 不恢突舌児 額迭 朶舌児邉 曲魯兀惕
被射着 被捉 做着 有 時 這 四 傑 按
qaɢdaǰu abdaqu bolǰu büküi-dür ede dörben külü'ūd
射られ 捉らわことに なりて ある 時, これら 四人の 俊傑

古舌児抽 阿不舌剌阿惕 亦舌児格 斡舌児中合 額篾可兀 不古迭亘 阿不舌剌周
到着 救了 百姓 人烟 妻子 都行 救着
kürčü abura'ād irge orɢa eme kö'ū bügüde-yi aburaǰu
到り 救いて 人衆 散民 妻子 すべて を 救い

斡克罷原作伯 田迭 王中罕 鳴詰列舌論 額舌児迭 撒因 額赤格迭 〔赤〕訥
与了 那裏 人名 説 在前 好 父行 〈你〉的
ögbe. tende Ong qan ügülerün "erde sayin ečige-de činu
与えぬ。 そこに オン 汗の 言う "かって よき 父 に ←汝の

額捏篾圖 斡敦巴舌剌黒三 兀魯昔顔 阿不舌剌周 斡克帖列額 額朶額 巴撒
這 般 去 了 了的 百姓 自的行 救 着 被与了 如今 再
ene metu odun baraɢsan ulus-iyān aburaǰu ögtele'ē, edö'ē basa
かくの 如く 行き はてし 民人 を(己が) 救い 与えられき, 今 また

可兀訥延 斡敦巴舌剌黒三 兀魯昔 米訥 朶(舌)児邊 曲魯兀的顔
子 自的行 去 了 了的 百姓行 我的 四 傑 自的行
kö'ün-ü-yēn odun baraɢsan ulus-i minu dörben külü'üd-iyēn
子 の ←己が 行き はてし 民人を ←わが 四人の 俊傑 を(己が)

亦(舌)列周 阿不舌剌周 斡克帖罷原作別 哈赤 中合里兀勒中忽冝 騰格舌理
〈去〉着 救 着 被与了 恩 回 的 行 天
ileǰü aburaǰu ögtebe. hači qari'ūlqu-yi tenggeri
遣わし 救い 与えられたり。 恩を 返すべき を 天

中合札舌侖 亦赫額勒 篾迭禿該 客額罷。(53)
地 護助 知道 者 說了
ɢaǰar-un ihe'ēl medetügeį ke'ēbe.
地の 加護の 知るべし" と云いぬ。

〈6〉 §196 (七44二～44五) 塔陽温 額客 古児別速冝 成吉思
人名 的 母 名 行 太祖
Tayang-un eke Gürbesü-yi Činggis
タヤン の 母 グルベス を チンギス

中合罕 阿卜赤舌剌兀勒周 鳴詁列舌論 赤 忙中豁侖 忽你舌児 卯危
皇帝 教 将 来 着 說 你 連連的 気息 歹
qahān abčira'ūlju ügülerün či Mongɢol-un hünir ma'ūi
可汗 つれ来さしめて 言う "汝, 'モンゴル の 匂い 悪し'

客額周 額薛兀 不列額 額朶額 也勤 亦舌列罷原作別 赤 客額周 成吉思
說着 不曽聚 有来 如今 如何 来了 你 說着 太祖
ke'ējü ese'ū büle'ē, edö'ē yekin irebe či ke'ējü Činggis
と 言わざりしや, 今 なんぞ 来れる 汝" と云いて チンギス

中合罕 阿不剌阿。(54)
皇帝 要 了 来
qahān abula'ā.
可汗 (彼女を) 取りぬ。

〈1〉から〈6〉まで，-la'ā(i)² の用例のみを挙げた。〈1〉の odula'ā bi の用例から -la'ā² が男性単数形なること明かである。この bi は Bo'örču だからである。ところで，この一文は，ナコ大尽(バヤン)が自分の息子のボオルチュが何処かに行って了って悲しんでいるところにボオルチュが帰って来て，悲しんでいる父親の有様を見て"いかにぞなれる，よき友の艱難して来りあり，友たりて行けり我 (odula'ā bi)，今（帰り）来りぬ (edö'ē irebe)" とボオルチュが父親のナコ大尽(バヤン)に対して語った言葉である。ここで注意すべきは"友たりて行ける (odula'a)" の odula'ā は"今，帰り来りぬ (edö'ē irebe)" より《以前の動作》である。即ちテンスの観点からすれば，irebe より odula'ā は《より以前の，より過去》の動作を表わしていることである。この点に注意をはらいながら -la'ā² 系語尾の用例を調べて見ると，この現象は，すべての -la'ā² 系語尾によく適合することが知られる。

〈2〉の Hö'ēlün eke-yi Čiledü-deče buliju abtala'āi《"ホエルン・エケをば，チレドの許より奪い取られたり"》の buliju abtala'āi も edö'ē tere ösöl ösön iregsed《今，その讐みを報じ来りし》よりも過去の行為である。

更に〈3〉の ese'ü ke'ēldüle'ēi bida《～と言い合わざりしか》の ke'ēldüle'ēi《～と言い合いたり》はヂャムガがこの言を発した時点より明かに以前の行為である。

〈4〉ke'ēgden büle'ē《～と云われている》も edö'ē bidan-ača uiyiduqu čag bolba《今，我等より倦む時となれり》の《なれり》より過去のことである。

〈5〉の ögtele'ē《与えられたり》も亦，edö'ē basa……aburaju ögtebe《今また……救い与えられぬ》の時より過去のことである。

〈6〉のナイマン族のタヤン汗の后グルベスに対するチンギス可汗の言葉の ke'ējü ese'ü büle'ē《～と云わざりしや》も直後の edö'ē yekin irebe či《今，なんぞ来れる汝》と比して，時間的には明かに以前の行為である。

このように，語尾 -la'ā(i)² はテンスの点から見れば，発話時の過去のもう一段前の過去を表わす語尾である。従って「**erte—la'ā(i)²……edö'ē—ba(i)²**」

の文形を示すことが多く，ここに挙げた〈4〉，〈5〉にもその形が見えている。

《かって～した，そして今また～した》と一般化しうるこの文形の前項の《～した》を -la'ā(i)² は表示するものであると言うことができる。

上例の〈1〉の odula'ā，〈2〉の abtala'āi̯，〈3〉の ke'ēldüle'ēi̯，〈4〉の büle'ē，〈5〉の ögtele'ē，〈6〉の abula'ā には -la'ā² と -la'āi̯² との両者が見え，-la'ā² が男性単数であることは上述の通りであるが，-la'āi̯ の方も複数形と認めうることは用例を注意深く読めば，自ずと了解される。〈2〉の abtala'āi̯ の直後にかりに主語を挿入するとすれば，筆者は躊躇することなく，ba《我々 exclusive》を入れるであろうし，巻二において「原作侶」の註記が取入れられてあったとしたら，〈2〉の「阿不罷，阿不舌剌罷，阿只舌剌罷」の後には必ずや「阿不罷原作侶」の如く見られたであろう。

〈3〉の ke'ēldüle'ēi̯ の -le'ēi̯ については何の説明の要もあるまい。直後に bida《我々，inclusive》が見られる。

〈4〉の büle'ē，〈5〉の ögtele'ē，〈6〉の abula'ā についても男性単数形なることに何等の疑問の余地はない。

-la'ā² 系語尾の意義素の措定に先立って，秘史蒙古語ではマイナーな地位にあると云っても，語尾 -lu'ā(i̯)² について検討する必要がある。

## 2. -lu'ā²～-lu'āi̯²

〈1〉 §145（四42九～43五）

| 必 | 帖因 | 薛陽乞周 | 中合阿訥 | 杭(中)合黒三 |
|---|---|---|---|---|
| 我 | 那般 | 想 着 | 皇帝的 | 枯渇了的 |
| bi | teyin | sedkiǰü | qa'ān-u | hangɢaɢsan |
| "我 | かく | 思いて | 「可汗の | 喉かわきたる |

| 薛陽乞動 | 額(舌)魯思速該 | 客延 | 你敦 | 中合舌剌 | 額因 | 薛陽乞周 | 斡都魯阿 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 心 | 趕 上 | 緊道 | 眼 | 黒 | 這般 | 想 着 | 去了来 |
| sedkil | erüssügei̯ | keyēn | nidün | qara | eyin | sedkiǰü | odulu'ā |
| 心に | 到らん」 | とて | 向うみずに | | かく | 思いて | 行きぬ |

必 客額罷(原作別) 成吉思(中)合罕 鳴詁列(舌)論 額朶額 牙温 客額古 額(舌)児帖
我 說了 皇帝 說 如今 甚麼 說 在前
bi ke'ēbe. Činggis qahān ügülerün edö'ē ya'un ke'ēkü, erte
我 と云いたり。 チンギス 可汗の 言う "今 何をか 言はん, 古き

兀都(舌)児 (中)忽(舌)児班篾(舌)児乞(楊) 赤(舌)列周 不(舌)峏(中)罕泥 中忽(舌)児班荅
日子 三 種名 来着 山 行 三 次
üdür gurban Merkid irejū Burqan-ni gurbanda
日 三姓(ダルバン) メルキドの 来りて ブルカン山 を 三たび

中忽赤兀(勒)(中)灰突(舌)児 阿民 米訥 你刊帖 阿(ト)抽 中合(舌)魯魯阿 赤
教 繞 時 性命 我的 一次 将着 出 了 来 你
quči'ūlquį-dur amin minu nigente abču garulu'ā či,
めぐらされる 時 命を ← わが 一たび とり 出でぬ 汝,

額朶額 巴撒 哈〈黒〉抽 不恢 赤速泥 阿馬阿(舌)児 食民周 阿民 米訥
如今 又 乾着 有的 血行 教口 咽着 性命 我的
edö'ē basa hacču büküį čisun-i ama'ār simi(n)jü amin minu
今 また 乾き ある 血 を 口もて 吸いて 命を ← わが

僧帖(勒)罷 赤(罷原作別) (55)
開豁 了 你
sengtelbe či.
開けり 汝。"

〈2〉 §255 (十30六～31二) 額(舌)児帖 阿(勒)壇 中忽察(舌)児 中豁牙(舌)児
人名 人名 両箇
erte Altan Qučar qoyar
"かつて アルタン クチャル 二人

額捏 篾図 兀格 巴(舌)剌(勒)都周 只池 兀格思禿(舌)里顔 兀禄 古(舌)児古因
還 般 言語 議定了 着 却 言語毎 自的行 不 到 的
ene metü üge baralduju jiči üges-tür-iyēn ülü kürkü-yin
かくの 如き 言を 定め合いて, むしろ 言辞 に ←彼等の 到らざる の

禿剌 客(舌)児 乞(克)迭魯埃 黯巴児 孛(勒)中合(黒)荅魯埃 額朶額 阿(勒)壇
上顎 怎 被做来 怎 被 做 了 来 如今 人名
tula ker kigdelü'ēį, yambar bolgagdalu'āį, edö'ē Altan
故 いかにか 為されたる, いかにぞ 為されたる, 今 アルタン

中忽察舌児 中豁牙舌侖 兀舌魯兀荅察 壇魯阿 撒勒中合勒都牙 帖迭泥
人名 両箇 子孫毎 行 您 一同 教分 咱 他毎 行
Qučar qoyar-un uru'ūd-ača tan-lu'ā salgalduya, teden-i
クチャル 二人の 親族 より 汝等 と 分けあわせしめん, 彼等を

兀者周 牙兀 斡莎勒荅中渾 塔 客額額揚 斡歌歹 牙兀 客額木 客列列
看着 如何 怠 慢 了 您 説 了 人名 甚 説 有 説
üjejü ya'ū osoldaqun ta ke'ē'ēd Ögödei ya'ū ke'ēmü, kelele
見て(あらば) 何を 誤つべき 汝等" と云いて "オゴデイ 何 と云うや, 述べよ"

客額罷原作別 (56)
説了
ke'ēbe
と云いぬ。

〈3〉 §256 (土35一～35五) 成吉思中合罕 秣舌驪剌舌侖 唐兀揚
太祖 皇帝 上馬 時 種
Činggis qahān morilarun Tangūd
チンギス 可汗 出馬するに タングートの

亦舌児格訥 不舌児中罕突舌児 額勒臣 亦列舌侖 巴舌額温 中合舌児 赤訥 孛勒速
百姓的 人名 行 使臣 差時 右 手 你的 做我
irgen-ü Burqan-dur elčin ilerün bara'ūn gar činu bolsu
人衆 の ブルカン に 使者を 遣りて言う "右 手 ← 汝の たらん'

客額魯額 赤 撒舌児塔兀勒 亦舌児格担 阿勒壇 阿舌児中含只顔 塔速勒荅周
説 来 你 回 回 百姓行 金 麼 繩 自的行 被断 着
ke'ēlü'ē či, Sarta'ūl irgen-e altan arɢamji-yān tasuldaju
と云いぬ 汝, サルタウールの 人衆 に 黄金の 絆繩 を(己が) 断たれ

斡魯勒潺 秣舌驪剌罷 必 巴舌剌温 中合舌児 孛侖 秣舌驪剌 客額周
折証 上馬 了 我 右 手 做 上馬 説着
olulčan morilaba bi, bara'ūn gar bolun morila" ke'ējü
確認すべく 出馬せり 我, 右 手 となりて 出馬せよ" と云い

亦列額速……。(57)
去 呵
ile'ēsü…….
遣らば……。

〈4〉 §177 (六21十～22九)

必荅 中豁牙舌児 牙兀 客額勒都列埃
咱 両 箭 甚麼 共説了来
bida qoyar ya'ū ke'ēldüle'ēi
"我等 二人 何 と云い合いたるや

勺舌嶋中合勒中忽訥 忽剌阿訥屹惕 孛勒荅屹惕塔 必荅 額薛兀 鳴詁列勒都魯埃
山名 的 山名 行 咱 不当 共説来麼
J̌orcal=gun-u Hula'ān-u'ūd bolda'ūd-ta bida ese'ū ügüleldülü'ēi,
ヂョルガル・グンの フラアーンの峯々, ボルダクの峯々に 我等 語り 合わざりしか,

速都禿 抹中合牙 雪都舌児帖額速 雪都舌児堅突舌児 亦訥 不斡舌羅牙
牙有的 蛇 行 被挑 唆 呵 挑唆 裏 他的 休 入咱
südütü mocaị-a südürte'ēsü südürgen-dür inu bū oroya,
歯ある 蛇 行 そそのかさるも そそのかし に ← その 入 るまじ,

速都額舌児 阿馬阿舌児 斡魯勒察周 不失舌列耶 額薛兀 客額勒都列埃
牙 教 口 教 対 証 着 信 咱 不 曾 共説来麼
südü-'ēr ama-'ār olulčaju büširye ese'ū ke'ēldüle'ēi,
歯もて 口もて 確かめ合い 信じ合わん と云わざりしか,

額朶額 中罕 額赤格米訥 速都額舌児 阿馬阿舌魯 斡魯勒察周 中合中合察罷
如今 皇帝 父 我的 牙 教 口 教麼 対 証着 分離 了
edö'ē qan ečige minu südü-'ēr ama-'ār olulčaju qaɢačaba
今 汗なる 父 ← わが 歯 もて 口 もて 確かめ合いて はなれたり

赤……。(58)
你
či…….
汝……。

〈5〉 §223 (九30一～30五)

巴撒 古出古(舌)児 抹赤荅 亦舌児格
再 人 名 木匠行 百 姓
basa Küčügür moči-da irge
また クチュグル 木匠 に "人衆

禿塔黒荅周 額你迭徹 田迭徹 中忽卜赤周 札荅舌剌納察 木勒中合勒中忽
被欠 着 這処 那 処 収拾着 種 名 処 人 名
ṭutaɢdaju ende-če tende-če gubčiju, J̌adaran-ača Mulqalqu
足りず, ここ より そこ より 徴収し——ヂャダラン より ムカルク

主乞耶舌児 那可扯魯額 古出古(舌)児 木勒中合勒中忽 中豁牙舌児 你客捏
正依着 倣伴 来 人 名 人 名 両 箇 一行
jüg-iyēr nökočelü'ē, Küčügür Mulqalqu qoyar niken-e
親しく 伴たりぬ—— クチュグル ムカルク 二人 一緒に

敏中合剌周 額耶禿勒都周 阿揚中渾客額罷。(59)
千戸倣 着 商 量 着 住 您 説 了
mingɑlaju eyetüldüjü adqun ke'ēbe.
千戸たりて 相はかりて あれ" と云いぬ。

この語尾 -lu'ā²～-lu'āi² の用例は，-la'ā²～-la'āi² に比して少なく，総計27例を数えるのみである。中でも -lu'āi² は僅か3例に過ぎない。

興味深いことは近世以後の文語形 bülüge に当る *bülü'ē が秘史には一例をも数えられないことである。büle'ē 170例，büle'ēi 31例の多きにのぼる事実から考えると，*bülü'ē が一例も見られないことは，秘史の土台となった中世期の蒙古語には，-lu'ā(i)² そのものは用いられたものの，bülü'ē は存在しなかったと見るべきであろうか。この問題は後でもう一度取上げるのでこゝでは -lu'ā(i) の吟味に移ろう。

〈1〉はヂャムカ連合軍とのコイテンでの戦闘で重傷を負ったチンギス可汗をヂェルメが献身的に介抱し，裸になって敵陣に忍び込み，チンギスの渇を癒すべくタラグ《一種のヨーグルト》を持ち来って与えた件(くだり)の一文である。ここに見える odulu'ā, ɑarulu'ā の後者の -lu'ā は前項 -la'ā² の項で見た「erte …—la'ā(i)², edö'ē…—ba²」の様式のままであり，-la'ā(i)² の代りに -lu'ā が現われていることを知る。即ち -lu'ā(i)² も発話時の過去より更に以前の過去を示している。odulu'ā の -lu'ā もヂェルメの発話時より以前の行為が odulu'ā《行った》で示されている。

〈3〉の ke'ēlü'ē či《言えり汝》もタングドのブルカンが《(かつて) 汝の右手にならんと言えり汝》とチンギスに誓約した時のことを述べたもので，サルタウルの人衆に向って《出陣せり我》の時点より以前の行為を示している。

〈4〉の ügüleldülü'ēi の -lü'ēi も「より古い過去」を示し，他の用例に準

じて扱い得るが〈2〉の kigdelü'ēi と bolgagdalu'ai と共に，これら -lu'āi² をもつ動作の主体が複数である処から見て，-lu'āi² は -lu'ā² の複数形なることが知られる。

〈5〉の nököčelü'ē《友たりき》も「より古い過去の時からの動作として nököče-《友となる，友として交わる》を捉えたものである。（なお，この§223の読解については，筆者の『元朝秘史全釈続攷（中）』の p. 250～p. 252参照）

以上によって -lu'ā² は単数男性形，-lu'āi² は複数形なることが明かであり，それは -la'a² が単数男性形，-la'āi が複数形なることと全く平行的である。-la'ā(i)²，-lu'ā(i)² ともに，テンスの点から見れば《発話時の過去より以前の過古》を表わす語尾と規定し得よう。

ところで，この -la'ā² 系語尾は -ba² 系語尾，-ǰu'ū² 系語尾と比較すると，その用例は多くはない。-ba² 系語尾の出現の 800 以上，-ǰu'u² 系語尾の出現の 330 以上に較べると，-la'ā 系語尾の使用例77は遙かに少ない。もっとも，büle'ē が186例，büle'ēi が36例数えられるので，これを加えれば299例になり，-ǰu'ū 系語尾との差はそれほどでもなくなる。-ǰu'ū 系語尾の330例以上の中には，aǰu'ū 79例，aǰu'ūi 18が含まれていることも忘れてはなるまい。

ここで -la'ā(i)² と -lu'ā(i)² との関係如何を考察する順序となった。-i 系語尾はここでも複数形であることがすでに証されているので，基本的には -la'ā² と -lu'ā² とは如何なる関係にあるかが考察されねばならない。

先ず -lu'ā² の用例を見よう。-lu'ā² の用例そのものは秘史全巻を通じて27例であるが，上には，その一部を挙げた。〈1〉の odulu'ā bi はヂェルメがチンギスに向って話した言葉の中で用いられ garulu'ā či は逆にチンギスがヂェルメに向けて発した言葉の中で用いられている。

〈3〉の ke'ēlü'ē či もチンギスが西夏のブルカンに対して発した言辞の中にあり，〈5〉の nököčelü'ē も又，家臣である Güčügür に対し，チンギスが発した言辞の中にある。

この様に -lu'ā² は総て，「対話文」の中に見られ，いわゆる「地の文」で用いられることは極めて稀である。これは -lu'ā に限らず，-la'ā² 系語尾総てにあてはまる大きな特色である。-ba² 系語尾や -ju'ū² 系語尾は，「対話文」，「地の文（敍述文）」の別なく平均的に用いられるが，-la'ā² 系語尾はそうではない。(büle'ē(i) はその唯一の例外であり，「敍述文」においての用例も多く認められる)。

さて，〈1〉の odulu'ā bi《我行けり》の bi はヂェルメであり，彼ヂェルメが主君のチンギスに向って自分の行った行為 odulu'ā を示している。即ち主君（優位にある話し相手）に対し，劣位にある話し手 bi が自己の行為を報じた述語動詞の中に -lu'ā は用いられている。

翻って〈2〉の garulu'ā は優位にある話し手チンギスが，劣位にある話し相手 či の行為を述べた述語動詞の中に -lu'ā が用いられている。

〈3〉の ke'ēlü'e の -lü'ē も〈2〉の -lu'ā と同様，チンギスが話し相手の“汝ブルカン”の行為を報じた述語動詞として用いられている。〈5〉の nökočelü'ē の -lü'ē も劣位にある話し相手自身の行為を述べた述語動詞の中にある。

〈1〉の -lu'ā と〈2〉,〈3〉,〈5〉の -lu'ā² の違いは，〈1〉が「劣位者⟶優位者」の線の対話文であるに対し，〈2〉,〈3〉,〈5〉の場合は「優位者⟶劣位者」の線の対話文であることであり，更に〈1〉においては劣位者が，自己の行為を述べた述語動詞の中に -lu'ā が用いられているのに対し，〈2〉,〈3〉，においては，優位者が相手（劣位者）の行為を報じた述語動詞の中に -lu'ā² が用いられている点にある。しかし，この〈1〉,〈2〉,〈3〉,〈5〉の文を熟視すれば，そこに共通する姿がある。-lu'ā² は上例の総てにおいて「**劣位者**」の行為を描述した述語動詞の中に現われていることである。

この「劣位者」及び「劣位者扱いされる者」の行為を描述するのが -lu'ā² 系語尾であり，それ以外の場合には -la'ā² 系語尾が用いられるとすれば，-lu'ā² 系語尾と -la'ā² 系語尾の関係を一律に取扱うことができると考えられる。

-lu'ā² 系語尾全27例の中，上には4例を示したのみであるが，残りの23例は

§44（一26四）a-lu'ā《いた，あった》; §62（一43一）ayisu-lu'ā《近づいた》

§72（二3七）nidura-lu'ā《涸れた》; §158（五28九）baricda-lu'ā《捉えられた》

§170（六4九），§170（六6四），§179（六35八）yabu-lu'ā《行った》

§193（七25三）baų'ū-lu'ā《下りた》; §197（七47六）idqa-lu'ā《諫めた》

§246（十44七）baracda-lu'ā《終えられた》; §271（土19九）talbi-lu'ā《放った》

§72（二3八）čeų̈re-lü'ē《酔けた》; §85（二23六）kele-lü'ē《言った》

§177（六22二）ügüleldü-lü'ē《話し合った》; §198（八5一）ke'ē-lü'ē《～と云った》

§245（十35六）ile-lü'ē《遣った》; §252（土16六）ögü-lü'ē《与えた》

§254（土22九）ke'ēgde-lü'ē《～と云われた》; §255（土30八）kikde-lü'ē《された》

§255 土35二）ke'ē-lü'ē《～と云った》;

§265（土4六），§265（土4八）ügüle-lü'ē《話した》

§272（土23六）ke'ēgde-lü'ē《～と云われた》

以上の如くである。これらは総て「劣位者」又は「劣位者扱いされる者」の行為を描述する述語動詞の語尾として用いられている。しかし，

§179（六35七～35九）

| 阿勒塔泥 | 赤馬亙 | 忽禿剌 | 罕 | 魯 | 篾顚 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人名行 | 你行 | 人名 | 皇帝 | 但 | 管 |
| Altan-i | čimayi | Qutula | qan-lu | | meden |
| "アルタンを | お前を | 「クトゥラ | 汗が | | 治め |

| 迓歩魯阿 | 剌赤格余延 | 篾顚 | 阿黒撒阿舌児 | 赤 | 罕 | 孛勒客額速 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 行来 | 父自的 | 管 | 住来的依着 | 你 | 皇帝 | 倣説呵 |
| yabulu'ā | ečige-yüyēn | meden | acsa'ār | či | qan | bol kē'ēsü |
| ゆきたり， | 父の(己が) | 治め | ありたるにより | 汝 | 汗 | たれ'と云えど |

額薛古 孛動罷者 赤 (60)
不曽 也 宵飲 也者 你
ese-kü bolba-je či.
宵せさりしぞ 汝

における yabulu'ā は“クトゥラ汗治めゆけり”の yabulu'ā であるから劣位者と見ることは出来ない感がある。これなどは yabula'ā とあって然るべきであろうが，敢て言うならば，この場における劣位者アルタンに対してチンギスが発している言葉故に yabulu'ā が用いられたかとも思える。その他の，例えば（二三七）の niduralu'ā《涸れた》，（二三八）čeü'ürelü'ē《砕けた》の -lu'ā² はその主語が無生物なので，-lu'ā² が用いられたものと解される。

以上，-lu'ā 諸例の分析から，-lu'ā² は劣位者及び劣位扱いされる者の動作の述語動詞に用いられることが明かになった。筆者は，この -lu'ā(i) を「劣位形」と呼び -la'ā(i)² の変異形と見做すことにする。之に対し，-la'ā(i)² の方を「一般形」と呼びたい。

次に büle'ē(i) と aǰu'ū(i) について述べなければならない。

◎büle'ē(i) と aǰu'ū(i)

前項の aǰu'ū(i) の考察に際して一時預かりにした問題を，ここに，büle'ē(i) との関連の下に再度とりあげる。

-la'ā² 系語尾の大きな特徴は前述した如く，その殆どが，対話文で中で用いられることにあった。büle'ē(i) を除く全62例の中で，普通の敍述文の述語動詞語尾として用いられたのは僅か3例のみである。しかし，büle'ē(i) を考慮に入れると，事情は変ってくる。というのは，büle'ē～büle'ēi は対話文と同様に敍述文の述語動詞として用いらることも少なくないからである。秘史巻一の各部族の genealogy が語られる部分では，büle'ē が頻出する。その一部を下に示そう。

§40 (—23六～24—) 帖古列 教苔 客額里台 額篾 孛端察途児
那 半孕 肚皮有的 婦人 行
tere dunda ke'ēliteǐ eme Bodončar-tur
かの 妊娠せる 女 ボドンチャル のもとに

亦舌列周 可兀列畢 札惕亦児格訥 可温 不列額 客延 札只舌剌歹
来着 児生了 世人百姓的 児子 有来 麼道 児名
irejü kö'ülebi. jad irgen-ü kö'ün **büle'ē** keyēn J̌ajiradaị
来りて 子を生みぬ。"ヂャド 人衆の 子 なり" とて ヂャヂラダイ

把舌列亦惕罷 札荅舌剌訥 額不格 帖舌列 孛魯罷 帖列札荅舌剌歹因可温
名字 與了 種名的 祖 那箇 做了 那 人名 的児子
nereyidbe. J̌adaran-u ebüge tere boluba. tere J̌adaradaị-yin kö'ün
の名を与えぬ。 ヂャダラン族の 祖は 彼 なりき。 その ヂャダラダイ の 子は

土古兀歹捏列禿 不列額 土古兀歹因可温 不舌里不勒赤舌魯不列額
児名 名字有的 有来 人名 的児子 児名 有来
Tügü'üdeị neretü **büle'ē**, Tügü'üdeị-yin kö'ün Büri=bulčiru **büle'ē**.
トゥグウーデイの名をもちて ありき, トゥグウーデイ の 子 ブリ・ブルチル なりき。

不舌里不勒赤(舌)魯因可温 中合荅安 不列額 中合荅安訥可温 札木中合
人名 的児子 児名 有来 人名 的児子 児名
Büri=bulčiru-yin kö'ün Qada'ān **büle'ē**. Qada'ān-nu kö'ün J̌amuqa
ブリ・ブルチル の 子 カダアーン なりき, カダーン の 子 ヂャムカ

不列額 札荅舌闌斡孛黒壇 帖迭 孛魯罷。(61)
有来 一種姓氏 每 那每 做了
**büle'ē**. J̌adaran obogtan tede boluba.
なりき。 ヂャダラン 姓もつは 彼等 なりき。

## §41 (—24五～24九)

帖舌列額篾巴撒 孛端察児阿察 你刊可温
那 婦人 再 處 一箇 児子
tere eme basa Bodončar-ača niken kö'ün
その 女 また ボドンチャル より 一人の 子を

脫舌列兀勒畢 把舌里周 阿不黒三 額篾 不列額 客延 帖舌列 可兀泥
生了 拿着 要了的 婦人 有来 麼道 那 児子行
töre'ülbi. bariju abuqsan eme büle'ē keyēn tere kö'ün-i
生めり。 "促え 取りし 女 なりき" とて その 子 を

巴阿舌里歹捏舌列亦惕罷 巴阿舌里訥額不格 帖舌列孛魯罷 巴阿舌里歹因可温
名 名字 與了 種名的 祖 那個 做了 的子
Ba'āridaị nereyidbe. Ba'ārin-u ebüge tere boluba, Ba'āridaị-yin kö'ün
バアーリダイ と名づけぬ。 バアリン族の 祖は 彼 なりき。 バアーリダイ の 子

赤都中忽勒 孛闊 赤都中忽勒孛闊 額篾思 斡羅禿不列額 可温 亦訥

児名 力士 児子 力士 婦人每 多 有来 子 他的

Čiduqul=bökö, Čiduqul=bökö emes olotu büle'ē. kö'ün inu

チドゥクル・ボコ, チドゥクル・ボコは 女 多くもちてありき。 子は ← 彼の

篾捏篾禿脫舌列罷 篾年巴阿(舌)鄰斡孛黒壇 帖迭 孛魯罷。(62)

繁多 生了 一種 姓氏每 那每 做了

mene metü törebe. Menen=ba'ārin oboɢtan tede boluba.

おびただしく生れぬ。 メネン・バ ーリン 姓もてるは 彼等 なりき。

## §42 (—24二～24四)

別勒古訥台 別勒古訥楊 斡孛黒壇孛(黒)魯罷

人名 一種 姓每 做了

Belgünütei Belgünüd oboɢtan bolba.

ベルグテイ ベルグヌート 姓をもつことになれり。

不古訥台 不古訥楊 斡孛黒壇 孛勒罷 不中忽中合塔吉 中合塔斤 斡孛黒壇

人名 一種 姓每 做了 人名 一種 姓每

Bügütei Bügünüd oboɢtan bolba. Buqu=qatagi Qatagin oboɢtan

ブグテイ ブグヌード 姓をもつことになれり。 ブク・カタギ カタギン 姓をもつこ

孛魯罷 不中忽禿撒勒只 撒勒只兀楊 斡孛黒壇 孛魯罷 孛端察児

做了 人名 一種 姓每 做了 人名

boluba. Buqutu=salji Salji'üd oboɢtan boluba. Bodončar

とになれり。 ブクト・サルヂ サルヂウート 姓をもつことになれり。 ボドンチャル

孛児只斤斡孛黒壇 孛魯罷。(63)

一種 姓每 做了

Borjigin oboɢtan boluba.

ボルヂギン 姓をもつことになれり。

## §43 (—25六～25十)

孛端察舌侖 阿(ト)鄰額篾迭扯 脫列克先

的 自發的 妻 処 生了

Bodončar-un ablin eme-deče töregsen

ボドンチャル の 本 妻 より 生れたるは

杷舌林失亦(舌)剌禿中合必赤捏(舌)列禿 不列額 帖舌列中合必赤 把阿禿舌侖

児子 名 勇士 的

Barim=siyiratu=qabiči neretü büle'ē. tere Qabiči=ba'ātur-un

バリム・シイラト・カビチの 名をもちてありき。 その カビチ・バアートゥル の

額客。 引者亦舌列克〔先〕泥 孛端察児 塔塔周 不列額 你刊 可温
〈母〉 的 従 嫁 来 了 的 做妾 着 有来 一箇 児工
eke-yin inje iregsen-ni Bodončar tataju büle'ē. niken kö'ün
母 の 従女として来れる を ボドンチャル 妾となしてありき。 一人の 子

脫列罷 沼兀(舌)列歹捏(舌)列禿 不列額 沼兀舌列歹 兀舌里荅 主格黎突
生 了 児 名 名字有的 有来 名 在 前 以等懸肉祭天
törebe. Jeü'üredei neretü büle'ē. Jeü'üredei urida jügeli-dü
生れぬ ヂェウーレデイの名をもちて ありき。 ヂェウウーレデイ さきに 祭祀処に

斡舌欒 不列額。(64)
入 有来
oron büle'ē.
入りて ありき。

§40には büle'ē が4回，§41には2回，§43にも2回現われている。この中で，§40の始めの büle'ē と§41の最初の büle'ē は keyē-《～と云う》に導かれる文なので，対話文の büle'ē の一種と認められるが，他の büle'ē は総て叙述文における büle'ē である。

従って -la'ā² 系語尾の一特徴と考えられる《対話文に於て用いられる》は必須条件というわけではない。-la'ā² 系語尾を -ba² 系語尾，-ju'ū² から特徴づける要素はどこにあるか？ §43 の tere Qabiči=ba'ātur-un eke-yin inje iregsen-ni Bodončar tataju **büle'ē**, niken kö'ün törebe《そのカビチ・バートゥルの母の従女(インヂェ)として来た者をボドンチャルは妾にしていた。一人の子が生れた》を見ると，「子が生れた」時点より「妾にしていた」時点は，《より以前，より過去》なることが知られる。これは，上の対話文の文例から得た結論と一致する。即ち -la'ā² 系語尾の基本的性格はテンスの観点からは《-ba² で表わされる過去より以前の過去》の表示にあると規定できよう。

一方§30の次の büle'ē を如何に見るべきだろうか。

§30 (一18七～18十) 不中忽中合塔吉 阿中合亦訥 孛端察児蒙中合黒
兄 他的
Buqu-qatagi aqa inu Bodončar=mungqaG
ブク・カタギ 兄は ←彼の "ボドンチャル・ムンカグ

迭兀余延 額捏 斡難 沐舌漣 忽舌魯兀斡都剌阿 客延 額舌鄰亦舌列周
弟 自的 道 河 順水 去了 慶道 尋 来着
de'ü-yüyēn ene Onan müren huru'ū odula'ā keyēn erin ireǰü
弟は ← 己が この オノン 河を 下りて 行きぬ と さがし 来りて

統格黎(克) (中)豁舌羅中罕 忽舌魯兀 捴兀周 亦舌列(克)薛(惕) 亦児堅途児
小 河 順 水 起 着 来 了 的 百姓 行
Tünggelig ɢoroqan huru'ū neu̯'ū̆jü iregsed irgen-ṭür
トゥンゲリグ 小川を 下って 移り 来れる 人衆 に

帖亦模 帖亦謨 古温 帖亦模 秣騂禿 不列額 客延 速舌剌阿速…。(65)
那般 那般 人 那般 馬 有来 慶道 間 呵
teyimü teyimü kü'ün teyimü moritu büle'ē keyēn sura'āsu….
"かく かくの 人, かく 馬にのりてありき" と 問わば…。

ここではホドンチャル（チンギスの直接の祖先）を捜しに出た，彼の兄ブク・カタギが，トゥンゲリグ川を下って移動して来た人衆に“かく，かく人，かゝる馬にのりてありき”（こういう様な人が，こういう様な馬に乗っていた（筈だが見なかったか？）とボトンチャルのことを尋ねたのである。moritu büle'ē は直訳すれば《馬もちありき》だが勿論《馬にのっていた》の意。

ブク・カタギは弟のボドンチャルがどういう風貌で，どういう馬にのっていたかを勿論知っていた，即ち moritu büle'ē《馬にのっていた》の büle'ē《いた》は，前以てブク・カタギの知見の中にあった，いわば《既知の“いた”》である。büle'ē は過去の存在を既知の立場から認定する語と見られる。

-la'ā² 系語尾には，この様に一般的に《過去の動作を既知の立場から眺める》という有力な要素もあるのではないか。

上の要素は -la'ā² 系語尾をテンスの観点から《過去以前の過去》と規定した前述の要素とよくマッチすると思われる。

上記の -la'ā² 系語尾の諸文例を再読すれば，それらの -la'ā 系語尾の附されている述語動詞は総て《既知の立場》から《過去以前の過去》を語った述語動詞である。

bü-《ある，いる》に -le'ē の接尾された büle'ē が《過去の存在を既知の

立場から認定する語》とすれば a-《ある，いる》に -ǰu'ū のついた aǰu'ū は《過去の存在を未知の立場から認定する語》と言いうる。büle'ē と比較する意味で，次に aǰu'ū の好例を二つ挙げる。

§7（一4九～5一） 朶奔篾児干 帖迭 亦児堅都児 古舌魯額速

那的 百姓 裏 到 呵

Dobun mergen tede irgen-dür kürü'ēsü

ドブン・メルゲン 彼等の人衆 に 到れば

兀年古中豁阿撒因 阿勒荅児 捏舌列 也客台 阿闌中豁阿捏舌列台 古温捏

実也 美 好 声 名 大有的 名 的 人 行

ünen-kü go'ā sayin, aldar nere yeketeị Alan=go'ā neretei kü'ūn-e

真 に 美しく よき， 名 声 たかき アラン・ゴアーの名をもつ， 人 に

別児 斡克帖埃 兀都為 斡勤 阿主兀 (66)

也 与 未的 女 有来

ber ögte'ēị üdü'ūị ökin aǰu'ū.

ぞ 与えられざりし 乙女 ありき。

§32（一20三～20四） (中)豁舌藍阿塔剌 統格黎(克) 中豁舌羅(中)罕

略 住 間 小 河

qoram atala, Tünggelig goroqan

しばし あるに， トゥンゲリグ 小河 を

斡額迭 你刊 古温 阿亦孫 備由 古児周 亦舌列別速 孛端察児門阿主兀(67)

逆 水 一 人 来 有 到着 来 呵 是 有

ö'ēde niken kü'ūn ayisun büyü. kürjü irebēsü Bodončar mun aǰu'u.

逆りて 一人の 人 近づきてあり。 到り 来れば ボドンチャル 自身 なりき。

この§7と§32の aǰu'ū は状況が相似の文脈にあり，前者はドワ・ソコルが弟のトブン・メルゲンに“トゥンゲリグ川に沿って移ってくる人衆の車に，一人のみめ美わしい女性がいる，まだ人に与えられていないなら，弟のドブン・メルゲンお前に求めよう”と云ってドブン・メルゲンを見に行かせる。そして，この§7の《トブン・メルゲン，かの人衆に到れば，げに美わしき，声望高きアラン・ゴアなる名の，人にぞ与えられざる娘ありき》の aǰu'ū であり，これは《その様な美貌の誉れの高い娘がいた》ことを以前から知っていたのではな

く，むしろ未知の立場から描述したものであり，§32の aǰu'ū も《到り来らば，ボドンチャルそのものなりき》の《なりき》を描述したもので，ボドンチャルが到着してはじめてボドンチャルなることが分ったのであって，その時点までは，未知の立場からの描写である。

これに反し，büle'ē は，例えば上記の文例§40 の Tügü'ūdeį-yin kö'ūn Büri=bulčiru büle'ē《トウグウデイの子はブリ・ブリチルなりき》，Büri=bulčir-yin kö'ūn Qada'ān büle'ē《ブリ・ブリチルの子はカダアンなりき》などの büle'ē《なりき》は「トゥグゥデイの子はブリ・ブリチル，ブリ・ブリチルの子はカダアン」なることを既知の立場から言表したのであって，同じ《なりき》でも，aǰu'ū と büle'ē との間には上記の如き相違が存するのである。

aǰu'ū と büle'ē には，この様な相違が見られ，これは -ǰu'ū² 系語尾と -la'ā² 系語尾の意義素の相違に帰因するものであるが，しかし，同時に動詞語幹 a- と bü- のもつ意義素とも深い関係をもち，a- の意義素と -ǰu'ū の意義素が相容れる内容をもつ故に aǰu'ū は多く見られるのに，a-la'ā は殆ど見られず，逆に bü- の意義素は，-le'ē の意義素とは相容的なのに，-ǰu'ū の意義素とは相容れない故に büle'ē のみが多く用いられ büǰü'ū は極めて稀にしか現われないという事実となって現われることになる。

しかし，特殊な場合には a- と -la'ā² 系語尾の結びつき，bü- と -ǰu'ū² 系語尾の結びつきも許されないことはなく，それ故，その極めて，珍重さるべき例として alu'a (一26四)，büǰü'üį (三15六) がそれぞれ唯一例が認められるのである。

a- と bü- の意義素については，ここでは措いて後述するが，これについては以前にも言及したことがある(16)ので参照されたい。

ここに，もう一つ特筆おくべきことがある。それは「誰々の子は，何々の名をもっていた」の「名をもっていた」は必ず neretü (neretei, nereten) büle'ē の形をとることである。neretü büle'ē 7例，neretei büliyi (büle'ē) 2例，nereten büle'ē 4例，総じて13例である。これは「～の名をもってい

た」の「いた」を秘史の書き手が，「既知」の立場から認定していたことを意味する。興味あるのは（四50六）に見える，唯一の例外である。

§147（四50二～四50十）

| 成吉思中合罕 | 鳴詁列舌論 | 歹亦孫 |
|---|---|---|
| 太祖 皇帝 | 說 | 敵 |
| Činggis qahān | ügülerün | daiyisun |
| チンギス 可汗の | 言う | "敵として |

| 迓步黑三 | 古温 | 阿剌黑撒你顏 | 歹亦速舌児中合黑撒你顏 | 別耶延 | 你兀周 |
|---|---|---|---|---|---|
| 行了的 | 人 | 殺了的自的行 | 反敵了的 自的行 | 自身的行 | 藏着 |
| yabuɢsan | kü'ūn | alaɢsan-iyān | daiyisurqaɢsan-iyān | beye-yēn | ni'ūju |
| 行ける | 人は | 殺せるを(己が), | 敵対せる を(己が) | 自ら | 隠し |

| 客列邊 | 不察周 | 阿由 | 額捏不舌侖 | 客額速 | 門荅 | 阿剌黑撒你顏 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 話自的行 | 諱着 | 怕有 | 這箇 呵 | 說 呵 | 却 | 殺了的 自的行 |
| kele-bēn | bučaju | ayu, | ene bürün | kē'ēsü | munda | alaɢsan-iyān |
| 言 を(己が) | はばかりてあり, | | これ は | と云えば | 逆に | 殺せる を(己が) |

| 歹亦速舌児中合黑撒你顏 | 兀禄 | 不察(你) | 門荅 | 只安 | 備由 | 那可徹勒禿 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 反 做 了 的 自的行 | 不 | 隱諱 | 却 | 告 | 有 | 可做伴的 |
| daiyisurqaɢsan-iyān | ülü | bučan | munda | ji'ān | büyü, | nökökčeltü |
| 敵対せる を(己が) | はばからず, | | むしろ | 告げてあり, | | 伴たるべき |

| 古温備由 | 只舌児中豁阿歹 | 担舌列禿 | 阿主兀 | 門 | 者別列古 | 阿蠻察中罕 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 人 有 | 人 名 | 名字有的 | 有来 | 他 | 〈戰〉的 | 口 白 |
| kü'ūn büyü, | Jirɢo'ādai | neretū | aǰu'ū, | mun | ǰebelekü | aman čaɢān |
| 人 なり, | ヂルゴアーダイの名をもちて | | ありき, | かの | 戰う | 口 白き |

| 中忽剌宜 | 米訥 | 阿蠻你舌魯兀 | 中合舌児鑌黑撒訥 | 禿剌 | 者別 | 提舌列亦楊抽 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 黃馬行 | 我的 | 鎖 子 骨 | 射 了 的 | 上頭 | 人名 | 名字做着 |
| qula-yi | minu | aman niru'ū | qarbuɢsan-u | tula | J̌ebe | nereyidčü |
| くり毛馬を ← わが | | 頸 部 を | 射 た る の | 故に | ヂェベの名を与え | |

| 者別列耶 | 亦馬宜 | 客延 | 者別 | 担舌列亦楊抽 | 迭舌児格迭 | 米訥 | 迓步 | 客延 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 戰 咱 | 教 他 | 麼道 | 人名 | 名字做着 | 根 前 | 我的 | 行 | 麼道 |
| ǰebeleye | imayi | keyēn | J̌ebe | nereyidčü | dergede | minu | yabu | keyēn |
| 戰わせん | 彼を" | とて | ヂェベと | 名づけ | "傍に ← わが | | 行け" | と |

札𠀋児里黒 孛勒罷。(68)
聖 旨 敢。
jarliG bolba.
勅し ぬ。

この§147は，コイテンの戦いで，チンギスの馬の頸背を射り抜いた男ヂェベについての一節である。彼は上の事実を自ら告白し，己が身の処断をチンギスに委ねた。チンギスは，敵対したことを普通はひた隠すものなのに，この男は自ら包み隠さず述べた，信ずるに足るとし，彼にヂェベ《鏃；槍等の尖端》の名を与えた。彼はタイチウド族の出身で，Jirgo'ādai neretü aju'ū《ヂルゴアダイの名をもちてありき》であった。タイチウド出身の，この人物が，ヂルゴアダイと言う名をもっていたことなどは秘史の書き手にとって《既知》の筈はないのである。それ故，ここでは，Jigo'ātai neretü büle'ē とは言えないのである。aju'ū と büle'ē のちがいを示す好例と言えよう。

この項を終るに当って，-la'ā² 系語尾の意義素を考えて見ると以下のようになろう。即ち，《ある過去の動作の，それ以前の動作が，話し手（書き手）——及び他者を含めて——の既知の立場で遂行された》と措定する。そして，この意義素の故に，この語尾は屢々《回想的，追想的》，或いは《詠歎的》な意味を伴なって使用されると附加することが許されるであろう。又，büle'ē 及び aju'ū については特別な用法があるが，註（17）にゆずる。(17)

なお，近世以後の蒙古文語では -lucā² が専ら用いられ，-lacā² が姿を消してしまうのは何故かが疑問として残る。これは機会を得て，後に考えることにしたい。

### 《g》 -'ā², -'āi²

この語尾 -'ā² は現代のモンゴル語ハルハ方言などでは -aa⁴ (-raa⁴) として現われる語尾で，いわゆる未完了の語尾である（この語尾は，本来は形動詞語尾であり，後に再び取上げたい）。

秘史では，-'ā² の他に，-'āi² の形も見られ，これは，上の諸語尾と同様，

複数形である。

-'ā² は全14例, -'āi² は全21例で, 語尾としては少数派に属する。以下に -'ā² 及び -'āi² の用例の若干を挙げる。

〈1〉 §68 (一48九～一49三)　中晃中豁塔歹　察舌剌中合

種名
Qongcotadai　Čaraqa
"コンゴタダイ の　チャラカ

額不格訥可温　蒙力克　斡〈亦〉舌剌備客額速　兀舌里周　亦舌列温(勒)周
老人的 子　名　根前有 説了　喚着　教来 着
ebügen-ü kö'ün Münglig oyira büi kē'ēsü uriju ire'üljü
老人 の 子 ムンリグ 近く あり"と云わば よび 来させて

鳴詁列舌論　察中合米訥　蒙力克　可兀楊　兀出格禿　不列額　必可兀邉
説　孩児 我的　名　児子　小有時　有来　我 児子行
ügülerün čaca minu Münglig kö'üd üčügētü büle'ē, bi kö'ü-ben
言う "児 ← わが ムングよ, 子等は おさなく あり, 我 子 を(己が)

帖木只泥　古舌里格楊帖　塔勒必周　亦舌列舌侖　札兀舌剌　塔塔児　亦児格捏
名 行　做女婿　放下着　来的　路間　百姓 行
Temüjin-i küriged-te talbiju irerün ja'ūra Tatar irgen-e
テムヂン を 婿 に おきて 来る時 途次 タタルの 人衆 に

斡亦速剌黒荅阿　必　朶脱舌剌　米訥　卯危備由……。(69)
被陰害了　我　内　我的　歹 有
oyisulaɢda'ā bi, dotora minu ma'ūi büyü……,
ひそかに計られたり 我 休中 ← わが 悪く あり……。"

〈2〉 §105 (三3九～4四)　帖木真　札木中合突舌児　中合撒舌児

人名　人名 行　人名
Temüjin J̌amuqa-dur Qasar,
テムヂンは ヂャムカ に カサル

別勒古台　中豁牙舌里　亦列舌侖　札木中合　安荅荅　鳴詁列客延　鳴詁列周
人名　両箇　使去　人名　契合行　説 慶道　説 着
Belgütei qoyar-i ilerün J̌amuqa anda-da ügüle keyēn ügülejü
ベルグテイ 二人 を 遣わすに, "ヂャムカ 盟友 に 言へ" と 言いて

亦列舌命 中忽舌児班 箆舌児乞惕帖 亦舌列周 斡舌羅班 豁黒脣舌児中忽
去 三箇 種名 行 来着 位 空
ilerün gurban Merkid-te irejü oro-bān hoctorcu
遣るに "三姓(ゴルバン) メルキド に 来て 居 を(己が) からに

孛勒中合(黒)荅阿必 斡那(舌)児 你刊壇 不速禿必荅 斡雪里顔 客舌児
被做了 我 一箇的 不是有的麼咱 雛 自的 怠生
bolgacda'ā bi onor nikenten busutū bida, ösöl-iyēn ker
なされたり 我, 本(もと)は 一つ に あらざるか 我等, 仇 を(己が) いかに

斡薛坤 額不舌里顔 含屯勒迭額必 赫里格訥 兀舌魯黒 不速禿必荅
報 懐行自的 被去了一半 我 肝 的 親 不是有的麼 咱
ösekün ebür-iyēn hemtü(n)lde'ē bi, heligen-ü urug busutū bida,
報ずべき, 懐 を(己が) なかばとられたり 我, 肝 の 親族に あらざるか 我等,

哈赤顔客(舌)児 哈赤剌(中)渾 必荅 客額周 亦列罷。(70)
雛 自的 怠生 報 的 咱每 説着 去了
hači-yān ker hačilaqun bida ke'ējü ilebe.
雛 を(己が)いかに 仇うつべき 我等" と云い 遣りぬ。

〈3〉 §260 (十44八～45三) 田迭 孛斡舌児出 木中合黎
那裏 人名 人名
tende Bo'ōrču Muqali
そこに ボールチュ ムカリ

失吉中忽都中忽 中忽舌児班 斡赤舌命 斡繹箆勒穫 阿黒撒惕 撒舌児塔兀勒
人名 三箇 奏 不服 有的每 回回
Šigi=quduqu gurban öčirün öčen meljen acsad sarta'ūl
ツギクドク 三人 奏して曰く "まつろはざりし サルタウールの

亦舌児格訥 莎勒塔泥 朶舌羅亦惕荅兀勒周 巴剌中合惕 亦舌児格 阿訥 阿不埃
百姓的 王行 教屈下着 城子每 百姓 他的 要了
irgen-ü soltan-i doroyidda'ūlju balacad irge anu abu'āi
人衆 の 王 を 屈服せしめて 城々, 人衆を ← 彼等の 取れり

荅荅 中忽必牙周 阿卜荅中忽 斡籠格赤 巴剌中合孫 中忽必牙勒都周 阿卜中渾
咱每 分着 被要的 城名 城 共分 要的每
bida. qubiyaju abdaqu Ölüngeči balacasun, qubiyalduju abqun
我等, 分け 取らるべき オルンゲチ 城, 分けあい 取るべき

可兀(揚) 不古迭 成吉思(中)合阿訥埃 備。(71)
児子每 都 太祖 皇帝的 有
kö'üd bügüde Činggis qa'ān-ū'āi büi
子等 すべて チンギス 可汗のもの なり。

〈4〉 §175 (六18八一～19一) 帖因 禰兀周 阿亦速(中)灰突舌児
那般 起着 来時
teyin neü'üjü ayisuqui-dur
かく 移り 近づく 時

古捏速捏 阿把闌 迓歩(中)灰突舌児 中忽亦勒荅舌児 牙舌剌昔顔 阿納埃
執行 打囲 行時 人名 傷痕自的 痊可
künesün-e abalan yabuqui-dur Quyildar yaras-iyān ana'āi
糧食 のため 巻狩りし 行く に, クイルダル 傷の (己が) なおら

兀都兀耶 成吉思(中)合罕納 亦(揚)中合阿速 兀禄孛命 戈舌劣額孫突舌児
来行 太祖 皇帝行 勧咱 不肪 走獣行
üdü'üi-e Činggis qahan-a idqa'āsu ülü bolun görö'ēsün-dür
ざる に チンギス 可汗 に 諫止されど 肯んぜず 獣(狩り) に

多卜禿勒中忽 孛命 《中》忽克迭舌列周 那克赤罷(原作別) (72)
衝 倣 重発着 過去了
dobtulqu bolun hügderejü nögčibe.
馳けることたりて 病重くなりて 身まかれり。

〈1〉, 〈2〉 は -'ā～-'ē の用例, 〈3〉, 〈4〉 は -'āi～-'ēi の用例である。

〈1〉 oyisulaɢda'ā bi《ひそかにうらまれたり我》, 〈2〉 の oro-bān hoɢtoroɢu bolɢaɢda'ā bi《己が居を空(から)にされたり我》, ebür-iyēn hemtü(n)lde'ē bi《己が懐のなかばをとられたり我》の -'ā～-'ē は文字通り未完了の語尾の好例である。過去において行なわれた動作がいまだに続いていて, oyisulaɢda'ā bi, dotora minu ma'ūi büyü《ひそかにうらまれたり我, わが身中, 悪しくあり》の如く, タタール族にひそかに一服盛られ, その結果, dotora minu ma'ūi büyü なのである。

oro-bān hoɢtoroɢu bolɢaɢda'ā bi も, 己が居処を蹂躙されて, いまだにそのままである, 己が懐のなかばを奪われて (妻のブルテを掠奪されたこと) い

まだにその状態のままであることを，この -'ā～-'ē は示している。

〈3〉 の balaɢad irge anu abu'āi̯ bida は，彼等の城々，人衆を奪い取って，現に取ったまゝであることを示す。bida が後続している処から -āi̯[2] は複数形である。

〈4〉 yaras-iyān ana'āi̯ üdü'üi̯-e《自分の傷々がまだ癒っていないうちに》も yaras—yara《傷》の複数形——なので ana-'āi̯ の如く -'āi̯ が用いられている。なお，現代のモンゴル語の若干の方言で ungšādui̯《まだ読んでない》，irēdüi̯《未だ来ていない》の様に用いられる -ādui̯～ēdüi̯ などは，この -'ā(i̯)[2] üdü'üi̯ に由来すること明かである。現代のハルハ方言では -ааду́й[3] はすでに用いられず，ирээду́й цаг《未だ来てない時——→未来》など化石的に残っているのみである。

*　　*　　*　　*　　*

以上で，秘史蒙古語に現われる，《時》を現わす終止形語尾の総てを記述した。この他に，若干の研究者によって《現在時の -d》が記述されているが，筆者は，この -d を時制語尾ではなく，冒頭で述べた [B] 群の敍想語尾の一つと見るので，その個所で言及したい。

**第一講の註**

(1) N. Poppe, Das mongolische Sprachmaterial einer Leidener Handschrift. Известия Академии Наук СССР, 1927.

(2) E. Haenisch, Wörterbuch zu Mangḫol un Niuca Tobca'an, Leipzig, 1939.

(3) P. Pelliot, Histoire Secrète des Mongols. Paris, 1949.

(4) С. А. Козин, Сокровенное сказание, монгольская хроника 1240г. под названием Monγol-un Niγuča Tobčiyan, Юань Чао Би Ши монгольский обыденный изборник, том I, Москва-Ленинград, 1941.

(5) L. Ligeti, Histoire Secrète des Mongols, Budapest, 1971.

(6) Т. Дашцэдэн, Монголын Нууц Товчоо, Улаанбаатар, 1985.

(7) 備由～脩由は服部先生生の第三種転写に従えば bui-yiu となるが，筆者は「備由～脩由」を蒙古語の  に当る語と見る。この文語形  は従来 buyu と読まれるが，筆者はこれを動詞語幹 bü-《ある，いる》に，前述の動詞語尾 (b) -yu[2] が接尾された形と見て büyü と転写する。筆者の考えでは，ウイグル字を借用して，

自己の言語を書写したモンゴル人は，büyü《～である》，büi《～である》，bü《～であれ》——bü は bü- の語幹そのものの形で命令形である。《～であれ》の意味から禁止の助詞に発展したものである——などを，その発音通りに  と書くことなく，ı (yod) を一枚づつ節約して  と書写した。その結果，字面上では，恰も男性母音形の buyu, bui, buu という形が出来上った。どうして yod を節約したかと言えば，一枚節約しても büyü と読むことが可能だからである。例えば  は boyila, buyila, böile, büile の如く四通りに読むことができる。即ち男性語にも女性語にも読めるのである。buyila も büile も辞書には登録されていて《歯茎》の意。男性語の oyi～uyi は女性語においては öi～üi であって ı (yod) が一枚少くないわけである。従って，büyü の場合も ı (yod) を一枚節約して  と書いても büyü を表わし得たのである。 も同じ理由で büi と読める。 は，現代モンゴル語の例えばハルハ方言などでは bü (бүү) と発音される。bü をそのまゝ書けば  か  となろう。しかし， は上記の büyü  と同形になり，又  も bükü《総ての，あるところ》という語があって語形の上で衝突をもたらす。そこで  という男性母音形が用いられたものと思われる。

(8) ülü と ese については

小沢重男：元朝秘史蒙古語における冗録 ülü と額薛 ese について。『中世蒙古語諸形態の研究』東京，開明書院，1979を参照していたゞければ幸いである。

(9) 文語では ayisui の他に，odui《今現に行っている，行く途中である》が見られる。例えば，著者不明のアルトン・トプチのいわゆるゴムボイェブ本（東洋文庫蔵）には

Yisügei-dü Dei-sečin jolɢaju asaɢur-un Kiyud yasutu Borjigin omuɢ-tan
イエスゲイ に デイ・セチンが 会って 尋ねるのに "キユド 族の ボルヂギン 姓を もつ
quda kōbegūn qamiɢāsi yabunam geǰü asaɢqui-dur, Yisügei ügülebe, ɢaɢča
親 子よ 何処へ 行くのか" と 尋ねる と, イスゲイが 云った, "一人
kōbegün-iyēn Temüčin-i Olqunūd-tu kürge erirün odui geǰü kelekü-dür
子 の テムヂン を オルクスウド族に 婿を 求めに行くところだ" と 云う と
.....

上のように odui が現われている。なお，kürge eri-《婿を求める》は beri eri-《嫁を求める》とあるべきと思われるが，《婿として嫁にくれる人——テムヂンを婿として遇する人——》と解すれば，読めないこともない。

(10) 1321年のドワゲル后の碑文に ögbi《与えた》が見える。なお，

N. Poppe, The Mongolian Monuments in Ḥp'ags-pa Script. Otto Harrasowitz. Wiesbaden, 1957.

の p. 39 を参照。

(11) F. W. Cleaves, The Sino-Mongolian Inscription of 1355 in memory of Chang Ying-Jui. H. J. A. S. vol. 13, June 1950, Numbers 1 and 2.

これを [S. M. I. 1355] と略称。p. 121の註151を参照。

(12) 小沢重男：中世蒙古語の動詞語尾の体系，『言語研究 no. 40, 1961』

(13) F. W. Cleaves, The Sino-mongolian Inscription of 1338 in memory of Jigüntei, H. J. A. S. vol. 14, 1951.
これを [S. M. I. 1338] と略称。

(14) F. W. Cleaves, The Lingǰi of Arug of 1340. H. J. A. S. vol. 25, 1964-1965.
これを [I. A. 1340] と略称。

(15) L. Ligeti, Monuments Préclassiques 1, XIIIe et XVIe Siècles, Budapest, 1972 (p. 222参照)

(16) Ozawa Shigeo, Auxialiary verb a- and bü- in Middle Mongolian. 『東京外国語大学論集15』，東京，1967.

(17) aǰu'ū(j) と büle'ē(j) は，原則的には過去の動作を示す語尾であるが，以下にあげる aǰu'ū は未来の動作に関係し，büle'ē は詠歎的表現を示すものである。

a) §255 (ニ33八)

| 斡歌歹因 | 兀舌魯吉 | 斡郎突舌児 | (中)忽赤阿速 | 忽客舌列 |
|---|---|---|---|---|
| 人名 的 | 子孫行 | 青 原 裏 | 包 裹 咱 | 牛 行 |
| Ögödeǰ-yin | urug-i | olang-dur | quči'āsu | hüker-e |

| 兀禄 | 亦哩克迭古 | 斡兀坤突(舌)児 | 中忽赤阿速 | 那中合牙 | 兀禄 | 亦哩克迭古 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 不被 | 被 喫 | 脂 膏 裏 | 包裹咱 | 狗 行 | 不 | 被 喫 |
| ülü | idegdekü, | ö'ükün-dür | quči'āsu | noqaǰ-a | ülü | idegdekü |

| 脱舌列額速 | 米訥 | 兀舌魯黒図舌児 | 你客訥兀 | 撒因 | 兀禄 | 脱舌列古 | 阿主兀 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生 咱 | 我的 | 子孫 裏 | 一箇 也 | 好的 | 不 | 生 麼 | 有来 |
| tŏre'ēsü | minu | urug-tur | niken-üü | sayin | ülü | törekü | aǰu'ū |

| 客延 | 札舌児里黒 | 孛魯阿惕…… |
|---|---|---|
| 厥道 | 聖 旨 | 做 了……。 |
| keyēn | ǰarliG | bolu'ād……。 |

b) §165 (五39二，四)

| 田迭 | 桑昆 | 斡額舌里顔 | 也客只連 | 薛惕乞周 |
|---|---|---|---|---|
| 那裏 | 人名 | 自 己 | 大 做 | 想 |
| tende | Senggüm | ö'ēr-iyēn | yekeǰilen | sedkiǰü |

| 鳴詰列舌論 | 必荅訥 | 兀舌魯黒 | 安都舌児 | 斡都阿速 | 阿剌兀納 | 擺亦周 | 額額担克徹 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 説 | 咱的 | 親 | 他每行 | 去 呵 | 門後行 | 立着 | 専 一 |
| ügülerün | bidan-u | urug | an-dur | odu'āsu | ala'ūn-a | baǰiyiǰu | e'ēnegče |

| 中豁亦馬舌児 | 中合舌剌中忽阿主兀 | 阿訥 | 兀(舌)魯黒 | 必丹突舌児 | 亦舌列額速 |
|---|---|---|---|---|---|
| 正 面 | 看 有 | 他的 | 親(族) | 俺每 行 | 来 呵 |
| qoyimar | qaraqu aǰu'ū, | anu | urug | bidan-dur | ire'ēsü |

中豁亦馬舌剌 撒兀周 阿剌兀納 中合舌闌阿主兀 客延……。
正面 坐着 門後行 看 有 麼道……。
qoyimar-a sa'ūju ala'ūn-a qaran aǰu'ū keyēn……。

c) §92 (二23六) 成吉思中合罕 中合荅黒把阿禿舌侖 兀格宜 勺卜失耶周
太祖 皇帝 人名 勇士的 言語行 道是着
Činggis qahān Qadaɢ ba'ātur-un üge-yi ǰöbšiyeǰü

札舌児里黒 孛魯舌侖 図思 中罕你顔 帖卜臣 牙荅周 阿民 中豁舌羅中渾 孔客禿該
聖旨 做 正主 皇帝自的。 棄捨 不能着 性命 刁着 教離的遠者
ǰarliɢ bolurun tus qan-iyān tebčin yadaǰu amin qoroqun küngketügeį

客延 不勒中合勒都中忽 額舌列 帖舌列 兀禄兀惕 那可祉克迭古 古溫 不列額
麼道 斯殺的 丈夫 那箇 不是有麼 伴当可做的 人 有来
keyēn bulɢalduqun ere tere ülü'ū büįnököčegdekü kü'ün büle'ē

客額額惕……。
說了
ke'ē'ēd

(a) の ülü törekü aǰu'ū は文脈から見て，明かに《生まれないだろう》の意。"オゴディの子孫で，青草に包んでも牛に食べられない，脂肉に包んでも犬に食べられない，そんな子供が生まれるなら，わが親族には，一人のよき子も生まれないだろう" と読めるが，この《生まれない》は未来の動作に属することは明白である。ここにどうして aǰu'ū が出て来るのか。それは aǰu'ū がもつ不可知性によるものと思える。aǰu'ū は《過去の存在を未知の立場から認定する》語であるが，《未来》は常に未知なるものである。それ故，aǰu'ū のこの特性を利用して，現在・未来の形動詞 törekü に後置して，未来の未知性を強く表現したのが，この aǰu'ū であろうと筆者は考える。(b) の qaraqu aǰu'ū, qaran aǰu'ū についても同様なことが言える。

(c) の büle'ē は nököčegdekü kü'ün《伴にされるべき人》に後置されて，この nököčegdekü kü'ün を一種の詠歎をこめて肯定的に断定している。これも《過去の存在を既知の立場から認定する》ことと結びついてる。自分の仕える主人（正主）に忠実であることが，当時のモンゴル草原貴族における戦士の条件であった。チンギスは特にこの面を重視したことは秘史全篇に漲っている。正主に対する忠誠は，彼等にとっては，当然の，守らるべき，既定のモラルである。nököčegdekü kü'ün büle'ē の büle'ē は従って，その，いわば既定の事実を強く詠歎的に表現したもの理解されよう。

# 第二講　動詞の終止形〔Ⅱ〕

§1. 前講では，文を終止する機能をもつ動詞の変化形，即ち動詞の終止形語尾の中，いわゆる“時”を表示する時制語尾の全般に亘って解明を試みた。本講では，同じ終止形として機能する，命令，願望などの諸語尾を解明して，終止形語尾の記述を完成することにしたい。

秘史蒙古語に見られる命令形，願望形の諸語尾は以下の如く要約される。

1. 命令形

(a) 動詞語幹そのまま
(b) -dqun²
(c) -ɢtun², -ɢtud²　} 対二人称
(d) -tuɢaį²……対三人称

2. 願望形

(e) -su²……一人称単数
(f) -suɢaį²……一人称複数 exclusive
(g) -ya²……一人称単複数 inclusive
(h) -'ūjiaį², -'ūjiyi
(i) -d

蒙古語文語及び現代の諸方言に見られる

-ɢāraį² (-aapaň⁴), -ɢāsaį² (-aacaň⁴), -ɢ/-g

の三語尾は秘史蒙古語からは発見できない。この三語尾は，恐らく近世の発達と見られるが，今後の研究に委ねられる問題の一つである。

以下，順を追って，命令形語尾及び願望形語尾の解説に移りたい。

## 〔I〕 命令形

### (a) 語幹そのままの形

多くの言語で見られるように，秘史蒙古においても，動詞の語幹そのものが，二人称に対する直接命令を表わす。その例は非常に多い，こゝでは，その若干例を示すにとどめる。

〈1〉 §207 (八41一～41七)

帖舌列 察黒途舌児 鳴詁列舌論
那 時 裏 説
tere čac-tur ügülerün
その 時 に 言う

荘勺卜 孛魯阿速 騰格舌理迭 薛楊乞勒突(舌)児 古舌児格克迭額速
先兆是 做 呵 天 行 心 裏 被 到 呵
jöng jöb bolu'āsu tenggeri-de sedkil-dür kürgegde'ēsŭ
予言 正しく ならば, 天 にて 想い に 到ら るれば

納馬 中忽嗔額篾思禿 孛勒中合 客額列額 赤 額朶額 勺卜禿剌
我行 三十箇 妻 有的 教做 説 来 你 如今 是的 上頭
nama gučin emestü bolga ke'ēle'ē či, edö'ē jöb tula
我に 三人人の 妻女 を もたしめよ" と云えり 汝, 今 正しかる故

莎余舌児中合周 額迭 斡舌羅黒撒楊 亦舌児格訥 撒曰 額篾宜 撒曰斡乞
恩 賜 着 道的每 投入的 每 百姓 的 好 婦人行 好 女子
soyurqaju ede orogsad irgen-ü sayin eme-yi sayin öki
慕して これら 降れる 人衆 の よき 妻女 を, よき 乙女を

兀者周 中忽嗔額篾思 莎汪中忽周 阿(卜) 客延 札舌児里, 孛勒罷。(73)
看着 三十箇 妻每 選 揀周 要 慶道 聖旨 做了
üjejü gučin emes soongguju ab keyēn jarlig bolba.
見て 三十人の妻女達を 選びて 取れ" とて 勅 しぬ。

〈2〉 §68 (一49三～49六)

朶脫舌剌 米訥 卯危備由 兀出格楊
内 我的 歹 有 小 的 每
dotora minu maų'ūį büyü, üčŭged
(体の)中 ← わが 悪しく あり, 幼く

中豁擲(舌)魯黒撒揚　迭兀捏舌里顔　別勒必孫　別児格泥顔　阿撒舌剌中忽宜
落後的每　弟每自的行　寡婦　嫂嫂行　照覷的
qočorucsad　de'ü-ner-iyēn,　belbisun　bergen-iyēn　asaraqu-yi
残れるもの(を),　弟達を(己が),　やもめなる　嫂を(己が)　見やる　を

赤篾迭　可兀米訥　帖木只泥　斡脱児刊　斡揚抽　阿卜抽亦舌列
你知道　児子我的　名行　快　去着　特着来
či mede,　kö'ü minu　Temüjin-i　ötörken　odču　abču ire
汝 管せよ,　子←わが　テムゲン を　疾く　行き　つれ 来れ,

察中合米訥　蒙力克　客額揚　那克赤罷。(74)
孩児我的　名　説　歿了
čaga minu,　Münglig　kē'ēd　nōgčibe.
子←わが,　ムンリグよ"と言いて　身まかりぬ。

〈3〉 §105 (三3九～3十)　帖木真　札木中合突舌児　中合撒舌児
人名　人名行　人名
Temüjin　J̌amuqa-dur　Qasar
テムヂン,　ヂャムカのもとに　カサル

別勒古台　中豁牙里　亦列舌侖　札木中合　安荅荅　鳴詁列　客延　鳴詁列周
人名　両箇行　使去　人名　契合行　説　慶道　説着
Belgütei　qoyar-i　ilerün　J̌amuqa　anda-da　ügüle　keyēn　ügülejü
ベルグデイ　二人を　遣るに　"ヂャムカ　盟友に　言へ"　とて　言い

亦列舌侖……。(75)
去
ilerün…….
遣るに……。

以上三文例に見られる bolga《為せ》, ab《とれ》, mede《管せよ》, ire《来れ》, ügüle《言へ, 語れ》は, すべて動詞語幹 bolga-, ab-, mede-, ire-, ügüle- そのまゝの形で, 何等の語尾をとらない。これを「ゼロ語尾をとる」としても悪いことはあるまいが, 筆者は従来通り, 語幹そのものが二人称に対する直接命令を示すとしておきたい。

**(b) -dqun² (c) -gtun², -gtud²**

いわゆる古典期の文語——筆者は“古典期”の代りに“近世”を用い，「近世蒙古語文語」，簡潔には「近世文語」と呼ぶ。以下これに倣う——には -dqun² は稀であって，そのメタテーゼ形の -gtun² が一般的である。しかし，秘史蒙古語においては，-gtun² は§230（十2七，八）に「客額克敎」ke'ēgdün として二回現われるのみで，その他は -gtun² の複数形 -gtud² がこれ亦二回現われるに過ぎない。即ち§93（二35五）に「兀禿(勒)都克禿惕」üje(l)dügtüd, 帖(ト)赤勒都(克)禿惕 te(b)čildü(g)tüd の二例である。之に反して -dqun² は116例が見られ，少くとも秘史蒙古語では圧倒的に -dqun² が用いられている。-gtun が -dqun² の metathesis による変異形であることは明かで，上の客額克敎 ke'ēgdün の直後に全く同じ文脈で客額惕坤 ke'ēdkün が用いられていることからも知られる。秘史蒙古語は -dqun²→gtun² の推移期の言語と言うことができよう。

以下に -dqun² 及び -gtun² の文例を示すが，この語尾の示す意義素は明確なので，116例中の若干例を示せば十分である。

〈1〉§181（六42二～42四）

| 中合惕中忽勒都阿訥 | 帖舌里兀惕 | 兀格思備 |
|---|---|---|
| 斯 殺 的 | 頭 每 | 言語每有 |
| qadquldu'ān-u | teri'üd | üges büi, |
| “合 戰 の | はじめの | 言辭 なり， |

| 必勒格別乞 | 脫朶延 | 中豁牙舌児 | 中合惕中忽勒都中灰 | 禿黑 | 孛思中合惕中渾 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人 名 | 人 名 | 両 箇 | 斯 殺 的 | 旌纛 | 立起 您 |
| Bilge=beki | Tödöyēn | qoyar | qadquldu-quı | tuġ | bosqadqun |
| ビルゲ・ベキ， | トドイエン | 二人は | 合戰 の | 旗旄を | 起てよ， |

| 阿黑騮思 | 塔舌児中忽剌兀魯惕中渾 | 阿舌里牙勒 | 兀該備者 | 客額罷原作別 (76) |
|---|---|---|---|---|
| 騸馬每 | 放 肥 了 着 您 | 疑 意 | 無有也者 | 說 了 |
| aqtas | targula'ūludqun, | ariyāl | ügeı büı-je | ke'ēbe. |
| 去勢馬を | 肥 や せ， | 疑うことなかるべし” | | と云いぬ。 |

〈2〉 §149 (五4五～4八)

帖木真 納馬亙 兀禄 兀窟兀勒古
名 我行 不 教死
Temüjin namayi ülü ükü'ülkü,
"テムヂン 我を 死なしめざらん,

塔 可兀惕 迭兀捏(舌)児 米訥 斡帖舌児 中合舌里惕中渾 失舌児古額禿
您 児子毎 弟 毎 我的 快 回 您 人名
ta kö'üd de'üner minu öter qaridqun Šïrgü'ētü
汝等, 子達 弟達 ← わが つとに 帰れ, シルグエトゥ

納馬亙 阿剌周 亦列兀澤 客延 也客擣兀阿舌児 中孩剌罷。(77)
我行 殺着 去了恐 慶道 大 声 叫了
namayi alaju ile'üjei keyēn yeke dau'ū'ār qailba.
我を 殺し さらまじ" とて 大 声 もて 叫びぬ。

〈3〉 §227 (九42八～43一)

客失兀敦 斡脆古思 中忽塔阿(舌)児
斑 毎的 為長的。 第三
kešï'üd-ün ötögüs guta'ār
当直班の 長老達は 第三

中忽塔阿(舌)児 客失克圖児 額捏 札舌児里黒 客失克帖捏 莎那思中合惕中渾
第三 班 裏 這 聖 旨 房衛的毎行 教 聴 您
guta'ār kešig-tür ene jarlig kesigten-e sonosqadqun
第三の 当直 時に この 勅を 当直兵達 に 聞かせよ

額薛 莎那思中合阿速 客失兀敦 斡脆古思 阿勒荅勒壇 孛勒禿孩。(78)
不曾 教 聴 呵 班 毎的 為長的毎 罰 毎 教做者
ese sonosqa'āsu kešï'üd-ün ötögüs aldaltan boltuqai.
聞かさざらば 当直班 の 長老達 罰 もちて あれ"

〈4〉 §199 (八8七～8九)

抹舌児途舌児 塔訥 戈舌劣額孫
路 行 您的 野 獣
mör-tür tanu görö'ēsün
途 に ← 汝等の 狩獣

斡欒備者 阿魯思 薛惕乞周 逐歩中灰突舌児 扯舌里昆 古兀泥
多 有者 隔越 想 着 行 時 軍的 人行
olon büi-je, alus sedkijü yabuqui-dur čerig-ün kü'ün-i
多か らん ぞ, 遠きを 想い 行く 時 兵 士 を

戈舌劣額孫突舌児 不 哈兀勒中合惕中渾 客木不該 不 阿巴剌惕中渾。(79)
野 獣 行 依 教走馬 您 限 無 休 囲 獵 您
görö'ēsün-dür bū ha'ūlcadqun, kem ügei bū abaladqun"
狩獣の もとに 馳けしむる勿れ, きり なく 巻狩りするなかれ"

〈5〉 §184 (六49五～49七) 成吉思中合罕 亦禿舌児堅突舌児 兀禄
太 祖 皇帝 人 名 行 下
Činggis qahān Itürgen-dür ülü
チンギス 可汗は イトゥルゲンに ものも

客列列勒敦 中合撒舌児突舌児 阿卜拙 斡都惕中渾 中合撒舌児 箴迭禿該
説 話 人 名 行 将著 去 您 人 名 知道者
keleleldün Qasar-dur abču odudqun, Qasar medetügei
言わず "カサルの もとに つれて 行け, カサル 知るべし"

客額罷原作別。(80)
説 了
ke'ēbe.
と云いぬ。

〈6〉 §230 (十2四～3一) 《中》忽壇 中豁舌児 《中》忽必思 乞恢
梆 箭 筒 但 勤 敏
hutan qor hubis kiküi-
"柳の 矢筒 一揺れする

突舌児 中豁只惕 額薛 擺亦黒撒惕 中忽舌児敦 逐歩荅勒壇 客卜帖兀勒
時 落 後 不曽 立来的毎 快 行的 毎 宿 衛
dür qojid ese baiyigsad qurdun yabudaltan kebte'ūl
時, おくれ 立 た ざりし, 快き 行いもてる 宿直兵 ←

米訥 斡勒澤田 客卜帖兀勒 米訥 斡脱古思 客卜帖兀勒 客額克敦 斡歌列
我的 吉慶的毎 宿 衛 我的 老的毎 宿 衛 説 您 人名
minu öljeiten kebte'ūl minu ötögüs kebte'ūl ke'ēgdün, Ögöle
わが, 古祥ある 宿直兵を ← わが 「長老なる 宿直兵」 と云え, オゴレ

扯舌児必魯額 斡舌羅黒撒惕 荅闌 禿舌児中合吉 也客思 禿児中合兀惕
官名 一同 入 的 毎 七十 散班毎行 大 毎 散 班 毎
čerbi-lü'ē orogsad dalan turqag-i yekes turqa'ūd
特従 と共に 入れる 七十人の 当直番を 「大なる 当直番達」

客額克敦 阿児孩因 把阿禿的 斡脫古思 把阿禿惕 客額惕坤 也孫帖
説 您 人名的 勇士 行 老 每 勇士, 説 您 人 名
ke'ēgdün, Arqaį-yin ba'ātud-i ötögüs ba'ātud ke'ēdkün Yesünte
と云え, アルカイ の 勇士等 を 「長老の 勇士達」 と云へ, イェスンテ,

不吉歹壇 中豁児赤泥 也客思 中豁(中)児臣 客額惕坤 客延 札児里黒
人名等 帯弓箙的行 大 每 帯弓箙的每 説 您 慶道 聖 旨
Bügideį-ten qorčin-i yekes qorčin ke'ēdkün keyēn jarlig
ブギディ等の 矢筒人 を 「大なる 矢筒人」 と 云 え" と 統

孛勒罷。(81)
做了
bolba.
ありぬ。

〈7〉 §93 (二35四～35六) 納中忽伯顔鳴詁列舌論 中豁牙(舌)児
人 名 説 両 箇
Naqu=bayan ügülerün qoyar
ナク・バヤン の 言う "二人の

札剌兀思備 塔 兀魯(勒)都克禿惕 抹那 中豁亦納 不 帖(卜)赤勒都(克)禿惕
少年 每有 您 相 顧 您 明 後 休 相 棄 您
jala'ūs büį ta, üje(n)ldügtüd mönö qoyina bū tebčildügtüd
若者 なり 汝等, 相見てゆけ, この 後 な 棄て合いそ"

客額罷。(82)
説了
ke'ēbe.
と云いぬ。

以上, 7文例に見られる bosqadqun《立てよ》, tarcula'ūldqun《肥えさしめよ》, qaridqun《帰れ》, sonosqadqun《聞かせよ》, ha'ūlgadqun《走らせよ》, abaladqun《巻狩せよ》, odudqun《行け》, ke'ēdkün《～と云へ》, ke'ēgdün《～と言へ》, üje(n)ldügtüd《見合え》, tebčildügtüd《棄て合え》の諸例は, その文脈から見て, すべて, 二人称複数に対する命令形であり, -dqun[2] の意義素は基本的には《二人称複数に対しての重々しい命令》と措定

しうる。

文例 (6) においては，ke'ēgdün が二度用いられている直後に ke'ēdkün が現われ，漢語傍訳も「説您」を一様に示し，その上，この両者は全く同一の文脈に用いられているので，前述したように-ɢtun² (ここでは-gdün) は-dqun² の metathesis による変異形と見ることができる。なお，近世文語では -dqun² が姿を消し，この -ɢtun² が用いられるに到っていることは周知の事実である。

-dqun² が原則的には二人称複数に対する命令形であるように -ɢtun² も本来は対二人称複数形と見られるが——単数形は -ɢtuj² (ポッペ氏の Grammar, p. 90 参照) ——文例 (8) には -gtüd が実証され，これは -ɢtun² の複数形なること明かなので，秘史蒙古語においては，《特定の複数者》に対しては，-ɢtud² が用いられたと解されよう。

文例 (8) においても，ボオルチュの父，ナク・バヤンが，テムヂンとボオルチュの二人に対して発した言葉の中で ta üje(n)ldügtüd《汝等，相見よ——"互に助け合って行け" の意》，(ta) bǖ tebčildügtüd《(汝等) 棄て合うなかれ》と述べているのである。

### (d) -tuɢaj²

上述の「語幹そのまゝの形」と -dqun²～-ɢtun² は二人称に対する命令を意味するが，この -tuɢaj² は第三人称に対する命令を表わす。即ち，第三者が《～するように》，第三者に《～させよ》の意義素をもつ。しかし，秘史の言語では，極く稀にではあるが，二人称に対する命令としても用いられる。この形は，現代の文語でも屢々用いられ，口語でも，例えば，mongɢul ulus mandutuɢaj《モンゴル国が興隆せよ——モンゴル万歳》のような常套句の中には散見される。

〈1〉 §124 (三46九～46十) 別勒古台 中合舌剌勒歹脫中忽舌剌温

人名 Belgütej ベルグテイ　人名 Qaraldaj=toɢura'ūn カラルダイ・トゥグラウン

(中)豁牙舌里 阿黒塔 把舌里禿中孩 阿黒塔臣 孛勒禿中孩 客額罷原作別 (83)
兩箇 騸馬 教 牽 騸馬人 做 者 說了
qoyar-i agta baritugaị, agtačin boltugaị ke'ēbe.
二人 を "騸馬を 司さどらせよう, 馬管理人 たるべし" と云えり。

〈2〉 §133 (四12五～12七) 額不格思 額赤格昔 必荅訥
祖 宗 父親每行 咱每的
ebüges ečiges-i bidan-u
"祖父達 父達 を ← われらの

巴舌剌黒撒傷 塔塔舌里 中舍撒牙 必荅 脱斡舌鄰勒 中罕 額赤格 斡帖舌児
了了的 種 行 併 每 咱每 人 名 皇帝 父 快
baraɢsad Tatar-i qamsaya bida, To'ōri(n)l qan ečige öter
害せる タタル族を 併呑せん われ等, トオリル 汗 父よ 疾く

亦舌列禿該 客延 額捏 客連 古(舌)児堅 額勒臣 亦列罷原作俏 (84)
来 者 慶道 這 言語 送 使臣 去了
iretügeị keyēn ene kelen kürgen elčin ilebe.
来れかし" とて この 言を とどけに 使者を 遣りぬ。

〈3〉 §163 (五33六～33十) 可克薛古撒卜舌剌中合 倒兀里黒荅周
人 名 行 被擄 着
Kögsegü=sabraɢ-a daụ'ūliɢdaju
コグセグ・サブラグ に 掠奪されて,

王中罕 成吉思中合罕突舌児 額勒赤 亦列主為 額勒赤 亦列舌侖 乃馬納
人名 太 祖 皇帝 行 使臣 差去 了 使臣 使 時 種的
Ong qan Činggis qahān-dur elči ileǰü'üị. elči ilerün Naịman-a
オン 汗 チンギス 可汗 に 使者を 遣りたり。 使者を 遣るに "ナイマン族 に

亦児格 斡舌児中豁班 額篾可兀邉 倒兀里黒荅罷 必 可兀捏扯延
百姓 人烟 自的行 妻子 自的行 被 擄 了 我 子 処
irge orɢo-bān eme kö'ü-bēn daụ'ūliɢdaba bi, kö'ün-eče-yēn
人衆 散民 を 妻 子 を 掠奪されぬ 我, 子 より←自分の

朶舌児邉曲魯兀的 赤訥 中忽余周 亦列罷原作別 必 亦(舌)児格 斡舌児中豁
四 傑 你的 索 着 去了 我 百 姓 人 烟
dörben külü'üd-i činu guyuǰu ilebe bi, irge orɢo
四 傑 を←汝の 乞い(使者を)遣りぬ 我, 人衆 散民を

米訥 阿不舌剌周 斡克禿該 客額周 亦列主為。(85)
我的 教 着 與 者 説 着 去了来
minu aburaǰu ögtügeį ke'ējü ilejü'ūį.
←わが 教 い 与えよ" とて 遣りたり。

〈4〉 §171 (六7八～7十) 主舌児址迭宜 董中豁陽中忽因 兀舌里荅
人 名 行 作 声 的 先
J̌ürčede-yi dungɢodqu-yin urida
ヂュルチェデイ の 言発する の 前に

忙中忽敦 中忽亦勒荅舌児薛禅 鳴詁列舌論 安荅因 額木捏 必
姓 的 人 名 説 契交的 前 我
Mangɢūd-un Quyildar=sečen ügülerün anda-yin emüne bi
マングート族 の クイルダル・セチェンの 言う "盟友 の 前に われ

中合陽中忽勒都速 抹那中豁亦納 斡捏赤陽 可兀的 米訥 阿撒舌剌中忽宜
斬 殺 以 後 孤 児行 我的 壌挙的 行
qadquldusu, mönö qoyina ōnečid kö'ūd-i minu asaraqu-yi
戦わん, この 後 みなし 子達を ← わが 見やる を

安荅 簸迭禿該 客額罷原作別 (86)
契交 知道者 説 了
anda medetügeį ke'ēbe.
盟友 知るべし" と云いぬ。

〈5〉 §205 (八38三～六38) 額朶額 不舌里訥 迭額舌列 撒兀舌里
如今 衆 的 上 坐 位
edö'ē bürin-ü de'ēre sau'ūri
"今 衆 の 上なる 座に

撒兀周 也孫阿勒荅突舌児 不阿勒荅禿中孩 孛斡舌児出 巴舌剌温 中合舌侖
坐着 九次 罰 裏 休 罰 者 人 名 右 手的
sa'ūju yesün alda-dur bū aldatucaį, Bo'ōrču bara'ūn ɢar-un
坐して 九回の 過ち にも 咎 めざるべし, ボオルチュ 右 手 の

阿勒台 迭舌列列古訥 土綿簸迭禿該 客延 札舌児里黒 孛勒罷 (87)
山名 枕 的 万戸 教管者 慶道 聖 旨 做了
Altaį derelekün-ü tümen medetügeį keyēn ǰarliɢ bolba.
アルタイ山を 枕するもの の 万戸を 知らしめよ"と 勅 しぬ。

〈6〉 §278 (ニ38三～38九)

雪泥 牙阿舌刺動 客列圖 古温
夜 忙 言語有的 人
söni ya'āral keletü kü'ün
"夜, 忙ぎなる 話しある 人

亦舌列額速 客ト帖兀動魯額 中含禿 擺亦周 客列列動都禿該 斡舌児朶
来呵 宿衛 與 一同 整治著 教説 者 宮
ire'ēsü kebte'ül-lü'ē qamtu baiyiju kelelelldütügei, ordo
来らば 宿直兵 と 共に ありて(立ちて) 話し合うべし, 宮殿,

格舌児圖舌児 斡舌羅中忽 中合舌児中忽亘 中晃中豁舌児台 失舌剌中罕壇
厉 裏 入的 出的行 人名 人名等
ger-tür oroqu qarqu-yi Qonggortai Širaqantan
包 に 入り, 出づる を コンゴルタイ, シラカン 等

札撒兀動 客ト帖兀動魯額 中含圖 札撒禿中孩。(88)
官名 宿衛 与 一同 整治 者
jasa'ūl kebte'ül-lü'ē qamtu jasatuqai.
治め人 宿直兵 と 共に 治むべし。"

〈7〉 §76 (二8五～8七) 泰亦赤兀楊 阿中合迭兀耶顔 中合失兀
極名 兄弟自的 苦
Taiyiči'ūd aqa de'ü-yeyēn qaši'ū
"「タイチウド族 兄弟の 苦しみ

客舌児 阿不舌剌中渾 必荅 客額周 不恢突(舌)児 額児帖 阿闌額客因
怎生 報得 咱每 説着 有的時 在前 婦人名 母的
ker aburaqun bida ke'ējü büküi-dür erte Alan eke-yin
をいかに 報ずべき われ等」 と云い ある時, かっての アラン 母の

塔奔可兀楊 簽圖 也勤額耶 兀格温備 塔不禿該 客額畢。(89)
五箇 子每 般 為甚 商量 無每 有 您 休 説了
tabun kö'ūd metü yēkin eye üge'ūn büi ta bütügei ke'ēbi
五人の 子等の 如く, なんで 和 なく あるや 汝等, やめよ" と云いぬ。

〈8〉 §189 (七11八～11十) 帖温突舌児 額客 亦訥 古舌児別速
那的裏 母 他的 人名
te'ün-dür eke inu Gürbesü
そこ に 母 ← 彼の グルベスの

鳴詁列舌論　也乞兀者　帖迭額舌里　忙豁勒　亦舌児堅　忽訥舌児　卯兀壇
説　要做甚麼　那的裏　達達每　百姓　気　歹每有
ügülerün　yēki'üje　tede'ēr-i,　Mongɢol　irgen　hünür　mau'ūtan,
言う　"いかにするや　彼等を,　モンゴル　人衆　匂い　悪しく

中忽ト察速　巴舌剌〈兀〉壇　不列埃　昂吉荅　中豁羅不周　不禿該…。(90)
衣服　暗每有　有来　別処　遠有着　有者
qubčasu　bara'ūtan　büle'ēi,　anggida　qolo büjü　bütügei
衣服　うす汚れて　あり,　はなれて　遠く　あり　あらしめん……"。

〈9〉 §174 (六16六～16八)　帖温突舌児　阿赤黒失舌侖　鳴詁列舌論
那的裏　人名(的)　説
te'ün-dür　Ačig-širun　ügülerün
そこ　に　アチグ・シルン　の　言う

中罕中罕　不禿該　額赤捏　不古可兀額舌里舌侖　額勒別孫　札剌麻　乞周
皇帝皇帝　休　背処行　有的子導時　(ナ　ン)　做着
"qan qan　bütügei,　ečine　bükü　kö'ü　erirün　elbesün　jalama　kiju
"汗,汗　やめよ,　かくれ　ある　子を　求むる時　魔法の　ヂャラマを　作りて,

阿備巴備　客延　額舌鄰　札勒巴舌里梅　必荅　額敦　脫舌侖　巴剌黒三
(ナ　ン)　麼道　尋　告有　咱每　這些　生　了的
abui　babui　keyēn　erin　jalbarimui　bida,　edüi　törün　baraɢsan
アブイ　バブイ　と云いて　求め　祈るなり　我等,　かく　生れ　おおせし

可兀　桑古迷　阿撒舌剌牙……。(91)
子　人名行　嘘等　咱……。
kö'ü　Senggüm-i　asaraya…….
子　センゲム　を　見やらん

〈10〉 §225 (九36六～36七)　客ト帖兀里　也客捏兀舌鄰　阿中合剌周
宿衛行　人名　為長着
kebte'ūl-i　Yeke=ne'ūrin　aqalaju
"宿直兵　を　イェケ・ネウリン　長たりて

敏中合　篾迭周　阿禿(中)孩　客延　札児里黒孛勒罷。(92)
千　管着　有者　麼道　聖旨　做了
mingɢa　medeju　atuɢai　keyēn　jarlig bolba.
千戸を　知らしめしてあれ"　と　勅　しぬ。

〈11〉 §145 (四43八～43十) 額迭中忽舌児班 土撒昔 赤訥 薛楊乞勤

道 三件 恩每行 你的 心

ede gurban tusas-i činu sedkil

"これら 三つの いつおぼし 功績 を←汝の 心の

朶脫(舌)剌 米訥 阿禿中孩 客延 札舌児里黒 孛勤罷。(93)

内 我的 存〈者〉 應道 聖 旨 做了

dotora minu atuqaį keyēn ǰarlic bolba.

中に ← わか あれ" と 勅 しぬ。

以上1～11における -tuqaį[2] の諸実例を通して，この語尾の意義素を《第三者がある動作を行うこと・第三者をしてある動作を行わせること》と原則的に措定し得よう。

しかし，2の iretügeį，3の ögtügeį，4の medetügeį などは，話し相手に対する要求，願望であり，必ずしも第三者にのみ用いられるとは云えない。話し相手を第三者と見たてゝ，話し手の要求，願望を表現する例と言える。7，8，9は bü- に接尾した例，10，11は a- に接尾した例である。

bü-《ある，いる》に -tügeį を接尾した bütügeį は本来は語構成の通り《(第三者が)～であれ》を意味し，文例8の anggida qolo büǰü bütügeį《はなれ，遠くにありてあれ》の bütügeį はその好例である。その《～であれ》から《そのまゝであれ》→《止まりあれ》→《やめよ》の意を経過し，現代の禁止の助辞——動詞の命令形に前置される——に転成した。現代の bitügeį yabu《行くな》はこの様にして成立した。文例7，9の bütügeį は上の《やめよ》の段階の意の用法と見ることができる。

文例7の bütügeį は，その内容から見て，複数の話し相手に対して発せられた語であり，又，文例9の bütügeį も話し相手に対して用いられている。この事を考慮に入れれば，-tuqaį[2] は発生的には，二人称に対しても，三人称に対しても用い得る機能を持っていたと考えても差支えあるまい。

同じ《ある，いる》を概略的に意味する動詞語幹 a- に接尾される atuqaį は bütügeį が持った如き意味上の変遷を辿ることなく，《～であれ》意のままで

推移した。これは，後述するように，a- が同じ存在を意味する動詞語幹でも，《客観的存在》をその基幹的意義素として所有しているところに帰因するものと考えられる。atuɢaị《～であれ》は現代の文語文でも散見されるところである。

なお，近世の文語では，動詞語幹 bol-, bayi- に接尾し boltuɢaị, bayituɢaị の形で《～であるばかりでなく，～のみならず》の意に用いられる特殊な用法があるが，秘史蒙古語においては，文例1の boltuɢaị に見る通り，本来の意に用いらるのみである。しかし，

§80（二15一～15五）Temüǰin šiɢuị dotora ɢurban qonoǰu ɢarsu keyēn mori-yān kötöljü ayisuquị-dur morin-ača eme'ēl inu mültürejü qočorču'ū. qariǰu üjebēsü eme'ēl kömü(n)ldürgelegse'ēr olanglaɢsa'ār mültürejü qočorču'ū. olang-či boltuɢaị kömü(n)l-dürge basa ker mültürekü büle'ē. (94)

における olang-či boltuɢaị《肚帯はよしとしよう》の boltuɢaị に，上述の《～であるばかりでなく）の意味の萌芽を見ることができると思われる。

現代のハルハ方言などで用いられる，二人称を通しての三人称に対する命令形 -ɢ(-g) は，秘史においては未だ見られない。

## 〔Ⅱ〕 願望形

**(e) -su², (f) -suɢaị²**

-su² 及び -suɢaị² が一人称の願望を表示する語尾であることは -su²（110例），-suɢaị²（24例）の実例から明白であるが，-su² と -suɢaị² との関係如何ということになると，それは必ずしも分明とは言い難い。

しかし，敢てその関係を追求すれば，発生的には -su² は一人称単復数形，-suɢaị² はその文体的変異形といえるかとも考えられる。以下に実例を読みながら論を進めよう。

〈1〉 §105 (三4五～5一)

巴撒 客舌列亦敦 脫斡舌鄰動 中罕訥
再 種名的 名 皇帝的
basa kereyid-ün To'ōri(n)l qan-nu
また ケレイド族の トオリル 汗の

鳴詰列克先 兀格昔 札木中合荅 鳴詰列周 亦列舌侖 額舌児迭 兀都舌児
説了的 言語每 人名行 説着 去 在前 日子
ügülegsen üges-i J̌amuqa-da ügülejü ilerün erde üdür
言いし 言を ヂャムカに 言い 遣るに "昔 日

也速該 中罕額赤格迭 米訥 土撒撒亦 乞克迭克薛泥 薛楊乞周 那闍扯速
人名 皇帝 父行 我的 済好 被做了的行 想者 做伴
Yesügeį qan ečige-de minu tusa sayi kigdegsen-i sedkijü nökočesü
イェスゲイ 汗なる 父に ←わが 功益を 行いし を 想いて 「伴たらん

必 (中)豁牙舌児土篾楊孛勒周 把舌剌温中合舌児孛侖 秣舌驢剌速 札木中合
我 二 万每 做着 右 手 做 上馬 人名
bi, qoyar tümed bolǰu bara'ūn ɢar bolun morilasu J̌amuqa
我, 二 万と なりて, 右 翼 として 上馬せん」, ヂャムカ

迭兀迭 客列列周亦列 札木中合迭兀 中豁牙舌児 土篾楊 秣舌驢剌禿中孩
弟行 説着去 人名弟 二 万每 上馬教
de'ü-de kelelejü ile, J̌amuqa de'ü qoyar tümed morilatuɢaį,
弟に 言いて 遣れ, ヂャムカ 弟は 二 万 出陣すべし,

中含禿楊中忽孛勒札安 札木中合迭兀迭址 孛勒禿中孩 客額罷。(95)
相合的 約会 人名 弟自 教做 説了
qamtudqu bolǰa'ān J̌amuqa de'ü-de boltuɢaį ke'ēbe.
おちあう 約会(地)は ヂャムカ 弟に まかすべし" と云いぬ。

〈2〉 §100 (二44四～44五)

帖木真 阿中合納児 迭兀捏児
人名 兄每 弟每
Temüjin aqa-nar de'ü-ner
テムヂン 兄 弟達は

秣驢剌周 額児帖 孛額楊 不児罕竹克中合児罷 中豁阿黒臣 額篾堅
馬上着 疾早 便 山名処 上了 婦人, 老婦人
morilaǰu erte bö'ēd Burqan ǰüg ɢarba. Qo'āɢčin emegen
上馬して 早々に ブルカン山へ 上りぬ, コアクチン 老婆は

孛児帖兀只泥你兀速客延　孛刊中合舌剌兀台　帖児堅圖児
名　行　要蔵　慶道　黒　有的　車　裏
Börte=üjin-i　ni'ūsu　keyēn　bökēn qara ūtai　tergen-tür
ボルテ夫人　を　"隠さん"　とて　幌つきの 黒き 木枠の　車　に

兀訥温勒周……。(96)
教坐着……。
unu'ū(n)lju…….
のせて……。

〈3〉 §265 (三3四～3十)　你多泥　不(舌)児中罕　赤　鳴詰列舌論
去年　人名　你　説
nidoni　Burqan　či　ügülerün
去年　ブルカン　汝の　言うに

巴　唐兀惕　亦舌児堅　巴舌剌温　中合舌児　赤訥　孛勒速　客額魯額。(97)
俺　種名　百姓　右　手　你的　倣我　説来
ba　Tangūd　irgen　bara'ūn　car　činu　bolsu　ke'ēlü'ē.
"我等　タングート　人衆　右　翼　← 汝の　たらん"　と云いぬ。

〈4〉 §24 (一15六～15九)　孛端察児　兀舌魯中合　額薛脱阿(黒)荅周
親　行　不曽　被数　着
Bodončar　urug-a　ese to'āgdaju
ボドンチャル　親族　に　数えられず

額(你)迭阿塔剌　牙温客額周　中豁勒荅阿舌里禿　中豁多黎薛温勒禿　斡舌羅黒
道裏　住　甚麼　説　着　脊　梁　瘡　有的　禿　尾　黒脊
ende　atala　ya'ūn ke'ējü　col da'āritu　godoli se'ū(n)ltü　orog
"ここ　ありつつ　如何"　とて　背に　鞍傷ある　禿びた　尾をもつ　黒背の

升中忽剌亘　兀訥周　兀窟額速亦訥　兀窟速該　阿阿速亦他阿速該　客額周
青白馬　行　騎着　死　呵　他的　死也者　活呵　他的　活也者　説着
šingqula-yi　unuju　ükü'ēsū　inu　üküsügei　a'āsu　inu　asugai　ke'ējü
灰褐色の　馬に　のりて　"死なば　← 彼の　死なん,　生きなば←彼の　生きん"　とて

斡難沐舌漣　忽(舌)魯兀　約児赤周　塔勒必罷。(98)
河　順　水　去　着　放　了
Onan müren　huru'ū　yorčiju　talbiba.
オナン　河　に　沿い下り　行き　されり。

〈5〉 §260 (二47四～47六) 額捏 訶舌羅捏 巴黒塔楊 亦舌児格訥

遠 西 地名 百姓的
ene hörön-e Bactad irgen-ü
"この 西に バグダド 人衆の

中合里伯 莎勒壇 客額古 備 客額梅 帖温突舌児 巴 阿牙剌速中孩

人名 王 説的 有 説有 那的每行 俺 征進咱
Qalibai soltan ke'ēkü büi ke'ēmüi, te'ün-dür ba ayalasuɢai
カリバイ 王(ソルタン) なる者 あり とぞ, 彼に われら 遠征せん"

客延 斡赤額速……。(99)

慶道 奏 呵……。
keyēn öči'ēsü
と 奏すれば……。

〈6〉 §103 (二51一～51三) 不(舌)嶇中罕中合勒都泥 馬納中合児不舌里

山名 行 每 早
Burqan=qaldun-i managar büri
"ブルカン・カルドゥンを 朝 ごとに

馬里牙速中孩 兀都児不(舌)里 斡赤速該 兀舌魯中渾 兀舌魯黒 米訥

祭祀 每日 禱告 子々 孫孫 我的
maliyasuɢai, üdür büri öčisügei, uruɢ-un uruɢ minu
祭り祈らん, 日ごとに 奏し祈らん, 親族の 親族よ ← わが

兀中合禿中孩 客延……。(100)

省着 慶道
uqatuɢai keyēn……
心せよ" とて……。

文例1の nököčesü, morilasu の主語は bi であり，2の ni'ūsu の -su の主語も文面には表われていないが "ni'ūsu bi" の -bi であること明かである。

しかるに文例3の bolsu の主語は ba Tangūd irgen《われらタングート人衆》であって，主語は複数形の ba である。即ち -su² は一人称の単複いずれの主語に対しても用いられる。

一方，文例5の ayalasucaį の主語は，この語の直前に置かれている ba《我々》であるが，6の maliyasucāį，öčisügeį の -sucaį² の主語はテムヂンを含めた ba と解し得ないこともないが，素直に読めばテムヂン自身即ち bi と解せよう。即ち，-su² と -sucaį² の差異は「数」の観点のみからでは解決し得ないことが知られる。とは言え，-su² の使用例110語の殆ど総ては一人称単数の主語をもっている。上記の bolsu は，極めて稀な1例であり，その他には§123に見られる ögsü ba《与えん，我等》の3例のみである。従って -su² は一人称単数と言ってよく，上の bolsu，と ögsü は特殊な用例というべきである。その特殊な用例については後で考察することにして，-sucaį- に移ろう。

-sucaį² の実例は，-su² に較べると少ない。-sucaį 17例（内，asucaį 3例），-sügeį 7例（内 ögsügeį 2例）合計して24例のみで，-su² の110例に比して少ない。

文例4の üküsügeį《死なん》，asucaį《生きん》の主語は文面には表われていない bi《我》であり——この文はボドンチャルが自己を第三者的に表現し ükü'ēsü inu《彼が死ぬならば》，a'āsu inu《彼が生きるならば》と表現されているところから従来，見解の分かれている一文である——文例5の ayalasucaį の主語は ayalasucaį 直前にある ba《我々 (exclusive)》である。文例6の maliyasucaį と öčisügeį については上述したところである。

即ち -sucaį² も主語の単・複に捉らわれることなく用いられている。su²- と -sucaį² が秘史の言語でどの様に使い分けられていたのか，今の処，明言は出来ないが，-sucaį² 24例を精査すれば，-sucai² は -su² に比して，《より強い願望，意志》の表現に当てられていることが判明する。-sucaį² についての実例を以下に若干補足して見よう。

〈7〉 §165（五40十～41三） 阿勒壇 中忽察舌児 鳴詰列舌論 巴一

人同 人名 説 俺

Altan, Qučar ügülerün ba

アルタン， クチャル の 言う "われら

訶額侖 額客因 可兀泥 阿中合宜 阿剌周 迭兀宜 帖卜赤周 斡克速該

母名 母的 子行 兄行 殺着 弟行 棄着 與咱

Hö'ēlün eke-yin kö'ün-i aqa-yi alaju, de'ü-yi tebčijü ögsügei,

ホエルン 母の 子を 兄を 殺し, 弟を 捨て やらん,

客額主為 額不格真 那牙勤 中合舌児塔阿傷 鳴詁列舌論 中合舌児

說了 種人 種人 種人 說 手

ke'ējü'ūi. Ebügejin, Noyakin, Qarta'ād ügülerün gar

と云いたり。 エブゲヂン, ノヤキン, カルタアド の 言う "手を←

亦訥 中合舌児荅周 闊勤亦訥 闊勤迭周 斡克速該 客額主為。(101)

他的 拿着 脚他的 拿着 與咱 說了

inu gardaju köl inü köldejü ögsügei" ke'ējü'ūi.

彼の とり, 足を←彼の とりて やらん" と云いたり。

〈8〉 §169 (五48七～48十) 巴歹約舌児赤周 那可舌児 阿都兀赤

人名 去着 件当 放馬的

Badai yorčiju nökör adu'ūči

バダイ 行きて 伴なる 馬飼

乞失里中合 扯舌列訥 鳴詁列克先 兀格思 鳴詁列主兀 乞失里黒 鳴詁列舌論

人名 行 人名的 說了 言語毎 說了 人名 說

Qišilig-a Čeren-ü ügülegsen üges ügülejü'ü. Qišilig ügülerün

キシリク に チェレンの 語れる 言の葉を 語れり。 キシリグ の 言う

必 巴撒 斡傷抽 兀中合速中孩 客額周 格舌児突舌児 斡傷出為 (102)

我 再 去着 察聽咱 說着 家裏 出了

bi basa odču uqasucai ke'ējü ger-dür odču'ūi.

"我 また 行きて さぐり覚らん" とて 包 に 入りたり。

〈9〉 §249 (十9四～9九) 成吉思中合阿泥 莎余児中合阿速 巴

太祖 皇帝行 恩賜 呵 俺

Činggis qa'ān-i soyurqa'āsu ba

チンギス 可汗 が 嘉赦下さるなら "われら

唐兀(傷) 亦舌児堅 溫都舌児 迭舌列速訥 捏木舌列帖 斡思格周 斡欒

種 百姓 高 席棘草的 遮護真 教長着 多

Tangūd irgen ündür deresün-ü nemüre-te ösgejü olon

タングート 人衆は 高き はやがぬ草の 遮護の もと 育てつ, 多くの

| 騭篾額場 | 中合舌児中合周 | 中合 | 孛勒中合周 | 斡克速 | 斡舌児篾格 | 捏客周 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 駝 駝 | 出 着 | 係官 | 教 做 着 | 与我 | 穆 子 | 織 着 |
| teme'ēd | garɢaǰu | qa | bolɢaǰu | ögsü | örmege | nekejü |
| 駝駝を | 養出しつ, | 貢ぎ | となして | 与えん, | 粗毛を | 織りて |

| 阿兀舌剌孫 | 孛勒中合周 | 斡克速 | 斡斡舌児中忽 | 失鵠温 | 速舌児中合周 |
|---|---|---|---|---|---|
| 段 匹 | 教做着 | 与速 | 放 的 | 鷹 | 調 着 |
| a'ūrasun | bolɢaǰu | ögsü, | o'ōrqu | šibaų̄'ūn | surɢaǰu |
| 織 物 | となし | 与えん, | 放つ | 鷹 を | 調教し |

| 中忽舌剌兀勒周 | 撒亦場 | 亦撒 | 古(舌)児格兀侖 | 阿速中孩 | 客延 | 斡赤罷原作伯 | (103) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 聚 着 | 好的毎 | 他的 | 教 送 | 常 川 | | 賽 了 | |
| qura'ūlǰu | sayid | inu | kürge'ūlün | asuɢaį | keyēn | öčibe. | |
| 集めつ | よきものを | ←その | 送り つゝ | けん" | と | 賽せり。 | |

文例7の ögsügeį はアルタンとクチャル及びエブゲヂン，ノヤキン，カルタアド達の《強い意志》の現われを示し，文例8の uqasuɢaį は bi basa odču uqasuɢaį《我もまた行きて認知せん》に見られる様に，同僚のバダイの言をキシリグ自身がふたたび赴いて確かめようと云う強い意志・願望の表現である。更に文例9では ögsü が二度現われ，その文の最後を asuɢaį で強く結んでいる。これらの諸例を見ると，上述した，-suɢaį² は -su より《一層強い願望・意志》を表示すると見ることが許されると思われる。と共に注目されることは -suɢaį² 24例の半数ほどは複数形の主語と共に用いられていることである。

秘史の言語では，いわば少数派であった -suɢaį² が後の文語に残って，-su² の方は比較的早い段階で——と云っても「蒙古源流」(1656年の作) や Lu. Altan Tobči では -su² はまだ多数派である——姿を消すに到ったのも，-suɢaį² の方が《より強い願望・意志》を示していたことに帰因するのではあるまいか(それに -suɢaį² の方が -su² よりも一音節多く，話し手に一種の安堵感を与えたとも言えようか)。

上に宿題とし残しておいた文例3の bolsu と§123 の ögsü を考えよう。§123の ögsü ba《与えよう我々は》，文例3の ba Tangūd irgen……bolsu《我々タングート人衆は……になろう》における ögsü も bolsu も，複数形の

主語をもっている。-su² は原則的には単数形なのに何故，こゝに -su² が用いられたか。上に単数の主語に対して用いられた -sugaį² が《より強い願望・意志》の表示の故に用いられたことを説いたが，この -su² の場合は，まさにこの逆である。即ち -su² によって《より弱い願望・意志》を示したのである。不児中罕を主にいたゞくタングート人衆は成吉思汗の bara'ūn gar《右手》になることを切望したのではなく仕方なしに《右手になろう》と云ったのである。§123の ögsü も然りである。アルタン，クチャル，サチャベキ達は心からテムヂンを「中合罕」に推したわけではなかった。後に成吉思汗に背いて誅されること，秘史の後段で語られている（§136, §246, §255 参照)。このように見れば，これら bolsu, ögsü の -su² をよく説明しうる。

ここからは推測の域を出ることは出来ないが，発生的には -su² は一人称単数形，-sugaį² は一人称複数形として機能し，-sugaį は又一人称単数の《強い願望・意志》の表示に用いられ，それといわば裏腹に -su² が一人称複数の《弱い願望・意志》の表示に用いられたものであろう。秘史蒙古語における -su² と -sugaį² の諸用例から筆者は，-su² と -sugaį² との関係を上の如く推論したいと思う。

### (g) -ya²

前項の -su², -sugaį² が一人称複数形として用いられた場合は，相手を含まない，こちら側だけの《我々の願望・意志》を表示する (exclusive) のに対し，この -ya² は相手を含みこんだ《我々の願望・意志》を表示する。

-su², -sugaį² が現代の話し言葉では殆と用いられなくなったのに反し，-ya² は現在でも盛んに用いられる点で，息の長い語尾と言うことができる。以下に若干例を提示する。

〈1〉 §36 (一22一～22三)

| 田迭扯 | 阿中合亦訥 | | 鳴詁列舌論 | 者帖因 |
|---|---|---|---|---|
| 那裏自 | 兄 | 他的 | 説 | 是那般 |
| tendeče | aqa | inu | ügülerün | je teyin |
| かくして | 兄 ← | 彼の | 言 う | "然り，かく |

孛額速　格児禿舌里顔　古児抽　阿中合納児　迭兀捏児　額耶屯(勤)都周　帖迭
有 呵　家　裏自的行　到着　哥哥　每　兄弟　每　商量　着　那
bö'ēsü　ger-tür-iyēn　kürčü　aqa~nar　de'ü~ner　eyetü(n)ldüjü　tede
あらば　包　に←己が　到り　兄　弟　達に　ともにはかりて　それらの

亦児格泥　哈兀魯牙　客額(勤)都周。(104)
百姓　行　尽擄咱每　共説　着
irgen-i　ha'ūluya　ke'ēldüjü……。
人衆　を　襲奪せん"　と共に云いて……。

〈2〉 §101 (二46一～46五)　帖迭　扯舌里兀(楊)　帖堆　中合塔舌剌罷
那　軍 每　只那般　點着去了
tede　čeri'ūd　tedüi　qataraba.
それらの　兵士達　かく　走り行きぬ。

中豁阿黒臣額篾堅　孛額舌列　阿剌黒　忽客舌里顔　迭列都額(楊)　斡帖児連
名　老婦人　腰　花　牛　自的行　打了着　疾快
Qo'āgčin　emegen　bö'ēre　alag　hüker-iyēn　deledü'ēd　öterlen
コアクチン　老婆　腰の　まだらの　牛　を(己が)　打ちて　疾く

捏兀古　孛侖　帖児格訥　騰格里(克)中忽忽思斡(楊)罷　騰格里(克)遣
起行　做呵　車　的　車 軸　折　玄了　箇軸　自的行
ne'ūkü　bolun　tergen-ü　tenggelig　qugus　odba.　tenggelig-bēn
移　らんとするに　車　の　車軸　ポキっと折れぬ。　車軸　を(己が)

中忽中忽《舌》剌(黒)荅周　迓歩中合的牙児　槐圖児　癸趨周　斡舌羅牙
被 折　着　歩 行 着　林 裏　走 着　入 咱
qugulagdaju　yabugad-iyār　hoi-tur　güyiju　oroya
折られて　徒 歩　もて　"森　に　走り　入らん"

客額勤敦不恢突児……。(105)
相 説 有的 時……。
ke'ēldün　büküi-dür……。
と 共 に 言 い て あ る 時……。

〈3〉 §110 (三16一～16四)　田迭扯　帖木真脫斡舌鄰勤　中罕
自那裏　名　名
tendeče　Temüjin　To'ōri(n)l　qan
かくして　テムヂンは　トオリル　汗。

札木中合 安荅 中豁牙舌剌 門 雪你 孛額揭 鳴詁列周 亦列舌侖 額舌里古
人名 契合 両箇 本 夜 便 説着 去 尊的
Jamuqa anda qoyar-a mun söni bö'ēd ügüleǰü ilerün erikü
ヂャムカ 盟友 二人 に その 夜に た龍ちに 言いて 遣るに "求むるべき

客舌列吉顔 斡(勤)罷 必 雪你 不都里耶 額你迭 保兀牙 必荅 客額周
用 自的 得了 我 夜 休 兼行咱 道裏 下咱 咱毎 説着
kereg-iyēn olba bi, söni bū düliye, ende bau'ūya bida" ke'ējü
もの を(己が) 得ぬ 我, 夜を 徹すまじ, ここに 下馬せん 我等" と云いて

兀列罷。(106)
去了
ilebe.
遣りぬ。

〈4〉 §104 (三2四～2八) 額朶額 帖舌列 兀格都舌里顔 古舌侖
如今 那 言語 自的行 到
edö'ē tere üge-dür-iyēn kürün
"今や かの 言 に ← 己が 到り

不鱸中罕褡中忽因 中合舌里兀 不古迭篾舌児乞的 不舌列勒帖列
貂鼠 襖子的 回奉 都 種名 直至殺滅
bulucan daqu-yin qari'ū bügüde Merkid-i büreltele
黒貂の 外衣 の 返礼に 総ての メルキド族が 破滅するまで

孛舌児帖兀只泥 赤訥阿不舌剌周 斡克速 必 中合舌剌 不鱸中罕 褡中忽因
婦人名 行 你的 教着 與 我 黒 貂鼠 襖子
Börte=üǰin-i činu aburaǰu ögsü bi, qara bulucan daqu-yin
ボルテ夫人 を ← 汝の 教い 与えん 我, 黒き 貂の 外衣 の

中合舌里兀 中合木黒篾児乞的 中合勒塔赤周 中合屯孛舌児帖宜赤訥
回奉 普 種名行 破着 娘子 婦人名 行 你的
qari'ū qamuc Merkid-i qaltačiǰu qatun Börte-yi činu
返礼に 全 メルキド族 を 破り, 后 ボルテ を ←汝の

中合舌里兀勒周 阿卜赤舌剌牙 必荅 赤 札木中合迭兀迭客連乞周
回着 将来 咱 你 人名 弟 行 言語 做着
qari'ūlǰu abčiraya bida, či J̌amuqa de'ü-de kelen kiǰü
返し 取らん 我等, 汝 ヂャムカ 弟 に 伝 言して

亦列……。(107)
教去
ile……。
遣れ"……。

〈5〉 §133 (四11十～12二)

| 成吉思中合罕 | 鳴詁列舌論 | 額舌児帖 |
|---|---|---|
| 太祖　皇帝 | 説 | 在　前 |
| Činggis qahān | ügülerün | erte |
| チンギス　可汗　の | 言う | "昔 |

| 兀都舌列徹 | 塔塔舌児 | 亦舌児堅 | 額不格昔 | 額赤格昔 | 巴舌剌惕撒黒 | 斡失田 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 日子　行 | 種　名 | 百　姓 | 祖　宗 | 父親　行 | 了了　的 | 雄有的 |
| üdür-eče | Tatar | irgen | ebüges-i | ečiges-i | baraɢsad | öšiten |
| 日　より | タタル族 | 人衆は | 祖父達 | 父達　を | 害せし | 仇ある |

| 亦舌児堅 | 不列額 | 額朶額 | 額捏 | 中合納勤突舌児 | 中含撒牙 | 必荅 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 百姓 | 有来 | 如今 | 這 | 機会　裏 | 併　咱 | 咱毎 |
| irgen | büle'ē, | edō'ē | ene | qanal-dur | qamsaya | bida |
| 人衆 | なりき, | 今や | この | 機　に | 併呑せん | 我等" |

客額額惕……。(108)
説了
ke'ē'ēd……。
と云いて……。

-ya² は秘史全巻から193にのぼる使用例を発見しうる使用頻度の高い方の語尾であり，現代語でも屢々用いられるので，その表わす意義素の措定はそれほど困難ではない。筆者は上掲の諸用例の吟味から -ya² の意義素を《話し手が話し相手と共に，ある行為・動作を行なおうと言う話し手の願望》と措定する。これは，上の文例1～5を通して実証される。

文例1, 2の ha'ūluya《掠奪せん》と oroya《入らん》の直後にともに ke'ēldü-《～と云い合う》が附されていることに注意したい。ke'ēldü- の -ldü は《共に～する》を意味する「対動形」の接辞である。又3～5の文例では bau̯'ūya《下馬せん》, abčiraya《連れ来らん》, qamsaya《併合せん》の直後に bida《我々》が見える。bida は一人称複数形 inclusive の代名詞であり，《相手を

含めた我々》である。傍訳では常に〈咱，咱每〉が附され，ba〈俺〉と区別される。ここには5例だけ示したに過ぎないが，他の文例でもこの -ya² は頻出するので，ここでは，これ以上の挙例をさけた。

**(h) -'ūǰāi̯², -'uǰā², -'uǰiyī**

-ūǰai̯² は文語形 -gūǰai̯², 現代のハルハ方言の -yузaй² に当る，N. Poppe 教授が dubitative と呼ぶ語尾である。秘史全巻に15例発見される。その数例を以下に示しつつ，解説する。

〈1〉 §131 (四9五～9九)

| 別勒古台 | 鳴詁列(舌)論 | 箋児 | 兀都為 |
|---|---|---|---|
| 人名 | 説 | 傷 | 末 |
| Belgütei̯ | ügülerün | mer | üdü'ūi |
| ベルグテイの | 言う | "傷 | 浅く |

| 不列額 | 米訥禿剌 | 阿中合迭兀突舌児 | 卯兀中合鄰 | 孛魯勒察兀齋 | 必兀禄 |
|---|---|---|---|---|---|
| 有来 | 我的上頭 | 兄 弟 行 | 相 侄 | 恐 敬 | 我 不 |
| büle'ē, | minu tula | aqa de'ū-dür | mau'ūqalin | bolulča'ūǰai̯, | bi ülü |
| ありき， | わが ために | 兄 弟 に | 仲 違 い | ならざるよう， | 我 ゆ |

| 阿勒札中忽 | 必 | 亦剌阿舌里備由 | 阿中合 | 迭兀突舌児 | 撒亦 | 亦只里都勒纏 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 疑 事 | 我 | 較 好 有 | 兄 | 弟 行 | 恰纏 | 慣 熟 |
| aljaqu, | bi | ila'āri büyü, | aqa | de'ū-dür | sayi | ijilidülčen |
| ゆしからず， | 我 | 比してよく あり， | 兄 | 弟 にて | やっと | 慣れあい |

| 不恢突舌児 | 阿中合 | 不禿該 | 中豁舌魯木惕 | 擺宜 | 客額罷原作別 (109) |
|---|---|---|---|---|---|
| 有 時 | 兄 | 休 | 且 | 住 | 説 了 |
| büküi̯-dür | aqa | bütügei̯, | qorumud | bai̯yi | ke'ēbe. |
| ある に | 兄 | やめよ， | しばし | (そのまま)あれ" | と云いぬ。 |

〈2〉 §169 (五48四～48六)

| 額箋亦訥 | 阿剌黒〈赤〉惕 | 鳴詁列舌論 |
|---|---|---|
| 妻 他， | 人名 | 説 |
| eme inu | Alaǰčid | ügülerün |
| 妻 ← 彼の | アラグチドの | 言う |

| 帖舌列 | 迭列箋 | 兀格赤訥 | 〈牙〉温孛魯梅 | 哈舌闌 | 巴 | 兀年米〔石〕格兀澤 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 那 | 泛濫 | 言語 你的 | 甚麼 做有 | 人 | 也 | 做 真 誠 |
| tere | deleme | üge činu | ya'ūn bolumui̯ | haran | ba | üne(n)mišige'ūǰei̯ |
| "その | あだし | 言葉 ←汝の | 如何に なるぞ， | 人々 | も | 真となさざらん" |

客額主為。(110)
説了
ke'ējü'ūi.
と云いたり。

〈3〉 §149 (五4五～4八)

| 帖木真 | 納馬亘 | 兀禄 | 兀窟兀勒古 |
|---|---|---|---|
| 名 | 我行 | 不 | 教死 |
| Temüjin | namayi | ülü | ükü'ūlkü, |
| "テムヂン | 我を | 死なしめざらん, | |

| 塔 | 可兀惕 | 迭兀捏(舌)児 | 米訥 | 斡帖舌児 | 中合舌里惕中渾 | 失舌児古額禿 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 您 | 児子毎 | 弟毎 | 我的 | 快 | 回您 | 人名 |
| ta | kö'ūd | de'ū-ner | minu | öter | qaridqun, | Širgü'ētü |
| 汝等 | 子達 | 弟達よ | ←わが, | 疾く | 帰れ, | シルグエトゥ |

| 納馬亘 | 阿剌周 | 亦列兀澤 | 客延 | 也客擣兀阿舌児 | 中孩剌罷。(111) |
|---|---|---|---|---|---|
| 我行 | 殺着 | 去了恐 | 慶道 | 大声 | 叫了 |
| namayi | alaǰu | ile'ūǰēi | keyēn | yeke daų'ū-'ār | qaiłaba. |
| 我を | 殺し | さらざるよう" | とて | 大声もて | 叫びぬ。 |

〈4〉 §179 (六37一～37五)

| 額朶額 | 中罕 | 額赤格迭 | 米訥 |
|---|---|---|---|
| 如今 | 皇帝 | 父行 | 我的 |
| edö'ē | qan | ečige-de | minu |
| 今は | 汗なる父 | に | ←わが |

| 撒亦途舌児 | 那可扯周 | 斡古惕坤 | 委亦当中合 | 客額克迭兀者塔 |
|---|---|---|---|---|
| 好生 | 做伴着 | 與您 | 好意慢 | 恐被説您 |
| sayitur | nökččejü | ögüdkün, | uiyidangca | ke'ēgde'ūǰē ta, |
| よく | 伴たりて | 与えよ, | 「あきやすし」 | と云われまいぞ汝等, |

| 察兀惕中忽舌里因 | 禿(舌)魯黒額列 | 阿主為 | 不 | 客額兀魯惕坤 | 中忽舌児班 |
|---|---|---|---|---|---|
| 官名的 | 倚伏但 | 有来 | 休 | 被説您 | 三 |
| Ča'ūd=quri-yin | tuluc ele | aǰu'ū | bū | ke'ē'ūldkün, | gurban |
| 「ヂャウト・クリの | 支えられものにてぞ | ありき」 | と | 言われまじ, | 三 |

| 沐舌洌敦 | 帖舌里温 | 客捏別舌児 | 不 | 保兀魯惕中渾 | 客額周 | 亦列罷原作別 (112) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 河的 | 源頭 | 任誰行也 | 休 | 教下営 | 説着 | 去了 |
| müred-ün | teri'ūn | ken-e-ber | bū | bauų'ūludqun | ke'ējü | ilebe. |
| 河の | 源に | 誰にても | 下營さすまじ" | | とて | 遣りぬ。 |

〈5〉 § 190 (七14五～14十) 阿剌中忽石的吉惕中忽舌里　月麼忽難

人名　人名
Alaquši=didigid=quri　Yuqunan
アラクシ・ディディギド・クリ　ユクナン

捏舌列禿　額勒赤耶舌里顔　成吉思中合罕納　鳴詁列周　亦列舌侖　乃馬訥
名字有的　使臣　自的行　太祖　皇帝　行　說着　去　種名的
neretü　elčin-iyēr-iyēn　Činggis　qahan-a　ügülejü　ilerün　Naiman-u
なる名の　使者　もて←己が　チンギス　可汗　に　言いて　遣るに　"ナイマン族の

塔陽　中罕　中豁舌児　赤訥　阿不舌剌　亦舌列梅　納馬宜　巴舌剌温
人名　皇帝　箭筒　你的　取　来　有　我　行　右
Tayang　qan　qor　činu　abura　iremüi,　namayi　bara'ūn
タヤン　汗　矢筒を　←汝の　とるべく　来る,　我を　「右

中合舌児孛勒　客額周　亦舌列主兀　必　額薛孛勒罷　額朶額必　赤馬荅
手　做　說着　来了有　我　不曾　做了　如今　我　你　行
gar　bol　ke'ējü　irejü'ū,　bi　ese　bolba,　edö'ē　bi　čimada
翼　なれ」　とて　来れり,　我　否ぜなりき。　今　我　汝に

薛舌列兀勒周　亦列罷原作別　亦舌列周　中豁舌里顔　阿卜荅兀澤　赤　客額周
教　省　着　去了　来　着　箭筒自的行　恐被要了　你　說着
sere'ūljü　ilebe.　irejü　qor-iyān　abda'ūǰāi　či　ke'ējü
知らせ　遣りぬ。　来て　矢筒　を(己が)　奪われまいぞ　汝"　とて

亦列主為。(113)
去了有
ilejü'ūi.
遣りぬ。

〈6〉 § 199 (八6九～7八) 帖迭泥　只兀舌児禿　孛勒周　你思抽
他每行　翅　有的　做着　飛　着
teden-i　ǰi'ūrtü　bolǰu　nisčü
彼等が　翼　もち　なりて　飛びて

騰格舌理突舌尾　中合舌魯阿速　赤　速別額台　升中豁舌児　孛勒周　你思抽
天　行　上　呵　您　人名　海青　做着　飛
tenggeri-dür　garu'āsu　či　Sübe'ētei　šingqor　bolǰu　nisčü
天　に　上らば,　汝　スベエテイ　海青　たりて　飛びて

| 兀禄兀 | 把舌里兀只宜 | 塔舌児巴中罕 | 孛勒周 | 乞木速阿舌里顔 | 馬勒塔周 |
|---|---|---|---|---|---|
| 不 | 拿 麼 | 土撥鼠 | 做着 | 爪甲 自的行 | 跪 着 |
| ülü'ü | bari'ūǰiyi, | tarbacan | bolǰu | qimusu'ār-iyān | maltaǰu |
| 拿えざらましや, | | タルバガン | たりて | 爪 もて ← 己が | 掘りて |

| 中合札舌児途舌児 | 斡舌羅阿速 | 察里舌児 | 孛勒周 | 捌乞周 | 額舌里周 | 〈兀〉禄兀 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地 行 | 入 呵 | 鉄 鍬 | 做着 | 繋 着 | 尋 着 | 不 |
| ǥaǰar-tur | oro'āsu | čalir | bolǰu | čokiǰu | eriǰü | ülü'ü |
| 地 に | 入らば | 鍬 | たりて | 打ち | 求め | 追いつ |

| 古亦扯古 | 赤……。(114) |
|---|---|
| 趕上麼 | 你 |
| güyičekü | či……。 |
| かざるや | 汝……。 |

文例1の「孛魯勒察兀齋」bolulča'ūǰāi は bol-u-lča-'ūǰāi と分析され，漢字「兀齋」によって -'ūǰāi が表記されている。文例5の「阿卜苔兀澤」abda'ūǰai では「兀澤」が -'ūǰāi を表わしている。

文例2, 3の「兀年米〔石〕格兀澤」,「亦列兀澤」においても「兀澤」が見え，これは女性母音語幹なので üne(n)mišigē'ūǰei, ile'ūǰei と転写される。文例4の「客額克迭兀者」ke'ēgde'ūǰē の「兀者」は「兀齋，兀澤」の文字面での変種である。文例6の「把舌里兀只宜」bari'ūǰiyī の「兀只宜」も同種の変種と見られる。

この語尾は《第三者が，ある行為・動作を“行なわなければよいが…；行なわないように”との話し手の懸念，心配》を表わし，丁度，文語の -ǥaraj[2]，ハルハ方言などの -aapaй[4] の逆の意味を示す。

文例1の minu tula aqa de'ū-dür maų'ūqalin bolulča'ūǰai はベルグテイが“私のために兄弟仲違いしないように”との表現で -'ūǰāi の好例である。文例2の haran ba üne(n)mišigē'ūǰei も“普通の人々が本当と思わなければいいのですが”というイェケチェレンの妻の懸念がよく表わされている。

文例3の Širgü'ētü namayi alaǰu ile'ūǰēi も“シルダエトゥが私を殺してしまうといけないから”という話しの強い懸念を表わしている。

文例4の uiyidangɢa ke'ēgde'ūjē "あきっぽいと言われないように"，日本語の文語的表現を使えば，この場合は《ゆめ～まいぞ》ということになろう。

文例5の qor-iyān abda'ūjaį "矢筒を取られよいように，取られまいぞ" の -'ūjāį も，この語尾の意味がしっかり表われている。

文例6の ülü'ū bari'ūjiyī は否定疑問の意を表わす ülü'ū が bari'ūjiyi に前置されていて，なかなか直訳困難であるが，teden-i から bari'ūjiyi までの文意は《彼等が翼もち飛び天空に上らば，汝スベエテイ海青たりて飛び促えざらんや》となり，懸命形の打消しに反語の疑問が附加された形と読めるであろう。

上記の -ɢāraį[2]，-aapaй[4] が秘史蒙古語には未だ一例も見られないのに，その反対の意味内容を示す -ūjāį[2] の方がこの様に使用されているのに筆者は興味を感じる。-ɢāraį[2] が何時頃から文献の世界に現われ始めるかも調べる必要のある問題である。

最後に，この語尾の意義素を《話し手以外の第三者がある動作を行なわいようにとの話し手の懸念・疑念・心配》を表示すると措定しておく。

### (i) -d

この語尾 -d に最初に注目したのは C. A. Козин 氏であり，彼はこの語尾を indicativform と認め，Poppe 氏もこれに従っている。(1) 筆者もかってはこれを indicativeform と認めたが，現在では，むしろ，《断定法》とでも呼ぶべき意味を表わす語尾と考える。以下に用例と共に述べる。

〈1〉 §21 (—13—～13七)

| 雪你揚 | 不舌里 | | 超堅 | 失舌剌 | 古温 |
|---|---|---|---|---|---|
| 夜 | 毎 | | 明 | 黄 | 人 |
| sönid | büri | | čeüɢen | šira | kü'ūn |
| 夜 | ごとに | | 薄 | 黄 | の 人 |

| 格舌侖 | 額舌魯格 | 朶脫中合因 | 格格額児 | 斡舌羅周 | 客額里 | 米訥 | 必里周 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 房的 | 天窓 | 門額 的 | 明裏 | 入着 | 肚皮 | 我的 | 摩着 |
| ger-ün | erüge | dotoɢa-yin | gege'ēr | oroju | ke'ēli | minu | bilijü |
| ゲル の | 天窓 | 戸上のあき間 の | 明るみもて | 入り， | 腹を ← | わが | さすりて， |

格格延 亦訥 客額里突児 米訥 升格古 不列額 中合(舌)魯舌侖 納舌闌
明 他的 肚皮 裏 我的 透 有来 出 時 日
gegeyēn inu ke'ēli-dür minu šinggekü büle'ē. garurun naran
光 ← その 腹 に ← わが しみ透る なりき。 出ずるに, 日

撒舌剌因 乞里耶児 失舌剌那孩篾圖 拭察班勒札周中合児中忽不列額 迭列篾
月 的 透入裏 黄 狗 般 爬 着 出 有来 造次
sara-yin kiliyēr šira noqaį metü šičabalǰaju garqu büle'ē, deleme
月 の 境の頃, 黄色き 犬 のごと 這い 出ずる なりき, みだりに

也勤 鳴詁列惕塔 挑兀別児兀(中)合阿速 忝迭克亦訥 騰吉舌里因 可兀(惕)
如何 說 您 為那般 省 呵 明白 他的 天 的 子
yēkin ügüled ta. teū'ūber uqa'āsu temdeg inu tenggeri-yin kō'ūd
如何 に 言うぞ 汝等。 そをもて 省みれば 示すところ ←その 天 の 子

備由者 中合舌剌 帖舌里兀禿 古温途児 中合泥勤中罕 也勤 鳴詁列惕塔
有也者 黒 頭 人 行 比 若 如何 說 您
büyü-ǰe. qara teri'ūtü kü'ūn-ṭür qanilgan yēkin ügüled ta.
なる ぞ。 黒き 頭もてる 人 に なぞらえ 如何に 言うぞ 汝等。

中合木中渾中合惕 孛魯阿速 中合(舌)剌除思 田迭 兀中合惕者 客額罷。(115)
普的 帝王 做 呵 下 民 那裏 省 說了
qamuɢ-un qad bolu'āsu qaračus tende uqad-ǰe ke'ēbe.
普 ぎ 王達 たらば 平民達は そこに 省み覚るなり" と云いぬ。

〈2〉 §64 (一44六～44十) 巴 翁吉舌剌惕 亦児堅 額児帖
俺 百姓 自在前
ba Unggirad irgen erte
われ等 ウンギラ族 人衆 昔の

兀都舌列址 者額因 只孫 斡乞訥 汪格田 兀魯思兀禄 帖篾徹惕
日 子 外甥的 顔色 女的 顔色有的毎 国 不 争
üdür-eče ǰe'ē-yin ǰisün ökin-ü önggeten, ulus ülü temečed,
日より 娘 の 容色, 乙女 の 顔色もてり, 人々 争わざるなり,

中合察児 中豁阿斡乞的 中合罕 孛魯黒撒納 塔訥 中合撒黒帖児堅圖児
腮 美 女子行 皇帝 做 了 您的 大 車 裏
qačar go'a ökid-i qahan bolugsan-a tan-u qasag tergen-ṭür
頬 美わしき 乙女等を 汗 たりし(もの) に ←汝等の 高き 車 に

兀訥温勤周 中合舌剌不兀舌剌 可勤格周 中合塔舌剌温勤周 斡揚拙 中合屯
教坐 着 黒 駝 駝 駕 着 點 着 去着 娘子
unu'ū(n)lju qara bu'ūra kölgejü qatara'ū(n)lju odču qatun
の せ, 黒き 雄駱駝を つけ 馳 ら せ 行きて 右の

撒兀舌鄰圖児 中含禿 撒兀魯模 巴 兀魯思 亦児堅 兀禄 帖篾徹揚 (116)
位 裏 一箇 教坐有来 俺 國 百姓 不 爭
sa'ūrin-ṯur qamtu sa'ūlumu ba, ulus irgen ülü temečed.
座 に ともに 即かしむ 我等, 民人, 人衆は 爭はざるなり。

〈3〉 §153 (五17五～17七) 成吉思中合罕 札撒黒 鳴詁列勤都舌論
太祖 皇帝 軍法 共 説
Činggis qahān ǰasag ügüleldürün
チンギス 可汗 軍規を 申しあわせて言う

歹亦孫古兀 荅舌魯阿速 斡勤札突舌児 不 擺亦牙 荅舌侖巴舌剌阿速
敵 人 勝了呵 財 行 休 立 咱 勝 了 呵
daiyisun kü'ü daru'āsu olja-dur bū baiyiya darun bara'āsu
"敵 人を 下すも 戦利品 に 立ちどまるまじ, 下し 終らば

帖舌列 斡勤札 必荅訥埃 備者 中忽必牙勤都揚者 必荅 那闊舌児古兀捏
那 財 咱毎 的 有也者 共分 也者 咱 被敵人行
tere olja bidan-u'āi büi~ǰe, qubiyaldud~ǰe bida, nökör kü'ūn-e
その 戦利品 我等 のもの るなぞ, 分けありものぞ 我等, 敵 人 にて

亦出阿黒荅阿速 土舌魯訥 多卜禿魯黒三 中合札舌児都舌里顔 額客額舌魯〈也〉
趕 退 呵 始初的 衝 的 地面裏自的行 翻 身 咱
iču'āgda'āsu türün-ü dobtulugsan gaǰar-dur-iyān eke'ērüye,
退かさるれば もと の 襲撃せる 地 に ← 己が もどらん,

土舌魯訥 多卜禿勤中罕突舌児 額薛 額客額舌魯克先 古兀泥 抹可舌里兀魯〈也〉
始初的 衝 的 時裏 不曾 翻身 的 人行 斬 了 者 咱
türün-ü dobtulgan-dur ese eke'ērügsen kü'ūn-i mököri'ūlüye
もと の 襲撃(地) に もどらざる 人 を 斬らしめん"

客延 札撒黒刺勤都罷原作伯 (117)
慶道 共 整 治 了
keyēn ǰasaglalduba.
とて 軍規を定め合いぬ。

〈4〉 §176 (六19八～20三)

| 中合勿中合因 | 捕魚舌児 | 納浯舌児途舌児 |
|---|---|---|
| 河名的 | 海子名 | 海子行 |
| Qalqa-yin | Büyür | na'ūr-tur |
| "ハルハ河の | ブュル | 湖に |

| 赤惕中忽中忽 | 忽札兀舌剌 | 帖舌児格(克) | 〈額〉篾勒田 | 翁吉舌剌惕 | 備客延 |
|---|---|---|---|---|---|
| 注的 | 根源行 | 人名 | 人名等 | 種 | 有麼道 |
| čidququ | huja'ūr-a | Tergeg | Emēl-ten | Unggirad | büi keyēn |
| 注ぐ | 河口に | テルゲク | エメル等の | ウンギラド族 | あり" と |

| 篾迭周 | 主舌児址迭宜 | 兀魯兀的牙舌児 | 亦列罷原作伯 | 亦列舌侖 | 翁吉舌剌惕 |
|---|---|---|---|---|---|
| 知着 | 人名行 | (種名)領着 | 教去了 | 去時 | 種 |
| medejü | Jürčede(i)-yi | Uru'ūd-iyār | ilebe. | ilerün | Unggirad |
| 知りて | ヂュルチェデイをして | ウルウド族もて | 遣りぬ。 | 遣わす | "ウンギラド |

| 亦舌児堅 | 額舌児帖 | 兀都舌列徹 | 者因 | 只速額舌児 | 斡乞訥 | 汪格額舌児 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 百姓 | 在前 | 日子行 | 外甥的 | 容貌依着 | 女的 | 顔色依着 |
| irgen | erte | üdür-eče | jē-yin | jisü'ēr | ōkin-ü | öngge-ēr |
| 人衆 | 「昔の | 日より | 娘の | 容色もて, | 乙女の | 顔色もて」 |

| 客額速 | 額勒薛惕者 | 木惕 | 不勒中合亦訥 | 客額速 | 中合惕中忽勒都惕者 | 必荅 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 説咱 | 投降也者 | 他每 | 反他的 | 説呵 | 斯殺也者 | 咱每 |
| kē'ēsü | elsed-je | mud | bulga inu | kē'ēsü | qadquldud-je | bida |
| と云わば, | 和解するなり, | 彼等 | 「反逆←彼等の」 | と云わば | 合戦するなり | 我等" |

| 客額周 | 亦列額速 | 主舌額址歹突舌児 | 額勒先 | 斡舌羅主為。(118) |
|---|---|---|---|---|
| 説着 | 去了 | 人名 | 投降 | 入了 |
| ke'ējü | ile'ēsü | Jürčedei-dür | elsen | oroju'ui. |
| とて | 遣らば | ヂュルチェデイに | 降り | 入りたり。 |

〈5〉 §195 (七33八～34四)

| 帖迭 | 朶舌児邊 | 那中孩思 | 失舌列門 |
|---|---|---|---|
| 那的每 | 四個 | 狗每 | 生鋼 |
| tede | dörben | noqais | širemün |
| 彼等 | 四匹の | 犬ども | 生鉄の |

| 葬来壇 | 石兀赤 | 中豁失兀壇 | 石不格 | 客列田 | 帖木(舌)児斡舌列田 |
|---|---|---|---|---|---|
| 額顱有的 | 鑿子 | 嘴有的 | 錐子 | 舌有的 | 鏃心有的 |
| manglaitan, | ši'ūči | qoši'ūtan, | šibüge | keleten, | temür öreten, |
| 額をもち, | のみの | 嘴をもち, | 錐の | 舌をもち, | 鉄の心をもち, |

兀勤都米納阿壇　失兀迭舌里　亦咥周　克兀訥周　迓歩揚　帖迭
鋸刀 做鋸 有的　露　喫 着　風 騎着　行每　那的每
üldü mina'ātan,　ši'ǖderi　idejü　kei unuju　yabud tede,
剣の 鋸をもち,　露 を　くらいて,　風にのりて,　行くなるぞ 彼等

阿剌勤都中灰　兀都舌児　哈舌剌訥　米中合　亦咥揚　〈帖〉迭　古舌魯勤扯古兀都舌児
厮殺 的　日　人 的　肉　喫每　那的每　相 到 的　日
alalduquį　üdür　haran-u　miqa　ided　tede,　kürülčekü　üdür
殺し合う　日には　人　肉を　くらうなるぞ彼等,　到り合う　日には

古兀訥米中合　古捏速列揚　帖迭　斤只邊　木勤禿勤迭周　額朶額　額薛兀
人 的 肉　做行粮　那的每　鉄索自的行　被脱着　如今　不曽麼
kü'ün-ü miqa　künesüled tede,　ginji-bēn　mültüldejü　edö'ē　ese'ü
人　肉を　食するぞ　彼等,　鎖 を(己が)　とかれて　今や　*あらずや

不黒撒周　阿黒撒揚　巴牙思拙　帖因　失列篾勤穫　阿亦賽　帖迭　客額主為。(119)
拘束着　有的每　喜歓着　那般　垂涎着　来 也　那的每　説 了
bucsaju　acsad　bayasču　teyin　šilemeljen　ayisaį　tede　ke'ējü'üį.
怒りたけたる者　喜びて　かく　涎をたらし　来れる*　彼等"　と云いたり。

〈6〉 §189 (七9九～10二)　田迭　可克薛兀撒(卜)舌剌黒　鳴詁列主兀
那裏　人 名　説 了 有
tende　Kögse'ü=sabrag　ügülejü'ü,
えこに　コグセウ・サブラグ　言いたり,

兀窟克先　中罕古兀訥　帖舌里温　亦訥塔古　(口)豁黒脫勤周　阿卜赤舌剌揚
死了的　皇帝 人 的　頭　他的 您 也　割断 着　将 来
üküsen　qan kü'ün-ü　teri'ün　inu ta~kü　hoctolju　abčirad
"死せる　汗たる 人 の　頭を　← 彼の 汝等　きりとりて　もち来れるぞ

那闊額帖　塔 古　客木格舌里揚　牙温　勺乞(中)灰　那中合訥　必荅訥
第二次　您 也　教砕 了　甚麼　宜 的　狗 的　咱的
nökö'ēte　ta~kü　kemkerid　ya'ūn　joqiquį,　noqan-u　bidan-u
次に　汝等　踏み砕くなり,　いかに　適うべき,　犬 の ← 我等 の

中忽察(中)灰　擣温　卯危孛勤畢　亦難察必勤格中罕　鳴詁列列額
吠 的　声　歹 做了　人 名　皇帝　説 来
qučaqui　dauˇun　mauˇüį bolbi,　Inanča-bilge qan　ügülele'ē,
吠ゆる　声　悪しく　なれり,　イナンチャ・ビルゲ 汗　(かつて)言えり,

額篾　札札為　額舌列必　斡脱勒罷原作別 (120)
婦人　年少　丈夫 我　老 了……。
eme　jala'ūi　ere bi　ötölbe…….
妻　若く，　夫なる 我　老いぬ……。"

〈7〉 §145 (四40三～40七)　札兀舌剌　斡都舌倫　巴　亦舌列舌倫　巴
其間　去 時　并　来 時　并
ja'ūra　odurun　ba　irerün　ba
その間　行くに　も　来るに　も

古溫捏　額薛　兀者克迭罷　騰格舌理 古　亦協額罷　者　塔舌剌黒
被人行　不曽　見 了　天 只　讓 助了　也者　酪
kü'ūn-ne　ese　üjegdebe,　tenggeri-kü　ihe'ēbe-je,　tarag
人 に　見られざりき。　天 ぞ　護れり，　乳酪を

不舌里額禿宜　阿卜赤舌剌惕　門　者勒篾　斡額孫　古　兀孫　額舌里周
器皿中盛来有的行　将来 了　只　人名　自 己　只　水　尋 着
büri'ētü-yi　abčirād　mun　jelme　ö'ēsün-kü　usun　eriju
器に入れたるを　もち来りて，　その　ヂェルメ　自ら　水を　求め

阿卜赤舌剌周　塔舌剌黒　只兀舌〈剌〉周　中合阿納　兀兀勒罷。(121)
要 着　酪　調 着　皇帝行　教飲了
abčiraju　tarag　ji'ūraju　qa'ān-a　u'ūlba.
もち来りて　乳酪を　混ぜ　可汗 に　飲ましめぬ。

以上の文例——6, 7を除く——に用いられている -d を調べて見ると次の事実を知る。即ち，-d は常に引用動詞《～と云う》に導かれた文中において用いられ，その際，複数形の主語に呼応して用いられ，多くの場合，間投詞「者 ~je」と共に用いられるという事である。

この語尾 -d をもつ実例は秘史全巻を通じて26例を求めうるが，その中で，文例6, 7の3例の中，7の -d は後述するように，この語尾から除外されるので，全24例である。この24例の総てに，上述の二項 (ke'ē- に導かれる文中，及び複数形主語の存在) は適用され，14例は ~je を伴って現われている。

上の事実から，-d は，専ら口語表現において用いられ，その表わす意義素を《複数の主体，集団が，ある動作を断定的に遂行する》と措定することが出

来る。主体の意志が，強く，断定的に行なわれるという点から見て，筆者は，-d を，“a rare present-future tense form” ([P. H. S.] p. 39, c) 参照) とは見ずに，conclusive (或いは decidive) form の語尾と呼びたい。

文例を，二つほど補足して，更に説明を加えよう。

〈8〉 §227 (九43三～43八)

客失兀敦 斡脫古思 阿中合剌黑荅罷
斑每的 為長的分 為 長 了
keši'ŭd-ün ötögüs aqalacdaba

額列 客延 撒察温 斡舌羅黑撒惕 米訥 客失克帖泥 納荅察 額耶 兀該
但 壓道 同等每 入了的。 我的 願衛的每行 我 行 商量 無
ele keyēn sača'ūn orogsad minu kešigten-i nadača eye ügei

不 桓叱都惕(中)渾 札撒(黑) 欵迭額速 納荅只阿惕中渾 抹闊舌里兀勒坤
休 怪 責 者 您 法度 勸著呵 我行 告 您 分處 斬 的
bŭ hončidudqun, jasag könde'ēsü nada ji'ādqun mököri'ŭlkün

約速壇 孛額速 必荅 抹闊舌里兀魯(惕)者(2) 你失黑荅中渾 約速壇 孛額速
理有的每 有 呵 俺 處 斬 也 者 合打的每 理有的每 有 呵
yosutan bö'ēsü bida mököri'ŭlüd~je nišigdaqun yosutan bö'ēsü

客卜帖兀勒周 你失惕者。(122)
教臥 着 打 也者
kebte'ŭljü nišid~je

〈9〉 §278 (廿45八～46三)

札撒黑 欵帖額速 必荅納 札阿禿中孩
法度 勸 呵 咱每行 告 者
jasag könte'ēsü bidan-a ja'ātugaj,

兀窟兀勒迭古 約速禿 孛額速 必荅 抹闊舌里兀魯惕者 客薛額克迭古
可教死的 理 有的 有 呵 咱每 斬 也者 可惩戒 的
ükü'ŭldekü yosutu bö'ēsü bida mököri'ŭlüd~je kese'ēgdekü

約速禿 孛額速 必荅 雪余惕者。(123)
理有的 有 呵 咱每 教導也者
yosutu bö'ēsü bida söyüd~je

ここに追加した文例8, 9は法に触れた人々の処置を述べた内容であり，“斬るべき者は斬り，打つべき者は打ち，教導すべき者は教導する”という強い意志を以てする断行を提示する，この語尾 -d を伴なう動詞が用いられている。けだし好例と言うべきである。

ここで，最初に例外として残しておいた文例6, 7に言及する。

この -d を，起源的には converbum modale（様式副動詞）-n の複数形とする上述のポッペ説の一資料として文例6を読むことも可能ではある。文例6の内容はナイマン族の闘将コグセウ・サブラグのタヤン汗に対する諫言を含んだ歎息の文章である。曰く“死せる皇帝人の頭を，汝等・斬りて持ち来り (abčirad)，更には，汝等　践み砕き (kemkerid)，いかに適うべき”と。ここに見られる二つの -d は上記の如く副動詞 -n の機能を示す訳文を施しうるが，一方，“死せる皇帝人の頭を，汝等　斬りて持ち来れるぞ，更には，汝等践み砕けるぞ，いかに適うべき”のように，今問題にしている -d の意味にとっても十分読解可能である。しかし，このいずれを採るべきかとなれば，筆者はやはり後者の解を採りたい，前者の -n の複数 -d 形と理解するよりも「断定決行の -d」と解する方が，より文意に則すると筆者には感じられるからである。“-d は起源的には -n の複数形”とする強い根拠は現在の処実証されているとは言えず，この点から見ても，上のポッペ説に，遽には左袒しがたい。

文例7の阿卜赤舌剌惕 abčirad の -d は，筆者の考えでは，-d と認めるべきではなく，阿卜赤舌剌惕を，阿卜赤舌剌阿惕 abčira'ād の不完全表記か，或いは abčirād と読み，いずれにしても，分離副動詞語尾 -'ād の不完全表記形と認むべきものと考える。従って，語尾 -d の用例ではなく，-ād[2] の用例に加えらるべきである。(3)

この -d を -ād の不完全表記形と認むべき根拠はは明確である。-d のもつ特徴たる複数形の主語との共存，間投詞 ~je の不在，更に文脈から見た意味上の不適格などから断言できる。

以上，第一講及び本講において，筆者は，秘史蒙古語に現われる，総ての動詞終止形語尾を記述し終った。この他にも，現在・未来の形動尾 -qu², -qui², -qun² が，否定文及び疑問文（及び，ごく稀には平叙文）において終止形として機能する，若干の文例も発見されるが，それら諸例については，該当の形動詞の項で言及することにしたい。

**第二講の註**

（1） N. N. Poppe, Die Sprache der mongolischen Quadradschrift und das Yüan-ch'ao pi-shi. Asia Maĵor, Neue Folge, I Jahrgang 1944, 1 Heft.
N. Poppe, The Mongolian Monuments in Ḥp'ags-pa Script, Otto Harrasowitz, Wiesbaden, 1957.

（2） この語「抹闊舌里兀魯(惕)者」は従来，総ての研究者によって，正しく読まれていない。(惕)を補って，mökŏri'ŭlŭd-ǰe と読むべきである。なお，筆者の「元朝秘史全釈続攷（中）」p. 299の註（12）を参照されたい。

（3） この語「阿卜赤舌剌惕」は従来，Дашцэдэн 氏を除いて総ての研究者によって abčirad と読まれているが，上述したところから知られるように，abčirād と読むべきことが知られる。筆者の「元朝秘史全釈（下）」の p. 143を参照されたい。

なお一例を追加する必要がある。§248（二六九）の「額額舌列惕(攻)」e'ēred も「額額舌列額惕」e'ēre'ēd の不完全表記と認められ，e'ēred ではなく e'ērēd と転写されねばならない。この -d は，本項の -d ではなく，分離副動詞 -'ēd と認むべき故である。筆者の「全釈続攷（下）」の p. 229, L1 の e'ēred も e'ērēd と訂正さるべきものである。

# 第三講 動詞の形動詞形

§1. 形動詞形とは形容詞（広く言えば実詞）の職能をもあわせもつ動詞の変化形のことである。日本語の連体形にあたる形と考えていただいて大過ない。動詞と実詞の職能を共有するので，その実詞的職能を重視する観点からүйлт нэр（動名詞），цагт нэр（時間実詞）と呼ぶ学者もいる[1]。筆者は動詞の一変化形と見るので，従来の通り，「形動詞形」と呼んで，以下の記述を行う。

形動詞は上述のように，動詞の職能と実詞の職能を共有する形であるから，文中においては動詞としても実詞としても機能する。

形動詞形は，動詞語幹に一定の語尾の接尾によって形成される。以下に秘史蒙古語に現われる諸語尾を，実例とともに順次記述する。

秘史蒙古語に現われる語尾群は以下の如くである。

Ⅰ．現在・未来の形動詞語尾 -qu², -quį², -qun²

Ⅱ．完了の形動詞語尾 -ɢsan², -ɢsad²

Ⅲ．未完了の形動詞語尾 -'ā², -'āį²

Ⅳ．愛好性表示形動詞語尾 -ɢči², -ɢčin²

Ⅴ．恒常性表示形動詞語尾 -daɢ²

§2. 形動詞語尾の中で多用されるのは，(1) の -qu² 系語尾と (2) の -ɢsan² 系語尾である。まず (1) から始めよう。

［Ⅰ］ -qu², -quį², -qun²

秘史蒙古語における，-qu² 系語尾の特徴は，その文脈において，性と数によって区別されて用いられることである。

-qu² 男性単数形

-quį² 女性単数形；述語形

-qun² 男性・女性を問わない複数形

秘史蒙古語では，以上の体系が，ほゞ確認されるが，問題は -quį² である。

N. Poppe 氏は

> Forms in -**quį* were feminine by origin, and those in -**qu* masculine. Forms in -**qun* were originally plural.[(2)]

と述べているが，少くとも秘史蒙古語における -quį² の用例を見るかぎり，femine とのみ認めるわけには行かない。これは，以下に示す諸実例を見れば自ら明かである。そこで，先ず -quį² の実例から始めよう。-quį² の用例は150余例を数えるが，その10例を以下に挙げる。

[a] -quį²

〈1〉 §194 (七27十～28三)

忙中豁侖 幹籠勤 札木中合魯阿
達達的 多半 人名 一同
Mongɢol-un olungkin Jamuqa-lu'ā
"モンゴル族 の 大半は ヂャムカ と共に

額你迭 必丹突舌児 備
道裏 咱每 行 有
ende bidan-dur büį. kündü eme-yin šį'ēkūį gaǰar-a ese
ここに 我等 に あり。 妊 婦 の 尿する 地 にも

坤都額篾回 失額恢 中合札舌剌 額薛
重 婦人的 尿 處 地 行 不曾

中合舌魯黒三 古舌児都訥 禿中忽侖 別勒只額勒突舌児 額薛 古舌魯克先
出 的 車脚的 犢 的 喫 草 行 不曾 到了的
garuɢsan, kürdün-ü tuɢul-un belǰi'ēl-dür ese kürügsen
出でざる， 車輪 の 仔半 の 牧地 にも 到らざる，

額篾 塔陽 只舌魯格 牙荅舌侖 額薛兀 額迭 兀格思 鳴詰列周
婦人 人名 心 不能時 不曾 這 言語每 說 着
eme Tayang ǰirüge yadarun ese'ū ene üges ügüleǰü
女(の如き) タヤン， 心 臆するに *(ざりしか) この 言を 言いて

亦(舌)列主為。(124)
米 了有
ireǰü'ūį.
来ざりしか*"

〈2〉 §71 (二2七～2十) 帖舌列 兀格圖児 斡児伯莎中合台

那 言語 裏 婦人名 婦人名

tere üge-tür Orbai, Soqatai

その 言 に オルバイ, ソカタイ

只舌鄰中合禿楊 鳴詁列舌論 兀舌里周兀禄 斡克帖恢抹児台 赤 兀赤舌剌阿速

両箇 娘子毎 説 喚 着 不 可與的道子 有的 你 遇 着 呵

jirin qatud ügülerün uriju ülü ögtekü̱ mörtei̱ či, učira'āsu

二人 の 后達の 曰く "招きて 与えられざる 道理あり 汝, 遭遇せば

亦哑古約速台 赤 古舌列周兀禄斡克帖古抹児台 赤 古児帖額速 亦哑古

喫的 理有的 你 請 着 不 可與的 道子有的 你 若到 呵 喫 的

idekü yosutai̱ či güreju ülü ögtekü mörtei̱ či, kürte'ēsü idekü

食する 道理あり 汝, 請いて 与えられざる 道理あり 汝, 到られなば 食する

約速台 赤 俺巴中孩 中合罕 泥 兀窟別兀 赤 客額周 訶額侖捏

理有的 你 名 皇帝 行 死 了 你 説 着 太祖母名 行

yosutai̱ či Ambacai̱ qahan-ni ükübe'ū či ke'ējü Hö'ēlün-ne

道理あり 汝, アムバガイ 可汗 を 死せるぞ 汝, とて ホエルン に

古児帖列 額因 客額克迭恢 孛勒畢 (察額主兀)。(125)

到 了 這般 被 説 的 做了 (説着了)

kürtele eyin ke'ēgdekü̱i̱ bolbi (ke'ējü'ū)

まで かく 云わるるに なれり" (と云いぬ)

〈3〉 §112 (三20六～21二) 別勒古台 額客余延 阿不舌剌 斡楊抽

人 名 母 自的行 取 去着

Belgütei̱ eke-yüyēn abura odču

ベルグテイ 母 を(已が) とりに 行きて

格舌児圖舌児 亦訥 別勒古台把舌剌溫 額閃闐別舌児 斡舌羅中忽魯阿 額客

房 裏 他的 人 名 右 門 裏 入去 呵 母

ger-tür inu Belgütei̱ bara'ūn e'ūden-bēr oroqulu'ā eke

ゲル に ←その ベルグテイは 右の 戸口 より 入らんとするに 母は

亦訥 衲卜褡舌児中孩 羿克絰額勒台 沼溫 額閃闐別舌児 中合舌魯阿楊

他的 破 衣 羊皮 衣 有的 左 門 裏 出 了

inu nabdarqai̱ nekei̱ de'ēltei̱ jeū'ūn e'ūden-bēr garu'ād

←彼の 破れ古びたる 羊皮の衣をきて 左の 戸口 より 出でて

中合荅納 不速 古温捏 鳴詁列舌論 可兀楊米訥 中合楊孛勒主兀
外行 別箇 人行 説 児子毎 我的 王子毎 做了
gadana busu kü'ün-ne ügülerün kö'üd minu qad bolju'u
外にて 他の 人 に 言うに "子遂 ← 我が 王子 となれり

客額克迭梅 必 額你迭 卯危古温 突舌児 土別周 額朶額 可兀的顔
被説 有 我 遣裏 歹人 行 配着 如今 児子毎自的行
ke'ēgdemüi, bi ende mau'ūi kü'ün-dür tubeju edö'ē kö'üd-iyēn
と言わる, 我 ここにて 悪しき 人 に 配され 今 子達 の(己が)

你兀舌児 客舌児 兀者恢 必 察額楊 癸趯周 石中灰 槐突舌児
面 怎生 見 我 説了 走着 密林 裏
ni'ūr ker üjeküi bi kē'ēd güiyiju šigui hoi-dur
顔を いかで 見るや 我" とて 走りて 密 林 に

石舌児中窟主兀。(126)
鐵 入 了
širguju'u.
這りこめり。

〈4〉 §98 (二42六～42九) 訶額侖 額客因 格児朶脥舌剌 歌動勒恢
母名 母的 家 内 動使的
Hö'ēlün eke-yin ger dotora ködölküi
ホルエン 母 の ゲル にて 働く

中豁阿黒臣 額篾堅 孛思拙鳴詁列舌論 額客 額客 斡帖児 孛思 中合札児
婦人名 老婦人 起着 説 母 母 疾快 起 地
Qo'āgčin emegen bosču ügülerün eke eke öter bos gaǰar
コアクチン 老婆 起きて 曰く "母よ 母よ とく 起きよ, 地

迭児別魯梅 土不舌里温 莎那思塔木 札勒中含失黒壇 泰亦赤兀(楊) 阿亦孫
顫 動有 震的声 聴 得 着 擾怕了 的 種 名 毎 来
derbelümüi tübüri'ūn sonostamu, ǰalqamšigtan Taiyiči'ūd ayisun
ゆれてあり, 蹄の音 聞こえあり, 恐るべき タイチウド族 来りて

阿中忽訥 額客斡帖児 孛思 客額畢。(127)
莫 不有 母 疾快 起 説了
aqun-ū eke öter bos ke'ēbi.
ある や 母 とく 起きよ" と云いぬ。

〈5〉 §155 (五22六～22十)

也速干中合敦 鳴詁列舌論 中合罕
名 娘子 說 皇帝
Yesügen qaḏun ügülerün qahān
イェスゲン 妃の 曰く "可汗

莎余舌児中合阿速 納馬宜 古兀捏 孛多荅 孛勤中合周 阿撒舌剌木
恩 賜 呵 我 行 人 行 物 行 做 着 擡挙 有
soyurqa'āsu namayi kü'ün-e bodo-da bolɢaju asaramu.
おゆるし下されば(申します) 我をば 人 に，大切なものに なして 世話しあり。

納荅察 額格赤 也遂 捏舌列台 納荅察 迭額舌列中罕 古兀捏 勺乞中灰
比我 姐姐 名 名字有的 比我 高 皇帝 人行 合宜的
nadača egeči Yesüi̯ neretei̯ nadača de'ēre qan kü'ün-e joqiqui̯
我より 姉なる イェスイなる名の者 我より まして 汗なる 人 に 適する

阿只埃者 賽亦 古舌列干 古舌列格連 不里吉 額朶額 馬中合 額捏
有来 也者 恰纔 女 婿 做女婿 有来 如今 不知 遣
aǰi'āi̯~je, sayi küregen küregelen büligi. edö'ē maqa ene
ならんぞ さき頃 婿 を とりて ありき。 今は はて この

孛都勤中罕突舌児 (中)合阿黒石 約舌児赤畢 客額畢。(128)
乱 離 裏 那 裏 去 了 說了
bodulɢan-dur qa'āɢši yorčibi ke'ēbi.
乱れ にて いづくへ 行けるか" と云いぬ。

〈6〉 §281 (十54十～55五)

斡歌歹中合罕 鳴詁列舌論 額赤格余延
名 皇帝 說 父 自的行
Ögödei̯ qahān ügülerün ečige-yüyēn
オゴデイ 可汗の 曰く "父 の(己が)

也客斡舌欒突舌児 撒兀周 中合罕額赤格曰 中豁亦納 委亦列都克先 米訥
大 位 裏 坐着 皇帝 父 的 後 做了的勾当 我的
yeke oron-dur sa'ūju qahān ečige-yin qoyina üi̯iledügsen minu
大 位 に 即きて 可汗なる 父 の 後に 行いしは ← 我が

札中忽敦 亦舌児堅突舌児 阿牙剌周 札中忽惕 亦舌児堅 木中忽惕中合罷 必
金人的 百姓 行 征進着 金人每 百姓 窮 絶 了 我
ǰaɢud-un irgen-dür ayalaǰu ǰaɢud irgen muqudqaba bi,
ヂャグド の 人衆 に 征旅し ヂャグドの 人衆を きわめつくせり 我,

那闊額 委亦列 米訥 額勒臣 必荅訥 札兀舌剌 斡帖舌児連 哈兀勒中灰
第二 勾当 我的 使臣 咱的 路間 快 走的
nökö'ē üiyile minu elčin bidan-u ja'ūra öterlen ha'ūlquį,
次なる 行為は ← 我が 使者が ← 我等 の 道中 すみやかに 馳り,

巴撒 客舌列克 〈折〉舌列吉顔 拙額兀勒古耶 札木惕 塔勒必兀勒罷。(129)
再 所用 需 自的行 教撤運的行 站毎 教 放 了
basa kereg jereg-iyēn jö'ē'ūlküį-e jamūd talbi'ūlba.
又 必要なる 昌々 を 運ばしむる に 駅程を 置かしめたり。

〈7〉 §170 (五1五～2四) 阿勒赤歹因 阿黒騮思 阿都兀剌兀勒孫
人名的 騮馬毎 教放牧的
Alčidaį-yin agtas adu'ūla'ūlsun
アルチダイ の 騮馬 放牧人

赤吉歹 牙的舌児 主亦列 主亦列 那中豁安突舌児 阿黒騮昔顔 阿都兀闌
人名 人名 一路 一路 青草裏 騮馬毎白的行 牧放
Čigideį, Yadir jüyile jüyile nogo'ān-dur agtas-iyān adu'ūlan
チギディ, イャディル ところ どころ 緑草地 にて 騮馬 を(己が) 放牧し

迸歩中灰突舌児 (中)豁亦那察 卯温都舌侖 額不舌里耶舌児 忽剌安不舌魯中合惕
行的 時 自 後 山名的 前 依着 地 名
yabuquį-dur qoyina-ča Mauˇ=ündür-ün ebür-iyēr Hula'ān=buruqad
行く 時 後 より マウ・ウンドル の 南面 を フラアン・ブルカド を

荅阿舌鄰 阿亦〈速〉中灰 歹亦訥 脱兀速泥 兀者周 歹因 古舌児罷
経過 来的 敵的 塵土行 見着 敵 到来了
da'ārin ayisuquį daįyin-u to'ūsun-i üjejü daįyin kürbe
経て 来る 敵軍 の 破塵 を 見て "敵人 到れり"

客額周……。 (130)
説着……。
ke'ējü…….
と云いて……。

〈8〉 §171 (六9九～10二) 阿泥荅舌魯周 升格恢 納舌闌
他毎行 勝着 落的 日
ani daruju šinggekūį naran
彼等を 制して 沈む 日輪の

中忽不舌里 迭額舌列 塔申 不恢突舌児 必荅訥埃 額客額舌児抽
低山 上 伯 有的 痛的 翻着
quburi de'ēre tašin büküi-dür bidan-u-'āi eke'ērčü
立の 上に かかり ある時 我々のものども もどりて,

中忽亦勒荅里 兀納黒三 牙舌剌禿亘 阿不阿傷 中合舌里周 成吉思中合罕
人名 行 到了的 傷有的行 将了 回着 太祖 皇帝
Quyildar-i unaɢsan yaratu-yi abu'ād qariju Činggis qahān
クイルダル を 落ちたる 傷つきたる を 連れ 帰り, チンギス 可汗,

必荅訥埃 王中罕納察 中合傷中忽勒都黒三 中合札(舌)剌察 中合中合察周
咱的 人名 處 顛殺了的 地處 分離着
bidan-u-'āi Ong qan-nača qadquldugsan ɢaǰar-ača qaɢačaju
我等がものども 王 汗 より, 合戦せる 地 より はなれ

兀迭失迭 歌多勒周 中合中合潺 (中)豁那罷原作別。(131)
晩行 動着 分離 宿了
üdeši-de ködöljü qaɢačan qonoba.
夕べのうちに 移り動きて はなれ 宿りぬ。

〈9〉 §194 (七28六～28九) 塔陽中罕 鳴詁列舌論 古出禿
人名 皇帝 説 気力有的
Tayang qan ügülerün kučütü
タヤン 汗の 曰く "力あり

斡抹黒禿 古出魯克 古舌魯勒扯恢 阿剌勒都(中)灰 兀都舌児 馬中合 額捏
勇有的 人名 到的 相殺的 日 莫不 這
omoɢtu Kučülüg kürülčeküi aralduquı üdür maɢa ene
勇ある クチュルグよ 相到り 殺し合う 日に さて この

斡抹吉顔 不塔勒必禿中孩 古舌魯勒纏 中含禿敦 巴舌剌阿速
勇自的行 休放了者 相到 相合 了了呵
omoɢ-iyān bū talbituɢaı kürülčen qamtudun bara'āsu
勇を(己が) 放たぎるべし, 相到り 合戦となり おわらば

中合中合察(中)灰 馬中合 別舌児客備者 客額罷。(132)
相離 莫不 難有也者 説了
qaɢačaquı maɢa berke büi~je ke'ēbe.
はなるるは さて 難く あるぞ" と云いぬ。

〈10〉 §149（五7一～7五） 失舌児古額禿 成吉思中合罕納

人名 太祖 皇帝行
Širgü'ētü Činggis qahān-a
シルグエトゥの チンギス 可汗 に

鳴詔列舌論 塔舌児中忽台乞舌鄰動禿吉 把舌里周 阿亦速舌侖 只池 圖思
説 人名 行 拿着 来着 却 正主
ügülerün Tarɢutaï=qiri(n)ltuɢ-i bariju ayisurun jiči tus
言う "タルグダイ・キリルトゥグ を とらえ 来るに 「なお 己が

中合你顔 兀者額揚 客舌児 兀窟兀動恢 客額周 帖卜臣 牙荅周 塔動必周
皇帝自的行 着着 産生 教死 説着 捨 不能着 放着
qan-iyān üje'ēd ker ükü'ūlküï ke'ējü tebčin yadaju talbiju
汗 を(己が) 見て いかに 死なすべき」 とて 棄つる 能わず 放ち

亦列周 成吉思中合罕納 古出 斡克速客延 亦舌列罷原作別 客額罷原作別。(133)
教去着 太祖 皇帝行 気力 与 慶道 来了 説了
ilejü Činggis qahan-na küčü ögsü keyēn irebe ke'ēbe.
やりて「チンギス 可汗 に 力を 与えん」 とて 来りぬ" と云いぬ。

まず，文例1～5を読んで見よう，〈1〉は，ナイマン族の勇将コグセグ（コグセウ）・サブラグが儒弱なタヤン汗を"女のタヤン"と云ってなじった文の一節である。kündü eme-yin si'ēküï ɢajar の ši'ēküï の主体は kündü eme《姙娠せる女》であるから，-küï は女性形と認めるにやぶさかではない。〈2〉はオルバイ，ソカタイ二人の后の言葉であり，その文中に女性形が現われるであろうことは容易に想像されるが，現に，この文中には ögteküï, kē'ēgdeküï の -küï の他にも，第一講で詳述した $-ba^2$ の女性形 -bi が見られ，更に後述する実詞形成接辞 $-tu^2$ の女性形 $-taï^2$ も用いられていて，-küï が用いられて然るべき環境の文である。しかし，ideküi yosutaï, ögteküï mörteï とあるべき処に idekü yosutaï, ögtekü とも見えて，女性形としての $-quï^2$ の行使が秘史の言語においても，すでに弱まり始められつゝあることを示すかの如くである。（もっとも，こゝでは，最初に ögteküï mörtei と明白な女性形表示が為されているので，後続の idekü yosutaï, ögtekü mörteï においては，idekü̈ï, ögteküï を避けたとも見られるが）。

〈3〉の文中に見られる **üjeküi̯** はベルグテイの母の発した言中に現われている形であり，これ又，女性形の **-küi̯** と認める条件をもっている。この **-küi̯** は終止形として機能していることが注目される。

〈4〉の Hö'ēlün eke-yin ger dotora ködöl**küi̯** Qo'āgčin emegen《ホェルン母の家中で働くコアクチン老婆》の **ködöl küi̯** の **-küi̯** も emegen にかゝる形動詞形であり，女性形と見られる好例と云えよう。この文の末尾には -bi 女性形も見えている。

〈5〉はチンギス可汗の后の一人イェスゲンがチンギス可汗に奏した言葉の一節である。ここに見られる nadača egeči̯ Yesüi̯ neretei̯ nadača de'ēre qan kü'ün-e joqiqui̯ aji'āi̯-je《私より姉の（「年上の」の意）イェスイという名の（もの）は私よりまして，汗たる人に適しているでしょう》における joqiqui̯ の **-qui̯** は，前出の neretei̯ の -tei̯ 女性形，直後の aji'āi̯-je の -ji'āi̯ 女性形との関連において，女性形の **-qui̯** として用いられていると認められる。この文は，更に büligi の -ligi, yorčibi の -bi, ke'ēbi の -bi など秘史蒙古語における女性形諸語尾が豊富に発見される一文である。

以上，〈1〉～〈5〉にあげた諸例は，その使用されている環境から判断して，女性形と見做しうる実例であり，この限りにおいては，$-qui̯^2$ を $-qu^2$ の女性形と認めるよい根拠となりうる用例と思える。

しかし，〈6〉以下の用例を見ると，単純にこの $-qui̯^2$ を女性形と断じ得ないとの結論に達する。

〈6〉の nökö'ē üi̯yile minu elčin ǰa'ūra öterlen ha'ūl**qui̯**, basa kereg ǰereg-iyēn ǰö'ē'ūl**küi̯**-e ǰamūd talbi'ūlba《次なる，わが事業（おこない）は，我等が使臣，道中速かに赴むくべく，また必要なる物々を運ばすべく，駅站を置かしめぬ》の **ha'ūlqui̯** は後出の ǰö'ē'ūlküi̯-e と対比して ha'ūlqui̯-a と読むべきもので，この -a を省略して，ǰö'ē'ūlküi̯-e の -e で ha'ūlqui̯ と ǰö'ē'ūlküi̯ との両方を受けた文である。即ち nökö'ē üi̯yile minu《私の次なる仕事は》, elčin ǰa'ūra öterlen ha'ūlqui̯ (-a),《使者が道中，速かに馳けるように》, basa

kereg ǰereg-iyēn ǰö'ē'ūlkü̱-e《また必要な物々を運ばせるように》, ǰamūd talbi'ūlba《駅站を置かせた（ことである）》と読むべき文章で，こゝでの ha'ūlqu̱, ǰö'ē'ūlkü̱ の -qu̱ と -kü̱ は曲用語尾 -a² を伴って，従属節の述語動詞として用いられ，その主体は elčin であり，女性形と認めることは出来ない。

〈7〉の yabuqu̱も -dur を伴った従属節の述語動詞で，その主体は Čigidei, Yadir という二人の馬飼いであって，-qu̱ を女性形とは認められない。その次に見える ayisqu̱ dayin《せまり来る敵ども》の -qu̱ は dayin を修飾する形動詞本来の機能を示す -qu̱ であるが，これも通常，女性形と認められま(3)い。

〈8〉の šinggekü̱ naran《沈む大陽》の -kü̱ は naran を修飾し，tašin bükü̱-dür の -kü̱ は，曲用語尾 -dür に伴なわれて述語動詞を形成する。共に女性形と見ることは出来まい。

〈9〉の kürülčekü̱ aralduqu̱ の -kü̱, -qu̱ も üdür を修飾し，女性形とは認め難い（これには別の見解もありうるが，ここでは記さない）。

〈10〉の ükü'ūlkü̱ の -kü̱ は疑問文における終止形の機能を果した -kü̱ で，勿論女性形の -kü̱ と認めることは出来ない。

以上の如く，-qu̱² には女性形と目される用法と然らざる用法の二種類の存在が知られる。

従って問題になるのは女性形ならざる -qu̱² が，どの様な場合に用いられるのか，より具体的には，例えば上の〈6〉～〈10〉における -qu̱² などは他の -qu², -qun² と比して，如何なる文脈的特徴の下に用いられるが問われることになる。

そこで，ひとまず -qu² と -qun² について言及すべき時点に立到った。

**[b] -qu²**

〈1〉 §78 (二11二～12三)

| 格児圖児 | 赤舌列周 | 斡舌羅(中)灰魯阿 |
|---|---|---|
| 家 裏 | 来 着 | 入 去 呵 |
| ger-tür | irejü | oroquị-lu'ā |
| ゲル に | (帰り)来り | 入る や |

| 兀真額客 | (中)豁牙児 | 可兀客都延 | 赤舌来 | 兀中合周 | 鳴詁列舌論 |
|---|---|---|---|---|---|
| 名 母 | 両 箇 | 児子毎 行 | 容顔 | 省 着 | 説 |
| üjin eke | qoyar | kö'ūked-üyēn | čiraị | uqaju | ügülerün |
| 夫人なる母は | 二人の | 子達 の(己が) | 顔つきを見て覚り | | 言うに |

| 八舌剌黒撒楊 | 中合剌兀納察 | 米訥 | 中合剌楊 | 中合舌魯舌侖 | 中合児都舌里顔 |
|---|---|---|---|---|---|
| 廃尽了的 | 自熱処 | 我的 | 猛然 | 出 時 | 手 自的裏 |
| baraɢsad | qala'ūn-ača | minu | qalad | ɢarurun | ɢar-ḍur-iyān |
| "無法もの達, | 火戸 より ← 我が | | 激しく | 出ずるに | 手 に ← 己が |

| 中合舌剌那敦 | 哈楊中渾脫舌列里吉 | 額捏中合児必速班 | 中合札中忽 | 中合撒児 |
|---|---|---|---|---|
| 黒 血塊 | 掘 着 生了来 | 這 胞衣 自的行 | 咬 的 | 狗 名 |
| qara nödün | hadqun töreligi | ene. qarbisu-bān | qaǰaqu | Qasar |
| 黒き 血こごりを | つかみて 生れたり | こは。 胞衣 を(己が) | 咬む | カサル |

| 那中孩篾圖 | 中合荅途児 | 多ト禿勒中忽 | 中合ト闌篾圖 | 阿兀舌里顔 | 荅舌侖 |
|---|---|---|---|---|---|
| 狗 般 | 崖子 行 | 衝 的 | 獣名 般 | 気 自的行 | 圧 |
| noqaị metü, | qada-dur | dobtulqu | Qablan metü, | a'ūr-iyān | darun |
| 犬の 如く, | 崖 に | 襲う | 大虎 の如く, | 怒り を(己が) | おさえ |

| 牙荅中忽 | 阿児思闌 | 篾圖 | 阿米都札勒吉速 | 客古 | 蟒(中)古思 | 篾圖 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 不得 | 獅 子 | 般 | 活 的 吞 | 説的 | 森 蛇 | 般 |
| yadaqu | arslan | metü, | amidu ǰalɢisu | kēkü | manɢɢus | metü, |
| 得ざる | 獅子の | 如く, | 生けるを 吞まん | とする | 大蛇の | 如く, |

| 薛兀迭児禿舌里顔 | 多ト禿勒中忽 | 升中豁児 | 篾圖 | 薛米耶児 | 札勒吉中忽 |
|---|---|---|---|---|---|
| 影 自的行 | 衝 的 | 海青 | 般 | 嚥声的 | 吞 的 |
| se'ūder-tür-iyēn | dobtulqu | šingqor | metü, | semiyēr | ǰalɢiqu |
| 影 に ← 己が | 突き進む | 海青の | 如く, | 声をのみて | 呑みこむ |

| 出舌剌中合篾圖 | 孛脫中合你顔 | 孛児必 | 中合札中忽 | 不兀舌剌 | 篾圖 |
|---|---|---|---|---|---|
| 魚 名 般 | 駝羔児 自的行 | 後跟 | 咬 的 | 風雄駝 | 般 |
| Čuraqa metü, | botoɢan-iyān | borbi | qaǰaqu | bu'ūra | metü, |
| 狗魚の 如く, | 仔駱駝 の(己が) | 後腿を | 咬む | 雄駱駝の | 如く, |

孛舌羅罕圖児 失中合中忽 赤那 篾圖 可兀的顔格鄰牙荅周 可兀的顔
風雪 裏 靠着 狼 般 児子每自的行 趕 不得着 子每自的行
borohān-ṭur šiqaqu čino metü, kö'ūd-iyēn gelin yadaju kö'ūd-iyēn
風雪 に 迫り来る 狼の 如く, 子達 を(己が) 追いやり得ず, 子達 を(己が)

亦咥古 昂吉児篾圖 客卜迭石顔 欵迭額速 斡篾児古 啜額孛舌里篾圖
喫的 鴛鴦 般 窩巢 自的顔 動着呵 党 護 射 狼 般
idekü anggir metü, kebdeš-iyēn könde'ēsü ömērkü čō'ēbōri metü,
喫う 黄鴨の 如く, ねぐら を(己が) ふれなば 群がり襲う 射狼の 如く,

把舌里周 兀禄撒阿舌剌中忽 巴児思篾圖 巴剌木揚 多卜禿勒中忽 巴舌魯〈黒〉
拿着 不 不疑弐 的 虎 般 妄 衝 的 獣 名
barïju ülü sa'āraqu bars metü, balamud dobtulqu barug
とらえて ためらわざる 虎の 如く, みだりに 突きつむ 猛犬の

篾圖 把舌剌罷。(134)
般 廃尽了
metū, baraba.
如く 害せり。

〈2〉 §201 (八18五～18九) 迭列該 額朶額 別連 孛魯黒三突舌児
天下 如今 見成 做了 時
delegej edö'ē belen bolugsan-dur
天下の 今や とどのい なれる 時に

那可扯周 牙温土撒 孛勒中忽 必 捫荅 安荅曰 中合舌剌 雪你訥
作伴着 有甚 湾 做的 我 却 契合的 黒 夜的
nökökčejü ya'ūn tusa bolqu bi. munda anda-yin qara sönin-ü
友たりて 如何なる 功助 たるべき 我。 むしろ 盟友 の 暗き 夜 の

沼兀敦突舌児 赤訥 斡舌羅中忽 必 格格延 兀都舌侖 薛揚乞勒 赤訥
夢 裏 你的 入 我 明白 日 裏 心 你的
jeǖ'ūdün-dür činu oroqu bi, gegeyēn üdür-ün sedkil činu
夢 に ← 汝の 入るべし 我, 明るき 日 の 心を ← 汝の

勺巴阿中忽 必 札中合因 赤訥 孛額孫 札興温 赤訥 斡舌魯格孫
教生受 我 懐 的 你的 虱子 底襟的 你的 刺
joba'āqu bi, jaqa-yin činu bö'ēsün jaḥing-un činu örügesün
苦しますべし 我。 襟 の ← 汝の しらみ 戸把 の ← 汝の 棘

孛勤中忽 必。(135)
做 我
bolqu bi.
たるべし 我"。

〈3〉 §82 (二18八～19二) 速勤都孫 鎭児中罕失舌剌 拙(ト)
種名 人名 正
Suldus-un Sorqan=šira jõb
スルドゥス族の ソルカン・シラ 右側を

荅阿舌里周 兀者周 鳴詁列舌論 拙(ト) 額列 額亦木 阿児中合禿因 禿剌
経過 見着 説 正 但 遣般 才 有的 上頭
da'ārijü üjejü ügülerün jõb~ele eyimü arɢatu-yin tula
通りて 見て 言う "まさに かくの如き 才もつ 故に,

你敦都舌里顔 中合勤禿 你兀児禿舌里顔 格舌列禿 客延 泰亦赤兀惕
眼 自的行 火有的 面 自的行 光 有的 慶道 種名
nidün-dür-iyēn qaltu ni'ūr-tur-iyān gerētü kēyēn Taiyičí'ūd
「目 に ← 己が 火あり 顔 に ← 己が 光あり とて タイチウド族の

阿中合迭兀迭延 帖因額列 乃塔黒丹 阿主兀 赤 帖因古客(ト)帖 兀禄
兄 弟 自的行 那般 但 族 妒 有 你 那般 只 臥着 不
aqa de'ü-deyēn teyin~ele naiṭaɢdan aju'ū, či teyin~kü kebte, ülü
兄 弟 に(巴が) かように ねたまれて あり, 汝 かよう に 臥せ, 告げ

札阿中忽 必 客額惕 那克赤罷。(136)
告 我 説了 過去了
ja'āqu bi kē'ēd nõgčibe.
ず 我" とて 過ぎぬ。

〈4〉 §145 (四41八～42一) 成吉思中合罕 巴撒 鳴詁列舌論
皇帝 再 説
Činggis qahān basa ügülerün
チンギス 可汗 また 曰く

納馬宜 額亦木 孛勤周 格ト田 孛額帖列 你出裡 也勤 癸趨周
我行 遣般 做着 臥 有間 赤裸 為甚 走着
namayi eyimü bolju gebten bö'ētele ničügün yēkin güiyijü
"我が かように なり 臥し あるうちに はだがにて 如何ぞ 走り

斡舌羅罷 赤 把舌里黒荅阿速 納馬宜 額亦木宜 兀禄兀 只阿中忽 不列額
入了 你 被拿了了呵 我行 這般行 不 告麼 有来
oroba či, barigda'āsu namayi eyimü-yi ülü-ü ji'āqu büle'ē
入れる 汝, とらえられなば 我が かくある を 告げ ざるべき や

赤 客額罷原作別。(137)
你 說了
či ke'ēbe.
汝" と云えり。

〈5〉 §177 (六21三～21六) 中罕 額赤格迭 米訥 鳴詁列客延
皇帝 父 行 我的 說 麼 道
qan ečige-de minu ügüle kēyēn
"汗なる父 に ← 我が 言え" と

鳴詁列舌論 中罕 額赤格 米訥 牙温 吃馬舌児圖舌児 納馬 阿余兀勤罷
說 皇帝 父 我的 甚麼 嗔 怪 裏 我行 教怕 了
ügülerün qan ečige minu ya'ūn čimar-tur nama ayu'ūlba
言うに "汗なる父よ ← 我が 如何なる 咎 にて 我を 諭せるや

赤 阿余兀勤中忽 孛額速 卯温可兀的顔 卯温別舌里捏的顔
你 教 怕 的 有呵 歹 児 自的 歹 媳婦 自的
či, ayu'ūlqu bö'ēsü maṷ'ūn kö'ūd-iyēn mau'ūn beri-ned-iyēn
汝, 諭すこと あらば 悪しき 子遂 を(己が) 悪しき 嫁 ども を(己か)

訥亦舌児中康中罕 也勤 兀禄 阿余兀魯 赤……。(138)
睡教足了 如何 不 教怕 你
nuyir qanggan yēkin ülü ayu'ūlu či
惰 眠せしめ なんぞ 諭さざるや 汝"……。

上記〈1〉に見える qaǰaqu《咬む》, dobtulqu《襲う》, yadaqu《～し得ない》, kēkü《～と云う》, dobtulqu《襲う》, ǰalgiqu《呑む》, qaǰaqu《咬む》, siqaqu《近ずく》, idekü《食らう》, ömērkü《群がり守る》, sa'āraqu《疑う》, dobtulqu《襲う》の諸語の **-qu²** は総て後続する実詞を修飾する，形動詞本来の機能を果し，被修語たる後続の実詞は総て獰猛な動物であり，文法的には男性語扱い出来る諸語と見られよう。

〈2〉の bolqu は ya'ūn tusa bolqu bi《いかなる益助たれるや我》における

述語終止形として用いられ，このbiはヂャムカである。次のǰoba'āqu bi《苦しむるならん我》のǰoba'aqu, bolqu bi《～ならん我》のbolqu，ともに同様である。即ちヂャムカの行為を表示する述語終止形として機能している。-qu系語尾は，この様に推量を意味する終止形として用いられている事が知られる。

〈3〉のülü ǰa'āqu bi《告げさらん我》の-quもbi《我》即ちスルドゥス族のソルカン・シラの行為を表わす述語動詞の終止形として用いられている。

〈4〉のülü-ū ǰi'āqu či《告げさらんや汝》の-quはči即ちヂェルメの行為を示したülü-ū ǰi'āquの-quである。

そしし，〈5〉のči ayu'ūlqu bö'ēsüではči ayu'ūlquが《汝が恐れさすこと→叱責すること→諭すこと》bö'ēsü《あらば》の主格として機能し，文意としては《汝が叱責するとすれば→諭すとすれば》の意を示し，ayu'ūlquの主体はči——こゝでは王中罕——である。

以上の諸例から，**-qu²**は単数の男性の行為を受ける形であることが知られ，又，男性単数の実詞を修飾する形であることが知られる。**-qu²**の用例は秘史全巻の中から300数例を得られるが，上の原則から脱れるものはない。**-qu²**には上記の他に，bü-《ある，いる》，a-《ある，いる》，bol-《なる，ある》と連って活用連語として用いられる用法もある。

〈6〉§264（十29十～30四）

| 帖木真 | 額捏 | 你刊 | 闊闊 | 米訥 |
|---|---|---|---|---|
| 名 | 這 | 一箇 | 乳 | 我的 |
| Temüǰin | ene | niken | kökö | minu |
| テムヂン | この | 一つの | 乳を | ←我が |

| 把舌剌中忽 | 不列額 | 中合赤温 | 斡惕赤斤 | 中豁牙兀剌 | 孛勒周 | 你刊 | 闊闊 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 喫了 | 有来 | 人名 | 人名 | 両箇 | 做着 | 一箇 | 乳 |
| baraqu | bule'ē. | Qači'ūn, | Odčigin | qoya'ūla | bolǰu | niken | kökö |
| 飲みほす | なりき。 | カチウン， | オドチギン | 二人ともに | なりて | 一つの | 乳を |

| 兀禄 | 把舌剌中忽 | 不列額 | 中合撒舌児 | 不舌倫 | 中豁牙舌児 | 不舌里 | 闊闊惕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 不 | 喫了 | 有来 | 人名 | 有 | 両箇 | 全 | 乳毎 |
| ülü | baraqu | büle'ē. | Qasar | bürün | qoyar | büri | köködd |
| 飲み | ほさざり | き。 | カサル | にありては | 二つの | 全き | 乳を |

米訥 把舌刺周 扯額只 阿為 孛勤塔剌 阿木舌児里兀勤周 扯額只 阿為
我的 喫了着 胃腸 寛 做 直到 安寧 了 着 胃腸 寛
minu baraǰu če'ēji a'ūi boltala amurli'ūlju če'ēji a'ūi
← 我が 飲みほし 胸 寛く なるまで 安心せしめ 胸 寛く

孛勤中合中忽 不列額 (139)
教做 有来
bolgaqu büle'ē.
させしめ たり。

〈7〉 §165 (五38十～39四) 田迭 桑昆 斡額舌里顔 也客只連
那裏 人名 自己 大 做
tende Senggüm ö'ēr-iyēn yekeǰilen
そこに セングム 自ら を 大となし

薛惕乞周 鳴詰列舌論 必荅訥 兀(中)魯黒 安都舌児 斡都阿速 阿剌兀納
想 着 説 咱 的 親 他每行 去 呵 門後行
sedgiǰü ügülerün bidan-u urug an-dur odu'āsu ala'ūn-a
想いて 曰く "我等の 親族 彼等のもとに 行かば 戸口 に

擺亦周 額額捏克徹 中豁亦馬舌児 中合舌瞰中忽 阿主兀 (140)
立着 専 一 正 面 看 有
baiyiǰu e'ēnegče qoyimar qaraqu aǰu'ū.
ありて つねに 奥座に 面する ならむ。

〈8〉 §111 (三18八～19二) 中鶴剌都卯兀 失鴉温 中忽鼬中合納
鳥 名 歹 鳥 鼠
quladu mau'ū šibau'ūn qulugana
"白超なる 悪しき 鳥は 鼠

窟出鼸揑 亦咥古 札牙禿 孛額帖列 中鶺 脥中鶴舌剌兀泥 亦咥速客延
小 鼠 喫 的 命有的 既 天鵝 遊 戯 行 要喫麼道
küčügene idekü ǰayātu bö'ētele qun togura'ūn-i idesü keyēn
小鼠を 喫う 定めもち あるに 白鳥 鵠 を 喫はむ と

者申阿主兀 中忽納舌児卯兀 赤勤格舌児 必 中忽禿黒台 速台 兀只泥
想着 有来 歹 人 名 我 福 有的 福有的 婦人名
ǰešin aǰu'ū. qunar mau'ū Čilger bi qutuctaǰ sutaǰ üǰin-i
高きを望みありき。 外様 悪しき チルゲル, 我 福あり, 成福ある 夫人 を

中忽舌里牙周 亦舌列古孛侖 中豁脫剌 篾舌児乞(惕)帖 渾討兀 孛勒罷 (141)
収拾着 来着做的 都 行 姓 行 禍 做
quriyaju irekü bolun qotola Merkid-te hunta'ū bolba.
収め 来たらんとし 普く メルキド族 に 禍 たりぬ。

この様に，-qu² は幅広く用いられ，男性単数形と規定しうる，-qu² と -quị² との関係を述べるに先立って -qun² について述べておこう。

[c] -qun²

-qun² が -qu² 及び -quị² の複数形であることは明白であって，以下に示す諸例から，はっきりと実証される。しかし，文語の世界では17世紀末頃から，この -qun² は姿を消し，現代の話し言葉に於ても用いられず，若干の語の中に化石的に残っているに過ぎない。例えば，kereglegdekün (хэрэглэгдэхүүн)《必要品》，bürildükün (бүрэлдэхүүн)《成員; 成分》，medegdekün (мэдэгдэхүүн)《概論，総論》，uqagdaqun (ухагдахуун)《概念》などの語の -qun/-kün に，その残影をとどめている。なお，-qun² の -u²- がハルハ方言では長母音で表記されているが，これは興味ある現象である。以下に -qun² の用例を示す。-qun² も秘史全巻から147例を見出し得て，-qu² の300数例には及ばないが，-quị² に近い使用例を認めうる。

〈1〉 §270 (三16八～16九) 額迭 阿牙剌中忽泥 兀魯思 篾迭坤
這 征進的每 行 百姓 管的每
ede ayalaqun-i ulus medekün
これら 征旅するもの を 民人 を 統べる

可兀惕 可兀都延 古 也客可兀 阿牙剌兀勒禿中孩 兀魯思 巴
大王每 児子每自的行 也 大 児子 教 征 進 者 百姓 也
kö'ūd kö'ūd-üyēn~kü yeke kö'ū ayala'ūltucaị. ulus ba
王子等 王子等 の(己が) 長 子に 征旅せしめよ。 民人 をば

兀禄篾迭坤 可兀惕 土篾敦 敏中合敦 札兀敦 哈舌児巴敦
不 管的每 大王每 万 的 千 的 百 的 十 的
ülü medekün kö'ūd, tümed-ün mingad-un ja'ūd-un harbad-un
統べざる 王子等, 万戸 の, 千戸 の, 百戸 の, 十戸 の

那牙惕 斡欒古温 處別舌児 孛額速 可兀都延 阿中合宜
官人毎 多人 誰也 有呵 児子自的 長行
noyad olon kü'ün ken~ber bö'ēsü kö'ūd-üyēn aqa~yi
長官等, 多くの 人 誰にて ありても 子達 の(己か) 長を

阿牙剌兀勒禿中孩 (142)
教征進 者
ayala'ūltucaị.
征旅せしめよ。

〈2〉 §112 (三21五～21九) 不舌峨中罕泥 中忽赤勒都黒撒惕 中忽舌児班
山名行 相関続了的 三
Burqan-i qučildugsad gurban
ブルカン岳を 相めぐりし 三

札兀惕 篾舌児乞的 兀舌魯中渾 兀舌魯中合 古舌児帖列 忽捏速額舌児
百 種名 子孫的 子孫行 到了 灰行
ja'ūd merkid-i urug~un urug~a kürtele hünesü'ēr
百の メルキド族を 親族の 親族に 到るまで 灰のごと

客亦思帖列 兀里惕格罷 許列克薛惕 額篾可温 阿訥 額不舌里惕坤 篾都昔
刮殺 殄絶了 余剰的 妻子 他的 可懐抱的 殺毎行
keyistele ülidgebe. hülegsed eme kö'ün anu ebüridkün metüs~i
飛散するまで 誅滅せり。 残れる 女子←彼等の いだくべき 如き人々を

額不舌里惕罷 額閃闥突舌児 斡舌羅兀勒荅中渾 篾都昔 額閃闥 都舌里顔
懐抱了 門裏 入的 殺毎行 門 自的行
ebüridbe. e'ūden~dür oro'ūldaqun metüs~i e'ūden~dür~iyēn
いだけり。 戸に 入らせらるべき 如き人々を 戸に←己が

斡舌羅兀勒罷 (143)
入了
oro'ūlba.
入れり。

〈3〉 §152 (五14十～15二) 額朶額 帖木真 可温突舌児 帖因
如今 名 児行 那般
edö'ē Temüjin kö'ün~dür teyin
"今, テムヂン 子に, かく

迓步黒撒你顔 兀馬舌児塔周 忽篾該 赫里格 額不舌里惕拙 迓步木
行了的自的行 忘了着 臭 肝 懐着 行着
yabuɢsan-iyān umartaju hümegej helige ebüridčü yabumu,
行きし を(己が) 忘れ, 臭き 肝を いだき 行く,

客舌児 乞坤 必荅 客額勒都罷 (144)
怎生 做 咱 共説了
ker kikūn bida ke'ēldübe.
いかに なすべき 我等" と云い合いたり。

〈4〉 §146 (四47八～48三) 鎖舌児中罕失舌剌 鳴詁列舌論 必
名 説 我
Sorqan=šira ügülerün bi
ソルカン・シラ 曰く "我

朶脥舌剌安 孛連 亦惕客勒 薛惕乞周 不列埃 也勤牙阿舌剌中忽 必
内自的行 見在 倚仗 想着 有来 為甚 忙 我
dotora'ān bölen idkel sedkijü büle'ēj, yēkin ya'āraqu bi,
心中 ととのい 信じ 想いて ありき, なんで 急くべきや我,

牙阿舌剌周 兀舌里惕 亦舌列額速 泰亦赤兀惕 那牙惕 米訥 中豁綽舌魯黒三
忙着 先 来呵 種 官人每 我的 落後的
ya'āraju urid ire'ēsü Taiyiči'ūd noyad minu qočorugsan
急ぎて さきに 来らば タイチウド族の 長官 我が 残りし

額篾可温 阿都温 亦哩額泥 米訥 忽捏速額舌児 格亦思格坤 帖迭
妻 子 馬羣 喫食行 我的 灰 飛 般 癪 了 那的每
eme kŏ'ŭn adu'ūn ide'ēn-i minu hünesü'ēr geyisgekün tede
妻 子, 馬群, 食料 を ← 我が 灰のごと 飛散せしめん 彼等"

客額周 兀禄牙阿舌闌 額朶額 中合罕都舌里顔 捏亦連 亦都舌列周
説 着 不 忙 如 今 皇帝 行自的 相合 赶上着
ke'ējü ülü ya'āran edŏ'ē qahān-dur-iyān neyilen idürejü
とて 急がずして 今 可汗のもとに ← 己が 合し 追いつき

亦舌列罷原作別 巴 客額罷原作伯 (145)
来了 俺 説了
irebe ba ke'ēbe.
来れり 我々" と云いたり。

〈5〉 §22 (—14一～14六)

巴撒 阿闌中豁阿 荅奔可兀陽 帖延
再 五 子 自的
basa Alan=go'ā tabun kö'ūd-teyēn
また アラン・ゴア 五人の 子達 に(己が)

雪余額児兀格鳴詁列舌論 塔 塔奔可兀陽米訥 中合(黒)察(4) 客額里額扯
教訓 言語 説 您 五 子每 我的 独 肚皮 真
söyü'ēr üge ügülerün ta tabun kö'ūd minu gaǧča ke'ēli-eče
訓せる 言を 言う "汝等 五人の 子達は ← 我が 唯一つの 脱 より

脫舌列罷 塔 禿中合中侖 塔奔 木速陽 箴圖 中合黒察 中合黒察 孛魯阿速
生了 您 恰 五隻 箭 般 獨 獨 做 呵
törebe. ta tuǧar-un tabun müsüd metü gaǧča gaǧča bolu'āsu
生れぬ。 汝等 さきほどの 五本の 矢柄の 如く 一人 一人 ならば。

帖舌列 你只額勒 木速陽 箴圖 客捏別児 乞勒八舌剌 中忽中忽勒荅中渾 塔
那 一隻 箭 般 任誰 也 容易 行 被折折 您
tere niǰi'ēl müsüd metü ken-e~ber kilbar-a quguldaqun ta,
かの 一もとごとの 矢柄の 如く 誰 に ても たやすく 折らるべし 汝等,

帖舌列出黒台 木速陽 箴圖 含禿 你刊額也田 孛魯阿速 客捏別児
那 束的 箭 般 一同 一商量 有 呵 任誰 也
tere čuǧtaį müsüd metü qamtu niken eyeten bolu'āsu ken-e~ber
かの 束ねたる 矢柄の 如く ともに 一つの 和もちてあれば 誰 に ても

乞勒八舌剌 也勤 孛勒中渾 塔 客額畢 阿塔剌 阿闌中豁阿 額客阿訥兀該
容易 行 如何 壊的 您 說了 住間 母 他的 無
kilbar-a yēkin bolqun ta ke'ēbi. atala Alan=go'ā eke anu ügeį
たやすく なんぞ なるべき 汝等" と云いぬ。(かく)あるに アラン・ゴア 母 ←彼等の 身ま

孛勒畢 (146)
做了
bolbi.
かりぬ。

〈1〉 の ayalaqun-i の -qun《征戦するもの達》は形動詞の実詞的用法を示すもので，複数形の -qun が用いられているのは，いかにも処を得ている感がある。次の medekün の -kün は kö'ūd kö'ūd《子息達》にかゝる形動詞本

来の用法で kö'üd は kö'ün の複数形であり，又，ülü medekün の -kün も同様である。

〈2〉の ebüridkün, oro'üldaqun の -kün, -qun も後続の metüs (metü の複数形) にかかる形動詞用法で，この種の用法は18世紀以後は影をひそめた。

〈3〉の ker kikün bida の -kün は bida《我等》の述語動詞として用いられた終止形としての用法で，一人称複数形 bida に呼応して -kün となっている。

〈4〉の keyisgekün tede《彼等》も〈3〉と同様の用法で，主語 tede に呼応して keyisge-kün が用いられている。

〈5〉の quculdaqun ta, bolqun ta の -qun は ta《汝等》に呼応して用いられた形で，〈3〉，〈4〉，〈5〉には人称代名詞の複数形の例を示したものである。

以上で $-qun^2$ が $-qu^2$, $-qu\underline{i}^2$ の複数形なることを明示しえたと考える。

*　　*　　*　　*　　*

$-qun^2$ が複数形なることが確証されたので，こゝで再び $-qu^2$ と $-qu\underline{i}^2$ の関係に立ちもどらねばならない。

$-qu\underline{i}^2$ はその文例1～5で知られるように，女性の主体の動作・行為を表現する述語動詞として用いられ，女性を表わす実詞にかかる修飾語としても用いられるので，少くとも，$-qu\underline{i}^2$ の一部は $-qu^2$ の女性形と認めうると思われる。しかし，$-qu\underline{i}^2$ の実例の多くは，その文脈から判断して女性形とは認め難く，その数例のみではあるが，$-qu\underline{i}^2$ の文例〈6〉～〈10〉において示した如くである。

そこで，$-qu\underline{i}^2$ の用例を更にくわしく吟味する必要に迫られる。$-qu\underline{i}^2$ の諸曲用形を $-qu^2$ と対比して見よう。

| | $-qu\underline{i}^2$ | $-qu^2$ |
|---|---|---|
| | 105例 | 275例 |
| (gen.) | $-qu\underline{i}^2$-yin 4例 | $-qu^2$-yin 19例 |

| | | |
|---|---|---|
| (dat. loc.) | -quį²-dur² 173例 | -qu²-dur² 2例 |
| (acc.) | -quį²-yi 15例 | -qu²-yi 30例 |
| (instr.) | -quį²-bār² 1例 | -qu²-bār² なし |
| (abl.) | -quį²-ača² 17例 | -qu²-ača² 3 (-kü deče 1) |
| (comi.) | -quį²-lu'ā² 20例 | -qu²-lu'ā² 8例 |

上表を見て概略的に言えることは，-quį² は -qu² に比して曲用語尾を伴う際に用いられることが多いと云うことである。

特に顕著なのは与位格語尾を伴う場合で，-quį²-dur² の173例に対し，-qu²-dur² は僅か2例に過ぎない。又，-quį²-ača² の17例に対し，-qu²-ača² は3例のみである。この比率が逆転するのは (gen.) -quį²-yin 4：-qu²-yin 19, (acc.) -quį²-yi 15：-qu-yi 30 のケースであるが，これは，属格語尾の -yin と対格語尾の -yi が本来的には -quį² であるべき語末の -į を吸集した結果，-qu²-yin, -qu²-yi の形をとったと見做せよう。

即ち，-quį² には①男性形 -qu² に対する女性形 -quį² と②曲用語尾に連結して文の述語を形成する quį² との両者が，たまたま，同じ音形を担った -quį² として秘史の言語に現われていると見ることが出来る。

この形動詞形 -qu², -quį², -qun² に関連して，筆者は，ここに《～がない》を意味する否定実詞，「兀該」とそれに属する，いくつかの語に言及して，合わせて中世蒙古語における実詞（主に形容詞）の性と数に関しても，こゝで取上げておきたい。形動詞は「形容詞的機能」をもつ動詞の一変形とすれば，当然のことながら，「形容詞」そのものとの関連も考察の対象に入ることは道理の然らしめる処である。

さて，兀該《ない》ügeį は蒙古語文語では ügeį として現われる語であるが，秘史蒙古語には，兀該の他に兀該兀，兀該為，兀該温，更に兀格兀，兀格為，兀格温の諸形が，ほゞ同じ意味に用いられている。これらの諸形を十分吟味する必要がある。秘史蒙古語全巻には以上の語は以下の使用例をもつ。

兀該 ügeį 61例，兀該兀 ügeį'ū 8例，兀該為 ügeį'ūį 2例，兀該温 ügeį'ūn

3例，(*兀格亦) ナシ，兀格兀 üge'ü 4例，兀格為 üge'üi 1例，兀格温 üge'ün 7例。

兀該が61例の多きを数えるが，その他の形はそれほど多くないので，兀該の他の諸形の用例を先ず例示する。

〈1〉 §166 (五41四～41六)

| 脫幹舌鄰勒 | 鳴詁列舌論 | 阿舌児中合察 |
|---|---|---|
| 人名 | 説 | 料来 |
| To'ōri(n)l | ügülerün | arca-ča |
| トオリル の | 言う | "策を案じ |

| 斡惕拙 | 帖木只泥 | 兀魯思 | 亦訥 | 阿不牙 | 兀魯思顔 | 阿卜荅阿速 | 兀魯思 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 去着 | 名行 | 百姓 | 他的 | 要咱 | 百姓自的行 | 被要了呵 | 百姓 |
| odču | Temüjin-i | ulus | inu | abuya, | ulus-(i)yān | abda'āsu | ulus |
| 行きて | テムヂン を， | 民人を | ← 彼の | 取らむ， | 民人 を(己が) | 取られなば | 民人 |

| 兀該兀 | 孛魯阿速 | 也乞坤 | 帖迭 | 客額主為 | (147) |
|---|---|---|---|---|---|
| 無 | 做 呵 | 待如何 | 他每 | 説 了 | |
| ügei'ü | bolu'āsu | yēkikün | tede | ke'ējü'üi. | |
| なく | ならば | いかにすべき | 彼等" | と云えり。 | |

〈2〉 §201 (八19七～20一)

| 必 | 不舌侖 | 額客 | 額赤格迭徹 | 兀出干 |
|---|---|---|---|---|
| 我 | 有的 | 母 | 父行 | 小 |
| bi | bürün | eke | ečige-deče | üčügen |
| "我 にありては | | 母 | 父 より | 幼くして |

| 中豁綽舌児拙 | 迭兀揑舌児 | 兀該兀 | 額篾 | 米訥 | 朶抹黒赤 | 亦帖格勒 | 兀該兀 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 落後着 | 弟每 | 無 | 妻 | 我的 | 好長話 | 倚伏 | 無 |
| qočorču | de'ü~ner | ügei'ü, | eme | minu | domogči, | itegel | ügei'ü |
| 残り， | 弟達は | なく， | 妻は | ← 我が | 口多く， | 信 | なき |

| 那可惕禿 | 挑兀別舌児 | 騰格舌理額徹 | 札牙阿禿 | 安荅荅 | 許列克迭罷者罷原作別 |
|---|---|---|---|---|---|
| 伴当每有的 | 為 那般 | 天行 | 命有的 | 契合行 | 被勝 了也者 |
| nöködtü, | teü'ü-bēr | tenggeri-eče | ǰaya'ātu | anda-da | hülegdebe~ǰe. |
| 僚友あり， | それ もて | 天 よりの | 定めもてる | 盟友に | おくれをとれる ぞ"。 |

〈3〉 §207 (八42三～42五) 中豁舌児赤苔察 額耶兀該兀 槐曰

人名 行 商量 無 林的

Qorči-dača eye ügei'ü hoi-yin

"コルチ より 相讃せず 森 の

亦舌児堅 額曰帖曰 不 迂歩禿(中)孩 額耶 兀格兀 迂歩中忽宜 牙兀

百姓 這般 那般 休 行 者 商量 無 行的每 行 甚

irgen eyin teyin bū yabutucai eye üge'ū yabuqu-yi ya'ū

人衆は あれ これ 行かざるべし, 相讃せず 行ける を 何ぞ

撒阿舌剌黒苔中忽 客延 札舌児黒黒 孛勒罷 (149)

疑 感 慶道 聖旨 做了

sa'āraqdaqu keyēn jarlig bolba.

ためらわるべき" と 勅 せり。

〈4〉 §17 (一10四～10六) 帖因阿塔剌 朶奔篾児干兀該孛勒罷

那般 住間 無 做了

teyin atala Dobun=mergen ügei bolba.

かく あるに ドブン・メルゲン 身まかれり。

朶奔篾児格泥 兀該孛魯黒撒訥(中)豁亦納 阿闌中豁阿額舌列兀該為孛額楊

行 無 做了的 後 婦人名 丈夫 無 便

Dobun=mergen-i ügei bolugsan-u qoyina Alan=go'ā ere ügei'üi bö'ēd

ドブン・メルゲン 身まかりし の 後 アラン・ゴア 夫 なく して

中忽児班 可兀楊 脱舌列温勒畢 (150)

三箇 児子每 生了

gurban kö'üd töre'ü(n)lbi.

三人の 子達を 生めり。

〈5〉 §35 (一21七～21九) 田迭扯 孛端察児 鳴詰例舌論

那裏自 説

tende-če Bodončar ügülerün

そこ より ボドンチャルの言う

禿中合舌侖 統格黎克 中豁舌羅中合納 不坤 亦児堅 也客兀出干卯危

恰纔 河名 河行 有的 百姓 大 小 歹

tuqar-un Tünggelig goroqan-a bükün irgen yeke üčügen, mau'üi

"さきほど の トゥンゲリグ 河 に ある 人衆 大 小, 悪

撒因 帖舌里兀失亦舌剌 兀該温 撒察温備 勤勒巴児 亦児堅備 必荅
好 頭 蹄 無 毎 一般毎有 容 易 百姓 有 咱毎
sayin, teri'ü siyira ügeǰ'ün sača'ūn büi, ki(n)lbar irgen büi, bida
善, 頭 蹄 なく 等しなみ なり。 たやすき 人衆 なり, 我等

帖迭泥 哈兀魯牙 客額罷 (151)
他毎行 盡擄咱毎 説 了
teden-i ha'ūluya ke'ēbe
彼等 を 掠奪せむ" と云いぬ。

〈6〉 §164 (五36二～36七) 納馬亘 斡脫勒周 温都惕帖 中合舌魯阿速
我 行 老 着 高処 行 上 呵
namayi ötöljü ündüd-te ɢaru'āsu
我 老いて 高き に のぼらば,

中合兀赤惕罷 必 中合兀赤惕拙 中合勒都惕塔 中合舌魯阿速 中合木黒
旧 了 我 旧 了 着 崖 毎行 上 呵 普
——qa'ūčidba bi——qa'ūčidču qaldud-ta ɢaru'āsu qamuɢ
——老いたり 我—— 老いて 高崖 に のぼらば, 普き

兀魯思 虔 篾迭古 迭兀捏児 米訥 阿不舌里 兀該温備 中合黒察
百姓 誰 管 弟 毎 我的 徳 行 無 毎 有 獨
ulus ken medekü, de'ü~ner minu aburi ügeǰ'ün büi, qaɢča
民人を 誰が 統ぶるや, 弟 達 ← 我が 徳性 なき なり。 ひとりの

可温 米訥 兀該失圖 桑昆 中合黒察備由 帖木真 可兀泥
子 我的 無 殺 人名 獨 有 名 子 行
kö'ün minu ügeǰ šitü Senggüm ɢaɢča büyü. Temüjin kö'ün-i
子 ← 我が なきが如き センゲム たゞ一人 なり。 テムヂンなる子 を

桑古門 阿中合孛勒中合周 中豁牙舌児可兀禿 孛勒周 阿木速中孩
人名 的 〈兄〉 做 着 両 子 有 做着 歇 息 我
Senggüm-ün aqa bolɢaǰu qoyar kö'ütü bolju amusuɢai
センゲム の 兄 となし 二人の子もち たりて 休まんかな"

客額周……。 (152)
説 着
ke'ējü. ……。
と云いて……。

〈7〉 §152 (五12十～13四)

田迭 王中罕訥 迭兀揑(舌)児
那裏 人名 的 弟 每
tende Ong qan-nu de'ü~ner
そこに 王 汗 の 弟 達,

那牙(陽) 乞額(陽) 鳴詁列(動)都舌論 額揑 中罕 阿中合 必荅訥 兀格兀
官人每 等 共 説 這 皇帝 哥哥 咱的 窮
noyad ki'ēd ügüleldürün ene qan aqa bidan-u üge'ü
長官達 などの 言う "この 汗なる 兄 ← 我等 の まずしき

阿不舌里禿 忽篾該 赫里格 額不舌里(陽)拙 迓歩由 阿中合迭兀宜 巴舌剌罷
性 有的 臭 肝 懐 着 行 有 兄 弟 行 了 了
aburitu hümegei helige ebüridčü yabuyu, aqa de'ū-yi baraba,
徳性をもち, 臭き 肝 を いだきて 行くなり, 兄 弟 を 殺(あや)めぬ,

中合舌剌乞荅(陽) 途舌児 巴 斡舌羅罷 古 兀魯思 巴 勺巴阿木 額朶額
種 裏 也 入 了 也 百 姓 也 教辛苦有 如今
Qara=qitad-tur ba oroba~kü, ulus ba ǰoba'āmu, edö'ē
カラ・キタド に も 入りし ぞ, 民人を も 苦しむるぞ, 今

額兀泥 客舌児 乞坤 必荅……。 (153)
這箇行 怎生 怎做 咱……。
e'ün-i ker kikün bida.
二奴 を いかに すべき 我等……"。

〈8〉 §210 (九43三～46六)

中忽難 闊闊捌思 中豁牙舌剌察
人名 人名 両個 行
Qunan, Kököčös qoyar-ača
クナン, ココチョス 二人 より

額耶兀格兀 不 委亦列(陽)坤 客延 札舌児里黒 孛(動)罷 (154)
商量 無 休 做事 您 麼道 聖 旨 做了
eye üge'ü bü üǰyiledkün keyēn jarlig bolba.
相談せず 行うなかれ" と 勅 しぬ。

〈9〉 §227 (九42三～42八)

巴撒 門 古温 別也中合(陽) 厄別(陽)臣
再 只 那人 身 体 病
basa mun kü'ün beye qad ebedčin
また その 者 身 体 病(やま)い

兀該　客失昆　那牙(揚)途舌児　額耶　兀格兀巴撒　門　客失克禿
無　班的　官人每　行　商量　無　再　只　扈衛有的
ügeį　kešig-ün　noyad-tur　eye　üge'ü　basa　mun　kešigtü
なく　当直　の　長官　に　相議　せず，　また　その　当直兵

中忽舌児班塔　客失克　豁阿舌剌阿速　中忽臣　朶羅安　別舌里額思　莎余額(揚)
三　次　班　脱　了　呵　三十　七　条　子　教導了
gurbanta　kešig　ho'āra'āsu　gučin　dolo'ān　beri'ēs　söyü'ēd
三度　当直　を　怠らば　三十　七　鞭を　いましめて一

必丹突舌児　迸歩中灰班　別舌児客失顔　阿主兀　額赤捏　中豁羅　中合札舌剌
咱　行　行的　自的行　作　難　有　来　背処行　遠　地面　行
bidan-dur　yabuquį-bān　berkešiyēn　aju'ū　ečine　qolo　gajar-a
一我等のもとに　仕うる　を　嫌いて　あらん——ひそかに　遠き　地　に

亦列牙客延　札舌児里黒　孛勒罷　(155)
教去咱　麼道　聖　旨　做了
ileye keyēn　jarlig　bolba.
送らむ"と　勅　しぬ。

〈10〉 §208 (八45九～46三)　成吉思中合罕　亦巴(中)合別乞宜
太祖　皇帝　夫人名　行
Činggis qahān　Ibaga=beki-yi
チンギス　可汗　イバガ・ベキ　を

主舌児扯歹耶　莎余舌児中合周　斡古舌侖　亦巴中合荅　鳴詁列舌論　赤馬宜
人名　行　恩賜着　興時　夫人名　行　説　你行
Jürčedeį-ye　soyurqaju　ögürün　Ibaga-da　ügülerün　čimayi
ヂュルチェデイに　恩賜し　与うるに　イバガ　に　言う　"汝を

兀里格　扯額只　赤訥　兀格為　兀者思古良　塔剌　卯危　額薛　客額罷者
ナシ　脩懐　你的　無　看　像　容貌　歹　不曾　説了　也者
ülige　če'ēji　činu　üge'üį　üjesgüleng　tala　mauˇūį　ese　ke'ēbe~je
「聡　明さ　←汝の　なく　，　容貌　外面　悪し」　と　云わざりしぞ

必……。(156)
我
bi……。
我……"。

〈11〉 §46 (一27十～28二) 中合闌歹因可兀揚 不荅安中忽揚中忽剌中忽

名 的 子每 粥飯 攪

Qalandai-yin kō'ūd buda'ān qudqulaqu

カランダイ の 子達 飯 を かきまぜ,

額乞 帖舌里兀兀格温禿剌 不荅阿揚 斡孛黒壇 帖迭 孛魯罷 (157)

脳 頭 無的每 上頭 一 種 姓 每 那的 做了

eki teri'ü üge'ün tula Buda'ād obogtan tede boluba.

脳 頭なき (秩序なき) 故に ブダアド 姓をもてる者と 彼等は なれり。

〈12〉 §51 (一31九～32二) (中)忽圖剌中合罕訥可兀揚 拙赤

名 皇帝的 子每 名

Qutula qaɢan-nu kō'ūd J̌oči,

クトゥラ 名汗 の 子達 ヂョチ,

吉児馬兀 阿勒壇 (中)忽児班 不列額 (中)忽闌把阿禿侖可温 也客扯(舌)連

名 名 三箇 有来 名 的子 名

Girma'ū, Altan ɢurban büle'ē. Qulan=ba'ātur-un kō'ün Yeke=

ギルマウ, アルタン, 三人 なりき。 クラン・バアトゥル の 子 イェケ・

不列額 把歹乞失黎(黒)中豁牙児 荅児(中)罕敦 那顔 帖舌列 不列額(5)

有来 名 名 両箇 自在 的 官人 那箇 有来

čeren büle'ē. Badai, Qišilig qoyar darqa(n)d-un noyan tere büle'ē.

チレン なりき。 バダイ, キシリグ 二人の 自由人 の 長は 彼 なりき。

中合荅安 脱朶延中豁牙児 兀舌魯黒 兀格温 不列額 (158)

(名) (名) 両箇 子嗣 無 有来

Qada'ān, Tödöyēn qoyar uruɢ üge'ün büle'ē.

カダアン, トドイエンの 二人 世つぎ なく ありき。

〈13〉 §126 (三50四～50七) 脫斡舌里勒 中罕 帖木真 可兀泥

人名 皇帝 名 児子

To'ōril qan Temüjin kō'ün-i

トオリル 汗 "テムヂン なる子 を

米訥 中罕 孛勒中合中忽 忝 勺卜 忙中豁勒 中合 兀格温 客舌児 阿中渾

我的 皇帝 教做 的 好生 是 遠達 皇帝 無每 怎生 過的

minu qan bolɢaqu na jöb, Monggol qa üge'ün ker aqun

←我が 汗 たらしむ は まさに 正しい, モンゴル族は 汗 なくして いかに 過すべき

塔 額捏 額也邊 不 厄卜迭(楊)坤 額也 掌吉邊 不 塔魯(楊)中渾
您 這 商量自的 休 壞 您 商量 結了的自的行 休 解 了您
ta, ene eye-bēn bū ebdedkün, eye janggi-bēn bū taludqun,
汝等, この 和 を(己が) こわすなかれ, 和の 結び目 を(己が) とくなかれ,

札中合班 不 談禿魯(楊)中渾 客額周 亦列周。(159)
衣領自的行 休 扯了 您 說 着 去 着
jaqa-bān bū tamtuludqun ke'ējü ilejü.
襟 を(己が) ひきさくなかれ" と云いて 遣りて。

〈14〉 §279 (三47五～47六) 札温中豁你荅察 你刊中豁紐
百 羊 処 一 羊
ja'ūn qonid-ača niken qonin
百匹の 羊 から 一匹の 羊を

中合舌児中合周 門 札兀舌剌 兀格温 都塔兀納 斡克禿該 (160)
教 出 着 只 其 間 窮 乏 的行 與 者
garɢaju mun ja'ūra üge'ün duta'ūn-a ögtügeį.
出し その 間 なきもの 欠けもるの に 与うべし。

〈15〉 §280 (三52六～52七) 札温 中豁你荅察 你刊主撒黒
百 羊 行 一箇 一歳
ja'ūn qonid-ača niken jusaɢ
百匹の 羊 から 一匹の 二才羊を

中合舌児中合周 兀格温 都塔兀納 斡(克)〈恢〉撒因備 (161)
出 着 窮 缺 行 與的 好 有
garɢaju üge'ün duta'un-a ögküį sayin büį.
出し なきもの, 欠けるものに 与うるは よく あり。

《～がない》を意味する語は，蒙古語文語の ügeį，ハルハ方言の ᴜгᴜй，カルマグ方言 *ugē～ugā*，ブリヤート方言 ᴜгы，オルドス方言 *uguī* 等々，現代の諸方言でも頻用される語である。秘史蒙古語でも多く「兀該」ügeį として現われることは上記の如くであるが，文例〈1〉～〈15〉に示したように，秘史蒙古語に於ては，兀該の他に兀該兀，兀該為，兀該温，兀格兀，兀格為，兀格温の六つの異った形が，兀該と同じ意の如く用いられている。これらの六つの

異形は兀該に比して，数の上では極めて少数なので漫然と見逃され兼ねないが，注意深く読めば，これらの六形は動詞語尾の -ba², -bi, -baį² などと同様に，性と数によって使い分けられているとが知られる。文例〈1〉～〈15〉は，この事実を示す実例として例示したものである。

説明の便宜上，〈4〉及び〈10〉の兀該為と兀格為から始める。〈4〉の Alan=go'ā ere ügeį'ūį bö'ēd《アラン・ゴアは夫がいないのに》の ügeį'ūį は Alan=go'ā に関する述語として用いられ，〈10〉の če'ēji činu üge'ūį, üjesgüleng tala maų'ūį《汝の胸なく，容貌悪し》の üge'üį もチンギス可汗の后の一人イバガベキに関する述語の中に用いられた形である。

兀該為の用いられている他の一例，§18（一11一）も，全く同じ文脈で以下の如く見える。即ち

§18（一10九～11二）

| 兀舌里荅 | | 朶奔篾児格揑扯脫舌列克先 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 在前 | | | | | 處 | 生了 | |
| urida | | Dobun | mergen-eče | | töregsen | | |
| さきに | | ドブン・メルゲン | より | | 生れし | | |
| 別勒古訥台 | 不古訥台 | 中豁牙児 | 可兀惕 | 亦訥 | 額客余延 | 阿闌中豁阿因 | |
| 名 | 名 | 両箇 | 児子毎 | 他的 | 娘 自的 | 母名 | 的 |
| Belgünüteį | Bügünüteį | qoyar | kö'ūd | inu | eke-yüyēn | Alan=go'ā-yin | |
| ベルグヌテイ， | ブグヌテイ | 二人の | 子達 ← | 彼女の | 母 の(己が) | アラン・ゴア | の |
| 額赤揑 | 鳴詁列勒都舌倫 | 額揑 | 額客 | 必荅訥 | 阿中合迭兀 | | 兀也中合牙 | 古温 |
| 背処 | 共説 | 這 | 母 | 咱毎的 | 兄 | 弟 | 厚親 | 人 |
| ečin-e | ügüleldürün | ene | eke | bidan-u | aqa | de'ū | üye qaya | kü'ün |
| かげで | 言うに | "この | 母 ← | 我等の | 兄 | 弟 | 親類縁者 | |
| 兀該 | 額舌列 | 兀該為 | 孛額帖列 | 額迭中忽児班 | 可兀惕 | 脫舌列温勒畢 | (162) |
| 無 | 丈夫 | 無 | 既 | 這 三 | 子毎 | 生了 | |
| ügeį, | ere | ügeį'ūį | bö'ētele | ede | gurban | kö'ūd | töre'ūlbi. | |
| なく， | 夫 | なく | ありつつ | これら | 三人の | 子達を | 生めり。 | |

以上の兀該為，兀格為の用いられた文脈から見て，ügeį'ūį, üge'ūį が兀該，兀格兀の女性形なること確実であり，女性形を特徴づける要素が -'ūį であることも明白である。

次に文例〈5〉,〈6〉の兀該温,〈11〉,〈12〉,〈13〉,〈14〉,〈15〉の兀格温に注目したい。

〈5〉の ügei'ün は直後の sača'ün とともに，Tünggelig goroqan-a bükün irgen《トゥンゲリグ・小川(コロベン)にいる人衆》の述語を形成し，〈6〉の ügei̯'ün büi̯ は de'ü~ner minu《わが弟達》の述語である。〈6〉では，兀該温のすぐ後に，「可温米訥兀該失圖」とあることに注意したい。兀該は可温米訥《わが子》という単数形に対して用いられている。

〈11〉の兀格温は Qalandai̯-yin kö'üd《カランダイの子供達》を受けた述語として機能し，〈12〉の兀格温は Qada'ān, Tödöyēn qoyar《カダアン，トドイェン二人》を受ける述語である。

〈13〉の üge'ün は Mongɢol qa üge'ün ker aqun ta《モンゴル族は，汗なく如何に過すべき汝等》の文中に用いられ，üge'ün ker aqun として Möngɢol 即ち ta を受けた述語である。

〈14〉,〈15〉の üge'ün duta'ün は《困窮者》を意味する慣用的語句である。直訳すれば《ものなく，足らざる人々》と解せよう。

以上7例の üge(i̯)'ün に共通するのは——〈14〉,〈15〉を除く——述語としての üge(i̯)'ün の主体がすべて複数の実体であることである。即ち，兀該温，兀格温は兀該，兀格兀の複数形である。そして，その音声徴標は末尾の「温」-'ün にあると言うことができる。

「兀該為，兀格為」が女性単数形，「兀該温，兀格温」が複数形なることが明かになった現在，残しておいた「兀該兀，兀格兀」が男性単数形であろうとの推測は容易である。

文例〈1〉,〈2〉,〈3〉の「兀該兀」と〈7〉,〈8〉,〈9〉の「兀格兀」の吟味を後廻しにしたのは，上の理由による。

〈1〉の ulus ügei̯'ü bolu'āsu《民人がなくなれば》における ügei̯'ü は bolu'āsu と連合して，ulus に対する述語動詞であるが，ulus《民人》という語は，秘史の言語では普通は複数扱いされる語である。従って，ここでも

üge(i̯)'ün が期待されるが，現実には ügei̯'ü が現われている。これは ulus をまとまった一集団として単数的に取扱った場合と解せようか。

〈2〉に見られる二つの ügei̯'ü は主語 bi を受ける述語であり，単数男性形と見做しうる。

〈3〉の eye ügei̯'ü《相談せず》を受けるのも単数・男性の主体と見て大過ない。

〈7〉の üge'ü は直後の aburitu にかゝる定語として用いられ，その主体は ene qan bidan-u《我等の，この汗》であり，〈8〉の eye üge'ü は〈3〉の eye ügei̯'ü と同じ用法である。

上述したことを整理すると

| (mas. sing.) | (femi. sing.) | (pl.) |
|---|---|---|
| 兀該兀 | 兀該為 | 兀該温 |
| 兀格兀 | 兀格為 | 兀格温 |

となって，-兀 (-'ü) が男性単数，-為 (-'ü̯i) が女性単数，そして-温 (-'ün) が複数を表示する徴標であることも自ずと知られる。

**形容詞語尾の -qu², -qui̯², -qun は，その体内に上記の -'ü, -'ü̯i, -'ün を含んでいるのではあるまいか。**

-qu² 系形動詞語尾の成立には二つの仮説をたてることができるように思う。

その一は，-qu² 系語尾を -*q-ū², -*q-ū̯i², -*q-ūn² と分析して考え，-*q- を以て形動詞職能の徴標と見て，この -*q- に上の -'ū², -'ū̯i², -'ūn² が接尾されて -qu², -qui̯², -qun² が成立したとする見解である。形動詞職能の徴標としての *q²(*ɢ²) は完了形動詞形の-ɢ-san² の -ɢ-，愛行形動詞形の -gči の -g-，恒常・多回体形動詞形-daɢ² の -ɢ² にも現われる。*q² は子音の前，及び語末においては -ɢ²-，-ɢ² として現われるので，上記の形をとることになる。

-qu², -qui̯², -qun² を上の如く解する場合には -*qū²>-qu, -*qū̯i>-qui̯², -*qūn²>-qun² と仮定しなくてはなるまい。秘史蒙古語の段階では，-*qū², -*qū̯i², -*qūn² の母音の長さは失なわれて短母音となっていたであろう。現代のハルハ方言を土台とするキリル文字モンゴル語には-qun² の伝承形としての

可能性をもつ若干の語が残っているが，それらの語は古い長さを伝存するものとも考えられるとも思える（前述の p. 132 参照）。

その二の見解は，$-qu^2$ に $-'\bar{u}^2$, $-'\bar{u}\dot{i}^2$, $-'\bar{u}n^2$ が附されて

$-qu^2-'\bar{u}^2>-q\bar{u}^2$, $-qu^2-'\bar{u}\dot{i}^2>-q\bar{u}i^2$, $-qu^2-'\bar{u}n^2>-q\bar{u}n^2$

が形成されたとする見解である。この見解に立つ場合でも $-qu^2$ などは本来は $-q\bar{u}^2$ の如く長母音をもっていたと考えねばならない。

ここで，「兀該」そのものについて考察する必要に迫られる。

兀該は秘史全巻を通じて61の使用例を数え，兀該兀，兀格兀などの諸形に較べると遙かに多く用いられる。そして，その用法は

(1) 述語的に用いられるもの。

(2) 形容詞的（又名詞的）に用いられるもの。

(3) 副詞的に用いられるもの。

の三種に分類しうる。その若干例を示そう。

〈1〉 §80（二15九～15十）

| 巴撒 | 也孫 | (中)豁那黒 | 亦啞延 | 兀該 |
|---|---|---|---|---|
| 再 | 九 | 宿 | 茶飯 | 無 |
| basa | yesün | qonoɢ | ide'yēn | ügeı̣ |
| また | 九 | 泊 | 食物 | なく |

阿周 担舌列兀該 客児 兀窟(克)迭恢 中合児速 客額周……。 (163)

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 住着 | 名 無 | 怎生 | 死的 | 出我 | 説着……。 | |
| aǰu | nere ügeı̣ | ker | ükügdekü̇ı̣, | ɢarsu | ke'ējü……. | |
| 過し | "名 なく | いかで | 死なるべき， | 出でむ" | とて……。 | |

〈2〉 §161（五30六～30八）

| 成吉思中合罕 | | 雪泥 | 門 | 田迭 |
|---|---|---|---|---|
| 太祖 | 皇帝 | 夜行 | 只 | 那裏 |
| Činggis | qahān | söni | mun | tende |
| チンギス | 可汗 | 夜 | その | そこに |

| 中豁那周 | 中合傷中忽勒都牙客延 | | 馬納中合舌児 | 額舌児帖 | 兀都舌児 | 格亦兀侖 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 宿 | 斷 殺 | 咱 慶道 | 明早 | 晨 | 日 | 明 |
| qonoǰu | qadqulduya | keyēn | manaɢar | erte | üdür | geyi'ūlün |
| 宿りて | "合戦せむ" | とて | 明くる日 | 早く | 夜の | 明くるや |

王中罕訥　擺亦苔勒突舌児　兀者額速　兀該　孛勒苔周　額迭赤　必苔泥
人名 訥　立 処　看 呵　無　被做着　這的每　俺行
Ong qan-nu　baiyidal-dur　üje'ēsü　ügei　boldaju　ede či　bidan-i
王 汗 の　陣営 に　見れば　いなく　なられ　"やつらは　我等 を

土烈食連阿主兀　客額惕……。(164)
做燒飯 有也者　說着
tülešilen aju'ū　kē'ēd……,
たきものとし きりき"　とて……。

〈3〉§214（九14十～15二）　哲台　者勒篾　中豁牙舌児　鳴詁列舌論
人名　人名　両箇　說
J̌etei,　J̌elme　qoyar　ügülerün
ヂェテイ,　ヂェルメ　二人の　言う

馬泥　兀該　孛額速　斡脱舌児　癸趨周　古舌児抽　額薛　阿剌阿速
我行　無　有呵　快　走着　到着　不曾　殺呵
mani　ügei　bö'ēsü,　ötör　güiyiǰü　kürčü　ese　ala'āsu,
我々が　なく　あらば,　とく　走り　到て　殺さざれば,

阿勒塔泥　額篾古温　也琴不列額　(165)
婦人名　婦人　怎地 有来
Altani　eme kü'ūn　yēkin büle'ē.
アルタニは　女 人　いかになせるか。"

〈4〉§123（三44七～44十）　昂客兀都舌児　額耶赤訥　厄(ト)迭額速
太平 日　商量 你的　壞 呵
angke üdür　eye činu　ebde'ēsü
"平和の 日に　和が ←汝の　破れなば

額舌列思　中合舌剌苔客　額篾可兀迭扯　馬訥　希舌里扯兀勒周　額者兀該
家人的　家 活 処　妻 子 処　俺的　分離 着　主 無
eres　qara-dača　eme kō'ūd-eče　manu　hiriče'ūljü　eǰe ügei
一族の　男衆 から,　女 子供 から ←我等の　はなさしめ　人 なき

中合札舌剌　格周　斡惕　額堆　兀格　巴剌(勒)都周　額因　阿蠻　阿勒苔周
地 行　撇着　去　這些　言語　議 定 着　自這般　盟誓　着
ɢaǰar-a　gējü　od　edüi　üge　baralduǰu　eyin　aman　aldaǰu
地 に　棄て　行け"　かく　言を　議し定め,　かく　誓言し,

帖木只泥 成吉思中合罕 客延 担舌列亦(楊)抽 中罕 孛勤中合罷已原作 (166)
人名 行 人名 皇帝 慶道 名 着 皇帝 教做了
Temüǰin-i Činggis qahān keyēn nereyidčü qan bolcaba.
テムヂン を "チンギス 可汗" と 名づけて 王と なせり。

〈5〉 §149 (五3八～4四) 帖木真 納馬宜 兀禄 阿剌中忽
人名 我行 不 殺
Temüǰin namayi ülü alaqu,
"テムヂン 我を 殺 さざらむ,

帖木只泥 兀出干 察黒圖舌児 你敦都舌里顔 中合勤禿 你兀舌児
名 行 小 時 裏 眼 自的行 火有的 面
Temüǰin-i üčügen čag-tur nidün-dür-iyēn galtu, ni'ūr-
テムヂンが 幼き 時 に 「目 に ← 己が 火あり, 顔

都舌里顔 格舌列禿 不列額 客延 額穆 兀該 嫩禿黒突舌児 中豁綽舌児抽
自的行 光 有的 有来 慶道 主 無 営盤 裏 落後 着
tur-iyān gerētü büle'ē keyēn eǰen ügeǰ nuntuc-dur qočorču
に ←己が 光 ある なり」 とて 主 なき 幕営地 に 残りて

阿梅 客延 阿不舌剌 斡惕抽 阿卜赤舌剌周 速舌児中合阿速 速舌児中忽
有 慶道 取 去着 将来着 教訓 呵 学的
amuǰ keyēn abura odču abčiraǰu surca'āsu surqu
あり とて とりに 行きて つれ来り '教えれば 学びとる

篾圖 備由 客延 鎖納(6) 兀舌里額 荅阿中罕 速舌児中合中忽 篾圖
殺 有 慶道 新 三歳 二歳 教 的 殺
metü büyü keyēn sona üri'ē da'āgan surcaqu metü
如き なり' とて 慣れざる 三才の, 二才の牛を 調教する 如く

速舌児中罕雪因 迓歩剌阿……。(167)
教訓 行 来
surcan söyin yabula'ā……。
教え 訓し 行けり……。"

〈6〉 §281 (三55五～55七) 巴撒 那闊額 委亦列 兀速兀該
再 次 勾当 水 無
basa nökö'ē üǰyile usu ügeǰ
"また 次なる 行ないは 水 なき

中合札舌剌 中忽都兀場 額舌里兀動周 中合舌児中合兀動周 兀魯思 亦舌児堅
地 行 井 毎 教 掘着 教 出 着 国 百姓
gaǰar-a qudu'ūd eri'ūljü garga'ūlju ulus irgen
地 に 井戸 を 掘り 出させ 民人 人衆をして

兀孫 額別速捏 古舌児格兀動罷 (168)
水 草 行 教 到 了
usu ebesün-e kürge'ūlbe."
水 草 に 到らしめぬ。

〈7〉 §278 (十44四～44七) 巴撒 門 古温 厄別場臣 申動塔阿
再 只 人 病 縁故
basa mun kü'ūn ebedčin šilta'ā
"また 同じ 人 病いの 理由

兀該客失昆 斡脱歹突舌児 額耶 兀該 中忽塔阿舌児塔 客失克
無 班的 老 行 商量 無 第 三 次 班
ügeį kešig-ün ötödeį-dür eye ügeį guta'ārta kešig
なく, 当番 の 長 に 相議せず 三度目にても 当直を

豁阿舌剌阿速……。(169)
脱 了 呵……
ho'āra'āsu
息らば……。"

〈8〉 §29 (一18二～18五) 帖迭亦児堅 孛端察舌侖 中合児赤中孩
那 百姓 黄 鷹
tede irgen Bodončar-un qarčigaį
その 人衆 ボドンチャル の 黄鷹を

中忽余阿速 額薛斡克罷 帖迭亦児堅 孛端察舌里 客訥埃把
索 着 不曽 与了 那 百姓 誰的 并
guyu'āsu ese ögbe. tede irgen Bodončar-i ken-ü-ēį ba
乞わば 与えざりき。 その 人衆 ボドンチャル を "誰 の 者 か

牙兀訥埃別客延 阿撒黒中忽 兀該 孛端察児別帖迭 亦児格泥 牙温
甚的 麼 道 間的 無 也 那 百姓 行 甚麼
ya'ūn-u-āį be keyēn asaǥqu ügeį Bodončar be tede irgen-i ya'ūn
如何 の 者 か" と 問わず ボドンチャル も その 人衆 を "如何なる

亦児堅客延　阿撒温勤察中怒兀該　迓歩勤都罷　(170)
百姓　慶道　相問　無　共行了
irgen keyēn asa'ū(n)lčaqu **ügei** yabulduba.
人衆"　と　相問わ　ず　行き来せり。

以上の語例から，「**兀該**」が秘史蒙古語において，どの様に用いられたかの概要をつかみ得る。〈1〉～〈3〉は兀該が動詞に伴なわれて文の述語動詞として機能し，〈4〉～〈6〉は直後の実詞に対する定語《～のない～》として用いられ，〈7〉，〈8〉においては副詞句として《～せずに，～しないで》の意に用いられ，又，形動詞に後置されて動詞の否定形を作り，現代モンゴル系言語に広く使用される動詞一般の否定法の起源がすでにこゝに観取される。

又，§100（二45十）における Temüjin-i büküi-yi **ügei** ese uqabi《テムヂンがいるか，いないかを気づかなかった》の ügei は，純粋に名詞《いないこと》として用いられた用法と言うことができよう。

こゝまでの考察で「兀該」が基本的には実詞であり，動詞の範疇に入らないことが明かになったが，更に，この語 ügei の構成を，兀該兀，兀格兀などとの関連の中で分析し，合わせて，-qu[2] 系語尾との関係を考えて見たい。

*　　*　　*　　*　　*

兀該 ügei，兀格兀 üge'ū，兀格為 üge'ūi，兀格温 üge'ūn と並記して見ると，共通の語幹として *üge- を取り出すことができよう。

一方，兀該 ügei，兀該兀 ügei'ū，兀該為 ügei'ūi，兀該温 ügei'ūn と並べて見ると，こゝからは *ügei- を共通の要素として取り出すことができる。しかし兀該兀などを ügeiū>üge-iū>üge-i-ū と見て，-i- を e と ū の間の介入子音と見れば，語幹 *üge- を導き出せて，上記の語幹 *üge- と同一の語幹 *üge- を認めることができる。この《ない，存在しない》を意味する動詞的語幹に，出動実詞形成接辞 -gū，-gūi，-gūn などが接尾された，文語形 ügegü，ügegüü，ügegüi などの形を我々は現に辞典類の中に見ることができるが，現在，最も信用できるハルハ方言の辞典 [Ц. M. X] には

ҮГҮҮ үгийгүү，үгээгүү (**ügegüü**)

ҮГЭЭГҮҮ үгийгүү, хоосон, ядуу (**ügegüü**)

ҮГИЙГҮҮ үгээгүү (**ügegüü**)

の如く見えて，同一の文語形 ügegüü がハルハ方言では үгүү, үгээгүү, үгийгүү として現われるかの如くである。

秘史の「兀格兀」üge'ū の正規の発展形は ügū であるから，ハルハ方言の үгүү はまさにそのものであり，үгээгүү は文語 ügegüü の音読みそのまゝの形であろう。үгийгүү は恐らく，比較的近代に起った口語形と思われるが，内蒙古大学の蒙古語文研究所の編になる「蒙漢辞典」——この辞典は現在すでに購入不能であるが，文語辞典としては最良の辞典の一つである——には ügeiigüü として登録されている。この形を見ると秘史の「兀該兀」の後身と見られそうだが，恐らくそうではあるまい，文語形 ügeiigüü は既存の ügegüü の類推形として新しく現われた形と思われる。その ügeiigüü の口語読みが үгийгүү である。Я. Цэвэл 氏が [Ц. М. Х] を編纂した当時1960年代の前半には，口語形として үгийгүү は存在したが，文語形としては ügegüü のみしか存在しなかったので，үгийгүү に対しても ügegüü が当てられた。しかし1970年代の後半に発行された「蒙漢辞典」では үгийгүү に相当する ügeiguü がすでに文語形として定着していたので，「蒙漢辞典」には ügeiigüü が登録されたものと考えられる。

さて，話しを本筋にもどして，《無，不存在》を意味する動詞的語幹 *üge- は実詞形成接辞 -i(-i) をとって ügei が作られる。この -i は《有》を意味する büi における -i と同一物である。*üge- に見られる《無，不存在》の意は ülü《動詞に前置されて否定形をつくる小辞》，üdü'ü(i)《まだ～しない》との対比から見て，第一音節の *ü- に宿ると言えようが，ülü の -lü, üdü'ü(i) の -dü-, ügei の -ge- が如何なる意味と職能をもつか，現在までの処，残念ながらの不分明である。

以上，秘史蒙古語に見られる「兀格兀」系と「兀該兀」系の諸形の分析から最終的に，語幹 *üge- を抽出し，この語幹に実詞形成接辞の -i, -ū, -ūi;

-ūn が接尾されて「兀該，兀格兀，兀格為，兀格温；兀該兀，兀該為，兀該温」の諸形が得られることを説いた。

こゝで最後に述ぶべきことは，この -i̱，-ū̱，-ūi̱，-ūn を形動語尾の -qu²，-qui̱²ⓐ<*-q-ui̱²，-qui̱ⓑ<*-q-u-i̱，-qun² の諸形の中にそのまゝ見出すことができると言うことである。かくして -qu² は男性単数形語尾，-qui̱²ⓐは女性単数形語尾，-qui̱²ⓑは述語形語尾，-qun² は複数形語尾と規定しうる。

-qui̱²ⓐ と -qui̱²ⓑ とは簡単に前で触れたように，-q に女性形表示の -ūi̱ が接尾した -qūi̱²ⓐ と -q に述語形形成接辞の -i̱ が接尾する際 -q と -i̱ の間に介入母音 -u- が挿入されて出来上った -q-u-i̱>-qui̱²ⓑ とがたまたま同一の形をもつに到ったものである。-qui̱² の用例が示す女性形語尾としての用法〈1〉～〈5〉と〈6〉～〈10〉が示す述語的用法は，上の如く見ることによって解決される。

-qu² 系語尾の記述を結ぶに当り，この語尾の意義素を《或る動作が，現在及び未来において行なわれるべき（もの，こと）》と措定する。

なお，筆者は，こゝで中世蒙古語の実詞，特に形容詞の性格にも言及すべきことを前言したが，-qu² 系語尾と ügei̱ 系諸形との記述に思わぬ時間を費したので，こゝでは形容詞に対する言及を後にゆずり，形動詞語尾の中で -qu² 系語尾に劣らず重要な -gsan² 系語尾の記述に移ることにする。

［Ⅱ］ -gsan², -gsad² と［Ⅲ］-ā², -āi̱²

-gsan² は「完了の形動詞語尾—— -gsad² は複数形——，-'ā² は未完了の形動詞語尾—— -'āi̱ は複数形（？）——」と原則的に言うことができる。

秘史全巻から -gsan の用例126例，-gsen の用例122例，合わせて248の使用例を拾い出せる。複数形の-gsad 58例，-gsed 25例の総てを合計すると331の用例が見られ，極めて多用される語尾群の一つであると言っても過言ではあるまい。

-'ā²，-'āi̱² は，これに反してその用例は限られていて，-'ā は11例，-'ē は3例，-'āi̱ 14例，-'ēi̱ 7例など総計して35例を数えるのみである。

完了形の -gsan² は現代の諸方言でも盛に用いられ，ハルハ方言では -caн⁴

として用いられる。複数形の -gsad² の方は -сан⁴ ほど頻用されることはないが稀に -гсад⁴ の形で用いられ，この複数形は，-gsad² の -g- を保存している点で興味ぶかい。稀にしか用いられない故にこそ -gsad² の -g- が保たれたのである。言語には，この種の現象が間々見られるものである。この -гсад⁴ もその例に洩れない。

-'ā² も現代にまで伝存され，ハルハ方言では -aa⁴～-гaa⁴ の形で多用され，特に否定形の -(r)aaгуй⁴ は -сангуй⁴ に代って最も一般的な過去時制の否定形として用いられる。

以下に -gsan², -gsad²; -'ā², -'āi² の用例を示しつつ，この二語尾の解説に移ろう。なお，-ā², -āi² は終止形としても用いられ，それについては p. 71 を参照のこと。

〈1〉 §118 (三29五～29七)

| 帖木真 | 札木中合 | 中豁牙舌児 |
|---|---|---|
| 人名 | 人名 | 両 箇 |
| Temüjin | Jamuqa | qoyar |
| テムヂン， | ヂャムカ | 二人 |

| 阿馬舌剌勒都舌侖 | 你刊桓 | 〔孛勒周〕 | 那可額 | 豁訥 | 札舌林 | 阿馬舌剌勒都周 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 相 親 愛 | 一 年 | 〔倣着〕 | 第 二 | 年的 | 半 | 相親愛 着 |
| amaraldurun | niken hon | [bolju] | nökö'ē | hon-u | jarim | amaralduju |
| 親しみ合うに | 一 年 | 〔経ちて〕 | 次なる | 年 | のなかば(まで) | 親しみ合い， |

| 帖舌列 | 阿黒三 | 嫩禿中合察 | 你刊 | 兀都児 | 耨兀耶 | 客額勒都周……。(171) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 那 | 住的 | 営盤 行 | 一 | 日 | 起 咱 | 共説 着 |
| tere | agsan | nuntuc-ača | niken | üdür | neu̯'ū̯yē | ke'ēldüjü……. |
| その | ありし | 幕営地 より | 一 | 日 | "移らむ" | と云い合いて……。 |

〈2〉 §73 (二4九～5一)

| 訶額侖兀真 | 格周耨兀克迭舌侖 |
|---|---|
| 婦 人 名 | 撤着 起行 時 |
| Hö'ēlün=üjin | gējü neu̯'ū̯gderün |
| ホエルン・夫人 | 棄て 移らるる時 |

| 禿黒剌周 | 別耶別児 | 秣舌驪剌周 | 札舌里木惕 | 亦児格泥 | 亦出合罷 | 帖迭別児 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 莫頭拿着 | 親 身 | 上馬着 | 一 半 | 百姓 行 | 退 了 | 那的毎也 |
| tuclaju | beye-bēr | morilaju | jarimūd | irgen-i | ičucaba. | tede ber |
| 纛をたて | 自ら | 上馬して | なかばほどの | 人衆 を | もどらせり。 | 彼等 |

亦出中合黒苔黒三　亦児堅　兀禄脱黒壇　泰亦只兀敦　中豁亦納察
退了的　百姓　不定　種名的　後自
ičugacdagsan　irgen　ülü togtan　Taiyiǰi'ūd-un　qoyina-ča
もどらさせられし　人衆　定まらず　タイチウド族の　後より

耨兀主為。(172)
起了
neu̯'ǖjü'ū̆i̯.
移れり。

〈3〉§63 (一43十～44三)　也速該中忽苔　額捏　沼兀敦　米訥
名　親家　這　我　夢的
Yesügei̯　quda　ene　jeu̯'ūdün　minu
"イェスゲイ　クダよ，　この　夢を　← 我が

赤馬亦　額列　可兀別延　兀都舌里惕抽亦舌列古耶　兀者克先　阿主兀
你行　但　児子行　引着来的行　見了　有来
čimayi　ele　kö'ü-beyēn　uduridču　ireküi̯-e　üjegsen　aju'ū.
汝　こそか　子を(己が)　つれ　来る故に　見たる　ならむ，

沼兀敦　撒因　沼兀都列罷　牙温　沼兀敦　阿中忽　塔　乞牙惕　亦児格訥
夢　好　夢了　甚麼　夢　有　您　人氏　百姓的
jeu̯'ūdün　sayin　jeu̯'ūdülebe,　ya'ūn　jeu̯'ūdün　aqu,　ta　kiyad　irgen-ü
夢を　← よき　夢見たり，　いかなる　夢　なるか，　汝等　キャド　人衆の

速勒迭児　亦舌列周　札阿(中)合黒三　阿主兀。(173)
吉兆　来着　告了　有来
sülder　ireǰü　ǰa'ācagsan　aǰu'ū
吉兆　来りて　告げしめし　ならむ。"

〈4〉§155 (五21十～22三)　額捏　兀格突舌児　成吉思中合罕
這　言語裏　太祖皇帝
ene　üge-dür　Činggis qahān
この　言に　チンギス可汗の

鳴詁列舌論　額格赤　赤訥　赤馬苔察　撒因卜克先　孛額速　額舌里兀魯耶
説　姐姐　你的　比你　好有来　有呵　教尋咱
ügülerün　egeči　činu　čimadača　sayin bügsen　bö'ēsü　eri'ūlüye,
言う　姉　← 汝の　汝より　良く　ありし　あらば　尋めしめむ，

額格赤顔 亦舌列額速 斎亦剌周 斡克古由 赤 客額罷原作別。(174)
姐姐 自的行 来呵 躁着 与慶 你 説了
egeči-yēn ire'ēsü jaɟyilaju ögküɟ-ü či ke'ēbe.
姉が ← 己が 来らば 退き 与うる や 汝" と云いぬ。

〈5〉 §224 (九30八～31二) 兀魯思 擺亦兀魯勒察黒撒惕
国 共立了的每
ulus baɟyi'ūlulčaɢsad
国を ともに建てしものどの

勺孛勒都黒撒的 敏中合敦 那牙惕孛勒中合周 敏中合 敏中合剌周
生受了的每 千戸的 官人 教做着 千 千做着
joboldugsad-i mingad-un noyad bolgaju minga mingalaju
ともに苦しみあいしものどもを 千戸 の 長と なし, 千を 千戸となし,

敏中合敦 札兀敦 (ロ)合舌児巴敦 那牙惕 土失周 禿篾列周
千戸的 百戸的 十毎的 官人毎 委付着 萬做着
mingad-un, ja'ūd-un, harbad-un noyad tüšijü tümelejü
千戸 の, 百戸 の, 十戸 の 長官に 任じ, 万をなして

禿篾敦那牙惕 土失周 禿篾敦 敏中合敦 那牙惕塔 莎余勒中合勒
萬毎的 官人毎 委付着 萬毎的 千毎的 官人毎(行) 恩賜
tümed-ün noyad tüšijü tümed-ün, mingad-un noyad-ta soyulqal
万戸 の 長に 任じ 万戸 の, 千戸 の 長官 に 嘉賞の

斡克帖坤 篾禿薛 莎余舌児中合勒 幹克抽……。 (175)
可与的每 般每行 恩賜 與着
ögtekün metüs-e soyurqal ögču…….
与うらるべき 如き人々 に 嘉賞を 与え……。

〈6〉 §200 (八15三～15六) 客里 客額額速 客舌列亦惕
幾時 説呵 種名
keli ke'ē'ēsü Kereyid
"いつか と云はば ケレイド

亦舌児堅魯額 中合(舌)剌中合勒只惕額列惕帖 中合惕中忽勒都中灰突舌児 王中罕
百姓 一同 地名 行 斯殺的時 人名
irgen-lü'ē Qara=qaljid=eled-te qadqulduquɟ-dur Ong qan
人衆 と カラ・カルヂド 沙漠 にて 合戦せる 時 王 罕なる

額赤格迭 鳴詁列克薛惕 兀格昔顏 薛舌列兀勒周 亦列克先 土撒 赤訥
父 行 説了的 言語自的行 提 省 着 教来的 恩 你的
ečige-de ügülegsed üges-iyēn sere'ūljü ilegsen tusa činu
父 に 語りし 言 をば(己の) 知らせ よこせしは 功助 ←汝の

備者 巴撒 乃蛮 亦舌児格泥 兀格額舌児 兀窟兀勒周 阿馬阿舌児
有也者 再 種名 百姓 行 言語裏 教死着 口 教
büi̯~je, basa Nai̯man irgen-i üge-'ēr ükü'ūljü ama-'ār
な るぞ, また ナイマン 人衆 を 言もて 死なせ, 口もて

阿剌周 阿余兀魯黒撒你顔 阿荅里惕中合禿該 客額周 客列 亦列克先 赤訥
殺着 教怕来的 自的行 教比方 者 説 着 話 教来的 你的
alaju ayu'ūlugsan-iyān adalidqatugai̯ ke'ējü kele ilegsen činu
殺し 恐れしめし を 「(死せるに)比すべし」 とて 言を よこしたるは 汝の

土撒 孛勒主為者 客延……。 (176)
恩 做了有来也者 暦道
tusa bolju'ūi̯~je keyēn…….
功助 なりしぞ" とて……。

〈7〉 §82 (二18四～18六) 帖舌列 阿勒荅黒三 古温 也客(擣)兀把児
那 脱了的 人 大 声 教
tere aldagsan kü'ūn yeke dau̯'ū-bār
その 先いし 人 大 声 もて

巴舌里牙 古温 阿勒荅罷 客延 中合亦剌(中)灰突児 塔児中合黒撒惕
拿住 人 脱了也 暦道 叫 時 的 散 了 的
bariya kü'ūn aldaba keyēn qayilaqui̯-dur tarqagsad
"とらわれ 人 逃げたり" と 叫ぶ に 分散せし

泰亦赤兀惕 中忽舌里周 亦舌列周 兀都児篾圖 撒舌剌兀舌剌 斡難訥屯泥
種名 聚着 来着 白日 般 月明 裏 名 的林行
Tai̯yiči'ūd quriju ireju üdür metü sara'ūr-a Onan-nu tün-ni
タイチウド族 集まり 来り 白日の 如き 月明のもと, オナン の 林 を

別迭舌列罷 (177)
排 尋 了
bederebe.
探索せり。

〈8〉 §244 (十26十～27十)

晃中豁塔歹 蒙力克 額赤額因
種 人名 父 的
Qongqotadaị Münglig eči'ē-yin
コンコタン族の ムンリグ 父 の

可兀楊 朶(舌)羅安 不列埃 朶羅阿訥 敦荅都 闊闊出 帖卜騰格舌理
児子毎 七 箇 有来 七箇 的 中間 人名 巫 名
kö'ǖd dolo'ān büle'ēị. dolo'ān-u dundadu Kököčü Tebtenggeri
子達 は 七人 ありき。 七人 の 中間の ココチュは テプテンゲリ

不列額 帖迭 朶羅安 晃中豁壇 中合撒舌里 斡篾舌列周 札你赤主為
有来 那 七箇 種 名 行 黨 比 著 打了来
büle'ē. tere dolo'ān Qongqotan Qasar-i ömēreǰü ǰančiǰu'ūị.
なりき。 その 七人の コンコタンは カサル を 群がりて 打ちたり。

中合撒舌児 朶羅安 晃中豁塔納 斡篾舌列周 札你赤黒荅阿 客延
人 名 七箇 種 行 黨 著 被 打 了 歴道
Qasar dolo'ān Qongqotan-a ömēreǰü ǰančigda'ā keyēn
カサルは "七人の コンコタン に 群がりて 打たれり" とて

成吉思中合阿納 莎歌都額速 成吉思中合罕 不速楊途舌児 乞霊剌周
皇帝行 跪 告 呵 太 祖 皇帝 別的毎 行 怒 着
Činggis qa'ān-a sögödü'ēsü Činggis qahān busud-tur qilinglaǰu
チンギス 可汗 に 跪まづかば、 チンギス 可汗 他のもの に 怒り

阿中灰敦荅 客列列古 孛侖 成吉思中合罕 乞霊都舌里顔
有 中 間 説 的 做 太 祖 皇帝 怒 哀自的行
aquị dunda kelelekü bolun Činggis qahān qiling-dur-iyān
ある さなかに 言うに なりて チンギス 可汗 怒り に ← 己が

中合撒舌里 鳴詰列舌論 阿米禿荅 兀禄 亦剌黒荅中忽阿察 不列額 赤
人名 行 説 生命有的行 不 被勝 有 行 有来 您
Qasar-i ügülerün amitu-da ülü ilagdaqu-ača büle'ē či,
カサル を 言うに "生ある者 に 負くるなき ほど なりしぞ 汝,

客舌児 亦剌黒荅阿 赤 客額克迭周 中合撒舌児 你勒不速 阿勒荅阿楊
怎麼 被勝了 你 被 説 着 人 名 淚 墮 了
ker ilagda'ā či ke'ēgdeǰü Qasar nilbusu alda'ād
いかに 負けたる 汝" と云われ, カサル 涙を (見わず)落し

孛思抽 約舌児赤周 中合撒舌児 馬危剌周 中忽舌児班 兀都舌児 額薛
起着 去着 人名 煩悩着 三 日 不曽
bosču yorčiju Qasar ma'ūi̯laju gurban üdür ese
起ちて 去り カサル 悩みて 三 日 来

亦舌列罷 (178)
来了
irebe.
ざりき。

〈9〉 §177 (六28五～28八) 巴撒 必荅古出古舌児台不亦(舌)魯黒中合泥
再 咱 人名 皇帝行
basa bida Güčügürtei̯=buyirug qan-i
"また 我等は クチュグ ブイルグ 汗を

兀魯黒塔中渾 莎中豁黒兀速(舌)納(7)察 阿勒台 荅巴兀侖 《中》忽勒迭周 滔舌籠古
地名的 水名 処 山名 越過 赶了着 水名
Ulugtag-un Soqog usun-ača Altai̯ daba'ūlun hüldejü Ürünggü
ウルク岳 の ソカク 水より アルタイを 越えしめ 追いて ウルング河を

忽舌魯兀 斡都阿揚 乞赤勉巴石 納滔舌剌 抹中忽揚中合周 阿不埃者 必荅
順 去了 海子名 海子行 窮極着 要了也者 咱每
huru'ū odu'ād Kičil=baši na'ūr-a moqudqaju abu'āi̯~je bida,
下り 行きて キチル(湖) 湖に 殲滅し とりたるぞ 我等",

田迭徹 中合舌里周 阿亦速中灰突舌児……。 (179)
自那裏 回着 来時……。
tendeče qariju ayisuqui̯-dur…….
そこより 帰り 来るに……。

〈10〉 §179 (六36一～37一) 塔泥 中合揚 孛魯揚(中)〔渾〕 客額周
您行 皇帝每 做每 説着
tan-i qad boludqun ke'ēju
"汝等を 「汗々に なるよう」 と云いて

牙荅周 塔納赤 中罕 孛勒 客額克迭周 篾顕 迸歩罷者 必 塔泥
不能着 您行 你 皇帝 做 被説着 管 行了也者 我 您行
yadaju tan-a či qan bol ke'ēgdejü meden yabuba~je bi, tan-i
能わず, 汝等に「汝 汗 たれ」 と云われ 統べ 行けるぞ 我, 汝等が

中合惕 孛魯黑三 孛額速 斡欒歹因突舌児 阿勒斤赤 哈兀勒中合黒荅阿速
皇帝 做了 有呵 多 敵 行 頭哨 教 奔 呵
qad bolugsan bō'ēsü olon dayin-dur alginči ha'ūlgagda'āsu
汗に なりし あらば 多くの 敵 に 尖軍たりて 奔らせらるれば

騰格舌理迭 亦協額克迭額速 歹亦孫 古温泥 倒兀里中灰突舌児 中合察舌児
天 行 被護助 呵 敵 人 行 擄 行 腮
tenggeri-de ihe'ēgde'ēsü daiyisun kü'ūn-i dau'ūliqui-dur qačar
天神 に 加護さるれば 敵 人 を 掠擄する に 頬

中豁阿 斡乞 中合敦 額篾冝 中合舌児中〔舎〕 撒因 阿黒騮 阿卜赤舌剌周
美 女 娘子 婦人行 膀 好的 騙馬 将来 着
go'ā öki qadun eme-yi qargam sayin acta abčiraju
美しき 乙女, 婦人, 女 を, 尻の よき 騙馬を もち来り

斡古埃 不列額者 必 斡舌剌阿 戈舌劣額孫突舌児 児禿舌剌兀勒荅阿速
與 有来 也者 我 野 獣 行 教出圍 咱
ögü'ēi büle'ē~je bi, ora'ā görö'ēsün-dür utura'ūlda'āsu
与え ありし ぞ 我, 逃げまどう獣 に 先がけさせられなば

中合荅因 戈舌劣額孫 中合亦訥 你客帖列失中合周 斡古埃 不列額者 必
崖 的 獣 前脚他的 一并 擠着 與 有来 也者 我
qada-yin görö'ēsün qa inu niketele šiqaju ögü'ēi büle'ē~je bi,
岩山 の 獣をば, 前脚を ←その 一つに おさえ 与え ありし ぞ 我,

崑訥 戈舌劣額速 中忽牙亦訥 你客帖列 失中合周 斡古埃 不列額者 必
山崖的 獣 後脚他的 一并 擠着 與 有来 也者 我
gun-u görö'ēsü guya inu niketele šiqaju ögü'ēi büle'ē~je bi,
山崖 の 獣 をば 後脚を ←その 一つに おさえ 与え ありし ぞ 我,

客額舌侖 戈舌劣額速 客額里亦訥 你客帖列 失中合周 斡古埃 不列額者
曠野的 獣 肚 他的 一并 擠着 與 有来 也者
ke'ēr-ün görö'ēsü ke'ēli inu niketele šiqaju ögü'ēi büle'ē~je
草原 の 獣をば, 腹 ← その 一つに おさえ 与え ありし ぞ

必……。(180)
|
我
bi……。
我……。"

〈1〉の acsan, 〈2〉の ičucacdacsan は直後の nuntuc, irgen を修飾する形動詞形本来の最も一般的用法である。〈3〉の üjegsen, ja'ācacsan は aju'ū と共に活用連語を形成し述語動詞として機能している。

〈4〉の egeči činu čimadača sayin bügsen bö'ēsü《汝の姉が汝より好かりしならば》の bügsen は極めて珍らしい例で，秘史においても，この一例のみである。bügsen bö'ēsü《～であったならば》で述語動詞を形成している例である。

〈5〉の baiyi'ūlčacsad《共に建てしもの達》，joboldugsad《共に辛苦を分ったもの達》は複数形 -gsad の一例としてあげたが，複数形は特にこのように《～したもの達》のように，"その行為を行った人々" の意の実詞を形成することがある。

〈6〉の ügülegsed üges-iyēn は中世蒙古語の一特徴である，定語と被定語間の数の一致が，この種の無生物の語にまで見られることの例証の一つとしてあげた。又，〈6〉の文末近くの kele ilegsen činu tusa bolju'ūi~je《言業を寄こせしは，汝の恩功なりしぞ》の ilegsen は文の主語として働いた形動詞の一例である。

〈7〉～〈10〉は -ā², -āi² の文例を示したが，-gsan も文中に見えるので合わせて御留意願いたい。

〈7〉の bariyā kü'ün は捕虜として《つかまえていた人》の意で barigsan kü'ün《つかまえた人》とは異なることに注意しなければならない。bari- に -'ā が接尾して介音として -y- が挿入され bariyā となったもの。

〈8〉の jančigda'ā《なぐられた》の -'ā と ker ilagda'ā《どうしてやられた（負けた）か》の -'ā は，この語尾の好例である。jančigda'ā は単なる jančigdaba《なぐられた》の -ba とは異なり，《なぐられた》行為が感覚的にはまだ終っていない，未完了として捉えられていることを示している。

ilagda'ā の -'ā も同様で，単純に《やられた，負けた》のではなく，《負けた》状態が，そのまま，現在にまで残っている，従って ker ilagda'ā či《どう

して負けたのか》は表現としては ilaɑdaba より強く，一種の驚きをも表わしているとも言えようか。

〈9〉の abu'āi~je bida の -'āi も moqudqaju abu- の状態が現在まで持続していることを示し，合わせて強意の表現として用いられている。bida《我等》が主語であるから，-āi は複数形かとも考えられるが，〈10〉の abčiraju ögü'ēi~je bi の bi《我》を見ると，-āi は単数の主語にも用いられている。従って -āi² が複数形とにわかに決することは出来ない。更に考慮すべきである。

ところで，〈10〉の三つの ögü'ēi~je bi の -'ēi も，この語尾のもつ特色をよく表わしている。

〈10〉の文はテムヂンがアルタン，クチチャル，サチャ，タイチュなどに推されて，qan の位に即く際，彼テムヂンはアルタン，クチャルなどをいわば先輩として qan たるべしと推し，彼等に辞退された結果，自ら qan 位に即かざるを得なかったとの件(くだり)の一駒である。テムヂンはサチャ，タイチュが qan になったなら，私は頬美わしき乙女，婦女，更に尻ぶりのよい馬を敵軍から奪って abčiraju ögü'ēi büle'ē~je《つれて来て与えていたのだぞ》と言ったのである。現実は，サチャとタイチュにも断わられて，テムヂンが qan 位に即いたので ögü'ēi《与えていた》わけではない。即ち事実に反する仮定の表現を -'ā², -'āi² は表わし得たのである。この語尾のもつ「未完了性」が，この様な表現を可能にしたと説明できよう。

更にもう一つ -'ā², -'āi² の特色は《未だ～しない》を意味する「兀都為」üdü'ūi と結びついて用いられることである。§7 (一4十) の Dobun mergen tede irgen-dür kürü'ēsü ünen kü ɢo'ā sayin aldar nere yeketei Alan=ɢo'ā neretei kü'ūn-ne ber ögte'ēi üdü'ūi ökin aju'ū の《人にぞ未だ与えられざる娘なりき》の ögte'ēi にその一例をうかがうことができる。これも，-'āi² 系語尾のもつ「未完了性」の然らしめるところである。

最後に，この二語尾の意義素を簡潔に

「-gsan²～-gsad² は“ある動作の完了した（もの・こと）”，-ā²～-āi̯²は“ある動作の未だ終らざるもの・こと”を表示する」

と言うことが出来よう。

なお，-gsan²，-gsad² については，末尾音を落した -gsa² を考えさせる若干例がないわけではない。例えば §30（一18九）の Tünggeli(g) huru'ū neü̯'ǖjü 亦舌列薛 (irese) irgen-dür teyimü teyimü kü'ün teyimü morintu büle'ē における亦舌列薛は「亦舌列(克)薛(惕)」iregsed と註して読まれるのが一般であるが，これと iregse と読み，-gsa² を考える読み方もあろうかとも思える。しかし，この種の用例の稀少さを考えると -gsa² を認める立場には立ちにくいと思う。後考に値する。

［Ⅳ］ -gči², -gčin²

この語尾 -gči² は現代のモンゴル語，例えばハルハ方言などにも -гч として生きている。しかし，秘史蒙古語には，極めて限られた使用例が認められるのみである。以下に列記しよう。

1 §105（三5九） 歹亦只(黒)赤 dai̯yijigči〈反的〉
2 §105（三6一） 帖篾扯克赤 temečegči〈争的〉
3 §159（五29六） 中合惕中忽勒都黒赤 qadquldugči〈厮殺的〉
4 §177（六24二） 阿剌黒赤 alagči〈好殺的〉
5 §185（六51四） 不勒中合勒都黒赤 bulgaldugči〈厮殺的〉
6 §187（七4四） 阿不黒赤 abugči〈好要的〉
7 §195（七35五） 脫那黒臣 tonogčin〈剝脫的每〉
8 §195（七35六） 阿不黒臣 abugčin〈要的每〉
9 §195（七39七） 稳榻黒赤 untagči〈睡的〉
10 §195（七39七） 孛速黒赤 bosugči〈起的〉

以上，10例が知られる。（なお，§46（一28三）の「阿荅(舌)魯黒赤」adarugči〈間諜〉も加えれば11例となる）-gčin² は -gči² の複数形である。後世の蒙古語文語，現代の諸方言に見られる複数形 -gčid², -гчид は秘史の言語からは発

見されない。

-gči[2] は -g[2]-či と更に分解され，形動詞としての徴標である -g-(-g-) に，《～するのを好む，～するのに巧みな》の意を表わす接尾辞 -či が附されて作られたものである。この -či は，「その接尾辞の附される実詞に結びつく職業に従事する人」を表わす -či——例えば qoni(n)《羊》→qoniči《羊飼い》，adu'ū《馬》→adu'uči《馬飼い》などの -či——とは本来別物である。

-gči[2] の用例を以下に示そう。

〈1〉 §105（三5九～6二） 荅卜赤禿 中豁舌児 荅舌児巴勒札中灰突舌児

盖子有的 箭筒 揺閃 時

dabčitu qor darbalǰaquį-dur

ダブチの入れる矢筒の ゆれ動く に

歹亦只(黒)赤 歹亦舌児兀孫 額朶額 斡舌児(中)洹薛涼格中豁牙舌侖 塔勒中渾

反的 人名 如今 水名 水名 両箇的 地名

daįyiǰigči Daįyir=usun edõ'ē Orqon Selengge qoyar-un Talqun

逃げ去る ダイル・ウスンは 今 オルコン，セレンゲ 両河 の タルクン

阿舌剌剌 備者 中含中合兀勒孫 克亦思恢突舌児 中合舌剌 槐 帖篾扯克赤

行 有也者 蓬蒿 風刮時 黒 林 爭的

aral-a büį~je, qamqa'ūlsun keįyisküį-dür qara hoį temečegči

島 に ある ぞ， 蓬蒿の 吸きとぶ に 黒き 林に 争い逃ぐる

中合阿台荅舌児馬剌 額朶額 中合舌剌只客額舌列備者 (181)

人名 如今 地名 野甸行 有也者

Qa'ātaį=darmala edõ'ē Qaraǰi ke'ēr-e büį~je.

カアタイ・ダルマラ 今 カラヂ 草原 に あるぞ。

〈2〉 §159（五29四～29七） 田迭徹 成吉思中合罕 王中罕

自那裏 太祖 皇帝 人名

tendeče Činggis qahān Ong qan

そこより チンギス 可汗 王 汗

中豁牙舌児 中合舌里周 阿亦速中灰突舌児 乃馬訥 中合惕中忽勒都黒赤

両箇 回着 来的時 種的 断殺的

qoyar qariǰu ayisuquį-dur Naįman-u qadqulduɢči

二人 帰り 来る に ナイマン族 の いくさ上手の

可克薛兀撒(ト)舌剌黒　巴亦荅舌剌黒別勒赤舌列　扯舌里克　札撒周

人名　地名　行　軍　整治着

Kögse'ü=sabrag　Bayidarag=belčir-e　čerig　jasaju

コグセウ・サブラグ　バイダラグ・ベルチル　に　兵を　整え

中合傷中忽勒都中忽　孛禽阿主兀。(182)

要斯殺　有来

qadqulduqu　bolun aju'ū.

合戦するに　なりて　ありき。

〈3〉§185（六51四）　額担　不勒中合勒都黒赤　只舌児吉訥

遣　斯殺的　姓的

ene　bulgaldugči　Jirgin-ü

この　能く戦えるは　ヂルキン の

中合荅黒把阿禿舌児　阿主兀　(183)

人名　勇士　有来

Qadag＝ba'ātur　aju'ū

カダク・バアトル　なりき。

〈4〉§187（七4四～4六）　赤速禿脫那黒　阿不黒赤　只舌児斤

血有的　剝脫　好悪的　姓

čisutu tonog　abugči　Jirgin

血そめの　剝脫物を　好みとる　ヂルギンの

把阿禿的　只速周　中忽必牙周　古舌児格勒敦　牙荅罷原作伯　(184)

勇士行　剝開着　分着　共到時　不能了

ba'ātud-i　jisüju　qubiyaju　kürgeldün　yadaba.

勇士達　を　ちりぢりに　分けて　あい足らしめ　ざりき。

〈5〉§195（七35四～35七）　札木中合　鳴詰列舌論　帖迭　鑌荅禿

人名　説　那的毎　鎗有的

Jamuqa　ügülerün　tede　jidatu

ヂャムカの　言う　"彼等,　槍もつ

額舌列宜　只兀周　赤速禿　脫那黒脫那黒臣　兀勒都禿額舌列宜　《中》忽勒迭周

男子行　趕着　血有的　剝脫的毎　刀有的　男子行　趕着

ere-yi　ji'ūju　čisutu tonog tonogčin,　üldütü ere-yi　hüldejü

男　を　追い　血ぞめの　剝ぎものを好みて剝ぐ,　剣もつ　男　を　追い

兀納中合周 阿剌周 兀卜脫納黑 阿不黑臣 兀舌魯兀惕 忙中忽惕 客額克迭惕
攻倒着 殺着 財物 剝脫 要的每 種名 種名 被説的
unaɢaǰu alaǰu üb tonaɢ abuɢčin Uru'ūd Mangɢūd ke'ēgded
倒し 殺し, 剝ぎもの 好みとる ウルウド, マングウド族, と云わるるぞ

帖迭……。 (185)
那的每……。
tede…….
彼等は……"。

〈6〉 §195 (七39五～39九) 札木中合 鳴詰列舌論 帖舌列 訶額侖
人名 説 那 名
Jamuqa ügülerün tere Hö'ēlün
ヂャムカの 言う "彼は ホエルン

額客因 你勤中合可温 斡惕赤斤 赫里格禿 客額克迭由 額舌児帖 穏榻黑赤
母的 最小的子 人名 肝有的 被説有 早行 睡的
eke-yin nilqa kö'ün Odčigin heligetü ke'ēgdeyü. erte untaɢči
母の 末子 オドチギン, 「心やさし」 と云わるるなり。 早く ねるを好み

斡舌剌牙 孛速黑赤 巴舌魯阿納察 別舌児兀禄 中豁綽舌魯由 擺荅剌察
晩行 起的 多処 也不 落後有 立処
oraǰ-a bosuɢči, baru'ān-ača ber ülü qočoruyu, baǰdal-ača
晩く 起くるを好み, 衆より ぞ おくれざるなり, 対陣より

別舌児 兀禄 中豁綽荅由 客額主為 (186)
也 不 落後有 説了
ber ülü qočodayu ke'ējü'ūǰ.
ぞ おくれざるなり" と云えり。

以上の諸用例を見るに, -ɢči², -ɢčin² の -či, -čin を qoniči, qoničin; adu'učči, adu'učin の -či, -čin と同一接尾辞と解するよりも, 現代のハルハ方言などで用される ажил《仕事》～ажилч (aǰilči)《仕事好きの, 仕事上手の》, хөдөлмөр《労働》～хөдөлмөрч《労働好きの》, эх орон《母国》～эх ороч《愛国的な》などの -ч(-či) と同一物と解すべきかと考えられる。この -či は修飾する語が「人, 生物」を表わす場合が圧倒的に多いので, 又, 形の上でも, 上の qoniči の -či と同形なので, この -či と混同され, 発生的には《～

するのを好む》を意味した形動詞語尾 -gči² が，時の流れと共に《～するのを好む人》の意に用いられるに到り，現在では——例えば，surugči《学生，生徒》，kelegči《話し手》など—— -gči そのものが《～する人，～するもの》を意味する語尾と化しつゝある感がある。

qoniči の -či は秘史の言語では複数形として -čid がすでに見られるが，この -gči² に関しては，複数形は秘史では -gčin² である。しかし，後世，-gči² そのものが，上述の如き変化を蒙るにつれて，複数形として -gčid² が現われることになる。なお秘史以外の中世蒙古語を調査の上で，この問題はもう一度取上げるべきものかとも考えられるが，今は一応，上の如く考えておく。

［V］ **-dag²**

《常に～する，いつも～する》を意味するこの語尾 -dag² は秘史の言語では殆ど用いられていず，以下に示す三例のみである。現代のハルハ方言では-даг⁴として盛んに用いられるのと対照的である。以下に用例をあげる。

〈1〉 §105（三5七～5九）

額朶額 帖舌列戈勤箴 荅卜失(中)灰突舌児
如今 那 転轉 拍 時
edö'ē tere gölme dabšiquı̣-dur
"今， かの 転轉を たたく に，

可兀舌児格因 擣兀孛勤中合周 可乞迭克 脫黒脫阿 不兀舌剌 客額舌列
鼓 的 声 敲着 軽薄動的 人 名 地 名 野飼行
kö'ürge-yin dau'ū bolcaju kökideg Tocto'ā Bu'ūra ke'ēr-e
(戦の)太鼓 の 音と 聞きなし 動揺常ならぬ トクトアは ブウラ 草原 に

備者 (187)
有也者
büı̣~je
ある ぞ"

〈2〉 §167（五42九～43二）

額朶額 可温突舌児 米訥 帖因
如今 子 行 我的 那般
edö'ē kö'ün-dür minu teyin
"今 子 に ← 我か かく

卯危薛傷乞額速　騰格舌理迭　兀禄　塔阿剌黒苔中渾　必荅　札木中合
歹 想 呵　天 行　不　被 愛　咱每　人名
maų'üį sedki'ēsü　tenggeri-de　ülü　ta'ālaɢdaqun　bida,　J̌amuqa
悪く 想わば　天 に　愛されざるべし　我等,　ヂャムカは

迂歩荅黒客列禿　不列額　勺不兀　塔不兀　鳴詰連　備由客延　額薛
走作 言語　有来　是麼　是麼　説　有 麼道　不曽
yabudaɢ keletü　büle'ē,　jöb-ü'ū　tab-u'ū　ügülen　büyü keyēn　ese
口舌の 常にまわるものなり,　然り, 然りと　言いあるなり"　とて

塔阿剌周　亦列主為　(188)
愛 着　去 了
ta'ālaju　ilejü'üį
喜ばずして　遣れり。

〈3〉 §105 (三6四～6六)　帖舌列可乞迭克　脫黒脫阿因　額舌魯格
那 軽騒動的　人 名 的　天窓
tere kökideg　Toɢto'ā-yin　erüge
"かの 動揺常なき　トクトア の　天窓の

迭額舌列　亦訥　斡舌羅周　額舌児勤　額額迭　亦訥　唵不舌魯　荅阿舌里周
上　他的　入 着　緊要的　帳房骨子　他的　塌了　攞 着
de'ēre　inu　oroǰu　erkin　e'ēde　inu　embürü　da'āriǰu
上に ← 彼の　入りて　心なる　門框を ← その　うち　砕きて

額箋　可温亦訥　額出勒帖列　好兀魯牙……。(189)
婦人　児子 他的　尽絶了　毀了咱
eme　kö'ün inu　ečültele　ha'ūluyā. ……
妻　子を ←彼の　ことごとく　掠取せむ……。"

以上の三例——と云っても kökideg が二例であるが——ともに -daɢ² のもつ意味あいがよく表現された用例である。kökideg というのは《ちょっとしたことにも，いつも心が動く，いつもそわそわする》の意が表現されているし，yabudaɢ kele も直訳すれば《いつも，よく歩きまわる舌》とでもなろうが，いわゆる《口舌の徒》を意味するのに，yabudaɢ keletü は，なかなかに言い得て妙である，

上述したように，この -daɢ² は，現代のハルハ方言ではよく用いられる。例

えば

Та өглөө бүр хэдэн цагт босдог вэ?
貴方は　毎　朝　何時に　起きます か

Би сургуульд өдөр бүр явдаг.
私は　学校へ　毎　日　通う。

の босдог や явдаг 等は，この語尾の表わす意義素《動作の恒常性・多回性》によくマッチした表現として終止形として用いられるのが一般である。

以上で「秘史蒙古語」における総ての形動詞語尾の解説を終えたことになる。

**第三講の註**

（1）モンゴル国の生んだ偉大な言語学者，故 Ш. Лувсанвандан 教授はその著 Орчин Цагийн Монгол Хэлний Бүтэц (Улаанбаатар, 1968) において нэр үг (実詞) を цагт нэр (時間実詞) と цаггүй (無時間実詞) の二つに分けている。

（2）N. Poppe, The Mongolian Monuments in ḤP'AGS·PA Script. Wiesbaden, 1957, p. 40 参照。

（3）dayin《敵軍》を“女性視”すると考えれば，この -qui を女性形と見る立場もとれないことはない。筆者は，かって，これについて一文を草したことがある。

（4）「中合(黒)察」を筆者は『元朝秘史全釈（上)』の p. 130, §22 の 2 行目に「中合(黒)察」としたが，この(黒)は(黒)に改める。原文には「中合黒察」とあり，これは「中合黒察」の誤りなので，(黒)ではなく(黒)としなければならない。

（5）この文，Qulan=ba'ātur-un kö'ün Yeke=čeren būle'ē. Badaj, Qišilig qoyar darqa(n)d-un noyan tere büle'ē の darqa(n)d を筆者は『元朝秘史全釈（上)』の p. 210 において「バダイ，キシリグ，二人のダルカンの長は彼なりき」とし，ダルカンを個有名詞の如き訳を与えたが，これは darqan《自由人——税賦などを治むる必要のなき，特権者》と解すべきものと考える。

（6）「鎖納」を「鎖紐」の誤写とする説について，筆者は『元朝秘史全釈（下)』の p. 196 の註 (8) において言及した。ペリオ，コージン，モスタールト諸氏，及び〔蒙・秘選〕にならって，「鎖〔紐〕」と校すべきかとの考えに現在では傾いているが，もう少し考えて見たい。

（7）四部叢刊本，葉徳本には莎中豁黒兀速舌納察とあるが，「舌納」の「舌」は勿論必要ない。そこで，本書では〈舌〉として示した。ソ連15巻には「舌」は見られず，この点では，ソ連本を以て正とすべきである。

# 第四講　動詞の副動詞形〔I〕

§1. 副動詞は副詞的な職能をもつ動詞の一変化形の謂である。従って文を終止する機能はない。しかし，文を中止し，後文との接続の役目は果し能るし，又，述部の一部として機能する。

副動詞形も，動詞の他の活用形と同様に，動詞語幹に語尾を接尾することによって形成される。

「秘史蒙古語」においては，蒙古語文語や現代のハルハ方言などに比して，その語尾の種類は少なく，次の10種の語尾の使用が認められる。

1. 連接接合副動詞語尾 -ju²～-ču²
2. 同時接合副動詞語尾 -n
3. 分離副動詞語尾 -'ād²
4. 限界副動詞語尾 -tala²
5. 条件副動詞語尾 -'āsu², -bāsu²
6. 継続副動詞語尾 -gsa'ār², -gsabār²
7. 目的副動詞語尾 -ra²
8. 予告副動詞語尾 -run²
9. 副動詞語尾 -ūta²
10. 副動詞語尾 -quča²～-quịča²

以上10類の語尾の中，(9) と (10) は極めて少数の用例をもつに過ぎず，実質的には，「秘史蒙古語」における副動詞語尾は，上の (1) -ju²～-ču² から (8) -run² までの8種類と言うことができる。以下に，これら副動詞語尾を，実例を提示しつゝ解明したい。

上記の副動詞語尾の中，秘史の言語のみならず，蒙古語文語更には現代のモンゴル語諸方言において多用されるのは (1) 連接接合副動詞語尾，(2) 同時接合副動詞語尾，(3) 分離副動詞語尾の三者であり，この三語尾について詳しい

分析が要請される。秘史の言語を資料として，筆者は先ず，この三語尾を考えて分見たい。例によって，これら三語尾の用例の吟味から始めるが，(1) の -ǰu²～-ču² の用例だけでも多くの用例を示す必要があり，三語尾総ての用例を合わせると，かなりの多数にのぼるものと思われる。

-ǰu² と -ču² は異形態の関係にある——動詞語幹の末音が b, d, g(g), r, s に終る場合には -ču² が，それ以外の場合には -ǰu² が用いられる——ので以下には，時間とスペースの節約のために -ǰu² を以て代表させる。

筆者は，従来，この三語尾を個々に取り上げて考えて来たが，こゝでは初めての試みとして従来と異なり，これら三語尾を，いわば one set として記述して見たいと考えている。-ǰu² にしても n- にしても或いは -'ād² についても，一応無難な記述は従来もないわけではないが，しかし，これら三語尾の本質的な相違は一体どこにあるのかという問題についての万人をして納得せしめる見解を筆者自身今まで持てなかったし，先人の著作類からも知ることは出来ない。又，モンゴル語を母語とするモンゴルの学者・研究者の詳しい，且，筆者をして納得せしめる見解に筆者は接していない。その様なわけで，今回は，自分を含めて，多くの学者・研究者諸賢に納得していたゞける様な見解を提出できればと願って，この項を書き下したいと願っている。

§2. 上にも述べた様に，-ǰu², -n, -'ād² の三語尾は秘史蒙古語において，上からこの順序で第一，第二，第三とランクされる最も多用される語尾群である。なかでも -ǰu² の使用例は多く，試みに秘史十二巻（又は十五巻）のいずれの一葉を開いても，この語尾にぶつからないことは極めて稀である。

そこで，この -ǰu² を中心にして記述を進めて行くが，その前に，ごく簡潔に，この三語尾についての従来の見解を述べておく。

一言で云えば，日本語の「ご飯を食べている」，「鳥が飛んで行った」，「毎朝6時に起きて散歩する」，「風が出て雨が降って来た」などの文の「て，で」を表わすのが，この -ǰu², などの三語尾である。現代日本語の「て，で」は外

界の事実としては異った行為・現象を同じ「て，で」で表わすが，モンゴル系の言語では，異った行為・現象には，それぞれ異った形式 -ǰu², -n, -ād² を用いるのである。その際，「で，て」の使用については応揚な——言葉を変えて言えば“鈍感な”——我々現代の日本人にとっては，モンゴル人が，この三語尾を使い分ける本能的基準がつかめないのである。この三語尾の使い分けは，モンゴル人にとっても，多分に本能的要素が多いため，彼等自身にとっても，その使い分けの本質的基準を発見するのが困難なのである。それ故，モンゴル人学者の手になる文法書類においても，この三語尾については，大まかな記述のみしか見られないのである。

この三語尾についての従来の研究の中ではやはり N. Poppe 教授の次の記述が簡にして要を得て優れている ([P. W. M. G] p. 96～p. 97)。

372. The *converbum imperfecti* expresses an action performed simultaneously with the main action.

The suffix is *-ǰu/-ǰü* when the stem ends in a vowel, diphthong, or the consonantl, *-ču/-čü* when it ends in *γ, b, s, d, g,* and *r.*

*abču* taking　　*olǰu* finding

*bosču* rising　　*ögčü* giving

*keleǰü* saying　　*yabuǰu* going

*bosči* (under colloquial influence) rising

*yabuǰi* (under colloquial influence) going

373. The modal converb expresses an action indicating the manner in which the main action is performed. The action of the converb and that of the main verb are closely related or fuse into one, e. g., “to arrive riding horseback.”

The suffix is *-n* with the union vowel *-u-/-ü-* if the stem ends in a consonant.

*nisün* (*nis-*) flying *nisün irebe* He came flying

*güyin* running in *güyin ɣarba* He came out running, or He ran out.

373. The *converbum modale* is by origin a verbal noun. Its plural (with the suffix *-d* replacing the final *n* of this converbal form) acted in Pre-classical Mongolian as a form of the present tense (vide § 413).

374. The *converbum perfecti* expresses an action completed before the main action starts, e. g., "he did and....," "after doing....." The suffix is *-ɣad/-ged* with a union vowel on stems ending in consonants.

*yabuɣad* after having gone

*keleged* he said and....., after saying

Poppe 教授のこの記述は原則的には受け入れられるが，この記述のみでは，現実の蒙古語文の理解は困難である。例えば，-nの例文で示されている *nisun irebe; güyin ɣarba* は又，*nisčü irebe, nisüged irebe, güyiǰü irebe, güyiged ɣarba* とも言うことができるのである。この三者の違いについては，従来何の言及もない。筆者は，これらの現象を含めて，この三語尾の本質を追求して見たい。以下の文例から読んで見る。

〈1〉 § 54 (一34四～34八)

| 帖舌列察黒突児 | 也速該把阿禿児 | 斡難 |
|---|---|---|
| 那 時分 | 名 | 河名 |
| tere čaɢ-dur | Yesügei=ba'ātur | Onan |
| その 時 に | イェスゲイ・バアトル， | オナン |

| 沐舌漣捏 | 釋鴿兀闌 | 迸歩(中)灰突児 | 篾児乞敦 | 也客赤列都 | 斡勒 |
|---|---|---|---|---|---|
| 河 処 | 放 鷹 | 行 時 的分 | 種 名 的 | 名 | |
| müren-ne | šibaų̈-ūlan | yabuquį-dur | Merkid-ün | Yeke=čiledü | Ol- |
| 河 に | 鷹 狩 し | 行く に | メルキド族 の | イェケ・チレドゥ， | オル |

| 中忽訥兀楊 | 亦児格捏扯 | 斡乞阿(ト)抽 | 額兀思格周 | 阿亦速中忽宣 | 勺魯中合周 |
|---|---|---|---|---|---|
| 種 名 | 百姓 処 | 女子要着 | 取 着 | 来 的 行 | 遇 着 |
| qunu'ūd | irgen-eče | öki abču | e'ǖsgeǰü | ayisuqu-yi | ǰoluɢaǰu |
| クヌウド族 | 人衆 より | 乙女を 娶りて | 発ちて | 来接しあるに | 遭いて |

汪格亦周 兀者額速 汪格只速 不失台 斡乞中合禿兀者周 格児禿舌里顔
探着 看呵 顔 色 別有的 女子 婦人 見着 家 自的行
önggeyijü üje'ēsü öngge jisü bušitaị öki qatu üjeǰü ger-tür-iyēn
見おろし 見れば 容 色 ことさうなる 婦人を 見て 包 に ←己が

中合舌鄰好温勤周 揑坤太子阿中合余安 蒼舌里台斡傷赤斤 迭兀遣
回 奔 着 人 名 兄 自的行 名 弟 行
qarin hau'ū(n)lǰu Nekün=taịdz aqa-yu'ān, Daritaị=odčigin de'ǖ-bēn
帰りに 奔 り て ネクン・タイズ 兄 を(己が), ダリタイ・オドチギン 弟 を(己が)

兀都舌里傷抽 亦舌列主為 (190)
引 着 来 る
uduridču ireǰü'ǖị.
引きつれ 来れり。

〈2〉 §26 (一16七～16十) 亦哩恢 亦哩延 兀該 阿舌侖
喫的 茶飲 無 住時
ideküị ideyēn ügeị arun
喫う 食物 なく ある時,

赤那因中昆途児 (中)豁児中合黒三戈舌劣額孫 馬舌里牙周 中合児鏁周
狼 的 崖 行 囲 住 的 野 物 窺 覘 射 着
čino-yin gun-ṯur qorɢasan görö'ēsün mariyaǰu qarbuǰu
狼 の 懸崖 に 追いこみたる 狩猟物を うかがいて 射

阿剌周 亦哩勤都額傷 赤那因亦哩克先泥 忝古勤都周亦哩額傷 斡額舌侖
殺着 喫兼 着 狼的 喫了的 拾 着 喫兼着 自己
alaǰu ideldü'ēd čino-yin idegsen-i temgüldüǰü ide'ēd ö'ër-ün
殺して 食ぶ合いて, 狼 の 食べたる を 拾い合いて 喫いて 己 が

中豁斡来〈巴〉安 中合児赤(中)孩巴安別児 帖只額勤敦 帖舌列桓中合児罹 (191)
喉嚨 自的 黄 鷹 自的 也 養兼 着 那 年 出 子
qo'ōlaị-ba'ān qarčicaị-ba'ān~ber teǰi'ēldün tere hon garba.
喉 を(己が), 鷹 を(己が) も 養い合って その 年 出でぬ。

〈3〉 §154 (五19三～21六) 塔塔舌里 木中忽傷中合周 倒鄰巴舌剌周
種 行 教 絶 着 擄 了着
Tatar-i muqudqaǰu daụlin baraǰu
タタル族 を 窮滅して 掠め 終りて

兀魯思 亦舌児堅 阿訥 客舌児 乞坤 客延 成吉思中合罕 也客 額耶
国 百姓 他的 怎生 做咱 麼道 太祖 皇帝 大 商量
ulus irgen anu ker kikün keyēn Činggis qahān yeke eye
"民人 人衆を ← 彼等の いかに 為すべき" と チンギス 可汗, 大 相議に

兀舌魯乞牙舌里顔 中合黒察 格舌児圖舌児斡舌羅周 額耶禿勒都罷
一族 自的行 独 房子 裏 入 着 共商量 了
urug-iyār-iyān gaGča ger-tür oroǰu eyetüldübe.
一族 もて ← 己が 唯一の 包(ゲル) に 入りて 相議し合いぬ。

額耶禿勒都舌論 額舌児迭兀都舌列徹 塔塔児 亦舌児堅 額不格思 額赤格昔
商量 説道 在先 日子 行 種 百姓 祖宗 父親 行
eyetüldürün erḍe üdür-eče Tatar irgen ebüges ečiges-i
相議し合うに 古き 日 より タタル族 人衆, 祖父達 父達 を

把舌剌黒三 不列額 額不格思 額赤格孫 斡旋勒斡雪周 乞散勒乞撒周
廃盡的 有来 祖宗 父親 的 響 報着 仇 報着
baraGsan büle'ē. ebüges ečiges-ün ösöl ösöǰü qisal qisaǰu
殺めたる なり。 祖父達, 父達 の ううみを 報じ 仇を うちて

赤温突舌児 兀里周 乞都周 阿剌周 斡古牙 兀里揭帖列 乞都牙
車 轄行 比着 盡絶着 殺着 與咱 盡 絶 殺着
či'ūn-dür üliǰü qiduǰu alaǰu ögüyē ülidtele qiduya,
車轄(の高さ)に 比して 斬り 殺し やらん, 絶え尽くるまで 屠らん,

許列克薛的 孛斡里都牙 竹克竹克 中忽必牙勒都牙客延 額耶巴舌剌勒都周
剩 的。 奴婢做使唤 各 処 分 咱 麼道 商量 定 了 着
hülegsed-i bo'ōliduya, jüg jüg qubiyalduya keyēn eye baralduǰu
残りしもの を 奴隷とせん, 方 方に 分け合わん" と 相議を 終り合いて

格舌児帖徹 中合舌魯阿速 塔塔舌侖 也客扯舌連 別勒古台額徹 黯巴舌児
房子 行 出 呵 種 的 人 名 人 名 処 怎 生
ger-teče garu'āsu Tatar-un Yeke-čeren Belgütei-eče yambar
包(ゲル) より 出ずれば, タタル族 の イェケ・チェレン, ベルグテイ より "如何なる

額耶 額耶禿勒都罹原作倍 客延 阿撒黒主兀 別勒古台 鳴詁列舌論 塔泥
商量 商量 了 麼道 問了 有来 人名 説 您行
eye eyetüldübe keyēn asaGju'ū. Belgütei ügülerün tan-i
相議を 議し合いたる" と 問え り。 ベルグテイの 言うに, "「汝等 を

| 不古迭宜 | 赤温突舌児 | 兀里周 | 乞都牙 | 客額勒都罹(原作俗) | 客額主兀 |
|---|---|---|---|---|---|
| 都 行 | 車轄 行 | 比着 | 尽殺 | 共 説了 | 説 有来 |
| bügüde-yi | či'ūn-dür | ülijü | qiduya | ke'ēldübe | ke'ējü'ū, |
| なべて を | 車轄 に | 比して | 屠らん」 | と云 いぬ" | と云えり。 |

| 別勒古台因 | 額捏 | 兀格突舌児 | 也客扯舌連 | 塔塔児都里顔 |
|---|---|---|---|---|
| 的 | 這 | 言語 裏 | 人 名 | 種 自的行 |
| Belgüteį-yin | ene | üge-dür | Yeke=čeren | Tatar-dur-iyān |
| ベルグテイ の | この | 言 に | イェケ・チェレン, | タタル族 に ← 己が |

| 統中合黒塔勒必周 | 中豁舌児中合(黒)剌主兀 | 中豁舌児中合黒撒楊 | 塔塔舌児途舌児 |
|---|---|---|---|
| 伝説 放 着 | 寨子把了来 | 寨子把了的 | 種 行 |
| tungqaG talbiǰu | qorGa[G]laǰu'ū | qorGasad | Tatar-tur |
| 伝旨を 流して | 塞 にこもれり, | 塞にこもりし | タタル族 に |

| 必荅訥 | 扯舌里兀楊 | 額額舌列坤 | 孛侖 | 馬石 | 耄失主兀 | (中)豁舌児中合剌黒撒楊 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 咱的 | 軍 毎 | 要 政 | 做呵 | 好生 | 廃耗了 | 寨子 把了的。 |
| bidan-u | čeri'ūd | e'ērekün | bolun | maši | samsiǰu'ū. | qorGalasad |
| 我等 の | 兵士達 | 攻むることたりして | いたく | 失ないたり。 | | 塞にこもれる |

| 塔塔舌里 | 勺孛周 | 斡舌羅兀勒周 | 兀魯楊刊 | 赤温突舌児 | 兀里周 | 乞都中灰突舌児 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 種 行 | 生受着 | 教入 着 | 尽 絶 | 車轄 行 | 比着 | 尽殺 時 |
| Tatar-i | joboǰu | oro'ūlǰu | ülüdken | či'ūn-dür | ülijü | qiduquį-dur |
| タタル族 を | 苦労して | 降しめて | 絶え尽くすに | 車轄 に | 比して | 屠る 時 |

| 塔塔舌児 | 鳴詁列勒都舌論 | 古温 | 土屯 | 中罕純 | 都舌里顔 | 乞禿中孩 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 種 | 共 説 | 人 | 各 | 袖裏 | 自的行 | 刀 |
| Tatar | ügüleldürün | kü'ūn | tutun | qančun-dur-iyān | | qituGaį |
| タタル族の | 共に言うに | "人 | ごとに | 袖 | に ← 己が | 小刀を |

| 中罕出剌周 | 迭舌列 | 阿奔 | 兀窟耶 | 客額勒都周 | 巴撒 | 馬石古 | 耄失主兀 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 袖 条 | 藉背 | 要 | 死 咱 | 共説 着 | 再 | 外生也 | 廃耗有来 |
| qančulaǰu | dere | abun | üküye | ke'ēldüǰü | basa | maši-kū | samšiǰu'ū. |
| 袖に入れ | 枕を | 取りて | 死なん" | と云い合いて | 亦 | いたく ぞ | 失ないたり。 |

| 帖堆 | 塔塔舌里 | 赤温突舌児 | 兀里周 | 乞敦 | 把剌周 | 田迭 | 成吉思中合罕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 那些 | 種 行 | 車轄 行 | 比着 | 尽絶 | 殺了着 | 那裏 | 太祖 皇帝 |
| tedüį | Tatar-i | či'ūn-dür | ülijü | qidun | baraǰu | tende | Činggis qahān |
| かく, | タタル族 を | 車轄 に | 比して | 屠り | 終りて | そこに | チンギス 可汗 |

札舌児里黒 孛魯舌論 必荅 兀舌魯乞牙里顔 也客 額耶巴舌剌勒都黒撒泥

聖旨 說道 咱 一族 自的行 大 商量 了了的 行

jarliɢ bolurun bida uruɢ-iyār-iyān yeke eye baraldugsan-i

勅 するに "我等 一族もて ← 己が 大 相議を 終り合いし を

別勒古台因 札阿中忽因秀剌 必荅訥 扯舌里兀傷 馬石 耄失牙罷

人名 的 告的上頭 咱的 軍每 好生 廃耗了

Belgütei-yin ǰa'āqu-yin tula bidan-u čeri'ūd maši samšiyaba.

ベルグテイ の 告げる の 故に, 我等 の 兵士達 いたく 失いぬ。

額兀訥 中豁亦納 也客額耶突舌児 別勒古台 不 斡舌羅禿中孩 額也

這的 後 大 商裏 裏 人名 休 入者 商量

e'ūn-ü qoyina yeke eye-dür Belgütei bū orotuɢai eye

こ の 後 大 相議 に ベルグテイ は 入らざらん, 相議

巴舌剌荅剌 (中)合荅納 不古泥 札撒禿該 札撒阿傷 客舌列兀舌里 中忽剌中孩

了間 外面 有的行 整治 者 整治 了 闘殴的行 盗

baratala ɢadana bükün-i ǰasatuɢai, ǰasa'ād kere'ūr-i qulaɢai

終るまで 外なる ものごと を 治むべし, 治め て 争い を, 盗み,

中忽荅勒 委亦列帖泥 札舌児中忽剌禿中孩 額耶巴舌剌阿速 斡脱克 兀黒撒訥

謊 勾当有的每 行 教断 者 商量 了 呵 進酒 飲了的

qudal üiyileten-i ǰarɢulatuɢai, eye bara'āsu ōtög ūgsan-u

虚言の 罪人達 を 裁断すべし, 相議 終らば 祝酒を 飲み し

中豁亦納 別勒古台 荅阿舌里台 中豁牙舌児 田迭 斡舌羅禿中孩 客延

後 人名 人名 両箇 那裏 入者 慶道

qoyina Belgütei, Da'āritai qoyar tende orotuɢai keyēn

後 ベルグテイ, ダリタイ 二人 そこにて 入るべし" と

札舌児里黒 孛勒罷 (192)

聖旨 做了

ǰarliɢ bolba.

勅 しぬ。

〈4〉 §188 (七5四～8一) 王中罕 乘昆 中豁牙舌児

人名 人名 両箇

Ong qan Senggüm qoyar

オン 汗. セングム 二人

別耶昔顔 歹亦只周 中合舌児抽 斡都阿揚 的的克撒中合侖 涅坤兀速納
器身 的行 反 着 出 着 去 了 地 名 的 水名 水行
beyes-iyēn daiyijijü garču odu'ād Didig=saqal-un Nekün usun-a
自う 離反し 出て 行きて ディディク・サカル の ネクン 川 にて

王中罕 杭中合周 斡舌羅中忽 孛侖 乃馬訥 中合舌剌兀勒
人名 咽 着 入 倣 種名 的 哨望的
Ong qan hangcaǰu oroqu bolun naǰman-u qara'ūl
オン 汗 渇して 入る に いたり, ナイマン族 の 斥候

中豁舌里速別赤突舌児 斡舌羅主兀 中豁舌里速別赤 王中罕泥 把舌里主兀
人 名 行 入了来 人 名 人名 行 拿了来
Qori=sübeči-dür oroǰu'ū. Qori=sübeči Ong qan-i bariǰu'ū
コリ・スベチ(の許)に 入れり, コリ・スベチ オン 汗 を 捉えたり。

必 王中罕 脩由 客額速 兀禄 塔級 額辞 不失舌列周 田迭 阿剌主兀
我 人名 有 説呵 不 認 不曽 信 着 那裏 殺了来
bi Ong qan büyü ke'ēsü ülü tanin ese büširejü tende alaǰu'ū,
"我 オン 汗 なり" と云えど 識らず, 信ぜすして そこに 殺めたり。

桑昆 的的克撒中合侖 涅坤兀速納 兀禄斡舌欒 中合荅温
人名 地 名 的 水名 水行 不 入 外 面
Senggüm Didig=saqal-un Nekün usun-a ülü oron gadana
センゲム ディディグ・サカルの ネクン 川 に 入うず, 外辺を

約舌児赤周 川勒突舌見 斡舌羅周 兀速舌児中合舌侖 中忽剌揚 孃魯阿禿周
去 着 地名 行 入 着 尋 水 野馬毎 被蠅宣咬着
yorčiǰu čöl-dür oroǰu usurqarun qulad hilu'ātuǰu
行きて 沙漠 に 入りて 水をもとむるに, 野性馬の 虻にさされ

擺亦中忽泥 桑昆 保兀周 馬舌里牙主兀 桑古門 那可舌児
立的 行 人名 下馬着 窺覘着有来 人名 的 伴当
baiyiqun-i Senggüm bau'ūǰu mariyāǰu'ū. Senggüm-ün nökör
立ちある を センゲム 下馬して うかがえり。 センゲム の 僚友

闊闊出 阿黒騮赤 額篾禿 桑昆魯額 中忽舌児巴兀剌 阿主兀
人名 管騮馬的 妻 有的 人名 一同 三 箇 有来
Kököčü aqtači emetü Senggüm-lü'ē qurba'ūla aǰu'ū.
ココチュ 馬夫, 妻をつれ センゲム と共に 三人にて ありき。

秣舌騾顔　闊闊出　阿黒騮赤荅安　把舌里兀動主為　闊闊出　阿黒騮赤　阿黒騮
馬 自的行　人名　管馬的 自 行　教拿着 有来　人名　管馬的　騸馬
mori-yān　Kököčü　aɢtači-da'ān　bari'ūlju'ūi.　Kököčü　aɢtači　aɢta
馬 を(己が) ココチュ　馬夫 に(己が)　執らしめたり。　ココチュ　馬夫,　去勢馬

亦訥　闊脫魯額惕　中合舌鄰　中合塔舌剌主為　額篾　亦訥　鳴詁列舌論
他的　率 了　回　點着 有来　妻　他的　說
inu　kötölü'ēd　qarin　qataraju'ūi.　eme　inu　ügülerün
←彼の　索きて　返り　弃りたり。　妻の ← 彼の　言うに

阿勤塔塔宜　額木思恢突舌児　唵塔塔宜　亦咥恢突舌児　闊闊出　米訥
金 有的行　穿 時　滋味 有的　喫 時　人名　我的
altata(i)-yi　emüsküi-dür　amtata(i)-yi　ideküi-dür　Kököčü　minu
"金絲ある を　身につくる に　美味ある を　食する に,　「ココチュ←我が」

客額古　不列額　中罕你顔　桑古迷　也勤　帖因　帖卜赤周　格周
說的　有来　皇帝自的行　人名 行　如何　那般　捨 着　撇着
ke'ēkü　büle'ē.　qan-iyān　Senggüm-i　yēkin　teyin　tebčiǰü　gēǰü
と云う　なりき,　汗 を(己が)　センゲム を　などて　かく　捨て　おきて

斡敦愐由　赤　客額周　額篾　亦訥　擺亦周　中豁綽舌児出為……中略……
去 有　你　脫着　妻　他的　立着　落後了有
odun　büyü　či　ke'ēǰü　eme　inu　baiyiǰu　qočorču'ūi.
行きあるや　汝"　と云いて　妻　← 彼の　立ちて　残れり。

田迭徹　闊闊出　阿黒騮赤　阿勤壇　盞訂兀　亦訥　阿卜客延　中豁亦納黒石
自那裏　人名　管馬的　金　盃　他的　要 慶道　望 後
tendeče　Kököčü　aɢtači　altan　ǰantau'ū　inu　ab keyēn　qoyinaɢši
それより　ココチュ　馬夫　"金　盃を ← 彼の　とれ" と　後へ

斡[斡]舌魯阿惕　中合塔舌剌主兀　帖堆　亦舌列額惕　成吉思中合罕突舌児
撇 了　点 了有　那些　来了　太祖 皇帝 行
o'ōru'ād　qataraju'ū.　tedüi　ire'ēd　Činggis qahān-dur
投げ捨てて　弃れり。　かく　来りて　チンギス 可汗 のもとに

闊闊出　阿黒騮赤　亦舌列周　桑古迷　帖因　川勤突舌児　格周
人名　管馬的　来着　人名 行　那般　地名 行　撇着
Kököčü　aɢtači　ireǰü　Senggüm-i　teyin　čöl-dür　gēǰü
ココチュ　馬夫　来り,　"センゲム を　かく　沙漠 に　置き

亦舌列罷原作別 必 客延 田迭 鳴詰列勒都克先 兀格昔顔 不古迭宜 帖古思
来了 我 慶道 那裏 共説了的 言語自的行 都 行 全
irebe bi keyēn tende ügüleldügsen üges-iyēn bügüde-yi tegüs
来りぬ 我" と そこにて 語りし 言 を(己が) なべて を すべて

鳴詰列周 斡古額速 成吉思中合罕 札舌児里黒 孛魯舌論 額篾宜 亦訥
説 着 与 呵 太祖 皇帝 聖 旨 做 妻 行 他的
ügüleǰü ögü'ēsü Činggis qahān ǰarlic bolurun eme-yi inu
語り やらば チンギス 可汗の 勅 するに "妻 を ← 彼の

莎余舌児中合周 門 闊闊出 阿黒騨赤宜 圖思 中罕你顔 額因 帖卜赤周
恩賜 着 只 人名 管馬的 行 正主 皇帝自的行 這般 捨 着
soyurqaǰu mun Kököčü aɢtači-yi tus qan-iyān eyin tebčiǰü
嘉賞し, その ココチュ 馬夫 を 己が 汗 を(己が) この如く 捨て

亦舌列主為 額亦模 古温 額朶額 虔突舌児 那可扯額速 亦帖格克迭古
来了 有 這般 人 如今 誰 行 做伴 呵 可倚仗
irejü'ǖj. eyimü kü'ūn edö'ē ken-dür nököče'ēsü itegegdekü
来れり。 かゝる 人, 今 誰 に 友たると も 信ぜらるべき"

客額周 察卜赤周 格罷 (193)
説 着 斬 着 撇了
ke'ējü čabčiǰu gēbe.
と云いて 斬り すてぬ。

## 〈5〉 §198 (八1二～5三)

篾舌児乞楊 亦舌児堅 倒里周
種 名 百 姓 虜 着
Merkid irgen daǰuliǰu
メルキド族 人衆を 掠めて

脫黒脫阿別乞曰 也客可温 中忽都曰 中合敦楊 禿該 朶舌列格捏
人 名 的 大 子 人名 的 娘子毎 名 名
Toɢto'ā=beki-yin yeke kö'ūn Qudu-yin qadud Tügej, Döregene
トクトア・ベキ の 長 子 クドゥ の 后達 トゥゲイ, ドルゲネ

只舌里捏徹 朶舌列格捏宜 田迭 斡歌歹中合罕納 斡克罷原作別 篾舌児乞敦
両箇内 名 行 那裏 人 名 皇帝行 与了 種 名 的
ǰirin-eče Döregene-yi tende Ögödej qahān-a ögbe. Merkid-ün
二人 より ドレゲネ を そこに オゲデイ 可汗 に 与えぬ。 メルキド族 の

札舌里木場 兀魯思 歹亦只周 台中合勒 中豁舌児中合 中豁舌児中合剌主為
一半 百姓 反着 山頂 寨子 寨子 把了
jarimūd ulus daiyijiju taiqal qorca qorcalaju'ūi.
若干の 民人 離反して 山頂の 塞に とりこもれり。

田迭 成吉思中合罕 札舌児里黒 孛魯舌命 鎖舌児(中)罕失剌曰 可温
那裏 太祖 皇帝 聖旨 做 人名 的 子
tende Činggis qahān jarlig bolurun Sorqan-šira-yin kō'ūn
そこに チンギス 可汗 勅 し て ソルカン・シラ の 子

沉白宜 那牙剌周 沼温 中合舌命 扯舌里兀的耶舌児 中豁舌児中合剌黒撒場
人名 行 官做 着 左 手的 軍 領着 寨子把了的每
Čimbai-yi noyalaju jeū'ūn gar-un čeri'ūd-iyēr qorcalacsad
チンバイ を 長となし 左 翼 の 軍兵連 もて 塞にこもりし

篾舌児乞的 額額舌列兀命 亦列罷 脫黒脫阿 中忽都 赤剌温
種名 行 教 攻 去了 人名 人名 人名
Merkid-i e'ēre'ūlūn ilebe. Toqto'ā, Qudu, Čila'ūn
メルキド族 を 攻めしめに 遣りぬ。 トクトアは クド, チラウン

可兀的耶舌里顔 啜延 別耶思 歹亦只周 中合舌魯黒撒泥 成吉思中合罕
子每 自的行 少 醫身 反 着 出了的行 太祖 皇帝
kō'ūd-iyēr-iyēn čöyēn beyes daiyijiju garcsan-i Činggis qahān
子達 もて←己が 僅かの人々 離れ 出でたる を チンギス 可汗

揑客周 阿勒台因 額不舌列 兀斡勒者周 忽客舌児 只勒 中合不舌児
追襲着 山名 的 前 住冬 着 牛 児 年 春
nekejü Altai-yin ebür-e übüljejü hüker jil qabur
追いて アルタイ山 の 南面 に 越冬し 牛の 年の 春,

阿舌来亦牙舌児 荅巴周 斡都阿速 乃馬訥 古出魯克 兀魯昔顔
山名 越着 去 呵 種名 的 人名 百姓自的行
Arai-iyār dabaju odu'āsu Naiman-u Küčülüg ulus-iyān
アライ 山を 越えて 行けば ナイマン族 の クチュルグ——民人 を(己が)

阿卜中合兀勒周 帖舌列 歹亦只周 中合舌魯黒撒阿舌児 啜延 古温 篾舌児乞敦
被要 着 那 反 着 出了 以来 少 人 種名 的
abqa'ūlju tere daiyijiju garucsa'ār čöyēn kü'ūn Merkid-ün
取られ その 背走し 出づるまゝに 僅かな人数もて——メルキド族 の

脫黒脫阿 中豁牙舌児 揑亦列周 額舌児的盾 不黒都舌児麻 忽札兀舌剌

人名 両箇 相合着 水名的 地名 根源行

Toɢto'ā qoyar neyilejü Erdiš-ün Buɢdurma huja'ūr-a

トクトア 二人 相合して エルディシュ河の ブグトゥルマ 源 にて

中含禿楊抽 扯舌里吉顔 札撒周 阿主為 成吉思中合罕 古舌児抽

相合着 軍 自的。 整治着 有来 太祖 皇帝 到着

qamtudču čerig-iyēn jasaju aju'ūi. Činggis qahān kürčü

ともになりて 兵 を(己が) 整え ありき。 チンギス 可汗 到て

擺亦勒都阿速 脫黒脫阿 田迭 失把因速木納 禿思荅周 兀納主兀

対陣 阿 人名 那裏 乱箭的 箭行 被射着 倒了有

baiyildu'āsu Toɢto'ā tende šiba-yin sumun-a tusdaju unaju'ū.

戦えば トクトア そこに 流れ 矢 に 当りて 倒れたり。

可兀楊 亦訥 牙速 亦訥 把舌鄰 牙荅周 別耶宜 亦訥 阿卜抽 斡敦

子毎 他的 骨頭 他的 牽 不能着 身行 他的 将着 去

kö'üd inu yasu inu barin yadaju beye-yi inu abču odun

子達 ←彼の かばねを ←彼の みとり かねて 体 を ←彼の とり 行き

牙荅周 帖舌里兀 亦訥 豁黒脫勒周 阿卜抽 約舌児赤主兀 田迭 乃蠻

不能着 頭 的他 割断 着 将着 去了有 那裏 種名

yadaju teri'ü inu hoɢtolju abču yorčiju'ū. tende Naiman

かねて, 頭を ← 彼の 断ちて もち 行けり。 そこに ナイマン族の

篾舌児乞楊 孛命 中合禿楊抽 擺亦勒敦 牙荅周 不舌魯委闌 歌多魯舌命

種名 共 一同 着 対陣 不能着 逃 動時

Merkid bolun qamtudču baiyildun yadaju, buru'ūilan ködölürün

メルキド族 と 共になりて 戦い 能わず, 逃走し ゆくに

額舌児的失客禿魯舌命 出卜禿思抽 斡欒乞顔 兀孫突舌児 兀窟兀勒主為

水名 渡時 沈落着 多自的行 水裏 教死了来有

Erdiši ketülürün čüb tusču olonki-yān usun-dur ükü'ülji'ü.

エルデシュ河を 渡る時 溺れて 多くを ←己が 水中 に 死なしめたり。

啜延 中合舌魯黒撒楊 乃蠻 篾舌児乞楊 額舌児的失 客禿命巴舌剌周

少 出了的毎 種名 種名 水名 渡 了着

čöyēn garuɢsad Naiman, Merkid Erdiši ketülün baraju

儕かの 脫出せし ナイマン族, メルキド族は エルディシュ河を 渡り 終りて

| 中合中合溌 | 歌多動主為 | 乃馬訥 | 古出魯克 | 中罕 | 委兀舌児台 |
|---|---|---|---|---|---|
| 分離 | 動 了有 | 種名的 | 人名 | | 種名 |
| qaɢačan | ködölǰü'ūi. | Naiman-u | Küčülüg | qan | Uiˌ'ūrtaiˌ |
| 分かれ | 動きぬ。 | ナイマン族 の | クチュルク | 汗は | ウイグル族の |

| 中合舌児魯兀的 | 荅阿舌鄰 | 撒舌児荅兀侖 | 中合札舌剌 | 乘沐舌洌壮 | 不坤 |
|---|---|---|---|---|---|
| 種名 行 | 経過 | 回回 的 | 地 行 | 河名 河行 | 有的 |
| Qarlu'ūd-i | da'ārin | Sarḍa'ūl-un | gaǰar-a | Čüiˌ müren-e | bükün |
| カルルク族 を | 経て | サルタウル の | 地 にて | チュイ 河 に | ある |

| 中合舌剌乞荅敦 | 古舌児中罕 | 突舌児 | 捏亦連 | 斡惕出為 | 篾舌児乞敦 |
|---|---|---|---|---|---|
| 種名 的 | 人名 | 行 | 相合 | 去了有 | 種名的 |
| Qara=qitad-un | Gür | qan-dur | neyilen | odču'ūi. | Merkid-ün |
| カラ・キタド の | グル | 汗 に | 合し | 行けり。 | メルキド族 の |

| 脫黒脫阿因 | 可兀惕 | 中忽都 | 中合(動) | 赤剌溫 | 帖舌里兀田 | 篾舌児乞惕 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 人名的 | 子毎 | 人名 | 人名 | 人名 | 等 項 | 種名 |
| Toɢto'ā-yin | kö'ūd | Qudu, | Gal, | Čila'ūn | teri'ūten | Merkid |
| トクトア の | 子達, | クドゥ, | ガル, | チラウン | 等 の | メルキド族は |

| 中康里泥 | 欽卜察兀的 | 荅阿舌鄰 | 約舌児赤主為 | 田迭扯 | 成吉思中合罕 |
|---|---|---|---|---|---|
| 種名 行 | 種名 行 | 経過 | 去了有 | 自那裏 | 太祖 皇帝 |
| Qanglin-i | Qibča'ūd-i | da'ārin | yorčiǰu'ūi. | tendeče | Činggis qahān |
| カンリン | キプサグ を | 経て | 行けり。 | そこより | チンギス 可汗 |

| 中合舌里周 | 阿舌来亦牙舌児 | 荅巴周 | 阿兀舌魯兀惕 | 突舌児 | 保兀罷 | 冗白 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 回 着 | 山名 依着 | 越着 | 家毎自的 | 行 | 下了 | 人名 |
| qariǰu | Araiˌ-iyār | dabaǰu | a'ūru'ūd-dur | | bauˌ'ūba. | Čimbaiˌ |
| 返りて | アライ山 を | 越え | 本営 に | | 下馬しぬ。 | チンバイ |

| 台中合勤 | 中豁舌児中合 | 中豁舌児中合剌黒撒惕 | 篾舌児乞的 | 木中忽惕中合主為 | 田迭 |
|---|---|---|---|---|---|
| 山頂 | 寨子 | 把寨子 的 | 種名 的 | 教窮絶了 | 那裏 |
| taiqal | qorɢa | qorɢalaɢsad | Merkid-i | muqudqaǰu'ūi. | tende |
| 山頂の | 寨に | こもれる | メルキド族 を | 窮滅せり。 | そこに |

| 篾舌児乞的 | 成吉思中合罕 | 札舌児舌里 | 孛魯舌侖 | 乞都中忽泥 | 阿訥 |
|---|---|---|---|---|---|
| 種名的 | 太祖 皇帝 | 聖旨 | 敵 | 尽殺 行 | 他的 |
| Merkid-i | Činggis qahān | ǰarliɢ | bolurun | qiduqun-i | anu |
| メルド族 を | チンギス 可汗 | 勅 し て | | 屠るべき | を←彼等の |

乞都兀勒周 許列克薛的 阿訥 扯舌里兀惕帖 塔剌兀勒罷原作伯 巴撒 兀舌里荅
尽 殺着 余剰的行 他的 軍 毎 行 教講了 再 先前
qidu'ūlǰu hülegsed-i anu čeri'ūd-te tala'ūlba. basa urida
屠りて 残れる を←彼等の 共達 に 分掠せしめぬ。 又 さきに

斡舌羅黒三 篾舌児乞惕 阿兀舌魯兀荅察 歹亦真 孛思出兀 阿兀舌魯兀惕
投入的 種名 家毎 行 反 起有 家毎
orogsan Merkid a'ūru'ūd-ača daiyijin bosču'ū. a'ūru'ūd-
降りし メルキド族 本営 より 叛き おこれり。 本営

突(舌)児 不坤 闊脱臣 心荅訥 帖迭泥 荅舌魯主兀 田迭 成吉思中合罕
裏 有的 家人毎 咱的 他的毎行 勝了 那裏 太祖 皇帝
dur bükün kötöčin bidan-u teden-i daruǰu'ū. tende Činggis qahān
に ある 家人達 ←我等 の 彼等 を 圧せり。 そこに チンギス 可汗

札舌児里黒 孛魯舌侖 屯荅中合 巴 阿兀魯牙 客額魯額 木惕 額列
聖旨 敵 全 也 教存咱 説来 他毎 但
jarlig bolurun tumdacā ba a'ūluya ke'ēlü'ē, mud ele
勅 す る に 「全きに ぞ あうしめん」と云えり,(然るを) 彼等 は

歹亦真 阿主兀 客延 篾舌児乞的 竹克竹克 忽魯惕帖列
反 有来 慶道 種名行 各各 尽 絶
daiyijin aǰu'ū keyēn Merkid-i jüg jüg hülüdtele
勤き あり とて メルキド族を 方 々に 尽くるまで

中忽必牙兀勒罷原作伯 (194)
教共分 了
qubiya'ūlba.
分与せしめぬ。

この三語尾の性格上，上にあげた文例〈1〉～〈5〉は長文にわたることになったが，まず，こゝに出てくる -ǰu², -n, -ād² 三語尾の使用頻度を以下にかゝげる。

-ǰu²: 〈1〉 ab-ču, e'ūsge-jü, ǰiluca-ju, önggeyi-jü, üje-jü hau'ū(n)l-ju, udurid-ču 〈2〉 mariya-ju, qarbu-ju, ala-ju, temgüldü-jü 〈3〉 muqudqa-ju, bara-ju, oro-ju, ösö-jü, qisa-ju, ülijü, ala-

ǰu, baraldu-ǰu, üli-ǰü, talbi-ǰu, ǰobo-ǰu, oro'ūlǰu, üli-ǰü, qančula-ǰu, ke'ēldü-ǰü, üli-ǰü, bara-ǰu 〈4〉 daiyiǰi-ǰu, gar-ču, hangga-ǰu, büšire-ǰü, yorči-ǰu, oro-ǰu, bau'ūǰu, tebči-ǰü, gē-ǰü, ke'ē-ǰü, baiyi-ǰu, ire-ǰü, gē-ǰü, ügüle-ǰü, soyurqa-ǰu, tebči-ǰü, ke'ē-ǰü, cabči-ǰu 〈5〉 dauli-ǰu, daiyiǰi-ǰu, noyala-ǰu, daiyiǰi-ǰu, neke-ǰü, übülǰe-ǰü, daba-ǰu, abqa'ūl-ǰu, daiyiǰi-ǰu, neyile-ǰü, qamtud-ču, ǰasa-ǰu, tusda-ǰu, yada-ǰu, ab-ču, yada-ǰu, hogtol-ǰu, ab-ču, qamtud-ču, yada-ǰu, (čüb) tus-ču, bara-ǰu, qari-ǰu, daba-ǰu, qidu'ūl-ǰu,

-ǰu² の実例は文例 〈1〉 に 7 例，〈2〉 に 4 例，〈3〉 に17例，〈4〉 に18例，〈5〉 に25例，総じて71例にのぼる。

-n: 〈1〉 šibau'ūla-n, qari-n 〈2〉 teǰi'ēldü-n 〈3〉 dauli-n, keyē-n, keyē-n, keyē-n, ülüdke-n, abu-n, qidu-n, keyē-n 〈4〉 tani-n, oro-n, qari-n, yēki-n, odu-n, keyē-n 〈5〉 e'ēre'ūlü-n, bari-n, odu-n, bolu-n, baiyildu-n, buru'ūila-n, ketülü-n, ketülü-n, qagača-n, da'āri-n, neyile-n, da'āri-n, daiyiǰi-n, daiyiǰi-n

-n は 〈1〉 に 2 例，〈2〉 に 1 例，〈3〉 に 7 例 (たゞし，keyē-n のみで 4 例)，〈4〉 に 6 例，〈5〉 に14例，計30例である。-ǰu² の半数弱という処である。

-ād²: 〈1〉 0, 〈2〉 ideldü-'ēd, ide-'ēd 〈3〉 ǰasa-'ād 〈4〉 odu-'ād, kötölü-'ēd, o'ōru-'ād, ire-'ēd 〈5〉 0

-ād² は文例 〈1〉 と 〈5〉 において一つの実例もなく，〈2〉 に 2 例，〈3〉 に 1 例，〈4〉 に 4 例，合して僅かに 7 例を数えるに過ぎない。

以上，文例 〈1〉～〈5〉 において示された -ǰu², -n, -'ād² の実例数は，そのまま，秘史蒙古語総体における様態を示し，-ǰu² は最も多用される語尾であり，逆に -'ād² は用いられることの少ない語尾であることが知られる。現代のモンゴル語諸方言では，話し言葉として使用されることの少ない -n は秘史蒙

古語では，比較的広く用いられ，当時においては，-'ād² に比して余程多く用いられている。

試みに，この三語尾の中で -ǰu² のみ，-n のみ，-'ād² のみをとって用いられた用例を，秘史十二巻にわたって調べて見ると，-ǰu² は362の動詞語幹に接尾された用例を，-n は106語幹に接尾された用例を発見しうるが，-'ād² のみをとった動詞語幹は僅かに5語幹に過ぎない（勿論，-'ād² と共に，-ǰu², -n をとる語幹を数えれば，その数は高くなるが，純粋に -ād² のみを伴った語幹——例えば ǰalgi-《のみほす》は ǰalgi'ād が二回現れるのみで，ǰalgiǰu, ǰalgin は見られない——は5語幹のみである)。

これによって見ても，文例〈1〉～〈5〉における -ǰu², -n, -'ād² の用例の分布状況は，秘史蒙古語総体における，この三語尾の使用状況をよく反映していると見てほぼ誤りないものと見做しうる。

秘史蒙古語における，この三語尾の使用分布状況を更に確認するために，主要動詞[1]における状況を調べておこう。

1. ab-: ab-ču 46, ab-u-n 7, ab-u-'ād 19
2. abura-: abura-ǰu 13, abura-n 4, abura-'ād ゼロ
3. ala-: ala-ǰu 15, ala-n 4, ala-'ād 1
4. bari-: bari-ǰu 49, bari-n 3, bari-'ād 2
5. baų'ū-: baų'ū-ǰu 28, baų'ū-n 2, baų'ū-'ād 4
6. baįyi-(bayi-): bayi-ǰu 17, bayi-n 3, bayi-'ād ゼロ
7. bol-: bol-ǰu 68, bolun 54, bol-u-'ād 4
8. bolga-: bolga-ǰu 17, bolga-n 14, bolga-'ād 2
9. bü-～bö-: bü-ǰü 1, *bü-n ゼロ, bö-'ēd 28
10. daba-: daba-ǰu 8, daba-n 4, daba-'ād 2
11. daų'ūli-(daų̊li-): daų'ūli-ǰu 15, daų̊li-ǰu 3: daų'ūli-n 1, daų̊li-n 2; daų'ūli-'ād 1, daų̊li-'ād 1
12. da'āri-: da'āri-ǰu 9, da'āri-n 10, da'āri-'ād 1

13. else-: else-jü ゼロ, else-n 14, else-'ēd ゼロ
14. gar-: gar-ču 34, gar-u-n 2, gar-u'ād 1
15. garga-: garga-ju 16, garga-n 3, garga-'ād ゼロ
16. ködöl-: ködöl-jü 23, ködöl-ü-n ゼロ, ködöl-ü-'ēd 1, ködöl-ü-yēd 1
17. kür-: kür-čü 48, kür-ü-n 6, kür-ü-'ēd 4
18. kürge-: kürge-jü 8, kürge-n 9, kürge-'ēd ゼロ
19. kürge'ūl-ü-: kürge'ūl-jü 1, kürge'ūl-ü-n 2, kürge'ūl-ü-'ēd 8
20. hülde-: hülde-jü 19, hülde-n ゼロ, hülde-'ēd 6
21. ide-: ide-jü 6, ide-n 4, ide-'ēd 2
22. ile-: ile-jü 20, ile-n 1, ile'ēd 6
23. ilga-: ilga-ju 15, ilga-n ゼロ, ilga-'ād ゼロ
24. ire-: ire-jü 70, ire-n 2, ire'ēd 5
25. ire'ūl-: ire'ūl-jü 5, ire'ūl-ü-n 1, ire'ūl-ü-'ēd 6
26. jasa-: jasa-ju 29, jasa-n 1, jasa-'ād 2
27. jöbšiye-: jöbšiye-jü 13, jöbšiye-n 2, jöbšiye-'ēd ゼロ
28. jori-: jori-ju 7, jori-n 7, jori-'ād ゼロ
29. ketül-: ketül-jü 6, ketül-ü-n 5, ketül-ü-'ēd 1
30. ke'ē-: ke'ē-jü 149, ke'ē-n～keyēn 389 ke'ē-'ēd 20
31. ke'ēgde-: ke'ēgde-jü 14, ke'ēgde-n 1, ke'ēgde-'ēd 1
32. ki-: ki-jü 6, ki-n 3, ki-'ēd 7
33. mede-: mede-jü 23, mede-n 8, mede-'ēd 5
34. neke-: neke-jü 15, neke-n 1, neke-'ēd ゼロ
35. neü'ū-: neü'ū-jü 12, neü'ū-n ゼロ, neü'ū-'ēd ゼロ
36. neyile- neyile-jü 1, neyile-n 12, neyile-'ēd ゼロ
37. od-: od-ču 48, od-u-n 11, od-u-'ād 4
38. ög-: ög-čü 21, ög-ü-n 6, ög-ü-'ēd 2
39. oro-: oro-ju 35, oro-n 10, oro-'ād 1, oru-'ād 1

40. oro'ūl-: oro'ūl-ju 19, oro'ul-u-n 2, oro'ūl-u-'ād 3
41. qaɢača-: qaɢača-ju 10, qaɢača-n 10, qaɢača-'ād ゼロ
42. qari-: qari-ju 22, qarin 15, qari-'ād ゼロ
43. sa'ū-: sa'ūju 30, sa'ū-n 2, sa'ū-'ād ゼロ
44. sedki-: sedki-jü 33, sedki-n 2, sedki-'ēd ゼロ
45. šiqa-: šiqa-ju 5, šiqa-n 7, šiqa-'ād ゼロ
46. sonos-: sonos-ču 10, sonos-u-n ゼロ, sonos-u-'ād 5
47. soyorqa-: soyorqa-ju 22, soyurqa-n 1, soyurqa'ād ゼロ
48. talbi-: talbi-ju 23, talbi-n 2, talbi-'ād 1
49. tata-: tata-ju 14, tata-n 1, tata-'ād 2
50. tebči-: tebči-jü 5, tebči-n 10, tebči-'ēd ゼロ
51. tüši-: tüši-jü 12, tüši-n 3, tüši-'ēd 1
52. udurid-: udurid-ču 9, udurid-u-n 2, uduridu-'ād 2
53. unu-: unu-ju 12, unu-n ゼロ, unu-'ād 2
54. uqa-: uqa-ju 12, uqa-n 3, uqa-'ād ゼロ
55. ügüle-: ügüle-jü 33, ügüle-n 6, ügüle'ēd 1
56. üje-: üje-jü 29, üje-n 4, üje-'ēd 11
57. yabu-: yabu-ju 24, yabun 2, yabu-'ād 3
58. yada-: yada-ju 41, yada-n 8, yada-'ād ゼロ
59. yorči-: yorči-ju 14, yorči-n ゼロ, yorči-'ād ゼロ

この主要動詞に対する三語尾の接尾状況を見ると，-ju[2]が圧倒的な使用例を示し，又，59語中の半数以上が，上述の接尾状況を裏書きしている点で，その使用頻度数は -ju[2]，-n，-'ād[2] の順序に並ぶことが巨視的には明かである。しかし，⑲ kürge'ūl-ü-n 2, kürge'ūl-ü-'ēd 8, ⑳ hülde-n ゼロ, hülde-'ēd 6, ㉒ ile-n 1, ile'ēd 6, ㉕ ire'ūl-ü-n 1, ire'ūl-ü-'ēd 6, ㊻ sonos-u-n ゼロ, sonos-u-'ād 5, ㊻ üje-n 4, üje-'ēd 11などの動詞においては，-n と -'ād の用例数は逆転し，又，㉚ ke'ē-n～keyēn 389の突出，⑬ else-n 14に

対する else-jü, else-'ēd のゼロ，更に ㉓ ilga-ju 15に対する ilga-n, ilga-'ād のゼロ，㉟ neụ'ū-jü 12に対する neụ'ū-n, neụ'ū-'ēd のゼロ，㊱ neyile-n 12に対する neyile-jü 1, neyile-'ēd ゼロ等々の現実は何を物語るのであろうか。

以上の事実を頭に入れた上で，-ju², -n, -'ād² 三者の表わす意味——最終的には意義素——の考察に入る。

*　　*　　*　　*　　*

文例〈1〉は，テムヂンの父イェスゲイ・バアトゥルがメルキド族のイェケ・チレドから，彼の新妻ホエルンを奪いとる件(くだり)で，一つの物語りとして，比較的，大方に知られている一節である。この§54は5行の原文からなる小節であるが，この5行の中に7個の -ju² が用いられている。-n は1例のみ，-'ād² は一つもない。これだけを取って見ても -ju² の多用性が実証される。さて，

「その時，イェスゲイ・バアトゥル，オナン河にて šibaụ'ūlan yabuquị-dur（鷹を放ち行くに）メルキド族のイェケ・チレドのオルクヌウドの人衆より öki abču e'ūsgejü ayisqu-yi jolugaju önggeyijü üje'ēsü（乙女を娶り発ち来るに遭い，見おろし見れば），öngge jisü bušitaị öki qatu üjejü（容色尋常ならざる女人を見て）ger-tür -iyēn qarin haụ'ū(n)lju（己が包(ゲル)に馳りかえり）己が兄ネクン・タイズ，己が弟ダリタイ・オドチギンを uduridču irejü'ūị（ひきつれ来れり）」

という，この文は -ju² の表わす意味の解明に好箇の材料を与えてくれる。

-ju² の本質は複数の動作を，ひとまとまりの一連の動作としてとらえ，接合する点にある。その際，複数の動作の時間的前後関係は継起的であるが，それを断絶的に捉えず，一連の動作の流れとして捉える点に特色がある。

上の öki abču e'ūsgejü ayisuqu-yi jolugaju öngeyijü üje'ēsü の öki abču e'ūsgejü ayisuqu《乙女を娶り発ち近づき来る》は，この文の書き手にとっては一連の動作として捉えられ，その間に大きな断絶はない。線状的表現

を，その本質とする言語による表現では，話し手（書き手）にとって，ひとまとまりの一連の動作として捉えられる表現でも線状的に展開させざるを得ない。その線状的に展開する複数の動作を接合するのが -ju² の役割である。

更に öki abču e'üsgejü ayisuqu-yi に jolugaju öngeyiju üje'ēsü が続き，最終的には öki から üje'ēsü までを一連の動作のひとまとまりと秘史の書き手は捉えているが，jolugaju の -ju において，一連の動作の流れの中に小さな段落を見ている感がある。この -ju にふれるに先立ち，〈2〉の mariyaju .....ideldü'ēd，にも言及しておく心要があろう。

〈2〉の mariyaju qarbuju alaju ideldü-《窺い射り殺し食べ合う》もまさに，これらの複数の動作・行為を，一まとまりの，一連の動作として捉えて，この一連の動作の区切りを ideldü'ēd の -'ēd が示しているのである（-'ēd については後述）。temgüldüjü ide'ēd の temgüldüjü ide- も同様に解することができる。

ところで，-ju² にはもう一つ注目すべき用法がある。それは〈1〉の öngeyijü üje'ēsü, uduridču irejü'üi に於て見られる如き -ju² の用法である。この öngeyi-《見おろす》と üje-《見る》との関係，uduri-《引きつれる》と ire-《来る》の関係は，時間的な前後関係のない，いわば共起関係にある。即ち，《見おろして→(そして) 見る》，《引きつれて→(そして) 来る》のではなく，《見おろす》と《見る》，《引きつれる》と《来る》は，ともに同時に行なわれている動作である。事実の世界のこの種の行為は言語表現では線状的に表現せざるを得ない。この様に時間的に共起する複数動作・行為を言語表現上，線状的に表示するのに -ju² が用いられるのである。

しかし，考えて見れば，-ju² のこの種の用法は -ju の本質《複数の動作を一連の動作として捉え，それらを接合する》からすれば，当然の用法で，öngeyijü üje- も uduridču ire- も一連の動作を形成する一駒と見ることができる。

こゝで，上で言い残した「小さな段落」を示すかの如き -ju² に言及したい。

〈1〉の jolucaju, üjejü の -jü, 更に〈3〉の daulin baraju, eye baralduju, tungqac talbiju などの -ju を例にとって見る。öki abču e'üsgejü ayisuqu-yi jolucaju önggeyijü üje'ēsü を読み下す時，これを一息に読み下すことは可能である。しかし，文中のいずこか一点に pause をおくとすれば，それは jolucaju の次である。öki から üje'ēsü までの一連の流れの中で，jolucaju のところでカンマを附して読むことは可能である。〈3〉の baraju, baralduju, talbiju の -ju もこの種の -ju として読むことができよう。

〈4〉の文例は後廻しにして〈5〉を読むと，文頭の daulijü, ulus daiyijiju, čimbai-yi noyalaju, Činggis qahān nekejü, 次の übüljejü, ulus-iyān abqa'ūlju, neyilejü, qamtudču, barin yadaju, odun yadaju, bayildun yadaju, ketülün čüb tusču, ketülün baraju, Činggis qahān dabaju, qiduqun-i anu qidu'ūlju 等々の -ju は総て，話し手（書き手）の意識としては，一連の行動の流れの中での小段落を示す用法である。

以上，多くの -ju の用例を観察すれば，その中に，用法上の若干の違いを読みとることができるが，この語尾の本質を《複数の動作・行為を一連のまとまりとして接合する》との意義素を仮定することによって，総ての -ju を説明しうると考える。モンゴル系の言語において，最も多用される -ju をこのように見て次に -'ād², -n について考えて見よう。

§3 -'ād². Poppe 教授は上の -ju を converbum imperfecti，この -'ād を converbum perfecti とし，この二者を対立的にとらえている。この見解は大きい観点から見れば支持しうるが，-ju² も個々の動作に関して純粋に時の観点から見れば“完了的”と見做しうる用法も多いので——上述から明かであろう——筆者は -ju² を converbum imperfecti と呼ぶことに躊躇を感じる。

モンゴル人が -ju² をむしろ“完了的”な語尾と捉えていることを，動詞の否定語 ülü と ese の用法が教えてくれる。

秘史蒙古語における著しい事実の一つに，ülü と ese の厳密な使い分けがあ

る。

〔A〕 **ülü** ülü は以下の動詞活用形に前置されて用いられる。全使用例は156例。疑問否定形の ülü'ü̃ の23例を含めると179例の使用例が認められる。

(a) -mu(i̯)² 兀禄 斡舌羅梅 ülü oro-mui̯ (八21五), 兀禄 孛舌魯梅 ülü bol-u-mui̯ など5例。

(b) -yu²～-yi 兀禄 札撒由 ülü ǰasa-yu (七38一), 兀禄 孛魯宜 ülü bol-u-yi (八8一) など6例。

(c) -i 兀禄 孛里 ülü bol-i (七25五) など4例。

(d) -d 兀禄 帖篾徹楊 ülü temeče-d など2例。

(e) büi̯ の前 兀魯兀 備 ülü'ü̃ büi̯ (六27六) など4例。

(f) -qu²～-qui̯²～-qun² 兀禄 古舌児古 ülü kür-kü (七30八), 兀禄 升格恢 ülü šingge-küi̯ (八17一), 兀禄 斡楊中渾 ülü od-qun など55例。

(g) -n 兀禄 塔級 ülü tani-n など93例。

(h) -'ūǰai̯²～-'ūǰiyi 兀禄 中豁綽舌魯兀沢 ülü qočoru-'ūǰai̯ など4例。

(i) -run 兀禄 斡舌羅(黒)荅舌侖 ülü orogda-run 1例。

ülü はこの様に多くの活用形に前置されて否定の意を表わすが，特徴的なことは，-mu(i̯)², -yu², -qu² など動詞の現在及び未来の語尾に前置されることである。そして更に興味深いのは，同時接合副動詞形 -n の否定形は，この ülü の前置によって形成されることであり，その例は極めて多い。これは注目されねばならない。-qu²～-qui̯²～-qun² に前置される ülü の用例も多く，ülü—n と ülü—qu² などで全用例の$\frac{3}{4}$以上を占める。

〔B〕 **ese** ese は以下の動詞活用形に前置されて否定形を作る。ese の全用例は98例，否定疑問形の ese'ü̃ 20例を加えると118例を数えるが，ülü に比して，その数は少ない。

(a) -ba²～bai̯²～-bi 額薛 孛勒罷 ese bol-ba (六35七), 額薛

孛勒中合罷原作伯 ese bolca-bai (四1七)，額薛 兀中合畢 ese uqa-bi (二45五) など45例。

(b) -la'ā(i)²～-lu'ā(i)² 額薛 斡古列額 ese ög-ü-le'ē (八28五)，額薛 客額克迭魯額 ese ke'ēgde-lü'ē (十22九)，額薛兀 客額勒都列埃 ese'ü ke'ēldü-le'ei (五22四) など22例。

(c) -ju'ū(i)²～(-ču'ū(i)²) 額薛 中合舌児中合主兀 ese carca-ju'ū (十44五)，額薛 塔阿剌主為 ese ta'āla-ju'ūi (五39六) など10例。

(d) -csan²～csad² 額薛 失克児中合黒三 ese širca-csan (八43十)，額薛 兀者克先 ese üje-gsen (二20六)〈不曽見的〉，額薛 撒亦黒撒惕 ese baiyi-csad (十2四)〈不曽 立来的毎〉など14例。

(e) -ju²～-ču² 額薛 不石舌列周 ese büšire-jü (七5八)，額薛 斡克帖周 ese ögte-jü (十33一)〈不曽 被与着〉，額薛兀 巴牙思抽 ese'ü bayas-ču (七35七)〈不曽麼 喜歓着〉など10例。

(f) -'āsu² 額薛 帖乞 阿剌阿速 ese teki ala-'āsu〈不曽也殺呵〉，額薛 兀者額速 ese üje-'ēsü〈不曽見呵〉など15例。

(g) -tala² 額薛 都塔塔剌 ese duta-tala (七4一)〈不曽 缺少了〉1例。

(h) -mui 額薛兀阿梅 ese'ü amui (十27二)〈不曽 有麼〉1例。

上の挙例から読みとれるeseの特徴は，-ba², -la'a², -ju'ū² など動詞の過去形に前置されて否定の意を表わすことである。即ち大原則として，ülüは動詞の現在・未来時の否定，eseは過去時の否定として用いられることが明白である。

たゞ一つ (h) ese'ü amui が例外として挙げられるが，この例外は説明可能と思われる。(2)

さて，こゝで，注目すべきは，問題の副動詞 -ju は eseによって否定され，ülü が用いられた例が1例も存在しないことである。

eseは上述のように過去時の否定に用いられるのが，その本務であることを考えると，eseによって否定される -ju² は，-ju² の接尾される動作を本質的

には完了的に捉えていることを意味する。

-ju² は複数の動作を一連の流れとして接合するのがその本質であるが，その一連の流れを構成する個々の動作は，モンゴル人には完了的に意識され，捉えられると言うことができようか。これと対比さるべきものが上記の「ülü —n」であるが，それは次の -n の項で解くことにし，ここでは -'ād² について述べねばならない。

上記の文例から〈2〉の ideldü'ēd, ide'ēd,〈3〉の jasa'ād,〈4〉の odu'ād, kötölü'ēd, o'ōru'ād, ire'ēd の7例を得られるのみで，-'ād² は秘史蒙古語では -ju² と -n に比して使用例が少ない。秘史蒙古語で使用例が少ないと言うことは，中世蒙古語の段階では，-'ād²<-gād² の使用されることがそれ程多くなかったことを示すと見て誤りあるまい。

この語尾は，Poppe 教授の指摘の如く，converbum perfecti と見ることが可能である。

-'ād² は継起する前後の動作の関係を提示し，-'ād の附された前項の動作が終了してから後項の動作が行なわれることを示す。従って，-'ād は日本語では《～してそして，～してから》の意味あいをもつのであって，-ju² (及び -n ——これについては後述) とは，はっきりと区別される。このことは上例の ideldü'ēd を含めて7例をよくお読み願えれば了解していただけるであろう。たゞし，現代のモンゴル語，例えばハルハ方言などでは，この -'ād² の後身である -аад⁴ は単純に《～してから》だけの意味では説明しかねる現象にも遭遇する。例えば

(a) Шувуу нисэж ирэв.《鳥が飛んで来た》

(b) Шувуу нисээд ирэв.《鳥が飛んで来た》

の (a) と (b) は日本語では共に同じ訳文が与えられる。しかし，モンゴル人の言語感覚では，この両者には微妙なちがいがある。そもそも нисээд ирэв の -ээд (秘史蒙古語の -'ād²) は原則的に《～してから》の意であるから нисээд ирэв は原則通りならば《飛んでから来た》となって意味をなさない。《飛んで

来る》は《飛んでから》，そして《来る》の様に動作自体の前後関係はないわけで，本来はここに -'ād が用いられることは原則的にはあり得ないことである。然るに，この種の -'ād——現代語の -аад[4]——は現代語では一般的に使用される。そこで，(a) (b) の表現に現行の言語では屢々ぶつかることになる。(a) と (b) との微妙なニュアンスの差は何処にあるかと調べて見ると，未だはっきりしたことは言えないが (b) の нисээд ирэв の方は "飛んだ結果(こゝに)来た" と解すれば，-ээд のもつ本来の意が生かされると思われる。これに対し，нисэж ирэв は文字通り "飛んで来る" を一連の動作として捉えたものと見ることが出来る。又，後出の -n をとった нисэн ирэв も文章語としては用いられる形で，これは，日本語の "飛び来る" に当る表現と言うことが出来よう。上の三者はこのような微妙なニュアンスの違いをもたらすものと考えられる。

秘史蒙古語における -'ād には，この種の用例は認められず，《ある動作をなし終えて》の意義素を -'ād に仮定して大過ないと考えられる。

§4 **-n** 秘史蒙古語における一つの特徴は語尾 -n の多用である。-n は Poppe 教授によれば converbum modale (modal converb) と呼ばれ，"主動作が遂行される様態（様式）を示す行為" を表わすと言う。Poppe 教授のこの見解を考慮に入れつつ，-n をもう一度考察し直してみたい。

-n は，-n によって結ばれる後項の動作（ポッペ氏の主動作）がどのように行なわれるかを示す manner を表示すると見る，例えば，文例〈2〉の ö'ēr-ün qo'ōlaį-ba'ān qarčiqaį-ba'ān~ber teǰi'ēldün tere hon qarba. の -n は tere hon qarba《その年は過ぎた》に対して，どのようにして過ぎたかを "養い合って" 過ぎたと説明していると見る。この点から見れば，"主動詞が遂行される様態を示す行為《養い合う》teǰi'ēldü- に -n が接尾されてこの行為が表現されていると見ることは可能である。しかし，一方，この -n は teǰi'ēldü- と tere hon qar- を同時元で結びつける機能を果すとも見られる。即ち teǰi'ēldün《養し合い（ながら）》tere hon qarba《その年は過ぎた》と

読むことも可能であり，日本語で《……養い合ってその年は暮れた》と訳読するのに何の抵抗もない。

しかし，〈1〉の ger-tür-iyēn qarin haụ'ū(n)lju を《家に帰り奔り》と解することには抵抗がある。これを《帰りに奔り》とすれば日本語として抵抗は少なくなる。この場合，《帰りに》は後項の動作（主動作）《奔る》の方法を示す動作とは認め難いが，広い意味での様式，様態を示す動作と認めることは許されよう。

-n を converbum modale と見るのは，この立場によると思われる。一方，-n は上の teji'ēldü-n において見たように，前後の動作を同時元で結ぶ機能を果すとも見られる（この場合は，前述の -ju² との関連が追求されねばならないが）。

そこで，秘史蒙古語総体を通じて，-ju², -ād², -n の三語尾の中で，-n のみしか取らない動詞語幹があるか否かを調べて見よう。その調査が -n の本質を教えるかも知れないからである。

da'ūs-u-n《終る》1，debse-n《跳ぶ》1，dötele-n《近づく》1

duta'ūl-u-n《不足させる》2，du'ūlca-n《知らせる》1

ebesüle-n《草でつくる》1，ečidke-n《絶やす》1

elčileldü-n《使者を送りあう》1，**else-n**《和する》14

emčüle-n《私有とする》1，emečilegde-n《女のように見下される》1

**horči-n**《まわる，かこむ》15

e'ēre'ūl-ü-n《攻囲させる》3，geli-n《追いはらう》1

gerisgeledü-n《遮りあう》1，gerle-n《包(ゲル)をつくる》2

geyi'ūl-ü-n《明るくさせる》2，giji-n《沿う》2

görüleldü-n《攻めあう，なぐりあう》1，kürgeldü-n《到らせ合う》1

kü'ūleldü-n《人々にし合う》1，hiče-n《恥じる》1

hulal-u-n《赤くなる》1，huyil-u-n《渦まく》1

hürü-n《けずる》2，ibül-ü-n《充満する》1

ǰabila-n《あぐらをかく》2, ǰemle-n《叱る，非難する》1

ǰeši-n《高望みする》2, ǰibši'ērülče-n～ǰibšiyērülče-n《整え合う》2

ǰibsiyēr-ü-n《整治する》1 ǰingkü-n《中傷する》2

ǰoba'ā-n《苦しめる》1, ǰōriče-n《錯錯する》2

kemkele-n《粉々にする》1, kešigle-n《分割する》1

ketügelǰe-n《横ぎる》1, keyisge-n《飛散さす》2

könde-n《ふれる》2, könggele-n《軽くする》1

kö'ūčile-n《息子にする》2, mali'ā-n《仕える》1

mara'ā-n《仔細にする》1, melǰe-n《しらをきる》1

mingcala-n《千戸にする》2, **neyile-n**《一つになる，合流する》12

nitulu-n《絶つ》1, nögči-n《過ぎる，去る》1

nuntucla-n《居営する》1, olǰalaldu-n《財をとり合う》1

öče-n《さからう》1, ötörle-n《迅速に行なう》2

qanilca-n《比べる》1, qoǰida-n《おくれる》1

qolbāra-n《並ぶ》2, qono'ūl-u-n《宿らせる》2

quriyaldu-n《収め合う》1, cadal-u-n《探索する》2

saču-n《撒く》2, segü'ūl-ü-n《引きあげる》2

sereldü-n《気づき合う》1, šiliǰiri-n《移動する》1

širqa-n《傷つける》1, soyurqa'ūl-u-n《恩賞を施さす》1

taši-n《手をたゝく》2, taų'ū-n《追う》1

teberildü-n《抱き合う》1, teǰi'ēldü-n《養い合う》1

tocta-n《定まる》1, to'ā-n《数える，見なす》1

to'ōri-n《廻る》2, tüble-n《中心になる》1

tülešile-n《焚きものにする》2, uda'āra-《後につづく》3

üderi-n《昼食をとる》1, ulgi-n～ulki-n《譫言する》2

unǰi-n《垂れる》1, ucḍu-n《迎える》3

usula-n《水をやる》2, undur-u-n《湧き出る》

yadar-u-n《瞻する》2, yekeǰile-n《威張る》

amara'āli-n《親しむ》1, **ayis-u-n**《近づく》8

bürkire-n《とどろく》1, buru'ūi̯la-n～buru'ūyila-n～burūi̯la-n《逃げる》4

buru'ūdqa-n《逃がす》1, büselgü-n《かこむ》1

čida-n《できる》1, denggeče-n《等しくする》3

de'ŭčile-n《弟とする》1, duradulča-n《回想する》1

dürbe'ŭl-ü-n《敗走させる》1, harbala-n《十戸にする》1

kigde-n《される》1, ǰa'ūla-n《百戸にする》1

ǰasaldu-n《治めあう》1, **neke'ŭl-ü-n**《追わせる》4

nemürleldü-n《蔽いとし合う》1, neyileldü-n《合流しあう》

ö'ērmičile-n《別になる》1, oyisulaldu-n《ひそかにうらむ》1

qarbiyaldu-n《射あう》1, temeče-n《争う》2

torol-u-n《仔馬が母馬をかこみ喜び疾走する》1, tungqu-n《告げる》1

üǰü'ŭle-n《尖端にならす》1

以上の106の語幹は -n のみをとっているがこれらの中で興味がひかれるのは，else-n 14例，horči-n 15例，neyile-n 12例，ayis-u-n 8例などである(horči- と neyile- については，horči-ǰü 2例，neyile-ǰü 1例が認められるが)。1例や2例の用例では，偶然の可能性があるが，10例前後，一つの形のみが用いられるとなれば，それは偶然とは見られないと思われる。それ故，else-，horči-，neyile-，ayis- が -n を接尾する例が圧倒的に多いというこの事実は，何等かの意味をもつのではあるまいか。

まず ayis-u-n を調べて見る。

§9 (一6九～6十) Burqan-qaldun-u eǰed Burqan bosqaɢsan Šimči=
ブルカン・カルドゥン山 の 主，ブルカン山を 興こせし シムチ・

bayan Uriyangqai̯-dur neŭ'ŭǰü **ayisun aǰu'ū.** (195)
バヤン ウリヤンカイ に 移り 来りつつ あり。

§32 (一20三) qoram atala Tünggelig Goroqan ö'ēde niken kü'ün
しばし あるに, トゥンゲリグ 小川を 遡りて 一人の 人

ayisun **büyü.** (196)
近づきつつ あり。

§93 (二34十～35一) sayin nökör mungtanijju ayisun **aǰu'ū.** (197)
よき 僚友 艱難して 来つつ あり。

§94 (二42八～42九) ǰalqamšiqtan Taiyiči'ūd ayisun **aqun**-u, eke
"頑強頑瑣なる タイチウド族 近づきつつあるや, 母,

öter bos ke'ēbi. (198)
はやく起きよ"と云えり。

§100 (二44五～44八) Qo'āgčin emegen Börte=üǰin-i ni'ūsu keyēn
コアクチン 老 婆は ボルテ 夫人を"かくさん" とて

bōken qara ūtai tergen-tür unu'ūlǰu bö'ēre alag hüker kölǰü
幌つきの 黒 わくの 車 に のせて, 腰の まだらな 牛 を つけ

Tenggelig Goroqan ö'ēde ködölǰü ayisun **büküi-dür**……(199)
チンゲリグ 小川を 遡りて 移動し 来つつ ある に

§120 (三33八～33九) ede Gurban Togura'ūn aqa-nar de'ū-ner sōni
これら 三 トグラウンの 兄 達 弟 達は 夜を

dülildüǰü ayisun **aǰu'ū.** (200)
徹し合いて 近づきつつ あり。

§170 (六2六～2七) Ong qan tere nekeǰü ayisun **aǰu'ūi** ke'ēǰü
"王 汗 それ 追い 近づきつつ あり" とて

(201)

§170 (六2十～3一) tere ayisuqui-dur J̌amuqa, Ong qan-lu'ā
その 近づきつつあるに, ヂャムカは 王 汗 と

qamtu ayisulčaǰu ayisun **aǰu'ū.** (202)
共に 相近づき 来りつつ あり。

以上8例ともに, ayisun が《ある, いる》を意味する a- 及び bü- に結びついているのが特徴的である。動詞語幹 ayis- は《近づいて来る (視野の中に入っている)》を意味し, その語義の中に"現に動作が遂行中"という進行態の意味を蔵している。それ故, ese との結びつきから知られた《完了的》な意義素を蔵する -ǰu をとることなく,《現在的》な -n との結合のみが用いられると考えられる。その語義自体の蔵する上述の特性から見て, 過去を表わす

-ba², -ǰu'ū(i) 等との結合は原則的に存在しなかろうとの推測に立って調べて見ると，予想の如く ayis(u)ba, ayisuǰu'ū(i) は秘史蒙古語からは1例も見出すことはできない。僅かに ayisula'ā, ayisulu'ā, ayisula'āi の3例を拾うことができるが，これ等は，その文脈から見て明かに“現在的”であり，上の -la'ā, -lu'ā, -la'āi の三例は -la'ā 系の語尾の特殊な一面の解明に手がかりを与えるものとも思える。(3) それについては註3を参照していたゞくことにして本題にもどる。

-n が現在進行態の意義素をもつ ayisu- に集中的に接尾する事実は，この語尾の特質を浮び上らせる。この語尾は複数の動作を時間的に同時元的に結びつけ，それを単一の動作として扱うところにその本質があると見るべきかと考えられる。ayisun a-, ayisun bü- も《現に近づき来ている》動作の ayisu- と a-, bü- を -n で結びつけていると見ることができよう（尚，本例の a- と bü- は，これ亦，a- と bü- の意義素の認定に好個の実例と思えるが，それについても，ここでは触れる余裕はない。後述する機会がある）。

次に else-n 14例を考察する。

§176（六20三～20五） J̌ürčedei-dür elsen **oroǰu'ūi**, elsen **orogdaǰu**
ヂュルチェデイ に 和 服せり， 和 服せられて

Činggis qahān ya'ū~ber anu ese köndebei. (203)
チンギス 可汗 何に も ←彼等の ふれざりき。

§182（六43十～44一） tede Qorulas ülü bulgan elsen **irebe.** (204)
彼等 コルラス族 敵対せず 和し 来りぬ。

§235（十10九～10十） Qarlu'ūd-un Arslang qan Qubilai-dur elsen
カルルク族 の アルスラン 汗は クビライ に 和し

**ireǰü'üi.** (205)
来れり。

§239（十14四～14五） Oyirad-un Quduca=beki tümen Oyirad-un
オイラード族 の クドゥガ・ベキ 一万の オイラート の

urida elsen **oroǰu irebe.** (206)
さきに 和し 下りて 来りぬ。

§239（十14十～15三） Kirigisüd-ün noyad Yedi, Inal, Aldi'ēr,
キリギス族 の 長達 イェデイ，イナル，アルディエル

Örbeg=digin, Kirgisūd-ün noyad elsen **oroǰu** čaga'ānūd šingqud,
オルベダ・ディギン, キルギス族 の 長達 和 服して 白 き 禿鷹,

čaga'ānūd agtas, qaranu'ūd bulugad abu'ād ireǰü J̌oči-da a'ūlǰaba.
白 き 去勢馬, 黒き 貂 を もち 来りて チョチ に 謁しぬ。

(207)

§239 (十15九～16二) Oyirad-un Quduga=beki-yi ugtun urida elsen
オイラード族 の クドゥガ・ベキ を 迎え, "さきに 和し

tümen oyirad-iyān uduridun irebe keyen soyurqaǰu kö'ūn-e inu
一万の オイラート を(己が) ひきつれ 来りぬ" と 嘉賞し 子 に←彼の

Inalči-da Čečeyigen-i ögbe. (208)
イナルチ に チェチェイゲン を 与えぬ。

§248 (十6二～6七) Altan qan Onggin=čingseng-ün ene üge
全 帝は 王京・丞相 の この 言を

ǰöbšiyeǰü eyin bö'ēd boltugaį keyēn elsen Čingis qahān-a Gungǰu
是とし "かく こそ あれ" とて 和し, チンギス 可汗 に 公主

neretei öki garǰaǰu altan münggün, a'ūrasun ed tawar čerig-ün
なる名の 娘を 出し, 金 銀, 絹布類の 品 品を 軍 の

kü'ūn-e küčün-e mede'ūlün da'āquį-ača J̌undu-ača garǰaǰu
人 に, 力 に 統べ 耐えうる ほど 中都 より 出し

Činggis qahān-dur Onggin=čingseng kürgeǰü irebe. elsen
チンギス 可汗 に 王京・丞相 が とどけ 来りぬ。 和し

**iregdeǰü** Činggis qahān eye-dür anu oroǰu qotad qotad-tur e'ērēd
来られて チンギス 可汗 和睦 に←彼等の 入りて, 城街 城街 に 攻め

baų'ūgsad čeri'ūd-i qari'ūlǰu ičuba. (209)
下りし 軍兵達 を 返し もどりぬ。

§248 (十5三～5六) Altan qan-i soyurqa'āsu Mongǰol-un qan-dur
"金 帝 が おゆるし下されば, モンゴル の 汗 に

edo'ēd-tür elsen eyetüye, eye-dür oroǰu Mongǰol-i ičų'āsu
今 に於ては 和し 相議せん, 和睦 に 入りて モンゴル を もどさば,

ičugagsan-u qoyina basa busu sedkil bida tende eyetüldüd~ǰe.
もどしたる の 後 また 他の 考えを 我等は そこに 相議し合わんぞ"

(210)

§249 (十8一～8四) tere morilagsa'ār Qašin irge-dür yorčiba.
その 出陣せるままに, 合申の 人衆 に 赴きぬ。

ǰoriǰu kürü'ēsü Qašin irgen-ü Burqan elsen bara'ūn gar činu
目指し 到れば 合申の 人衆 の ブルカン 和服し "右 手 ←汝の

bolǰu küčü ögsü keyēn Čaga nerteį ōki Činggis qahān-a garcaǰu
たりて 力を 与えん" とて チャガなる名の 娘を チンギス 可汗 に 出し

ögbe. (211)
与えぬ。

§251 (土11六～12二) basa J̌eųguan-dur elsen **ilegsed** J̌ubqan
また, 趙官 に 和しに 遣りし チュブカンを

teri'ūten olon elčin-iyēn Qitad irgen-ü Aqutaį Altan qa'ān-a
頭とせる 多くの 使者 を(己が) キタド 人衆 の アクタイ, 金 皇帝 に

ǰedkügdeǰü Činggis qahān noqaį ǰil Qitad irgen-dür morilaba.
とどめられて チンギス 可汗 戊 年, キタド 人 衆 に 出馬せり。

elsen **baraǰu** J̌eųguan-dur ilegsed elčin-i yekin ǰedkün bülegeį
"和し 終りて 趙 官 に 遣りの 使者達 を なんぞ とどめ ありき"

keyēn morilarun Činggis qahān Tungguan amasar ǰoriǰu J̌ebe-yi
とて 出馬するに チンギス 可汗 潼関の 関口を 目指し, チェベ を

Čabčiyal-iyār bolgaba. (212)
居庸関によらしめぬ。

§253 (土18一～18三) Altan qan Nangǰing oroǰu ö'ēr-iyēn elsen
金 帝 南 京に 入りて 自 ら 和服

**mürgüǰü** Tenggeri neretü kö'ū-bēn ǰa'ūn nöködtü-yi Činggis
叩頭し, テンゲリなる名の 子 を(己が) 百人の 僚友もてる を チンギス

qahān-dur turqag boltugaį keyēn ileǰü'ū. (213)
可汗 に "侍衛兵たるべし" とて 遣したり。

以上14例の中, §239 の elsen, §248 の……keyēn elsen, §249 の elsen 3例を除くと, 他の11例は総て elsen oro-, elsen ire-, elsen oroǰu ire-, elsen eyetü- 等々の如く, いわば動詞連結形である。else- は el《和, 和睦》に -se- が接尾されて作られた《和する, 帰順する》を意味する動詞である。elseǰü oro-, elseǰü ire- が一例も見られないのは, else- と oro-, ire- を結ぶのに -ǰü では else- の意味合いが弱まる感を当時のモンゴル人は覚えたのではあるまいか。elseǰü oro- などの形が一例も見えないのは, 恐らく上述の感覚に帰因するであろう。elsen oro- となってはじめて《和順する》の意が

的確に表現されたものと思える。else- と oro-, ire- などは，二つの（時には二つ以上の）の動作ではあるが，それは，時を同じくする，時を共にする，一動作の如く把握されたものと見るべきである。

後続する動詞をもたない三例の elsen も elsejü よりも，その意が明確に示され得たからによるであろう。elsejü, else'ēd が全く見られないのは，-n のもつ意義素とかゝわりがあるものと想定しなければなるまい。ここで，neyile- と horči- の用例を吟味して見たい。

neyile- の12例は以下の如くである。

§107（三10六～10十） Temüjin tendeče čerig e'ūsgejü To'ōri(n)l
テムヂン そこより 兵を 発し, トオリル

qan nigen tümen, To'ōri(n)l qan-nu de'ū J̌aqa=gambu nigen
汗 一 万, トオリル 汗 の 弟 ヂカガムブ 一

tümen qoyar tümed-iyēr Qimurqa gorqon-u Ayi(n)l=qaracana-da
万, 二 万 もて キムルカ 小川 の アイル・カラガナ に

ba'ūju büküi̯-dür neyilen **bau̯'ūba.** (214)
下営し ある 時 合し 下営しぬ。

§116（三25九～26一） Temüjin J̌amuqa qoyar Qorqonag ǰubur-a
テムヂン, ヂャムカ 二人 コルコナグ ヂュブル に

neyilen **bau̯'ūǰu** erten-ü anda tungquldu̯ju amaralduya ke'ēldübe.
合し 下営し, "さきの日の 盟友を 重ね合いて 親しみ合わん" と云い合いぬ。

(215)

§120①（三34五～34七） Bo'ōrču-yin de'ū Ögölen=čerbi Arulad-ača
ボオルチュ の 弟 オゴレン チェルビ, アルラド より

qacačaju aqa-dur-iyān Bo'ōrču-dur neyilen **irebe**-kü. (216)
はなれ, 兄 に ←自分の ボオルチュ に 合し 来りぬ ぞ。

§120②（三34七～34九） J̌elme-yin de'ū Ča'ūrqan, Sübe'ētei̯=ba'ātur
ヂェルメ の 弟 チャウルカン, スベエテイ・バアトゥル

Uriangqan-ača qacačaju J̌elme-dür neyilen **irebe.** (217)
ウリヤンカン より はなれて ヂェルメ のもとに 合し 来りぬ。

§122（三42十～43二） ede basa J̌amuqa-dača qacačaju ködöljü
これらは 又 ヂャムカ より はなれて 動き

Temüjin-i Qimurqa goroqan-u Ayil=qaracana-da bau̯'ūju büküi̯-
テムヂン の キムルカ 小川 の アイル・カラガナ に 下営し ある

dür neyilen **bau̯'ūba.** (218)
時 合し 下営せり。

§129 (四6一～6四) Qongqodadai̯ Münglig ečige tende J̌amuqa-
コンゴダイ族の ムンリグ・エチゲ そこに ヂャムカの

dur aǰu. Münglig ečige dolo'ān kö'ūd-lü'ē-bēn J̌amuqa-dača
もとに ありて ムンリグ・エチゲは 七人の 子達 と共に←己が ヂャムカのもとより

qacačaǰu tende Činggis qahān-dur neyilen **irebe.** (219)
はなれて そこに チンギス 可汗 に 合も 来りぬ。

§142 (四34八～34十) bidan-u manglan teden-dür ungšilduǰu ung-
我等 の 尖兵達, 彼等 に 叫び合いて,

šiǰu ǰilda boldaǰu manacar qadqulduya ke'ējü ičuǰu col-dur
叫びて 夕暮れ になられ "翌日 戦わん" とて 退き, 本軍 に

neyilen **qonoba.** (220)
合し 宿りぬ。

§146 (四47九～48三) yēkin ya'āraqu bi, ya'āraǰu urid ire'ēsü
"「なんぞ 急ぐべき 我, 急ぎて さきに 来らば,

Tai̯yičі'ūd noyad minu qočurucsan eme kö'ūn adu'ūn ide'ēn-i
タイチウド族の 長 わが 残りし 妻 子, 馬群 食糧 を

minu hünesü'ēr geyisgekün tede ke'ējü ülü ya'āran edö'ē qahān-
←我が 灰のごと 飛び散らすべし 彼等」 とて 急がず, 今 可汗

dur-iyān neyilen **idüreǰü irebe** ba. (221)
のもとに←己が 合し 追いつき 来れり 我等"

§162 (五32九～33一) Tocto'ā-yin Qutu Čila'ūn qoyar kö'ūd tende
トクトア の タトゥ, チラウン 二人の 子達 そこに

bürün irge-bēn abu'ād qacačaǰu ečige-dür-iyēn neyilen Selengge
ありて, 人衆 を(己が) とりて はなれ, 父 のもとに←己が 合し, セレンゲを

huru'ū ködölǰü'ūi̯. (222)
下りて 移れり。

§177 (六30一～30四) Merkid-ün Tocto'ā-yin kö'ūn Qudu, Čila'ūn
"メルキド族 の トクトア の 子 クドゥ, チラウンの

qoyar irge orca-bār-iyān čima-dur bürün tere so'ōr-tur ečige-
二人は 人衆 敵民 もて ←己が 汝の もとに ありて, その 争乱 にて 父

dür-iyēn neyilen Barcuǰin oron čima-dača dayiǰin ködöljü'ūi̯-
に ←己が 合し バルグヂンに入り 汝 より 背き 移れる

je. (223)
ぞ".

§198 (八3七～3九) Naiman-u Küčülüg qan Uï'ūrtaï Qarlu'ūd-i
ナイマン族 の クチュルダ 汗は ウイウル族，カルルグ族 を

da'ārin Sarta'ūl-un ǥaǰar-a Čüï müren-e bükün Qara=kitad-un
経て サルタウル族の 地 に チュイ 河 に ある 西 遼 の

Gür qan-dür neyilen **odču'ūï.** (224)
グル 汗 に 合し 行けり。

§253 (十18四～19一) Činggis qahān ičuya keyēn Čabčiyal-iyār
チンギス 可汗 "退かん" とて 居庸関 もて

tende ičurun Qasar-i ǰeü'ūn ǥar-un čeri'ūd-iyēr dalaï gijin ilerün
そこに 退くに，カサルをして 左 手 の 兵士達 もて 海に そいて 遣るに，

……中略……Taü'ūr müren ö'ēde dabaǰu yeke a'ūruǥ-tur neyilen
"タウル 河を 遡りて 越えて 大 本営 に 合し

**iredkün** ke'ējü ilebe. (225)
来れ" とて 遣りぬ。

以上12例の neyilen の中，neyilen baü'ū-，neyilen ire- などの動詞連結形が10例．§162，§177の neyilen は直続の動詞を持たない。正確には neyilejü (八2六) が1例見られ，neyilen のみではないが，動詞語幹 neyile- は -n と結びつくことが圧倒的に多いことは上例の如くである。

§107，§116，§122 の neyilen baü'ū-，§120①，②，§129，§253 の neyilen ire-，——§146の neyilen idürejü ire- もここに含められよう——，§142の neyilen qono-，§198 の neyilen od- の総てに於て，neyile- と，直続する動詞との間に時間的前後関係はなく，neyile- と直続の baü'ū-，ire- qono-，od- 等とは行為としては同時的である。

§162，§177の neyilen は共に，文末の ködöljü'ūï《移動した》の様態を示すものとして《合流しに》と解される converbum modalia の好例と言えるが，これとても，neyile- と ködöl- の動作は，モンゴル人の感覚としては同時元で捉えられている。

次に horči- の用例を示そう。

§57 (一39四～39六) Qutula-yi qa ergü'ēd Qorqonaǥ-un saǥlaǥar
クトゥラ を 汗に 推戴し コルコナグ の 繁茂せる

modun horčin qabirɢa-ta ha'ūluɢa ebüdüg-te ölkeg bolutala
木を かこみ 肋骨 まで 地面に, 膝 まで 塵土に なるまで

debsebe. (226)
踊りぬ。

§79 (二14七～14五) Temüǰin-i morila'ūlǰu burūdqan hoi̯-tur
テムヂン を 馬にのせて 逃がし, 森 に

duta'āǰu odqui̯-yi Taiyiči'ūd üǰeǰü hüldeǰü Tergüne ündür-ün
逃げ 行く を タイチウド族 見て 追いて テルグネ 丘 の

šiɢui̯-dur širɢuǰu orobasu Taiči'ūd oron yadaǰu šiɢui̯-dur horčin
密林 に もぐり 入れば タイチウド族 入り 得ず 密林 にて かこみ

saqiǰu……. (227)
守りて……。

§80 (二16一～16四) tere amasar böglen unaɢsan qošiliɢ-un tedüi̯
その 口を ふさぎ 倒れし 小帳幕 の ほどの

čaɢān kürü horčin ɢarbāsu ülü bolqu, modud-i sumuči qituɢai̯-
白き 鉱石を めぐり 出でんとせど 能わず, 木々 を 矢削り 小刀

bār-iyān hoɢtoli'ād mori-yān qaltari'ūlu'ād ɢarqui̯-lu'ā Taiyiči'ūd
にて← 己が たちきりて 馬 を(己が) 滑らせ 出ずる と タイチウド族

saqiǰu aǰu'ū. (228)
守りて ありき。

§145 (四40七～41二) qahān ügülerün dotora nidün minu geyibe
可汗の 言うに "心, 目 ← 我が 明けり"

ke'ēd öndeyiǰü sa'ūtala üdür geyiǰü gegēn bolǰu üǰe'ēsü tere
とて 身を起し 坐しあるに 夜 明け 明るく なりて, 見れば その

sa'ūɢsan horčin ǰelme-yin šimin šimin böglegsen čisun asqaɢsan
坐れる まわり, ヂェルメ の 吸い 吸いして かたまれる 血を 吐きたる

horčin namurqan bolǰu'ū. (229)
まわりは 血みどろ なりき。

§192① (七20八～20十) kebte'ūl söni ger horčin kebtekün-iyēn
宿直番は 夜 包(ゲル)をかこみ 臥すべき を(己が)

kebte'ūlǰü e'ūden-dür baiyiqun-iyān kešiglen bai̯'yi'ūltuɢai̯. (230)
臥せしめ, 戸口 に 立つべき を(己か) 順次に 立てしむべし。

§192② (七21四～21七) ɢurban söni ɢurban üdür kešig üdür-iyēn
"三 夜 三 日の 当直 日が ←己が

dau̯'ūsču mun-kü yosu'ār ɢurban söni qonolduǰu ye'ūdgeldüǰü
終わり, 同じ その 規(のり)もて 三 夜 宿り合いて 交代し合いて

söni kebte'ūl atuɢaị. horčin kebteǰü qonotuɢaị keyēn ǰarlig
夜 宿直番 であれ かこみ 臥して 宿るべし" と 勅

bolba. (231)
しぬ。

§195 (七35一～35四) tede ya'ūd, erte talbiɢsad unuɢan eke-yüyēn
汝等 如何なる者ぞ, 早く 放てし 仔馬が 母 の(己が)

šün kököǰü eke-yüyēn horčin torolun güị̈yikü unuɢad metü yēkin
乳を 吸いて 母 の(己が) まわりを めぐり 走る 仔馬群の如く いかんぞ

teyin to'ōriɢan ayisaị tede keyēn asaɢču'ū. (232)
かく めぐりて 来る や 彼等" と 問えり。

§229 (九47七～47十) kebte'ūl söni ordo horčin kebteǰü e'ūden
"宿直番は 夜 宮居(オルド)を かこみ 臥して, 戸口を

daruǰu baị̈yiɢsad kebte'ūl söni oroqun haran-i ekid anu dalbaru
おさえて 立ちし 当直番は 夜 入る 人々 を 脳が←彼等のダサリと割れ,

mürüs anu ba'ūtala čabčiǰu o'ōrudqun. (233)
肩が ← 彼等の そぎ落ちるまで 斬り 捨てよ"

①
§230 (十1四～1六) hodutaị söni ordo ger minu horčin kebteǰü
星ある 夜, 宮居(オルド) 包(ゲル) ←我等の かこみ 臥して

oro dotora ese oɢǰadqaɢsan öl̈ǰeị̈ten kebte'ūl minu ündür oron-
臥床の 中にて 驚かしめざる, 吉祥もてる 宿直番は ← 我か 高き 位

dur kürgebe. (234)
に 到らしめぬ。

②
§230 (十1八～1九) šiltesüteị ger minu horčin ǰirim ülü kin
細条で編める 包を ← 我が かこみ まどろみも せず

baị̈yiǰu ǰirüge amu'ūluɢsan čing sedkilten kebte'ūl minu ǰirɢalang
立ちて 心臓を 安んせしめし 誠 心もてる 宿直番は ← 我が 喜楽の

oron-dur kürgebe. (235)
位 に 到らしめぬ。

③
§230 (十1十～2一) ibülün büküị̈ daị̈yisun dotora irgeteị ger
"充満し ある 敵の 中にて 縁布ある 包(ゲル)を

←minu horčin hirmes ülü kin idqaǰu baị̈yiɢsad itegelten kebte'ūl
我が かこみ 目ばたきもせず (敵を)とどめ 立ちし 信ある 宿直番

minu." (236)
← 我が。

§234 (十9八～10一) bürin kešigten turɢa'ūd-i, ordo horčin ordo-
"すべての 輪番の 当番兵達 を, 宮居を かこむ 宮居

yin ger-ün kö'ūd-i, adu'ūčin qoničin temēčin hükečin-i ordo
の 家 の 子達 を, 馬夫達 羊夫達 駱駝夫達 牛夫達 を 宮居を

darun Dodai=čerbi uqaju atucai. (237)
制する ドダイ・ケェルビが 主管して あれ。

§245 (十40七～40九) Činggis qahān gereljü, šiqacdaju jayila
チンギス 可汗 気おくれし 迫られて "退け,

caruya ke'ē'ēd carqu-lu'ā Činggis qa'ān-i horčin qorčin turqa'ūd
出でん" と云いて 出づる や チンギス 可汗 を かこみ 矢筒士達 当番兵達

to'ōrin baiyiba. (238)
とりまき 立ちぬ。

§278 (土42四～六) basa kebte'ūl minu beye ča'āda ordo horčin
"また 容直番は 我が 身に そいて 宮居を かこみ

baiyiju e'ūden daruju kebtetügei. (239)
立ちて 戸帳に 接して 臥すべし。

horči-《(物の周囲を) とりまく; 廻る》も horčiju が2例見られるので, horčin のみとは言えないが, -n との結びつきは上例の如く, 15例にものぼる。horčiju の2例を参考のために挙げて見る。

§121 (三37十～38六) ja'ārin irejü nadur nidün-dür-iyēn üje'ūlbe.
神告 来りて 我に 目 に ← 己が 見せぬ。

qo'āgčin üniyēn irejü Jamuqa-yi horčiju yabuju ger tergen inu
淡黄色の 牝牛の 来りて ヂャムカ をば めぐりて 行き 包 車を ← 彼の

mürgüle'ēd Jamuqa-yi mürgüjü öre'ēle eber-iyēn quculaju soljir
突きて ヂャムカ を 突きて 片方の 角 を(己が) 折りて 不揃いの

ebertü bolju eber minu ača keyēn(4) keyēn Jamuqa-yin jüg mö'ōlen
角に なりて 「角を ←我が 与えよ」と云い 云い ヂャムカ の 方へ 吼え

mö'ōlen širo'āi sačun sačun bayimu. (240)
吼え 土を まきあげ まきあげし 立ちあり"。

§254 (土23十～24一) tan-i törekü-yin urida hodutai tenggeri
"汝等 の 生れる の 前, 星ある 天

horčiju büle'ē, olon ulus bulca büle'ē, oron-dur-iyān ülü oron
めぐりて ありき, さはなる 民人 叛き ありき, 臥床 に ← 己が 入らず

oljalaldun büle'ē. körisütei etügen körbejü büle'ē, gür ulus
獲り合いて ありき。 土壌ある 大地は まろびて ありき, あまねき民人

bulca büle'ē, könjile-de'yēn ülü kebten görüleldün büle'ē. (241)
飯き ありき, 衾 に(己が) 臥さず 争い合い ありき。

この2例の horčiju と15例の horčin を頭に入れて -n のことを考察したい。(5)

horčin の15例の中§79の horčin saqi-, §80 horčin car-, §192①②の horčin kebte-, §195の horčin torolun güiyi-, §229, §230①の horčin kebte-, §279の horčin baiyi- の8例が動詞連結形で horči- と後続動作の同時性を -n で結んでいる。§57の horčin は文末の debse-《跳びはねる》と同時的であり, saglagar modu を《とりまきながら跳びはね舞った》のである。§230②③の前者は horči- と hirmes ülü ki- との同時性, 後者は jirim ülü kin との同時性が -n によって結ばれている。§245の horčin も文末の to'ōrin baiyiba と同時的である。

しかし, §145, §234の horčin は趣を異にする。§234の ordo horčin《オルドをかこむ》は ordo-yin ger-ün kö'ūd《オルドの家子達》にかゝる形容句で, horčin は機能として形動詞である。Poppe 教授が "-n は発生的には形動詞" としている一例かとも考えられる。§145の horčin は更に一歩進んで現代語と同様《周周》を意味する実詞と見るべきである。文脈から見て§145の tere sa'ūgsan horčin, böglegsen čisun asqagsan horčin の二つの horčin は実詞として《周囲, まわり》と読まねばなるまい。

しかし, この horčin の -n は副動詞の -n からの転化ではなく, 出動実詞形成接辞の -n と見ることも可能であろう。そう解すれば, 副動詞 -n の用例からは, この§145の horčin は除かれる。

以上, §145の2例の horčin を除いた13例の horčin の -n は複数の動作を同時元で結びつける職能をもち, いままで見て来た ayis-u-n, else-n, neyile-n, における -n の職能と等質である。

* * * * *

-n とのみ集中的に結合する ayisun, elsen, neyilen, horčin の吟味を通し

て，筆者は -n を様態(式)副動詞語尾と呼ぶよりも，むしろ「同時接合副動詞語尾」と呼ぶことにしたい。-n における《同時接合的職能》を重く見たいからである。

ところで，前述の，動詞 ke'ē-《～と言う，～と思う》に接尾する -n ke'ē-n～keyēn の389例という突出について一言しておく。ke'ēn～keyēn の 389 例に対し，ke'ē-(keyē-)jü 145例，ke'ē-(keyē-)'ēd 27例は秘史蒙古語における，この三語尾の使用状況に反する処があり，それは，言うまでもなく，ke'ē-(keyē-)n の突出による。次の例を読んで見よう。

Ⓐ
§15 (一9四～9五) Dobun mergen ya'ūn kü'ün či **keyēn asaɢu'āsu,** tere kü'ün ügülerün……(242)
§19 (一11七～11十) ede tabun kö'üd-iyēn jergelen sa'ū(n)lju niji'ēl müsüd quɢuludqun **ke'ējü ögbe.** (243)

Ⓑ
§18 (一11七～11九) ger dotora ɢaɢča Ma'ālič=baya'ūdaį kü'ün büyü, ede ɢurban kö'üd te'ün-ü'ēį büį~je **keyēn** eke-yüyēn ečine **keleldüküį-yi** eke anu Alan ɢo'a uqaju……(244)
§13 (一8七～8九) Dobun mergen ügülerün nökör širolɢa da kējü'ü. ögsü **ke'ējü** a'ūšigitu jildü arasun inu abču čö'ē buɢuyin miqa kübčin-i Dobun mergen-e **ögbe** (245)

Ⓐ,Ⓑともに秘史巻一の巻初に近い文章である。Ⓐの§15 keyēn asaɢ'āsu と ke'ējü ögbe とを比較して見ると，一見したところでは，この keyē-n と ke'ē-jü との間に，取立てた違いが見られない感がある。しかし，仔細に検討すれば，日本語訳からも知られるが，前者は《～と（言って）——通常，この（言って）は必要ない——尋ねれば》と解せられるが，後者は《～と言って与えた》のように，《～と（言って）》と《～と言って》の違いがある。keyē- と asaɢu- との間には時間的間隔がないのに反し，ke'ē- と ög- の間には一つの流れではあるが，時間的前後関係がある。

Ⓑの場合は keyēn, ke'ējü の次に若干の語句が挿入されて keleldüküį-yi

と ögbe に接続するが，上述の関係には変りがない。前者《～と己が母の蔭で言い合いあるを》と後者《"与えよう" と言って～ドブン・メルゲンに与へぬ》とは -n と -ǰu² の相違をはっきり示している。

ke'ē-(keyē-)n が ke'ē-ǰü よりも抜群に多く用いられるのは，この -n と -ǰü の表わす意義素の相違からもたらされたものと言える。一般に《と（言って）～する》——例えばⒶ，Ⓑの keyēn **asacu-**, keyēn **keleldü-** の如き——の動詞連結では ke'ē-(keyē-) と後接の動詞との関係は極めて密接で同時的である。それ故，連接接合の -ǰu² よりも同時接合の -n が当然のこととして多用される結果になる。

最後に -n の意義素を《複数の動作を同時元で接合し，日本語では "～し" と訳せば当る場合が多い》と措定する。以上を以て第四講を終える。

**第四講の註**

（1） ここで主要動詞と呼んだのは，この三語尾の使用例の合計数が15例以上にのぼる動詞のことである。例えば (2) abura- は abura-ǰu 13, abura-n 4, abura-'ād ゼロで合計17例にのぼるので，ここでの主要動詞に入る。ただし，この原則から脱れる動詞を，こゝに入れた場合があるが，それは筆者の考えによる。この主要動詞表は，種々興味ある事実を提示するが，それについては，機会を改めて取上げたいと考えている。

（2） この ese'ü amuį は以下の文に現われる。

§254 (土26六～27四)

| 額格篾徹 | 塔訥 | 塔塔周 | 額舌劣魯額 | 撒察温 | 客捏 |
|---|---|---|---|---|---|
| 屑甲 行 | 您的 | 扯着 | 人 一同 | 齐等 | 怎生 |
| egem-eče | tan-u | tataǰu | ere-lü'ē | sača'ūn | ken-e |
| 「肩骨 を | ←汝等の | 引き | 男子 と | 等しく | 誰がため |

| 孛勒中合中忽 | 古主兀捏徹 | 塔訥 | 塔塔周 | 古温魯額 | 撒察温 | 客捏 | 孛勒中合中忽 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 做的麼 | 頭 項 行 | 您的 | 扯着 | 人 一同 | 齐等 | 怎生 | 做的麼 |
| bolɢaqu, | küǰü'ūn-eče | tan-u | tataǰu | kü'ūn-lü'ē | sača'ūn | ken-e | bolɢaqu, |
| なせるや, | 頸 を | ←汝等の | 引きて | 人 と | 等しく | 誰がため | なせるや」 |

| 客額周 | 不亦 | 塔訥 | 阿舌里勒中合周 | 不舌児備 | 塔訥 | 額舌児古兀勒周 | 額舌列因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 説着 | | 您的 | 教 浄 着 | 脚後根 | 您的 | 教攫起 着 | 男子的 |
| ke'ējü | buyi | tan-u | arilɢaǰu | burbuį | tan-u | ergü'ūljü | ere-yin |
| とて | 汚物を← | 汝等の | 浄め, | 後腱を | ← 汝等 の | あげしめ | 男 の |

| 額甘突(舌)児 | 阿黒騮因 | 中合舌児(中)甘突(舌)児 | 古舌児格周 | 額朶額 | 塔訥安 | 撒亦 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 肩 行 | 騸馬 的 | 後膀 行 | 教到着 | 如今 | 你比自的行 | 好 |
| egem-dür, | aɢta-yin | qarɢam-dur | kürgejü | edö'ē | tan-u-'ān | sayi |
| 肩甲 に | 去勢馬 の | 尻 に | 到らせ, | 「今 | 汝等の←己が | よきを |

| 兀者速 | 客延 | 薛惕乞周 | 額薛兀 | 阿梅 | 孛黒塔 | 中合敎 | 必荅訥 | 納舌闌 | 篾図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 見我 | 歴道 | 想 着 | 不曽 | 有歴 | 賢明 | 娘子 | 咱的 | 日 | 殺 |
| üjesü | keyēn | sedkijü | ese'ü | amuj, | boɢta | qaḍun | bidan-u | naran | metü |
| 見ん」 | と | 想いて | あらざるや, | | 賢き | 右は | ← 我等 の | 日輪の如く | |

| 格格延 | 納浯舌児 | 篾圖 | 迭勒格舌児 | 薛惕乞勒禿 | 不列額 | 客額罷(原作別) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 明 | 海 | 殺 | 寛 洪 | 心 有的 | 有来 | 説了 |
| gegeyēn, | na'ūr | metü | delger | sedkiltü | büle'ē | ke'ēbe. |
| 明るく, | 大湖の | 如く | 広大なる | 心もちて | あり" | に云いぬ。 |

この文は，テムヂン・チンギス可汗の次男チャダイが己が兄ヂョチの出生をめぐって，口にすべからざる事を語った時——それは，己が母ボルテへの配慮を欠く故に——チャダイを諫めた幕臣ココチョスの言辞の最終の部分である。チンギスの糟糠の妻として狂乱怒濤の中を生きた妻ボルテは，又ヂョチ，チャダイ，オゴデイ，トルイの4男の母でもあった。秘史の§254後半は，ココチョスをして，戦乱に明け暮れた当時のモンゴル草原において，ボルテがテムヂンと共に大きな艱難辛苦を乗り越えて，息子達をいかに雄々しき益良夫に育て上げたかを語らしめている。その最後の言として，

"今や汝等のよき（晴姿）を見ん"

と想いてあらざるや (ese'ü amuj)

と言っているのである。amuj は現在形であるから ülü'ü amuj が秘史蒙古語文法の点から見ればありうべき形である。こゝに ese が用いられたのは，過去からこの時までの様々なことがらを想起しつつ，今汝等のよき益良夫ぶりを見ようと想っているのではないかという過去への回想を ese'ü に語らしめたものではなかろうか。この破格の ese'ü を筆者は，この様に見たいと思う。

(3) ayisu- が -la'ā(j)[2] 系の語尾をとる例が3例ある。秘史蒙古語における -la'ā(j)[2] 系の語尾は，すでに詳説した様に，その本質は過去における行為・動作を回想的に敍述するところにある。

現代のハルハ方言をはじめとするモンゴル語諸方言でも，この本質は失なわれていないが，それと共に，例えばハルハ方言では，

Одоо би харилаа.《今，帰ります，帰るところです》

の様な -лаа[4] の用法がある。この -лаа[4] は少くともテンスの点から見れば，現在及び未来に属する行為に用いられる -лаа[4] であり，《回想》には結びつかない。この -лаа[4] が何処に由来するのか，筆者はかねてから気になっていたが，秘史蒙古語の ayisula'ā, ayisulu'ā にその端緒を求めうることを知った。

§62 (一42八～43二)

| 德薛禪 | 鳴詁劣舌論 | 也速該中忽荅 | 虔途児 | 勺舌里周 |
|---|---|---|---|---|
| 名 | 説 | 名 親家 | 誰行 | 指着 |
| Dei sečen | ügülerün | Yesügei quda | ken-dür | joriju |
| デイ・セチェンの | 言うに | "イェスゲイ 縁者よ | いずこに | 目指して |

| 阿亦速剌阿 | 客額主兀 | 也速該把阿禿児鳴詁劣舌論 | 額捏可兀訥 | 米訥 |
|---|---|---|---|---|
| 来 | 説 有 | 名 | 這 児子的 | 我的 |
| ayisula'ā | ke'ējü'ŭ. | Yesügei-ba'ātur ügülerün | ene kö'ŭn-ü | minu |
| 来つつあるや" | と云えり。 | イェスゲイ・バアトゥルの 言うに | "この 子 の | ←我が |

| 納中合出納児 | 斡勘中忽訥兀惕 | 亦児堅途児 | 斡乞中忽余速客延 | 阿亦速魯阿 |
|---|---|---|---|---|
| 母舅 比行 | 人 氏 | 百姓 行 | 女 索 | 麼道 来 |
| naǥačŭ-nar | Olqunu'ūd | irgen-dür | öki ǥuyusu keyēn | ayisulu'ā |
| 叔父 達 | オルクヌウド | 人衆 に | 「嫁を求めん」 とて | 来つつあり" |

客額主兀
説 有
ke'ējü'ŭ.
と云えり。

ここに見られる ayisula'ā, ayisulu'ā の -la'ā, -lu'ā は, その文脈から見て《回想》の -la'ā, -lu'ā とは見られない。ayis-u- のもつ《現にこちらへ向って・あちらへ向って）移動しつつある》という動作の現行態を表示する意義素と相俟って -la'ā, -lu'ā は《今現に～しつつある》を意味すると見ねばならない。この《今現に～している》の意味から《今から～する》への意味上の移行を考えることには, それほど大きな抵抗はない。現代のモンゴル語諸方に見られる《これから～する》を意味する -лаа[4] は, 知りうる限りでは, ここに起源を求めうると思われる。

(4) keyēn keyēn《～と云い云い》, mö'ŏlen mö'ŏlen《吼え吼え》, sačun sačun《まきあげ, まきあげ》は -n が reduplicate された形で, この様な形式からも -n の《同時性》がよく証されると云えよう。keyēn keyēn, mö'ŏlen mö'ŏlen, sačun sačun は, その同時的行為をさらに強調的に表現した様式と見ることができる。秘史蒙古語には, 例えば, keyējü keyējü, mö'ŏlejü mö'ŏlejü, 或いは saču'ād saču'ād の如き形が見られないだけに, この —n —n の形式は, 注意されなければなるまい。

(5) 本文では -n をのみとる動詞語幹を考察したが, -ju[2] のみ, -'ād[2] のみをとる動詞語幹もあるので, それを以下に列記しよう。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| abčira-ju | 17 | abčira-n | ゼロ | abčira'ād | ゼロ |
| güyi-jü | 13 | güyi-n | ゼロ | güyi-'ēd | ゼロ |
| ilǤa-ju | 15 | ilǤa-n | ゼロ | ilǤa-'ād | ゼロ |
| yorči-ju | 14 | yorči-n | ゼロ | yorči-'ād | ゼロ |

以上の 4 動詞は -ju[2] のみを取って, -n, -ād[2] を取った例が一つも見られない。これは偶然ではあるまい。ここでは, これについての考察の余裕はないが, これら

の動詞語幹のもつ意義素との関連の上で考察さるべきであろう。

bü-jü 1　　*bü-n ゼロ　　bö-'ēd<*bü-'ēd 28

この語 bö'ēd は語幹 bü- に -'ēd が附され，bü- の母音 ü が幾分広くなり bö'ēd として現われていると見るが，büjü 1例，*bün ゼロなのに対し，bö'ēd《～であって》のみが28例と突出するのは何等かの理由がある筈である。又，上の *bün が1例も見られず，この *bün に到っては秘史蒙古語のみならず，蒙古語文語，現代のモンゴル語諸方言においても全く発見されないことも，当然その理由を考えて見なければならない。

bö'ēd が28例と突出しているのは，この語が本来の意《～であって》の他に特別な意に用いられた例の多いことに帰因する。この，いわば特殊な bö'ēd については「元朝秘史全釈続攷（上）」p. 12註（1）を参照されたい。

さて，筆者は動詞語幹 bü- に対し，一つの仮説を提示しておきたい。

秘史蒙古語には「不舌侖」bürün という形が22例見られる。これは，従来，bü-rün と分析され，動詞語幹 bü- に converbum praeparativum（準備副動詞）の -rün が附されたものとする。

この不舌侖22例を精査すると，二つの異った用法に分けられることが判明する。

(1)（二29八）赤不舌侖　či bürün（你呵），（三七）必不舌侖　bi bürün（我呵）

（四50四）額捏不舌侖　ene bürün（這箇呵），（五9五）王中罕不舌侖　ong qan bürün（人名有呵）

（七42八）必不舌侖　bi bürün（我呵），（八19七）必不舌侖　bi bürün（我有的）

（十30二）中合撒舌児不舌侖　qasar bürün（人名有），（十4八）必不舌侖　$b_i$ bürün（我有的）

（十23四）納馬宜不舌侖　namayi bürün（有呵），巴不舌侖　ba bürün（俺有呵）

（十32八）不舌里宜　不舌侖　Büri-yi bürün（人名行　有呵）

(2)（一40九）客額里台　不舌侖　ke'ēliteị bürün（懐孕　有的）

（三10四）不舌児吉額舌児吉迭　不舌侖　Bürgi ergide bürün（岸名岸行有来）

（四26六）斡劣該不剌中合　不舌侖　Ölögeị bulaG-a bürün（地名　住着）

（五32十）田迭不舌侖　tende bürün（那裏者呵）

（六30二）赤馬突舌児　不舌侖　čimadur bürün（你行有呵）

（七13三）亦惕中合兀魯阿惕　不舌侖　idqa'ūlu'ād bürün（被勧　了　有着）

（八12二）乃蛮魯阿不舌侖　Naịman-lu'ā bürün（種名一同　有的）

（八27七）土失額惕　不舌侖　tūši'ēd bürün（委付了　有着）

（九34四）莎那速阿惕　不舌侖　sonosu'ād bụrün（聴了　有呵）

（九43一）莎那速阿惕　不舌侖　sonosu'ād bürün（聴了　有）

（十45二）莎那速那惕　不舌侖　sonosu'ād bürün（聴了　有間）

(1)に属する11例と(2)に属する11例を対比して見ると同じ「不舌侖」でありながら，

同一視し得ないこと一目瞭然である。(1)に属する不舌音は bi《我》, či《汝》, ba《我々》, ene《これ》, ong qan《王汗》, Qasar《カサル》など代名詞，個有名詞を受けて，その上接の語を強く提示する語として用いられ，簡潔に表現すれば日本語の《～は》で訳出できる。これは傍訳字の「呵」からも窺うことができる。一般に「呵」は秘史では条件副動詞語尾「一阿速（額速）」,「一巴速（別速）」《～ならば》に附される傍訳字である。上の（五9五）王中罕 不舌音 の「有呵」,（七42八）必不舌音の「我呵」,（八19七）必不舌音の〈我有呵〉（有的とあるのは呵の誤写），巴不舌音の〈俺有呵〉などの〈有呵〉から見ると bi bürün は bi《我》, bü-《である》, -rün《～する時》から《我である時——→我であれば——→我ならば——→我は》の過程を経て《～は》の意を表示するに到ったものと解される。

(2)の不舌音は(1)の場合と事情が異なる。

（三10四）Bürgi ergide bürün《ブルギ岸にいて》,（四2六）Ölögei bulaG-a bürün《オロゲイ泉にいて》さらに（五32十）tende bürün《そこにいて》,（六30二）čimadur bürün《汝のもとにいて》などは与位格の語尾の次に bürün が現われ bü-《いる，ある》の意がはっきり示されている。しかし，ここに見られる -rün は(1) -rün とは異っている。それは秘史の傍字翻訳者にも理解されていた如く，例えば上の Ölögei bulaG-a bürün の傍訳は「地名住着」とあり，bürün に「住着」をあてている。又,（七13三）idqa'ūlu'ād bürün,（八27七）tüši'ēd bürün の bürün に対しては「有着」が附され，(1)の場合の「呵」と異り，ここでは「着」が現われている。(2)の場合は分離副動詞語尾 -'ād/-'ēd と共に bürün が用いられているのも特徴的である。(2)の bürün の表わす意味は《～にいて；～であって》と解され，(1)の《～は》とは質的に異り，《いる，存在する》の意が濃厚であり，büjü, *bün, bü'ēd>bö'ēd などによって表わされる意に近いものと思われる。以上の状況から判断して，筆者は，この(2)に属する bürün は bü-rün ではなく *bür-ü-n と見る。即ち，従来，「存在」を意味する動詞語幹として一般に認知されている bü- は，より古くは *bür- であったと考えたい。この *bür- は同時接合副動詞語尾 -n 以外の動詞語尾と接する際には語末の -r は消失し，-n と接する時にのみ bür-ü-n として本来の形を保持し，かくして bür-ü-n>bürün (2)が生れ蒙古語の世界に定着した。bürün (1)は *bür- に語尾 -rün が接尾たしもので，-n 以外の語尾と接する際には *bür-o-r は消失する故に，*bür->bü- に -rün が接尾され bürün (1)が形成されたものと考える。

要約すれば

*bür-rün>bü-rün>bürün (1)

*bür-ü-n>bürün (2)

と公式化できよう。

モンゴル系の言語には，母音で始まる（或いは母音のみの）動詞語尾が皆無なので，古い段階で *bür->bü- が成立したと考えられよう。-n の接尾に際してのみ *bür- の -r- が生きているのは，子音に終る動詞語幹に -n が接尾される時には，

常に介入母音としての -u²- が挿入されるモンゴル系言語における常道に従ったものと説明されよう。

このように，bü- のより古い形として動詞 *bür-《いる，ある》を仮定することによって bürün (1) と bürün (2) の意味上の差異は容易に説明されると筆者は考える。

然らば，こゝに想定した *bür-《いる，ある》は単に観念上，理論上の形かと言うに，そうではない。筆者は bürin《総ての，あらゆる；完全な》，büri《～毎》の二語の中の *bür- に上記のより古い語幹 *bür- が現われていると見たいと思うのである。

# 第五講　動詞の副動詞形〔Ⅱ〕

前講にひきついで副動詞語尾の解説を行うが，その用例の多い語尾の順に以下に記述を進める。

**§1. 条件副動詞語尾 -'āsu², -bāsu²**

-'āsu² は秘史蒙古語では広く用いられ，その表わす意味も，かなり多様である。既定の条件にも，仮定の条件にも用いられ，又，現在，未来，過去を問わない。更に助詞 ber を伴い——或いは伴なわなくともよいが——譲歩の意味を表わすこともあり，その上，理由を表わすこともある。日本語では《～ならば，～だったならば，～したら，～した時；～でも，～だったとしても；～なので，～だったので》等と訳すことができる。

-bāsu² は，その表わす意味，用法，ともに -'āsu² と異なるところはないが，-bāsu の13例，-bēsü の7例で，その用例は -'āsu 217例，-'ēsü 239例に比して極めて少ない。-bāsu² の20例の中，その $\frac{3}{4}$ 弱の13例までが巻一，巻二に集中していることを見ると[(1)]，-bāsu² は -'āsu より一段古い形かとも思料される。以下に -'āsu², -bāsu² の実例を見よう。

〈1〉 §137（四22六～23三）　赤剌溫中孩亦赤　統格　中合失

人名　人名　人名
Čila'ūn=qaiyiči Tüngge, Qaši
チラウン・カイチは　トゥンゲ，　カシ

中豁牙舌児　可兀的〔耶舌里〕顔　巴撒　成吉思中合罕突舌児　阿兀勒札周

阿箇　児子自的行　再　太祖　皇帝行　拝見　着
qoyar　kö'ūd-iyēr-iyēn　basa　Činggis qahān-dur　a'ūlja'u
二人の　子連　をつれ←己が　又　チンギン　可汗　に　謁見して

鳴詁列舌論　阿勒壇　孛莎中合　赤訥　撒乞周　阿禿中孩客延　斡克罷原作別　必

説　金　門限　你的　守着　教住　慶道　与了　我
ügülerün　altan　bosoqa　činu　sakiju　atuqai keyēn　ögbe　bi,
言うに　"黄金の　閾を　←汝の　守りて　あらしめよ」とて　与えぬ　我は，

阿勒壇 孛莎中合荅察赤訥 昂吉荅 斡都阿速 阿米 亦訥 塔速勒周 格楊坤
金 門限 行 你的 別 去 呵 命 他的 断 着 撤
altan bosoɢa-dača činu anggida odu'āsu ami inu tasulju gēdkūn,
黄金の 闕 より←汝の はなれ 行かば 命を← 彼の 断ちて すてよ,

斡舌児堅 額閃闥 額児古周 斡克禿該客延 斡克罷原作別 必 斡(舌)児堅
寛 門 攅 着 教与 麼道 与了 我 寛
örgen e'ūden ergüjü ögtügeį keyēn ögbe bi, örgen
「広き 戸帳(とばり)を 挙げ しめよ」 とて 与えぬ 我, 広き

額閃闥捏徹 赤訥 斡額舌列 斡都阿速 斡舌列亦訥 米跌舌里周 格楊坤
門 行 你的 別 去 咱 心 他的 陽 着 撤
e'ūden-neče činu ö'ēre odu'āsu öre inu miderijü gēdkün
戸帳(とばり) より←汝の はなれ 行かば みずおちを←彼の けりて すてよ"

客額罷原作別 (245)
説 了
ke'ēbe.
と云えり。

## 〈2〉 §168(五46一～46六)

兀舌里黒荅周 成吉思中合罕 哈舌児班
被 喚 着 太祖 皇帝 十
uriɢdaju Činggis qahān harban
招かれて チンギス 可汗 十

哈舌闌 阿亦速舌侖 札兀舌剌 蒙力克 額赤格因 格舌児圖舌児 (中)豁那阿速
人 来 時 路間 人名 父 的 家 裏 宿 呵
haran ayisurun ǰa'ūra Münglig ečige-yin ger-tür qono'āsu
人 来るに 途中 ムンリグ 父 の 包(ゲル) に 宿れば

田迭 蒙力克 額赤格 鳴詰列舌論 察兀舌児別乞宜 中忽余阿速 木楊魯
那裏 人名 父 説 女名 行 索 呵 他比但
tende Münglig ečige ügülerün Ča'ūr=beki-yi ɢuyu'āsu mud～lu
そこに ムンリグ 父の 云うに "チャウル・ベキ を 乞へば 彼等 を

必荅泥 朶舌藍只剌周 兀禄 斡昆 不列額 額朶額 客舌児 不舌魯兀牙
俺 行 下 覲 着 不 与 有来 如今 怎生 特地
bidan-i doromǰilaju ülü ögün büle'ē, edō'ē ker buru'ūǰ-a
我々 を さげすみて 与え ず ありき, 今 なんぞ ことさら

不兀勒札舌児　亦哩舌列　兀舌里主兀。(246)
許嫁　筵席　喫来　喚　着(了)
bu'ūljar　idere　uriju'ū.
婚約の食を　食するべく　招きたる"

〈3〉 §108 (三12三～12七)　札木中合鳴詁列舌論　孛舌羅安別舌児
人名　説　風雪　也
J̌amuqa ügülerün　boro'ān~ber
ヂャムカの　言うに　"風雪　なり

孛魯阿速　孛勒札勒突舌児　中忽舌剌別舌児　孛魯阿速　中忽舌剌勒突舌児　不
敵　呵　約　会　裏　雨　也　敵　呵　衆　会　裏　休
bolu'āsu　boǰal-dur,　qura~ber　bolu'āsu　qural-dur　bū
とも　約会　には,　風雨　なりとも　衆会　には

中豁只荅牙　額薛兀　客額勒都列埃　必荅　忙中豁勒　者　安荅中合舌児壇
落　後　咱　不曽　共説来慶　咱毎　達達毎　応許声　敵誓　有的毎
qoǰidaya　ese'ū　ke'ēldüle'ēi　bida,　Mongɢol　je　andaɢartan
おくれまいそ」　と言い　合わざりしや　我等,　「モンゴル人は　ヂューの　宣誓者に

不速禿　者迭扯　中豁只荅黒撒泥　者舌児格迭扯　中合舌児中合牙　客額勒都列埃
不有来慶　応許　行　落後了的　行　班　列　裏　教出去咱　共　説　来
busutū　je-deče　qoǰidaɢsan-i　ǰerge-deče　ɢarɢaya　ke'ēldüle'ēi
あらずや,　ヂューより　おくれし者　を　戦列　から　はずさん,」　と言い合いたるなり"

格額罷。(247)
説了
ke'ēbe.
と云えり

〈4〉 §188 (七7九～8一)　門　闊闊出　阿黒騨赤宜　圖思　中罕你顔
只　人名　管馬的　行　正主　皇帝　自的行
mun　Kököčü　aɢtači-yi　tus　qan-iyān
かの　ココチュ　馬夫　を　"己が　汗を(己が)

額因　帖卜赤周　亦舌列主為　額亦模　古温　額朶額　虔突舌児　那阿扯額速
這般　捨　着　来　了有　這般　人　如今　誰　行　敵伴　呵
eyin　tebčijü　ireǰü'ūi.　eyimü　kü'ūn　edō'ē　ken-dür　nököče'ēsü
かく　捨て　来れり。　かゝる　人,　今,　誰　に　友たるとも

亦帖格克迭古 客額周 察ト赤周 格罷原作別 (248)
可倚伏 說着 斬着 撤了
itegegdekü ke'ējü čabčiju gēbe.
信ぜらるべきや" とて 斬り 捨てぬ。

〈5〉 §29 (一18二) 帖迭亦児堅 孛端察舌侖 中合児赤(中)孩
那 百姓 黄 鷹
tede irgen Bodončar-un qarčiqaį
それらの人衆 ボドンチャル の 鷹 を

中忽余阿速 額薛斡克罷。(249)
索 着 不曾 与了
ɢuyu'āsu ese ögbe.
乞えど 与えざりき。

〈6〉 §200 (八13一～13六) 乃蠻 篾舌児乞的 木中忽傷中罕巴舌剌阿速
種名 種 名 行 教 窮 極 呵
Naįman Merkid muqudqan bara'āsu
ナイマン族, メルキド族を 窮 滅 し 了れば,

札木中合 乃蠻魯阿不舌侖 田迭 兀魯昔顔 阿ト荅阿速 門
人 名 種名 一同 有的 那裏 百姓 自的行 被要 了呵 他
J̌amuqa Naįman-lu'ā bürün tende ulus-iyān abda'āsu mun
ヂャムカ ナイマン族と共にありて, そこに 民人 を(己が) 取られたれば, 彼は

塔奔那可傷禿 斡斡舌児察黒 孛勒周 儻魯 迭額舌列 中合舌児抽 兀中忽勒札
五箇 伴当有的 刼(賊) 做着 山名 上 上 着 灘 羊
tabun nöködtü o'ōrčac bolju Tanglu de'ēre garču uguljа
五人の僚友と共に 残賊に なりて タンル山 に 上りて 灘羊を

阿剌周 失舌剌周 亦哩舌侖 田迭 札木中合 那可傷帖延 鳴詁列主兀
殺着 焼着 喫 時 那裏 人名 伴当毎 行 説 了 有
alaǰu širaǰu iderün tende J̌amuqa nököd-teyēn ügülejü'ū,
殺し 焼きて 食するに そこに ヂャムカ 僚友 に(己が) 言うに,

客訥 可兀傷 額捏 兀都舌児 兀中忽勒札 阿剌周 額因 亦哩模
誰的 子毎 這 日 灘 羊 殺着 這般 喫有
ken-ü kō'ūd ene üdür uguljа alaju eyin idemü
"誰 の 子等, この 日 灘羊を 殺し かく 食するか"

客額主兀。(250)
說了有
ke'ējü'ū.
と云えり。

〈7〉 §190 (七15九～16四)

| 巴撒 | 別勒古台 | 那顏 | 鳴詁列舌論 |
|---|---|---|---|
| 再 | 人名 | 官人 | 說 |
| basa | Belgüteị | noyan | ügülerün |
| また | ベルグテイ | ノヤンの | 言うに |

| 阿米堆 | 孛額帖列 | 那可舌列 | 中豁舌里顏 | 阿卜荅阿速 | 阿黑三 | 牙温 | 土撒惱 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 浩 | 有閒 | 伴当行 | 箭筒自的行 | 被要了呵 | 活的 | 甚 | 済行 |
| amiduị | bö'ētele | nökör-e | qor-iyān | abda'āsu | acsan | ya'ūn | tusa büị, |
| "生きて | ありながら | 敵 | に 矢筒を(己が) | 取られなば | 生きる | 何の | 益 あらん, |

| 脫舌列克先 | 額舌列迭 | 兀窟額速 | 塔乞 | 中豁舌児弩門魯〈阿〉〈班〉 | 牙孫魯阿 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生了的 | 男子行 | 死呵 | 也 | 箭筒弓一同自的行 | 骨頭一行 |
| töregsen | ere-de | ükü'ēsü taki | | qor numun-lu'ā-bān | yasun-lu'ā |
| 生れし | 男子として | 死すとも | | 矢筒・矢と共に←己が | 骨と共に |

| 你刊担 | 客卜帖額速 | 兀禄兀撒回備 | 乃蠻 | 亦舌児堅 | 兀魯思 | 也客禿 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 一行 | 臥呵 | 不好有 | 種名 | 百姓 | 国 | 大有的 |
| niken-e | kebte'ēsü | ülü'ū sayin | büị, Naịman | irgen | ulus | yeketü |
| 一緒に | 死なば | よからずや, | ナイマン | 人衆は | 「民人 | 大にて |

| 亦舌児格 | 斡羅禿 | 客延 | 也客 | 兀格 | 鳴詁連 | 阿主兀。(251) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 百姓 | 多有的 | 麼道 | 大 | 言說 | 說 | 有 |
| irge | olotu | keyēn | yeke | üge | ügülen | aǰu'ū. |
| 人衆 | 多し」 | とて | 大 | 言を | 言いて | ありき。" |

〈8〉 §85 (二22九～23四)

| 格舌侖別勒格 | 循禿速舌魯額楊 | 額速吉顏 |
|---|---|---|
| 家的記号 | 生馬妳子慣了 | 熟馬妳子自的行 |
| ger-ün belge | šün tüsürü'ēd | esüg-iyēn |
| 包のしるしは | 乳を (皮袋に)注ぎ | 馬乳酒を |

| 雪你迭 | 兀都児察亦塔剌 | 不列窟 | 不列額 | 帖舌列別勒格 | 莎那思抽 | 迓歩巴速 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 徹夜 | 日明到了 | 澎 | 有来 | 那記号 | 聽着 | 行呵 |
| söni-de | üdür čayitala | bülekü | büle'ē. | tere belge | sonosču | yabubāsu |
| 夜を徹し | 日の あくるまで | たゝき打つ | なりき。 | その しるし音を | 聞き | 行けば, |

不列兀舌侖 儔兀 涉那思抽 古児抽格児圖児 亦訥斡舌羅巴速 鎖児中罕失舌剌
澎的 声 聴着 到着 家裏 他的 入 呵 名
büle'ür-ün dau̯'ū sonosču kürčü ger-tür inu orobāsu Sorqan=šira
たゝき棒 の 音 聞きて 到り, 包 に ← 彼の 入らば ソルカン・シラ

額客邊 迭兀捏舌里顔 額舌鄰斡場 額薛兀 客列魯額必 也勤 亦舌列罷赤
母自的行 弟毎 自的行 尋 去 不曽 説 来麼 我 為甚 来了 你
eke-bēn de'ü-ner-iyēn erin od, ese'ü kelelü'ē bi, yekin irebe či
"母 を(己が), 弟 達 を(己が) さがし 行け」 と言わざりしや 我, いかんぞ 来れる 汝"

客額罷 沉白赤老温 中豁牙児可兀場亦訥 鳴詰列舌論 失保兀中合泥
説了 名 名 両箇 児毎 他的 説 雀 児 行
ke'ēbe. Čimbai̯, Čilau̯'ūn qoyar kö'üd inu ügülerün šibau̯'ūqan-i
と云えり, チンバイ, チラウン 二人の 子達の ←彼の 言うに "鷹 を

土林台 不塔圖児 中豁児中豁巴速 不塔 阿不舌剌主為 額朶額 必丹途児
竜 多 叢 裏 趕 入 呵 叢 救 了 有 如今 咱 行
turimtai̯ buta-tur qorcobāsu buta aburau̯'ūi̯, edö'ē bidan-dur
雀鷹が 叢 に 追込まば, 叢は 救いたり, 今 我等のもとに

亦舌列克薛泥 也勤 帖因客額木 赤 格延……。(252)
来了的行 為甚 那般 説有 你 麼道……。
iregsen-i yēkin teyin ke'ēmü či geyēn…….
来れる を なんぞ かく 言うや 汝" と云いて……。

〈9〉 §66 (一46三～46四) 斡乞亦訥 兀者別速 你兀児禿舌里顔
女子 他的 看 呵 面 自的行
öki inu üjebēsü ni'ür-tur-iyān
汝を ←彼の 見れば 顔 に ←己が

格舌列台 你敦禿舌里顔中合勤台 斡乞泥兀者周 斡因禿舌里顔斡舌羅温(勤)罷
光 有 眼 自的行火有 女子行 見 着 心意 自的行 教 入 了
gerētei̯ nidün-tür-iyēn ɢaltai̯ ökin-i üjejü oyin-tur-iyān oro'ū(n)lba.
光あり, 目 に ←己が 火ある 乙女 を 見て, 心 に ←己が とどめぬ。

帖木真捏扯 你刊 納孫 也客 哈児班台 阿主兀 孛児帖捏舌列台
人名 処 一 歳 大 十 歳 有来 名 名字有的
Temüjin-neče niken nasun yeke harbantai̯ aju'ū. Börte neretei̯.
テムヂン より 一 才 上の 十才もて ありき。 ボルテの 名あり。

雪你(中)豁那周 馬納(中)合〔児〕石 斡乞亦訥 中忽余巴速 徹薛禅嗚詁列舌論
夜 宿着 明日 女 他的 索 呵 名 説
söni qonoju managarši öki inu guyubāsu Dei=sečen ügülerün
夜 宿りて あくる日 乙女を←彼の 乞えば デイ・セチェンの 云うに

斡欒討兀 中忽余温勒周 斡克別途 迭額只列克迭古 輟延討兀中忽余温勒周
多 遍 索 着 与 呵 崇 上 少 遍 索 着
olon ta'ū guyu'ū(n)lju ögbēsü de'ējilegdekü, čöyēn ta'ū guyu'ū(n)lju
"多き 度 乞われて 与えれば 崇められる 少なき 度 乞われて

斡克別速 朶舌藍只剌黒荅中忽……。(253)
与 呵 下 覆 ……。
ögbēsü doramǰilacdaqu…….
与うれば さげすまる。"……。

〈10〉 §32 (—20三～20四) (中)豁舌藍阿塔剌 統格黎(克)中豁舌羅(中)罕
署 住間 小 河
qoram atala Tünggelig goroqan
しばし あるに トゥンゲリグ 川 を

斡額迭 你刊 古温 阿亦孫 備由 古児周 亦舌列別速 孛端察児 門
逆水 一 人 来 有 到着 来 呵 是
ö'ēde niken kü'ün ayisun büyü. kürjü irebēsü Bodončar mun
遡りて 一人の 人 近づきつつあり。 到り 来れば ボドンチャル 彼

阿主兀。(254)
有
aǰu'ū.
なりき。

以上〈1〉～〈10〉の文例を一つずつ見て行こう。〈1〉の anggida odu'āsu, ö'ēre odu'āsu——ともに《はなれ行かば》の意——の 'āsu は《～ならば》と訳し得る，仮定条件を表わす典型的な用例である。〈2〉の qono'āsu は《宿れば，宿ると》と解すべき既定条件の -'āsu であり，後続の Ča'ūr=beki-yi guyu'āsu は《チャウル・ベキを求めたれば》の意で，時間的には過去の既定条件である。

〈3〉の boro'ān-ber bolu'āsu《風雪たるとも》, qura-ber bolu'āsu《雨たるとも》の意で, -ber を伴う -'āsu の用法である。

〈4〉の ken-dür nököce'ēsü《誰に僚友(ノヨル)として交わるとも》の意で, -ber を伴なうことなく譲歩の意を表わしている。〈5〉の ɢuyu'āsu も《乞うとも, 求むとも》と読むべき用例である。

〈6〉の Naiman, Merkid muqudqan bara'āsu, J̌amuqa Naiman-lu'ā bürün tende ulus-iyān abda'āsu の二つの -'āsu の中, 前者の -'āsu は《(チンギス可汗が) ナイマン族, メルキド族を窮滅し尽したところ》とでも日本語訳できる用例で, 訳文上は異なるところがあるが, 既定条件の -'āsu である。後者の abda'āsu の -'āsu は《とられたので》或いはもつと軽く《取られて》ぐらいに日本語訳される -'āsu である。《ヂャムカはナイマン族と一緒にいて, そこで, 自分の民人を取られて——取られたので——彼は五人の僚友をつれた残賊となって, タンル山に上り……》と読めばこの -'āsu は文脈上無理なく解しうる。'āsu²-には, この様に既定条件の変種として"理由"を表わす用法があることを知らねばならない。

〈7〉の abda'āsu は仮定条件の -'āsu で問題はないが, 次の tōregsen ere-de ükü'ēsü taki の -'ēsü は taki に伴なわれて, 通常の仮定条件の -'ēsü とは幾分趣を異にする感がある。

筆者はこの文を『全釈続攷(上)』p. 264 において《生れし男子(おのこ)にとって, 死すとも, 己が矢筒・矢と骨(かばね)と一つにて斃れなばよきにあらずや》と解し, ükü'ēsü taki を《死すとも》と解した。この解は, 基本的には受入れられると現在でも考えているが, ükü'ēsü taki を《死ぬる以上は, 死ぬる限りは》と解する方が, より良き読解ではないかと考える。ere-de ükü- 一つのまとまりと見て《男子として死ぬ》と見ると, ere-de ükü'ēsü taki (この taki は teki として現われる方がより文法的ではある) を《男子として死ぬ以上, 死ぬ限り》の日本語訳の方が希ましいと筆者は見る。このように用いられた -'ēsü taki は仮定条件の強調形と呼び得るであろう。

〈8〉,〈9〉,〈10〉は -bāsu² の用例を示した。〈8〉の yabubāsu, orobāsu の -bāsu は既定条件，qorɢobāsu の -bāsu は仮定条件の表示である。チムバイ，チラウンの兄弟の発したこの šibaų'ūqan-i turimtaį buta-tur qorɢobāsu buta aburaǰu'uį《鶸をはい鷹が叢に追いこめば，叢は（それを）救うものなり》——《窮鳥，懐に入らば，猟子もこれを撃たず》に凝せられる——の一言がテムヂンの運命を大きく変えた。ソルカン・シラは二人の息子のこの言を入れてテムヂンをかくまい，テムヂンは九死に一生を得る。この話，勿論真偽の程はわからぬが，秘史をいろどる一篇の挿話である。

〈9〉の üǰebēsü, ɢuyubāsu, ögbēsü の -bāsu² はともに，この語尾の典型的な用法である。ここに見える

ni'ūr-tur-iyān gerētei̯, nidün-tür-iyēn ɢaltai̯ ökin
顔 に ←己が 光あり， 目 に ←己か 火ある 乙女

は，少し前の§62の

nidün-tür-iyēn ɢaltu, ni'ūr-tur-iyan gerētü kō'ūn

と形容句の順序は異なるものの同一の表現である。注意すべきは，前者の gerētei̯, ɢaltai̯ に対し，後者は ɢaltu, nidütü を示すことである。《～をもつ，～を所有する》の意を以て極めて生産的に用いられる現代のモンゴル語——例えばハルハ方言等々の——-тай/-тэй/-той の淵源は勿論，この ɢaltai̯, nidütei̯ の -tai̯/-tei̯ であるが，この形は，上例から明かな様に“女性形”であって，男性形の -tu/-tü に対立する形である。現代のハルハ方言などで，女性形に起源をもつ -tai̯/-tei̯ が生産的で，男性形の -tu/-tü の方は石化した語にのみ用いられる非生産的な接辞である。これには何等かの理由がある筈であるが，まだ明確な解を与えるに到っていない。この接辞 -tai̯², -tu², -tan² の厳密な通時的な研究一当然のことながら，共時的研究も一が強く希まれる。

なお，《目に火あり，顔に光ある》の語句は優れた《子女》の形容句として現代まで生きていると言われているが，筆者はまだ，現在のモンゴルの人々との対話の中で，この語句を耳にしたことはない。

〈10〉 の kürjü——正しくは kürčü とあるべきもの——irebēsü Bodončar mun aju'ū《到りて見れば，ボドンチャル，彼，なりき》の -bēsü は現在時の既定条件の好例と思えたので，最後に加えた。

以上，秘史蒙古語における -'āsu², -bāsu² の諸用法の解明は尽されたと思えるが，譲歩と理由を意味する用例と -'āsu² によって導かれる従属節の主語は対格語尾を伴って現われる例を附加しておく。

〈11〉 §195 (七37十～38一)

| 中豁舌児禿 | 古兀泥 | 中豁脫剌宜 |
|---|---|---|
| 帯弓箭的 | 人 行 | 都 行 |
| qortu | kü'ün-i | qotola-yi |
| 矢筒 | 人 を | まるごと |

| 札勒吉阿速 | 中豁斡来都舌里顔 | 兀禄 | 脱舌児荅由 | 古卜臣 | 額舌列宜 | 唵古額速 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 噤 呵 | 喉 嚨 自的行 | 不 | 被碍有 | 全 | 男子行 | 存 呵 |
| jalgi'āsu | qo'ōlaį-dur-iyān | ülü | tordayu, | kübčin | ere-yi | emgü'ēsü |
| のみこむとも | のど に ←己が | とどまらざるなり， | | 全き | 男子 を | ふくめども |

| 斡舌列 | 兀禄 | 札撒由。(255) |
|---|---|---|
| 心 | 不 | 点 有 |
| öre | ülü | ǰasayu |
| 心 | 治まらざるなり。 | |

〈12〉 §150 (五八十～9三)

| 帖兀訥 | 中豁亦納 | 成吉思中合罕突舌児 | |
|---|---|---|---|
| 那的 | 後 | 太祖 | 皇帝 行 |
| te'ün-ü | qoyina | Činggis | qahān-dur |
| そ の | 後 | チンギス | 可汗 に |

| 客舌列亦敦 | 札中合敢不 | 帖舌児速楊帖 | 不恢突舌児 | 那可徹舌列 | 亦舌列羅 |
|---|---|---|---|---|---|
| 極 (的) | 人名 | 地名行 | 有 時 | 倣 伴 | 来了 |
| Kereyid-ün | J̌aqa=gambu | Tersüd-te | büküį-dür | nökočere | irebe. |
| ケレイド族 の | ヂャカ・ガンブ | テレスド に | ある 時 | 僚友たるべく | 来れり。 |

| 帖舌列 | 亦舌列克先突舌児 | 篾舌児乞楊 | 中合楊中忽勒都舌剌 | 赤舌列額速 |
|---|---|---|---|---|
| 那 | 来 了 時 | 種 | 断 殺 | 来了呵 |
| tere | iregsen-dür | Merkid | qadquldura | ire'ēsü |
| その | 来りし 時 | メルキド族 | 合戦に | 来れば |

成吉思中合罕 札中合敢不 乞額惕 中合惕中忽勤都周 亦出阿罷。(256)
太祖 皇帝 人名 等 斯 殺 着 教退了
Činggis qahān J̌aqa=gambu kiged qadqulduju ičú'āba.
チンギス 可汗, ヂャカ・ガンブ 等 合戦して 退けぬ。

〈13〉 §174 (六17二～17四) 帖迭 阿泥 額辞 亦舌列額速 斡惕抽
那裏 他行 不曽 来 呵 去着
te(n)de ani ese ire'ēsü odču
"そこに 彼等 来らざれば 行きて

秣舌驢訥 准荅兀勤箴図 中豁舌児埋剌周 阿(ト)赤舌剌惕 必荅 帖迭額舌里
馬 乾 糞 般 包 着 将 来 也者 咱每 他每 行
morin-u ǰunda'ūl metü qormaḷlaǰu abčirad bida tede'ēr-i
馬 糞 の 如く 袖に包みて もち来るぞ 我等 彼等 を"

客額罷原作別 (257)
説了
ke'ēbe
と云えり。

〈14〉 §240 (十17九～18一) 禿馬惕 亦舌児客訥 那顔 歹都中忽勤
種 百 姓 的 官人 人 名
Tumad irgen-ü noyan Daiduqul=
トゥマド 人衆 の 長官(イヤン) ダイドゥコル・

莎中豁舌〈里〉 兀窟額速 額箴 亦訥 孛脱中灰塔舌児中渾 禿馬惕 亦舌児格泥
行 死了呵 妻 他的 婦人名 種 百姓行
soqor-i ükü'ēsü eme inu Botoquḷ=targun Tumad irgen-i
ソコル が 死にたるもて 妻 ← 彼の ボトクイ・タルグン, トゥマド 人衆 を

箴迭周 阿主兀。(258)
管着 有来
medeǰü aǰu'ū.
治め ありき。

〈11〉 の ǰalgi'āsu, emgü'ēsü の -'āsu² は《～しても》の譲歩の意を示す好例である。

〈12〉 の qadquldura ire'ēsü《殺し合いに来たので》と訳出しうる -'ēsü である。

〈13〉の tede——tende の書写上の誤り——ani ese ire'ēsü (そこに，彼等が来なければ) は対格形 ani (彼等を) が主語として機能し，〈14〉の Daid-uqul=soqor-i の -i も主語表示の -i である。-'āsu², -bāsu に導かれる従属文の主語は，このように主文の主語と異なる場合には対格形によって表示され，これは秘史蒙古語から現代まで長く保持されている，モンゴル系諸言語における大きな特徴の一つである。最後に -'āsu², -bāsu² の意義素を次のように措定する。

"-'āsu², -bāsu² は，この語尾の接尾される動詞の動作が，後出の主文の動作に対し，広い意味で，何等かの条件を示すものである" と。

### §2 限界・到達副動詞語尾 -tala²

この語尾 -tala² は秘史蒙古語の時代から今日のモンゴル語諸方言に到るまで用いられ続けている語尾の一つである。この語尾は基本的には，ある動作の到達点，限界を示すが，一方，その到達点までの過程をも表わしうる。日本語では《～するまで；～する間》と訳せば当ることが多い。

しかし，秘史蒙古語では，この基本的な意味から派生されたと思われる用法もあり，かなり多義的に用いられている語尾と言うことが出来よう。以下に示す実例によって，この語尾の用法に接していただきたい。

〈1〉 §112 (三21五～21七)

| 不舌峴中罕泥 | 中忽赤動都黒撒惕 | 中忽舌児班 |
|---|---|---|
| 山 名 行 | 相 囲 繞 了 的 | 三 |
| Burqan-ni | qučildugsad | gurban |
| ブルカン山 を | めぐり合った | 三 |

| 札兀惕 | 箴舌児乞的 | 兀舌魯中渾 | 兀舌魯中合 | 古舌児帖列 | 忽揑速額舌児 |
|---|---|---|---|---|---|
| 百 | 種 名 | 子 孫 的 | 子 孫 行 | 到 了 | 灰 行 |
| ja'ūd | Merkid-i | urug-un | urug-a | kürtele | hünesü'ēr |
| 百 | メルキド族 を | 親族 の | 親族 に | 到るまで， | 灰のごと |

| 客亦思帖列 | 兀里惕格羅。(259) |
|---|---|
| 刮 殺 | 殄絶了 |
| keyistele | ülidgebe |
| 吹き飛ぶまで | 根絶やしにせり。 |

〈2〉 §11 (一7五～7六) 都蛙鎖中豁舌児 阿中合亦訥 朶舌児邊

人 名 兄 他的 三

Duwa=soqor aqa inu dörben

ドワ・ソコル, 兄は ←彼の 四人の

可兀禿 不列額 帖堆 阿塔剌 都蛙鎖中豁児 阿中合亦訥 兀該

子 有来 那般 住間 人 名 兄 他的 無

kö'ütü büle'ē. tedüi atala Duwa=soqor aqa inu ügei

子もちてありき。 かく あるうちに ドワ・ソコル 兄 ←彼の なく

孛魯羅。(260)

做了

boluba.

なれり。

〈3〉 §17 帖因 阿塔剌 朶奔篾児干兀該孛勒羅。(261)

那般 住間 無 做了

teyin atala Dobun=mergen ügei bolba.

かく あるうちに ドブン・メルゲンなくなれり。

〈4〉 §22 (一14六) 阿塔剌 阿闌中豁阿 額客阿訥兀該孛勒畢 (262)

住間 母 他的 無 做了

atala Alan=go'ā eke anu ügei bolbi.

そのうち アラン・ゴア 母 ←彼等の なくなれり。

〈5〉 §90 (二27八～27十) 你刊 兀都児 失児中合 阿黒騮壇

一 日 惨 白 騙 馬 等

niken üdür širga agta~tan

一 日, 薄栗毛の 騙馬など

乃蠻秣舌驪(楊) 格舌侖 迭児格迭 擺亦周 不恢宣 迭額児篾 亦舌列周

八 箇 馬毎 家的 根 前 立 着 有的行 劫 賊 来 着

naiman morid ger-ün dergede baiyiju büküi-yi de'ērme irejü

八 頭 の 馬 の 包 の 傍に 立ちて ある を 盗賊 来り,

兀者帖列 迭額児篾楊抽 約児赤罷。(263)

看 着 劫 着 去 了

üjetele de'ērmedčü yorčiba.

見る間に, 強奪し 行けり。

〈6〉 §187 (七3十～4三) 客舌列亦惕 亦(舌)児格 倒兀里周

種名 百姓 膚着

Kereyid irge dau'ūlijn

ケレイド族の人衆を 掠奪し

客捏別児 額薛 都塔塔剌 禿格額勒都罷別原作 土綿禿別額泥 禿格額勒都周

任誰行也 不曾 欠少了 共散与了 万姓行 共散着

ken-e-ber ese dutatala tüge'ēldübe. tümen Tübe'ēn-i tügeldüjü

誰に も 欠けるなきまで わけ与え合いたり。 トゥメン・トゥベゲン を わけ合いて

禿格帖列 阿不勒察罷原作別 (264)

勾了 共要了

tügetele abulčaba.

十分に とり合った。

ここに挙げた6例は -tala² が,《～するまで; ～する間》を意味する, いわば本来の意を示す用例である。〈1〉の urug-un urug-a kürtele は《子々孫々に到るまで》を意味する慣用的語句で, 秘史では屢々見られる表現である。又, 直後の hünesü'ēr keyistele も《灰の如く吹き飛ぶまで》も慣用表現で屢々用いられる。ともに, kür-《到る》-tele《まで》, keyis《吹き飛ぶ》-tele《まで》の語構成なること言を俟たない。

〈2〉,〈3〉の tedüi atala, teyin atala は日本語の《そうこうする内に》に当る表現で, 蒙古語では, 日本語の《そうこう》の《こう》がなく《そうするうちに》である。tedüi《それほど》は edüi《これほど》, tedüi《それほど》, kedüi《どれほど》の系列の一語であり tedüi atala は直訳すれば《それほどある間に》となる。a-tala の a- は《ある, いる》を意味する基本動詞で, 事物の客観的存在が示され, 同じ《ある, いる》を意味する bü- は事物の主観的存在を意味する点で, この両者は基本的に区別される。

tedüi atala《かくあるうちに》の a-tala《ある間に, あるうちに》の a-《ある, いる》は個人の主観にかかわる《ある》ではないことは, その文脈から見て明らかであり, 動詞 bü- を用いることは出来ない。a- と bü- については項を改めて後に詳説したい。

本題にもどる。〈4〉は tedüi も teyin もない単独で，しかも文頭に現われる atala で珍らしい例である。秘史でもこの様に用いられた例は他には見られない。これは，tedüi や teyin の省略された場合とも考えられないこともないが，筆者は atala が単独に用いられた例と見たい。

atala だけで《そのうち》を意味する用法と考える。

〈5〉の üjetele は《見ている間に》の意を表わすが，文章の味としては üjetele de'ērmedčü yorčiba は《見ている間に——→目の前で強奪して行った》との感を与える。

〈6〉の ken-e-ber ese dutatala の -tala は《誰にも不足しないまで》が直訳だが，意とするところは《誰にも不足しないほどに》と解しうる。

以上の 6 例は -tala[2] のもつ基本的な意味，《～するまで; ～する間》を示す用例であるが，以下の -tala は幾分趣を異にする。

〈7〉 §174 (六15八～16三)

| 田迭 | 中豁亦納察 | 中合荅安荅勒都舌児中罕 |
|---|---|---|
| 那裏 | 後 処 | 人名 |
| tende | qoyina-ča | Qada'ān=daldurqan |
| そこに | 後より | カダアン・ダルドゥルカン |

| 額篾 | 可兀捏扯延 | 中合中合思亦舌列闕原作別 | 亦舌列周 | 中合荅安荅勒都舌児中罕 |
|---|---|---|---|---|
| 妻 | 子 自的行 | 分 離 来 了 | 来 着 | 人名 |
| eme | ko'ün-eče-yēn | qaqas irebe. | ireǰü | Qada'ān=daldurqan |
| 妻， | 子達 から(己が) | はなれ 来りぬ。 | 来りて | カダアン・ダルドゥルカン， |

| 王中罕訥兀格客延 | 鳴詁列舌論 | 王中罕可兀邊 | 桑古迷 |
|---|---|---|---|
| 人名 的 言語 慶道 | 説 | 人名 子自的 | 人名 行 |
| Ong qan-nu üge keyēn | ügülerün | Ong qan kö'ü-bēn | Senggüm-i |
| 王 汗 の 言 とて | 云う に， | 王 汗， 息子 ←己が | セングム が |

| 兀出馬阿舌児 | 昂格思格中合察舌児 | 兀納塔剌 | 中合魚荅周 | 迭額舌列 亦訥 |
|---|---|---|---|---|
| 射 名 教 | 紅 腮 | 倒 了 | 被射着 | 上 他的 |
| učuma'ār | enggesge qačar | unatala | qaqdaǰu | de'ēre inu |
| ウチュマ矢もて | 紅色の 頬を | (馬から)落ちるまで | 射られ | 上に ← その |

額客額舌児抽　田迭　鳴詁列主為。(265)
翻着　那裏　説了有
eke'ērčü　tende　ügülejü'ūj.
もどり帰り　そこに　言った。

〈8〉 §197 (七47三～48二)　中忽闌中合敦　鳴詁列舌論　納牙阿
女子　娘子　説　人名
Qulan qatun　ügülerün　Naya'ā
クラン　妃の　言うに　"ナヤア

鳴詁列列額　成吉思中合罕訥　也客那顔脩由　必　必荅　中含禿　斡乞
説来　太祖　皇帝的　也　官人　有　我　咱　一同　女子
ügülele'ē, Činggis qahān-u yeke noyan büyü bi, bida qamtu öki
言えり，「チンギス　可汗　の　大　長官　なり　我，我等　ともに

赤訥　中合罕納　兀者兀魯耶……中略……額朶額　納牙荅察　阿撒黒塔剌
你的　皇帝行　共献咱　如今　人名　行　問　間
činu qahān-na üje'ūlüye……edö'ē Nayā-dača asactala
行きて　可汗　に　献上しよう」……今　ナヤー　より　尋ぬるより

中合罕　莎余舌児中合阿速　騰格舌里因　札牙阿舌児　額赤格額客
皇帝　恩賜呵　天的　命裏　父母
qahān　soyurqa'āsu　tenggeri-yin　jayā-'ār　ečige　eke
可汗　おゆるし下されば，　天神　の　お定めもて　父　母の

脱舌列兀魯克先　馬舌里顔納察　阿撒中忽阿速　客延　斡赤兀勒主為。(266)
生了的　皮膚　行　問　呵　壓道　教奏了
töre'ūlügsen　mariyān-nača　asagu'āsu　keyēn　öči'ūljü'ūj.
生んだ　肌　より　問はば(いかん)"と　奏上せしめり。

〈9〉 §256 (二35五～35八)　不舌児(中)罕泥　董中豁都埃　兀都兀牙
人名　行　作声　未行
Burqan-ni dungqodu'āi üdü'ūi-e
ブルカン　が　声を出さ　ざる　に

兀舌里荅　阿沙敢不　鳴詁列舌論　古出　牙丹　孛額帖列　中罕　孛勒塔剌
先　人名　説　気力　不能　有間　皇帝　做
urida　Ašagambu　ügülerün　küčü　yadan　bō'ētele　qan　boltala
さき立ちて　アシャガムブの　言うに　"力　足りず　ありなが　汗　たるは

| 牙温 | 客額周 | 扯古里克 | 兀禄 | 捏綿 | 也客 | 兀格 | 鳴詁列周 | 亦列主兀。 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 甚 | 說着 | 軍 | 不 | 添 | 大 | 語 | 說 着 | 教去了 |
| ya'ūn | ke'ējü | čerig | ülü | nemen | yeke | üge | ügülejü | ilejü'ü. |
| いかに" | とて | 兵を | 增 | さず | 大 | 言を | 言いて | 遣りぬ。 |

(267)

〈7〉 の kö'ü-bēn Senggüm-i učuma'ār enggesge qačar unatala qaɢdaju は《自分の子，センゲムがウチュマ矢で紅い頬を（馬から）落ちるまで（したたかに）射られて》と解すべき文で unatala の意味上の主語は Senggüm-i 対格形で表示される。これは上述の -'āsu[4] の場合と同様である。この unatala の -tala は《～するまで》という基本的な意味で理解できるが，〈8〉 の asaɢtala の -tala は《～するまで；～する間に》の意ではぴったりしない。

筆者は『全釈続攷（上）』の p. 369 の註 (9) において，《ナヤアから尋問している間に》と解したが，こゝは，モンゴルの諸学者の訳文

Наяа ноёноос асуухын оронд《ナヤア長官から尋問する代りに》

を以て是とすべきとしたい。前後の文脈を考慮すると，この asaɢtala は《尋ねる代りに，尋ねるよりも》の意と採る方が文意がより明かになる。クラン后は“ナヤアから尋問するより，父母の生んでくれた私の肌に尋ねれば（いいでしょう）”とチンギス可汗に奏上させたのである。-tala[2] には，この種の用法も見られることを附加しておきたい。

〈9〉 の bö'ētele の -tele は，従来 -tala[2] と同一視されているが筆者はこれを疑っている。-tele を -tala[2] と見れば，当然語幹を bö'ē- としなければならない。しかし，《ある，いる》を意味する語の語幹は bö-＜bü- であって bö'ē- なる語幹は存在しない。それ故，筆者は bö'ētele を bö'ē-tele と見ることには賛成できない。筆者の考えでは，これは bö'ēd＋ele＞bö'ētele と見るべきもので，それは bö'ētele の表わす意味から知られる。bö'ēd は秘史蒙古語では特殊な用法が見られるが，基本的には bö-＜bü- に分離副動詞語尾 -'ēd の接尾した形であり，《～であって》を意味する形である。しかし，時には《～

であるのに》の逆説の意をも表わす。

§17 (一10四～10六) Teyin atala Dobun=mergen ügeị bolba. Dobun mergen-i ügeị bolucsan-u qoyina Alan=gowa ere ügei'ūị **bö'ēd** gurban kö'ūd töre'ū(n)lbi. (268)

上文の bö'ēd は《アラン・ゴアは夫がいなくあるのに (夫がいないのに)》のように逆説の意に用いられる。bö'ētele は，この逆説の bö'ēd を更に強調的に表現するために助辞 ele を附加して bö'ēd+ele>bö'ētele として成立したものである。それ故，秘史蒙古語に見られる bö'ētele の全14例は殆ど総て，逆説的な《～であるのに，～でありながら》の意を示すのである。

bö'ētele は，以上の観点から，筆者は -tala² の用例とは見ない。ところで，後続の boltala はどうであろう。küčü yadan bö'ētele qan boltala ya'ūn《力致らずにあるに，汗たるは如何》と読めるが，qan boltala は直訳すれば《汗になるまで》であるが《汗にまでなるとは如何》の意と解せよう。-tala² は秘史全巻から123例——これは，「延べ語例」である。今まで挙げて来た，この種の総数は総て「延べ語例」である。これを「異なり語例」にすれば，その数は減少する——を発見しうるので，-'āsu² ほどではないが，多用される副動詞語尾の一つと見られることは確かである。

### §3 動作保持副動詞語尾 -gsa'ār²

この語尾の成り立ちは「完了の形動詞」-gsa(n)² に実詞造格語尾 -bār² の添加に由来する。即ち *-gsa²-bār²>-gsabār²(2)～-gsagār²>-gsa'ār の過程によって成立したものである。従って，その表わす意味も《～したことを以て，～したことによって》が元来のもので，この意味は，秘史蒙古語には，未だその度合の濃淡はあれ残っている。以下に示す若干の用例の中から，その始原的意味をくみとることも出来る。

〈1〉 §180 (二15一～15五)

帖木真石(中)恢朶脱舌剌 中忽児班
名 密林内 三
Temüjin šigui dotora gurban
テムヂン 林の 中にて 三

中豁那周 中合児速客延 秣騾顔 可脱(勤)周 阿亦速(中)〈灰〉突児 秣騾納察
宿着 出去我 慶道 馬自的行 索着 来的時 馬自
qonoǰu carsu keyēn mori-yān kötöljü ayisuquį-dur morin-ača
泊して "出てん" とて 馬を(己が) 索きて 近づき来る に 馬より

額篾額(勤) 亦訥 木勤禿舌列周 中豁搠児出兀 中合舌里周兀者額速 額篾額勤
鞍子 他的 脱着 墮落了 回着 看呵 鞍子
eme'ēl inu mültüreǰü qočorču'ū, qariju üǰe'ēsū eme'ēl
鞍 ← 彼の はずれ 残れり, かえりて 見れば 鞍は

可門勤都児格列克薛額児 斡郎剌(黒)撒阿児 木勤禿舌列周 中豁搠児出兀。(269)
抜胷 依舊扣着 肚帯依舊扣着 脱着 墮落了
kömü(n)ldürgelegse'ēr olanglaɑsa'ār mültüreǰü qočorču'ū.
胸がいをつけたるまゝ, 肚帯をつけたるまゝ はずれ 残れり。

〈2〉 §94 (三36五～36六) 田迭扯 帖木真 別(勤)古台 中豁牙児
那裏 人名 人名 両箇
tendeče Temüjin Belgüteį qoyar
それより テムヂン, ベルグテイ 二人は

徳薛禅訥 孛児帖兀只泥 也孫納速禿 不恢突児兀者周 亦舌列克薛額児
人名的 人名行 九歳 有時見着 来了
Deį=sečen-ü Börte=üjin-i yesün nasutu büküį-dür üǰeǰü iregse'ēr
デイ・セチェンの ボルテ・ウヂンを——(テムヂン)九才 なる時に 会い 来てより

中合中合察周 不列額 客魯舌漣 沐(舌)漣 忽中魯兀 額鄰斡(傷)罷。(270)
離着 有来 河名 河 瞬 尋去了
qaɑačaǰu büle'ē Kelüren müren huru'ū erin odba.
わかれて ありき——ケルレン 河を 下って さがし 行きぬ。

〈3〉 §95 (二38三～38六) 孛斡児出 別(勤)古台亘 古児格兀魯額傷
人名 人名行 教到了
Bo'ōrču Belgüteį-yi kürge'ülü'ēd
ボオルチュ ベルグテイを 到らしめて

額赤格都舌里顔 兀禄 客列連 孛戈禿児 中晃中豁舌里兀訥阿傷 孛舌羅
父 自的行 不 説 拱背 甘草黄馬 騎了 青
ečige-dür-iyēn ülü kelelen bögötür qongqor-i unu'ād boro
父 に←己が 言わず 猫背の 栗毛の馬にのりて 灰色の

斡児木格邊孛克禿舌魯額場 別勤古台魯額亦舌列罷 帖舌列 那可徹克薛額児
毛 衫自的行 捎 訳了 人名 一同 来了 那裏 自敬 伴了
örmüge-bēn bögtürü'ēd Belgüteị-lü'ē irebe. tere nökočegse'ēr
毛布 を(己が) 馬につけ ベルグテイ と共に 来れり。 その 友たりつつ

那可徹恢 約孫 帖亦模。(271)
做伴的 理 那般有
nökočeküị yosun teyimü.
友たる 理(ことわり) かくあり。

〈4〉 §118 (三31五～31八) 禿中合舌侖 札木中合安荅因 客列列克先
恰 纔 人名 契合的 説来的
tuɢar-un J̌amuqa anda-yin kelelegsen
さき の ヂャムカ 盟友 の 話せる

客連 必荅突児 孛額場 折失古 兀格備由 必荅 不 保兀牙 額捏
話 咱每行 便 欲図的 言語 有 咱每 休 下咱 這
kelen bida-dur bö'ēd ǰešikü üge büyü. bida bū bauị'ūya, ene
言葉は 我等 に ぞ もくろむ 言葉 なり。 我等は 下馬んまじ, この

歌多魯克薛額舌児 失里兀牙 中合中合潺 雪泥 都鄰 歌多魯牙 孛額場
動了的行 善行 分離 夜 兼行 動咱 便
ködölügse'ēr šili'ūị-ā qaɢačan söni dülin ködölüye bö'ēd
動きたるまま ひたと はなれ 夜を徹して 移らん それ"

客額罷原作別 (272)
説了
ke'ēbe.
と云えり。

〈5〉 §134 (四15五～15六) 格舌列亦敦 脱斡舌鄰剌王捏舌列
種名的 人名行 王名分
Ǥereyid-ün To'ōri(n)l-a Ong nere
ケレイド族 の トオリル に 王なる名を

田迭斡(克)罷原作別 王中罕捏舌列 王京丞相温 捏舌列亦都(克)薛額(舌)児
那裏 与了 名分 人名 的 名 了的 上頭
tende ögbe. Ong qan nere Ong-ging Čingseng-ün nereyidügse'ēr
そこに 与えぬ。 王 汗の 名 王 京 丞相 の 名づけたるにより

田迭徹 孛(勒)罷。(273)
自那裏 做了
tendeče bolba.
そこより 起りぬ。

〈6〉 §179 (六35七～35九) 阿勒塔泥 赤馬冝 中忽禿剌中罕 魯
人名 行 你行 人名 但
Altan-i čimayi Qutula qan~lu
"アルタンを 汝を 「クトゥラ 汗 が

篾顚 迓歩魯阿 額赤格余延 篾顚 阿黒撒阿舌児 赤 中罕 孛勒客額速
管 行来 父 自的 管 住来的依着 你 皇帝 做 説呵
meden yabulu'ā ečige-yüyēn meden agsa'ār či qan bol ke'ēsü
治め ありき 父 の(已が) 治め ありたるまゝ 汝 汗 たれ」と云わば

額薛 古 孛勒罷者 赤……。(274)
不曾 也 肯做也者 你……。
ese~kü bolba-je či…….
肯ぜざりしりぞ 汝……"。

〈7〉 §183 (六46九～47二) 巴勒渚納 納浯(舌)剌察 成吉思中合罕
水名 海子 処 太祖 皇帝
Baljuna na'ūr-ača Činggis qahān
バルヂュナ 湖 より チンギス 可汗

兀荅阿舌闌 額兀速勒扯周 中合舌侖 秣舌驢剌黒撒阿舌児 客魯舌洌訥
随即 共起着 出 上馬 依着 河名的
uda'āran e'ūsülčejü garun morilagsa'ār Kelüren-ü
続いて 出立し合い 出て 出馬せるまゝ ケルレン河 の

阿舌児中合勒苟吉迭 古舌児罷原作別 (275)
地名 行 到了
Arɢal-geǖgi-de kürbe.
アルガル・ゲウギ に 到りぬ。

〈8〉 §187 (七3一～3四) 斡欒 歹因突舌児 哈兀魯阿速
多 敵 行 奔 呵
olon daiyin-dur ha'ūlu'āsu
"多くの 敵 に 攻撃せば

幹勤札幹魯阿速　幹魯黒撒阿舌児　阿不惕中渾　兀舌剌阿　戈舌劣額孫　阿剌阿速
財物 得 呵　得了的依着　要 您　野　猷　殺 呵
olja olu'āsu　olugsa'ār　abudqun,　ura'ā　görö'ēsün　ala'āsu
財物を 得れば　得たるままに　取れ,　逃げまどう　猷 を　殺さば

阿剌黒撒阿舌児　阿不惕中渾　客延　札舌児里黒　孛勤罷。(276)
殺 了的依着　要 您　慶道　聖 旨　做了
alagsa'ār　abudqun　keyēn　jarlig　bolba.
殺せるままに　取れ"　と　仰せに　なった。

〈9〉 §205 (八37二～37八)　巴撒 帖兀訥　中豁亦納　塔塔舌児
再 那的　後　種 名
basa te'ün-ü　qoyina　Tatar
"また そ の　後　タタルの

亦舌児堅突舌児　荅闌捏木舌児格思帖　失禿額額勤都周　中豁那阿速　中忽舌剌
百 姓 行　地 名 行　共抗拒 着　宿 呵　雨
irgen-dür　Dalan=nemürges-te　šitü'ē'ēldüjü　qono'āsu　qura
人衆 に　ダラン・ネムルゲス にて　対陣し合いて　宿らば　雨

兀都舌児　雪泥　兀舌児古勤只　主薛舌列恢突舌児　雪你　納馬宜　那亦舌児
日　夜　如 常　霖 雨 下 時　夜　我 行　睡
üdür　söni　ürgülji　jüsereküi-dür　söni　namayi　noyir
日　夜　常に　降りしきる 時,　夜　我を　「眠り

阿(卜)禿中孩　客延　捏木舌児格邊　捏木舌魯克薛額舌児　米納　迭額舌列
教得者　慶道　穪衫 自的行　穪 衫 被 着　我的　上
abtucaį　keyēn　nemürge-bēn　nemürügse'ēr　minu　de'ēre
とるべし」　とて　掛布 を　蔽いつつ　わが　上に

中忽舌剌兀禄出不舌里兀命　雪泥　荅兀思塔剌　擺亦周　斡舌列額列　闊里顔
雨 不 教 漏　夜　画 了 直到　立着　隻　脚自的行
qura ülü čuburi'ūlun　söni　da'ūstala　baiyiju　öre'ēle　köl-iyēn
雨 漏らしめず,　夜の　つくるまで　立ちて　片　足 を(己が)

中合黒潺荅　也兀惕客周　不列額　赤　曲魯昆　赤訥　別勤格　阿主兀者…
独 次　換 着　有来　你　豪傑的　你的　効験　有来也者
gaggan-da　ye'ūdkejü　büle'ē　či,　külüg-ün　činu　belge　aju'ū~je…
一度 のみ　かえて　ありき　汝,　剛徳 の ← 汝の　あかし　なりし ぞ…"

…。(277)

….
……。

〈10〉 §225 (九35十～36三)

| 成吉思 | 中合阿訥 | 札児里黒 |
|---|---|---|
| 太祖 | 皇帝的 | 聖 旨 |
| Činggis | qahān-u | ǰarlig |
| チンギス | 可汗 の | 勅 |

| 孛魯黒撒阿児 | 敏中合荅察 | 亦勒中合周 | 札兀敦 | 哈舌児巴敦 | 那牙敦 |
|---|---|---|---|---|---|
| 做了的依着 | 千每 処 | 選擇着 | 百每的 | 十每的 | 官人每的 |
| bolugsa'ār | mingɢad-ača | ilgaǰu | ǰa'ūd-un | harbad-un | noyad-un |
| せるにより | 千戸 より | 選びて | 百戸 の, | 十戸 の | 長官達 の |

| 可兀的 | 門古 | 札舌児里〈黒〉吉牙〔児〕 | 亦勒中合周 | 中合舌児中合周 | 亦舌列周 |
|---|---|---|---|---|---|
| 児子每行 | 只也 | 聖 旨 依 着 | 擇択着 | 出 着 | 来 着 |
| kö'ūd-i | mun-kü | ǰarlig-(g)iyār | ilgaǰu | gargaǰu | irejü |
| 子等 を | まさに その | 勅 により | 選び | 出し | 来りて—— |

| 兀舌里荅 | 納顔 | 客卜帖兀勒 | 不列挨 | 乃蠻 | 札兀惕 | 孛勒中合罷原作伯 | 乃蠻 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 在前 | 八十 | 宿 衛 | 有来 | 八 | 百每 | 教做了 | 八 |
| urida | nayan | kebte'ūl | büle'ēi | naiman | ǰa'ūd | bolgaba. | naiman |
| かって | 八十人の宿直兵 | | なりき —— | 八 | 百人となせり。 | | "八 |

| 札兀惕 | 迭額舌列 | 敏中合 | 都兀舌児格禿該 | 客額罷原作伯 | (278) |
|---|---|---|---|---|---|
| 百每 | 上 | 千 | 教 満 者 | 説 了 | |
| ǰa'ūd | de'ēre | minga | dü'ūrgetügei | ke'ēbe | |
| 百人の | 上, | 千人に | 充たすべし" | と云いぬ。 | |

この語尾 -gsa'ār[2] の後身が現代モンゴル語ハルハ方言の -caap[4] であり，この語尾 -caap[4] は

1. Чамайг үхтлээ унтсаар байтал одоо үдэш болох гэж байна
お前が 死ぬほど 睡りつゞけているうちに もう 夕方に なろう としている

шүү.
よ。

2. Хоосон хувингаа хангинуулсаар орж ирэв.
からの うつわを 響かせながら 入って 来た。

3. Би ирсээр 3 хоног байна.
私は 来て以来 三 泊して いる。

4. Гүй(н) гүйсээр хүрч ирлээ.
走り 走りながら やって 来た。

に見られるように，現代語では《動作の継続》を意味する副動詞語尾として用いられる。日本語では《～しながら，～し続けて；～して以来》と訳せばまず当る。この現代語の意味の一段階前の意味を秘史の言語は示していると見られる。上記の文例を読んで見る。

〈1〉の kömü(n)ldürgelegse'ēr《胸がいをつけたまゝで》，olanglasa'ār《肚帯をつけままで》は《胸がいをつけながら》，《肚帯をつけながら》と解しても《つけたままで》には劣るものの不可というわけではない。

〈2〉の Börte=üjin-i yesün nasutu büküi̯-dür üjejü iregse'ēr は《ボルテ・ウヂンにを（テムヂンが）九才の時に会ったまゝで別れていた》は《会って以来別れていた》と読むことも可能である（この文の Börte=üjin-i の -i を erin odba が受ける）。

〈3〉の nököčegse'ēr nököceküi̯ yosun teyimü は《友となれるまゝ友たる理（ことわり）はかくの如し》は《友となりつゝ友たる理はかくの如し》とも読める。

〈4〉の ködölügse'ēr《移動せるまゝ》も《移動しながら》としても大きな違和感はない。

しかし，〈5〉の nereyidügse'ēr はそうは行かない。

Ong qan nere Ong=ging Čingseng-ün nereyidügse'ēr tendeče bolba は《王汗（なる）名は王京丞相の名づけしによりそこより起れり》と読むべき一文で，nereyidügse'ēr の -gse'ēr は《～せしにより，～せるを以て》と解さねばならない。これは，この語尾の語構成のまゝの意味であり，この意味は次の〈6〉の acsa'ār でもそのままあてはまる。ečige-yüyēn meden acsa'ār či qan bol は《己が父の治めありしにより，汝汗たれ》と読むべきであろう。もっとも，ここは《己が父の治めありたるまゝ，汝汗たれ》とも読めないことはない。しかし，前者の解の方がベターであろうと筆者は見る。

〈7〉の morilaɢsa'ār《出馬せるまま》は《出馬しながら》に勝る。〈8〉の olugsa'ār, alaɢsa'ār は《得たるまま》,《殺せるまま》の他の解はあり得ない。

〈9〉の nemürge-bēn nemürügse'ēr の -gse'ēr は《～しつゝ》と解しうる用例である。《己が掛衣を蔽いたるまま》と解することも出来るが，ここは，《蔽いつつ》と訳したい。

〈10〉の Činggis qahān-u jarlig bolugsa'ār は《チンギス可汗の勅せしままに》とも《チンギス可汗の勅せしにより》とも，いずれにも読めて甲乙決し難いが，後者の語構成本来の意味をとる。

このように見ると，秘史蒙古語では《～せるまま》の如く，動作の継続の一段階前の「動作の保持」を意味する例の多いことが知られる。筆者は秘史蒙古語の -ɢsa'ār を「動作保持の副動詞語尾」と呼びたい。

現代のハルハ方言の -caap[4] の示す《～しながら; ～して以来》の意は秘史時代の -ɢsa'ār[2] がもつ《～せしにより》から《～せしまま》を経て《～しつつ》と変容して来たものである。

### §4　目的副動詞語尾 -ra[2]

-ra[2] が，出動実詞形成語尾の -r に，古い実詞与位格語尾 -a[2] が附されて成立したものであることはポッペ教授の説かれている通りである。(3)

しかし，通常「与位格語尾」と呼ばれる -a[2] は，後段の「実詞の曲用語尾」の項で詳しく言及する如く，単なる与位格語尾ではなく，その -a[2] そのものが《～のために》の意味をそれ自身の中にもっている故に，-r-a[2]>-ra[2] の成立過程を経た -ra[2] に《～するために》の意をもつに到ったものである。その表わす意味から -ra[2] を一般に「目的副動詞語尾」と呼ぶ。

秘史全巻から -ra の接尾した用例22例，-re の接尾した12例，合わせて34の使用例を拾うことが出来る。以下にその若干を示そう。

〈1〉§90 (二27十～28一)　別動古台 斡中豁都児 苔児吉 中晃中豁舌里

| 人名 | 禿尾 | (ナシ) | 甘草黄馬 |
|---|---|---|---|
| Belgütei | ocodur | dargi | qongqor-i |
| ベルグテイ | 短か尾の | 明るき | 栗毛の馬 に |

兀訥周 塔児巴中合赤剌舌剌 斡楊抽 不列額。(279)
〈騎〉着 土撥鼠 捕 去着 有来
unuju tarbaɢačilara odču büle'ē.
のりて タルバガン狩りに 行きて ありき。

〈2〉 §100 (二44十～45二) 中豁阿(黒)臣 額篾堅 鳴詁列舌論 必
婦人名 老婦 説 我
Qo'āɢčin emegen ügülerün bi
コアクチン 老婆の 言うに "我は

帖木只訥埃 備 也客 格児圖児 中豁紐 乞児中合舌剌 亦舌列列額
人名 的 有 大 家 裏 羊 剝 来了
Temüjin-ü'ēi büi, yeke ger-tür qonin qirɢara irele'ē,
テムヂン 家の者 なり, 主 家 に 羊(毛)を かりに 来れり,

格児禿舌里顔 中合舌里周 阿亦石 客額畢。(280)
家 自的行 回 着 来 有 説 了
ger-tür-iyēn qariju ayiši ke'ēbi.
包(ダル) に ← 己が 帰り 来るなり" と云いぬ。

〈3〉 §149 (五2六～2九) 失(舌)児古額禿 額不堅 孛孫牙荅中忽
人名 老人 起 不能的
širgü'ētü ebügen bosun yadaqu
シルグエトゥ 老人 起く能わざる

塔舌児中忽台宜 帖舌児堅 迭額舌列 兀訥周 格迭舌児古 迭額舌列 亦訥
人名 行 車 上 上着 偃仰 上 他的
Taqɢutai-yi tergen de'ēre unuju gedergü de'ēre inu
タルグタイ を 車 上に のりて, 仰向けの 上に ← 彼の

阿黒塔闌 撒兀周 乞禿中孩 中合舌児中合周 鳴詁列舌論 可温 迭兀捏舌児
騎 坐着 刀子 出着 説 児子 弟 毎
ɑctalan sa'ūju qituɢai ɢarɢaju ügülerün kö'ūn de'ü-ner
馬のりに 坐りて 刀を 出し 言うに "子, 弟 遠←

赤訥 赤馬宜 不里周 阿不舌剌 亦舌列罷原作伯 赤馬宜 中合你顔 中合舌児荅罷
你的 你 行 奪 着 要 来了 你 行 皇帝 自的行 下手 了
činu čimayi buliju abura irebe, čimayi qan-iyān gardaba
汝の 汝を 奪い 取りに 来れり, 汝を 「汗 を(己が) 手になせり」

客延 額薛 帖乞 阿剌阿速 中合你顔 中合舌児荅罷 客延 阿剌中忽古
慶道 不曽 也 殺 呵 皇帝 自的行 下手了 慶道 殺了 也
keyēn ese~teki ala'āsu qan~iyān ɢardaba keyēn alaqu~kü,
とて, え 殺さざりしも 「汗 を(己が) 手にかけたり」とて (我を)殺さんぞ,

阿剌阿速 帖乞 門古 阿剌黒荅中忽古 必……。(281)
殺 呵 也 也 被 殺 我……。
ala'āsu~teki mun~kü alaɢdaqu~kü bi…….
(汝を)殺 さば, まさに 殺されんかな 我……”

〈4〉 §168 (五45七～46一) 田迭徹 桑昆 鳴詁列舌論 木楊魯
自那裏 人名 説 他毎但
tendeče Senggüm ügülerün mud~lu
それより センゲムの 言うに “彼等 は

必荅訥 察兀舌児別乞宜 中忽余(你)不列額 額朶額 不兀勒札舌児 亦哩舌列
咱的 女名 行 索 有来 如今 許婚筵席 喫
bidan~u Ča'ūr=beki~yi ɢuyun büle'ē. edö'ē bu'ūljar idere
我等 の チャウルベキ を 求め ありき。 「今 婚約の食を 食しに

亦舌列楊坤客延 兀都舌児 孛〈勒〉札周 兀舌里周 亦舌列兀勒周 田迭把舌里牙
来 您 慶道 日 子 約会着 喚着 教来着 那裏 拿咱
iredkün keyēn üdür boljaju uriju ire'ūlju tende bariya
来れ」 と 日を 約して 招き 来らせ そこにて とらえん”

客額勒都周 者 客延 額耶 把舌剌勒都周 察兀舌児別乞宜 斡古耶
共説着 那般者 慶道 商議 定着 女名 行 与咱
ke'ēldüjü je keyēn eye baralduju Ča'ūr=beki~yi ögüye,
と云い合いて 「ヂェー」と 話まとまりて “チャウル・ベキ を 与えん,

不兀勒札舌児 亦哩舌列 亦舌列楊坤 客延 亦列昜(原作)徂 (282)
定婚筵席 喫 来 您 慶道 去 了
bu'ūljar idere iredkün keyēn ilebe.
婚約の食を 食べに 来れ” と 遣りぬ。

〈5〉 §267 (三9五～9八) 成吉思中合罕 察速禿阿察 歌多勒周
太祖 皇帝 山名 処 勤着
Činggis qahān Časutu~ača ködöljü
チンギス 可汗 雪山(チヤスト) より 勤きて

兀舌剌中孩巴剌中合速 額卜顚 不〈恢〉突児 不舌児罕 成吉思中合罕納

城名 城 破 有時 人名 太祖 皇帝行

Uraqaị balaġasu ebden bükü̱-dür Burqan Činggis qahan-a

ウラカイ 城を 破り ある 時 ブルカン, チンギス 可汗 に

阿兀勤札舌剌 亦舌列㘝原作別 (283)

拝見 来了

a'ūl̃jara irebe.

閲見すべく 来りぬ。

以上〈1〉～〈5〉の文例における -ra² は総て《～するために, ～するべく, ～しに》と解し得る。この5例からも知られるが, -ra² の接尾された語には動詞が直続して,「—ra² 述語動詞」のパターンをとる。即ち「～しに～する」の文型での使用例が殆ど総てである。この語尾は現代の話し言葉ではすでに用いられることはないが, 安定した意味をもつ, この語尾が, いかにして口語の世界から姿を消したのかを考えて見る必要があろう。今後の研究課題の一つである。

### §5 予告副動詞語尾 -run²

この語尾 -run² は蒙古語文語及び現代のモンゴル諸方語においては, 若干の限られた語と共に用いられる他, 殆ど使用されることのない語尾であるが, 秘史蒙古語においては然らずで, かなり幅広く用いられる。

-run の166例の中の bol-u-run (ǰarlig bolurun の -run) が44例, -rün の426例の中の ügülerün の306例, ilerün の28例が特に顕著である。この ǰarlig bolurun の bolurun と ügülerün が文語に残って, 時たま用いられるのである。これら bolurun, ügülerün, ilerün を除いても -run² の用例は200例を優に越えるので, 秘史蒙古語における -run は有力な副動詞語尾と見る必要がある。

この語尾は, 蒙古語文語の最古の文典である1831年の I. J. Schmidt 氏の文典[4]や1835年の Александр Бобровников[5] の文典では,「過去時の終止形語尾」と記述されているが, 1849年の Алексей Бобровников の文典[6]では, すでに

деепричастие приготовительное (準備副動詞) の語尾として記述され，以後，N. Poppe 氏に到るまで，この名称が使われている (preparative converb)。

Poppe 氏は preparative converb について次のように記している。(7)

> 380. The preparative converb expresses an action which is preparatory to and induces the main action: "in consequence of doing……,", "as he did...,", "because he did..."

この an action which is preparatory to and induces the main action を -run² が expresses するという見解は，大筋において異論はないが現実の蒙文の例示が乏しく，これだけの説明では，秘史の多くの用例を読解するのには極めて不十分と言わざるを得ない。そこで秘史蒙古語における -run² の用法を以下に吟味したい。

〈1〉 §90 (二28五～29四)

| 別勒古台鳴詔列舌論 | 必 | 捏客速 | 客額罷 |
|---|---|---|---|
| 人名 説 | 我 | 襲去 | 説了 |
| Belgütei ügülerün | bi | nekesü | ke'ēbe. |
| ベルグテイの言うに | "我 | 追わん" | と云えり， |

| 中合撒児 | 鳴詔列(舌)論 | 赤 | 兀禄赤荅中忽 | 必 | 捏客速 | 客額罷 | 帖木真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人名 | 説 | 你 | 不 能 | 我 | 襲去 | 説了 | 人名 |
| Qasar | ügülerün | či | ülü čidaqu, | bi | nekesü | ke'ēbe, | Temüjin |
| カサルの | 言う | "汝 | 能わず， | 我 | 追わん" | と云えり， | テムヂンの |

| 鳴詔列舌論 | 塔 | 兀禄 | 赤荅中忽 | 必 | 捏客速 | 客額周荅児吉 | 中晃中豁舌里 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 説 | 你 | 不 | 能 | 我 | 襲去 | 説着 (ナシ) | 黄馬行 |
| ügülerün | ta | ülü | čidaqu, | bi | nekesü | ke'ējü dargi | qongqor-i |
| 言う | "汝 | 等 | 能わず， | 我 | 追わん" | と云いて 明るき | 栗毛の馬に |

| 帖木真 | 兀訥周 | 失児中合阿(黒)騨塔泥 | 額別速訥 | 阿魯児(中)孩巴児 |
|---|---|---|---|---|
| 人名 | 騎着 | 惨白 騨馬 等行 | 草的 | 掃 道 |
| Temüjin | unuju | širga aqtatan-i | ebesün-ü | alurqaj-bār |
| テムヂン | のりて | 薄黄色の 騨馬など を | 草 の | 踏まれ跡 もて |

抹赤吉周 中忽児班中豁那周 馬納中合児額児帖 抹児途児 斡欒 阿都温圖児
踏 隙着 三 宿着 清 早 路 行 多 馬羣 裏
möčgijü gurban qonoju managar erte mör-tür olon adu'ūn-tur
辿りて 三 泊し あくる日 早く 道 に 多くの 馬群 のもとに

你刊 古舌魯箋列可温古温 格兀撒安 阿中忽亘勿勒中合周 失児中合
一箇 爽 利 後生 人 騏馬 擠 有的行 遇 着 惨 白
niken gürümele kö'ün kü'ün ge'ü sa'ān aqu-yi jolgaju širga
一人の さわやかなる 若き 人 牝馬を 搾り ある に 会いて, 薄黄色の

阿黒騮塔泥 速舌剌巴速 帖舌列 可温 鳴詰列舌論 額捏 馬納中合児 納舌闌
騮馬 等行 挨問 呵 那 後生 説 還 清 早 日
agtatan-i surabāsu tere kö'ün ügülerün ene managar naran
騮馬など を 尋ぬれば その 若者の 言うに "この 朝, 日

兀児中忽中忽因 兀舌里荅 失児中合 阿(黒)騮壇 乃蠻秣舌驪 額兀別児
出 的 前 惨 白 騮馬 等 八箇 馬毎 還眞 行
urguqu-yin urida širga agtatan Naiman mori e'ü-ber
出ずる の 前 薄黄色の 騮馬など 八頭の 馬を このあたりを

忽迭周 約児赤厮 抹児 亦訥 必 札阿周 斡克速客額揚……。(284)
趕着 去 了 隙 他的 我 告着 与(我) 説了……。
hüdejü yorčiba, mör inu bi ja'āju ögsü kē'ēd……。
追いて 行けり, 踏 ← その 我 告げ やらん" と云いて,……。

〈2〉 §113 (三22六～23四) 脱斡舌鄰勒中罕 札木中合 中豁牙舌里
人 名 皇帝 人 名 両箇行
To'ōri(n)l qan Jamuqa qoyar-i
トオリル 汗, ヂャムカ 二人 に

帖木真 不識舌怜 鳴詰列舌論 中罕 額赤格米訥 札木中合安荅 中豁牙舌剌
名 知 慧 説 皇帝 父親 我的 人 名 契合 両箇 行
Temüjin büsiren ügülerün qan ečige minu, Jamuqa anda qoyar-a
テムヂン 慧じ入りて 言う "汗なる 父 ← わが, ヂャムカ 盟友 二人 に

那闍扯克迭周 騰吉舌里 中合札舌剌 古出捏箋克迭周 額舌児客禿 騰吉舌里迭
被 敵 伴 着 天 地 名 気力 被 添 着 威勢有的 天 行
nökökčegdejü tenggiri gaǰar-a küčü nemegdejü erketü tenggiri-de
伴となられ 天 地 に 力を 添えられ, 威権ある 天 に

捏(舌)列亦(陽)抽 額客 額禿格捏 古舌児格周 額舌列哈赤禿 篾舌児乞(陽)

被 題 著 母 地 行 到 着 男子 讎敵 種 名

nereyidčü eke etügen-e kürgejü ere hači Merkid

名指しされて 母なる 大地 に 到られて 男の 仇敵 メルキドの

亦舌児格泥 額不舌児 巴阿訥 豁黒脱舌児中灰孛勒中合罷(原作伯) 赤赤里格巴 阿訥

百姓 行 懐 也 他的 空 教做了 肝 也 他的

irgen-i ebür-ba anu hoɢtorɢuį bolɢaba, helige-ba anu

人衆 を 懐 を も←彼等の 空に なせり, 肝 をも ←彼等の

含帖勒罷(原作伯) 必荅 斡舌羅巴 阿訥 豁黒脱舌児中灰 孛勒中合罷(原作伯) 兀舌魯中渾

教闕了 咱 位子 也 他的 空 教做了 親 行

hemtelbe bida, oro-ba anu hoɢtorɢuį bolɢaba, uruɢ-un

やぶれり 我等, 床を も ←彼等 空に なせり, 親族 の

巴 古温泥 兀魯(陽)格罷(原作伯) 必荅 許列克薛的 巴 阿訥 阿舌児必剌罷(原作伯)

也 人 行 教 瘦 了 咱每 余 剰 的 也 他的 擒 要 了

-ba kü'ün-ni ülüdgebe bida, hülegsed-i-ba anu arbilaba

も* 人 を* 根だやしにせり 我等, 残りし者ともを も ←彼等の とりこにせる

者 必荅篾舌児乞(陽) 亦舌児格泥 帖堆 不散中合周 亦出牙 客額勒都罷(原作伯)

也者 咱每 種名 百姓 行 那些 教殴乱着 延咱 共 説了

-je bida, Merkid irgen-ni tede busanɢɢaju ičuya ke'ēldübe.

ぞ 我等, メルキドの 人衆 を 彼等を 殲滅させ 退かん" と云い合えり。

(285)

〈3〉 §254 (十22四～22八) 拙赤宜 董中豁(陽)中忽 因 兀舌里荅

人名 行 作 声 的 前

Joči-yi dungɢodqu-yin urida

チョチ の 声出す (の) 前に

察阿歹 鳴詁列舌論 拙赤宜 客列列 客額舌侖 拙赤余兀 土申 鳴詁列梅

人名 説 人名 行 説 説 時 人名 行麼 委付 説 有

Ča'ādaį ügülerun Joči-yi kelele ke'ērün Joči-yu'ū tüšin ügülemüį,

チャアダイの 言う "チョチが「申せ」と 言う時, チョチ を(か) 任じて 言うや,

額捏 篾舌児乞歹出勤兀勤札兀舌剌 客舌児 篾迭兀勤坤 必荅 客額〈恢〉魯額

這 種 怎生 教管 咱每 恰説呵

ene Merkideį čul uljaʼūr-a ker mede'ūlkün bida keʼēküį-lüʼē

この メルキド族のまぎれなき 申し子 に いかに 統べさすべき 我等" と云う や

拙赤 孛速阿傷……。(286)

人名 起了……。

J̌oči bosuʼād…….

ヂョチ 起ちて……。

〈4〉 §260 (十46五～47七) 中晃中孩中豁舌児赤中晃塔中合舌児中豁舌児赤

人名 帯弓箭的 人名 帯弓箭的

Qongɢaį qorči, Qongtaɢar qorči,

コンガイ 矢筒人, コンタガル 矢筒人,

搠舌児馬中罕 中豁舌児赤 額迭 中忽舌児班 中豁舌児臣 成吉思中合阿訥

人名 帯弓箭的 這 三箇 帯弓箭的 太祖 皇帝行

Čormaqan qorči ede ɢurban qorčin Činggis qahān-a

チョルマカン 矢筒人 これら 三人の 矢筒人, チンギス 可汗 に

斡赤舌侖 孛舌羅 失鴉温 保里牙突舌児 撒亦斡舌羅中忽 篾圖 可兀傷

奏 雛 鷹 調習 裏 恰機 入的 殺 児子每

ǒčirün boro šibaų̄ʼūn baų̄liyā-dur sayi oroqu metü, kö'ūd

奏するに "雛 鳥の 調教 に 今まさに 入れる 如く, 子達の

撒亦 額堆 阿牙闌 速舌侖不恢突舌児 可兀的 升塔侖 篾捏 篾図

恰機 這些 征進 学 有 時 児子每行 退役 頻煩 殺

sayi edüį ayalan surun büküį-dür kö'ūd-i šingtalun mene metü

今まさに かく 戦旅し 学び ある 時 子等 を 廻せしめ あまたに

也勤 額因董中豁都木 可兀傷 阿余周 薛傷乞里顔 阿勤中合撒兀澤

為甚 這般 恁 貪 有 児子每 怕着 心 自的行 懈怠 恐

yēkin eyin dungɢodumu, kö'ūd ayuǰu sedkil-iyēn alqasaʼūǰaį,

なんぞ かく 叱責するや, 子等 恐れて 心 を(己が) 乱さざらまじ,

納舌闌 升格古額徹 兀舌児中忽中忽荅 古舌児帖列 歹因 亦舌児堅備 馬泥

日 落 処 出処 行 直到 敵 百姓 有 俺行

naran šinggekü-eče urɢuqu-da kürtele daǰyin irgen büį, man-i

日 没する(方) より 出ずる(方) に 到るまで 敵たる 人衆 あり, 我等 を

脱孛都揚 那中豁的顔 禿乞舌児抽 亦列額速 歹因 亦舌児格泥巴 騰格舌理
西番毎 狗毎自的 咬着 教去呵 敵 百姓行俺 天
töbödüd noqod-iyān tükirčü ile'ēsü daiyin irgen-i ba tenggeri
猟 犬ども を(己が) けしかけ 遣らば, 敵なる 人衆 を 吾等 天

中合札舌剌 古出 捏篾克迭周 阿勒壇 蒙古 阿兀舌剌孫 塔巴舌児
北行 気力 被添着 金 銀 段匹 財物
gaǰar-a küčü nemegdejü altan münggü a'ūrasun tabar
地 に 力を 添えられて 金 銀 絹段 財物

亦舌児堅 斡舌児中罕 赤馬荅 阿卜赤舌剌速中孩 阿里 亦舌児堅 客額額速
百姓 人烟 悠行 将来咱 那箇 百姓 説阿
irgen orqan čimada abčirasugai, ali irgen ke'ē'ēsü
人衆 散民を 汝に もち来らん, いずれの 人衆なるやと言わば,

額捏 訶舌羅捏 巴黒塔揚 亦舌児格訥 中合里伯 莎勒壇 客額古備 客額梅
這 西 種名 百姓的 人名 王 説的有 説有
ene höröne Bagtad irgen-ü Qalibai soltan ke'ēkü büi ke'ēmüi,
この 西なる バグダト 人衆 の カリバイ 王 と云える あり と云う,

帖温突舌児 巴 阿牙剌速中孩 客延 斡赤額速 中合罕 莎斡舌剌周 額迭
那的毎行 俺 征進咱 慶道 奏呵 皇帝 解釈着 這
te'ün-dür ba ayalasugai keyēn öči'ēsü qahān so'ōraǰu ene
それ に 吾等 戦旅せん" と 奏さば 可汗 鎮まりて この

兀格思図舌児 札里舌剌周……。(287)
言語毎真 怒息着……。
üges-tür ǰalira ǰu……。
言 に 怒りを収めて……。

〈5〉 §177 (六31七～31九) 叱馬舌侖 約孫突舌児 額勒臣 亦《舌》列
怪責的 道理 使臣 教来
čimar-un yosun-dur elči ile,
"咎 の 理(ことわり) に 使者を 遣わせ,

亦《舌》列舌侖 中忽(勒)巴舌里中忽舌里 亦都舌児堅 中豁牙舌里 亦《舌》列 中豁牙舌里
教来時 人名 人名 両箇行 教来 両箇行
ilerün Qulbari=quri, Idürgen qoyar-i ile, qoyar-i
遣わすに クルバリ・クリ イドゥルゲン 二人 を 遣わせ, 二人 を

額薛亦(舌)列額速　那闊只宜　亦列　客額周　亦列額速……(288)
不曾 教 来 呵　第二 行　教来　説着　去 了
ese ile'ēsü　nökŏji-yi　ile　ke'ējü　ile'ēsü.
遣わさざれば　第二の人 を　遣わせ"とて　遣わさば

〈6〉 §105 (三3九～4四)　帖木真　札木中合突舌児　中合撒舌児
人名　人名 行　人名
Temüjin　Jamuqa-dur　Qasar,
テムヂン,　ヂャムカ に　カサル,

別勤古台　中豁牙舌里　亦列舌侖　札木中合　安荅荅鳴詰列　客延鳴詰列周
人名　両箇 行　使 去　人名　契合行 説 慶道 説 着
Belgütei　qoyar-i　ilerün　Jamuqa anda-da ügüle keyēn ügülejü
ベルグテイ　二人 を　遣わすに　"ヂャムカ 盟友 に 言え" とて 言いて

亦列舌侖　中忽舌児班　箴舌児乞惕　亦舌列周　斡舌羅班　豁黒脱舌児中忽
去　三 箇　種名　来 着　位　空
ilerün　gurban　Merkid　irejü　oro-bān　hogtorgu
遣るに　"三　メルキド族　来りて　床 を(己が)　空に

孛勤中合(黒)荅阿　必　斡那舌児你刊壇不速禿必荅　斡雪里顔　客舌児斡薛坤
被 做 了 我　(ナシ) 一箇 的 不是有的麼咱　讎 自的　怎生 報
bolgaɢda'ā　bi, ŏnör nikenten busutū bida, ösöl-iyēn ker ösekün,
させられたり　我, 族は　一をもつにあらずや　我等, 仇 を(己が) いかにとるべき,

額不舌里顔　含屯勤迭額必　赫里格訥　兀魯黒不速禿 必荅
懐 行自的　被去了一半 我　肝 的　親 不是有的麼 咱
ebür-iyēn　hemtü(n)lde'ē bi,　heligen-ü　uruɢ busutū bida,
懐 を(己が)　なかば割かれたり 我,　肝 の　親族 にあらずや 我等,

哈赤顔客舌児　哈赤剌(中)渾　必荅　客額周　亦列罷　(289)
讎自的 怎生　報 的　咱每　説着　去了
hači-yān ker　hačilaqun　bida　ke'ējü　ilebe.
讎 を(己が) いかに とるべき　我等"　とて　遣りぬ。

〈7〉 §257 (土36九～37二)　討来只勤　撒舌児塔兀勤　亦舌児堅突舌児
兎 年　回 回　百姓 行
taɯlaj jil　Sarta'ūl　irgen-dür
兎の 年,　サルタウル　人衆 に

阿舌剌亦牙舌児　荅班　秣舌驪剌舌侖　成吉思中合罕　中合禿納察　中忽闌
地名 依着　越着　上馬 時　太祖 皇帝　娘子 内　婦人名
Araị-iyār　daban　morilarun　Činggis qahan　qatun-ača　Qulan
アライ峠 を　越え　出馬するに　チンギス 可汗　后(きさき) より　クラン

中合禿泥　阿奔　阿牙剌舌侖　迭兀捏舌列徹　斡惕赤斤　那顔泥　也客
娘子行　将了　征道時　兄 弟 内　人 名　官 行　大
qatun-i　abun　ayalarun　de'ū-ner-eče　Odčigin　noyan-i　yeke
后 を　つれ　征旅する時　弟 途 より　オドチギン　長官 を　大

阿兀舌魯黒突(舌)児　土失周　秣舌驪剌罷原作伯　(290)
老 営 裏　委付着　上 馬 了
a'ūruc-dur　tüšijü　morilaba
本営 に　任じ　出馬せり。

〈8〉 §74（二5四～5十）　泰亦赤兀惕　阿中合迭兀　訶額侖兀真泥
種 名　婦 人 名 行
Taị yiči'ūd　aqa de'ū　Hö'ēlün=üjin-ni
タイチウド　兄 弟,　ホエルン・ウヂン を

別勒必孫泥　可兀惕　兀出格惕　額客思可兀的　嫩禿黒圖児　格周捫兀克迭周
寡婦 行　子毎　小的毎　母毎 子毎　営盤 裏　撤着 被起着
belbisün-ni　kö'ūd　üčüged　ekes kö'ūd-i　nuntuc-tur　gējü neụ'ūgdejü
寡婦 を　子遠　幼き者達　母 子遠 を　居営地 に　すてて(移れり。)移られて

訶額侖兀真　額篾　篾児干　脱舌列周　兀出格惕　可兀的顔　帖只額舌侖
婦 人 名　婦人　能　生 着　小 毎　子毎 行　養 時
Hö'ēlün=üjin　eme　mergen　törejü　üčüged　kö'ūd-iyēn　teji'ērün
ホエルン・ウヂンは——女　丈夫に　生れ——　幼き　子達 を(己が)　養うに

兀乞塔剌　孛黒塔剌周　豁只塔剌　不薛列周　斡難沐舌漣　斡額迭　亦舌剌荅
緊　固姑冠帯着　衣 短　繋 着　河名 河　逆水　下 水
ukitala　boġtalaju　hōjitala　büselejü　Onan müren　ö'ēde　irada
きりりと　髪を結いあげ,　丈短かく　帯して　オナン 河　を(或いは)遡り(或いは)下り

癸闊周　斡里児孫　抹亦勒孫　添古周　兀都児雪你　中豁斡来　帖只額罷。(291)
走着　杜 梨　果 名　拾着　日 夜　喉嚨　養 了
güịyijü　ölirsün　moyilsun　temgüjü　üdür söni　qo'ōlaị　teji'ēbe.
走りて　オリル　モイル を　摘みて　日 夜　喉を　養いたり。

〈9〉 §21 (一13一～13四) 雪你楊 不舌里 超堅失舌剌古温

夜 每 明 黄 人

sönid büri čeŋgen šira kü'ün

夜 ごと 薄黄 色 の人,

格舌侖 額舌魯格 朶脱中合因 格格額児 斡舌羅周 客額里 米訥 必里周

房的 天 窓 門額 的 明 裏 入 着 肚皮 我的 摩着

ger-ün erüge dotoga-yin gege'ēr oroǰu ke'ēli minu bilijü

包(ゲル) の 天窓, 門額 の 明るみより 入りて 腹を ← わが 摩し,

格格延亦訥 客額里突児米訥 升格古不列額 中合(舌)魯舌侖 納舌闌

明 他的 肚皮 裏 我的 透 有来 出 時 日

gegeyēn inu ke'ēli-dür minu šinggekü büle'ē. garurun naran

光 ← その 腹 に ← わが 透り入るなりき。 出ずるに 日

撒舌剌因 乞里耶児 失舌剌那(中)孩篾圖 拭察班勒札周 中合児中忽不列額。(292)

月的 透入光裏 黄 狗 般 爬 着 出 有来

sara-yin kil-iyer šira noqai metü šičaba(n)ljaǰu garqu büle'ē.

月 の はざまに 黄色き 犬の 如く 這い 出ずる なりき。

〈10〉 §213 (九9三～10五) 巴撒 成吉思中合罕 札児里黒 孛魯舌侖

再 太祖 皇帝 聖旨 倣

basa Činggis qahān ǰarlig bolurun

又 チンギス 可汗 勅 するに

汪古児 孛舌羅兀勒 中豁牙児 巴舌剌温 沼温 額帖額楊 塔中豁牙舌児

人名 人 名 両箇 右 左 辺 您 両箇

Önggür, Boro'ūl qoyar bara'ūn ǰeŭ'ūn ete'ēd ta qoyar

"オングル ボロウル 二人よ, 右 左 側に, 汝等 二人の

保兀児臣 亦咥筵 禿客額舌侖 巴舌剌温 額帖額楊 擺亦黒三 撒兀黒撒納

厨子 每 喫食 給 散 時 右 辺 立 的 每 坐的每行

bau'ūrčin ideyēn tüke'ērün bara'ūn ete'ēd baiyigsan sa'ūgsan-a

膳夫達は 食物を 配り供するに, 右 側に 立てる(もの) 坐れる(もの) に

兀禄都塔兀侖 沼温 額帖額楊 者児格列克先 額薛克薛担 兀禄

不 教 欠 了 辺 列 了 的 不 曾 的 不

ülü duta'ūlun ǰeŭ'ūn ete'ēd ǰergelegsen esegsen-e ülü

欠かしめず, 左 側に 並べる(もの), 然らざる(もの) に 欠か

| 都塔兀侖 | 塔中豁牙舌里 | 帖因 | 禿格額額速 | 米訥 | 中豁斡来 | 兀禄 | 中忽臣 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教欠了 | 您 両箇行 | 那般 | 給 散 呵 | 我的 | 喉嚨 | 不 | 洗嚏 |
| duta'ūlun, | ta qoyar-i | teyin | tüge'ē'ēsü | minu | qo'ōlai | ülü | qučin |
| しめず, | 汝等 二人 の | かく | 配り供せしなば, | わが | 喉 | つかえず | |

| 薛揚乞勒 | 阿木由 | 額朶額 | 汪古(舌)児 | 孛舌羅兀勒 | 中豁牙(舌)児 | 秣舌驪剌周 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 心 | 安有 | 如今 | 人名 | 人名 | 両 箇 | 上馬着 |
| sedkil | amuyu, | edō'ē | Önggür | Boro'ūl | qoyar | morilaju |
| 心 | 休まるなり, | 今 | オングル | ボロウル | 二人 | 上馬し |

| 迓歩周 | 亦咥額 | 斡欒 | 古兀捏 | 禿格額揚坤 | 客延 | 札児里黒 | 孛勒罷 (293) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 行着 | 喫食 | 多 | 人行 | 給 散 | 慶道 | 聖旨 | 做了 |
| yabuju | ide'ē | olon | kü'ün-e | tüge'ēdkün | keyēn | jarlig | bolba. |
| 行きて | 食物を | 衆き | 人 に | 配り与えよ" | と | 勅 | しぬ。 |

上に挙げた〈1〉～〈10〉の文例に見られる -run² は -run²の 基本的な性格を示す用例であり，若干の説明を必要とする。

-run² は後続の主文の動詞の動作を予告するのがその本来的な職能であって，それ故，〈1〉,〈2〉,〈3〉の6例の ügülerün《言うのに》には，総て ke'ē-《～と言う》が置かれ，これから ügüle-《言う，語る》ことを -rün² によって"予告し" ügülerün 以後の文言は ügüle- する人の言辞となり，それが ke'ē-《～と言う》，ke'ēn ügüle-《～と（云って）言う》で閉じられて，形としては「某々が ügülerün《言うのに》……ke'ē-(keyē-)《～と言う》，ke'ēn ügüle-《～と(云って)言う》ということになる。〈4〉以下も勿論総て同じ形式である。

〈4〉の öčirün《奏上するに》…keyēn öči'ēsü《……と(云って)奏上すれば》

〈5〉の ilerün《遣るのに》……ke'ējü ile'ēsü《……と（云って）遣れば》

〈6〉の ilerün《遣るのに》……ke'ējü ilebe《……と（云って）遣った》

〈7〉の morilarun《出馬するのに》……morilaba《出馬した》

〈8〉の teji'ērün《養うのに》……teji'ēbe《養った》

〈9〉の garurun《出るのに》……garuqu büle'ē《出るのだった》

〈10〉の jarlig bolurun《勅するのに》……jarlig bolba《勅した》

この様に，-run² によって予告される動作がそのまま，後続の主文の動作と

なって文を結ぶ，この形式が -run² の本来的な用法である。

ügülerün も本来は ke'e- (keyē-) のみによって結ばれるのではなく ke'ēn (keyēn) ügüle- がより正常であり，現に秘史蒙古語には，少数ではあるが，keyēn ügüle- が実証される。しかし，keyēn ügüle- は意味的に重複するので ke'ē-(keyē-) のみで用いられることに傾いて来たものと思われる。

この様に《-run² は，-run² が附される動作の予告をする》のがその本来の職能なので，筆者は，この語尾 -run² を「予告副動詞語尾」と呼ぶことにする。(なお文例〈5〉の人名「中忽(勤)巴舌里中忽舌里」を『全釈続攷（上)』の p. 115 では(勤)が補われていないが，これを補う)

秘史蒙古語における -run² は後続の主要動作を予告するものとして用いられ，原則として -run² の接尾される動詞と同一の動詞によって主文が結ばれる。それは以上の10例から知られよう。この原則的な用法は秘史蒙古語においては顕著であるが，この用法のいわば一変種として -run² によって予告された動作と主文の動作とが同一ならざる用法も見られる。

〈11〉 §151 (五11一～11三)

帖兀訥 中豁亦納 王中罕訥 迭兀
那的 後 人名的 弟
te'ün-ü qoyina Ong qan-nu de'ü
そ の 後 王 汗 の 弟

額児客舌合剌 王中罕 阿中合荅安 阿剌黒荅舌侖 不(舌)魯兀惕抽 斡惕抽
人 名 人名 兄 自的行 被 殺 時 逃躲 着 去着
Erke=qara Ong qan aqa-da'ān alaɢdarun buru'ūdču odču
エルケ・カラ， 王 汗 兄 に(己が) 殺されんとするに 逃げ 行きて

乃馬訥 亦難察 中罕突舌児 斡舌羅主為。(294)
種的 人名 皇帝 行 投入了
Naiman-u Inanča qan-dur oroǰu'ūi.
ナイマン族 の イナンチャ 汗 の許に 入れり。

〈12〉 §73 (二45～48)

田迭中晃中豁塔歹 察舌剌中合額不干
那裏 種 名 名 老人
tende Qongqotadai Čaraqa ebügen
そこに コンコタダイ の チラカ 老人の

鳴詁列舌論 撒因 額赤格因赤訥(中) 古舌里牙黒苔黒三 兀魯昔馬訥 不舌里訥
説 好 父 的 你的 収 米 的 百姓行 俺的 衆的
ügülerün sayin ečige-yin činu quriyagdagsan ulus-i manu bürin-ü
言うに "よき 父 の ← 汝の 集められたる 民人 を ←吾等の 総て の

兀魯思阿(ト)抽 耨兀克迭舌侖 亦惕中合中忽孛侖 額因乞克迭舌客主兀 ……中
百姓毎 将 着 起 行 時 勧 時 ～ 時 道般 做 了 説了
ulus abču neǖ'ügderün idqaqu bolun eyin kigdebe kējü'ü……中
民人を とり 移らるる時 諫めんとし かく なされたり" と云えり……中

略… 訶額侖兀真 格周耨兀克迭舌侖 禿黒剌周 別耶別児 秣舌驪剌周
婦 人名 撤着 起行 時 莫頭拿着 親 身 上馬 着
略…Hö'ēlün=üjin gējü neǖ'ügderün tuqlaju beye-bēr morilaju
略…… ホエルン・ウヂンは 捨て 移らるる時 旗幟をもち 自ら 馬に騎し

札舌里木惕 亦児格泥 亦出中合厭。(295)
一 半 百姓 行 退 了
ǰarimūd irgen-i ičugāba.
なにがしかの 人衆 を とりもどしぬ。

〈13〉 §208 (八43四～43十) 委亦列 亦訥 主舌児扯歹 赤
句当 他的 人 名 你
üiyile inu J̌ürčedei či
仕事を ← 彼の ヂュルチェデイ 汝が

委亦列惕厭者 厭原作別 委亦列都舌侖 主舌児扯歹赤 多ト禿勒周 只舌児吉泥
做 了也者 做 時 人 名 你 衝 着 姓 行
üiyiledbe-je üiyiledürün J̌ürčedei či dobtulǰu J̌irgin-i
行いたる ぞ。 行うに、 ヂュルチェデイ 汝は、 襲いて ヂルギン を、

禿別格泥 董中合亦的 中忽舌里失列木泥 敏中罕禿舌児中合兀的 額舌児乞惕
姓 行 姓 行 人 名 行 千 護 衛 行 繋要 毎
Tübegen-i Dungqayid-i Quri=šilemün-i mingan turqa'ūd-i erkid
トゥベゲン を、 ドンガイド を、 クリ・シレムン を 千の 近衛兵団 を 主たる

扯舌里兀的 不古迭亘 苔舌魯周 也客中豁勒突舌児 古舌児抽 桑古門
軍 毎 都 行 勝 着 大 中軍 行 到 着 人名 的
čeri'ūd-i bügüde-yi daruǰu yeke qol-dur kürčü Senggüm-ün
軍隊 を すべて を 圧し、 大 本隊 に 到り センダム の

昂格思格中合察舌児　兀出馬中合舌児　中合舌児鍐黒撒訥　禿剌　蒙客
紅　腮　箭　名　射　了　的　上頭　長生
enggesge qačar　učumagār　qarbugsan-u　tula　müngke
顴　骨を　ウチュマ箭もて　射りし　故，　永しえの

騰格舌理迭　額兀顛　只羅阿　捏格克迭罷者原作伯　(296)
天　行　門　率曾　被開 了 也 者
tenggeri-de　e'ūden　jilo'ā　negēgdebe~je.
天(の加護)により　命　運の　開けたる　ぞ

〈14〉 §145 (四40一～40三)　額速克斡侖　牙荅周　你刊　也客
馬妳子(得)　不能着　一箇　大
esüg olun yadaju niken yeke
馬乳酒を　得られずして，　一箇の大なる

不舌里額台　塔舌剌黒　帖舌児格捏徹　亦訥　阿不阿楊　額舌児古周　亦舌列罷原作別
器皿中盒来的　酪　車　処　他的　要 了　攫 着 来　来 了
büri'ētei　tarag　tergen-eče　inu　abu'ād　ergüjü　irebe.
器に入れる　乳酪を　車　より ← その　取りて　捧げもち　来りぬ。

札兀舌剌　斡都舌侖　巴　亦舌列舌侖　巴　古温捏　額辞　兀者克迭罷。(297)
其間　去時　并　来 時　并　被人行　不曾　見 了
ja'ūra　odurun　ba　irerün　ba kü'ūn-ne ese　üjegdebe.
途中　行く　も　帰る　も　人　に　見られざりき。

〈15〉 §189 (七9七～9八)　田迭　帖舌里温　帖曰塔亦黒荅舌侖
那　頭　那般　被祭祀時
tende　teri'ūn　teyin　tayigdarun
そこに　頭(こうべ)の　かく　祭らるる時

亦捏主兀　亦捏額罷原作別　客延　塔陽中罕　客木客舌魯格赤乞列兀勒主為。
咲 有来　咲 了　麼道　人名 皇帝　破 砕　践 踏 了
inejü'ū　ine'ēbe　keyēn　Tayang qan　kemkerü　gečikile'ūljü'ūi.
笑いたり。　"笑えり"　とて　タヤン 汗　粉々に　ふみつけしめたり。

(298)

文例〈11〉～〈15〉は，御覧のように，〈11〉の alaɢdarun は後続の結びには alaɢda- は見えず oroǰu'ūį である。〈12〉の二つの neǖ'ügderün に対しても後文に neǖ'ügde- は現われない。〈13〉の üįyiledürün も同様で，〈14〉の odurun, irerün,〈15〉の tayiɢdarun も共に，後続文に -run² に呼応する odu-, ire-, tayiɢda- は見られない。

以上11～15の -run² を見れば，1～10の文例の如く -run² を伴う動詞が後続の主文の動詞と必ずしも同一でなくても -run² が用いられる事が知られる。

この様に -run² は文型の点で異なる二種類のパターンに用いられるが，-run² そのものの意味は，この二種類において異なるわけではなく，共に《～するのに，～する時》と解することが可能である。そして，この二種類のいずれの場合でも -run² は後続文の動作を導く点で共通している。11～15の文例の -run² も高い観点に立って見れば後続文の動作の一種の予告と見られないこともない。

〈11〉の aqa-da'ān alaɢdarun buru'ūdču odču Inanča qan-dur oroǰu'ūį の alaɢdarun《殺されんとするに》は後続の《逃げ行きてナイマンのイナンチャ汗の許に入れり》に対する一種の予告，先告と見られようし，12の bürin-ü ulus abču neǖ'ügderün《諸々の民を取りて移動されとするに》も後続の idqaqu bolun eyin kigdebe《諫め（ることになり）て，かく為されたり》を導くための予告と見て大過あるまい。

上の如く見れば -run² は或る動作を予告的に提示して，その予告の動作が，そのまゝ後に行なわれるか，或いは，その予告の動作との関連の下に後続の動作が展開されると見ることが可能である。

従って，-run² を「予告の副動詞語尾」と呼ぶことは，以上の諸点を考慮しても許されようかと考える。

以上，-run² について従来より詳しく言及したが，この語尾 -run² の本来的用法の文例を，最後に，数例加えて提示しておこう。

〈16〉 §115 (三24七～25四)

帖木真 脱斡舌鄰勤 中罕 札木中合

人名 人名 皇帝 人名

Temüjin To'ōri(n)l qan J̌amuqa

テムヂン, トオリル 汗, ヂャムカ

中忽舌児班 中含禿(揚)抽 篾舌児乞敦 綽舌児中罕格舌児 撋中豁里兀勤周 綽黒台

三箇 相同着 種名的 房子 推倒 着 固姑

gurban qamtudču Merkid-ün čorgan ger čoɢoli'ūlju čoɢtai

三人 力を合わせ メルキド族 の 住み 家を 打ちくだき, 冠をおびたる

額篾宜 阿舌児必剌周 斡舌児中罕 薛涼格 中豁牙舌侖 塔勤中渾阿舌剌剌察

婦人行 携 着 河名 河名 両箇 的 地名 自

eme-yi arbilaǰu Orqan Selengge qoyar-un Talqun=aral-ača

女 を 携え, オルカン セレンゲ 両河 の タルクン 川洲(アラル) より

亦出舌侖 帖木真 札木中合 中豁牙舌児 中含禿(揚)抽 中豁中児中豁納黒主不舌児

退時 人名 人名 両箇 相同着 地名

ičurun Temüjin J̌amuqa qoyar qamtudču Qorqonaɢ=ǰubur

退くり テムヂン, ヂャムカ 二人は 力を合わせ コルコナグの 森(ナニブル) を

勺舌鄰 亦出罷原作佰 脱斡舌鄰勤 中罕 亦出舌侖 不舌峨(中)罕中合勤敦訥

指着 退了 人名 皇帝 退時 山名 的

ǰorin ičuba. To'ōri(n)l qan ičurun Burqan=qaldun-u

指して 退けり。 トオリル 汗の 退くに ブルカン・カルドゥン山 の

格舌魯別舌児 訶闊舌児禿主不舌児荅阿舌鄰 中合察兀舌剌禿速卜赤揚

背後依着 地名 経過 地名

gerü-ber Hökörtü=ǰubur da'ārin Gača'ūratu=sübčid,

北側 を ホコルトゥ 森(ヂュブル) を 経て, ガチャウラトゥ・スブチド,

忽里牙禿速卜赤揚 荅阿舌鄰 戈舌魯延 亦訥 阿把剌阿揚 土兀剌因

地名 経過 野物 他的 打囲 了 河名

Huliyātu=sübčid da'ārin görüyēn inu abala'ād Tu'ūla-yin

フリヤストゥ・スブチドを 経て 狩猟を ←その 巻狩して, トーラ河 の

中合舌剌屯泥 勺(舌)鄰 亦出罷原作佰 (299)

黒 林行 指着 退了

qara tün-i ǰorin ičuba.

黒森(カラトゥン) を 指して 退きぬ。

〈17〉 §165 (五38七～38十) 阿馬舌刺黒 迭額舌列 荅ト中忽舌児

親厚 上面 重

amarag de'ēre dabqur

"親しき 上に 重ねて

阿馬舌刺黒 孛魯牙 客延 成吉思中合罕 薛惕乞周 拙赤迭 亲古門

親厚 做咱 慶道 太祖 皇帝 想着 名行 人名的

amarag boluya keyēn Činggis qahān sedkijü Joči-de Senggüm-ün

親しく ならん" とて チンギス 可汗 思いて チュチに センダム の

朶宜 察兀舌児別乞宜 中忽亦舌侖 桑古門可温 禿撒中合荅 必荅訥

妹子 妹名行 索時 人名的子 人名行 咱的

döyi Ča'ūr=beki-yi guyirun Senggüm-ün kō'ün Tusaqa-da bidan-u

妹 チャウル・ベキ を 乞うに, センダム の 子 トゥスカ に 我等 の

中豁真別乞宜 阿舌刺勤真 斡古耶客延 (中)忽亦阿速……。(300)

女名行 相換 与咱慶道 索呵 ……。

Qoǰin=beki-yi araljin ögüye keyēn guyi'āsu…….

コヂン・ベキ を 換りに 与えん" と 乞はば ……。

〈18〉 §173 (六14八～15三) 孛舌羅中忽勤 帖舌列 兀格突舌児

人名 那 言語裏

Borogūl tere üge-dür

ボログル(の) その 言に

亦舌列額速 中合惕中忽勤都中渾 不列埃 歹亦納 不舌魯為闌 歌多勤迭額速

来呵 斯殺 有来 敵行 躲 動了呵

ire'ēsü qadqulduqun büle'ēi, daiyin-a buru'ūilan ködölde'ēsü

(敵)来らば 合戦すべき なり, 敵に 逃げ 動かられば

必荅 扯舌里吉顔 只ト失額児抽 中合惕中忽勤都惕者 客額周 歌多勤毘原作

咱每 軍自的行 整撚着 斯殺也者 説着 動了

bida čerig-iyēn ǰibši'ērčü qadquldud-ǰe ke'ējü ködölbe.

我等 兵 を(己が) 整え直し 合戦するもの ぞ とて 動きぬ。

歌多魯舌侖 浯勤中灰湿魯格只惕 斡額迭 歌多魯額惕 荅闌捏木舌児格思

動時 水名 水名 逆着 動了 地名

ködölürün Ulquǐ=šilügeǰid ö'ēde ködölü'ēd Dalan=nemürges

移動するに ウルクイ・シルゲルヂド川を 遡りて 動きて ダラン・ネムルゲスに

斡舌羅罷原作伯 (301)
入了
oroba.
入りぬ。

〈19〉 §175 (六18三～18七) 田迭徹 成吉思中合罕
自那裏 太祖
tende-če Činggis qahān
そこ より チンギス 可汗

蒼闌捏木舌児格薛額徹 中合渤中合 忽舌魯兀 歌多魯舌侖 脱斡 脱斡剌勤都罷原作伯
地名 処 河名 順 動時 数 共数了
Dalan=nemürges-eeče Qalqa huru'ū ködölürün to'ō to'ōlalduba.
ダラン・ネムルゲス より カルカ川を 下り 動くに (兵の)数を 数えぬ。

脱斡剌勤都阿速 中豁牙舌児敏中罕 只舌児瓦安札兀惕 孛勤罷原作伯 你刊敏(中)干
共数 呵 両 千 六 百 徹了 一 千
to'ōlaldu'āsu qoyar mingan jirwa'ān ja'ūd bolba. niken mingan
数うれば 二 千 六 百 なりき。 一 千

中忽舌児班札兀惕 成吉思中合罕 中合渤中合因 訶舌列捏只 額帖的耶舌児
三 百 太祖 皇帝 河名 的 西辺 依着
gurban ja'ūd Činggis qahān Qalqa-yin höreneji etēd-iyēr
三 百(の兵), チンギス 可汗は カルカ川 の 西 辺 を

耨兀罷原作伯 (302)
起了
neu̯'ūbe.
移りぬ

〈20〉 §279 (三50六～50八) 巴撒 鳴詁列周 亦舌列舌侖 不古迭捏徹
再 説着 来 都行
basa ügülejü irerün bügüden-eče
又 言いて 来るに "もろもろの物事 より

札木惕 塔勤必兀勤中忽 委亦列 拙別額徹 勺卜 都舌剌惕中合主為 客額周
站駅 放的 事 是行 是 提説了 説着
jam-ūd talbi'ūlqu üi̯yile jöb-eeče jöb duradqaju'ūi̯ ke'ējü
駅站 を 置かしむる 仕事 正しきより正しく 提言せり" と云いて

亦舌列主為。(303)
来了有
**ireǰü'üi.**
来れり。

この追加5例は -run² の本来の用法を示したが，〈19〉のみは〈18〉の kö-dölürün と対照させる意味で第二の用法の ködölürün を示した。

### §6 副動詞語尾 -ūta

現代のモンゴル語のハルハ方言などに時たま見られる副動詞語尾 -yyr² は秘史の言語に一例ではあるが見出される。§103の「兀中合兀塔」は uqa- と -'ūta に分析されよう。§103の文を以下に示そう。

§103 (二49九～50三) 帖木真 帖迭中忽児班篾児乞楊 馬中合楊

人名 那 三箇 種名 実

Temüjin tede gurban Merkid magad

テムヂン "彼等 三 メルキド族 まこと

格亦楊禿舌里顔 阿只舌剌罷〈由〉 不克抽兀阿梅客延 別勤古台 孛斡児出

家 自的行 回了 有 伏了 有 慶道 人名 人名

geyid-tür-iyēn aǰirabaį-ū büğčü-ǖ amuį keyēn Belgüteį, Bo'örču,

住家 に ← 己が 帰りし か, ひそみ てかある," とて ベルグテイ, ボオルチュ,

者勤篾 中忽児巴泥 篾舌児乞敦 (中)豁亦納察 兀中合兀塔 中忽児班 中豁那黒

人名 三箇 行 種 名 後 自 察 探 三 宿

J̌elme gurban-i Merkid-ün qoyin-ača uqa'**ūta** gurban qonoG

ヂュルメ 三人 を メルキド族 の 後 より 探索がてら 三 宿

荅中合温勤周 篾舌児乞的 孔客温勤周 帖木真 不児中罕 迭額舌列扯

随 着 種 名 離遠 着 人名 山名 上 自

daGa'ūlju Merkid-i küngke'ü(n)ljü Temüjin Burqan de'ēre-če

従わしめ メルキド族 を 遠ざけしめて テムヂン, ブルカン山 上 より

保兀周 額(ト)徹兀邊 抹額列楊抽 鳴詁列舌論……。(304)

下着 背 前自的行 椎 着 説 ……。

bau'ūju ebče'ǖ-bēn mö'ēledčü ügülerün…….

下りて 胸 を(己が) おさえて 云うのに ……。

この uqa'ūta については従来の秘史研究者の何人からも何等の言及がないが，これは uqa-'ūta と分析し，この -'ūta が上述の -ууr² の前身であると解すれば，文脈上，見事に読むことができる。-ууr² については，(8) モンゴル科学アカデミーの編になる書物の p. 177 に

Далимдах нөхцөл үйл үг

Үйл үгсийн үндсэн дээр „-нгуут, -нгүүт", заримдаа „-уут, -үүт" нөхцөл залгаж далимдах нөхцөл үйл үгийг үүсгэнэ. Гийгүүлэгчээр төгссөн үгэнд „-нгуут, -нгүүт" -ийг залгавал өмнө нь эгшиг жийрэглэнэ. Жишөө нь: Харай+нгуут—*харайнгуут*, эргэ+нгүүт—*эргэнгүүт*, үз+үүт—*үзүүт*, гар+уут—*гаруут*.

Далимдах нөхцөл үйл үг „ирэнгүүтээ, явангуутаа" гэх мэтээр ерөнхийлөн хамаатуулахын зүүвэр авах ба, ирэнгүүт минь, явангуут чинь, явангуут нь гэх мэтээр биеийн хамаатуулах зүүвэр авч 1, 2, 3-р биеийн алинд хамаатай болохыг заана.

Далимдах нөхцөл үйл үг өгүүлбэрт хэрэгэлэгдэхдээ тухайн үйл хөдлөлийг гүйцэтгэмэгц дараагийн үйл явдал залган болох санааг илтгэнэ. Иим утгаар хэрэглэгдэхдээ хоёр үйл явдал нь тус тусдаа эзэнтэй ч байж болно. Жишээлбэл:……中略……*Харангуут нүдээ дарав.* (Ч. Лх.) *Михаил идэж байсан хэрчим талхаа ширээн дээр салам шидэж хөвөнтэй дээлээ* **нөмрүүт** *ухас хийн гарав.* (З. Б.)

Бас далимдах нөхцөл үйл үг тухайн үйл явдлыг гүйцэтгэх зуураа дараагийн үйл явдлыг гүйцэтгэх санааг илтгэсэн байж болно. Ийм утгаар хэрэглэгдэхдээ хоёр үйл явдлыг гүйцэтгэх эзэн нь нэг байна. Жишээбэл: *Сайн явж ирсэн ганц морь маана л эцэж ирлээ гэж цай* **хийнгүүт** *хариу хэлбэл…*(Б. Р.) *Дэндэв* **явангуут** *эргэж хараад одоо яая гэх вэ…гэв.* (Ц. У.) 後略。

現代のハルハ方言や内蒙古の若干の方言では -нгуут², -yyт² として用いられ，大きく二つの意に用いられ《～するとすぐ》の意と《～する傍ら，～する一方，～がてら》の意を表わす。

内蒙古大学の蒙古語文研究所の編になる Odo üy·e-yin mongɢul kele《現代モンゴル語》[(9)] には -ngɢūta² の記述はあるが -yyт² に当る -ɢūta² は記されていない。しかし，この書物にも

> ene《-ngɢūta·-nggūte》 jegübüri-teị dalimdaɢulqu nöküčel-iyer ɢool ni, nige üịle-yi güịčedkekü-yin dalim-iyar nögüge üịle-yi kičigekü-yi jiɢan·a, basa jarim-daɢān, tuqaị-yin üịle-yi güịčedkekü bayidal-taị bolqu-taị jerge ögēr·e nigen kereg oru door·a-bān bolqu-yi jiɢadaɢ.

の如き記述が見られ，-ngɢūta (-нгуут)～-nggūte (-нгуут) の表わす意味については同様の解説が見られる。

さて，問題の uqa'ūta の -'ūta は文語形なら -ɢūta，ハルハ方言の形なら -yyт で現われるので，その文脈上の意味から見て，この -yyт の前身と見て過りあるまい。uqa'ūta は

> Merkid-ün qoyina-ča uqa'**ūta** ɢurban qonoɢ daɢa'ū(n) ju……
> メルキト の 後 から 探索する一方， 三 泊 従行せしめて

上のように《入念に吟味し探索する傍ら；探索する一方》，さらに簡潔には《探索しながら》と解することが可能である。

現代の話し言葉の知識が秘史の言語の研究にも有用である一例と言えるが，次の -qu(ị)ača² も現代語の知識によって解決される事例である。

**§7. -qu(ị)²-ača² について。**

この -qu(ị)²-ača² は単純な副動詞語尾ではないが秘史蒙古語では“副動詞的”に用いられているので，こゝで記しておく。

§248 (十6二～6七)

阿勒壇 中罕 王京丞相温 額捏 兀格
金 皇帝 人名的 這 言語
Altan qan Ongging Čingseng-ün ene üge
金国の 汗は オンギン・チンサン の この言を

勺卜失耶周 額因 孛額惕 孛勒禿中孩 客延 額勒先 成吉思中合阿納
道是着 這般 便 做者 慶道 帰附 太祖 皇帝行
jöbišiyejü eyin bö'ēd boltuɢaị keyēn elsen Činggis qa'ān-a
是とし, "かく ぞ あれかし" とて 和し, チンギス 可汗 に

公主捏舌列台 斡乞 中合舌児中合周 阿勒壇 蒙昆 阿兀舌剌孫
名字有的 女子 出着 金 銀 段匹
Güngjü neretei öki ɢarɢaju altan münggün a'ūrasun
公主なる名の 乙女を 出し, 金 銀 絹段,

額惕塔巴舌児 扯舌里昆 古兀捏 古出捏 箴迭兀侖 荅阿中灰阿察
財物 軍 人行 気力行 教知了 儘力拿的行
ed tabar čerig-ün kü'ün-e küčün-e mede'ülün da'āquị-ača
財物を 軍(いくさ)(の) 人(ひと)に, 力に 統べ 耐えるほどに

中都阿察中合舌児中合周 成吉思中合罕突舌児 王京丞相 古舌児格周
大都処 出着 太祖 皇帝行 人名 送着
Jundu-ača ɢarɢaju Činggis qahān-dur Ongging Čingseng kürgejü
大都 より 出して チンギス 可汗 に オンギン・チンサン とどけ

亦舌列罷原作伯 (305)
来了
irebe.
来りぬ。

§244 (十27三～27十)

中合撒舌児 朶羅安 晃中豁塔納 斡箴舌列周
太祖 七箇 種名 行 党 着
Qasar dolo'ān Qongqotan-a ömērejü
カサル "七 コンコタン に 群がりて

札你赤黒荅阿 客延 成吉思中合阿納 莎歌都額速 成吉思中合罕
被打了 慶道 皇帝行 跪告呵 太祖 皇帝
ǰančiɢda'ā keyēn Činggis qa'ān-a sögödü'ēsü Činggis qahān
打たれたり" とて チンギス 可汗 に 跪づかば, チンギス 可汗,

不速惕途舌児　乞靈剌周　阿中忽敦荅　客列列古　孛侖　成吉思中合罕
別的 每行　怒 着　有 中間　説 的　做　太祖 皇帝
busud-tur　qilinglaju　aqu dunda　kelelekü　bolunn　Činggis qahān
他なることに　怒り　ある さ中に　話すこと　たりて　チンギス 可汗

乞靈都舌里顔　中合撒舌里　鳴詰列舌論　阿米禿荅　兀禄　亦剌黒荅中忽阿察
怒 真自的行　人名 行　記　性命有的行　不　被勝 了有行
qiling-dur-iyān　Qasar-i　ügülerün　amitu-da　ülü　ilaɑdaqu-ačа
怒りにて ←己が カサル(の事)を　言うに　"生あるもの に　敗れざるほど

不列額 赤　客舌児亦剌黒荅阿　赤　客額克迭周　中合撒舌児　你勤不速　阿勤荅阿惕
有来 你　怎 生 被勝 了　你　被説着　人 名　涙　堕 了
bülü'ē či,　ker ilaɑda'ā　či　ke'ēgdejü　Qasar　nilbusu　alda'ād
なりき 汝,　なんぞ 敗れたる　汝"　と云われ　カサル　涙を(思はず) 流し,

孛思抽　約舌児赤周　中合撒中児　馬危剌周　中忽舌児班　兀都舌児　額薛
起着　去 着　人 名　慎 悩 着　三　日　不曽
bosču　yorčiju　Qasar　ma'ūi̯laju　gurban　üdür　ese
起ちて　行きて,　カサル　悩みて　三　日　来(きた)らざ

亦列甚原作別　(306)
来了
irebe.
りき。

## §254 (十21八～22四)

成吉思中合罕　札(舌)児里黒　孛魯舌侖
太祖 皇帝　聖 旨　做
Činggis qahān　jarlig　bolurun
チンギス 可汗　勅 す る に

中合敦　別舌児　古温　孛額速　也遂因　兀格　拙別〈徹〉勺卜　客惕別児
娘子　也　人　有呵　婦人名的　言語　是 上 是　任 誰
qatun-ber　kü'ūn　bö'ēsü　Yesüi̯-yin　üge　jöb-eče　jöb,　ked-ber
"女　人　にありても　イエスイ の 言,　是 より 是なり　誰人も

迭兀担舌児　可兀惕　塔　別舌児　孛斡(舌)児出　木中合里壇　額因　額薛
弟 每　児子每　您　也　人 名　人 名　遵般　不曽
de'ū-ner　kö'ūd　ta-ber　Bo'örču　Muqali-tan　eyin　ese
弟 達,　子達,　汝等 *も　ボオルチュ,　ムカリ *等(も)　かく　言を提

都舌剌揚中合罷原作伯　必別舌児　兀舌里都昔　兀禄　兀荅阿舌剌(中)灰阿察
提 説 了　我 也　祖宗 行　不　随後的 行
duradqaba.　bi-ber　uridus-i　ülü　uda'āraquį-ača
せざりき。　我 は　祖宗 を　継がざるもて

兀馬舌児塔周　阿主兀　兀窟良額　兀禄　額舌魯思帖古耶徹　穏揚舌剌周
忘 了 着　有来　死的行　不　被 得 着　睡 着 着
umartaju　aǰu'ū,　ükülenġ-e　ülü　erüstekü̱i-eče　untaraju
忘れて　ありき,　死 に　到られざるもて　眠りて

阿主兀　客額額揚　可兀敦　米訥　阿中合　拙赤備者　牙兀　客額木　赤
有来　説 了　児子毎　我的　長　人名 有也者　甚　説有　你
aǰu'ū　ke'ē'ēd　kö'ŭd-ün　minu　aqa　J̌öči　büį-je,　ya'ū　ke'ēmü　či
ありき"　とて　"子達 の ←わが　長は チョチ なる ぞ,　何　と云う　汝,

客列列　客額罷。(307)
説　説 了
kelele　ke'ēbe.
申せ"　と云えり。

上の§248の da'āquį-ača, §244の ilaġdaqu-ača, §254の uda'āraquį-ača, erüstekü̱i-če については，従来，正確に読まれていない。その理由は上の -qu(i)-ača² が理解されていないからである。

-qu(i)²-ača² は現在・未来の形動詞語尾 -qu(i)² に奪格語尾の -ača² が添加された形であるが，この形が意味する《～することから》或いは《～することによって》の意を以てしては上の§248, §244, (§254) の文は訳読はできない。

ここでも，現代のハルハ方言の -хуйц² が，この問題を解決してくれる。

この -хуйц²——文語形で書けば -quyiča²——については，次の様な記述が見られる。(10)

Ирээдүй цагт, хир хэмжээ заах үйлт нэр

Үйл үгийн үндсэн дээр „-хуйц/-хүйц" нөхцөл залгаж ирээдүй цагт, хир хэмжээ заах үйлт нэрийг үүсгэнэ.……後略。

そして，文例として4例が示されているので，その2例のみをこゝに挙げておく（『全釈続攷（下）』には4例総てを挙げておいた）。

*Ажил маань* **мэдэгдэхүйц** *сайжирч байна.*

*Чиний нас ийм юмыг* **ойлгохуйц** *болсон доо.*

現代の文語の例を，二，三つけ加えておこう。(11)

1. üge-yi-ni itegejü bolquyiča mergen kümün dā.
2. ene keüked cobi-yin malčid-un dotor·a-ača segül-ün kedün jil-dü mal-iyan qamuc-un jišiy·e bolquyiča sayin-iyār mallaju, qamuc-un türgen-iyēr öskegsen yum bayin·a
3. kijü čidaquyiča ajil bayin·a dā.
4. erdem sorquyiča keüked bayin·a dā.

この -quyiča$^2$ の表わす意味とその形は，明かに，秘史の言語の -qu(j)$^2$-ača$^2$ の後身と認められる。

§248の da'āquj-ača は da'ā-《耐える》に -quj-ača が接尾されて《耐える限り，耐えるほど》の意と解すれば，この文意は明瞭であり，§244 の ülü ilaqda- qu-ača も《(生あるものには) 勝たられない（即ち“負けない”）ほど》の意味である。しかし，§254の -quj$^2$-ača$^2$ はこの語尾構成の表わす意味そのもので十分理解可能であって，上の二例の如く -qu(j)$^2$-ača の示す特殊な意味を適用する必要はあるまい。『全釈続攷（下）』p. 289，註 (8) で述べたことを変える必要はない。

しかし，ここでも -qu(j)$^2$-ača$^2$ を上の二例と同様の意として読むことも可能と思える。bi-ber uridus-i ülü uda'āraquj-ača umartaju aju'ū, ükülenge-e ülü erüsteküj-eče untaraju aju'ū を“祖宗の人々にひき続かないほどに忘れていた”と解し“祖宗の人々に続かない”とは“祖宗の人々と同様に死ぬことはない”と見れば“祖宗の人々は死んで行ったが，その種のことは自分の身には引きつゞいて起ることはないとするほど死を忘れていた”とパラフレーズして読めないこともなかろう。そして，次の句も“死ということなどには全

く乗ぜられないほど，（死に対する思いが）眠っていた” と読もうと思えば読めなくはなかろう。

筆者は，現在でも『全釈続攷』で述べた考察を変更するものではないが，現代語に残る -quį²-ača² の特殊の意を適用しても，多少の無理はあるものの，その解も或はあり得ようかとの上に立って，その可能性を述べてみた。

*　　*　　*　　*　　*

なお，現代語に見られる -хуиц²，-quyiča² は形動詞的にも副動詞的にも機能するので，モンゴルの学者は，この語尾を形動詞語尾の一つと認めていることをこゝに附記する。

以上，秘史蒙古語に見られる総ての副動詞語尾の記述を終えたが，現代のハルハ方言等々，及び現代の文語に見られる副動詞語尾（文語形を示す）-baču²，-qulā²，-maǥča² などの諸語尾は秘史蒙古語には見られず，これ等諸語尾は後世の発達になるものと考えられる。

**第五講の註**

（1） 巻一，巻二以外では巻三に1例，巻四に2例，巻六に1例，巻八に1例，巻十に2例の合計7例である。

§108（三11七）古舌児別速 kürbēsü〈到呵〉
§136（四18七）札阿巴速 ǰa'ābasu〈告呵〉
§146（四46一）阿撒黒巴速 asaǥbāsu〈問呵〉
§185（六51一）擺亦巴速 baį̈yibāsu〈立呵〉
§199（八8六）阿巴剌巴速 abalabasu〈囲猟呵〉
§238（十13三）亦列別速 ilebēsü〈去呵〉
§242（十23十）客額別速 ke'ēbēsü〈説呵〉

以上の7例である。

さて，-āsu² の用例は秘史全巻を通して極めて多く，それに比して -bāsu² は20例に過ぎないので，-āsu² と -bāsu² の間に何等かの用法上の相違が，かりにあるとしても，それを探るのは至難と思える。しかし，こゝで -bāsu についての特色を以下に述べておく。先ず第一は，本文で述べた様に20例の中，13例が巻一，巻二に集中していること，第二に -bāsu² 20例の17例までが，いわゆる “地の文” において用いられいるという事実である。対話文の中に用いられている qorǥobāsu（文例8）と ögbēsü（2回，文例9）はともに当時の俚諺を述べたところに見られるものであ

る。この様な事実から見ると，-bāsu は秘史の言語の当時すでに，古風な文語的色彩を帯びに形であったのではなかろうか。そして，一般的には -'āsu² の方が通行していたものと考えられる。

(2) -Gsabār²～Gsaɢār² の形は完了形動詞語尾の -Gsan² の -n をもたない -Gsa² に -bār が接尾して成立したものと見られる。-Gsan² に -iyār の接尾した -Gsaniyār に由来するのが，現代のハルハ方言などに見られる -cнaap⁴ であろうと思われる。

-Gsa² そのものの確実な使用例に筆者は未だ接したことがないが，-Gsabār² は17世紀の著者不明の Altan Tobči においてかつて目堵した記憶がある。それを書きとめて置かなかったので，こゝに例示し得ないのを遺憾とする。(時を得て調べて見たい)

(3) 〔P. W. M〕 の p. 180 に次の如く見える

658. As remarked in § 657, many converbs are fossilized forms of oblique cases of verbal nouns.

The *converbum finale* ending in -r-a is the dative-locative (suffix *-a*) of a noun ending in *-r* (cf. *amur* "peace, rest" from *amu-* "to rest"). Originally such forms answered the same question as the dative-locative, e. g., ider-e now "in order to eat"—formerly "to the eating" or "toward the eating": It should be remarked that this converb corresponds, from the point of view of meaning, to the dative-locative in *-a* of the *nomen futuri* in *-quị*, e. g., *saɣur·a=saɣuquị-a* "in order to sit"

(4) I. J. Schmidt, Grammatik der Mongolischen Sprache, St. Petersburg. 1831, p. 56.

(5) Александр Бовровников, Грамматика Монгольскаго Языка, Санктпетербургъ. 1835, p. 60.

(6) Алексей Вовровников, Грамматика Монгольско-калмыцкаго Языка, Казань. 1849

(7) 〔P. W. M.〕 p. 98 の 380. 及び 658.

658. には次のようにある。

The same can be said of the *converum praeparativum* in *-r-un*. The latter was originally a genitive (suff. *-un*) of a noun ending in *-r* (cf. supra). Thus, *amitan-i ǰobaɣulur-un kilinče üịleddügsen amuị* "He committed sins by causing sufferings to living beings," originally was "He committed sins of tormenting living beings." It should be added, however, that the genitive served in Ancient Mongolian or in Common Altaic both as genitive and instrumental.

ポッペ教授のこの記述の大筋には異論はないが，古代蒙古語で genitive が instrumental にも機能したとの確実な例証を筆者は残念ながら知らない。

(8) БНМАУ Шинжлэх Ухааны Академи, Орчин цагийн Монгол Хэл Зүй (現

代モンゴル語文法》, Улаанбаатар, 1966.

(9) Öbür Mongɢul-un yeke surɢaɢuli-yin Dumdadu ulus-un kele bičig udq·a ǰokiyal-un salburi-yin mongɢul kelen-ü tasuɢ, Odu üy·e-yin mongɢul kele, degedü debter, dooradu debter《現代モンゴル語, 上・下》呼和浩特, 1964.

(10) 註 (8) の書の p. 162. 参照

(11) Nasunbayar, Qaserdeni, Sečen čoɢtu, Dawādaɢwa, Türgen, Naranbatu, Orčin Čaɢ-un Mongɢul kele《現代モンゴル語》呼和浩特 1982. p. 327 参照及び 註 (9) の書の p. 813 参照

# 付録　再考すべき若干の章句（一）

筆者は1984年から1989年にかけて『元朝秘史全釈（上・中・下）』，『元朝秘史全釈続攷（上・中・下）』の全六巻を江湖に送り，識者の批判を仰いだ。その後，現在に到る数年の間に，秘史の若干の章句に関し，筆者自身，従来と異なる見解をもつに到った個所が生じている。ここでは，その中の若干を述べて筆者自身の従来の見解との対比の上で考えて見たい。

## （一）

先ず最初に§254の次の語句を再考したい。

§254（十24五～24八）　帖亦木 察黒突(舌)児 古薛周 額薛 迓歩罷者

那般 時 裏 思想着 不曽 行了 也者

teyimü čag-ḍur küsejü ese yabuba~je

そのような 時 に 希んで いなかったのだ

古舌魯勒扯恢突舌児 孛勒罷者 不舌魯兀揚抽 額薛 迓歩罷 不勒中合勒都中灰突(舌)児

相 遇 時 做了也者 躲 着 不曽 行了 斯 殺 時

kürülčekü̱-dür bolba~je, buru'ūdču ese yabuba bulɢalduqu̱-dur

到り合う時 に 起ったのだ。 逃げかくれはしなかった 争い合いの 時に

孛勒罷者 阿馬舌剌周 額薛 迓歩羅者 阿剌勒都中灰突舌児 孛勒羅者。

做 了也者 相 愛 着 不曽 行了者 斯 殺 時 做了也者

bolba~je, amara̱ju ese yabuba~je alalduqu̱-dur bolba~je.

起ったのだ。 愛してはいなかったのだ。 殺し合う 時に 起ったのだ。

この文章は

teyimü čaɢ-tur

( küsejü ese yabuba~je
  kürülceku̱-dür bolba~je

( buru'ūdču ese yabuba
  bulɢalduqu̱-dur bolba~je

( amaraǰu ese yabuba~je
( aralduquį-dur bolba~je

上の如く kü-, bu-, a- で頭韻をふんだ二行毎の韻文として読むべきことは確実であり，筆者は，この六行の韻文を『全釈続攷（下）』の p. 279 の総訳で

かかる時に（かのこと起れり）
望みあらざりしぞ（ボルテ妃は）
争い到り合う時に，起りしぞ（かのこと）。
身を逃がれて行かざりしぞ，
闘い合う時に，起りしぞ（かのこと）
愛し行かざりしぞ，
殺し合う時に，起りしぞ（かのこと）。

上の様な訳文を与え，p. 297 の註（13）で
“（ボルテ妃は）希んでいなかった，
到り合う時に，（ある事件が）起ったのだ”
“（ボルテ妃は）逃げはしなかった，
争い合う時に，（あの事件が）起ったのだ”
“（ボルテ妃は）愛していなかった（他の男を），
殺し合う時に，（ある事件が）起ったのだ”。
このように敷衍して述べている。しかし，今一度原文を熟視すると，küseǰü ese yabuba, buru'ūdǰu ese yabuba, amaraǰu ese yabuba の三句を《望みあらざりしぞ，希んではいなかった》，《身を逃がれて行かざりしぞ，逃げはしなかった》，《愛し行かざりしぞ，愛してはいなかった》と解することの他にも読み方があるとの考えに達したからである。

küseǰü ese yabuba~je を《望みて，（かく）行かざりしぞ》即ち《望んで（も），（その通りには）行かなかったのだ》と読んで，そして buru'ūdǰu ese

yabuba を《身を躱(のが)れて，(かく) 行かざりき。逃げて (も)，(そうは) 行かなかった》と読み，amaraju ese yabuba-je を《愛して，(かく) 行かざりしぞ。愛して (も)，(そうは) 行かなかったのだ》と読むのである。

即ち teyimü čag-tur《かゝる時に》——とは，この上文から知られるように“天地動転の戦時擾乱の時に”の意——すべて，意志に反して，ボルテ妃の思っても見なかったことが起ったという事実をココチョスはヂョチ，チャアダイの二人に向って心から諫めたのである。

このように，

| | |
|---|---|
| küsejü ese yabuba-je | 望みて，(かく) ゆかざりしぞ， |
| kürülčeküi-dür bolba-je | 争い合う時に起りしぞ (かのこと)。 |
| buru'ūdču ese yabuba (-je) | 躱(のが)れて，(かく) ゆかざりしぞ， |
| bulcalduquį-dur bolba-je | 闘い合う時に起りしぞ (かのこと)。 |
| amaraju ese yabuba-je | 愛して，(かく) ゆかざりしぞ， |
| alalduquį-dur bolba-je | 殺し合う時に起りしぞ (かのこと)。 |

上の一文を読み改めたいと現在では考えている。

## (二)

§183 (六45六～46五)

| 王中罕突舌児 | 額勒臣 | 亦列牙客延 | 額耶禿周 |
|---|---|---|---|
| 人名　行 | 使臣 | 差　暗懸道 | 商量　着 |
| Ong qan-dur | elčin ileyē | keyēn | eyetüjü |
| 王　汗　に | 使者を 遣わそう | と(云って) | 相談し |

| 沼兀舌里耶歹 | 中合里兀荅舌児 | 兀中良中合歹 | 察兀舌児中罕 | 中豁牙舌里牙舌児 |
|---|---|---|---|---|
| 種 | 人名 | 種 | 人名 | 両箇行教 |
| Jeü'ūriyedei | Qali'ūdar | Uriyangqadai | Ča'ūrqan | qoyar-iyār |
| ヂュウウリイェ氏の | カリウダル， | ウリヤンカ氏の | チャクルカン | 二人　をもって |

| 鳴詁列周 | 亦列舌侖 | 中罕額赤格迭 | 中合撒舌侖 | 兀格客延 | 鳴詁列湯坤客延 |
|---|---|---|---|---|---|
| 説　着 | 去　時 | 皇帝　父　行 | 人名　的 | 言語　慶道 | 説　您　慶道 |
| ügülejü | ilerün | qan ečige-de | Qasar-un | üge keyēn | ügüledkün keyēn |
| 話し | 遣わすのに | “汗なる　父　に | 「カサル　の | 言葉」と云って | 言え”　と(云って) |

鳴詁列舌論 阿中合顔 中合舌剌周 中合舌剌阿亦訥 札ト中合罷 中孩亦周
説 兄 自的行 望 着 形 影 他的 不見 了 踏 着
ügülerün aqa-yān qaraju qara'ā inu jabqaba, qaiyiju
言うのには 「兄を(自分の) 望見し 姿を ← その 失った, 探し尋ねて

中合兀魯中合 亦訥 斡侖 牙荅罷原作伯 中孩亦剌周 擣兀班 額薛
道 路 他的 得 不能了 叫 着 声 自的行 不曽
qa'ūluga inu olun yadaba, qaiyilaju daụ'ū-bān ese
路跡を ← その 見つけ かねた, 叫び呼んで 声 を(自分の)

莎那思荅罷原作伯 豁惕 中合舌瞰周 兀舌児邦 迭(舌)列禿 孛勒周 格ト帖木
被聴得了 星毎 望 着 (ナシ) 枕頭有的 倣着 臥 着
sonosdaba, hod qaraju urbang deretü bolju gebtemü
聞かなかった, 星を 望見して 草木の根の 枕をもつことに なり 臥した

必 額篾可温 米訥 中罕 額赤格突舌児備 亦帖兼只 額舌列延
我 妻 子 我的 皇帝 父 行 有 倚 伏 指 望
bi eme kö'ūn minu qan ečige-dür büị itegemji ere-yēn
私は, 妻 子は ← 我が 汗なる 父の 処に いる, 信じられる 男 を(自分の)

斡魯阿速 中罕 額赤格突舌児 斡惕中忽 必 客額周 亦列羅原作伯 客延
得 呵 皇帝 父 行 去 我 説 着 去 了 懇道
olu'āsu qan ečige-dür odqu bi ke'ējü ilebe keyēn
得れば 汗なる 父の 処に 行きます 私は」と(云って) 遣わした と(云って)

鳴詁列惕坤 巴撒 鳴詁列舌論……。
説 您 巴 説 ……。
ügüledkün basa ügülerün …….
言え," 又 言うのに ……。

上記§183の「客延 鳴詁列惕坤」は，その文脈から見て，二語上の「斡惕中忽必」の次に置かれねばならないことは，夙に那珂通世博士によって実行されていた（服部四郎博士はこれについて，すでに『H. G. K.』の p. 9 において指摘された)。筆者は那珂博士の，この改定の上に立った訳文「……我が妻子は，罕額赤格の処にあり。信頼を望み得ば（明訳若差一箇可倚伏的人来呵)，罕額赤格(かんえちげ)の処に往かん，我」と言へ」と云ひて遣りぬ。又言はく……」（〔那・実〕p. 215) を見逃して「客延 鳴詁列惕坤」の位置をそのまま読んで，誤訳を施した。ここに，〔那・実〕に従って「客延 鳴詁列惕坤」を「斡惕中忽 必」

の次に移して《"……「汗なる父のもとに行かん我」と云え" とて遣わしぬ》と改訳することにしたい。

*　　*　　*　　*　　*

次に，文中の eme kö'ün minu qan ečige-dür büi《わが妻子は汗のもとにあり》に連らなる「亦帖兼只額𠯿列延　斡魯阿速」についてである。

筆者は，この句を《信ある男を得れば》と解した（『全釈続攷（上）p. 181)。これは「額𠯿列延」を傍訳の〈指望〉に依らず，総訳（上記の実録の明訳参照)に従って itegemji ere-yēn と解した上での訳解である。筆者はこの解と共に，もう一つの可能性をここに指摘したい。

それは「額𠯿列延」を傍訳に従って〈指望〉と解する訳解である。筆者は『全釈続攷（上)』(p. 183）においても動詞語幹 *ere- の存在は十分考慮できると記したが，動詞語幹 ere- は秘史巻十，23葉，十行目の「額𠯿列周〈指望着〉」の ere- に実証される（前著に於て，この ere- を見落したのは筆者の不注意である)。傍訳も〈指望〉であって，本節の「額𠯿列延」に対する〈指望〉と等しい。この ereyēn は ere- から作られた実詞と見て過りはない。問題は itegemji ereyēn olu'āsu qan ečige-dür odqu bi の itegemji ereyēn olu'āsu を如何に解するかである。

itegemji は《信頼，信任》を意味する語で，現代でも用いられる一般的な語で問題はないが，ereyēn はその意を考えて見えばなるまい。

前述したように，ere- が用いられている§254（十23十）の「額𠯿列周」を調べて見る。

§254(十23九～十23十)

| 中罕 | 額赤格 | 赤訥 | 可兀敦 | 朶脱𠯿剌 | 赤馬荅 | 額𠯿列周 | 不列額。 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 皇帝 | 父親 | 你的 | 児子每的 | 裏 | 你行 | 指望着 | 有来 |
| qan | ečige | činu | kö'ūd-ün | dotora | čimada | ereǰü | büle'ē. |
| 汗なる | 父は | ←汝の | 子達 | の | 中で | 汝に | 望みを託している。 |

この文脈に見える ere- は《嘱望する，期待する，望みを託する》ほどの意と思われる。傍訳の〈指望〉も，これを支持する。文語の eremelje-，ハルハ方言の эрмэлзэ- も

〔内・蒙・漢〕 eremeljekü 〔及〕 期望，企望，渴望，指望，盼望，希望。

〔Ц. М. Х.〕 эрмэлзэх 1. хүсэх ээрэх, горилох; *малчдад гарын авлага*
望む，希望する，期待する　牧民達に　手　引きに
*болох нэг зүйл бичихийг би эрмэлзэж байна* 2. эрэмцэх
なる　一つの ものを　書くことを　私は　希んで　いる。　熟考する

語幹 ere- に接辞 -melje- が附されて作られた語であること確実である。

このように見れば，この ereǰü büle'ē の ere- が《希みを託す，期待する》の意として用いられたと見ることは問題あるまい。この ere- から作られた実詞が ereyēn<*eregēn である。

そこで，問題の itegemǰi ereyēn olu'āsu であるが，直訳すれば《信頼・期待（或いは‘願望’）を得るならば》となる。ここで考えねばならないことは“誰が olu'āsu”なのかということである。換言すれば olu'āsu の主体は王汗なのかカサルなのかということである。王汗を主体と見れば，この文を“あなた（即ち王汗）が私（即ちカサル）に対し”《信頼・期待を得るならば》と読めないこともなかろう。又，olu'āsu の主体をカサル自身と見れば《(私があなたの）信頼・期待を得るならば》と読むことが可能と思える。筆者は，この後者を選びたい。

というのは，この句 itegemǰi ereyēn olu'āsu を含む文は，カサルの言であり，その前後には，一貫して，この発話の主体者として「必〈我〉」が見られるからである。即ち hod qaraǰu urbang deretü bolǰu gebtemü **bi**, eme kö'ün **minu** qan ečige-dür büi, itegemǰi ereyēn olu'āsu qan ečige-dür odqu **bi** keyēn ügüledkün を見ると **olu'āsu** の主体は「必」bi《我》となすべきであろう。**itegemǰi ereyēn olu'āsu**《信頼・期待を得るならば（私が）》は別の表現をすれば，“あなた（王汗）が私を信頼して下さるならば”とも見

られるから，意味の上からすれば，上の二つからの撰択は大きな問題ではないとも言えようか。

とまれ，この「亦帖兼只　額𠑊列延　幹魯阿速」は『全釈続攷（上）』p. 183で示した見解とここに示した見解の二つの可能性があることをここに記して，そのいずれをとるかは，更に考究さるべき問題として今後に委ねたいと考える。

*　　*　　*　　*　　*

以上，『元朝秘史全釈（上・中・下）』及び『元朝秘史全釈続攷（上・中・下）』に開陳した数々の見解の中から，現時点において再考を試みたい事項の二項について言及した。この他にも，まだ言及すべき章句が少なからず残っているが，それ等についても早い機会に，何等かの形で言及したいものと思っている。

# 元朝秘史蒙古語辞典

# 検索上の注意

## 1 収録語について

『元朝秘史』に現れる語のうち，固有名詞を除いた，総ての語を収録した。

## 2 見出し語の配列順について

1. 漢字そのものの順序ではなく，各漢字のローマ字転写の順で配列した。
2. 各項目の並び順は次のようなアルファベット順である。

   a e i o ö u ü b č d g h ǰ k l m n q G s ts t y
3. 各項目の中での見出し語の並び順は次のようなアルファベット順である。

   a b č d dz e g G h i ǰ k l m n o ö q r s š t u ü y
4. 各漢字音毎のアルファベット順なので，例えば「阿卜荅-」(abda-) の方が「阿把」(aba) より前に置かれる。これは漢字「卜」(b) が漢字「把」(ba) より前置されるからである。
5. 漢字のローマ字転写の順で配列したので，漢字面では区別がなくても，ローマ字転写では区別して別々に扱っている。即ち，同じ漢字でも異なった場所に現れることがある。例えば「中合勤-」(qal-) はqの項，「中合勤」(Gal) はGの項に見られる。oとö，uとü，稀にaとeに関しても同様である。
6. 「亦」「引」「因」は，それぞれ語頭でi，in，in，母音の後でyi，yin，yinとし，配列順もこれに従った。
7. 「-温勤-」(-ūl²-)〈使役語尾〉，「完勤者」(ö(n)lǰe)《吉祥》などの場合の「温」や「完」は，それぞれū²，o²と読まれるものであるが，-ūn²-，on²の位置に置いた。
8. 原本の誤写と思われるものは，正しいと思われる漢字に従って並べた。例えば「亦剌兀泥」(ila'ūn-i) は「赤剌兀泥」(čila'ūn-i)《石を》の誤りと認めてčの項に配列した。
9. 同形のものは，名詞，動詞の順に配列した。「脱列」(töre)《制度，道筋》は

「脱舌列-」(töre-)《生れる》より前に置かれる。動詞の中では，命令形，語幹の順に並べた。

10. 動詞の語尾変化形は一項に集められているが受動形，使役形，対動形，相動形は見出し語にあげた。

11. 漢字面で分割し得ない場合は，見出し語に収めた。例えば「亦純」(ičun) は ičū-《退く》の副動詞形であり，ičū-n と分析すべき語であるが，「純」は分割できないので，このまま見出し語に「亦純」をあげた。又，「兀速訥」(usunu) は usun《水》の属格形で usun-u と分析すべきものであるが，「訥」は分割できないので「兀速訥」のまま見出し語とした。

## 3 記号について

1. 原文中の小字——例えば「卜」，「勒」，「楊」，「你」など——を補う場合には（ ）で示す。例えば原文には「客帖」kete とあるが，正しくは kebte である故「客(卜)帖」とする。等々

2. 原文中の補助記号の小字——「舌」，「中」，「口」——を補う場合にも（ ）を用いる。例えば「担列」nele は正しくは nere なので「担(舌)列」とする。忽舌児班 hurban は正しくは Gurban と考えられるので「(中)忽児班」とする等々。

3. 原文には哈罕 hahān とあるが，正しくは qahān と考えられるので《中》合罕とし，《 》を用いて《中》合とする。

4. 原文には中合舌児班 qarban とあるが，正しくは harban と考えられる故，《口》合舌児班とし，《 》を用いて《口》合とする。

5. 《 》は原文の補助記号の削除の際に用いる。例えば（六28六）「兀速舌納察」の「舌」は明かに不必要なので「兀速《舌》納察」とする。この例は極めて稀。

6. 《 》は又，次の場合にも用いた。動詞 ile-《遣わす》は「亦列-」を以て表記されるのが正常であるが，屢々「亦舌列-」《来る》と誤記される。この様な場合「亦《舌》列-」と校して，ile- と読むべきものとした。又，動詞 hülde-《追いかける》は「忽勒迭-」が正しいが，これも屢々「中忽勒迭-」と誤記される。この場合にも「《中》忽勒迭-」と校して hülde- と読むべきものとした。

7. 〈 〉は原文の小字の誤記を正すのに用いた，例えば，原文には「撒勒只兀勒」と見えるが salǰi'ūd を正しきものと認め「撒勒只兀〈惕〉」と校した。

8. 〈 〉は原文の小字ならざる文字の誤記を正すのに用いた。例えば（七3九）「撒勒帖」salte は selte の誤りなので〈薛〉勒帖と校した。

9. 〔 〕は原文の漢字欠落に対する補足を示す。

10. 〈→〉は参照を意味し，〔→〕は変更を意味する。訳文中の単なる〔 〕は補足説明。

## 4　ローマ字転写字について

1. 原則として『全釈』及び『全釈続攷』における転写の方針をそのまま用いたが，ṯ, ḏ, ḵ, g, ǰ, č の転写字を加えた。例えば与位格語尾 -dur は -突舌児，-都舌児で表記されるのが正則であるが，-dur であるべき場所に，-tur を表記すべき -禿舌児，-途舌児，-圖舌児などが用いられることが間々見られる。このように -dur（-突舌児など）であるべき場所に -tur（-禿舌児など）が表われている場合には，それを -ṯur と転写し，本来は -dur であるべきことを示した。

2. 漢字「古」は本来は蒙古語の gü を示すべき文字であるが，秘史の原文では，この字は又 kü をも表記するのにも用いられる。従って「古」のみは例外的に kü と gü の二様の転写字が施される。

3. 転写に際して，辞典の見出し語の転写字面では形態素の切れ目に「·」を施し，それ以外の場所では，曲用語尾と活用語記の前には「-」ハイフォンを施し，その他の助辞（及び複数接辞）の前には「~」を記した。

《注意》　巻一，巻二では巻三以後の「舌児」に対し，常に「児」のみで書かれる。その他，巻一，巻二のみに見られる幾つかの特徴がある。それらの若干については，『全釈』及び『全釈続攷』において言及したが，将来，「文字論と音論」をまとめる際に一括して言及する所存である。

## a

*阿- a- (有，往，存，活) ある，いる。
-阿速 -'āsu 一15八; 八14五; 九2一
-巴 -ba 一32五，七; 二22二
-罷 -ba 一15十; 七47一
-伯者 baį-je 十1八
-惕中渾 -dqun 七19九; 九30五; 十12七，27四
-都中孩 -ḍuGaį 二40四; 三48九，49一
-黑撒阿舌児 -Gsa'ār 六35八; 七43六
-黑撒惕 -Gsad 四47三; 七34三，43十; 十44九; 十14四，六
-黑撒敦 -Gsad-un 十43三
-黑三 -Gsan 三29六; 五43九; 七15十; 八45三; 十43三
-只埃 -ǰi'āį 一1四; 五22九
-主 -ǰu 八14六
-周 -ǰu 二15十，35八; 三18二; 四6二; 六11五; 七33二; 八28九; 九23六; 十10二，26一; 十29五，32五; 十23五
-主兀 ǰu'ū 一1三，六，2六，5一，五，6五，19五，20四，35一，44一，三，46五，48一; 二16四，19一，26七，29八，34八，35一，36九，39五，九，48六，十; 三18一，四，十，33九，34一，二; 四40一，41三，50六; 五9七，11五，29七，31八，39二，四; 六4十，6五，11三，十，23三，六，29五，42六，48九，49一，51四; 七6三，16四，六，22九，23二，47八，49一; 八5二，36四; 九42七; 十18一，20十，40一; 十15一，20十，22二，三，33八; 十31十，44六
-主兀者 -ǰu'ū-je 四17六; 六25九，39九，十; 八33六，37九，45三; 十15八，16七
-主為 -ǰu'ūį 四21九，35七，46九; 六2七，3一，37三，48三; 七1六，26四，六，七; 八2八; 九19九
-主為者 -ǰu'ūį-je 四47七; 九26二，三; 十8八
-剌埃 -la'āį 十8六
-魯阿 -lu'ā 一26四
-木 -mu 二46八，九; 五4四，五，40七; 十24四，37八; 十45六; 十33九
-木者 -mu-je 七48五
-梅 -muį 二49十; 五4一，40八; 十27二，45六; 十48八
-中忽 -qu 一10二，44二; 五30八; 七33七; 八48二; 九2六，7八，22七，十17五; 十57七
-中忽宜 -qu-yi 二29一
-中忽訥 -qun-u 二42九; 七11四，25三

-中忽牙 -quya〔→-quį-a〕 十21六
-中忽由 -quyu〔→quį-ū〕 二15六，八；十34七，49七
-恢突児 -kuį-dur〔→-quį-dur〕〔恢→中灰〕 二27四
-中灰 quį 一23四；十27五
-中灰都舌里顔 -quį-dur-iyān 一16三
-中渾 -qun 三49三，50五；七12四；九19六，七
-舌倫 -run 一16七；八35五；十5三
-速該 -sugaį〔→suGai〕〔該→中孩〕 一51八
-速中該 -suGaį 八34五；十9九
-塔剌 -tala 一7五，10四，14六，15六，20三；二13五；六13五；十38四
-禿中孩 -tuGaį 三2三²，6三；四22八，43九；六53四；七19八，21六；九20四，21一，36六，十，37七，40二，46三；十5九，24六，26二；十48一
-突中孩 -ḍuGaį 十10一
-牙 -yā 二12六；八14八
-由 -yu 四50四

*阿《惕》都- a·ldu-（相過）〔a·ldu-，惕→勒，a- の対動形〕
-中渾 -qun 二9四

*阿勒都- a·ldu-（共過）〔a- の対動形〕
-罷 -ba 五37十
-黒三突舌児 -Gsan-dur 五9六

*阿《黒》都- a·ldu-（有）〔a·ldu-，黒→勒，a- の対動形〕
-埃 -'āį 十4一

*阿黒荅- a·Gda-（被住）〔a- の受動形〕
-主兀者 -ǰu'ū-ǰe 八17三

*阿兀勒- a·'ūl-（教活）〔a- の使役形〕
-罷 -ba 十55九
-中忽 -qu 七46六

*阿兀勒荅- a·'ūl·da-（教存）〔a- の使役・受動形〕
-中忽 -qu 八13八

*阿兀魯- a·'ūl·u-（教存）〔a- の使役形〕
-牙 -yā 八5一

阿卜 ab（要，取，将）取れ〔ab- の命令形〕七7三；八41六

*阿卜- ab-（要，取，将）取る。
-罷 -ba 五22六；十16二
-抽 -ču 一8八，49五；二16四，十，17七，41八；三24二；四2九；五3七，10四，24二，27六，32七；六28二，49六，七；七23二，45九；八3一，二；十28十，31四，39二，34七；十1三，四，2六，4一，10七，九，43六；十1五，5八，11六

-出為 -čuʼūi 十4九
-恢魯阿 -küi-luā〔→qui-luʼā〕[恢→中灰] 一36一; 二47二
-中忽 -qu 二33六, 九, 34一, 二; 八7六, 31八; 九8七; 十21三; 十15十
-中忽兀 -quʼū 二33六
-中渾 -qun 十45二
-禿中孩 -tuGai 八37五; 九21十, 49一; 十21二; 十7九, 11七, 39六
*阿(卜)- a(b)-(要, 取, 将)[同上]
-抽 -ču 一33二, 34五; 二1六, 3三, 4七, 22一, 28四, 39三; 四10六, 34四, 43四
*阿卜荅- ab·da-(被, 要, 得, 捉, 取)[ab- の受動形]
-阿速 -ʼāsu 五41五; 七15十; 八12二
-罷 -ba 二8二, 25六; 三1五
-中忽 -qu 五34四; 六30十; 十45一
坤 -kun [→-qun, 坤→中坤] 五49二
-兀澤 -ʼŭjai 七14九
*阿卜中合兀勒- ab·qa·ʼūl-(教要) [ab- の使役形]
-罷 -ba 五18八
-周 -ju 三39十, 八2五
*阿卜塔- ab·ta-(被要)[ab- の受動形]
-主為 -juʼūi 七23一
-剌埃 -laʼāi 二48九
-来 -lai 三17八
*阿不- ab·u-(要, 将, 将来)取る。
-阿揚 -ʼād 一20五, 42三; 二47四 (阿卜-); 三33一; 四3四, 40三; 五14二, 32九, 十; 六10一, 29八; 七46九; 八47九; 十11一, 13三, 六, 15三, 七; 十16一, 52五
-阿速 -ʼāsu 七16五
-埃 -ʼāi 十3四, 45一
-埃者 -ʼāi~je 六28八; 十11五
-罷 -ba 二7九, 49一; 四10七; 七43五; 十21十; 十16十
-揚中渾 -dqun 七3二, 三; 九25九, 十; 十6二, 8三
-黑赤 -Gči 七4四
-黑臣 -Gčin 七35六
-黑三 -Gsan 一6七, 24六; 三27十, 28三, 37八
-黑撒的 -Gsad-i 五18八
-剌阿 -laʼā 二9四; 七44五; 十17一
-剌埃 -laʼāi 四14五
-舌剌 -ra 二1四; 三20六; 五2九, 4一; 六44四; 七14七

-舌侖 -run 七1七
-牙 -yā 四34三; 五2四, 41五; 七14二
阿奔 ab·u·n (要) [ab·u- の同時接合副動詞形] 五3二, 20八; 六53四; 九21一; 十3一, 36十, 50二
*阿不勒察- ab·u·lča- (相要) [abu- の相動形]
-罷 -ba 一15一; 七4三
-周 -ǰu 四16四
-牙 -yā 五37八
阿(卜)鄰 abulin (自娶的) 最初の (夫婦について)。一25七, 28五
阿卜赤舌剌 abčira (将来) [abčira-の命令形] 三21四; 五49五
*阿卜赤舌剌- abčira- (将来) つれて来る, もって来る。
-罷 -ba 一38四; 二39十; 五23八; 六49五; 十51二
-罷者 -ba~ǰe 八36三
-惕 -d 四40五; 七9十
-惕者 -d~ǰe 六17四
-惕中渾 -dqun 七9二
-周 -ǰu 一10一, 43八; 二17五, 39二; 三20三, 24二, 43五; 四17四, 23五, 40六; 五4一; 六36六; 七29六; 十10一, 15十, 16六, 51一
-主兀 -ǰu'ū 八12九
-黑三 -Gsan 一38五
-黑三突児 -Gsan-dur 一40九
-舌侖 -run 三1八
-速中孩 -suGaị 十47四
-塔剌 -tala 八9九
-牙 -yā 三2七; 七11七, 12五
*阿卜赤舌剌兀勒- abčira·'ūl- (教将来) [abčira- の使役形]
-周 -ǰu 七9四, 12一, 44三; 十41二
-中忽 -qu 十56六
阿卜里中合 abliqa (受賜) ほうび。六53三; 九21一, 十
阿把 aba (囲狩) 巻がり。七15三, 18二
-荅察 -dača 八8七
*阿把勒都- aba·ldu- (相搏) くみあう。
-周 -ǰu 十23三
-舌侖 -run 四8九
*阿把勒都兀勒- aba·ldu·'ūl- (教厮搏) [abaldu- の使役形]
-罷 -ba 四27四
*阿把勒都兀魯- aba·ldu·ūl·u- (教厮搏) [同 上]
-牙 -yā 四26十

*阿把剌- aba·la-（打囲）狩をする。
-阿ᠠ -'ād 三25三
-阿速 -'āsu 三43六; 九25十; 十1六, 11一
-巴速 -bāsu 八8六
-ᠠ中渾 -dqun 八8四, 六
-周 -ǰu 七15一
-恢突舌児 -kuį-dur〔→-quį-dur〕[恢→中恢] 十6一
-中忽 -qu 七10九
-中灰突児 -quį-dur 十40三
-舌侖 -run 五37三
-牙 -yā 五37四
阿把闌 aba·la·n（打囲）[aba·la- の同時接合副動詞形] 六18九; 十7四
阿把剌勒敦 aba·la·ldu·n（共囲猟）[aba·la·ldu- の同時接合副動詞形] 十6二
阿巴中合 abaqa（叔叔）叔父。六24二; 十24三
-荅察 -dača 六24八
-因 -yin 十28十, 30八, 56五
-魯阿班 -lu'ā-bān 五9九
-余安 -yu'ān 一7七
*阿巴舌里- abari-（登）登る。
-ᠠ中渾 -dqun 七39二
周 -ǰu 七37三
阿巴舌鄰 abari·n（登）[abari- の同時接合副動詞形] 七36一, 37三, 39三, 42六
*阿巴舌里兀魯- abari·'ūl·u-（教爬）[abari- の使役形]
-牙 -yā 十32二, 四
阿必ᠠ abid（肚臟）小肋骨; 直腸。一8四
*阿必ᠠ剌- abid·la-（卜）占う。
-阿速 -'āsu 十21八, 十, 22五
*阿不舌剌- abura-（救）救う。
-阿ᠠ -'ād 五34五; 六31二
-罷 -ba 二49一
-黒三 -Gsan 三16七; 九14九
-周 -ǰu 三1六, 2五; 五13八, 33九, 34五, 七, 九, 35三; 六24九, 25一, 四, 31三, 五
-主兀 -ǰu'ū 五35九
-主為 -ǰu'ūį 二23四
-木者 -mu-ǰe 二22三
-中忽訥 -qun-u 二12五
-中渾 -qun 二8六

-禿中孩 -tuɢaį 四46四
-牙 -yā 三5五，七；五4九
阿不舌闌 abura·n（報）[abura- の同時接合副動詞形] 一33八；二9十，48十；三5六
阿不舌里 aburi（徳）性格；徳性 五36四，40七；十43九，44一
-顔 -yān 十44八；土45八
阿不舌里禿 aburi·tu（性児有的）性格をもつ。一27五；五13一；十25十
阿備 abuį（ナシ）[未詳（まじない言葉？）]。六16八
阿察 ača（将来）[ača- の命令形] もってこい。三38五
*阿察阿剌- ača·'ā·la-（駄駄）積荷する。
-周 -ǰu 六2九
*阿赤- ači-（駄）積む。
-阿速 -'āsu 土28九
-周 -ǰu 一9一；二28三；十8八；土7二；土23四，56二
阿赤阿 ači·'ā（駄駄）積荷，荷物。六12七
-班 -bān 六12六；土7三
-納 ·n-a 土27三
阿赤阿壇 ači·'ā·tan（駄駄有的）荷物を積んだ。土7七
阿赤阿禿 ači·'ā·tu（駄駄有的）同上。六12六；土4九，5九
阿赤敦 ači·d·un（貼班的）[ačid の属格] 親衛隊の。土43一
阿揚中渾 adqu·n（掌着）[adqu-“つかむ”の同時接合副動詞形] 一43六
*阿荅剌- ada·la-（作崇）たたる，仇をする。
-梅 -muį 土21六，九，22四
阿荅里 adali（相似）同じ，似ている。一19四；五24一；七48九，十；土50七
*阿荅里揚中合- adali·d·qa-（教比方）[adalid- の使役形] 比べる；同一にする。
-禿中孩 -tuɢaį 八15八
*阿荅舌児荅- adarḍa-（ナシ）[adar- の受動形] 中傷される。
-阿速 -'āsu 五37八
阿荅児舌合中泥 adar·qan·i（ナシ）[adarqan の対格] 五37八
阿荅舌児中罕 adar·qan（ナシ）中傷，おどし。
-突舌児 -dur 六22六
*阿荅舌児塔- adar·ta-（ナシ）[adar- の受動形] 中傷される。
-阿速 -'āsu 六22六
阿荅舌魯黒赤 adaru·gči（間諜）[adaru-（策を弄する）+-gči]。一28三
阿都赤 adū·či（放馬的）馬を牧養する人。
-荅安 -da'ān 五49四
*阿都剌- adū·la-（牧養）馬を牧養する。〈→adu'ū·la-〉
-禿中孩 -tuɢaį 三47二

阿都剌兀侖 adū·la·'ūl·u·n (教牧放) [adū·la- の使役形の同時接合副動詞形] 五14一
阿都孫 adū·sun (頭口) 馬畜類。一14十
阿都兀 adu'ū (馬羣) 馬，馬群。三47二; 四11三; 六28一
-班 -bān 四2九，3四; 五46九; 八21十，35八
阿都兀赤 adu'ū·či (放馬的) 牧馬者。五48六，八
阿都兀臣 adu'ū·čin (放馬的) [adu'ū·ci の複数形] 三30一，七; 九26三; 十9十
*阿都兀剌- adu'ūla- (牧放) 馬を牧養する。〈→adū·la-〉
-阿惕 -'ād 十47十
-罷 -ba 三46一
-周 -ǰu 三45七，八，十
阿都兀闌 adu'ūl·a·n (牧放) [adu'ū·la- の同時接合副動詞形] 六2二
阿都兀剌兀勒孫 adu'ū·la·ūl·sun (教放牧的) 牧馬人 (複数形)。六1十
阿都兀訥安 adu'ūn·u·an (羣自的行) [adu'ūn の再帰属格形] 四3一
阿都兀孫 adu'ū·sun (頭口) 家畜，人以外の動物。十21七
阿都溫 adu'ū·n (馬羣) 馬，馬群。一23三; 四2七，八，48一; 五18七，32八，46八; 六29十; 七16六
阿只舌児中合 aǰirGa (児馬) 仔馬。四31三
*阿只舌剌- aǰira- (因去) 帰る，去る。
-罷 -ba 二49三
-罷田 -baten[→-baǰ-ū，田→由] 二49九
-中忽 -qu 五30八
阿勒 al (大紅) 赤い。十12七
*阿勒- al- (失) 失う。
-中渾 -qun 十33五
阿勒荅 alda (度) 両手を拡げた長さ，尋。七37七，38七，八
*阿勒荅- alda- (堕，失，脱) なくなる，失なわれる。
-阿惕 -'ād 十27八，36四，40二
-阿速 -'āsu 九6五，17六; 十23七
-罷 -ba 二18五，20四; 十37八
-罷者 -ba~ǰe 八43三
黒三 -Gsan 二18五; 九15八
-周 -ǰu 三44四; 八10五
-主為 -ǰu'ūǰ 九14三
-中忽余兀 -quyu'ū [-quǰ-u'ū] 十31九
-禿中孩 -tuGaǰ 八29九，38四; 九17六
阿勒荅兀勒 alda·'ūl (教罰) [alda·'ūl- の命令形]。八30九
*阿勒荅兀勒 alda·'ūl- (教脱) なくす，失なう; 罰する。
-周 -ǰu 四42五

*阿勒荅兀勒荅- alda·'ūl·da-（可罰）罰せられる。[alda'ūl-の受動形]
-中渾 -qun 八30九
阿勒荅勒 alda·l（罰）罰。九6五，17五
-突舌児 -dur 八29八，38四；九24八
阿勒荅勒壇 alda·l·tan（罰有的）罪ある者。八31六；九34四，42十，43二；十7二；廿45五，54四，五
阿勒荅児 aldar（声）名声，有声。一4十；十12六；廿8五
阿勒斤赤 algin·či（頭哨）斥候。一22六，八；三43二；六36四；廿26二，31十
*阿勒斤赤剌- algin·či·la-（頭哨做）斥候にする。斥候を放つ。
-周 -ǰu 六46九；七22七，32五；八44六
*阿勒斤赤剌兀勒- algin·či·la·ūl-（教頭哨）斥候にさせる。
-周 -ǰu 六50九
阿勒斤臣 algin·či·n（哨望的）斥候（複数形）。廿55八
*阿勒札- alǰa-（艱難）苦心する，艱難する；とどこおる。
-阿傷 -'ād 六14三，33九
-中忽 -qu 四9七；廿20一
-兀斎 -'ūǰaį 六17六
*阿勒札黒荅- alǰa·Gda-（艱難）[alǰa- の受動形]
-舌侖 -run 廿21三
阿勒只阿思 alǰi'ās（差）過失，心配。八19一，29一；廿56六，七，57一
*阿勒只牙- alǰiya-（離了）はなれる，はなす。
-中忽牙察 -quyača [→quį-ača] 四41五
*阿勒中合撒- alGasa-（懈怠）はなれる；心が乱れる。
-兀澤 -'ūǰaį 廿45八，46九
*阿勒中合撒勒都- alGasa·ldu-（分離）[alqasa- の対動形]
-中渾 -qun 八9六
阿勒中合撒兀勒 alGasa·'ūl（教分了）[alqasa- の使役形の命令形] 六40七
阿勒壇 alta·n（金）金。三27十，28三；四17二，22七，九；三48六，49二，50六；七2七，八，7一，三；八28九；十7四，12七，13二，四；廿5三，6四，15一，20三，35三，36三，47二；廿4十，9八，九，14四，21七，26一，十，29三
阿勒塔塔宜 alta·tayi [altataį-i]（金有的行）金のついてるものを。七6五
阿勒塔台 alta·taį（金有的）金をもてる（もの）。廿15五，16五；廿26一
阿勒塔壇 alta·tan（金有的）同上。（複数形）廿26十
阿剌 ala（腿叉）腿のつけ根。
突舌児 -dur 八28八
*阿剌- ala-（殺）ころす。
-阿傷 -'ād 四3四

-阿速 -'āsu 五2十, 3一; 七3三; 九15二
-埃 -'āi 五3七, 5一
-罷 -ba 四15二
-罷者 -ba-je 六23九
-黑赤 -Gči 六24二
-黑撒阿舌児 -Gsa'ār 七3三; 九25十
-黑撒你顔 -Gsan-iyān 四50三, 五
-黑三 -Gsan 四15八; 十28九
-周 -ju 一8四, 16八; 二27四; 四14三; 五4七, 19八, 27五, 41一, 50一; 七35六; 八12四, 六, 15七; 九14四
-主兀 -ju'ū 七5八
-主為 -ju'ūi 四15三, 18五, 46九; 九14八; 十18五, 六
-中忽 -qu 五3八
-中忽古 -qu-gü〔→-kü〕五3一
-中忽因 -qu-yin 五9九
-牙 -yā 四42三

阿闌 ala·n (殺) [ala- の同時接合副動詞形] 五3六
*阿剌勒都- ala·ldu- (相殺) [ala- の対動形]
-恢 -küi〔→qui〕[恢→中灰] 七28七
-中灰 -qui 七34一; 八15二, 45八
-中灰突舌児 -qui-dur 十24八
*阿剌黑苔- ala·Gda- (被殺) [ala- の受動形]
-罷 -ba 四3八
-魯阿 -lu'ā 九21九
-周 -ju 七42六; 十20二
-中忽古 qu-gü〔→-kü〕五3一
-舌倫 -run 四46三; 五11二; 六23十; 九12七
阿剌兀勒 ala·'ūl (教殺) [ala·'ūl- の命令形] 八20四
*阿剌兀勒- ala·'ūl- (教殺) [ala- の使役形]
-中忽 -qu 六51七
*阿剌兀魯- ala·'ūl·u- (教殺) [ala- の使役形]
-舌倫 -run 八20三
阿剌出中合 alačuG·a (帳房行) [alačuG の与位格形] 帳房に。三30二, 八
阿剌黑 alaG (花) まだらの, ぶちの。二44六, 46三; 五13五
*阿剌黑赤剌- alaG·čila- (偏向) 依古ひいきする; まだらにする。
-罷 -ba 十32八
阿剌黑赤兀悃 alaGči·'ūd (花色) [alaGči の複数形] 斑の。三45七; 六3七
阿剌沙思 alašas (淮馬) 去勢馬 (テュルク語) (?)。十26一

阿剌兀納 ala'ūn·a (門後行) [ala'ūn '戸口の傍' の与位格形] 五39一, 四
阿剌閃納 ala'ūn·a (門後行) [ala'ūn の与位格形] 九13二
阿郎吉舌児 alanggir (木做的 (弓)) シベリヤ・からまつの木で作った弓。三26六
阿里 ali (那箇) どれ。八37九; 十47四; 十24九
阿魯児中孩 alurqaị (掃道) (草の上の) ふみあと道。
-巴舌児 -bār 二26五, 28九, 47五
阿魯思 alus (越過) かけはなれて。四29一; 七38三; 八8三; 十44八
阿魯昔 alus-i (隔越) [alus の対格形] 八19一
阿馬 ama (口) 口。五49二
-阿舌児 -'ār 四39三, 43五; 五37七, 八; 六22三, 六, 八; 七42五; 八15七; 九25四; 十28九
-阿舌里顔 -'ār-iyān 六13十; 九16七
-阿舌魯 -'ār-ū 六22五
-安 -'ān 二19七; 四39一
-訥 ·n-u 二10一; 六13八; 九16十
阿馬禿 ama·tu (口有的) 口のある。五43三
阿馬阿舌剌鄰 ama'ārālin [ama'ārāli- '親しむ' の同時接合副動詞形] 五37十
*阿馬舌剌- amara- (相愛) 愛する。
-周 -ǰu 十24七
-牙 -yā 三27八
*阿馬舌剌勒都- amara·ldu- (相親愛) 親しみ合う。[amara- の対動形]
-周 -ǰu 三28七, 29六
-中灰 -quị 三27七
-舌侖 -run 三29五
-牙 -yā 三26一
阿馬舌剌黑 amara·G (親厚) 親しい。五38七[2]
阿馬撒舌児 ama·sar (口子) 入口。二16一; 十12一
阿馬撒舌剌 ama·sar·a (口子行) [amasar の与位格形] 二15七, 八, 24八; 四20二; 五32八; 六29九, 50十; 十12八
阿馬撒舌里 ama·sar·i (口子行) [amasar の対格] 十12六
-牙舌児 -yār [amasar の造格形] 十12三
阿蛮 ama·n (口) 口。二25七; 三44四; 四25八, 49四, 50七; 五40七; 六53一; 八10五, 21三, 43三; 九20九; 十21三, 31八, 32五
-突舌児 -dur 八28十
阿蛮你舌里兀 ama·n niri'ū (鎖子骨) あご骨。〈→aman niru'ū〉 四49四
阿蛮你舌魯兀 ama·n niru'ū (鎖子骨) 同上。四50七
*奄都舌里(黒)荅- amduri·Gda- (被荒忙) [amduri- 'あわてる; 憂える' の受身形]
-舌侖 -run 四38九

*奄都舌里黑苔- amduri·ɢda-（同上）同上。
-侖[→舌侖] -lun[→run] 四41四
奄禿舌鄰 amṭuri·n（荒忙）[amduri- の同時接合副動詞形] 四43六
阿米 ami（命）命。四22十; 六16五
-安 -'ān 六26一
-納 ·n-a 三19五
-你顏 ·n-iyān 二50七，八，十; 三18七，19四
-泥顏 ·n-iyān 一35九
-訥 ·n-u 三27七; 六52四
-顏 -yān 六23十，24三，51七; 八45九; 九20九; 十43七; 十三39五
阿米臣 ami·čin（管米的）食糧係。〈→amu·čin〉十三53六
阿米都 ami·du（命有的）生きてる。二11七; 六40五
阿米堆 ami·duị（活）生きている。七15九
阿米壇 ami·tan（生靈）生きもの，動物。
-突舌児 -dur 十三20十
阿米禿 ami·tu（性命有的）生命のある。二23八; 七23七，24七
-苔 -da 十27六
阿民 ami·n（性命）命。一35七，八; 三27六; 四43三，五，八; 五3六，4九，十二; 六52二; 七3五，31三; 八22四; 九41九，17一; 十7四; 十三11二，14四
-突舌児 -dur 八21四，七; 九15三，九，16三，17三
-都舌里顏 -dur-iyān 四28三
-你顏 -niyān 四43六
-圖舌児 -ṭur 一35六
阿木撒阿舌里 amsa'āri（可懼）恐ろしい（?）。七37二
*阿木- amu-（安，歇息）休む。
-周 -ǰu 四40七
-木者 -mu-ǰe 八20二
-中忽 -qu 九2四
-速中孩 -suɢaị 五36六
-由 -yu 九9十
*阿木兀勒- amu·'ūl-（教安）休ませる。[amu-の使役形]
-罷 -ba 三48九，49一
-周 -ǰu 四1九
*阿木兀魯- amu·'ūl·u-（教安）仝上。
-黑三 -ɢsan 十1九
阿木臣 amu·čin（管米的）食糧係。〈→ami·čin〉十三48四
阿木中忽郎 amu·ɢu·lang（安寧）平和（な），安らか（な）。十三52八
*阿木舌児里- amu·r·li-（息，安寧）休息する。

-罷 -ba 五26一
-罷者 -ba~je 五26一，十24九
*阿木舌児里兀勤- amu·r·li·'ūl- (安寧) [amu·r·li- の使役形]
-周 -ju 十30三
*阿木舌児里兀勤荅- amu·r·li·'ūl·da- (教寧息) [amu·r·li·'ūl- の受動形]
-周 -ju 土35九
阿木舌児里兀倫 amu·r·li·'ūl·u·n (寧息) [amurli'ūl- の同時接合副動詞形] 十30十
阿納埃 ana'ā¡ (又是也) 又も，又々。
-因 -yin 七27八
*阿納- ana- (痊可) (病気が) 治る。
-埃 -'ā¡ 六18十
-禿中孩 -tuGa¡ 土11二
阿泥 an·i (他毎行) [*an の対格] 彼等を。二21八; 四37一; 六9九，17二; 七27三; 土1七，38十，39一
阿訥 an·u (他的) [*an の属格] 彼等の。一11四，14六，19七，47十; 二49一; 三21七，22十，23一$^2$，三，46八; 四20二，九$^2$，22五，39十; 五1五，16二$^2$，18二，19三，39三; 六20四，28二$^2$，52八; 七2七，九，12一$^2$，四，14二，16四，五，六，七，八，23十，24三，27六，32一$^2$，九; 八4六$^2$，13十; 九47五，九$^2$; 十18四; 土6八，13七，18九，45一; 土3二，8四，五，21一，26二，30二，38二，47一，二，不明1
*阿黒荅剌- aGda·la- (騎) 馬にのる，馬のりになる。〈→aGtala-〉
-周 -ju 四27九
*阿黒撒- aGsa- (帯) 帯びる (矢筒などを)，つける。
-罷 -ba 三45一$^2$，二
-周 -ju 三46七
-中忽牙 -quya〔→-qu¡-a〕 九37五; 土42十
阿黒塔 aGta (騸馬) 去勢馬。三43四，46十; 四8五
阿黒騸 aGta (騸馬) 同上。二30一; 六36六; 七6四，48四; 八7十; 九20二，33六，48十; 土5七，45五; 土23一，39五，47七
-宜 -i 十16七
-因 -yin 六49三; 七29二; 土26十
阿黒騸赤 aGta·či (管馬的) 馬の管理者。七6二，四，7三，五，20六
-荅安 -da'ān 七6三
-宜 -yi 七7九
阿黒塔臣 aGta·čin (籠馬人) 同上。(複数形) 三46十
*阿黒塔剌- aGta·la- (騎) 馬にのる，馬のりになる。〈→aGdala-〉
-周 -ju 五3三
阿黒塔闌 aGta·la·n (騎) [aqta·la- の同時接合副動詞形] 五2七

阿黑騧思 aɢta·s（騧馬每）去勢馬。五50七; 六1十, 21二, 42三; 七15五, 七², 23二, 24一, 26五, 27一, 五, 六; 十15二; 土9十, 53十

-禿舌里顏 -tur-iyān 七20八

阿黑騧撒寒 aɢta·s·ača（騧馬每行）[aɢtas の奪格形] 十8八

阿黑騧昔牙舌児 aɢta·s·iyār（騧馬母教）[aɢtas の造格形] 十15八

阿黑騧昔牙舌里顏 aɢta·s·iyār·iyān（騧馬自的行）[aɢtas·iyār の再帰造格形] 八19六

阿黑騧昔顏 aɢta·s·iyān（騧馬每自的行）[aɢtas の再帰対名] 六2一, 四, 八, 11六; 七23六, 24二

阿黑騧思禿 aɢta·s·tu（騧馬有）去勢馬に乘った。一2八

阿黑騧壇 aɢta·tan（騧馬等）去勢馬など。二9六, 27八, 29三, 30三, 六; 八35一

阿黑騧塔泥 aɢta·tan·i（騧馬等行）[aqtatan の対格形] 二28四, 八, 29一, 30九; 八36一

阿中合 aqa（兄）兄。一7五, 六, 11一, 18七, 20八, 九², 十, 21二, 四, 22一, 28三, 37一, 三; 二1三, 5五, 8二, 五, 9九, 12四, 19一, 六, 36十; 三7六, 8八, 34四, 十, 45二; 四9六, 八², 25四, 六, 28七; 五13一, 二, 31一, 36六; 六23七; 九4六, 8九, 9一, 二, 22一, 三, 五, 23三²; 十16二, 五, 22十; 土22三, 28六, 29一; 土14三, 七, 17六, 七², 20一, 23八, 24八, 31八, 九, 32十, 36二, 43九, 47六, 48一, 49八, 十, 50二, 51十, 57五, 七

-阿察 -ača 土17五

-班 -bān 二14一

-察 -ča 土49九

-荅 -da 土32九, 53一

-荅安 -da'ān 五11一

-突舌児 -dur 土15四, 19五, 53一

-都舌里顏 -dur-iyān 三34六

-顏 -yān 六45九; 土23六

-宜 -yi 五41一; 土17二, 三, 五, 18五, 19八, 23一

-因 -yin 九19九; 土18四, 23四

-余安 -yu'ān 一20八, 34八; 六45二; 土32四; 土23十

*阿中合剌- aqa·la-（為長）長上者として振舞う，指導する。

-罷 -ba 九43八

-周 -ǰu 三49三; 七19八; 九2五, 36六, 九, 37二, 三, 四, 五, 六, 七; 土43九

-禿中孩 -tuɢaj 土16六, 七

*阿中合剌黑荅- aqa·la·ɢda-（被為長）[aqa·la- の受動形]

-罷 -ba 九43四; 土45七, 十

阿中合納舌児 aqa·nar（兄母）兄達。一14九, 22二, 五, 23三; 二8三, 13七, 44四,

46十; 三33八, 十, 34三, 35一; 土22十, 52一, 二
阿中合中罕 aqa·qan (長些) より目上の (者)。土29五
阿(舌)藍 aram (車底) 羊囲い。三45八
*阿舌児巴- arba- (呪) 呪う。
-惕中渾 -dqun 土24四
*阿舌児必剌- arbila- (摠要) とりこにする。
-罷 -ba 三23三
-周 -ǰu 三24八, 27十, 28三
阿舌児賓 arbin (寛広) 広大な, 多量の。八18十; 土17八
阿舌児察 arča (梧木) かしわの木, 桧。三26九
*阿舌児赤- arči- (拭) 拭く。
-阿惕 -'ād 十38二
阿舌児臣 arči·n (抹) [arči- の同時接合副動詞形] 土46三
阿児中合 arGa (計策) 方法, 手段。
-巴舌児 -bār 八45五
阿児中合察 arGa·ča (論来) 手段を講じて; はかって。二3二; 五41四; 土35十
*阿舌児中合剌- arGa·la- (使見識) なんとかする, 手段を講ずる。
-周 -ǰu 十40一
阿舌児中合思 arGa·s (計量) [arGa の複数形] 六42一
阿児中合丹 arGa·tan (使智量) 智恵のある(者)。〔複数形〕四28三; 八33七
阿児中合禿 arGa·tu (才有) 智恵のある。
-因 -yin 二18九
阿舌児中舍只 arGamǰi (縻縄) 紐, 縄。
-顔 -yān 土20三, 35三
阿児思闌 arslan (獅子) 獅子。二11六
阿舌齧阿禿 ara'ā·tu (大牙有的) 奥歯・牙のある。五37七
阿舌剌阿禿 ara'ā·tu (大牙有的) 同上。六22五
阿舌剌勒真 aralǰi·n (相換) [aralǰi- '交換する' の同時接合副動詞形] 五38九
阿舌剌剌 aral·a (島行) [aral の与位格形] 川中島。三6一
阿舌剌速 ara·su (皮子) 皮膚, 皮。〈→arasun〉
-巴舌児 -bār 三8三
阿舌剌孫 ara·su·n (皮子) 同上。一8八
你牙舌児 -niyār 三7八
阿舌闌 aran (僅得) 殆ど, 辛うじて。二37一
*阿舌闌勒只- ara(n)lǰi- (相換) 交換する。
-周 -ǰu 三26九
阿舌里赤 arič (救護) 救護の。三27七
*阿舌里勒- aril- (浄) 清まる, 清澄になる。

-周　-ǰu 十12四
*阿舌里勒中合-　aril·ga-（教浄）清める。
-周　-ǰu 十26九
*阿舌里牙-　ariya-（猶予）ためらう，疑う。
-中忽　-qu 四28三
阿舌里牙勒　ariya·l（疑）疑い。ためらい。五50九；六42四
*阿舌鄰勒-　ari(n)l-（浄）清まる。
-周　-ǰu 十12五
阿舌魯　aru（背）後，奥。一37六；七29二
*阿思中合-　asga-（吐）吐く，撒く，流す。
-阿惕　-'ād 四39四，41六
-阿速　-'āsu 四41三
-黒三　-gsan 四41一
-中忽宜　-qu-yi 四41六
-牙　-yā 七27六
*阿撒黒-　asag-（問）尋ねる。〈→asagu-〉
-罷　-ba 六5三；七33五，37六；十16六
-巴速　-bāsu 四46一
-抽　-ču 七47二；十49十
-出兀　-ču'ū 六3二，三；七33二，35一，四，36四
-主兀　-ǰu'ū 五20一
-中忽　-qu 一18三；十39四
-速　-su 三31一
-塔剌　-tala 七47九
-禿中孩　tugaị 九47四，48六；十39一
*阿撒黒荅-　asag·da-（被問）[asag- の受動形]〈→asag·ta-〉
-舌侖　-run 七48二
*阿撒黒塔-　asag·ta-（被問）[asag- の受動形]〈→asag·da-〉
-周　-ǰu 十22一
*阿撒中忽-　asagu-（問）尋ねる。
-阿速　-'āsu 一9四；四34四；六5四；七48一
-黒三　-gsan 九48八
-舌侖　-run 七37四，39四
阿撒中渾　asagu·n（問）[asagu- の同時接合副動詞形] 七47二；十29一
*阿撒温勒察-　asa'ū(n)·lča-（相問）尋ね合う。[asa'ū- の相動形]
-中忽　-qu 一18四
*阿撒舌剌-　asara-（収拾）世話する，持上げる。
-阿惕　-'ād 十9七

-罷 -ba 一16五; 四17九
-傷中渾 -dqun 六17六; 十3十
-黒撒傷 -Gsad 七2八
-黒三阿児 -Gsan·ār 三18一
-周 -ju 七10五; 九11四; 十8七, 八
-木 -mu 五22七
-梅 -muį 十7六
-中忽 -qu 四42七; 六40一
-中忽亘 -qu-yi 一49四; 六7十; 十24八
-中灰 -quį 十7八
-禿中孩 -tuGaį 十4七, 八, 九; 十39八, 十
-牙 -yā 六16九

*阿撒舌剌兀勒- asara·'ūl- (教抬挙) [asara- の使役形]
-周 -ju 九23五

*阿撒舌剌兀魯- asara·'ūl·u- (収継) [同上]
-黒三 -Gsan 三18一

*阿撒舌剌温勒- asara·'ū(n)l- (教収拾) [同上]
-罷 -ba 二23九

*阿撒兀(勒)- asa'ūl- (教問) 尋ねさす。[asa'ū- の使役形]
-舌剌 -ra 四45十

阿三 asa·n (担) [asa- 'かつぐ' の同時接合副動詞形] 七34九

*阿失吉- ašigi- (打) 打つ。
-罷 -ba 四18十
-周 -ju 十33九, 十, 34三, 35七
-主為 -ju'uį 四7四

*阿失吉剌勒都- ašigi·la·ldu- (斯) 続けて打ち合う。[ašigi·la- の対動形]
-周 -ju 四10六

*阿失吉克荅- ašigi·gda- (被打) [ašigi·Gda-克→黒] 打たれる。[ašigi- の受動形]
-周 -ju 四7四
-恢 -küį[→quį] [恢→中灰] 四7六

阿兀 a'ū (地角) 隅。四31五

阿兀惕勤 a'ū·dki·n (教寛) [a'ūdki- '寛くする' の同時接合副動詞形] 十30三

阿兀濟 a'ūlčа·n (拝見) [a'ūlčа- の同時接合副動詞形] 四23五

*阿兀勒札- a'ūlja- (拝見) 会う。〈→a'ūlčа-〉
-罷 -ba 十13六, 15三
-周 -ju 四22一, 七
-中灰突舌児 -quį-dur 十10一, 二
-舌剌 -ra 十9七

-舌侖 -run 土9八

*阿兀勒札兀勒- a'ūlǰa·'ūl- (教拜見) [a'ūlǰa- の使役形]

-罷 -ba 十11二, 15九; 土44八; 土10二

-周 -ǰu 土46一; 土34二

阿兀勒札兀魯- a'ūlǰa·'ūl·u- (教拜見) [a'ūlǰa- の使役形]

-阿速 -'āsu 土45九

阿兀勒札兀侖 a'ūlǰa·ūl·u·n (教拜見) [a'ūlǰa·ūl- の同時接合副動詞形] 土31七

阿中兀剌 a'ūla (山) 山。七34八

阿帢剌 a'ūla (山) 同上。三30一; 四49五, 六; 五28七; 七36一, 37三², 38三, 39三, 42六; 十19十; 土1九

-突舌児 -dur 三30七; 七42七

-宜 -yi 七42十

-因 -yin 七39二, 十

阿兀剌 a'ūla (山) 同上。

-因 -yin 七32七; 八9六, 44三

*阿帢剌剌- a'ūla·la- (山上了) 山に登る。

-黑撒惕 -Gsad 土7六

阿帢剌思 a'ūla·s (山每) [a'ūla の複数形] 土32一

阿兀中合 a'ūGa (気力) 力, 気力。八9八

阿兀舌児① a'ūr (碓) 碓。五13七

阿兀舌児② a'ūr (気) 大気; 怒。土34六

阿兀舌里顔 a'ūr·iyān (気自的行) [a'ūr②の再帰形] 二11六; 十29五

*阿兀舌児剌- a'ūr·la- (怒) 怒る。

-阿速 -'āsu 七38二

-周 -ǰu 十29二

阿兀舌児壇 a'ūr·tan (剛気, 気有的) 怒れる。四25九, 十

阿兀舌剌速 a'ūra·su (匹帛) 反物。十8十; 土15五, 九, 16六

阿兀舌剌速惕 a'ūra·su·d (段匹) [a'ūrasu の複数形] 土5九

阿兀舌剌孫 a'ūra·su·n (段子) 反物。十13五; 土6四, 7二, 9七, 10七, 15二, 47三; 土4十, 26一, 48二

阿兀舌魯黑 a'ūruG (老小営) 陣営, 本陣。四18二; 十7七

-突児 -ḍur 土37一

-圖舌児 -tur 土18十, 19六; 土20二

阿兀舌魯兀惕 a'ūru'ūd (家每, 老小営) [a'ūruG の複数形]

-突舌児 -ḍur 八43三, 九

-圖舌児 -tur 四18三, 六

阿兀舌魯兀荅察 a'ūru'ūd·ača (家每行) [a'ūru'ūd の奪格形] 八4八

阿兀失吉 a'ūšigi (肺) 肺臓。四25八; 八15二

阿兀失吉禿　a'ūšigi·tu（肺有的）肺のある。一8八
阿兀牙　a'ūya[→a'ūi̯-a]（寛行）[a'ūi̯ の与位格形] 土48八
阿為　a'ūi̯（寛）広大な。十30三，四; 土30二
阿牙　aya（征進）戦旅。土9一
*阿牙剌-　aya·la-（征進）征戦する，戦旅に出る。
　-阿速　-'āsu 土17八
　-黒撒楊　-Gsad 土16六，27五
　-黒三　-Gsan 土15六，16三，28一
　-周　-ǰu 土12十，34三，55二
　-中忽泥　-qun-i 土16八
　-中灰突舌児　-qui̯-dur 土9一
　-舌侖　-run 土37一
　-速中孩　-suGai̯ 土47六
阿牙闌　aya·la·n（征進）[ayala- の同時接合副動詞形] 土46七
*阿牙剌兀勒-　aya·la·'ūl-（教征進）[ayala- の使役形]
　-罷　-ba 土48二，49三，十; 土15八，28三
　-中忽　-qu 土17五
　-中灰　-qui̯ 土18七
　-禿中孩　-tuGai̯ 土16九，二17，三
*阿牙剌兀魯-　aya·la·'ūl·u-（教征進）[ayala- の使役形]
　-木　-mu 土17七
　-舌侖　-run 八10二
阿牙中合　ayaGa（厳皿，盞）容器。七2八，9六; 九46四，八; 十4九; 土9九，11六，29六，39八
阿顔　aya·n（征進）戦旅，征戦。土28九
　-突舌児　-dur 九12一; 土9二
　圖児　-ṯur 二28十
阿亦馬黒　ayimaG（部落）集落・家の集団。五25三², 五; 土49六
阿亦馬乞牙舌里顔　ayimak·iyār·iyān（部落自的毎）[ayimaG の再帰造格形] 五25七
阿亦馬中渾　ayimaG·un（部落的）[ayimaG の属格] 五25四
阿亦馬兀荅察　ayima'ūd·ača（部落毎的行）[ayimaG の複数奪格形] 五25七
*阿亦中合黒剌-　ayiqaG·la-（訐告）さん言する。
　-主兀　-ǰu'ū 五15三
*阿亦思-　ayis-（来）来る，近づく。
　-中忽　-qu 七36四
　-中忽泥　-qun-i 七34十
阿亦賽　ayis·ai̯（来也）[ayis-ai̯] 来る，近づく。四4一; 七31八，33五，34四，35三，八; 土15四; 土4三

阿亦速 ayis·u (来有) [ayis-u] 同上。二19七, 29八, 32一, 二, 八, 33八; 三39二; 六11十, 13五, 六, 26八; 七46二; 十34九

~者 ~je 七37九

~魯 ~lu 七36九

*阿亦速- ayis·u- (来) 近づいて来る, 近づく。

-恢 -küi̯[→-qui̯] [恢→中灰] 三16五; 八35四

-恢突舌児 -kui̯-dur[→-qui̯-dur] [恢→中灰] 一37二, 15九; 二15二, 七; 五15十; 六9一, 三, 五, 18九; 八35二; 十38八

-恢宜 -kui̯-yi[→-qui̯-yi] [恢→中灰] 三16四

-剌阿 -la'ā 一42八

-剌埃 -la'āi̯ 五6四

-魯阿 -lu'ā 一43一

-中忽宣 -qu-yi 一3十, 34六

-中灰 -qui̯ 六2三

-中灰突舌児 -qui̯-dur 三32六; 四13九; 五2三, 29五; 六2十, 8七, 31六, 28八; 七31七; 十10十

-中恢突舌児 -qui̯-dur [中恢→中灰] 十38八

-中渾 -qun 一4三; 三15四; 七33八, 36一, 三, 37五, 39四; 十2二

-舌侖 -run 一9一; 二37三; 三29十, 38九; 四38二; 五5五, 7二, 46二; 六26五, 44四; 七45九; 八33八; 九13五, 27六, 28二

阿亦孫 ayis·u·n (来) [ayis·u- の同時接合副動詞形] 一6五, 20三; 二35一, 42八, 44八; 三33六; 六2七, 3一; -古 -gu 三34一, 二

*阿亦速勤察- ayis·u·lča- (共来) [ayis·u- の相動形]

-周 -ǰu 六3一

阿亦石 ayiš·i (来) [ayis- の女性形] 二45二; 三10四, 14三; 四11四, 12五, 34一; 十1十

阿因勤 ayi(n)l (営) アイル, 家。二21八

-突舌児 -dur 三20五

阿寅勤 ayi(n)l (営) 同上。

-圖児 -t̪ur 二17一

阿余 ayu (怕) [ayu- の命令形] 恐れよ。六6五

*阿余- ayu- (怕) 恐れる。

-罷 -ba 十31二; 十8七

-罷者 -ba~je 十45七

-周 -ǰu 一35一; 二13七; 四28二, 41五; 五14三, 25十; 七42六; 十34七; 十8六, 八, 46九; 十34六

阿云 ayu·n (怕) [ayu- の同時接合副動詞形] 十31二

*阿余兀勤- ayu·'ūl- (教怕) [ayu- の使役形]

-罷 -ba 六21四
-周 -ǰu 七11三
-中忽 -qu 六21五

阿余兀里 ayu·'ūl·i (教怕) 恐れさせる。三34十

阿余兀魯 ayu·'ūl·u (教怕) 恐れさせる。六21六

*阿余兀魯- ayu·'ūl·u- (教怕) [ayu- の使役形]
-罷 -ba 六21八
-黒撒你顔 -Gsan-iyān 八15八
-剌阿 -la'ā 八22三

*阿余兀勒荅- ayu·'ūl·da- (被教怕) [ayu·'ūl- の受動形]
-剌阿 -la'ā 八10四

*阿余温勒荅- ayu·'ū(n)l·da- (被驚怕) [同上]
-罷 -ba 二51一

唉 aị (ナシ) ああ。六33七

唉亦 aịyi (嘆声) ああ。七10四, 13六, 七29九

*埃速- aịs·u- (来) 近づく, 来る。
-中忽魯阿 -qu-lu'ā 一36二

唵塔塔宜 amta·tayi 〈→amta·taị-yi〉 (滋味有的行) [amta·taị 'おいしいもの' の対格] 七6六

安荅 anda (契合) 義兄弟。三1九, 7六, 16一, 22七, 25十², 26二, 四², 五, 十, 27六, 八, 28七, 30一², 六, 31三; 四1四, 六; 五9七², 10四, 11九, 30六, 八, 35七, 36十, 40六; 六5一, 6五, 7十, 25六, 26九, 27五, 40二, 七, 41一², 九; 七33五, 36五, 八, 42七; 八13二, 五, 14九, 17一, 18一, 三, 19二, 四, 20一, 二, 三, 21二, 22一, 33七, 43三; 九20八

-阿察 -ača 三49五; 八18十
-荅 -da 三3十, 4五, 27十, 28二, 四; 四1九; 六34八, 39八; 七42三; 八12十, 19七, 十
-突舌児 -dur 五40九; 六4八, 5一, 6四
-宜 -yi 三5二, 8九; 四1七
-因 -yin 三9一, 二, 31五; 四1五, 九; 六7九; 八18七, 20八
-亦顔 -yi-yān 八17七, 十
-魯阿 -lu'ā 八16十

安達 anda (契交) 義兄弟。二39四, 五, 八

*安荅赤闌勒都- anda·čila(n)·ldu- (契合共做) 共に義兄弟になる。
-罷 -ba 三26九

*安荅中合- anda·Ga- (説誓) 盟約する。
-周 -ǰu 六34一

*安荅中合勒都- anda·Ga·ldu- (共盟誓) 盟約し合う。

-周 -ǰu 四31四

安荅中合舌児壇 anda·ga·r·tan（倣誓有的每）盟約せる（者）。三12五

安都舌児 an·dur（他毎行）[*an の与位格形] 五39一; 十35十

*安都舌里- anduri-（荒）あわてる。

-周 -ǰu 四41六

昂格思格 angesge（紅）[→enggesge] 紅，頬紅などの類。六9六，16一; 八43八

*昂格失格- anggešige-（学）[→enggešige-] 学ぶ，真似る。

-周 -ǰu 十32五

*昂吉赤舌剌- anggičira-（分離）離れる。

-罷 -ba 六22 九

昂吉荅 anggida（外）他に，別に。二33五; 四22九; 七11十，23八，24八; 八8七，9七，14八，15一，21三，26十; 九33七，34一; 十6九，7十; 十三40一

昂吉児 anggir（鴛鴦）おしどり。二12一

昂客 angke（太平）[→engke] 平和，大平。三44二

昂中合 angqa（最）はじめ。一30五; 三26一; 四25四

奥中合 aųga（気）力，強力。九31六

## e

額卜扯兀 ebče'ŭ (胷) 胸。〈→ebče'ŭn〉
-邊 -bēn 二50三; 六12二; 十36三
額卜扯兀惕 ebče'ŭ·d (胷前) [ebče'ŭ の複数形] 土30二
額卜扯温 ebče'ŭ·n (胷前) 胸。〈→ebče'ŭ〉
突舌児 -dür 土31五
額(卜)徹温 ebče'ŭ·n (胸) 同上。
-都舌里顔 -dür-iyēn 二51十
*厄卜迭- ebde- (壊) 破壊する。
-惕坤 -dkün 三50六
-額速 -'ēsü 三44二
-古 -gü[→-kü] 十24二
*額卜迭- ebde- (破) 同上。
-額惕 -'ēd 土43八
-周 -jü 土14七, 43六; 土27七, 29一
*額卜迭克迭- ebde·gde- (被壊) [ebde- の受動形]
-舌倫 -rün 土21六, 22三
額卜顚 ebde·n (破) [ebde- の同時接合副動詞形] 土43七; 土9七
厄別(惕)臣 ebedčin (病) 病気。九42四
厄別惕臣 ebedčin (病) 同上。土21三, 44四
*額別惕- ebed- (痛, 疼) 痛む。
-罷 -ba [→-be] 三5三, 四
-抽 -čü 二21十; 土1九
-古 -gü[→-kü] 八14十, 15二
*額別都- ebed·ü- (疼) 同上。
-克先 -gsen 土11一
-木 -mü 二1四
額別(舌)児 eber (角) つの。三38五
額別舌児 eber (角) 同上。三26七
-禿 -tü 三28五, 38四
額別舌里顔 eber·iyēn (角) [eber の再帰格形] 三38四
*額別舌列- ebere- (痛) 痛む。
-帖列 -tele 七28四
額別速担 ebe·sün·e (草行) [ebesün の与位格形] 土55七
額別速訥 ebe·sün·ü (草的) [ebesün の属格形] 二26五, 28八, 47五
額別孫 ebe·sü·n (草) 草。一15十, 17七; 六21二

額別速速〔→連〕 ebesüsü (喫草) [ebesü·le·n, ebesü·le- '草を食べる' の同時接合副動詞形] 二30四

額寘 ebin (伯父) 伯父。六7二

額不都克 ebüdüg (膝) 膝。十29七

-帖 -te 一39五

*額不都克列- ebüdüg·le- (肱膝按) 膝に据える。

-周 -jü 四27十

額不干 ebügan[→ge·n] (老人) 老人。二3六, 4四, 六; 三36二; 九4九

額不格 ebüge (祖) 同上。一23八, 24七, 26六

額不格思 ebüge·s (祖宗) 祖先。[ebüge の複数形] 五19六[2]

額不格思 ebüge·s (祖宗) 同上。四12一, 五, 13三, 19四; 九12三; 十8七

額不格捏 ebüge·n·e (老人行) [ebügen の与位格形] 九19四

額不格泥 ebüge·n·i (老人行) [ebügen の対格形] 二3八

額不格訥 ebüge·n·ü (老人的) [ebügen の属格形] 一48九; 五5四

額不堅 ebüge·n (老人) 老人。二41四; 五1八, 2二, 六, 6十, 7一; 六41八; 九5六, 20一, 27四, 十

額不児 ebür (懐) 胸。

-安 -'ān[→-'ēn] 一37六

-禿舌里顔 -tür-iyēn 二43九

額不(舌)児 ebür (前) 同上。四36五

額不舌児 ebür (懐, 前) 同上。三5三, 10三, 六, 22十; 七32七, 九

-途舌児 -tür 八46三

-禿舌里顔 -tür-iyēn 十39三

額不舌列 ebür·e (前) [ebür の与位格形] 二27一; 三28六; 四2六; 八2三

額不舌里顔 ebür·iyēn (懐) [ebür の再帰格形] 三4三

額不舌里耶舌児 ebür·iyēr (前) [ebür の造格形] 三8八; 六2二, 五, 14七

*額不舌里(惕)- ebürid- (可懐抱) 胸に抱く; 懐に入れる。

-坤 -kün 三21七

*額不舌里惕- ebürid- (懐, 懐抱) 同上。

-罷 -ba[→-be] 三21八

-抽 -čü 五13二, 15一

額徹 ečē (父) 父。〈→eči'ē, ečige〉

*額赤惕格- ečid·ge- (滅) 消滅させる。

-牙 -yā[→yē] 十23十

額赤惕刊 ečid·ke·n (教絶) [ečid·ke-〈→ečid·ge-〉 の同時接合副動詞形] 十12七

額赤額 eči'ē (父) 父。〈→ečē, eičge〉

-因 -yin 十26十

額赤格 ečige (父, 父親) 同上。〈→ečē, eči'ē〉 二1六, 29九, 33九, 39六, 九; 三

1五，九，22七；四6二²，12六；五13七，35五，36八²，十，37一，40七，46三；六21四，八，十，22四，八，九，24九，25五，六，27六，29一，30四，31三，六，39六，40十，41七，52八；七29一，47十；八25二，33七，九，36四，47五；九7一，21四；十38四，39二，40二；土23九，25五，50四；土19八，22十

-迭 -de 三4七；五34六；六21三，28二，37一，45八；八15五，33三；土22九，29一

-迭徹 -deče 六34六；八19八；九7三

-迭延 -deyēn 土56一

-突舌児 -dür 六24七，27四，46三，46四

-都舌里顔 dür-iyēn 二38四；五33一，42五；六30二；八35五

-魯額 -lü'ē 二39四，五，八；五36九；六26九

-思 -s 四47六

-思 -s 五6八

-昔 -si [·s-i] 四12一，五，13四，19四；五19六；土8七

-孫 ·s-ün 五19七

-顔 -yēn 五43七；九33四

-宣 -yi 六40五；九12四；十24八，43八，44三；土51一；土12四

-因 -yin 二4六，33十；三1八；五4八，43九，46二，47一；六26八，29九，34十，35二，40三，六；八33八；十24三，五，26十，44九；土23四，29五，32四；土14五，33二，34九，55一，56十，57二

-余延 -yüyēn 五9八；六23七，35八；七28四；九21九；土14四，15五，19六，46九，47三，54六，55十，57八

額赤捏 eči·ne（背処，背処行，背処了，背行，暗地行）蔭で，かくれて，一10十，11四；五26六；六16七；八10八；九34八，42七；十23十；土44七

-温 -'ün 十31四；土15九，16九

*額出勒- ečü·l-（尽絶）絶える。

-帖列 -tele 三6六，13四

額楊 ed（物，財，財物）物，財宝。土5九，6五，7二，15二，七，九，16三，九；土26八

*額楊客- edke-（割）きりひらく，割る。

-周 -jü 四22五

額迭 ede（這，這毎，這的毎）これらの。[ene の複数形] 一11二，三，八，12七，15六，19八，30六，31四，41五；二33五，48八；三5一，9九，10一，11九，12一，17五，33八，41十，49二；四24七，25三，33四，34七，43八；五5九，25二，34一，二，四，35十，42五；六30八，九，31一，33七，41六，42八；七18八，33四，42一，七；八27六，41五；九1四，十，4九，5一，19五，28五；十3九，十，29八，36八；土15四，16二，37四，44五，46五，

47七，49七；土16五，八，29五，41九，42二，三，47四，49六，八，50一

-赤 -či 五31八；六29四

-額舌児 -'ēr 五42七；六42一；七13六；八21一

額迭泥 ede·n·i（這的每行）[eden の対格形] 二3二

額朶額 edō'ē（今，如今）今。一19八，37五，43八；二9四，20五，十，22二，三，23五，25六，35一，41九，48九，49一；三2四，5七，十，6二²，20十，27八，31四；四1七，12二，13四，19六，43二，四，48二，49七；五4四，13三，14十，22九，25十，26四，30七，34八，36二，42九，45八，46五，49八；六22四，八，31六，33四，35二，37一，40二，51八；七7十，10六，11三，14八，15五，26七，29三，34三，35七，44四，47六，九；八10五，14四，六，18一，三，五，19二，20十，22三，六，29四，34三，38三，41四，47七；九7五，8七，9十，21九，23十，26三，28九，29一，31五，七；十30八，34三，36六，37十；土4九，5四，8六，15八，16七，27一，30九；土4三，六，8八，19九，22七，23六，30八，37三，49二，57一

額朶額惕 edō'ē·d（如今）同上。

-圖舌児 -tür 土5四

額都 edü（許多）このような；多くの。三39七

額堆 edü·i（只這般，這些，方纔）このような，これほどの。二20七；三4五，12十，44四；四42五，八；五43六，九；六12九，41五；八28七，十；土45四，46七

-余延者 -yüyēn~je 土31九

額敦 edü·n（這些每，這些）このような，[edüの複数形] 四6五，31一；六16八

額額迭 e'ēde（帳房骨子，門框）ゲルの骨組；門や窓の格子，三6五，七，13八，十

*額額迭兀勒- e'ēde·'ŭl-（解了）[e'ēde-'乳が酸化する'の使役形] -周-jü，土24九

額額篾克 e'ēmeg（圈的）耳飾り，イアリング，四17二

額額捏克徹 e'ēnegče（専一）専ら；永久に。五39二

*額額(舌)列- e'ēre-（攻）攻める，包囲する。

-周 -jü 土3一

*額額舌列- e'ēre-（攻，要攻）同上。

-惕 -d 土6九

-坤 -kün 五20五

-周 -jü 土2八

*額額舌列克迭- e'ēre·gde-（被攻）[e'ēre-の受動形]

-舌侖 -rün 土4二

*額額舌列兀勒- e'ēre·'ŭl-（教攻）[e'ēre-の使役形]

-罷 -ba[→be] 土2九

額額舌列兀侖 e'ēre·'ŭl·ü·n（教攻）[e'ēre·ŭl-の同時接合副動詞形] 八1十；土2十；土21一

額額(舌)連 e'ēre·n (囲) 攻める，包囲する。[e'ēre- の同時接合副動詞形] 十1三
*額克迭- egde-[ende- 克→你] (差) 誤ちをおかす。
-古 -gü[→-kü] 八13二，五
額甘 egam[→gem] (肩) 肩。
-突(舌)児 -dür 士26十
額格箑徹 egem·eče (肩甲) [egem の奪格形] 九11六; 士26六
額格赤 egeči (姐姐) 姉。五22八，23一
-迭延 -deyēn 五23四
-顔 -yēn 五23二，四，八
額格赤箑惕 egeči·med (大女) 年上の女。七1六
額者 eǰe (主) 主，主人。三44三
額者惕 eǰe·d (主每) [eǰe(n) の複数形] 一6四; 士21五，22二
額者你顔 eǰe·n·iyēn (主) [eǰen の再帰格形] 八13四
額禿 eǰe·n (主人，主) 主，主人。一5三，33六; 三39一，三; 五3十; 八35九; 士56七
額只額 eǰi'ē (到今) 今まで。五42九，44二; 八40九
額客 eke (母，娘) 母。一11一，12六，14六; 二5十，6二，十，8三，11二，35七，37四，42七$^2$，十，43二，三，五，九; 三20五，七，22九，33二; 四7一，17五，九，24一，七; 五13十; 六52八; 七9一，11八，37六，44二，47十; 八19八; 九11一，13八; 十12四，22六，23二，28六，29二，三，五，31五; 士26二，30二; 士12四
-邊 -bēn 二21一，23二，25六
-迭 -de 二7十; 三24二，30六，33一; 四17五，23五; 八30二; 九11九; 十22七，23一，25六，28六，29一，31三
-迭扯 -deče 一27四; 三31一
-迭徹 -deče 十29二
-突舌児 -dür 九12九
-宜 -yi 二46六，48八，50三; 三17八，21四，31二; 七29五; 十30十，31一
-因 -yin 一25八，42二; 二6三，8六，39一，42六; 五41一; 七39六; 九13七，17二
-思 -s 二3二，五，5六，13七
-禿 -tü 八19四
-余延 -yüyēn 一10十，11四，14九; 二6九，7四; 三20六; 七35二$^2$; 士24八，25二，四
*額客額舌児- eke'ēr- (翻) 向きを変える。〈→ekēr·ü-〉
-抽 -čü 六9八，十，16二
-[抽] -[čü] 六12五
-出為 -čü'üi 六8九

*額客額舌魯- eke'ēr·ü-（翻身）同上。
-克先 -gsen 五17九
-牙 [-yā→-yē] 五17九
額客舌倫 ekēr·ü·n（翻覆）[ekēr-〈→eke'ēr-〉の同時接合副動詞形] 四37十²
*額客温勒- eke'ŭ(n)l-（曲）曲げる。
-周 -jü 二7二
額乞 eki（脳）頭。一28一
-陽 -d 九47九; 三38二
額勒 el（治平）平和。五9六
額勒別速 elbesü（ナシ）祈祷。
-額舌児 -'ēr 七10三
額勒別孫 elbesü·n（ナシ）同上。六16七
額勒赤 elči（使臣）使節，使者。三50三; 四1二; 五11十，33六，七; 六27一，40八; 七9四，13九，15二; 十34八，35六
-迭 -de 十33七
-宜 -yi 十33八，35七
-田 -ten 十33八
-禿 -tü 五30七，40六
-顔 -yān[→-yēn] 十33六，十，34二，六
-耶里顔 -yer-iyān[→iyēn] 七14五
額勒赤列勒敦 elči·le·ldü·n（使臣往来）[elči·le-'使者を往来させる'の対動・同時接合副動詞形] 四10九
額勒赤捏 elčin·e（使臣行）[elčin の与位格形] 三3三，52九
額勒赤捏徹 elčin·eče（使臣行）[elčin の奪格形] 七28四; 三28九
額勒赤泥 elčin·i（使臣行）[elčin の対格形] 二11十; 三3二，49四
額勒赤泥額児 elčin·i'ēr（使臣行教）[elčin の造格形] 一33三
額勒赤你顔 elčin·iyēn（使臣自的行）[elčin の再帰属格形] 二11七，20二
額勒赤你耶舌児 elčin·iyēr（使臣教）[elčin の造格形] 十12二
額勒赤訥 elčin·ü（使臣的）[elčin の属格形] 三49一
額勒赤訥延 elčin·ü·yēn（使臣自的行）[elčin の再帰属格形] 二20五
額勒臣 elči·n（使臣）使節，使者。四12七; 六31七，40十²，41一，41二²，41四³，45六，48八; 十12一，二35二，43三，七; 三3一，48十，50四，55三
額勒迭必耶舌児 eldeb·iyēr（諸般） 三10一
*額勒古- elgü-（釣）釣る。
-周 -jü 二7一
額勒古兀児 elgü·'ŭr（釣）釣竿。二7一
*額勒薛- el·se-（投降，帰附）降服する，和する。
-陽者 -d-je 六20二

-額速 -'ēsü 土18八

-克薛楊 -gsed 十21四

額勒先 else·n (投降, 帰附) [else- の同時接合副動詞形] 六20三, 四, 43十; 十10五, 14五, 15一, 十; 土5四, 6三, 七, 8二, 11六, 十, 18一

*額勒薛克迭- else·gde- (被帰附) [else- の受動形]

-周 -jü 土18三

*額勒薛兀勒- else·'ül- (教帰附) [else- の使役形]

-周 -jü 土10三, 四, 11一, 二, 18六, 19四; 土27十

-主兀 -ju'u 土26五

額列 ele (但) 直前の語を強調する助詞。一35七, 八, 37五, 七, 43九, 44一; 二6九, 18九, 19一; 三21三, 39七; 四1八; 五3二, 16三, 23四, 25三, 44八, 48三; 六37三; 七12二, 23八, 24七, 29十, 34七, 35九, 37二, 39一; 八5二; 九43四, 八; 十44六; 土20十, 23一; 土45七, 50一, 52十

額列楊 ele·d (沙磧) [elesün '砂; 砂漠' の複数形] 六1九; 九16四

額里格楊 elige·d (肝毎) [eligen '肝臓' の複数形] 〈→helige〉 四22五

額鄰出昆 elinčüg·ün (曽祖) [elinčüg (曽祖父母) の属格形] 六39二

額劣兀楊 elö'üd (駝名) 駱駝の一種。土27二

額篾 eme (婦人, 妻) 女; 妻。一22九, 23六, 24五, 六; 二5七; 三1四², 6六, 13四, 21七, 44三; 四45七, 九, 46一, 47十; 五32六, 33七, 34五, 48四; 六15九, 29八, 31二, 42六, 44十, 46二, 52五, 九; 七6五, 八, 十², 10二, 27八, 28二; 八19九; 九15二; 十17十; 土56五

-迭扯 -deče 一25七, 28五, 29六; 三37八, 43十

-宜 -yi 一22八; 三24八; 六36六; 七7八; 八41五

-因 -yin 七28一

-思 -s 一24八; 八41六; 十21二

-思禿 -s-tü 三40一; 八41三

-昔 -s-i 二49一

-昔顔 -s-iyān[→-iyēn] 土8五

-禿 -tü 七6二

額篾赤列克顔 eme·čile·gde·n (被做婦人) [emečilegde- '女のようにされる' の同時接合副動詞形] 七28六

額篾額(勒) eme'ēl (鞍子) 鞍。二15二

額篾額勒 eme'ēl (鞍子, 鞍) 同上。二15三, 25九; 十33九, 35七

-禿 -tü 六49三; 七25一; 九48十; 土39五

-禿宜 -tü-yi 七22十

額篾額里顔 eme'ēl·iyān[→yēn] (鞍子) [eme'ēl の再帰格形] 二41九

額篾額侖 eme'ēl·ün (鞍子) [eme'ēl の属格形] 八8七

額篾格 emege (婆婆) 老婆。

-惕 -d 土29十
-的 -d-i 土30二
-禿 -tü 八18十

額篾堅 emegen（老婦人，老婦）同上。二42六，44五，十，45四，46二，九

*額米額- emi'ē-（惶懼）懼れる。
-罷 -ba[→be] 十29二

額木敦 emüdü·n（袴）下ばき，ズボンの類。四42四

額木捏 emüne（前，前面）前（に），南（に）。四49九；五36一；六7九，8一，四，52九；七19五；九21七；土56十，57一，三
-扯 -če 二9七，10五

*額木思 emüs-（穿）（衣服などを）身につける，着る；（はきものを）はく。
-罷 -ba[→be] 三7十，8五
-抽 -čü 七37九；九20二

*額木思- emüs-（穿）同上。
-恢突舌児 -küi-dür 七6五

*額木速- emüs·ü-（穿）同上。
-克先 -gsen 九48十；土39五

*額木思格- emüs·ge-（教穿，帯）[emüs- の使役形]
-周 -jü 三20四；五13六

*額木思格克迭- emüs·ge·gde-（被穿）[emüs·ge- の受動形]
-額速 -'ēsü 三1九

額木思格克 emüs·ge·g（上見）引出物。二39十

額你迭 ende（這，這裏）ここに，ここで。二30五，七；三9一，16三，20十，35八；四46二；七27十
-扯 -če 三2九，8十，9二
-徹 -če 五6二；六48二；七14一；九30二；十34五，35九；土20三，50三，四，54二

*額你迭- ende-（差）間違える。同上。
-坤 -kün 土33五

額捏 ene（這）この。一9六，11一，18七，42九，43一，五，七，八，十；二11五，24十，29二，41七，46八；三30四，十，31七，50五；四4三，12二，七$^2$，13四，15九，18七，31十$^2$，32一，41二，46六，七，50四；五5六，6七，13一，15四，20三，22九，十，23五，26二，34七，48二，七；六4八，九，6一，7六，17五，25七，34一，50八，51四；七3九，10三，11一，13十，15二，三，16四，九，18一，23七，24四，26三，四，27八，28三，五，八，31九，36四，37二，46一，47八；八12五，19二，21八，32一，34三，38二，45八，47一；九3九，34三，42九，46十；十1三，29八，十，36六，37九；土5十，6二，15七，16七，22六，28七，29七，30七，32一，43七，47四；

土2九，3二，5二，11六，17四，31六，七，34一，45一，四，56四，八

額担堅 enegen（ナシ）固有名詞（？）。四33五

*額舌児別格勒折兀勒 erbe·gelǰe·'ŭl-（強形勢）虚勢を張らせる。

-周 -ǰü 十19三

額(舌)児迭 erḍe（在前，早）早く，早い。〈→erte〉六6三，28十

額舌児迭 erḍe（在前，早）同上。〈→erte〉二42五；三4七；五13四，19五，31七，34六，48一；六29三

額舌児迭米額舌児 erdem·i'ēr（技能）[erdem の造格形] 土22十

額舌児迭迷耶舌児 erdem·iyēr（技能）[同 上] 土19七

額舌児迭木場田 erdemŭd·ten（技能毎有）技能をもてる（者）。四25九

額舌児迭木田 erdemü·ten（技能）[同上] 七19三；八19五；九32四

額舌児迭門 erdem·ün（技能）[erdem の属格形] 土28八

額舌児点 erdem（技能）才能。七10十

-禿 -tü 十30四，五，六

額児點圖 erdem·tü（技能有）技能をもてる（者）。十30四，五；六

額児吉 ergi（岸）河岸，懸崖。二6十，17三

-迭 -de 二39一，41三，42四

額舌児吉 ergi（岸）同上。三10三

-迭 -de 三10四

*額児古 ergŭ-（立）あげる，持ち上げる。

-額場 -'ĕd 一39四

*額(舌)児古- ergü-（擡）同上。

-克辞場 -gsed 四36十

-周 -ǰü 四23一

*額舌児古- ergŭ-（擡，立）同上。

-罷 -ba[→-be] 四31六；土14二

-額場 -'ĕd 四31六；九20一

-周 -ǰü 四40三；土14三

-耶 -yē 四31二

*額舌児古兀勒- ergü·'ŭl-（教擡，被立）[ergŭ-の使役形]

-周 -ǰü 土26九；土15二

*額舌児估- ergü-（擡）同上。

-周 -ǰü 三38七

額舌児客 erke（威勢）権利，権力。

-禿 -tü 三22八

額舌児乞場 erki·d（緊要）[erkin の複数形] 五18四；八43七，44九；土4七

額舌児勤 erkin（緊要）重要な。三6五，13三；八43一，44二

額児帖 erte（在前，早，疾早）早い；昔の。〈→erḍe〉一44六；二8六，28九，39三，

八，44三

額(舌)児帖　erte（在前）同上。十30六

額舌児帖　erte（在前，在先，早）同上。三17六；四11十，13八，20四，43二；五36九，47三，49五；六19六，23六；七29三，35一，39七，八16九，21九；九24十，十35二

額児帖捏扯　erten·eče（自在前）[erte(n) の奪格形] 一45三

額児帖訥　erten·ü（在先的）[erte(n) の属格形] 二48八

額舌児帖訥　erten·ü（在前的）[同　上] 三25六；四19三；七9一，11二

額舌列　ere（丈夫，男子，人，人口，軍）男，夫。一10五，11一；三22九；四25九；五23七；六52二；七10三；九33六；十16六；十5七，45五；十47七

-迭　-de 七16一

-突舌児　-dür 十19六

-宜　-yi 四46二，四，八；七35五$^{2}$，38一

-因　-yin 二29八；七23八，29二；十19七；十26十

-魯額　-lü'ē 九11六；十26七

-思　-s 二6八；三44二

-余延　-yüyēn 四46三

*額舌列-　ere-（指望）望む，願望する。

-周　-jü 十23十

額舌列寅　erebin（男子）ere-yin と読み「額舌列寅」と校すべきもの。十6一

額舌列坤（斡抹中渾）erekün(omoqun)（勇猛的，敢望与人相鬥）勇敢な。〈→omoqun〉二6九；十2四，4六；十5十

*額舌列列-　ere·le-（做丈夫）夫とする。

-速　-sü 七6九

*額舌列木失-　ere·mši-（逞丈夫）男ぶる。

-周　-jü 十35五

額舌列木克　eremüg（不生駒的）不妊の。二25七

額舌列兀　ere'ü（罪）罪。

-突舌児　-dür 九6五，24八

*額舌列兀列-　ere'ü·le-（罪）罰する，罪にする。

-周　-jü 九34八

-牙　-yā[→-yē] 九45五

-耶　-yē 十44十，45四，46七

額舌列兀《舌》列-　ere'ü·re-（罪）同上。[ere'ü·le- 舌列→列] 十40六

額舌列延　ere·yēn（指望）願望，のぞまれること。六46三

額舌廉迭克（詹迭克）　eremdeg(jemdeg)（残疾）片輪の。〈→jemdeg〉二7一

*額舌里-　eri-（尋）探す，求める。

-古　-gü[→-kü] 三16二

-周 -ǰü 三21二; 四39十, 40六; 八7三; 十52三
-舌侖 -rün 六16七
-牙 -yā[→-yē] 十5三
-耶 -yē 二20七, 十

額(舌)鄰 eri·n (尋) [eri- の同時接合副動詞形] 二21一, 36八
額舌鄰 eri·n (尋) [同 上] 一18八; 二22四, 23二, 25七; 六16八, 45二
*額舌里格列- erige·le- (掛) 頸に飾りや帯などを掛ける。
-周 -ǰü 二51四
*額舌里兀勒- eri·ǖl- (教尋, 教掘) [eri- の使役形]
-古 -gü[→-kü] 六22十, 23一
-周 -ǰü 六14四; 十48九, 55六
*額舌里兀魯- eri·'ǖl·ü- (教尋) [同 上]
-額速 -'ēsü 五23六
-耶 -yē 五23二
額舌里兀勒孫 eri'·ǖl·sün (尋的) 探索する者。九12十²
額舌里溫 eri'ǖ·n (下顎) 下顎。
-突舌児 -dür 八28七
額舌里顏 eriye·n (領着) [eriye- '導く, 統率する' の同時接合副動詞形] 六8十
額舌魯格 erüge (天窓) 天窓。〈→örüge〉 一13一; 三6四, 13八; 十20一, 42十, 43二
*額(舌)魯思①- erüs- (趕上) 遭う。
-速該 -sügeǰ 四42十
*額舌魯思②- erüs- (得) 捕える。
-罷 -ba[→-be] 三20三
-抽 -čǔ 三17十
額舌魯孫 erüs·ü·n (得, 奪) [erüs②- の同時接合副動詞形] 二48三, 五; 六16五
*額舌魯思帖- erüs·te- (被得, 被害) [erüs②- の受動形]
-古耶徹 -güyeče [→-küǰ-eče] 十22二
兀澤 -'ǔǰaǰ[→-'ǔǰeǰ] 二32四
額思格勤 esgel (幾年不生駒的) (馬について) 何年も仔を産まない。三28一
額薛 ese (不曽, 不) ～でない [動詞の過去形に前置される] 一4四, 15二, 六, 18二, 20十, 21三; 二19四, 20六, 45五; 三21二, 31一; 四1七, 20七, 35十, 40四, 45三; 五2十, 17九, 18六, 27七, 30七, 32二, 39六, 40八, 43二; 六2九, 17三, 20四, 28四, 五, 31八, 35七, 46一, 51三; 七2一, 4一, 5八, 14八, 23十, 28一, 二, 29二, 九; 八18三, 21四, 22五, 28四, 五, 八, 29一, 33九, 43十, 46三; 九2八, 3十, 4一, 二, 三, 8四, 五, 12一, 三, 15二, 五, 八, 17五, 42十; 十1五, 2四, 6八, 11二, 23二, 24四, 27九, 28三, 35一, 43六; 十16一, 十, 21十, 22九, 24

五，六，七，33四，44五，七；十3七，4五，8二，23九，24十，34四，40一，45四

額薛古 ese gü[→kü]（不曽也）～でない。四19六；六35九；七24十

*額薛- ese-（不曽）～でない。

-克薛捏 -gsen-e 九9八

額薛児古 esergü（迎着）反対に，逆に。二32五，44六，51三

額薛(舌)児古 esergü（迎着）同上。三40二

額薛舌児古 esergü（迎着）同上。四4五，32十，34三；五12一；六8六，9二，六，26十；七32一；十38十，39七；十15四，六，38四；十50三，五

*額薛舌児古列- esergüle-（迎）対する，敵対する。七42八

額薛兀 ese·'ü（不曽，不曽麼）[ese に疑問を表すüがついた形] 二23二；三1六，2三，12五；六22一，四，七23三，五，41八，十；七28三，34三，35七，44四；八22三；十24十，25一，27二；十35一

額先 esen（安存）安全な 三6三；九17一

額速克 esüg（馬妳子）馬乳。四40一

*額速克赤列- esüg·čile-（馬妳子喫）馬乳を飲む。

-周 -jü 一17八，19五

額速吉顔 esüg·iyēn（熟馬妳子）[esüg の再帰格形] 二22五

額速兀惕 esü'üd（馬妳子）[esüg の複数形] 四39十

額速勒扯 esü·lče-（共長）互いに成長する。

-克先 -gsen 九6三

額失格 ešige（粘羆，小羖羆，羖羆）雄の子山羊。五13五

-因 -yin 七36十；十35四

額帖惕 etēd（辺傍）側，傍。〈→ete'ēd〉一45三

額帖的耶舌児 etēd·iyēr（依着）[etēd の造格形] 六18六，八

額帖額惕 ete'ēd（邊，一邊）側，傍。〈→etēd〉四37七；九9五，六，七，10三；十9三，五，八，38六；十23八；十40十，41三，五，七，十，42二

額帖額敦 ete'ēd·ūn（辺的）[ete'ēd の属格形] 十39八

額禿堅 etügen（地）大地，地。十24三

-突舌児 -dür 八20五

額禿格捏 etügen·e（地行）[etügen の与位格形] 三22九

額禿格泥 etügen·i（他行 [他→地]）[etügen の対格形] 十40三

額禿格惕 etüged（處）[etügen の複数形]

-突(舌)児 -dür 七16八

額兀別児 e'ūbēr（這裏行）ここを。二29三

額兀別舌児 e'ūbēr（這般）同上。六6二

額兀迭 e'ūde（門）門。

-帖泥 -ten-i 八30四

-延 -yēn 二41九
額兀迭臣 e'ŭde·čin (管門的) 門番，番人。土40六
額兀闐 e'ŭde·n (門) 門。十39五，42十
額兀顚 e'ŭde·n (門) 同上。八43九
額閥迭訥 e'ŭden·ü (門的) [e'ŭden の属格形] 六39二
額閥迭臣 e'ŭde·čin (把門的) 門番。七21二；十5七
額閥迭訥 e'ŭden·ü (門子的) [e'ŭden の属格形] 九6一
額閥闐 e'ŭde·n (門) 門。二9五；四22十；五44五；九47八；十38九，40五；土10二，40五，42五
-別舌児 -bēr 三20七，八
-突(舌)児 -dür 十5七
-突舌児 -dür 三21八；七20九；土37七
-都舌里顔 -dür-iyān[→iyēn] 三21九
-担徹 -neče 四22四，23一
-訥 -nü 四22三
-圖児 -ṯür 一46八
額閥闐赤 e'ŭden·či (把門的每) 門番。七20六
額兀坤 e'ŭkün (脂膏) 脂。
-突舌児 -dür 土31七
額兀列 e'ŭle (雲) 雲。
-台 -taị[→teị] 十1二
額兀連 e'ŭle·n (雲) 同上。十12四
額兀担徹 e'ŭn·eče (比這箇行，這箇行) これから，四15十；七48五
額兀泥 e'ŭn·i (這箇行) [e'ŭn の対格] これを。五13三
額兀訥 e'ŭn·ü (這的) [e'ŭn の属格] これの。五21二
額兀舌剌 e'ŭra [→re] (久) [舌剌→舌列] 久しく，永久に。八20五
*額兀舌列- e'ŭre- (ナシ) 砕ける，崩れる。
-周 -jü 七16七
*額兀思- e'ŭs- (起) 出発する；見送る，送る。
-抽 -čü 四13八，32三
*額兀思格- e'ŭs·ge- (送将去，取，起，做起) [e'ŭs- の使役形]
-罷 -ba[→be] 二37三
-周 -jü 一34六，45二；三10七；四12十
額兀思堅 e'ŭs·ge·n (送→送) [e'ŭs·ge- の同時接合副動詞形] 二37三
*額兀速勒扯- e'ŭs·ü·lče (共起) [e'ŭs- の相動形]
-周 -jü 六46十
額也 eye (商量) 話し合い；和合。三50五
-邊 -bēn 三50五

-田　-ten　一14五

額耶　eye（商量）同上。二8七；三44二；五19四，九，20一，21一，三，五，45十；六9六；八42三，四；九4四，42四，43五；十5四；土39七，44五，45七

-突舌児　-dür　五15四，21二；土5五，十，6八

-都舌里顔　-dür-iyān[→-iyēn]　四10十；土3七

-田　-ten　五40三

*額耶禿-　eye·tü-（商量）話合う；和合する。

-周　-jü　六46六；八31三；九4五；土15四，19五，十，53一

*額耶禿(勒)都-　eye·tü·ldü-（商量）[eyetü-の対動形]

-周　-jü　三38十

*額耶禿勒都-　eye·tü·ldü-（共商量，商量）[同　上]

-罷　-ba[→-be]　五19五，20一

-惕者　-d~je　土5六

-周　-jü　三42十；七19九；九2九，7七，30四，36十；土40九，41一，四，六，43四，六

-舌侖　-rün　五19五

*額耶屯(勒)都-　eyetü(n)·ldü-（商量）[同　上]

-周　-jü　一22二

額亦木　eyi·mü（這般，這般有）このような。二18九，24十；四41八；六39三；土5四，18七

-宜　-yi　四41十

額亦模　eyi·mü（這般）同上。三16七；七7十，15八，16九

額亦門　eyi·mü·n（這般，這般每）[eyimü の複数形]　土32二；土6三

額因　eyi·n（這，這般，自這般）このように。二2十，4八，12六，48三；三44四；四7六，9五，18八，42十；五15二，六；六41六；七7十，23六，29四，36九，42一；八9一，12六，42四；十6六，36八，37四；土6二，21十，35九，45六，46九；土30七

唵不舌魯　embü·rü（塌）くずれて，くだけて。三6五，13三

奄出　emčü（梯巳）私有の財産。四22四，26四；六39三；七1十；九6一，33七，十；十3七；土14六

奄出連　emčü·le·n（同上）[emčü·le-'私有のものとする'の同時接合副動詞形]十3六

唵古　emgü[→kü]-（呑）飲み込む。

-額速　-'ēsü　七38一

昂格思格　enggesge（紅）紅，頬紅などの類。[anggesge→enggesge]　六9六，16一；八43八

*昂格失格-　enggešige-[anggešige-→enggešige-]（学）学ぶ，真似る。

-周　-jü　土32五

昂客　engke（夫平）平和，太平。(angke→engke)　三44二

# i

亦不侖 ibul·u·n (紛攘) [ibul-～ibül- (紛糾する) の同時接合副動詞形] 十1十
亦赤勤 (札舌児中合黒) ičikin(ǰarqaq) [ilkin ǰarqaG, 赤→勤] (粉皮) 鞣した氈鹿の皮。
三23九 〈→ǰarqaG〉
*亦出- iču- (退, 回去) 退く。
-阿速 -'āsu 土5五; 土3三
-罷 -ba 三25一, 四; 四16二; 六17七; 十31三; 土6十
-周 -ju 四34十; 七32六; 土2七
-舌侖 -run 三24六, 25一; 土18四
-牙 -yā 三23四; 十31三; 土18四
亦純 iču·n (退) [iču- の同時接合副動詞形] 土29三
*亦出阿- iču·'ā- (教退, 退) [iču- の他動詞・使役形]
-罷 -ba 五9三
-周 -ju 四10八, 19二; 六9五; 土13二
亦出安 iču·'ā·n (教退) [iču·'ā- の同時接合副動詞形] 四45六
*亦出阿黒荅- iču·'ā·Gda- (趕退) [iču·'ā- の受動形]
-阿速 -'āsu 五17八
*亦出黒荅- iču·Gda- (可退) [iču- の受動形]
-中灰 -quį 土5四
*亦出中合- iču·Gā- (退, 教退) [iču- の他動詞]
-阿 -'ād 四46十
-罷 -ba 二4十
-黒撒訥 -Gsan-u 土5五
-牙 -yā 四45四
*亦出中合黒荅 iču·Gā·Gda- (退) [iču·Gā- の受動形]
-黒三 -Gsan 二4十
亦惕客勤 idkel (倚仗) 信頼。四47八
*亦惕中合- idqa- (勧, 勧当, 止当, 阻当, 当) 諫める。
-阿速 -'āsu 四10四; 六18十; 八33十
-罷 -ba 一38三; 十18八
-周 -ju 八38二; 十2一
-魯阿 -lu'ā 七47六
-中忽 -qu 二3九, 4七
-中忽突児 -qu-dur 二3六
-中渾 -qun 五49三
-禿中孩 -tuGaį 九35一, 36五

*亦惕哈- idha-[→idqa-] (勧) 同上。[哈→中合]
-羅 -ba 一38三
亦惕中罕 idqa·n (止当) [idqa- の同時接合副動詞形] 二15五, 八; 十43九
*亦惕中合兀魯- idqa·'ūl·u- (被勧) [idqa- の使役形]
-阿惕 -'ād 七13三
*亦哩- ide- (喫, 喫兼) 食べる。
-惕 -d 七34一
-惕坤 -dkün 五47一
-額惕 -'ēd 一16九; 五11七
-額速 -'ēsü 七21一
-克先泥 -gsen-ni 一16八
-古 gü[→-kü] 二2八, 九; 三18三, 九
-周 -jü 五14八; 六26六, 七; 七33十
-恢 -küi 一16七; 二2三
-恢突舌児 -küi-dür 七6六
-中灰 -qui[→-küi] [中灰→恢] 十12六
-模 -mü 八12六
-舌列 -re 五45八, 46一, 六
-舌侖 -rün 八12四
-速 -sü 三18四, 十
*亦赶- ide- (喫) 同上。
-周 -jü 六45四
*亦迭- ide- (喫) 同上。
-速 -sü 三45十
-帖列 -tele 九46六
亦顚 ide·n (喫) [ide- の同時接合副動詞形] 一16三; 二27五; 八12七; 九46七
*亦哩克迭- ide·gde- (被喫) [ide- の受動形]
-古 -gü[→-kü] 十31七, 八 (亦哩哩-), 33六, 七
*亦哩勤都- ide·ldü- (共喫, 喫兼) [ide- の対動形]
-額惕 -'ēd 一16八
-周 -jü 八17二
-主為 -jü'ūi 十13八
亦哩額 ide·'ē (喫食, 茶飯, 食) 食物。五32五; 八17一; 九10一, 三; 十5五; 十12四
-遣 -bēn 一14十 (亦迭額)
亦哩額捏 ide·'ēn·e (茶飯行, 茶飯処) [ide'ēn の与位格形] 一23三, 27七, 八
亦哩額泥 ide·'ēn·i (喫食行, 食行) [ide'ēn の対格形] 四48一; 十4十, 5一[2]; 十39八
亦哩失 ide·ši (喫食) 食物, 食糧
-禿 -tü 七37八

亦咂延 ide·yēn（茶飯食）食物。一16七; 二15九; 十5三; 廿2七
亦咂筵 ide·yēn（茶飯嗾喫食）同上。四11四; 六29十; 九9五
*亦都舌列- idüre-（趕到，趕上，将近）追いつく。
-周 -jü 四42六, 48三
-恢 -kūį 七10七
*亦克禿担- igtüne-（ナシ）努める，努力する。[yigtüne-→jigtüne-]
-周 -jü 四13一
*亦古勒古- igülgü-（ナシ）[赤古勒古- čigülgü-‘集まる’の誤写か]?
-周 -jü 六50七
*亦協- ihē-（護助）護る，加護する。
-周 -jü 八20六
*亦協額- -ihe'ē-（護助）同上。
-罷 -ba[→-be] 四40五
*亦協額克迭- ihe'ē·gde-（被護助）[ihe'ē- の受動形]
-額速 -'ēsü 六36三
-周 -jü 七3六; 八29十; 廿4二
-梅者 -müį-je 八11一
*亦赫額克迭- ihe'ē·gde-（被護助）[同 上]
-額速 -'ēsü 三49五
*翊協額克迭- ihe'ē·gde-（被護助）[同 上]
-額速 -'ēsü 廿36三
亦赫額勒 ihe'ēl（護助）保護，庇護。〈→iheyēl〉五34十; 六25八
亦協耶勒 iheyēl（護助）同上。八33五〈→ihe'ēl〉
亦只里都勒纙 iǰilidü·lče·n（慣熟）[iǰilidü·lče- ‘瓦に慣れる’の同時接合副動詞形]
四9八
*亦勒中合- ilga-（選揀，揀，揀選，揀択，時揀）選ぶ; 区別する。
-罷 -ba 九36八
-黒三 -gsan 九39五
-周 -ju 四25七，十; 七19一，三，四，21九; 九31八，32一，36一，二，八，39八; 十3七; 廿48四，六
-梅 -muį 廿22十
亦剌阿舌里 ila'āri（較好）かなり良い。四9七
*亦剌黒- ilag-（勝）勝つ; 克つ。
-罷 -ba 廿24二
-抽 -ču 四10六
*亦剌黒荅- ilag·da-（被勝，可勝）[ilag- の受動形]
-阿 -'ā 十27七
-阿速 -'āsu 廿23三

-中忽 -qu 四27五，28二；土56三

-中忽阿察 -qu-'ača 十27七

亦列 ile（露着，対面，当面，面前）明らかな（に），目にみえる（て），向い合った（て）。二17十；八10九，14一，22八

-宜 -yi 土24二

-兀兀 -'ü'ü 六35五

亦列 ile（教去，去，教来）[ile- の命令形] 三2八，4九；六31九，40八，九，十，41一，二，三，四²

*亦列- ile-（去，差去，差，教出，使，来，教来，使去，走去）送る，派遣する。

-罷 -ba[→-be] 二25十，38三；三4四，9四，16四，50三；四12七，13六，27十，28四，45十；五33九，34二，46一；六19十，34四，35三，37五，40九，41六，46四；七14九；八1九，7七；土1五，2十，15三，19一，37二，三，六，41八，九，42五，43四；土20六，36一

-罷者 -ba[→-be] -je 九23六

-別速 -bēsü 十13三

-額惕 -'ēd 五11十，43五；六27一，46八；七14四，25二

-額速 -'ēsü 四1二，32二；六20三，30八，31九；九1五；十21七，34三；土35五，36一，43五，47一；土3八，4四，20一，33十，49十

-克薛惕 -gsed 土11六，十

-克薛額児 -gse'ēr 一39一

-克先 -gsen 三4五；六48二；八15六，九；土49十

-古 -gü[→-kü] 十34六，八

-古宜 -gü-yi[→kü-yi] 六39三

-周 -jü 三50七；四1十；五6三，六，九，7四，11三，18七，47一；七9四；八36八；九1九，27九，28三；土2九，39十；土3一，7七

-主古 -jügü 六6五

-主恢 -jüküi 七28五

-主兀 -jü'ü 一33九；四12九，31十；七14二；十12二，34三；土18三，35八

-主為 -jü'üi 四11二；五33七，十，42七，43二；七14十，25四，27七，28三，42九；十12九，33六；土12八；土5二，20三，30九

-魯額 -lü'ē 十35六

-舌侖 -rün 一33三，五；三3十²，4六，16二；四1四，13三，33五；五33七，43三（亦《舌》列舌侖）；六5三，19六，45八；七13十，14六，26五，42三，四；八6四；十13一；土18五，35二，37四，42一；土3四，19五

-速 -sü 土20三

-速該 -sügei 土50五

-禿該 -tügei 土32九

-兀澤 -'üjai[→jei] 五4七

-牙 -yā[→-yē] 六45六; 九34八, 42七
-耶 -yē 五46九; 六48六; 十32七, 44七
亦連 ile·n (教来) [ile- の同時接合副動詞形] 十27四
*亦列勒都- ile·ldü- (共教去, 教共去) [ile- の対動形]
-罷 -ba[→-be] 十19三
-主為 -jü'ü̆i 六48六
亦魯卜帖 ilübte (順便) 便利な, 都合のよい。十52九
亦魯該 ilügei (下唇) 下唇。
-亦顔 -yiyān[→-yiyēn] 四27八
亦馬阿惕 ima'ād (粘灘, 殺灘) 山羊。[ima'ān の複数形] 五11六, 14七; 六26六
亦馬阿舌里 ima·'āri (因他行, 他行) [人称代名詞3人称単数造格形] 五42九, 44二
亦馬荅 ima·da (他行) [人称代名詞3人称単数与位格形] 七1九; 九2八; 十18三
亦馬宜 ima·yi (将他, 教他, 他行) [人称代名詞3人称単数対格形] 二47三; 四50八; 五10二; 八14一; 十12四
亦納黒短 ina·gši (以這相) こっちへ。十15五
亦納兀惕 ina'ūd (寵信的每) 寵臣達。[inaq '寵愛' の複数形]
*亦捏- inē- (咲) 笑う。
-主兀 -jü'ü̆ 七9七
*亦捏額- ine'ē- (咲) 同上。
-罷 -ba[→-be] 七9八
*亦捏額兀魯- ine'ē·'ü̆l·ü- (教咲) [ine'ē- の使役形]
-惕坤 -dkün 十30五
亦捏舌魯 ine·rū (焼飯祭) こちら側へ。二1九
亦訥 in·u (他的) [*in の属格形] 彼 (女) の。一7五, 六, 七, 8四², 八, 9十, 10一, 十, 12六, 13二, 五, 15八², 18七, 20四, 十², 21二, 三, 四, 22一, 24八, 30五, 35二, 三, 36三, 37一, 38三, 42三, 46三, 六; 二15二, 17七, 21十, 23一, 三, 六, 29四, 十, 30一, 33十, 34九, 35八, 37四, 46七, 十, 47一, 48四, 五; 三6五², 六, 七², 9九, 13九, 五², 20六, 七, 25三, 30十², 38二, 43七, 八, 46一, 二; 四3三, 4六, 5一, 8七, 14三, 四, 19十, 22三, 十, 23二, 25五, 26四, 27九², 十, 28五, 八, 九, 32十, 40三, 46八, 49五; 五2四, 五, 七, 3三, 4四, 五, 八, 九, 十, 5一, 三, 9八, 10四, 13七, 17二, 23七, 26五, 27五, 十², 28六, 34七, 37八, 40七², 41三², 四, 44四, 48四, 六, 50五; 六3四², 12七², 13六, 十, 16二, 19三, 20二, 21二, 22三, 23二, 27八, 36八, 九, 十, 40三, 45九, 十, 48十, 52五; 七1四, 六, 6四, 五, 八, 十, 7七一, 三, 九, 9二, 四, 十, 11八, 21一, 36五, 43五, 45五, 八2十³, 3一, 6四, 七, 12七, 21二, 四, 九, 22八, 十, 36五, 43四, 45八, 46九; 九6一, 14一, 二, 15六, 七, 16七, 28八, 32七, 33五, 六, 十, 47四; 十11六, 16一,

17十，24四，28十，29一，五，31四，33八，九，38七，八，39二，八，40五，41三，43三；土5八，9八，15二，17一，18八，21四，25三，五，38一，40六，50七，51一；土5九，14七，32一，三，34三

*亦中忽舌里~ iquri-（移）退く，離れる。

-周 -ǰu 七34七

亦中忽舌里中合動敎 iquri·ɢa·ldu·n（相挪，相挪趧）[iquri-の使役・対勤・同時接合副動詞形] 四35二，49二

亦舌児格 irge（地状）モンゴル包の側壁の下部の部分。

-台 -taị[→-teị] 十1九

亦舌児格 irge（羯）去勢羊。三45六；土23二，52六，53四

-思 -s 六44二

亦(舌)児格 irge（百姓）人衆；人民。五18四，33九；七4一；十23五

亦舌児格 irge（百姓）同上。四21八，46九；五10三，13八，27六，32五，六，33七，34五；六28一，29八，30一，五，31二，四；七1二，十，3七，4六，16三，45四；八44八；九30二；十16八，22八，23二，三，四，六², 七，八，25六，31四，五；土45一；土47三

-邊 -bēn 四32十；十33五，34四，35一，五

-突舌児 -dür 土8一

亦児格捏 irgen·e（百姓行）[irgen 与位格形] 一32十，33七，49二

亦(舌)児格捏 irgen·e（百姓行）[同 上] 土20一

亦舌児格捏 irgen·e（百姓行）[同 上] 土20四，30五，35三；土3六，16三，48五，八，49二

亦児格捏扯 irgen·eče（百姓処）[irgen の奪格形] 一34五

亦舌児格捏扯 irgen·eče（百姓行）[同 上] 三16六

亦舌児格捏徹 irgen·eče（百姓行，百姓処）[同 上] 八26九；土8二，13二，47八

亦舌児格捏扯延 irgen·eče·yēn（百姓自的処）[irgen·eče の再帰格形] 土9十

亦児格泥 irgen·i（百姓行）[irgen の対格形] 一18四，22二，23三；二4十

亦(舌)児格泥 irgen·i（百姓行）[同 上] 土50二

亦舌児格泥 irgen·i（百姓行）[同 上] 三22五，23三；四26二，三，36十，45六；五1五，24八；八10四，15六，42一；九12五，六；十15五，16八，17十，18十，21八；土45四，51四，52四；土4二，5九，12三，十，26七，27九，29一，二，34五，七，47二

亦児格訥 irgen·ü（百姓的）[irgen の属格形] 一23七，44三；二39四

亦(舌)児格訥 irgen·ü（百姓的）[同 上] 九11三；土21四

亦舌児格訥 irgen·ü（百姓的）[同 上] 三43三；四10九，25三，39九；六27九；七43九，48三；八30三，十，40一，41五；十15六，17九，20一，21一，三，六；土8二，10六，八，十，11一，七，35一，44十，47五，49二；土8二，六，12二，15四，五，19五，22二，55八

亦(舌)児格訥延 irgen·ü·yēn (百姓自的行) [irgen の再帰属格形] 四25六

亦児堅 irgen (百姓) 人々, 人衆; 人民。一3九, 5三, 7九, 17五, 18二, 三, 四, 19三, 21八, 九, 33一, 44六, 十, 45四, 47九; 二5一; 四6五

-都児 -dür 一4九

-都舌里顔 -dür-iyān[→-iyēn] 二16十

-突舌児 -dür 土10十, 12九

-訥 -nü 一4三

-途児 -ṭür 一17六, 18九, 36十, 42二, 十; 二30三

亦舌児堅 irgen (百姓) 同上。四11十, 12一, 19十, 26四, 45二; 五9四, 13五, 19三, 六; 六3四[2], 六, 八, 19十, 29十; 七11二, 九, 16三, 23九, 45七; 八1二, 42三; 十21四, 33一, 四, 35四; 土8八, 9四, 44四, 46十, 47三, 四, 49一[2]; 土2四, 十, 3五, 8八, 12八, 18一, 二, 21五, 七, 22三, 23十, 55二, 六

-突(舌)児 -dür 土20六

突舌児 -dür 三15四, 六; 五27二, 三; 七21十; 八37二, 41十, 47七; 十14三, 17八; 土1三, 11九, 36九, 49八, 51九, 土1二, 四, 4一, 15十, 19十, 20八, 30五, 55二, 八

-魯額 -lü'ē 八15三

亦舌剌荅 irada (下水) 川を下って。二5八

亦舌列 ire (来, 教来) [ire- の命令形] 一49五; 二14一; 六30六, 31七, 八, 41二

*亦舌列- ire- (来, 教来) 来る。

-阿速 -'āsu[→'ēsü] 一40六

-埃 -'aị[→'eị] 一48一

-罷 -ba[→-be] 一1四, 17七; 二1四, 六, 23三, 28四, 32七, 35一, 37六, 四; 三1六, 31二, 34三, 五; 四6一, 四, 五, 34二, 40三, 42六, 47四, 48三; 五2九, 4九, 5四, 6四, 七, 7五, 9一, 12二, 30七; 六8五, 12九, 13九, 14二, 15十, 27三, 44一; 七7六, 15三, 23六, 44四; 九28三; 十11七, 十, 14五, 16一, 34四; 土6七, 12九, 15六, 16三, 六; 土9四

-罷古 -ba-gü[-be-kü] 三34七, 十, 35二, 三, 四, 五, 五, 八, 九, 十[2], 36二, 四, 41一, 二, 三, 四

-罷者 -ba~je[→-be~je] 六38五; 九23九

-別速 -bēsü 一20四

-畢 -bi 二45六

-惕坤 -dkün 五45八, 46一; 六46七; 八9三; 土19一; 土4九

-額 -'ē 二46八

-額惕 -'ēd 四34二; 六48六; 七7四; 土43九

-額速 -'ēsü 四47十; 五6十, 9二, 10一, 11八, 13九, 14九, 23二, 39三; 六

11八，十，14五，九，17三，24三，八，26一，30六，31八；八36十；九48一；十36四，44六；廿1八，38四

-(克)薛(惕) gsed 一18九；二48九

-(克)薛惕 -gsed 三49六

-克薛惕 -gsed 五5九；九39八；十3七

-克薛額児 -gse'ēr 二36七

-克[薛]泥 -g[se]ni [→-gsen-i] 一25八

-克薛泥 -gsen-i 二23五

-克先- gsen 七15二；廿11六

-克先突舌児 -gsen-dür 五9一

-古 -gü[→kü-] 一19八；三19一；四42八；七33四

-古耶 -güye [→-küi-e] 一44一

-周 -jü 一7二，17九，18八，19四，23六，36十，43六，44三；二4四，7十，11二，18七，27九，41五，44十；三1四，4一，8九，9十，15八，33一，37七，十，38一；四9四，21七，34一，43三，46五，49四；五1六，7一，26一，34九，48一，七，49十；六2四，15十，25四，29六，31五，42八，51五；七7五，14九；八22一，36十；九13三，14七，17一，36二；十11二，13六，14五，15三，七，38五；廿4一，六，14八，19五，40一；廿3九，11四，13一，35七

-主兀 -jü'ü 四3四；五26四；七14八

-主為 -jü'üi 一34八；二13六；四4三；五2五，5八；七7十，27九；十10十；廿52五；卅50二，八

-恢 -küi 一17二

-恢突舌児 -küi-dür 五5二

-恢魯額 -küi-lü'ē 一35四；五2五；六8五

-坤 -kün 九34十

-列額 -le'ē 二30七，45二

-木 -mü 一19八

-梅 -müi 七14七

-舌倫 -rün 一49二；四40四；六31七，40八，十；九5八；十12三；廿17六，28十，50三，六

-帖列 -tele 九15九

-禿孩 -tuɢai[→-tügei] [孩→該] 二1六

-禿該 -tügei 四12六；六48五；八27九；九32九，33二；十13五

*亦(舌)列- ire- (来，教来，将来) 同上。

-罷 -ba[→-be] 一4六；二38三；四32四；五14二；六26七；十16八，27十

-額速 -'ēsü 九28四；廿42三

-克薛惕 -gsed 五7六

-周 -ǰü 四50十; 九12九
-主為 -ǰü'ǔi 三18三
-坤 -kün 九15五
-禿該 -tugeị 九32七, 47五
*亦舌劣克迭- ire·gde- (被来) [ire- の受動形]
-罷 -ba[→be] 四19六
-周 -ǰü 五10二; 六24十; 八12九; 十34一, 35八; 三6七, 8七; 三10六
-中灰額徹 quị-eče [→küị-eče] [中灰→恢] 四13六
*亦舌劣勒都 ire·ldü- (共来) [ire- の対同形]
-周 -ǰü 七33二
*亦(舌)列兀勒- ire·'ǔl- (教来) [ire- の使役形]
-周 -ǰü 四47一
*亦舌列兀勒- ire'ǔl- (教来) [同 上]
-周 -ǰü 五25二, 44六, 45九
亦舌列兀列埃 ire·'ǔle'ēị (来) [亦舌列列埃 ire·le'ēị の誤りと思われる] 五9五
*亦舌列兀魯- ire·'ǔl·ü- (来, 教来, 到来) [ire- の使役形]
-阿惕 -'ād[→ēd] 六45五
-額惕 -'ēd 四32一, 九; 五5四; 六7六, 12一
亦舌列兀侖 ire·ǔl·ü·n (教来) [ire·ǔl- の同時接合副動詞形] 三1八
② *亦舌列温(勒)- ire·'ǔ(n)l- (教来) [ire- の使役形]
-周 -ǰü 一48十
亦舌連 ire·n (来) [ire- の同時接合副動詞形] 二26七; 六13七
亦思該 isgeị (穢) フェルト。三47七, 八
-禿 -tü 八30三
*亦薛舌里 iseri (床) 床几。六21六
-因 -yin 二24七; 九13一
-耶舌連 -yērēn 五50一
*亦帖格- itege- (倚仗) 信頼する, 頼る。
-周 -ǰü 六1六
-主兀 -ǰü'ǔ 五40八
*亦帖格克迭- itege·gde- (可倚, 倚仗) [itege- の受動形]
-古 -gü[→kü] 七8一
-坤 -kün 九28五
亦帖格勒 itege·l (倚仗, 中倚附, 可倚仗) 信頼。八19九
-田 -ten 五5九; 六11四; 十2二; 三8六, 九
-帖捏 -ten-e 六1三
-禿 -tü 九49二; 二4八; 三38七, 十
亦帖堅 itege·n (倚附) [itege- の同時接合副動詞形] 四39二

亦帖兼只　itege·mǰi（倚伏）信頼。六46三，48五
亦禿格孫　itüges·ün（皮桶）[itüges '皮桶' の属格形] 四10五
引者　inǰe（従嫁）王室の娘の嫁入りに従う人々。一25八
臕哲　ingǰe（従嫁）同上。
　-思　-s 八47五
　-薛扯延　-s-eče-yēn 八47八
影吉舌児察黒　inggirčaG（単鞍）被いをつけぬ鞍。
　　-途舌児　-tur 六12七

## o

斡阿舌剌- o'āra-（脱）離れる，ぬけ出す。
-黒三 -ɢsan 九42一
斡孛(黒) oboɢ（姓，姓氏）姓。
-壇 -tan 一25二，四，29八
斡孛黒 oboɢ（姓，姓氏）同上。
-壇 -tan 一7九，23十，24七，25二，三，四，27六，七，九，28一，三，五，29五，六，31一；土50五
-禿 -tu 一26五
-禿宜 -tu-yi 四26三
圖 -tu 一6三
斡赤舌剌 očira[→oyira]（根前）近くに。[赤→亦] 一48十
斡(惕) od（去）[od-の命令形] 行く。一46十
斡惕 od（去）[同 上] 二21一，23一，25七；三44一，四；八28一，47九
*斡(惕) od-（去）行く，行きつく。〈→od·u-〉
-出為 -ču'uį 四2八
*斡惕- od-（去）同上。
-罷 -ba 二10六，16四，28五，32七，39七，46四；五14四；七43八；八6九；十14四，28六；土1五，34五
-罷者 -ba~je 六26三
-抽 -ču 一17八，44九，45二，47四，48三，49五；二1二，九，3六，16十，27二，28一，35六，39三；三1四，9三，20六，24二；四3一，27八，45十；五3七，4一，11二，12一，13五，十，40四，五，41四，43五，48九；六17三，20九，25二；七11七，12四，16五；八44五；十18二，34二；土18七，九，37五，七，39七；土24十
-抽兀 -ču'ū 二4五
-出為 -ču'uį 三14三，17九；四2五，5二；五30九，48十；八3九，10五；十33五
-(中)忽 -qu 二20七
-恢突児 -küį-dŭr[→-quį-dur]［恢→中厥］一42四
-恢宜 -küį-yi[→-quį-yi]［恢→中厥］二14三
-中忽 -qu 一33一；五48三；六42六，46四；十21三
-中厥突児 -quį-dur 一33二
-中渾 -qun 六17一；九27八；土2六²
-禿(中)孩 -tuɢaį 二1五
-禿中孩 -tuɢaį 九46五，47六

*斡惕荅- od·ḍa-（被去，可去）[od- の受動形]〈→od·ta-〉
-罷者 -ba~ǰe 十43七
-中忽 -qu 五46八
*斡[惕]塔- od·ta-（去）[同 上]
-周 -ǰu 四2十
*斡惕塔- od·ta-（被去）[同 上]
-周 -ǰu 十56二
斡多舌剌 odora（箭名）箭の名称。三47四
*斡都- od·u-（去）行く。〈→od-〉
-阿惕 -'ād 二26四；六28七，43八；七5五
-阿速 -'āsu 四22九，23二，五，39一，41五；六29十，49八；七16六，46五；八2四；十28五，35八，36十，37二；十21一，三
-惕中渾 -dqun 六49七
-黑三 -ɢsan 五11五，35九；十16六，33五；十15一
-黑撒訥 -ɢsan-u 二25五
-剌阿 -la'ā 一18八；二35一，41八
-魯阿 -lu'ā 四43一
-木 -mu 一19五
-梅 -muį 一37八
-舌侖 -run 四40三，42二；八47七；十34三
-兀只 -'ūǰi 十57五
-牙 -yā 一45八；五6四
斡敦 od·u·n（去）[od- の同時接合副動詞形] 二29七；五34七，八，35七，十，46十；六31四；七6七；八3一，6七；九13四
*斡黑札惕- oɢǰad-（驚）驚き恐れる。
-抽 -ču 八6七；十30七
*斡黑札惕中合- oɢǰad·qa-（教驚，虚驚）[oqǰad- の他動詞使役形]
-黑三 -ɢsan 十1五
-牙 -yā 七23九
斡中合禿舌児 oɢatur（禿尾）尾の短い。八35六
斡中豁阿塔 oɢo'āta（一発）全く，完全に。十49二
斡中豁都児 oɢoḍur（禿尾）尾の短かい。二27十，28二，29四
斡中忽中合 oɢuɢā（整）全き，全く。七4三
*斡(勒)- ol-（得）得る，手に入れる；見つける。〈→ol·u-〉
-罷 -ba 三16三
*斡勒- ol-（得）同上。
-周 -ǰu 三24二；六12九；九11三；十35四
-主為 -ǰu'ūį 四17二

-中渾 -qun 二20五

*斡勒荅- ol·da-（得）[ol- の受動形]

-黒三 -Gsan 四24二，四，五，六

斡勒札 olǰa（財，財物）獲得物，戦利品。五17六；七3二；九25八

-突舌児 -dur 五17六，18六

*斡勒札剌 olǰa·la-（財得）分捕る，戦利品などを獲得する。

-黒撒惕 -Gsad 五18七

斡勒札剌勒敦 olǰa·la·ldu·n（相劫財）[olǰa·la- の対動・同時接合副動詞形] 土24二

斡郎 olang（肚帯）腹帯。二15四

-你顔 -niyān 五28八

*斡郎剌- olang·la-（肚帯依旧和）腹帯をつける。

-(黒)撒阿児 -Gsa'ār 二15四

斡里児孫 olirsun～ölirsün（杜梨）野性の果実（梨の一種か）。二5九

斡羅阿舌児 olo'ār（多）多く。土35二

斡羅泥 olon·i（多行）[olon の対格形] 八9四

斡羅禿 olotu（多，多有的）多くある。一24八；七16三

斡欒 olon（多）多くの，多い。一37十，38一，46六；二28十；三43二；五9三，26一，37二；六28一，36三；七3一，10五，15四，16六，八，19六，23九，24九，十，25三，26六$^2$，27九，31十，33三；八8二；九6二，10一，25八，34三，39五；十33二；土9五，10七，七，11十，20九，21五，24一，30二，39三，41八，45五，52五$^2$；土1六，16五，17一，八，十，23三，九，27五，34十，37十，47七，52八，56一

-乞顔 -ki-yān 八3四

-勤 -kin 六16九

-納察 -nača 七31九

-泥 -ni 六22十

*斡魯- ol·u-（得）得る。〈→ol-〉

-阿速 -'āsu 六46三；七3二；九25八；十12八

-埃 -'āi 土35四

-亦者 -yi~je 一35八

-黒撒阿(舌)児 -Gsa'ār 九25九

-黒撒阿舌児 -Gsa'ār 七3二；土6二

-黒撒惕 -Gsad 九29六

-黒三 -Gsan 九7六，33六；十12五

-中忽 -qu 一38三

*斡魯勒察- ol·u·lča-（対証，折証）照合する；話し合って理解する。

-周 -ǰu 五37九；六22三，五，七，八

-速 -su 土3十，4三

斡魯勒潺 ol·u·lča·n（折証）[ol·u·lča- の同時接合副動形] 土35四; 土10十
斡俞 ol·u·n（得）[ol- の同時接合副動詞形] 四40一; 六45三, 十
斡籠勤 olungkin（多半）大半。七27十
斡扶吉顏 omoG·iyān（勇自的行）[omoG の再帰格形] 七28八
斡抹(馬) omoG（勇）勇しさ; 傲慢さ。
-壇 -tan 四25十
斡抹黑 omoG（勇狂, 勇）同上。土34八
-壇 -tan 四26二, 29一
-中禿 -tu 七28七
斡抹中渾 omoG·un（狂）[omoG の複数形] 二6九; 土2四, 4六; 土5十
*斡抹舌児中合- omo·rqa-（雄勇逞）勇ましく行動する, 傲慢に振舞う。
-中忽泥 -qun-i 三46八
斡抹舌里兀惕 omori'ū·d（胷毎）[omori'ū '胸' の複数形] 三46八
*斡那- ono-（算計）策略を用いる, はかる。
-黑撒阿舌児 -Gsa'ār 土7七（馬の）
斡那 ono（扣子）刻み目, 溝。
-禿 -tu 三8六
*斡那剌 ono·la-（扣子）矢を番える。
-罷 -ba 三8一, 六
斡芽(ト)赤 onubči（剜箭扣）矢はずに刻み目をつけるのに用いる小刀。六34二
*斡斡児- o'ōr-（去, 放）棄てる, 放つ。
-罷 -ba 一11十, 17三
-抽 -ču 一37六²; 二9五
*斡斡舌児- o'ōr-（去, 放）同上。
-抽 -ču 五44五
-中忽 -qu 土9七
-速中孩 -suGaị 土23二
-禿中孩 -tuGaị 土38三
斡斡舌児察黑 o'ōrčaG（劫賊, 刼）強盗, 残賊。五26四; 八12三
*斡斡舌児乞- o'ōrki-（去）[斡舌児乞-?] 捨てる。
-周 -ǰu 四28六
*斡斡舌魯- o'ōr·u-（飛放, 放）棄てる, 放つ。〈→ōr·u-〉
-阿惕 -'ād 一17八
-惕中渾 -dqun 九47十
-黑撒泥 -Gsan-i 十41一
*斡斡兀魯- o'ō'ūlu-（撇下）投げ捨てる。[斡斡舌魯兀魯- o'ōru'ūl·u- の誤か] 四47五
斡中豁舌児 oqor（短）短い。土32八; 土54三
*斡舌児- ōr-（去）捨てる。〈→o'ōr-〉

-抽 -ča 十39九

斡(舌)児孕 ordo (宮) 宮廷。

-因 -yin 十4五

斡舌児朶 ordo (宮室, 宮) 同上。三43三; 六28二; 七16七; 九47七; 十1四, 5六, 十, 7五, 9七, 九, 十; 土38五, 39十, 40三, 五, 42五

-突舌児 -dur 土42六

-因 -yin 九47一; 十4五, 9二, 四, 六, 七, 九, 10二; 土37八, 40十, 41二, 四, 七, 九, 42二

-思 -s 土58七

-思突舌児 -s-dur 土52八

-思圖舌児 -s-tur 土20四

*斡舌児乞惕- orkid- (引証) 引用する, 証拠を置く。

-抽 -ču 土46二

斡児乞敦 orkid·u·n (引証) [orkid- 同時接合副動詞形] 二12七

斡舌児中合 orqa (人烟) 人家; 民草。〈→orqan, orqo〉五10三, 32七, 34五; 六29八, 31二; 七45四; 土21七

-班 -bān 六30五; 土22三

-巴舌里顔 -bār-iyān 六30二

斡舌児中罕 orqan (人烟) 同上。土47三

斡舌児中豁 orqo (人烟) 〈→orqa(n)〉五33九

-班 -bān 五33四; 六31四; 土21五

斡舌剌阿 ora'ā (野) (巻狩の圍みの中で) 逃げまわる, 逃げまどう (馬など)。六36七

*斡舌剌黑荅- ora·Gda- (被投入) 〈→oro·Gda-〉[ora- の受動形]

-黑撒納 -Gsan-a 土34六

斡舌剌牙 oray·a [→oraị-a] (晩行) 晩く。七39七

斡舌羅 oro (位子, 位) 位王座。〈→oron〉三5二, 23一; 八18五, 47一, 三; 十3八; 土4四; 土56一

-班 -bān 三4一; 土23二

斡舌羅 oro (痕跡) 跡。十43六

*斡舌羅 oro- (入, 投入, 投降, 従) 入る, 投降する。

-阿 -'ā 二30八

-阿速 -'āsu 八7二, 四

-罷 -ba 四41七, 九; 五13三; 六15三, 51二; 七44二

-巴速 -bāsu 二14四, 23一

-周 -ju 一3九, 13二; 二26六; 三6五, 13九; 四43七; 五4四, 9五, 19五; 六40四, 51五; 七5十, 20七; 九12九², 13三, 41九, 46一, 47五; 十5八, 14四, 15一, 35三, 38五, 39九; 土5五, 6八, 18一, 38十; 土40九, 41二, 四, 七, 42七, 56五

-主兀 -ǰu'ū 五15八; 七5六
-主兀者 -ǰu'ū~ǰe 六24一
-主為 -ǰu'ūi 二7八; 五11三; 六20三; 十13六
-梅 -muį 八21七
-黑撒惕 -Gsad 八41五; 九38四, 43四; 十2七; 十45六
-黑三 -Gsan 八4七, 46四
-中忽 -qu 四42三; 五30九; 七5二; 八18八; 十5六; 十5十, 46七; 十38六
-中忽魯阿 -qu-lu'ā 三20七
-中忽泥 qun-i 九36五
-中忽由 -quyu [→quį-u] 七47八
-中灰 -quį 九41七
-中灰突舌児 -quį-dur 六44四; 十44一, 45一
-恢魯阿 -küį-lu'ā [→-quį-lu'ā] [恢→中恢] 二11二
-中渾 -qun 九46九, 47八; 十39三; 十38二
-舌侖 -run 九32四, 41七
-禿中孩 -tuGaį 五21三, 六; 九6六, 24九, 37二, 三, 四, 五, 41一, 三, 四, 六, 48四; 十41十, 42三, 43五, 六, 八
-牙 -yā 二46四; 三6四; 五37六; 六22三, 六
*斡舌羅(黑)荅- oro·Gda-(見入) [oro- の受動形]
-舌侖 -run 四11一
*斡舌羅黑荅- oro·Gda-(被入, 被投入, 恐入) [oro- の受動形]
-埃 -'āį 八34一
-周 -ǰu 六20四; 十3七
-中灰牙察 -quįyača [→-quį-ača] 六40一
*斡舌羅勒都- oro·ldu-(入, 共入, 教入) [oro- の対動形]
-剌阿古 -la'ā-gü [→-la'ā-kü] 五15四
-舌侖 -run 九37一
-速 -su 五40十
-禿中孩 -tuGaį 十43一
*斡舌羅兀勒- oro·'ūl-(入, 教入, 教投入, 教投降) [oro- の使役形]
-罷 -ba 三21九; 四43八; 七19三; 十14七
-荅中渾 -da·qun 三21八; 九34五
-周 -ǰu 五12三, 15九, 20六, 24二; 六5二, 27七; 七21九, 42三; 九34七; 十15五, 16八; 十19三, 42九, 44四; 十4二, 11五, 27六, 29三, 35三
-主兀 -ǰu'ū 八32四
-中忽 -qu 十30七, 八
-中忽宜 -qu-yi 九32二

-禿孩 -tugaị [→-tuGaị] [孩→中孩] 九32五, 37六

*斡(舌)羅兀魯- oro·'ūl·u- (教入) [oro- の使役形]

-牙 -yā 六5一

*斡舌羅兀魯- oro·ūl·u- (教入, 教投入, 教投降, 被入, 投入, 入) [oro- の使役形]

-阿傷 -'ād 六20九; 十14九; 十19五

-阿速 -'āsu 八9九

-傷中渾 -dqun 九31九, 十; 十41三

-黒三 -Gsan 十34八

-黒三突(舌)児 -Gsan-dur 九31七

-舌侖 -run 九31九, 十, 32三, 六, 八, 十[2]

*斡舌羅兀《舌》魯- oro·'ūr·u- (入, 教入) [oro·'ūl·u-, oro- の使役形]

-舌侖 -run 七19一, 二

斡羅兀侖 oro·'ūl·u·n (教入) [oro- の使役・同時接合副動詞形] 十18十, 21九

㊀ *斡舌羅温勤- oro·'ū(n)l- (教入) [oro- の使役形]

-罷 -ba 一46四

斡(舌)羅阿 oro'ā (狡) 捕えにくい, 逃げまわる。〈→ora'ā〉 三43五

斡舌羅阿 oro'ā (野) 同上。五37三; 九25九

斡舌羅出 oroču (晩生的) おそく生れた。八29六, 31七

斡舌羅黒 oroG (黒脊) (馬の毛色について) 蒼灰色の, 灰褐色の。一15七, 16四 (斡舌羅(黒)); 二29五; 三8四; 八35七

斡舌羅失兀侖 oroši'ūl·u·n (定体) [orosi'ūl- '居を定める' の同時接合副動詞形] 十49三

斡舌羅申 orošin (常川) 常に。十47十

斡舌欒 oro·n (入) [oro- の同時接合副動詞形] 一25十; 二14四; 三14六; 六30三; 七5九; 十31八; 十24二

斡舌欒 oro·n (位子, 位) 位, 王位 〈→oro〉

-突舌児 -dur 七3七, 九; 八38二; 十1三, 六, 九; 十54十

都舌里顔 -dur-iyān 十24二

斡舌欒 oro·n (被寝) 寝床。十1五, 35三, 36二

*斡舌魯- ōr·u- (撇) 棄てる。〈→o'ōru-〉

-阿傷 -'ād 七7四

斡舌魯納 orun·a (替代行) 代りに。[orun の与位格形] 十23十

*斡莎勤荅- osol·da- (怠慢) 怠たる, なげやりにする。

-中渾 -qun 十31一

-速中孩 -suGaị 三45五

斡兀舌児察黒 o'ūrčaq (刼賊) 賊, 強盗。九12八

斡宜 oyi (性情) 気持, 感情。五4四

斡亦納 oyi·n·a (情行) [oyi(n) の与位格形] 十24八

斡亦舌剌 oyira (近, 根前) 近くの (に)。一19八; 二45五; 八10九

斡赤 [→亦]舌剌 očira [→oyira] (根前) 同上。—48十

*斡亦速剌- oyisula- (陰害) ひそかに考える; はかる。〈→öyisüled·ü-〉

-惕中渾 -dqun 十37四

*斡亦速剌勒都- oyisu·la·ldu- (陰害) [oyisula- の対動形]

-梅 -muį 十36九

斡亦速剌敦 oyisu·lad·u·n (暗懐) [oyisulad- の同時接合副動詞形] —48二

*斡亦速剌黒荅- oyisu·la·Gda- (被陰害) [oyisula- の受動形]

-阿 -'ā —49二

斡因 oyi·n (情懐, 心意) 気持, 感情。

-都舌里顔 -dur-iyān 五24一

-禿舌里顔 -ṭur-iyān —46四

完(勒)者 o(n)lǰe (外財) 獲得物, 戦利品。〈→olǰa〉

-兀 -u 二33九

*完只- onǰi- (罰) 未詳(önǰi- '過ぎる' と読むべきか?)

-禿中孩 -tuGaį 三45八

*完勒荅 o(n)l·da- (得) [ol- の受動形] 〈→ol·da-〉

-来 -laį 三21二

应吉 onggi (柄) (刀, 鎌, などの) 柄の部分にある孔

-禿 -tu 三8六

*汪札勒荅- ongǰal·da- (被断絶) [ongǰal- の受動形, ongǰal- は未詳なるも '断つ' の意か]

-周 -ǰu 八44九

*汪剌只- onglaǰi- (ナシ) 空にする; えぐる。

-惕中渾 -dqun 三46九

## ö

斡纏 öče·n (不服) [öče- '恨む, 復讐する' の同時接合副動詞形]。土44九

*斡赤- öči- (奉, 稿告) 上奏する; 祈る。

-罷 -ba[→-be] 土9九

-額速 -'ēsü 五26三; 土21七, 45九, 47六; 土2九, 10九, 22八, 34一

-周 -jü 十12三, 九; 土42一, 三; 土28十, 30九

-主兀 -jü'ü 八31十

-舌倫 -rün 土20七, 44九, 46六; 土22二, 33六

-速 -sü 四15九

-速該 -sügei 二51二

斡赤勒 öči·l (奏事) 上奏。七48七, 九

-田 -ten 一45四

*斡赤兀勒- öči·'ül- (教奏) [öči- の使形形]

-主為 -jü'üi 七48二

斡赤兀里 öči·'üli (禱祝) 祝詞。二51五

斡赤干 öčigan[→gen] (昨前) 昨日; 過ぎた。二21八

斡赤堅 öčigen (昨前, 昨) 同上。二9三; 十36五, 38七

斡揚刊 ödken (濁, 稠) 濃い, 滋味のある。三8四; 十4十; 土39九

斡敦 ödü·n (翎) 羽。一19七

斡額迭 ö'ede (逆水, 逆着, 逆, 上, 高) (河の流れを) 逆上って; 上へ。一20三, 五, 36四, 37三; 二5八, 26六, 44七; 三9一, 三, 10五; 四11三, 12四; 五28七, 30一; 六15二, 29三; 七22七, 42五; 土18十, 19五, 39六²

斡額的顔 ö'ē·d·iyēn (自毎) [ö'ēr の複数・再帰格形] 五46六

斡額児 ö'ēr (自家) 自分。二24一

斡額舌児 ö'ēr (自己) 同上。

-都舌里顔 -dür-iyān [→-iyēn] 五10二; 土15三

-禿舌里顔 -tür-iyān [→-iyēn] 九41八

斡額舌列徹 ö'ēr·eče (自己裏) [ö'ēr の奪格形] 五25四

斡額舌里顔 ö'ēr·iyēn (自, 自己, 自己行, 自的行) [ö'ēr の再帰格形] 四36十; 五38十, 39四; 七28五; 八32二; 土18一; 土57四

斡額舌倫 ö'ēr·ün (自己, 自己的, 自, 自的) [ö'ēr の属格形] 一16九; 四26四; 六52八; 八32一, 45二; 九7五, 六, 25四, 29六, 43九; 十24一, 二; 土40三; 土18一

斡額舌児迷赤連 ö'ēr·mi·čile·n (別做) 八14五 [ö'ēr·mi·čile '別とする' の同時接合形]

斡額舌列 ö'ēre (別, 另) 別に, 他に。〈→öre〉 三23二; 五25四, 七, 40八; 七43六; 八9七, 14八, 15一, 20七, 28八; 九4二, 7二; 十7十; 土36一; 土3

十，40二

斡額速楊 ö'ēsüd（自毎，自己毎）[ö'ēsün の複数形] 九25五；十46一

斡額孫 ö'ēsün（自己，自己的）自分で，自ら。一33一，六；二29六；四40六，45九；五10二，12一，23十，43五；六27一；七1七，32四；八35八；九25六；十18七，29三，34一，35八；十41十

*斡楊(→克) ŏd-[→ög-]（与）与える。

-罷者 -ba~je [→-be~je] 十23四

*斡(克)- ög-（与）同上。

-罷 -ba[→-be] 一8九；二41十，51五；四15五

-罷者 -ba~je[→-be~je] 六25四

-抽 -čü 三26八

-中灰 -quį[→-küį] [中灰→恢] 十52七

-速 -sü 三43五；四49十

*斡克- ög-（与）同上。

-罷 -ba[→-be] 一11十，12一，15三，18二；二39十；三24三，33一；四15五，17五，19三，20八，22五，八，23一，三，六，27五；五27六，34六，35八，九，50八；七1四，八1五，14二，24五，十，40二，46十，48一；九2八，10五；十13八，16二，三，四，21十，22一，23二，三，四，五，六，七$^2$，八，31五；十8四，10一，16四；十13三

-罷者 -ba~je[→-be~je] 六28三；九1三，7五

-別 -be 二25十

-別速 -bēsü 一46七$^2$

-赤為 -či'ŭį 一48三

-抽 -čü 一32十，47三；二25九；三26三；四25八；五12三；六24六，30六；七25二；八9三，47六，九；九5九，28十，31二；十25六，29五；十26五，六；十10五，25十

-古 -gü[→-kü] 十57二

-古宜 -gü-yi[→-kü-yi] 四16一；八31九

-古耶 -güye[→-küį-e] 十21八

-古由 -güyü[→-küį-ŭ] 五23七

-周 -jŭ 一10一；四42七

-恢 -küį 一40十

-速 -sü 一8八，9六，46九；二40二，三；三2一，二，六，43六，七；四50二；五6六，7四，46七；六25二，38九，51十；八20六，27八，34五；十12九，16九；十8三，九，9六，七，29二，十，32八

-速該 -sügeį 五41二，三

-禿該 -tügeį 三1六；四23一；五33九；六52六，七；九33四，八，34一；十47五，六

斡克 ŏg (与) [ŏg- の命令形] 与えよ。一9六; 六24九, 34四; 七7二; 八30五

*斡克迭- ŏg·ḍe- (与, 被与, 可与) [ŏg- の受動形]

-克先 -gsen 一5五; 五25九

-古牙 -güye [→-küi̯-e] 八28四

*斡克帖- ŏg·te- (与被与, 可与) [同 上]

-埃 -'āi[→-'ēi] 一4十

-罷 -ba[→-be] 五34九; 六31五

-克先 -gsen 一4五; 五23六

-古 -gü[→-kü] 二2八

-周 -ǰü 十35一

-恢 -küi̯ 二2八

-中坤 -qun[→-kün], [中坤→坤] 九31一

-列額 -le'ē 五34八

*斡古- ŏg·ü- (与) 与える。

-埃 -'āi[→-'ēi̯] 六36六, 八, 九, 37一

-惕坤 -dkün 四1十; 六37二

-額惕 -'ēd 六27四

-額速 -'ēsü 六31三; 七7八

-克薛訥 -gsen-ü 五10四

-克薛的 -gsed-i 土16十

-克先 -gsen 九33五

-列額 -le'ē 二41七, 八; 八28三, 五; 土8二

-魯額 -lü'ē 土16六

-木 -mü 八29四; 土15十, 16九

-舌剌 -ra[→-re] [舌剌→舌列] 五6三

-舌列 -re 九28三

-舌倫 -rün 五36一; 八46一; 土8九; 土8一

-牙 -yā[→-yē] 五19六; 九17七, 19一; 十13一

-耶 -yē 五38十, 45十; 十11三, 22八; 土5八, 十; 土22五, 48二, 五

斡昆 ŏg·ü·n (与) [ŏg- の同時接合副動詞形] 二25九?; 五36一, 39五, 46五; 土3九

*斡克客兀勤- ŏg·ke·'ŭl- (教了) [ŏg- の使役形] 与えさせる。

-周 -ǰü 六14五

斡克里格 ŏg·lige (支請, 賞) 施物。八34四; 土48一

*斡亦速列都- ŏyisü·le·d·ü- (陰害) ひそかに考える; 策る。〈→oyisula-〉

-克薛你顏 -gsen-iyēn 土57三

斡乞 ŏki (女, 女子) 女, 娘。一34五, 七, 35八, 42三, 十, 46三, 六; 三43四, 六36五; 七46六, 47四, 48四; 八41五; 十11三, 13一, 16三; 土5八, 6四, 8四

-邊 -bēn 一33六
-惱 -d 一35七，45四；三39十；五27五；七1六；十21一，三；土9十，13九，17二，52三，56六
-的 -di [-d-i] 一44七；七12一；十4四，21十；土8五
-的顔 -d-iyēn 一45一
-都延 -d-üyēn 八45二
-顔 yān(→yēn) 二37五；七45七，46一
斡乞泥 ökiˑnˑi（女子行）[ökin の対格形] 一46四；七46三
斡乞泥顔 ökiˑnˑiyēn（女子自的行，女自行）[ökin の再帰格形] 一33一，46九
斡乞你顔 ökiˑnˑiyēn（女子自的行，女自的行）[同 上] 六24六；九23五
斡乞訥 ökiˑnˑü（女子的，女的）[ökin の属格形] 一44六，45四；六20一
斡勤 ökiˑn（女，女子）女，娘，嫁。一4二，5一，四，七，6六，32十，41五，45七，八，46八；三43三；四46二；五22一，25九；六52七；九17七，19一
-泥 -ni 一5四
斡勒澤 ölǰaį[→ǰeį]（吉慶，福）吉祥，福。〈→ö(n)lǰe，ö(n)lǰeį〉
-壇 -tan[→ten] 十1六
-田 -ten 十2六
-禿 -tü 十16七
斡勒者 ölǰe（福）同上。
-禿 -tü 九6四
斡勒客克 ölkeg（灰土） 塵。一39五
斡勒客思 ölkeˑs（山下）[ölke '山の南面の麓' の複数形] 七27四〈→ö(n)lke〉
斡勒迷 ölmǐ（脚面）足の裏（のつま先の部分）。
-亦耶舌児 -'iyĕr 土30一
斡列 öle（黒青）（馬の毛について）灰青色（の）。一45二
斡列格 ölege（揺車）乳母車，ゆりかご。
-台 -taį[→-teį] 一41八
斡列該 ölegeį（揺車）同上。四14四
-台 -taį[-teį] 八28六
-帖額徹 -te-'eče 九5七
斡郎 olang[→öleng]（青草）家畜の飼草
-突(舌)児 -dür 土33五
-突舌児 -dür 土31六
斡里児孫 ölirsün～olirsun（杜梨）野生の果実（梨の一種か）。二5九
*斡劣思- ölös-（飢）腹がへる。
-抽 -čü 五12一
*斡劣速- ölösˑü-（飢）同上。
-克薛泥 -gsen-i 六28三

*斡《舌》羅思- örös-[→ölös-] (飢) 同上。
-拙 -čŭ 九12八
*斡羅速- ölös·ü- (飢) 同上。
-木薛児 -müser 腹をへらすこともなく。一37四
斡魯克 ölüg (死) 死んだ，死体。八20四
*斡魯木列- ölümle- (向前，鏖戦) 命をかける。命を賭して前進する。
-克薛訥 -gsen-ü 八45十
-古 -gü[→-kü] 三56十
-周 -jü 三57二
斡魯木連 ölümle·n (向前) [ölümle- の同時接合副動詞形] 三26一
*斡篾児- ömēr- (党，党護) 護る，保護する。〈→ömēre-, ömŏre-〉
-古 gü[→-kü] 二12一
*斡篾舌列- ömēre- (党，党比) 同上。〈→ömer-, ömöre-〉
-周 -jü 十27二，三
*斡抹舌列- ömŏre- (党) 同上。
-周 -jü 十36五
斡捏赤惕 öne·či·d (孤，孤每) 孤児 [複数形] 六7十; 三24七
斡捏赤敦 öne·či·d·ün (孤児每的) [önečid の属格形] 六53三
*斡捏赤舌列- öne·či·re- (孤独) 孤独になる，孤児になる。
-坤 -kün 三23九
斡那赤敦 önö·či·d·ün (孤独的) [önöčid〈→önečid〉の属格形] 九21一，十
斡那舌児 önör (ナシ) 宗族，親族。三4二
斡舌児中豁里牙舌児 ör qol·iyār (惱項) [ör qol '中心，脳天' に造格語尾 -iyār の附された形。] 三54三 〈→qol〉
斡舌児 ŏr (自己) 自分。
-禿舌里顔 -tür-iyēn 四6五
斡舌里顔 ŏr·iyēn (自己) [ŏr の再帰格形] 三15二
斡(活)児堅 örgen (寛) 広い。四23一
斡舌児堅 örgen (寛) 同上。四22十; 八7七; 三20八
斡舌児魯兀惕 örlü'ŭd (豪強每) [örlüg '英傑' の複数形]。八19五
斡舌児篾格 örmege (毯子，毯衫) 毛の上着。三9六 〈←örmüge〉
-邊 -bēn 八36九
斡舌児木格 örmüge (毛衫) 同上。〈→örmege〉
-邊 -bēn 二38五
斡舌列 öre (心，心窩) 心，みずおち。〈→örö〉四23二; 七38一; 八14十
-邊 -bēn 二1四
-田 -ten 七33十
斡舌列 ŏre (另) 別々に，離れて。〈→ŏ'ēre〉六4七

*斡舌列 öre-（出，捨）捨てる。
-克撒［→薛］訥 -gsanu[→-gsen-ü] 八45九
-周 -jü 四43七；九20九
斡舌列額列 öre'ēle（辺傍，一隻，隻）（馬の）左側；片方。一45三；三38三；八14五，37七
斡舌劣 örö（心）心。〈→öre〉三5三
斡舌羅 örö（心窩）同上。二21十
斡舌劣額列 örö'ēle（一隻）（一対のものの）片方の。一9十
斡舌羅額列 örö'ēle（一隻）同上。四27一，二
斡舌羅列 örōle（隻）同上。九7三〈→örö'ēle〉
斡舌魯克 örüg（寧，寧静，敦厚）静寂（な），平穏（な）。十1三；十29四
-突舌児 -d̲ür 十7六
斡舌魯格 örüge（天窓）天窓。〈→erüge〉
-台 -taị[→-teị] 十1二
斡舌魯格孤 örügesü·n（刺）とげ。八18九
*斡思- ös-（長）成長する，育つ。
-抽 -čü 八28七，十
-古魯額 -gü[→-kü]-lü'ē，八33四
-中灰魯額 -quị-lü'ē［→-küị-lü'ē］［中灰→恢］九6三
*斡思格- ös·ge-（長，教長）［ös- の使役形］
-罷者 -ba~je[→-be~je] 八29二，三
-周 -jü 一45一；十9五；十8五
-舌侖 -rün 十26四
*斡薛- öse-（報）報いる；仇をとる。〈→ösö-〉
-坤 -kün 三4二
*斡雪- ösö-（報）同上。
-周 -jü 五19五
斡雪格亦耶舌児 ösögeyiyēr［→ösögeị-iyēr］（教脚後根）［ösögeị‘踵’の造格］十29
斡雪(勒) ösöl（讐）復讐，仇。二48九〈→ösö(n)l〉
斡雪勒 ösöl（仇，讎）同上。一40二；九12五；十20五
斡雪里顔 ösöl·iyēn（讎自的）［ösöl の再帰格形］三4二，5四
*斡旋- ösö·n（報，讎）［ösö- の同時接合副動詞形］一40二；二48九；三5四，17八；九12五；十20五
斡旋勒 ösö(n)l（讎）復讐，仇。五19七
*斡速勒扯- ös·ü·lče-（共長）［ös- の相動形］
-克先 -gsen 八33五
斡失 öš（讐）復讐，反目。

-禿 -tü 五1八
斡失 öši (饒, 譬) 同上。
-田 -ten 四12一, 19三; 八10四; 九12四
-禿 -tü 九4二
斡失顏 öš·iyēn (譬自的行) [öš の再帰格形] 土11五
斡帖児 öter (疾快) 速い (く)。〈→ötör〉二42七, 九, 43二, 三
斡帖舌児 öter (快) 同上。四12六; 五3八, 4六, 5一
斡帖児連 öter·le·n (疾快) 急いで。[öter·le- '急ぐ' の同時接合副動語形]。
〈→ötör·le·n〉二43四, 46三
斡帖舌児連 öter·le·n (快) 同上。四13一; 土55三
*斡帖児篾列- öterme·le- (近壕子般射) 射殺す; 散々に射る。
-周 -ǰü 二10五
斡脱歹 ötödaị[→deị] (老) 老輩, 老人。
-突舌児 -dür 土44五
斡脱克 ötög (進酒, 喝盞) 酒盃, 進酒。五21五; 土29六
*斡脱克列兀勤- ötög·le·'ǖl- (喝盞, 教喝盞) 酒盃をほす; 進酒を飲む。
-周 -ǰü 七2十, 9六; 九24七, 26四
斡脱堅 ötögen (地) 地, 大地。〈→etügen〉土30二
斡脱古 ötögü (老) 年とった, 老年の。七9二, 11二
-思 -s 二12七; 三49六; 九42八, 十, 43三; 十1四, 2六, 九; 土46一; 土44八, 十, 45五, 六
-昔 -s-i 九41六; 土43二, 44九
-孫 -s-ün 三27六
*斡脱古列- ötögü·le- (為長) 年長者となる。
-古泥 -güni[→-kün-i] 九40十
*斡脱勤- ötöl- (老) 年をとる。
-罷 -ba[→-be] 五36二; 七10三
-古 -gü[→-kü] 一46九
-周 -ǰü 五36二
*斡脱勤迭- ötöl·de- (被老) [ötöl- の受動形]
-恢 -küị 七29七
斡脱舌児 ötör (快, 疾快, 快疾) 速い (く)。[öter] 二1六; 六14三; 八20二; 十31六
斡脱児刊 ötör·ken (快) 更に速い (く)。一49五
*斡脱舌児列- ötör·le- (教疾快) [öter·le-] 迅速に行動する。
-禿該 -tügeị 八21一
斡脱舌児連 ötör·le·n (作急, 恢) [ötör·le- の同時接合副動詞形] 四32三; 六50三
斡兀坤 ö'ükün (脂膏) 脂肪。
-突(舌)児 -dür 土33六

*斡耶薛- öyese-（貪食）むさぼる。
-克先 -gsen 七36二，八
完迭堅 öndegen（卵）卵。土31九
完勤者 ö(n)lǰe（吉慶）吉祥，福。〈→ölǰeį〉
-田 -ten 三49六
完勤澤 ö(n)lǰeį（吉慶，福）吉祥，福。〈→ölǰe〉
-禿 -tü 八14九，33五
完勤只格 ö(n)lǰige（車前，前）車の前室。一35七
-迭 -de 一4四
-台 -taį[→teį] 一45一
完勤客 ö(n)lke（山前）山の南面。
-迭 -de 七43九
*汪迭亦- öngdeyi-（欠伸起，伸起）伸び上る；起き上る。
-周 ǰü 四40九；十36二
汪格 öngge（顔，顔色）顔，顔色。一34七，45一，五，七；三43三
-額舌児 -'ēr 六20一
-田 -ten 一44六
汪格古顔 önggegü·yēn（增益自的行）[önggegü '足し，補足' の再帰格形] 八8五
*汪格亦- önggeyi-（探）うかがう，のぞく。
-周 -ǰü 一34六

## u

兀必思 ubis（但動）かすかに然し止まることなく動くさま。十2二
兀不児 速不児 ubur subur（陸続）ぞろぞろと，次々に。二32一
*兀赤舌剌- učira-（遇）遇う。
-阿速 -'āsu 二2八；七47七，48四
-罷 -ba 六44五
-周 -ǰu 三15五；七46十
-恢 -küi[→-qui]［恢→中灰］七47八
*兀赤舌剌勒- učira·ldu-（都相）［učira-‘遇う’の対動形］
-罷 -ba 六43十
兀出馬阿(舌)児 učuma·ār（射名教）矢の名称。［učuma の造格形］六16一
兀出馬中合舌児 učuma·Gār（箭名）［同上］。八43八［učumaG-ār とすべきか？］
*兀惕中忽- udqu-（汲）汲む。
-周 -ǰu 七7二
*兀荅- uda-（遅）遅れる；久しくなる。
-罷 -ba 四47七
兀荅阿都 uda'ādu（次）次の，2番目の。四28七，九
兀荅阿納 uda'ān·a（遅行）［uda'ān の与位格形兼副詞形］九23九
*兀荅阿舌剌- uda'āra-（随後）後に続く，後を継ぐ。
-恢阿察 -küi-ača[→-qui-ača]［恢→中灰］二22一
兀荅阿舌闌 uda'āra·n（随即）［uda'āra- の同時接合副動詞形］六46五，十；十28七
*兀荅阿(舌)剌勒都- uda'āra·ldu-（随即趕）［uda'āra- の対動形］
-罷 -ba 一35三
兀荅阿舌剌勒敦 uda'āra·ldu·n（共随即）［uda'āra·ldu- の同時接合副動詞形］九13九
兀荅安 uda'ān（遅）遅い，ゆっくりした；久しい。六49一；二49一
兀荅勒 udal（遅）遅れること。十2三
*兀都- udu-（引誘，誘引）策略でおびき寄せる。
-周 -ǰu 七27三；八45五；二1七
*兀都舌里惕- udurid-（引，領）導く，引率する。
-抽 -ču 一20五，34八，37一，44一；六25一；十14六
*兀都舌里《勒》- uduril-[→udurid-]（引，引）同上。［勒→惕］
-抽 -ču 二13六，41五
*兀都(舌)里惕- uduid-（引）同上。
-抽 -ču 一45九
*兀都舌里都- udurid·u-（領）同上。
-阿惕 -'ād 四5九，十

兀都舌里敦 udurid·u·n（引，教統）[udurid- の同時接合副動詞形] 六4三; 十16一
兀中忽勒札 uGulǰa（羱羊）盤羊，野性の雄山羊。八12三，五
-因 -yin 八12六
兀中忽舌児中合 uGūrqa（套竿）馬取竿。〈→兀兀児中合〉
-禿 -tu 八6八
兀哈里 uhāli（金奔子）手斧。十19七
兀乞塔剌 uki·tala（緊）しっかりと。二5七
*兀乞牙兀勒- ukiya·'ūl-（教洗）[ukiya- '洗う' の使役形] 洗わせる。
-周 -ǰu 七12二
兀勒斤 ulgi·n（譖）[ulgi- '誹謗する' の同時接合副動詞形] 〈→ulki·n〉
五40五
兀勒勤 ulki·n（讒譖）同上。五31二 〈→ulgi·n〉
兀剌 ula（脚底）足の裏。
-突(舌)児 -dur 土25十
-因 -yin 土26一
兀剌阿 ula'ā（馬疋，騎坐馬匹）駅伝用の馬。八7八; 九33一
兀剌阿訥 ula'ā·n·u（鋪馬的）[ula'ā(n) の属格形] 土53十
兀剌阿赤泥 ula'ā·čin·i（馬夫行）[ula'ā·čin の対格形] 土53六
兀剌阿臣 ula'ā·čin（馬夫）馬夫。土49三，52八，53九，十
兀藍 ulam（転）更に; 徐々に; 増々。七3十2
*兀里思- ulis-（惹帯）狼などが声をひき延ばして鳴く，うなる。
-抽 -ču～-čü 土35六
兀魯思 ulus（百姓）人々; 国。七16八
兀魯思 ulus（百姓，百姓毎，国）同上。一44七，十; 二4七，16十; 三9一，13十，15一，16四，39一，六; 四6六，38一; 五1四，13三，19一，35八，九，十，36四，41四，五; 六24八，25一，四，38十; 七10五，16三，45三; 八1五，24九，44九，46八2; 九7三，四，30八; 十22八，28二，36十（兀《舌》魯思），37二; 土24一，三; 土16八，十，23九，48四，十，49二，55六，八
-圖舌児 -tur 五18二
-禿舌里顔 -tur-iyān 四37四
-顔 -yān 五41五
兀魯撒 ulus·a（百姓行）[ulus の与位格形] 土52八
兀魯撒察 ulus·ača（百姓裏，百姓処，百姓行）[ulus の奪格形] 三9二; 土47四，53二
兀魯昔 ulus·i（百姓，百姓行，百姓毎，人烟，国行）[ulus の対格形] 二4七，40二，三; 三1九，2二，6七; 四26三，45四; 五34八，43九; 七43九; 八18四，24二，七，29十，30二，45七; 九31六; 土25六; 土14八，15三，23三，47一

兀魯昔牙舌児 ulus·iyār (百姓依着) [ulus の造格形] 土49五
兀魯昔牙舌闌 ulus·iyār·ān (百姓自的行) [ulus·iyār の再帰造格形] 八45三
兀魯昔顔 ulus·iyān (百姓自的行, 国自的行) [ulus の再帰格形] 四37五; 五34七; 六26二; 七27二; 八2四, 12二; 土20九, 21二, 三; 土56二
兀魯速楊 ulus·ūd (百姓毎) [ulus の複数形] 六38九
兀魯孫 ulus·un (国, 国的, 百姓的) [ulus の属格形] 一33六; 三38十, 39三, 九; 四27三, 29二; 八26十, 30七; 土56六²
*兀馬舌児塔- umarta- (忘) 忘れる。
-周 -ǰu 五15一; 土22二
-黒撒泥 -Gsan-i 土32五; 土23五, 七
-黒撒你顔 -Gsan-iyān 八14七
-中忽 -qu 八17二
*兀馬[舌児]塔- umarta- (忘) 同上。忘れる。
-中忽 -qu 八17八
*兀馬舌児塔黒荅- umarta·Gda- (可忘) [umarta- の受動形]
-中忽 -qu 八34二
兀馬舌児壇 umarta·n (忘了) [umarta- の同時接合副動詞形] 八20九
兀木不 umbu (陥) (泥などの) どろどろした, ねとねとした。二48三
*兀納- una- (倒, 落) 倒れる, 落ちる。
-阿速 -'āsu 九16五; 土1九
-罷 -ba 十39二
-周 -ǰu 四27五
-主兀 -ǰu'ū 二15八; 六9七; 八2九
-黒三 -Gsan 二16一; 六9十; 土23三
-中忽 -qu 四28三
-塔剌 -tala 六12四, 16二
*兀納中合- una·Ga- (倒, 砍倒) [una- の他動詞形]
-周 -ǰu 四27二; 七35六
*兀納黒荅- una·Gda- (被倒) [una- の受動形]
-周 -ǰu 六9八
兀納勒都- una·ldu- (共倒) [una- の対動形]
-周 -ǰu 七43四
*兀訥- unu- (騎, 断, 上) 乗る。
-阿楊 -'ād 二38四; 四42八
-罷 -ba 二29六, 43五², 六², 七², 八²; 三7十, 8五
-周 -ǰu 一15七; 二24四, 28一, 八; 四39十; 五2七, 50三; 六12八; 七33十; 八35八, 36九; 土1七
-黒三 -Gsan 九48九; 土39五

*兀訥兀勒- unu·'ūl-（教騎，教上）[unu- の使役形]
-罷 -ba 三28二，五
-周 -ju 五2一；八35七；九16八，20二
(D) *兀訥温(勒)- unu·'ū(n)l-（教坐，教騎）[同 上]
-周 -ǰu 二23七，25八
(M) *兀訥温勒- unu·'ū(n)l-（教坐，教騎）[同 上]
-罷 -ba 二29五
-周 -ǰu 一44八，45二；二44六
兀訥阿壇 unu'ā·tan（単騎的有）[unu'ā '乗りもの，交通運輸の手段' に -tan のついた形]。六17二
兀訥中合楊 unuGad（駒児毎）[unuGan の複数形] 七35三
兀訥中罕 unuGa·n（駒児）子馬。七35一
兀訥中忽臣 unuGu·čin（放乳馬的，放騍馬的，放騾馬的）乳搾りの係。士48一，53五2
兀黒敦 uGdu·n（接，迎接）[uGdu- '迎える' の同時接合副動詞形]〈→uGtu·n〉六27二；士15四
兀黒屯 uGtu·n（迎接）[同 上] 十15十
兀中合 uqā（省）了解，物分り。四27八
*兀(中)合- uha-[→uqa-]（省，覚）理解する，気づく。[哈→中合]
-阿速 -'āsu 一13五
-周 -ǰu 四42三
*兀中合- uqa-（省，覚）同上。
-阿速 -'āsu 六6二
-巴兀 -ba-'ū 一35五
-畢 -bi 二45五
-楊者 -d~ǰe 一13七；九2十
-黒撒你顔 -Gsan-iyān 士21六
-黒三 -Gsan 九19七；十44一
-黒三突舌児 -Gsan-dur 十24四
-周 -ǰu 一11四；二11三；五32二，40一，46八；十10一，40二；士21六，45七；士3三，49七
-速中孩 -suGai 五48十
-禿中孩 -tuGai 二51三；七3十
兀中合兀塔 uqa·'ūta（察探）[uqa- に -ūta のついた形] 探索しがてら。二50一
兀中含撒舌児 uqa·msar（不覚）[uqa- に -msar のついた形] 知らずに。十18三
*兀中合黒荅- uqa·Gda-（可覚）[uqa- の受動形]
-罷 -ba 六42二
兀中罕 uqa·n（省）[uqa- の同時接合副動詞形] 三30四，十；士57三
*兀中忽- uqu-（剜）堀る。

-周 -ǰu 二6一
兀舌児邦 urbang（ナシ）草木の根。六46二
*兀舌児中忽- urgu-（出，出来）（植物が）成長する；（大陽が）昇る。
-中忽荅 -qu-da 十46十
-中忽因 -qu-yin 二29二
-中灰 -quį 八19三
-中灰魯阿 -quį-lu'ā 十28九
-塔剌 -tala 八28七，十
兀(舌)児禿 urtu（長）長い。十20八
兀舌児禿 urtu（長）同上。八17九；十32七；十24三
-荅 -da 六14七
-因 -yin 五41七；八10六
-思 -s 十27一
兀(舌)児圖 urtu（長）同上。三8三
兀舌剌阿 ura'ā（野）逃げまわる，なかなかつかまらない。七3三〈→ora'a〉
*兀舌里- uri-（喚，喫[→喚]）呼ぶ。
-周 -ǰu 一48十；二2七，38四；四47一；五25二，44六，45九；八32四
-主兀 -ǰu'ū 五46六
-黒三突舌児 -ɢsan-dur 八33八
-中渾 -qun 五46七
-舌剌 -ra 八28一
兀舌里扢 urid（先）前に，以前に。四47九
兀(舌)理荅 urida（前）同上。十38五
兀舌里荅 urida（前，先，在前，前面）以前の（に）；南の，前の。一10九，25十；二29二；三11八，17四，26一，29十，49二；四46九；五9五，17五，23九，34二，36九；六7八，26九，30九，34十，35一，53一；七20七；八4七；九20九，31三，36二，七，38四，39六；十5五，9六，14五，15十，18二，19二，20九，21四，39六，44六；十15七，16六，22五，24一，35六；十15四，八，28一，29六，九，37二，43二，三
-安 -'ān 九2三
-察 -ča 五30六
-温 -'ūn［複数形？］六48十；九47二；十37九
兀舌里荅訥 urida·n·u（在前的）以前の。一48一
兀(舌)里都 uridu（在前）以前に，以前の。六27四
-思 -s 三27六
兀舌里都 uridu（在前，在先有的）同上。五11八；十37四，44一
兀舌里都昔 uridu·s·i（祖宗行）[uridu·s '祖先' の対格形] 十22一
*兀舌里黒荅- uri·ɢda-（被喚）[uri- の受動形]

-周 -ǰu 五46一

兀舌里牙 uri·ya (喚) 呼びかけ。

-荅察 -dača 九17四

兀舌里牙舌児中渾 uri·yar·qun (爽利) 聡明な (に)。十2三

兀(舌)魯黒 urug (親, 子孫) 親族; 子孫。四17七; 五39一, 三; 九19九; 土33一

兀舌魯黒 urug (親, 子孫, 子嗣) 同上。一32一; 二51二; 三4三; 八46十; 土32十, 33一, 二

-途舌児 -tur 十44九; 土32五

-圖舌児 -tur 土31六, 33八

兀舌魯吉 urug·i (子孫行) [urug の対格形] 土33三, 五

兀舌魯吉牙舌児 urug·iyār (一族) [urug の造格形]

兀(舌)魯吉顔 urug·iyān (族自的行) [urug の再帰格形] 九17七

兀舌魯吉顔 urug·iyān (族自的行) [同 上] 九19一

兀舌魯乞牙舌里顔 urug·iyār·iyān (一族自的行) [urug の再帰・造格形] 五19四, 20十

兀舌魯中合 urug·a (親戚行, 親行, 親族行, 子孫行) [urug の与位格形] 一7八, 15二, 六; 三21六; 六25七, 52六, 53二; 七3一, 八; 八13十, 20五, 31三, 34二, 六, 39十, 47二; 九20十, 22六, 24七; 十3八; 土12五

兀(舌)魯中合 urug·a (子孫行) [同上] 五1四

兀舌魯中合察 urug·ača (宗族行, 子孫行) [urug の奪格形] 九38七, 八, 39三; 土43三

兀(舌)魯中合察 urug·ača (宗族) [同上] 九39二

兀(舌)魯(中)合察 urug·ača (宗族行) [同上] 九38五

兀舌魯中渾 urug·un (子孫的, 親的, 親行) [urug の属格形] 二51二; 三21六, 23二; 五1三; 六25七, 52六, 53二; 七2十, 3八; 八31二, 34二, 六, 39十, 47二; 九20十, 22六, 24七; 十3八; 土12五, 21九, 22六

兀舌魯(中)渾 urug·un (子孫的) [同上] 八20五

兀舌魯(中)渾 urur·un (子孫的) [同上] 八31二; 九22六

兀舌魯兀荅察 uru'ūd·ača (子孫毎行) [urug の複数・奪格形] 土30十

兀舌魯黒石 urugši (向前) 前方へ。四33四

-荅 da 一37七

兀舌魯思中罕 urusqa·n (流着) [urusqa- '流す' の同時接合副動詞形] 二17九

兀速 usu (水) 水。土24五, 48五, 55五

-惕 -d 一38一; 土30二 [複数形]

-壇 -tan 土49八; 土16一

*兀速剌- usu·la- (飲水) 水を飲ませる。

-舌剌 -ra 八44五 [目的副動詞形]

兀速闌 usu·la·n (飲) [usu·la- の同時接合副動詞形] 六44四, 九

兀速納察 usun·ača（水行）[usun の奪格形] 七31四
兀速泥 usun·i（水，水行）[usun の対格形] 四49九；九1七
兀速你顏 usun·iyān（水自的行）[usun の再帰格形] 十22三
兀速訥 usun·u（水的）[usun の属格形] 二17八；三23九；十22二
*兀速舌児中合- usu·rqa-（尋水）水を求める。
-舌侖 -run 七5十
兀孫 usu·n（水）水。二3七，17九；四40六；七7二；十12五；十21十，55七
-突舌児 -dur 八3五，33十
*兀禿舌剌- utu·ra-（首先出去囲）狩の時包囲から抜け出て先がけする。
-周 -ju 三43六
*兀禿舌剌兀勒荅- utu·ra·'ūl·da-（教出囲）[utu·ra- の使役・受動形]
-阿速 -'āsu 六36七
*兀- ū-（飲）飲む。
-周 -ju 四40七
-黒撒訥訥 -Gsan-u 五21五
*兀黒荅- ū·Gda-（被飲）[ū- の受動形]
-舌侖 -run 六35一
*兀兀勒- ū'ūl-（教飲）[ū- の使役形]
-罷 -ba 四40七
*兀兀- u'ū-（飲）飲む。〈→ū-〉
-罷 -ba 十24五，29六
-周 -ju 十22一
-中忽 -qu 六34十
-中渾 -qun 十29九
-禿中孩 -tuGaị 七7二
兀兀児中合 u'ūrqa（套馬竿）馬取竿。〈→uGūrGa〉二32二
-巴舌里顏 -bār-iyān 二32六
*委亦惕- uịyid-（厭）厭気がさす，あきる。
-抽 -ču 十36二
-中忽 -qu 三31五
委亦当中合 uịyidangGa（好怠慢，好厭旧）あきっぽい。三31四；六37二
*委亦剌- uịyila-（哭）泣く。
-阿惕 -'ād 二4八；十35三
-罷 -ba 四46五；十36一
-周 -ju 一37九
-主為 -ju'ūị 四7七
-木 -mu 二34九
-中忽亘 -qu-yi 十36三

*委亦剌(黒)荅- uɻyila·ɢda-（突）[uɻyila- の受動形]
-中忽 -qu 一38一
委亦闌 uɻyila·n（哭）[uɻyila- の同時接合副動詞形] 四45八
*温荅阿速- unda'ās·u-（渇）のどがかわく。
-木 -mu 四39五
*穩荅思- undās-（渇）同上。
-抽 -ču 一47十
*温荅剌- unda·la-（解渇）飲む，のどのかわきをいやす。
-周 -ǰu 土25十
*温荅剌勒都- unda·la·ldu-（共飲）[undala- の対動形]
-舌侖 -run 五24九
温荅剌勒敦 unda·la·ldu·n（共飲）[undala·ldu- の同時接合副動詞形] 五24十
温丹 undan（飲，止渇）飲物。三45四²；四43八；六14四；十4十，5一，三；土39八，七
温都舌侖 undurun [undur-‘わき出る’の同時接合副動詞形] 七25三
*温只勒札- unǰi·lǰa-（垂）垂れる；垂らす。
-周 -ǰu 六13六
*穩榻- unta-（睡）眠る。
-黒赤 -ɢči 七39七
*穩榻兀勒- unta·'ūl-（教睡）[unta- の使役形]
-周 -ǰu 十1三
*穩榻舌剌- unta·ra-（睡着）眠りこむ。
-周 -ǰu 土22三
-黒撒泥 -ɢsan-i 土32五；土23五，八
-黒撒你顔 -ɢsan-iyān 八14七
翁中合孫 ungɢasun（毛）羊毛。二46九
*翁失- ungši-（叫，喚）呼ぶ，叫ぶ。
-周 -ǰu 二13十；四34九，46四
*翁失(黒)荅- ungši·ɢda-（被叫）[ungši- の受動形]
-周 -ǰu 二14二
*翁失剌(勒)都- ungši·la·ldu-（共呼）[ungšila-‘よびかける’の対動形]
-周 -ǰu 四34八

# ü

兀ト üb（財物）宝。七35六
兀ト赤- übči-（剝）剝ぎ取る。
-額速 -'ĕsü 土28十
*兀ト赤克迭- übči·gde-（被剝）[übči- の受動形]
-恢額徹 -küi-eče 八17九
兀不勒 übül（冬）冬。五12四，17一；六27七，八；七4七；土1二，五
*兀不勒者- übül·je-（住冬）冬を過す。
-罷 -ba[→-be] 五1六，12五；七4七
-周 -jü 五17二；六27八；八2三；土1二
兀出干 üčŭge·n（小）小さい；幼ない。〈→üčü'ŭgen〉一21八，27八；二41八；三32九；四17一，23四；五3九；八10二，19八，34十，40九；九23二
兀出格惕 üčŭge·d（小的每，小每，小）[üčŭgen の複数形] 一49三；二5五，七；八16十；十37五；土24七
兀出格担徹 üčŭge·n·eče（従小）[üčŭgen の奪格形] 六3六
兀出格禿 üčŭge·tü（小有的）[üčŭgen に -tü のついた形] 小さい；幼ない。一49一
兀出兀干 üčü'ŭga·n [→gen]（小）小さい。〈→üčŭgen〉四17四；六34三
兀出兀堅 üčü'ŭge·n（小）同上。一45八；四7一
兀迭 üde（晚，晚夕）晚，夕。六40三；八20十；十18二，26一
-因 -yin 三45四；十44五
*兀迭舌里惕- üde·rid-（歇餉）日中に休んで食べる
-抽 -čü 六1十
兀迭舌鄰 üde·ri·n（歇餉）[üderi-‘日中に休んで食べる’の同時接合副動詞] 六1九
兀迭失 üde·ši（晚，晚夕）同上。二28二，30二；五49十
-迭 -de 六10二
兀迭石 üdeši（晚，晚夕）同上。六28十；十44四
兀都惕 üdü·d（日每，日）[üdür の複数形] 四13六，19六；六51一，六
兀都児 üdü·r（日，白日，日子，景）日；昼間。一3七，8二，11七，19四；二5九，7七，17三，18七，20四，七，22九，24五，27八，33四，35六，39三，八，42二，44八，51二
兀都(舌)児 üdü·r（日）同上。四20五，24八；十38七
兀都舌児 üdü·r（日，明日，日子，昼，日餉）同上。三4七，11八，12八，29七，33六，43九，44二；四12十，26九，40九，43二，45一，47二；五13四，24八，31七，36九，45九；六1八，11二，九，23六，28三，51二；七19五，六，20六，21四，22六，28七，34一，二，46七；八12五，14十，15二，16六，37四，45八，45九，46六；九2一，3九，23八，39五，六；十27九，43一；

十44五; 廿10四, 37五

-途舌児 -tür 七25三

兀都舌列 üdü·r·e (日行) [üdür の与位格形] 七4三

兀都舌列扯 üdü·r·eče (自日子, 日自) [üdür の奪格形] 一44六; 二3三

兀都舌列徹 üdü·r·eče (日子行) [同上] 四11十; 五19五; 六20一

兀都(舌)列徹 üdü·r·eče (日子行) [同上] 四13三

兀都舌里顔 üdü·r·iyēn (日自的行) [üdür の再帰格形] 七21四

兀都舌里耶舌児 üdü·r·iyēr (日裏) [üdür の造格形] 七48八

兀都舌侖 üdü·r·ün (日的, 日裏) [üdür の属格形] 三17八; 八18八; 九46一, 48九; 廿39四

兀都兀牙 üdü'üya [→üdü'üi-e] (未行) ～する前に, しないうちに。八7九2; 廿35六

兀都兀耶 üdü'üye [→üdü'üi-e] (未, 未行) 同上。三31三; 四42五; 五3七, 5一; 六18十; 十35二, 36一; 廿35五

兀都為 üdü'üi (未的, 未) まだ～ない。一4十; 四9六

兀該 üge·i (無) ない。一7六2, 10四2, 11一, 14六, 九, 16七, 18四, 五, 26三, 46九; 二8四, 五, 10二2, 14一, 15十2, 45五; 三44三; 五3六, 十, 4十, 31八, 36五, 50十; 六11三, 29四, 42四; 七10十, 26十, 48三; 八8四, 21七, 35九; 九12三, 15一, 42四, 43五, 48四; 十2三, 5四, 28三, 43六, 44十; 廿20十; 卅12五, 六, 30八, 44四, 五, 45七, 49五, 55五, 56四, 七

-突児 -dür 二10二, 12三, 四

-突舌児 -dür 三48八, 十

兀該兀 üge·i'ü (無, 無的) 同上。[男性単数形] 〈→üge'ü〉 五41五; 六9六; 七36六, 八; 八19八, 九, 35五, 42三

兀該為 üge·i'üi (無) 同上。[女性, 中性形] 〈→üge'üi〉 一10五, 11一

兀該温 ügei'ün (無毎, 無) 同上。[複数形] 〈→üge'ün〉 一21八; 五36四; 七42八

兀格 üge (言語, 言説, 言) ことば。一14一, 20十, 21一, 二, 三, 32六; 二23六; 三4五, 27六, 30十, 31六, 44四; 四46六, 七; 五6八, 37一, 九, 47十, 48五, 49九, 50十; 六15十, 45八, 48二; 七13七, 16四, 九; 八24十, 30五, 39八, 九, 47二; 九28八; 十29一, 44七; 廿6二, 21九, 30七, 35八; 卅2九, 3二, 4三, 四, 5四, 10十, 11三, 12六, 32六, 34二, 35六, 57七

-別舌児 -bēr 三32五; 八22六

-邊 -bēn 卅24九

-突舌児 -dür 三12七; 四49六; 五20三, 22十, 23五, 九, 24一, 30十, 39六, 44一, 四; 六3八, 4六, 5六, 14九, 17五, 48四; 七6十, 14三, 16四, 27七, 28五, 十, 42四; 八13六, 29五, 32一; 十12十, 37九; 廿28七, 29七, 32一; 卅5五, 11四, 12八, 18三, 31六, 56五

-都舌里顔 -dür-iyān[→-iyēn] 三2四; 四20六; 十9九; 十3八
-額(舌)児 -'ēr 十42四
-額舌児 -'ēr 八15七; 十28十, 42三; 十3九, 43九
-宜 -yi 二1二; 三30四; 五26二, 48二, 七; 六50八, 51十; 七18一, 24四; 十5二, 34一
-因 -yin 三1六
-思 -s 六48二; 七15八
-思突舌児 -s-ḍür 七13六
-思圖舌児 -s-tür 五18五, 六
-思 -s 二12七²; 三9九, 10一; 五42五, 六, 七, 48九, 50五, 八; 六1三, 41五, 六, 42二, 八; 七27九, 28三, 42一, 48十; 八17二, 五, 八, 20九; 九25一, 47三; 十32二, 46一, 二; 十4六
-思突舌児 -s-ḍür 四20七; 六33六; 八21二
-思圖舌児 -s-tür 四20九; 五18五; 十47七; 十31八
-思禿舌里顔 -s-tür-iyēn 四1九; 十30四, 七
-昔 -s-i 三4六, 5一; 四20九; 五15二
-昔顔 -s-iyān[→iyēn] 四20八; 七7七; 八15五
-孫 -s-ün 六42一
-禿 -tü 七49一
-圖児 -tür 一9十, 21四; 二2七
-圖舌児 -tür 七37二

兀格兀 üge·'ü̱ (無, 窮) ない; 貧しい。〈→ügeḭ'ü̱〉[男性単数形] 五13一; 八42三, 四; 九4四, 42五
兀格為 üge·'ü̱ḭ (無) ない。〈→ügeḭ'ü̱i〉[女性, 述語形] 八49二
兀格温 üge·'ü̱n (無的每, 無, 無每, 無的, 窮) ない; 貧しい。〈→ügeḭ'ü̱n〉[複数形] 一28一, 32一; 二8七; 三50五; 五5十; 十47六, 52七
鳴詰列 ügüle (説) [ügüle- の命令形] 一33五; 三3十, 7七, 8二, 七; 四1三, 六21三, 34八, 35四, 38三, 39八; 七42三; 八12十, 14三, 22七; 十31三; 十32九

*鳴詰列- ügüle- (説) 言う, 語る, 話す。
-罷 -ba[→-be] 一21四; 三31一; 六5五, 42九; 十29九
-畢 -bi 一12六
-惕 -d 一13四, 六; 七13七
-惕坤 -dkün 六45八, 46五; 八21九, 22五
-額惕 -'ēd 七42一
-額速 -'ēsü 一21二; 四46六; 八13六, 16九, 21一, 28一; 十32九
-克薛惕 -gsed 八15五
-克薛泥 -gsen-i 五50六; 十44四, 五

-克先 -gsen 三4六; 四1九, 20六; 五23九, 48八, 50五; 八20九; 九25一
-古 -gü[→-kü] 土31三, 四², 32二
-周 -ǰü 一33三, 十; 三3十, 4五, 六, 9四, 十, 16二; 四1四; 五39五, 42十, 43三, 四, 50八; 六5三, 45七, 48二; 七7七, 13十, 14六, 28三, 五, 42四; 八37十; 十12十; 土9九, 35八, 50七; 土12八, 17六, 32九, 50三, 六
-主兀 -ǰü'ŭ 五48九; 七9九; 八12五
-主為 -ǰü'ŭi 六16三, 48二; 七27九
-恢突舌児 -küi-dür 五48四
-坤 -kün 九25二
-列額 -le'ē 三1八; 七10二, 47三; 土24九
-魯額 -lü'ē 土4五, 六
-木 -mü 一21四; 三30七, 十; 十28一
-梅 -müi 六6二; 土22六, 24九
-(舌)論 -rün 一37十; 二25五, 29二, 30五, 32三, 四, 35四; 四9六, 20四; 六14六; 七10十; 十25十; 土29七
-舌論 -rün 一4三, 8七, 9五, 14一, 19三, 20四, 21九, 七, 22一, 九, 33四, 35五, 37三, 42八, 九, 43一, 七, 46六, 47一, 48八, 十; 二1三, 五, 十, 2七, 3七, 4六, 8一, 三, 9二, 九, 11三, 14一, 18九, 19三, 六, 20三, 七, 32三, 28五, 六, 七, 30七, 33五, 七, 34十, 39七, 40一, 41六, 42七, 43二, 45一, 三, 四, 46九, 十, 50三; 三1四, 七, 十, 5二, 7六, 七, 12三, 八, 18二, 20九, 22六, 29十, 31三, 37七, 39五, 43一, 45三, 五, 46一, 47五, 48七, 49四; 四1二, 4八, 7五, 9四, 11十, 12八, 15七, 17六, 18八, 20六, 22一, 七, 28一, 39五, 40七, 41二, 四, 八, 42一, 43一, 46一, 47五, 八, 49二, 五, 50二; 五2八, 5六, 7二, 五, 15三, 九, 20一, 22六, 23一, 三, 25二, 八, 30六, 31一, 34六, 35七, 39一, 40五, 十, 41二, 四, 六, 42四, 43五, 44一, 六, 45七, 46三, 48一, 四, 九, 49一, 十, 六, 50四, 九; 六3三, 八, 4五, 七, 5五, 6一, 7六, 九, 8一, 11三, 七, 12一, 三, 16一, 六, 17五, 21三, 24八, 25七, 31三, 33七, 四, 34八, 35四, 38三, 39八, 41七, 45九, 46五, 48四, 50五, 51五; 七6五, 九, 十, 9一, 11八, 12三, 13六, 14三, 15四, 六, 九, 28六, 29一, 31二, 33五, 34七, 35四, 九, 36四, 37二, 六, 39一, 五, 九, 44三, 46一, 三, 47三; 八10一, 14三, 16九, 21二, 28二, 29六, 31七, 33四, 34十, 35三, 39五, 40八, 41一, 43一, 46一, 47四, 十; 九1二, 3七, 5六, 7一, 8一, 八, 11一, 14十, 15四, 19四, 20八, 21六, 22一, 23一, 24二, 五, 27一, 七, 28一; 十1二, 4五, 6八, 16五, 24一, 27六, 十, 29七, 31一, 33七, 34二, 七, 九, 35四, 36四, 39四, 九, 40二, 43四; 土1七, 15七, 16五, 六,

20三，22五，九，23九，28五，八，29九，31二，32四，35六，九；廿2一，四，十，3四，4四，五，5三，17四，18三，22九，24六，29八，30二，四，31七，46十，51十，54十

-速 -sü 八24十

-由 -yü 五31二；廿31九

*鳴詁《舌》列- ügüre-[→ügüle-]（説）同上。

-(舌)論 -rün 十37十；廿8五

鳴詁連 ügüle·n（説）[ügüle- の同時接合副動詞形] 五43二，三；七16四；九15十；廿28九；廿32六

*鳴詁列(克)迭- ügüle·gde-（被説）[ügüle- の受動形]

-周 -ǰü 七28六

*鳴詁列克迭- ügüle·gde-（被説）[同上]

-古田 -gü-ten[-küi-ü] [田→由] 廿19七

-周 -ǰü 五42五，七；六1二，41七

-坤 -kün 廿49八

鳴詁列克顚 ügüle·gde·n（被説）[ügülegde- の同時接合副動詞形] 廿35九

*鳴詁列(勒)都- ügüle·ldü-（共説）[ügüle- の対動形]

-舌論 -rün 二48十

*鳴詁列勒都- ügüle·ldü-（共説）[同上]

-克薛惕 -gsed 五15六

-克先 -gsen 五15二，18四；七7七

-周 -ǰü 三12十；五37七；八17二

-坤 -kün 八20十

-列額 -le'ē 八17五，八

-魯埃 -lu'ăi[→-lü'ēi] 六22二

-舌論 -rün 五4八，12十，17五，20七，37五；七23二

-舌侖 -rün 一10十；五37二

*鳴詁列兀勒- ügüle·'ŭl-（教説）[ügüle- の使役形]

-周 -ǰü 七16十；廿5四

兀者 üǰe（見）[üǰe- の命令形] 一43九

*兀者- üǰe-（見，看）見る。

-罷 -ba[→-be] 二21二，30五，37二

-別速 -bēsü 一46三

-別由 -beyŭ[→-beį-ŭ] 十29八

-別余兀 -beyü'ŭ[→-beį-ü'ŭ] 七36九

-惕坤 -dkün 二47一；七37一

-額惕 -'ēd 一20四；二2二，9八，19四，20六；三11十；五6五，7三，23八；六2八，51六

-額速 -'ēsü 一34六; 二15三; 三15十, 33六; 四40十; 五23四, 31七; 六2五, 九11九, 13十, 29三; 七36十
-克薛你顏 -gsen-iyān[→-iyēn] 九4九
-(克)薛你延 -gsen-iyēn 九19五
-(克)先 -gsen 二20六
-克先 -gsen 一44一; 二19四; 十12四
-古 -gū[→-kü] 一38二
-古因 -gü[→-kü]-yin 二50四; 四24八; 八30一; 十17三
-古魯額 -gü[→-kü]-lü'ē 四27七
-周 -jü 一3十, 16四, 34七, 46四; 二1五, 14三, 18九, 22一, 二, 27十, 34九, 35八, 36七, 十; 四9四, 41二; 六2三, 14二, 33七, 48八; 七24九, 31七, 33一, 34十; 八41六; 十36四, 37七, 41一; 十31一
-恢 -küi 三21一
-舌列 -re 一4六; 二4五
-禿該 -tügei 一45九
-速 -sü 十27一
-帖列 -tele 二27九; 四42八

*兀者克迭- üje·gde-(見, 被見, 被着)[üje- の受動形]
-罷 -ba[→-be] 四40四
-別 -be 二21二
-額速 -'ēsü 二21二
-古 -gü[→-kü] 二17八
-由 -yü 一45七

兀者克顚 üje·gde·n (見)[üje·gde- の同時接合副動詞形] 一43七

*兀者兀(勒)- üje·ǔl-(教見)[üje- の使役形]
-周 -jü 三39二

*兀者兀勒- üje·'ǔl-(教見, 献与)[同上]
-罷 -ba[→-be] 三38一
-速 -sü 七45七, 46二

*兀者兀魯- üje·'ǔl·ü-(教見, 見教, 共献)[同上]
-列額 -le'ē 七29三
-木 -mü 一43十
-牙 -yā[→yē] 七46三
-耶 -yē 七47五

兀者思古良 üjesgüleng (看像) 外観, 姿。八46二

兀徨 üje·n (見)[üje- の同時接合副動詞形] 八17七, 十

兀瞻 üje·n (見)[同 上] 六34九

兀膽 üje·n (見)[同 上] 十30九

(ü) *兀穩(勒)都- üǰe(n)·ldü- (相顧) [üǰe- の対動形]
-克禿楊 -gtüd 二35五
兀主兀連 üǰü'ǔle·n (直到頭) [üǰü'ǔle- '極限に到る' の同時接合副動詞形] 八10七
兀主兀舌列 üǰü'ǔr·e (梢行, 梢頭, 梢頭行) [üǰü'ǔr '先, 端' の与位格形] 五41七; 六49二; 八10六; 九13二; 十39八, 40十; 廿17十
*兀窟- ükü- (死) 死ぬ。
-罷 -ba[→-be] 四29三
-別兀 -be-'ǔ 二2一, 十
-額速 -'ēsü 一15八; 七16一; 十17十
-克先 -gsen 五3六; 七9九
-古 -gü[→-kü] 七31二
-周 -ǰü 四28四; 六11五; 八20四
-恢因 -küǰ-yin 四7六
-中厥都舌里顔 -quǰ-dur-iyān[→-küǰ-dür-iyēn] [中厥→恢] 五3二
-坤 -kün 廿18一
-舌侖 -rün 廿13七; 廿5五
-速 -sü 五3二; 六51九; 七48六
-速該 -sügeǰ 一15八
-耶 -yē 五20八
*兀窟楊古- ükügdgü- (昏) 意識を失う。
-周 -ǰü 七42四
*兀窟克迭- ükü·gde- (死) [ükü- の受動形]
-恢 -küǰ 二15十
*兀窟勒都- ükü·ldü- (共死, 共捨死, 死戦) [ükü- の対動形]
-主為 -ǰü'ǔǰ 七43四
-恢 -küǰ 八14十
-中厥 -quǰ[→-küǰ] [中厥→恢] 八45九
兀窟良 üküleng (死) 死。
-額 -e 廿22二
兀窟兀勒 ükü·'ǔl (教死) [ükü·'ǔl- の命令形] 八30八
*兀窟兀勒- ükü·'ǔl- (教死) [ükü- の使役形]
-罷 -ba[→-be] 七11三
-古 -gü[→-kü] 五4六
-周 -ǰü 八15七
-主為 -ǰü'ǔǰ 八3五
-恢 -küǰ 五7三
-坤 -kün 五6五
-速 -sü 五4三

*兀窟兀魯- ükü·'ŭl·ü- (死, 教死) [同上]
-克先 -gsen 土28十
-牙 -yā[→-yē] 八21六
*兀窟兀倫- ükü·'ŭl·ü·n (教死) [ükü·ŭl- の同時接合副動詞形] 五4三, 十; 六52四; 土12七
*兀窟兀勒迭- ükü·'ŭl·de- (教死, 可教死) [ükü- の使役・受身形]
-額速 -'ēsü 四49七; 六51九
-古 -gü[→-kü] 土45八
-坤 -kün 八30八
兀窟兀里 ükü·'ŭl·i (教死) [ükü·'ŭl- の断定形] 土34十
*兀坤勒都- ükü(n)·ldü- (捨死斬殺) [ükü- の対動形] 〈→ükü·ldü-〉
-牙 -yā[-yē] 三8七
兀勒都 üldü (刀, 鎖刀) 刀。〈→ü(n)ldü〉 六3六; 七33十
-額舌児 -'ēr 四9一
-思 -s 三46七
-禿 -tü 七35五
*兀勒格- ülge- (直穿) 突き刺す, 貫く。
-帖列 -tele 七38三, 六 〈→ülketele〉
*兀里- üli- (比) 比べる。
-罷 -ba[→-be] 五26五
-周 -jü 五19七, 20二, 六, 九; 九12六
*兀里惕- ülid- (尽絶) 終る, 尽きる。〈→ülüd-〉
-帖列 -tele 五19七; 土7八
*兀里惕格- ülid·ge- (殄絶) [ülid- の使役形] 〈→ülid·ke-〉
-罷 -ba[→-be] 三21七
*兀里惕客- ülid·ke- (教毀滅) [同上]
-罷 -ba[→-be] 四26三
兀里惕刊 ülid·ke·n (尽絶) [ülid·ke- の同時接合副動詞形] 九12六
兀里格 ülige (ナシ) 胸腔。八46二
兀禄 ülü (不) ～でない。[動詞の現在形及び副動詞 -n の否定に用いる] 一7八, 15二, 21二, 38二, 三, 44七, 十; 二1二, 2一, 三, 七, 八, 5一, 9二, 12二, 16二, 19二, 22二, 23六, 25九², 28六, 七, 29六, 34一, 二, 38四, 48四; 三27六, 32五, 37十; 四1六, 7三, 9二², 七, 10四, 11一, 27二, 五, 28二, 34三, 38九, 39二, 40一, 45三, 48二, 50五; 五1十, 3八, 4六, 14五, 18六, 39五, 42十, 43四, 六, 44三, 46四, 十; 六17六, 19一, 21六, 22十, 23一, 26四, 30六, 38十, 40三, 五, 43十, 49六, 八, 52四; 七4四, 5八, 九, 14四, 26九, 36十, 38一², 39八², 46六; 八8一², 八, 9四, 17一, 二, 八, 20三, 九, 21五, 六, 七, 22四, 六,

七，37六，47二；九4九，十，9七，八，九，19六，34六；十1八，2一，3九，7三，16七²，27七，30二，31三，39十，43九；土5二，三，15十，22一，二，24二，四，25三，五，八²，28²九，六，30八，31四，七，八，32七²，33四²，五，六，七，八，35七，37七，九，39一，40五；土2五，六，3八，九，12八，16十，21八，29七，31八，38九，44八，46一，47三，48八，49五，57三

-兀 -'ŭ [否定・疑問形] 三49三，七；四41十，42八；六52三；七16二，六，七，九，29六；八7一，三，六，48二；九2五，7七，15十，22六；土17五

兀魯 ülü (不) 同上。

-兀 -'ŭ 六27六；十4一；土28六

-兀宜 -'ŭ-yi [否定・疑問形に対格尾が附された形] 土6一

*兀魯惕- ülüd- (尽絶) 終る，尽きる。〈→ülid-〉

-帖列 -tele 土27八

*兀魯惕格- ülüd·ge- (数廃) [ülüd- の使役形] 〈→ülüd·ke-〉

-罷 -ba[→-be] 三23二

*兀魯惕客- ülüd·ke- (残滅) [同上] 〈→ülüd·ge-〉

-周 -jü 三5五

兀魯惕刊 ülüd·ke·n (尽絶，残滅) [ülüd·ke- の同時接合副動詞形] 五20六；八45七

兀篾克石 üme·gši (迤北) 北方へ。土49五

兀篾舌列 üme·re (北行，後) 北に，後ろに。九14三

-額扯 -'eče 一19五

-延 -yēn 六52九

兀篾舌列扯 üme·re·če (自後) 後ろから。[ümere の奪格形] 二9七，10五

兀篾舌列徹 üme·re·če (北処，北行辺行) 北から。[ümere の奪格形] 五50四；九48一；土38四

兀你額惕 üni'ēd (乳牛毎) [üni'ēn の複数形] 七12二

兀你延 üniyē·n (乳牛) 乳牛。三38一

兀年[1] ünen (銀鼠) 白貂。二50四

兀年[2] ünen (実，真誠，真実) 真実 (の)。三39六；四42七；五43七；七49一；八14十，17十；十36九；土23八

-古 -gü[→-kü] 一4九

*兀年米[石] 格- ünenmišige- (做真誠) 真実と思う。

-兀澤 -'ŭjaį[→-'ŭjeį] 五48五

兀訥昆 ünügün (粘瀝羔児) 子山羊。三28五

*兀児- ŭr- (負) 背負う。〈→ü'ŭr-〉

-抽 -ču 二41四

*兀舌児- ŭr- (背) 同上。

-抽 -čü 九5七

*兀舌児格-　ŭr·ge-（教背）[ŭr- の使役形]
　　-周　-ǰü 十33九，35六
*兀舌児格兀勒-　ŭr·ge·'ŭl-（背）[ŭr·ge- の使役形]
　　-周　-ǰü 十19六
*兀舌児古-　ürgü-（驚）驚く。
　　-周　-ǰü 七42五；土1八
兀舌児古勒只　ürgülǰi（如常）絶えず，常と。八37四
兀舌里額　üri'ē（三歳）（馬について）三歳から五歳までの牡の馬。五4二
兀圖　ütü（只那）一般の，普通の（？）。七19二
*兀兀舌児-　ü'ŭr-（擡）背負う。〈→ŭr-〉
　　-抽　-ču 土2五
兀耶訥　üye·n·ü（旧的）以前からの。六40四
*兀耶·列-　üyele-（筋節）節にわける。
　　-罷　-ba[→-be] 六21三
兀也［中合牙］üye[qaya]（房親）従兄弟。〈→qaya〉一11一
兀亦勒孫　üyil·sün（樺皮）白樺の樹皮。十2二
委亦列　üiyile（勾当，事）事，仕事；行い。七49二；八43四；九2五；土33七，八，十，35十，50七，55三，五
　　-迭徹　-deče 六33九
　　-突(舌)児　-dür 九28九
　　-突舌児　-dür 土56七
　　-思　-s 土49八，55十，57九²
　　-昔　-s-i 土49六，50一
　　-帖泥　-ten-i 五21四
*委亦列惕-　üiyile·d-（做）する，なす，行う。〈→üiyiled·ü-〉
　　-罷　-ba[→-be] 土13九
　　-罷者　-ba~ǰe[→-be~ǰe] 八43四
　　-坤　-kün 九4四，五
*委亦列都-　üiyile·d·ü-（做）同上。
　　-額速　-'ēsü 十38一
　　-惕坤　-dkün 五44八
　　-克先　-gsen 土55一
　　-舌侖　-rün 八43五
溫突舌児　ündü·r（高）高い。十1六；土20七
溫都(舌)児　ündü·r（高）同上。一45二
溫都舌児　ündü·r（高）同上。七16八，39二；八7六，20五，28六，44三；土9四，27二
溫都舌侖　ündü·r·ün（高的）[ündür の属格形]二14三；七3七
溫都惕　ündü·d（高処）[ündür の複数形]

-帖 -te 五36二

*温只- ünǰi-（住，休）とどまる，休む；長引く，手間どる。

-克先 -gsen 九3十

-中灰突舌児 -quį-dur[→-küį-dür] 九4一 [中灰→恢]

温勒都 ü(n)ldü（環刀）刀。〈→üldü〉

-別延 -beyēn 三8六

# b

巴[1] ba (俺) 我々は (排除的)。一44六, 十, 45一, 三, 五; 二8二; 三1六, 37八, 九, 十, 43二, 五, 六, 九; 四1四, 十, 20七, 48三; 五6四, 六, 七, 41一; 六8一, 46五; 八19二; 九28三; 十8六, 八, 9三, 四, 29一, 九, 42三, 47二, 六; 十3五, 30五

巴[2] ba (也) ～も, さえ。二29六; 三22十, 23一[2], 二[2], 31一, 40一; 四9二, 38一; 五13三[2], 48五; 八5一; 十31二[2], 35一, 38一; 十5七, 45五; 十3九, 16十, 17四, 49一, 二, 56一

巴[3] ba (幷) そして, また。四40四[2]; 九24六

把阿都舌児 ba'āḏu·r (勇士) 三47五; 四7五 〈→ba'ātur〉

把阿禿協 ba'ātu·d (勇士毎) [ba'ātur の複数形] 七21九; 九39六; 十2九, 9五

把阿禿的 ba'ātu·d·i (勇士毎行, 勇士行) [ba'ātud の対格形] 六4二; 七4五, 19四; 九39五; 十2九

把阿禿的顔 ba'ātu·d·iyān (勇士自的行) [ba'ātud の再帰格形] 六3九, 十

把阿禿舌児 ba'ātu·r (勇士) 勇士, 英雄。三34八; 四37六; 六30七, 51五; 十1五; 十16三

把阿禿舌里 ba'ātu·r·i (勇士行) [ba'ātur の対格形] 二1十; 十49五, 十

把阿禿(舌)里 ba'ātu·r·i (同上) [同上] 十15七

把阿禿舌倫 ba'ātu·r·un (勇士的) [ba'āturの属格形] 二1二; 十27四

把備 babuị (ナシ) [祈りのことば? 意味不詳。] 六16八

*巴荅舌児乞- badarki- (説) 大きな声で話し聞かせる。

-周 -ǰu 十46四

巴黒塔 阿勒荅- baɢta alda- (入険直到) 深く入り込みそうになる (?)。

-塔剌 -tala 十46三

巴剌中合臣 balaɢa·či·n (管城的) 城内の倉庫管理者 (穀倉以外の) 十48四, 53六

巴剌中合協 balaɢa·d (城, 城毎, 城子, 城子毎, 庫毎) [balaɢa·su(n) の複数形] 五11四; 十5一, 18九, 37七, 十, 40三, 41九, 43六, 44四, 十, 50三; 十21一, 六, 48三

-都舌里顔 -ḏur-iyān 十5一

-途舌児 -tur 十2八; 十16二, 32二, 三

-圖舌児 -tur 十50三

巴剌中合的 balaɢa·d·i (城行) [balaɢa·d の対格形] 十50十

巴剌中合的顔 balaɢa·d·iyān (城子自的行) [balaɢa·d の再帰格形] 十38一

巴剌中合敦 balaɢa·d·un (形的, 城毎的) [balaɢa·d の属格形] 十27九, 55七

巴剌中合速 balaɢa·su (城, 城子, 城子行) 町, 市。〈→balaɢasu(n)〉 十3三, 13六, 18六, 41七, 十, 42二, 九, 十, 43一, 六, 七, 八, 51二; 十9五, 六,

27七

-班 -bān 土2五

-壇 -tan 土8十; 土2四

巴剌中合速納察 balaɢa·sun·ača (城子每処, 城名行, 城処) [balaɢa·sun の奪格形] 八31九; 土43一, 50四; 土9六

巴剌(中)合速納察 balaɢa·sun·ača (城子行) [同上] 土42十

巴剌中合速泥 balaɢa·sun·i (城行, 城子行) [balaɢa·sun の対格形] 土4一, 18六, 19四

巴剌中合速訥 balaɢa·sun·u (城的, 城子的) [balaɢa·sun の属格形] 土50六, 51三

巴剌中合孫 balaɢa·sun (城, 城子) 町, 市。〈→balaɢa·su〉 土2九, 19三, 45二; 土29一

-途舌児 -ṭur 土2十, 39一, 49二, 九; 土26三

巴剌木惕 balamud (妄) みだりに; 凶暴に。二12二

巴児思 bars (虎) 虎。二12二

巴舌児思 bars (虎子) 同上。八24三

*巴舌剌- bara- (了) 終える, 終わる; 殺す, 亡ぼす。

-阿速 -'āsu 四45一, 48三; 五3六, 4十, 17六, 21五; 六13七; 七26七, 八, 28九; 八7十, 8一, 12一; 九15十, 46七; 十21九

-埃 -'āị 八7九

-罷 -ba 四39五; 五13二

-荅剌 -ḍala 五21三

-惕中渾 -dqun 六35二

-黒撒惕 -ɢsad 四12一, 五, 13四, 19四; 九12四

-黒撒泥 -ɢsan-i 八45五

-黒三 -ɢsan 五34七, 八, 35七, 十; 六16九, 31四; 土8七

-周 -ǰu 二6八, 21一, 八; 五19三, 24三; 六23八; 七18九, 21八; 八3六, 17五, 24八, 32三; 十30十, 44四; 土11十, 40五, 50二; 土15四

-魯阿 -lu'ā 八39九

*巴(舌)剌- bara- (同上) 同上。

-罷 -ba 九13八

*把舌剌- bara- (廃尽, 殺了) 同上。

-罷 -ba 二12三

-黒三 -ɢsan 五19六

-周 -ǰu 三5二; 五20十; 十30三

-中忽 -qu 十29十, 30二

*八舌剌- bara- (廃尽) 同上。

-黒撒惕 -ɢsad 二11三

*巴舌剌黒荅- bara·ɢda- (被了, 定了) [bara- の受動形]

-罷 -ba 十13五
-魯阿者 -lu'ā-ǰe 十44七
*巴舌剌勤都- bara·ldu-（定了，議定了，了）共に終える（終わる），定める。[bara-の対動形]
-黒撒泥 -Gsan-i 五21一
-周 -ǰu 五19九；十30七
*巴(舌)剌(勤)都- bara·ldu-（議定）同上。[同上]
-周 -ǰu 三44四
*把舌剌勤都- bara·ldu-（共議定，議定，官商議定）同上。[同上]
-罷 -ba 五50十
-黒撒泥 -Gsan-i 五47十
-周 -ǰu 五37九，45十，49九
巴舌剌阿 bara'ā（形影）形。十29六
巴舌剌禿 baratu（暗）汚ない。
-壇 -tan 七11十
巴舌剌溫 bara·'ūn（右）右の。一40八；四8九；七14一，四，七；八38四；九9四，六，10三，28十；十9二，14二，38六；十8二，八，35二，四，41六，十3五，13七，40十，41二，四，42二，52一
把舌剌溫 bara·'ūn（同上）同上。三2九，4九，20七
巴舌闌 bara·n（了）[bara-の同時接合副動詞形] 八8一
*把舌里- bari-（拿，把）つかむ，捕える，取る。
-阿楊 -'ād 十39七；十15五
-阿速- 'āsu 九23三
-罷 -ba 三8一，六；四20三
-楊中渾 -dqun 八22九
-黒撒阿舌児 -Gsa'ār 十6二
-黒撒楊 -Gsad 十14三；十38二
-周 -ǰu 一12二，16三，22八，24五；二6一，13八，16四，32二，43四；三37七；四8五，14三，20三，27二，42三，46三；五2一，三，5六，6四，7二，49五，十，50七；六11六，49五，51六；七9七；八9一，12八，九，45六；九14一，二，六，15七，27六，八，47二，三；十18五，38七，八，十；十34八，37十
-主兀 -ǰu'ū 七5七
-主為 -ǰu'ūi 三15九；四8七，14一；十21五
-中忽 -qu 六48十；八13一，三，四
-中忽阿徹[→察] -qu-ača 十34六
-舌剌 -ra 十28五，六
-禿中孩 -tuGai 三46十；九48七，八；十39四，42七

-兀只宜 -'ŭǰiyi 八7一
-牙 -yā 五45九，47三，十，48二，50十
*巴舌里- bari-（拿）同上。
-周 -ǰu 一16五，33二
-牙 -yā 二18五
*把舌里黑荅- bari·Gda-（被拿）[bari- の受動形]
-阿 -'ā 一33七
-阿速 -'āsu 四41十，42二
-周 -ǰu 十20四
-主兀 -ǰu'ū 十21八
-剌阿 -la'ā 九49三；十38九
-魯阿 -lu'ā 五28八
-中忽 -qu 十21一
*把(舌)里黑荅- bari·Gda-（同上）[同上]
-主兀 -ǰu'ū 十21五
把舌鄰 bari·n（把，拿）[bari- の同時接合副動詞形] 七10六；八2十；十5九
*把舌里勒都- bari·ldu-（相挨）[bari- の対動形]
-阿 -'ā 四28十
*把舌鄰勒都- bari(n)·ldu-（相拿）[同上]
-周 -ǰu 十23五
*巴舌鄰勒都- bari(n)·ldu-（相拿）[同上]
-周 -ba 十38十
-中灰突舌児 -quị-dur 十39一
*巴舌鄰勒都兀勒- bari(n)·ldu·'ūl-（相接，教接）[bari- の対動・使役形]
-速中孩 -suGaị 十50四
-禿中孩 -tuGaị 十50五
*把舌里兀勒- bari·'ūl-（教拿，教把，把話）[bari- の使役形]
-罷 -ba 八22十
-周 -ǰu 六41六；十3四，8四
-主為 -ǰu'ūị 五15七；七6三
*把舌里兀魯- bari·ūl·u-（教拿，拿，話）[同上]
-阿惕 -'ād 六2八
-黑三 -Gsan 一19六
-舌侖 -run 六21一；八6六
把舌里阿思 bari'ās（刑禁）捕縄。五15九，16二
巴舌魯 baru（尚昏）薄暗がり。
-荅 -da 二44八
巴舌魯阿 baru'ā（形影）姿；気配；形勢。六48七

巴舌魯阿納察 baru'ān·ača (多処) [baru'ān① '多い; 衆多' の奪格形] 七39七

巴舌魯安 baru'ān② (黒了) 暗い。二32八

巴舌魯黒 baruG (猛的) 貪慾な, すさまじい。一27八

巴舌魯(黒) baruG (同上) 同上。一27七

巴撒 basa (再, 又) また。一12一, 14一, 21二, 三, 24五; 二9四, 15五, 六², 九², 19三, 六, 20三², 五, 九, 22二, 24六; 三4五, 7六, 27八, 33九, 34一, 36二, 40一, 41二, 三, 六, 八, 九, 十, 49三; 四7一, 19六, 22六, 33四, 41八, 43四, 六, 49一; 五5十, 13九, 十, 14二, 20八, 34八, 35七, 九, 37四, 43二, 48九, 49三, 50八; 六4五, 6一, 9二, 四, 13五, 26四, 27一, 28五, 34八, 35三, 38三, 39八, 46五; 七1五, 2六, 3四, 15九, 20五, 34十, 35十, 37四², 39三; 八4七, 7六, 10一, 五, 15六, 27五, 29八, 30六, 十, 34十, 35十, 37二, 39五, 41七, 43一, 47四, 十; 九1二, 2六, 十, 3二, 5七, 7六, 8一, 9三, 11一, 12三, 16三, 17七, 19一, 四, 20三, 八, 21五, 23一, 24四, 九, 25七², 27四, 29六, 九, 30二, 32一, 40九, 42二, 三, 五, 44十, 45九; 十4五, 6八, 8五, 17八, 21八, 25九, 36六; 土4九, 十, 5六, 8四, 11六, 九, 32三, 49一, 五, 50二; 土2七, 7十, 15八, 17四, 19五, 36九, 40七, 41八, 42四, 八, 43二, 八, 十, 44三, 四, 八, 十, 45五, 46三, 七, 47六, 48一, 四, 七, 十, 50二, 四, 六, 55四, 五, 七, 56一, 八, 57四

*巴撒阿剌- basa'āla- (種料, 管摂) 管理する, 監督する。

-周 -ǰu 九10四; 十4五

-速中孩 -suGaị 三46五

巴禿荅 batu·da (堅固行) きつく。土36三

*巴兀- ba'ū- (下, 落下) 〈→baụ'ū-〉

-罷 -ba 六1九

-塔剌 -tala 九47九

*巴牙思- baya·s- (喜歓, 喜懽) 喜ぶ。

-罷 -ba 二35九; 十12六

-抽 -ču 二36五, 40一; 四6六, 15四, 16二; 六45五; 七34四, 35七; 十13四; 土45五

*巴亦- bayi- (直到, 堆殺, 積殺) 〈→baịyi-〉

-塔剌 -tala 七43四; 土2五, 13四

*巴因勤都- bayi(n)·ldu- (対陣) 〈→bayildu-〉

-周 -ǰu 四49二 〈把因勤都-〉

*擺- baị- (立) 〈→baịyi-〉

-主為 -ǰu'ūị 四37八

-牙 -yā 七37三

擺因 baịyi·n (的) [baịyi- の同時接合副動詞形] 七43八; 土23五

擺荅勤 baị·dal (立処) 〈→baịyidal〉
-都舌里顔 -dur-iyān 六29二
擺荅剌察 baị·dal·ača (立処) [baịdal の奪格形] 七39八
擺宜 baịyi (立, 住) [baịyi- の命令形] 二30五; 四9九
*擺亦- baịyi- (立, 纔立, 直立, 止住, 堆殺, 教立) 立つ。〈→baị-〉
-阿速 -'āsu 五25六
-罷 -ba 二32六; 三12八; 五25七; 六8三, 9九, 11八; 七34九, 36一, 39三; 十38三, 40九
-巴速 -bāsu 六51一
-惕中渾 -dqun 五25四
-黒撒阿舌児 -Gsa'ār 三49二
-黒撒惕 -Gsad 九47八; 十2一, 五
-黒三 -Gsan 九9六; 十19八; 廿46二
-因 -yin 六12六
-周 -ju 二27九, 30四, 32九; 三30五; 五39二; 六11二; 七6八, 19五, 43一; 八37七; 九39六, 48二; 十1八, 40六; 廿23八; 卅38五, 42五
-主兀 -ǰu'ū 七37四
-主為 -ǰu'ūị 三12一; 五18六; 七32七
-恢[→中灰] -kūị[→quị] 六12五
-木 -mu 三38六
-中忽 -qu 二30八
-中忽宜 -qu-yi 四45八
-中灰魯阿 -quị-lu'ā 六8四
-中忽泥 -qun-i 七6一; 八36二
-中忽你顔 -qun-iyān 七20十
-中渾 -qun 四39八
-速 -su 六5十
-塔剌 -tala 八38二; 十18八; 廿20十
-禿孩 -tuGaị 十5八; 廿37八, 40六
-牙 -yā 五17六; 七34八, 35十
擺亦荅勤 baịyi·dal (立処) 陣所, 陣営。〈→baị·dal〉
-突舌児 -dur 五31七
-都舌里顔 -dur-iyān 五29十; 六29四
-壇 -tan 十2三
擺亦(勤)都(勤) baịyi·ldu·l (陣) 陣。七32三
*擺亦勤都- baịyi·ldu- (対陣, 対戦, 立) [baịyi- の対勤形]
-阿速 -'āsu 八2八
-周 -ǰu 四4六, 35五; 五17四; 七32三, 45三; 廿12十, 38六

-中忽 -qu 五34三; 六30十

-中灰突舌児 -quị-dur 六28十

擺亦勒敦 baịyi·ldu·n (対陣) [baịyi·ldu- の同時接合副動詞形] 五28三; 八3三, 44十

*擺亦兀魯- baịyi·'ūl·u- (立, 教立) [baịyi- の使役形]

-阿揚 -'ād 八24四

-阿速 -'āsu 九2三

-黒三 -Gsan 十47一

-舌倫 -run 十25六

-禿中孩 -tuGaị 七20十

*擺亦兀魯勒察- baịyi·'ūl·u·lča- (共立) [baịyi·'ūl- の相動形]

-黒撒揚 -Gsad 九30八

擺亦兀魯勒潺 baịyi·'ūl·u·lča·n(同上)[baịyi·'ūl·u·lča- の同時接合副動詞形] 八24九

*伯亦温(勒)- baịyi·'ū(n)l- (教停住) [baịyi- '立っている, とどまる' の使役形]

-中渾 -qun 一11十

伯牙訥 baịya·n·u (富的) [baịyan '富んだ' の属格形] 四21九

*邦列你- bangleni- [→bengle·ni-] (ナシ) 苦心する。

-周 -ǰu 八35三

保里牙 baụliya (教訓, 調習) 鷹狩りの鷹を調教する際に陌(おとり)として用いる道具。十29六

-突舌児 -dur 十46七

*保兀- baụ'ū- (下, 囲, 下営) おりる, 駐営する。〈→ba'u-〉

-阿揚 -'ād 三15七; 七18二; 十29三; 十14六

-阿速 -'āsu 八39七

-罷 -ba 一43九; 三10十, 42二, 四; 四16五; 五32一; 六21一, 43八; 八4三; 十2七, 11三, 14七, 41十, 43一, 二, 52八; 十1十, 21二, 26四

-罷者 -ba~ǰe 六29七

-揚者 -d~ǰe 十43四

-揚中渾 -dqun 十18六, 41七, 九

-黒撒揚 -Gsad 十6九

-黒三 -Gsan 八46四

-勒(→黒)三 -Gsan 四16十

-周 -ǰu 二25一, 39一, 42四, 47一², 49二, 50二; 三10六, 九, 16五, 25五, 41六, 42二; 四38六, 46八, 十; 六20十; 七6一, 18三, 23七, 24七; 九5八; 十19六, 39八, 43九, 44六; 十9六, 58七

-魯阿 -lu'ā 七25三

-中灰突舌児 -quị-dur 六43九

-牙 -yā 三16三, 30一, 二, 七, 八, 31七; 四33十

保温 baụ'ū·n (下) [baụ'ū- の同時接合副動詞形] 三32五; 四34三

*保兀勒- baụ·'ūl- (下駕, 削, 落下, 教下) 下ろす。

-罷 -ba —47十; 二40六
-主兀 -ǰu'ū 六8八
-禿中孩 -tuGaị 十5十; 二40五
*保兀魯- baụ'·ūlu- (教下営) 〈→baụ'ūl-〉
-惕中渾 -dqun 六37五
*保温勒- baụ'ū(n)l- (下駕, 下, 教下) [同上]
-罷 -ba —45九, 十
-周 -ǰu 二39九, 47三
*保兀勒都- baụ'ū·ldu- (共下) [baụ'ū- の対動形]
-周 九16六
保兀舌児赤 baụ·'ūrči (厨子) 料理人。四7四, 五 (保兀(舌)児赤), 18十; 七20六; 八47六², 二15二, 16一
-荅 -da 九8一
-顔 -yān 八47九
保兀舌児臣 baụ'ūrči·n (厨子, 厨子毎) [baụ'ūrči の複数形] 三45五; 七21二; 九46四, 五, 八
保兀(舌)児臣 baụ'ūrči·n (厨子毎) [同上] 九9五
別 be (也) も, また。一46九²
*別迭舌列 bedere- (排尋) 探す。
-罷 -ba[→-be] 二18七
-額惕 -'ēd 二20六
-周 -ǰü 二19六
-耶 -yē 二19三, 五, 20三
*別迭(舌)列- bedere- (同上) 同上。
-額惕 -'ēd 二20九
*別乞列克迭- beki·le·gde- (被守禦) 堅固にされる。[beki·le- の受動形]
-周 -ǰü 二1六
別額 be'ē (身子) 〈→beye〉
-禿 -tü —27七
別勒 bel (且, 況) その上, さらに。五43六; 十36八
別勒必孫 belbisū·n (寡婦, 寡) 寡婦。一49四; 二24七
別惕[→勒]必孫 belbisü·n (寡婦) 同上。
-泥 -ni 二5五
別勒赤舌里耶舌児 belči·r·iyēr (谷口, 川依着) [belčir '川などの合流 (分岐) 点' の造格形] 五31六; 六29六
別勒格 belge (定礼, 記号, 効験, 符験) しるし。一47三; 二22九, 十; 八37九; 九47五
別勒只額勒 belǰi'ēl (喫草) 牧草地。

-突舌児 -dür 七28二

*別列惕- beled-（准備）準備する。

-抽 -čü 十38三

*別列都- beled·ü-（同上）同上。

-克先 -gsen 十39六

別連 belen（見，見成）準備のできた。五50二； 八18六

-突舌児 -dür 土19六，47三

別児 ber（也）～で，～によって［造格語尾］，～は［主題提示］，～も。一5三，12九，14四，五，19三²，20十，21二，32六，45五； 二3三，4九，十，7二

別舌児 ber（同上）同上。三12一，三，四，32七； 五9四，15四，27七，43六，七，十； 六11五²，20四，21二，22九，十，29五，37四，38十，51三； 七1十，4一，7一，二，24一，29五，39八²，46六； 八10九²，十，14八，15一，21三，30五，33六，35五； 九48三，五； 十4十，13一，36九； 土4八，21五，八，十，22一； 土4六，17一，18四，22四，23八，24九，35六，39七，50五，52九

別(舌)児 ber（同上）同上。四47四； 五36二； 九48四

別児格泥顔 bergen·iyēn（嫂嫂行）［bergen '兄嫁' の再帰格形］一49四

別児客 berke（艱難，難）困難な，つらい。二4七，48三，五

別舌児客 berke（難，深）同上。七26六，28九； 十18三

-都兀 -d·ü'ü［複数疑問形］七16五

-禿 -tü 土36一

*別舌児客勒都克迭- berke·ldü·gde-（難攻）強く抵抗される。

-周 -jü 土16四

別舌児客失顔 berke·šiye·n（作難）［berke·šiye- の同時接合副動詞形］九42七； 土44六

*別舌児客失耶- berke·šiye-（同上）難渋する。

-額速 -'ēsü 九34七

*別舌児帖- berte-（傷）傷つく。

-帖列 -tele 七28四

別舌里堅 berigen（嫂）兄嫁。〈→bergen〉一29六

別舌里額 beri'ē（条子）杖。〈→beriyē〉九43十

-因 -yin 九43十

別舌里額思 beri'ē·s（条子，杖毎）［beri'ē の複数形］九42二，三，六； 土44二，七

別(舌)里額思 beri'ē·s（杖毎）［同上］土44三

*別舌里額迭- beri'ē·de-（条子打）杖で打つ。

-速 -sü 九43十

別舌里耶 beriyē（杖子）杖。〈→別舌里額〉土46二²

別舌里 beri（媳婦児）嫁。

-顔 -yēn 土24七

別舌里捏傷 beri·ned (媳婦児) [beri の複数形] 七12一

別舌里捏的顔 beri·ned·iyēn (媳婦自的, 媳婦自的行) [berined の再帰格形] 六21五; 七9五

*別舌里列兀動- beri·le·'ül- (教媳婦的礼行) 嫁としての礼をなさせる。

-周 -jü 七9六

別帖舌児 beter (ナシ) 怒りやすい (?)。土32四 [kenter か?]

別耶 beye (身, 身子, 身材) 体, 身体。一20九; 二4九; 五3六, 5一; 七19三, 31三, 36五; 九33五, 42四; 十3六, 6八, 7六, 36十, 37一, 43二, 七; 土8七, 21一, 二; 土11二, 14六, 40一, 42五

-邊 -bēn 八32一

-突舌児 -dür 土23三

-宜 -yi 八2十

-禿 -tü 七37八

-延 -yēn 二50五; 三50四

別耶思 beye·s (軀身) [beye の複数形] 六45一; 八2一

別耶昔顔 beye·s·iyēn (身子自的行, 軀身自的行) [beye·s の再帰格形] 三14六; 五6三; 七5四, 45九

別耶昔耶舌児 beye·s·iyēr (親身教) [beye·s の造格耶] 九25四

別延格敦 beyen gedün (親身) 自ら, 自分で。

別[耶]昔顔 beye·s·iyēn (軀自身的行) 〈→beye·s·iyēn〉 四20一

必 bi (我) 私。一9五, 六, 22十, 33七, 43五$^{2}$, 49一, 三; 二19二, 23二, 28五, 六, 七, 29四, 九, 十$^{2}$, 30六, 七, 32三, 五, 33五, 七, 九$^{2}$, 十, 34一, 35一, 41七, 八, 45一, 六, 50七, 十, 51一; 三1七, 十, 2三, 六, 九, 4二, 三, 八, 7七, 八, 九, 十$^{2}$, 8一$^{2}$, 三, 四, 五$^{2}$, 六, 七, 9二, 16三, 18四, 八, 19一, 三, 六, 20十, 21一, 30十, 31一, 二, 45九, 十; 四9七, 15九, 22九, 23一, 28二, 四, 39六, 42二, 六, 八, 九, 43一, 46二, 五, 47八, 九, 49六; 五3一, 4四, 15四, 16一, 25九, 30八, 33八, 九, 36二, 三, 40六, 48九; 六4九, 5四, 五, 6三, 7九, 12九, 22九, 23一, 三, 五, 27一, 28三, 五, 29五, 30五, 七, 33九, 36一, 三, 七, 八, 十, 37一, 39九, 46二, 四, 51八; 七5七, 7一, 六, 10三, 14一, 四, 八$^{2}$, 42八, 46二, 47四, 48六; 八10二, 四, 17八, 18一, 三, 六, 八$^{2}$, 十$^{2}$, 19一, 七, 20七$^{2}$, 九, 28四, 五, 八, 29一, 36七, 39八, 44四, 46三; 九2四, 七, 12十, 23八, 十; 十25六, 31二, 34三, 35八, 40四; 土15十, 16六, 十, 22一, 31二, 四, 32四; 35四; 土4五, 六, 八, 19七, 十, 20二, 23七, 十, 24一$^{2}$, 二$^{2}$, 三, 六, 九, 29五, 50三, 55二, 九, 57四, 七, 九

必赤- bičі- (写) 書く。

-周 -jü 八31二; 土58七

必赤克 biči·g (文書) 文書。八31二, 四

心荅 bida (咱, 咱每) 我々。一21九; 二8五, 六, 9五, 20五, 49一; 三2七, 4二, 三, 四, 6三, 12五, 16三, 23一, 二, 三, 31七; 四4九, 9五, 12二, 六, 九, 18九, 19三, 20五, 35十; 五4九, 5一, 六, 6二, 三, 13四, 15二, 十, 17六, 20十, 37五, 43一, 44三, 七, 47三, 49二, 八; 六3九, 4四, 14十, 16八, 17四, 20二, 21十, 22一, 27三, 六, 28五, 八, 39十; 七9三, 11七, 15五, 16四, 26七, 27二, 七, 46三, 47四; 八14四, 36四, 39五, 44一; 九3一, 27八, 43七; 十81三; 土4九, 5六, 22七, 45一; 土2七, 八, 3一, 11五, 30三, 45九, 十, 48十, 49二

-突舌児 -dur 三31六

必荅納 bida·n·a (俺行, 咱行, 咱的行, 咱每行) [bidan の与位格形] 八9二, 三, 四, 30二; 土5二; 土45八, 46一, 49七

必荅納察 bida·n·ača (俺行, 咱行, 咱每行, 俺処, 咱処) [bidan の奪格形] 三31四; 四8四; 六35六; 十6九, 7九; 土40一, 45七, 54二

必荅泥 bida·n-i (俺行, 咱行, 咱每行) [bidan の対格形] 五5七, 八, 31八, 39五, 43六, 46四; 六29五; 七21一; 八10八; 九46六; 十5十; 土37五; 土2十, 40二

必荅訥 bida·n·u (俺的, 俺每的, 咱的, 咱每的) [bidan の属格形] 一11一; 三3一, 15二, 24一, 30一, 三, 七, 九; 四2二, 8三, 12五, 13四, 17二, 18五, 19四, 33九, 34八, 46九; 五13一, 20五, 21一, 23七, 28六, 38三, 39一, 45七, 46八; 六4六, 11七, 12八, 34十, 39十, 40三, 六; 七10一, 七, 15五, 22九, 十, 24一, 27五, 29八, 32八, 33七; 八4九, 9二, 46十; 九19十, 32五, 33七, 34三, 六, 九, 40一; 十4九, 6八; 土4六, 7二, 27二, 50八; 土18四, 19八, 22十, 34十, 40一, 55三

必荅訥埃 bida·n·u·'āi (俺的, 咱的, 咱每的, 咱的每) [bidan の属格形十 -'āi] 我々のもの。三32十; 五17七; 六9十, 10一, 11六; 七23三

必丹 bida·n (俺, 俺, 咱, 咱每) 〈→bida〉

-突舌児 -dur 五5九, 39三; 六16十, 七27十; 八9九, 21三, 36十; 九27六, 34五, 46三; 土5二, 43五; 土37七, 44六

-突(舌)児 -dur 九32二, 33二, 34十, 42六

-魯 -lu 七23五

-魯阿 -lu'ā 十6一; 土40四

-途児 -ṭur 二23五

鵯勅都兀舌児 bildü'ŭr (告天雀児) 雲雀。五30八 〈→biljï'ŭr〉

必勅只兀児 biljï'ŭr (ナシ) 雲雀。二9三 〈→bildü'ŭr〉

*必剌- bila- (摝) 捕える。

-周 -ju 六38五

必列兀顚 bile'ŭde·n (磨着) [bile'ŭde- '磨く' (のろう) の同時接合副動詞形] 二19七
必列兀舌列徹 bile'ŭr·eče (余胙) [bile'ŭr '胙' の奪格形] 二2二
*必里- bili- (摩, 揣摩) 撫でる, さする。
-周 -jü 一13二; 土23二
*必撒舌里兀勒- bisari·'ūl- (盈満) [bisari- 'はみ出る' の使役形]
-周 -ju 十29七
*必禿- bitü- (沿) ～に沿って行く; 順々にする。
-周 -jü 五14六
必禿兀舜 bitü·'ŭl·ü·n (徇, 教沿) [bitü- の使役・同時接合副動詞形] 二17二; 土48十, 49五
*必禿温(勒)- bitü·'ŭ(n)l- (輪, 教徇) [bitü- の使役形] 順番に～する。一12二; 二21五
必屯 bitü·n (沿) [bitü- の同時接合副動形] 五11四
孛多[1] bodo (領口) 大型家畜。七37八
孛多[2] bodo (物) 物。
-荅 -da 五22七
孛都勒中罕 bodul·Gan (乱離) 混乱, 戦乱。
-突舌児 -dur 五22十
孛黒荅 boGda (賢明, 賢明的) 聖なる。〈→boGta〉 八13五; 土24八
孛黒塔 boGta (賢明) 同上。土27二
*孛黒塔剌- boGta·la- (固姑冠帯, 梳領) 既婚婦人が冠をつける。〈→boGtola-〉
-周 -ju 二5八; 土26三
*孛黒脱剌- boGto·la- (梳領) 同上。
-周 -ju 土26四
*孛中忽你惕中合- boGuni·d·qa- (教低) 低くさせる。
-周 -ju 六21七
孛勒 bol (做) [bol- の命令形] 六35七, 九, 36二; 七2一, 14一, 七
*孛勒- bol- (做, 背做, 中) なる, ある。
-罷 -ba 一7九, 10四, 19九, 28三; 二6四, 八, 34十; 三5三, 18六, 19二, 三, 31五, 45五; 四15六, 43十, 50十; 五21六, 25五, 46八, 49七; 六17二, 18五, 24二, 52十, 53四; 七3四, 十, 14八, 19七, 21七, 47九; 八9十, 11一, 13一, 二, 三, 五, 14一, 22五, 九, 25一, 27一, 29九, 30六, 31六, 34六, 38六, 40四, 41七, 42三, 五, 47三, 48三; 九2六, 4六, 八, 6六, 7八, 9三, 10二, 16一, 三, 17六, 20四, 21二, 22七, 24九, 25六, 26一, 五, 29二, 32一, 34二, 九, 36五, 七, 37八, 39七, 九, 十[2], 40二, 42八, 43三, 45六, 47一, 49一; 十3一, 7二, 10三, 11三, 16九, 19一, 26二, 33三; 土12三, 17五, 21七, 28七, 43四; 土6三, 7十, 8十, 10八, 11七, 12八, 16七, 八, 28三, 30六, 37六, 39十, 40

七，42八，43二，46八，54五，56三，57八

-罷者 -ba-je 六35七，九；八44二；九6一，17三；土16八，24六，七，八，40二；土56四，六，八

-畢 -bi 一14六；二2十；七10二，八，29八，九；土22一

-周 -ju 一6三，7九，48四；二4四，32八，50四²；三2十，4八，9三，38四，47五，六，七，八，48六，八，十；四3十，4五，40九，41八；五26四，34四，36六，40四，42九，44二；六30十，46二；八6五，八，九，7一²，三，四，五，12三，19七，30二，33三，40十；九3十，7七，8三，31三，40九，45四；十12九，21四，22七，30一；土5二，8三，八，17四，32六，土13十，29六，九，35八，九，38十，40九，41二，六

-主兀 -ju'ū 三20九；四35七，41二

-主兀者 -ju'ū-je 六23八；土17六

-主為 -ju'ūi 六21二；十33八

-主為者 -ju'ūi-je 八15九；土57十

-忽 -qu 二16二，34二，48四；五40九；七11六；八18六，十；土30六

-忽由 -quyu[→quiu] 七24四，27一；土45九；土21九，22六，34一，48七，49六

-灰 -qui 九19八

-渾 -qun 一14五；八44一；九34六

-忽納 -qun-a 九31二

-忽訥 -qun-ū 七26八

-速 -su 六40六；七11四；土35二；土3五，23十

-塔剌 -tala 三6八；十30三；土35七

-荅剌 -dala 四39三

-禿孩 -tuɢai 三3一，5一，46十，47四；四22二，四；八8六，31六，40一；九4八，20一，34四，39六，七，43三；十7二，13一；土6三，18三，36四；土45五，48一，49九，54四，五

禿(中)孩 -tuɢai 四15三；三39一；九43一

*孛(勒)- bol-（侯）同上。

-周 -ju 八7四

-速 -su 二33八；九4一

*孛勒荅- bol·da-（被做，被黑做）[bol- の受動形]

-罷 -ba 二6九；八19一

-周 -ju 二32八；四34九；五24一，29九，31八；六28十；七42十，48九，49一

-忽由 -quyu[→quiu] 三18八，19六

-舌倫 -run 六29四

*孛(勒)荅- bol·da-（被做）[同上]

-周 -ju 四37十

孛勒中合 bol·Ga (教做) [bol·Ga- の命令形] 三40一; 八41三

*孛勒中合-① bol·Ga- (教做, 做煮熟, 審, 得做) なる; 煮える。[bol- の使役形]

-阿揚 -'ād 十44十

-阿速 -'āsu 三43九; 十43三

-罷 -ba 一20十, 39三; 三22十, 23二, 05二; 四1七, 八, 26四; 九36三; 十12二; 十53九, 十

-周 -ǰu 一27九; 二25八; 三5八, 45六; 四42七; 五22七, 36六, 50一; 六11八; 九11六, 七, 30六; 十19十; 十9六, 七; 十12四

-梅 -muį 二10一

-中忽 -qu 三50四; 十30四; 十26七, 八; 十38九

-中忽由 -qu-yū[→-quį-ū] 四24九

-速 -su 三39七; 九11八

-禿中孩 -tuɢaį 八30六; 十5一

-牙 -yā 三43一; 七47二

*孛勒中合-② bolɢa- (斷殺) 反抗する, 戦う。

-周 -ǰu 十32八

*孛(勒)中合-① bol·Ga- (做, 教做) [同上]

-阿(揚) -'ād 三39九

-罷 -ba 三44五

*孛勒中合黑荅- bol·Ga·Gda- (審実, 被做) [bol·Ga-① の受動形]

-罷 -ba 十43三

-魯埃 -lu'āį 十30九

-由 -yu 五48三

*孛勒中合(黑)荅- bol·Ga·Gda- (被做) [同上]

-阿 -'ā 三4一

*孛勒中合黑塔- bol·Ga·Gṭa- (同上) [同上]

-中渾 -qun 十44二

孛勒中合兀侖 bol·Ga·'ūl·u·n (教做) [bol·Ga- の使役・同時接合副動詞形] 十15四

*孛勒中合阿- bol·Ga'ā- (体覆) 確かめる, 調べる。

-罷 -ba 五49七

孛勒中罕 bol·Ga·n (做, 做了, 做着, 教做, 審) [bol·Ga- の同時接合副動詞形] 一7八, 21二; 二1二; 四9二, 17八; 五43七; 六1七; 七48八; 八47二; 十14十, 33四, 40四; 十12五, 34七

*孛魯- bol·u- (做, 中, 肯, 説道) 〈→bol-〉

-阿揚 -'ād 一39九; 三44七; 十33九; 十17四

-阿速 -'āsu 一13六, 14三, 五, 19六; 三12三, 四, 39四, 八, 43二; 五41五; 八41二; 九2二; 十5二; 十17九, 23九

-罷 -ba 一7六, 17二, 23八, 24一, 七, 九, 25三², 四², 26六, 27六, 七, 十,

28二，五，29五，七，八，31一；二2三
-揚中渾 -dqun 六36一
-揚坤[→中渾] -dkün[→dqun] 六36二
-黒撒阿(舌)児 -Gsa'ār 九35十
-黒撒納 -Gsan-a 一44八
-黒撒訥 -Gsan-u 一7六，10四，26三；八46六，七
-黒三 -Gsan 二34一；六36三；十24十，29五
-黒三突舌児 -Gsan-dur 八18六，十21二
-黒三訥 -Gsan-nu 一14九
-宜 -yi 四19七；八8一，二
-剌阿 -la'ā 八28五
-者 -je 十29六，32二；十3三
(この形は bol-u-je で -u- は現在を表わす語尾)
-周 -ju 一33六
-木 -mu 四41三
-木者 -mu-je 七31十
-梅 -muį 五48五；八21六；十36七
-恢[→中灰]牙察 küįyača[→quį-y-ača] 二2一
-舌倫 -run 四25三，六；五20十，26三；六52一，53二；七1五，2六，3五，7八，20五，24五，31九；八1七，4五，5一，6二，13七，24八，27六，八；九9四，22四，31三，40一，44十，45九；十8五；十21八，30一，32一，九，42四，47八，50三；十7七，10四，十，22八，37四，43八，十
-(舌)倫 -run 十36九
-塔剌 -tala 一39六
-兀齋 -'ūjaį 三49七
-牙 -yā 五38七
-由 -yu 三27七；八22四
-由者 -yu-je 八20六
*孛(黒)魯- bol·u-（做）[同上]
-罷 -ba 一25二
*孛《舌》魯- bol·u-（同上）[同上]
-舌倫 -run 十26九
*孛[→孛]魯- bol·u-（同上）[同上]
-舌剌 -ra 二6三
*孛魯勒察- bol·u·lča-（共做，相従）[bol·u- の相同形]
-周 -ju 一46十；五9十；六25六
-(中)忽 -qu 五10四
-兀齋 -'ūjaį 四9七

*孛魯惕(→勒)察- bol·u·lča-（共做）[同上]
-罷 -ba 十23九
*孛侖勒察- bol·u(n)·lča-（同上）[同上]
-黑撒你顔 -gsan-iyān 三25十
-周 -ǰu 三26四; 八14五
-舌侖 -run 三26二
*孛魯中合- bol·u·ga-（教做）〈→bol·ga-〉
-周 -ǰu 一26五
孛侖 bol·u·n（做，做了，做的，做着，做呵，共，肯，做時，共做，教做，上頭，呵，要，住）[bol- の同時接合副動詞形] 一33一; 二4七, 6八, 46三; 三2九, 十, 4九, 18五, 19一, 46七; 四6八, 10一, 28三, 29二, 35八, 38九; 五11五, 20五, 28七, 29七, 30九, 34三, 40三; 六9六, 16四, 19一, 23八, 30十; 七5六, 14四, 43二; 八3二, 41九, 45四; 九7四, 12八, 16二, 21七, 24二, 40二, 49三; 十18三, 21三, 27五; 士5二, 35五, 39三; 士42九
孛《舌》侖 bol·u·n（做，做時，肯）[同上] 六19一; 八19一; 十43十, 39十; 士38八, 57七
孛勒荅中合 boldag·a（孤山，孤山行）[boldag '独立峯' の与位格形] 二26八; 士58六
孛勒中合 bolga～bolqa（斷殺）対抗，対立，戦い。士32八
*孛惕(→勒)札- bolǰa-（約会）約束する。
-周 -ǰu 五45九
*孛勒札勒都- bolǰa·ldu-（約会，相約）[bolǰa- の対動形]
-周 -ǰu 六46七
-牙 -yā 三8十; 六46六
孛勒札安 bolǰa·'ān（約会）約束。三3一, 4十
孛勒札勒 bolǰa·l（約会，約会的）約束。三9四, 11八, 12八; 六48七
-突舌児 -dur 三12四
孛勒札侖 bolǰa·l·un（約会的）[bolǰal の属格形] 三12十
孛里① boli（勾了，中）[bol(i) の命令形] 一38三
孛里② bol·i（中）[bol①- の現在形] 士25三, 五28十²
*孛斡- bo'ō-（阻）阻む。
-周 -ǰu 十18四
孛斡勒 bo'ōl（奴婢）奴隷。四22二, 四; 六38九, 39二, 三; 八13一, 三; 九5十
孛斡里阿舌児 bo'ōl·i'ār（好婢行）[bo'ōl の造格形] 六38五
孛斡侖 bo'ōl·un（奴婢，奴婢的）[bo'ōl の属格形] 六38五, 六
*孛斡里都- bo'ōli·du-（奴婢做使）奴隷にする。
-牙 -yā 五19九
孛舌児 bor（葡萄酒）葡萄酒。士56二
孛児必 borbi（後跟）かかと，後脚の腱。二11九

孛(舌)児必 borbi (時後筋) 同上。四22三
孛舌児必你顔 borbin·iyān (脚後根自的行) [borbin[→borbi] の再帰格形] 十29三
孛舌児中孩 borqaị (高祖) 高祖父。
-因 -yin 六39一
孛舌羅 boro (青) 灰色の, 灰褐色の。二38四; 八36九; 十41二
孛舌羅 boro (雛) 雛 (?) (上の語と同一語か)。十46六
孛舌羅安 boro'ān (風雲) 風雪。三12三 〈→borohān〉
孛舌羅斡納 boro'ōn·a (風雪行) [boro'ōn[→boro'ān] の与位格形] 十1七
孛舌羅罕 borohān (風雪) 〈→boro'ān〉
-圖児 -ṭur 二11九
孛(舌)羅(黒)臣 boroGčin (雛) 灰色の。一16三
孛思 bos (起) [bos- の命令形] 二42七, 九
*孛思- bos- (起) 起きる; 起つ。
-畢 -bi 二43三
-抽 -ču 二42四; 六35一; 十27八
-出兀 -ču'ū 八4八
-速中孩 -suGaị 十23四
*孛思- bos- (同上) 同上。
-抽 -ču 五16四, 23九
*孛思中合- bos·qa- (立起, 起) [bos- の使役形]
-惕中渾 -dqun 六42三
-周 -ǰu 六48三, 50六; 十29四
*孛速- bos·u- (起, 起身) 〈→bos-〉
-阿惕 -'ād 二43四, 45六; 九13四; 十38二; 十22八
-埃 -'āị 十35二
-黒赤 -Gči 七39七
-黒三 -Gsan 六34十
孛孫 bos·u·n (起) [bos- の同時接合副動詞形] 五2六
*孛莎- boso- (囲, 塞) 包囲する, 塞ぐ。
-周 -ǰu 八13四; 十40六
孛莎中合 bosoGa (門限) 敷居。四22八; 十39六
-荅察 -dača 二22四, 九
-突舌児 -dur 八28六, 九
-因 -yin 四22二; 六39二; 九5十
孛脱中合你顔 botoGan·iyān (駝羔児) [botoGan '仔駱駝' の再帰格形] 二11九
孛額 bö'ē (師公) シャーマン。六41九
孛額思 bö'ē·s (同上) [bö'ē の複数形] 十21四², 22一, 24三, 四
孛額舌列 bö'ēre (腰, 要) 腰, 腰部。二44六, 46二

孛額孫 bö'ēsün (虱子) しらみ。八18九
孛額速訥 bö'ēsün·ü (虱子的) [bö'ēsün の属格形] 二50七
孛額惕 bö·'ēd (便, 就便, 見有, 有間, 即便) ～であるのに, ～であって。
一10五; 三8二, 七, 16二, 30六, 31六, 八, 32八; 四11二, 45二; 五42九; 六1三, 五; 七15四, 16十, 24五, 29三, 48八; 八9一, 四, 十28七; 土6三, 35十; 土29九, 50二, 56二
孛額勒(→惕) bö·'ēd (有了) 同上。四9二
孛額帖 bö·'ēte (便) 同上。二44四 〈→bö'ēd〉
孛額速 bö·'ēsü (呵, 有呵) ～ならば。一4五, 22一, 35七, 八; 二1五; 五7六, 23二; 六3九, 17五, 21五, 22九, 十, 36三, 48五; 七9三, 12三, 29五², 31三, 35九, 39一, 九, 48六; 八10九², 43十; 九13一, 15一, 八, 22五, 25三², 33五, 六, 43六, 七; 十34九, 44一, 九; 土21九, 32二; 土4七, 5一, 17一, 45九, 十, 49九
孛額帖列 bö·'ētele (既, 有間) ～でありながら。一11二, 32六; 三14一, 18三, 九; 四41九, 五43四; 六40六; 七15十; 九49二; 土35六; 土23一, 38八, 56七
*孛克列- bögle- (塞) 塞ぐ。
-周 -jü 土12五
-克先 -gsen 四38十, 39三, 41一; 六14一; 九16九
孛克連 bögle·n (塞着) [bögle- の同時接合副動詞形] 二16一
孛(克)速[→連] bögle·n (同上) [同上] 二15八
孛克薛 bögse (臀, 尖児) 尻。九1三; 土34三
-突舌児 -dür 三2三
-圖児 -tür 二40四
-禿 -tü 土34三
*孛克禿舌児- bögtür- (駄) 馬に荷をつける。
-抽 -čü 八36九
*孛克禿舌魯- bögtür·ü- (捎駄) 同上。
-額惕 -'ēd 二38五
孛戈禿児 bögötür (拱脊) 猫背の。〈→bökötür〉 二38四
*孛客列- bökele- (気力做) 強化する。
-周 -jü 九40二
-舌侖 -rün 九33三
孛刊 bökēn (ナシ) 幌のついた。二44六
孛可 bökö (力士, 勇士) 相撲取り。四27三, 29二
-因 -yin 九1三
孛闊 bökö (勇士) 同上。十39四
孛可思 bökö·s (壮) [bökö の複数形] 四25九
孛闊思 bökö·s (力士) [同上] 十39六

孛闊昔　bökö·s·i（力士行）[bökö の複数対格形] 十38三
孛可舌来　bökörei（腰子）年を取って曲がった(腰)。〈→bököre〉
　-因　-yin 三2三
孛可舌列　bököre（同上）同上。
　-因　-yin 二40四
孛闊禿舌児　bökötür（拱脊）猫背の。〈→bögötür〉八36八
*孛勒迭亦惕-　bölde·yid-（另分，孤零）離れ出る。
　-抽　-čü 六4七; 七42二
*孛勒迭亦惕客-　bölde·yid·ke-（教孤零）[böldeyid- の使役形]
　-惕坤　-dkün 五25五
孛連　bölen（見在）ぬるい。四47八
孛劣克　bölög（叢）群。一17六
孛捋克　bölög（同上）同上。一3九
孛(舌)捋克　bölög（同上）同上。一5三
孛児帖　börte（蒼色）灰白色の。一1三
不察　buča（隠諱）[buča- の命令形] 四50五
*不察-　buča-（諱）隠す，ひかえる。
　-周　-ju 四50四
*不察勒中合-　bučalga-（教滾）煮る。
　-周　ju 四5一
不荅安　buda'ā·n（粥飯）飯，粥飯。一28一
不倒兀　budaų'ū（弱）のろまな。一15二
不丹　budan（霧）霧，もや。
　-突舌児　-dur 九8四
*不黒撒-　bugsa-（拘束）つなぐ。
　-周　-ju 七34三
不吉　bugi（繩）縄。土54三
不吉牙　bugiya（韁縄絆蹄）馬の足枷。二50五
*不勒只-　bulǰi-（繞）逃げ去る。〈→bu(n)lǰi-〉
　-阿速　-'āsu 四22三
不勒中合　bulga（反，反乱，厮殺）戦い，反乱，敵。〈→bulgan, bu(n)lga〉六20二; 八22一; 十21四; 土9一, 18七, 24二, 四; 土30五
　-突舌児　-dur 九8五; 土9三
*不勒中合-　bulga-（厮殺）争う。
　-罷　-ba 十11二; 土10三
*不勒中合勒都-　bulga·ldu-（厮殺）[bulga- の対動形]
　-黒赤　-gči 六51四
　-剌阿　-la'ā 六51八

-中忽 -qu 六52二
-中灰突舌児 -quǰ-dur 十9二
-中灰突(舌)児 -quǰ-dur 十24七
-舌侖 -run 六51六
不勒中合勒教者 bulɢa·ldu·n~ǰe (同上) [bulɢa·ldu- の同時接合副動詞形+ǰe] 十9三
*不勒中合黒苔- bulɢa·ɢda- (被斬殺) [bulɢa- の受動形]
-舌侖 -run 六51一
不勒中罕 bulɢa·n (闘) 〈→bulɢa〉 六43十
*不勒闥舌里- bultari- (趁避) なまける, さぼる。九34五
*不里- buli- (奪) 奪う。
-罷 -ba 二9四
-周 -ǰu 二7九, 8二, 9三, 48九; 三17八; 四10七; 五2四, 九; 十2六, 4九
不鼬中罕 buluɢan (貂鼠) 黒貂。一6一; 二39二, 十, 40一, 二, 41七; 三1八, 十, 2一, 四, 六, 23八, 九; 九5五, 6三
不鼬中合阿舌児 buluɢa·'ar (貂鼠皮) 黒貂の皮 buluɢan の造格形。四17三
不鼬中合臣 buluɢa·čin (捕貂鼠的毎) 貂取り。三14二
不鼬中合惕 buluɢa·d (貂鼠毎) [bulɢan の複数形] 六44三; 十15三
不鼬中合的牙舌児 buluɢa·d·iyar (貂鼠毎教) [bulɢa·d の造格形] 十15九
不侖 bulun (不(舌)侖 bürün の可能性もある) (共) ～といっしょに (～こそは)。三42十
不中合 buqa (強牛) 牡牛。七37九
-因 -yin 三7八; 十19四, 八
不中合兀 buqa'ū (枷) 枷。二17六, 22一, 23六; 三20三
-班 -bān 二17九
-禿 -tu 二20七
不中忽 buɢu (鹿) 麁。八6八
-因 -yin 二50五
*不中忽- buqu- (盖) 蓋をする。
-周 -ǰu 二29七
不舌児備 burbuǰ (脚後根) かかと。〈→borbin〉 十26九
不児中合里黒 burɢaliɢ (飄) ささめ雪。一19七
不児中合孫 burɢa·su·n (楡条) 柳。二50六
不舌剌 塔舌剌 bura tara (漫散) ばらばらに, あちこちに。九8十, 22二
不舌剌兀 bura'ū (二歳牛) 二歳の牛。
-因 -yin 三26七
*不舌魯(惕)- burūd- (躲) 逃亡する。
-中灰魯阿 -quǰ-lu'ā 一35二
不(舌)禄兀 buru'ū (另) 逆のほうへ。七30一

不舌魯兀 buru'ū (不是，不是了，不是的) まちがった。十34八，九；土56三²，四，八，九²，57一，八，九

-亘 -yi 八38一

-顔 -yān 土45七

*不舌魯兀楊- buru'ūd- (逃走，躲，逃躲) 逃げかくれる。

-罷 -ba 十31八

-抽 -ču 五14三，15八，25十；六24一；土24六

-出為 -ču'ūi 三14六

*不(舌)魯兀楊- buru'ūd- (逃躲) 同上。

-抽 -ču 五11二

*不舌魯兀(楊)- buru'ūd- (同上) 同上。

-抽 -ču 六24四

不舌魯兀楊中罕 buru'ūd·qa·n (逃避) [buru'ūd- の使役・同時接合副動詞形] 二14二

不舌魯兀敦 buru'ūd·u·n (躲着) [buru'ūd- の非分離副動詞形] 土13六

不(舌)魯兀敦 buru'ūd·u·n (同上) [同上] 二50五

不舌魯為闌 buru'ūi·la·n (躲) [buru'ūila- '逃げかくれる' の同時接合副動詞形] 〈→burūilan〉 六14十

不舌魯委闌 buru'ūi·la·n (逃) [同上] 八3三

不舌魯兀亦闌 buru'ūyi·la·n (趨避着) [同上] 七43一

*不舌魯兀失耶[→牙]- buru'ū·šiya- (説不是) まちがったことと見做す。

-罷 -ba 土57四

不舌魯兀牙 buru'ūy·a (特地，特地行) [→buru'ūi-a] わざと。五46五，六；八22一

不舌雷闌 burūi·la·n (躲着) 〈→buru'ūila·n〉 六1四

*不散中合- busan·Ga- (教毀乱) 破壊する，散り散りにする。

-周 -ju 三23三

*不桑- busang- (潰散) 散り散りになる。

-中灰 -qui 八45一

*不桑中合黒荅- busang·Ga·Gda- (被潰散) [busang- の使役・受動形]

-罷者 -ba~je 八44十

不速 busu (別，別箇，不是) 他の，他に。一35九；二8四²，10二²，12三，四；三20九，48七，十；四39二；五25四；七38九，48二；五；八37九；九24四；土5六，22九，31十，33四；土22四，30五，38九，48八

-禿 -tū 三4二，三，12六

-兀 -'ū 八29六

-宜 -yi 九34七

不速楊 busu·d (不是，別的每，別) [busu の複数形] 一35六；七47六；土43四；土38一

-途舌児 -tur 十27五

不速的 busu·d·i (別的) [busu·d の対格形] 二14一
不石 buši (別) ～でない。二1二
不失 buši (同上) 同上。三43九; 八30五, 47二; 九4一
-台 -taị 一34七
不実 buši (同上) 同上。七10九
不塔 buta (叢) くさむら。二23四
-圖児 -tur 二23四
*不塔舌剌- buta·ra- (散, 潰散, 漫散) 四散する。散り散りになる。
-黒三 -Gsan 二40三; 三1十; 五9四; 八46八
-周 -ju 一19七
-主為 -ǰu'ūị 四36一, 45二
-中渾 -qun 十5一
*不塔(舌)剌黒荅- butara·Gda- (潰散) [butara- の受動形]
-周 -ǰu 四37二
*不塔舌剌兀勒察- butara·'ūl·ča- (共出) [butara- の使役相動形]
-周 -ǰu 十24六
不兀勒札舌児 bu'ūlǰar (許婚筵席) 婚約の宴。五45八, 46一, 五, 十
不兀舌剌 bu'ūra (駱駝, 駝, 風雄駝) 去勢されていない牡駱駝。一44九, 45二; 二11九
不亦 buyi (ナシ) 汚れもの, 汚物。十26九
奔勒中合 bu(n)lGa (反) 〈→bulGa〉 五11五
奔勒(中)合 bu(n)lGa (同上) [同上] 五9十
奔勒中合勒敦 bu(n)lGa·ldu·n (相闘) [bulGaldu- の同時接合副動詞形] 二13十
*奔勒只- bu(n)lǰi- (躲閃) 〈→bulǰi-〉
-阿速 -'āsu 二48三
*奔勒只温勒荅- bu(n)lǰi·'ū(n)l·da- (被躲閃過) [bulǰi- の使役・受動形]
-罷 -ba 二50七
不 bū (休, 休教) ～なかれ。(禁止の助辞) 一47二; 二3三, 10三, 四, 21二, 23八; 三12四, 16三, 31七, 45四[2], 六, 七, 46二, 三, 50六[3]; 四11二; 五17六, 21三, 37六, 八; 六6五, 22三, 六, 37三, 四, 40七, 52八; 七28八; 八8四[2], 八, 9七, 22八, 29九, 30五, 31五, 38四, 42四, 47三; 九4四, 6五, 17六, 24九, 25四, 34十, 36五, 43五, 48三, 四, 五, 六[2]; 十5四, 6九, 7十; 十12六, 23四, 28六, 30五, 六; 十39一, 二[2], 七, 40二, 45七, 47一
*不- bū- (有) いる; ある。
-額楊 -'ēd〈→bö'ēd〉 五49十; 八35九
-克先 -gsen 五23一
-古 -gū [→-kü] 四2三; 六16七

-古泥 -gün-i [→-kün-i] 三47六，49三；五21三；七38四
-古亘 -gü-yi [→-kü-yi] 一8四
-周 -ǰü 七11十
-主為 -ǰü'ǔi 三15六
-恢 -küi 二24八；三7九；四43五；八12七，33十²；九12二，14二；十1七³，十
-恢突児 -küi-dür 一40七，41六，42一，47十；二8六，9七，十，12五，六，13十 26八，30二，36七，37六，41二；四，42三，六，44八²，46五
-恢突舌児 -küi-dür 三1三，四，10九，41六，42二；四9八，10九，43六；五9一，24十，28二，34四；六1十，9十；七15一，47三；八30一；十3三，46四，八
-恢突(舌)児 -küi-dür 九13二，14五
-恢額徹 -küi-'eče 八28六
-恢亘 -küi-yi 一16四；二18八，27九，30四，45五；六12七；九13四
-坤 -kün 一21七，32九；三14二；五16三，32八；六1三，29九；七38三；八3九，4九；十29五
-埋[→坤] -kün 十19四
-列埃 -le'āi [→-le'ēi] 三37九；四4五，9五，18二，九，47九；五46七；六2十，14五，九；七11十，24十，37一；八44一；九5九，15六，19七，八，九，36三；十26六，36六，44三，十；十20四，26六，35九，36一；十37三
-列埃者 -le'āi-ǰe [→-le'ēi-ǰe] 八34一
-列額 -le'ē 一2九，十，3五，7三，五，10二，六，13三，四，17九，18十，23七，八，九，十²，24六，八，25八，九，十²，26九，27一，四，五，六，七，28二，四，六，29四²，六，30三，四²，六，十，31一，四，五，六，九，十，32一，二，39四，41七²，八²，43八，45五，47二，49一；二15五，17五，22十，27五，28一，33三，36二，39二；三15九，21四，28九，31四，37十，45九；四8五，六，十，9六，12一，25五²，27一，三，28二，六，八²，九，十，41十，42三，六，七，九；五1十，3十，4四，7八，19六，25九，30七，43一，45八，46五；六22十，23一，31五，35一，38六，七，八，40一，41八，九²，42一，52三；七6六，9二，29七，33七，37七，44四；八14九，15一，三，18十，20七，21五，27十，36六，37八，44四，47七；九2四，4十，7二，13八，15二，三，十，17一，31四；十27一，七，30一，二，四，七，八，37六，38八，39十；十23十，24一，二，三，四²，27三，40一；十1七，3十，22九，29九，32六，七，33八²，35一
-列額者 -le'ē-ǰe 六36六，八，十，37一
-列周 -leǰü (-列額 -le'ē の誤りか？) 十24三
-列該 -legei 十12一
-里吉 -ligi 五22九
-里亦 -liyi 一37五；二37五

-中灰[→恢] quį[→-kūį] 五43六
-中灰[→恢]突舌児 -quį[→-kūį-dür] 三26二，七；四1六，4三，19十，31九，33十，35六，49七；六31一，44九，50十；八43三；十29一，35三；十23五，七，43七，51十；十9七，30七，58七
-中灰[→恢]突舌児者 -quį[→-kūį-dür-je] 十36二
-中灰[→恢]額徹 -quį[→-kūį-'eče] 八40六；十40三，四
-中灰[→恢]宜 -quį[→-kūį-yi] 五1十
-中渾[→坤] -qun[→-kūn] 六25三
-舌侖 -rün 一40七；二29八；三7七，10四；四2二，50四；五9五，32十；六30二；七13八，42八；八12二，19七，27七；九34四，43一；十30二；十4八，23四，30五，32八，45二
-禿該 -tügeį 二8七；四9八；六16七；七11十；十24五
-由者 -yü-je 十22九。
*不赤- büči-（囲）囲む，包囲する。
-罷 -ba [→-be] 六50十
-周 -jü 五47三，十；五50十；六51一
-耶 -yē 六50七
不敦 büdün（本）完全な。二50五；八13四
*不克- büg-（伏）待伏せする。
-抽兀 -ču'ŭ〔連接接合副動詞に疑問助辞 -ŭ が附された形〕二49十
不克迭兀里 bügde'ŭl·i（埋没行）[bügde'ŭl '無戸籍の人々' の対格形] 九29十
*不古惕- bügüd-（完全）完全になる；満ちる。
-罷 -ba [→-be] 十42二
*不古惕格- bügüd·ge-（點視）[bügüd- の他動詞]
-額速 -'ēsü 六11二
*不古惕格勤都- bügüd·ge·ldū-（全完，相収集）[bügüd·ge- の対動形]
-克先 -gsen 八46九
-周 -jü 三2一
*不古惕客- bügüd·ke-（點全）〈→bügüd·ge-〉
-周 -jü 九41九
*不古惕客(勤)都- bügüd·ke·ldü-（完全）〈→bügüd·ge·ldū-〉
-周 -jü 二40三
不古惕刊 bügüd·ka·n [→bügüd·ke·n]（點視）[bügüd·ke- の同時接合副動詞形] 十44九
不古迭 bügüde（都，都行）すべて，みな。三2五；七31三；九2三；十45二
-額舌児 -'ēr 五16三，25三；六9八
-宜 -yi 四39七，42四；五18八，20二，34五，50八；六28二，29八，31二；七7七；八43七；九2五；十50一

不古迭捏徹 bügüde·n·eče (都行) [bügüden の奪格形] 土50六
不列額捏徹 büle'ēn·eče (温的行) [büle'ēn '温い' の奪格形] 土24十
*不列- büle- (澎) アイラグを作るのに büle'ŭr で上下にたゝきまぜる。
-窟 -kü 二22六
不列兀楊 bŭle·'ŭ·d (撞馬乳椎) [büle'ŭr の複数形] 四10五
不列兀舌倫 büle·'ŭr·ün (澎的) [büle'ŭr '醸し杵' の属格形] 二22六
不勒楊 büleid (忽然) 忽然と。土24十
*不舌児古- bürgü- (盖) ふたをする。
-周 -jü 八35六
不舌児乞舌連 bürkile·n (擊鼕) [bürkile- '響く' の同時接合副動詞形] 三7八
*不舌列勒- bürel- (毀滅) 滅びる。
-帖列 -tele 三2五
*不舌連勒- büre(n)l- (滅絶) 同上。
-帖列 -tele 土4八
*不舌連勒格- büre(n)l·ge- (毀) [bürel- の使役形]
-禿坤 -tükün 二10三
不舌里① büri (毎) ～ごとに。一13一, 19四; 二51二
不(舌)里 büri (ナシ) 同上。二51二
不舌里② büri (全) すべて。十30二, 38五
*不舌里- büri- (幔) 張る。
-克先 -gsen 三7八, 8四
不舌里額台 büri'ē·tai [→büri'ē·tei] (器皿中盒来的) 蓋つきの器に入った。
四40二
不舌里額禿 büri'ē·tü (器皿中盒来有的) 同上。
-宜 -yi 四40五
不舌里訥 bürin·ü (衆的) [bürin の属格形] 二4七; 八38三
不(舌)里訥 bürin·ü (同上) [同上] 土57二
不舌里耶舌児 büri·yer (衆) [büri の造格形] 土35二, 52四, 十
不舌鄰 bürin (衆) 全ての。十9八; 土2八, 13七, 16六, 37一, 40六, 43八, 52一, 二, 53二
不薛 büse (帯) 帯。三27十, 28三, 四, 29四
-邊 -bēn 二51三
-因 -yin 十12七
*不薛列- büse·le- (繋, 繋衣, 繋腰) 帯を締める。
-周 -jü 二5八; 土26三, 四
*不薛列兀勒- büse·le·'ŭl- (教繋; 帯教繋) [büse·le- の使役形]
-罷 -ba [→-be] 三28一, 四
不薛勒昆 büselgü·n (囲) [büselgü- '取り囲む' の同時接合副動詞形] 七42十

*不識舌列① büšire-（知感）感謝する，感動する。
-克先 -gsen 六25九
*不失舌列② büšire-（信）信じる；信仰する。
-周 -jü 六1三；七5八
-牙 -yā [→-yē] 五37七；六22七
-耶 -yē 五37九；六22四
*不失舌列克迭- büšire·gde-（可信）[büšire- の受動形]
-古 -gü [→-kü] 五43四
不失舌連 büšire·n（信実）[büšire- の同時接合副動詞形] 五6六
不識舌怜 büšire·n（知感）[同上] 三22六；六25六，31三
*不帖- büte-（完備，塞満）完成される，満ちる；窒息する；蔽われる。
-額格 -'ēd 四21七
-帖列 -tele 七25二；土1十
*不帖額- büte'ē-（完備）完成させる，終らせる（殺す）。〈→bütü'ē〉
-罷 -ba [→-be] 土10九
-周 -jü 四20十；土12四
不帖兀那 büte·'ünō [那→耶 i-e]（暗行）閉じられたままで。土10二
*不禿額- bütü·'ē-（完備）〈→büte·'ē-〉
-主兀者 -jü'ü-je 八45六
備 büi（有）いる，～である。一21八，九，35六，七，八，43二，48八，九，十；二8五，七，29九，30一，六，39六，45一；三2八，5九，6一，二，9一，10四，39九；四34四；五7九，25七，36四，46七，九，50十；六3三，四，七，5四，16十，19九，27六，42二，46三；七16二，24十，27五，十，34六，42八；八9十，21八；九8十，22二；十7七，八，29八，34六；土23八，28六，29四，30二[3]，45三，46十，47五；土17十，22九，49一，二，52六，七，九
-者 -je 一11三，26四；二29九，39六；三2八，5九，6一，二；五17七；六3八，42四；七28九，29九，48三；八8二，15六，45八；九2八，4六，6二，15四，45一，三；十8一，22十，23一，28三；土8十，15九，22四，29一；土11三，18七，24三，38十，46四，六
備 büi（同上）同上。六50六，52三；七10十，11一，13七，十，15五，八，16一，23五，25四；土2五，34十
-者 -je 七11六，33八；九5一
備由 büyü（有）いる，～である。一4四，11三，12八，13五，15二，19四[2]，八，20三，45八，49三；二33十[2]，34一，39六，九，45四，五；三20五，31六；四9七，17八，45十，46三，50六[2]；五3六，4二，30九，36五，40七，八，42四，43二，七；六5一，6三，13七；七29十，37五；九12十；十25十[2]；土4九，33十

-者　~je 三1九；四17七；五30八；六39一；十8九

惛由　büyü（同上）同上。七5七，6七，九，10九，36三，39五，47四

-者　~je 七6九，31二，38十

# č

察阿荅 ča'āda (貼身，靠着) 寄りそって。九40一; 十3二, 5七; 廿40五, 42五
察阿勒孫 ča'āl·sun (紙) 紙。
-突舌児 -dur 八31四
*察卜赤- čabči- (砍，斬，欲，劈) 斬る。〈→čabuči-〉
-周 -ju 六49九; 七8一; 九47十; 廿38三
*察(卜)赤- čabči- (砍) 同上。
-罷 -ba 四19一
-黒三 -Gsan 一31六
*察(卜)赤黒荅- čabči·Gda- (被砍) [čabči- の受動形]
-周 -ju 四9一
*察卜赤勒都- čabči·ldu- (共砍) [čabči- の対動形]
-速 -su 廿29三, 四
*察卜赤剌勒都- čabči·la·ldu- (共砍) [čabči- の多回・対動形]
-周 -ju 四31三
*察卜赤兀勒- čabči·'ūl- (斫) [čabči- の使役形]
-周 -ju 十19九
*察不赤- čabuči- (砍) 〈→čabči-〉
-主兀 -ju'ū 四9一
察赤舌児 čačir (帳子) 天幕，帳幕。廿29四
*察惕- čad- (喫飽) あきる，飽食する。
-塔剌 -tala 七23七
*察都- čad·u- (飽) 同上。
-木者 -mu~je 七24一
察惕中罕 čad·qa·n (教飽了) [čad- の使役・同時接合副動詞形] 七24二
察惕中忽郎 čadqulang (飽) 飽食した。二48四
察黒 čaG (時) 時。一19八; 三31五; 七29九; 廿4四
-突児 -dur 一34四
-突舌児 -dur 五9六; 八10二, 16十
-突(舌)児 -dur 七46五; 廿24五
-途舌児 -tur 五43六; 八18二, 35一, 41一
-圖児 -tur 一17二
-圖舌児 -tur 五3九
-圖(舌)児 -tur 九23二; 廿26二
察黒圖 čaGtu (酌中，酌中有的) 凡庸な。六4十, 6二; 十40一
察黒都兀勒孫 čaG·du·'ūl·sun (後哨) 後衛隊。六1七

*察黒剌- čaɢla-（斟酌）抑制する；考慮する，了解する。
-罷 -ba 八32一
-周 -ǰu 十6二；土40三
*察黒剌兀勤- čaɢla-'ūl-（斟酌）[čaɢla- の使役形]
-周 -ǰu 土53七
察中合 čaqa（孩児）子供，児童。一48十，49五
-顔 -yān 五44一
察中合阿納 čaɢa'ān-a（白行）[čaɢa'ān の与位格形] 五43七
察中合阿泥 čaɢa'ān-i（白馬）[čaɢa'ān の対格形] 三28五
察中合阿訥兀惕 čaɢa'ān-u'ūd（白毎）[čaɢa'ān の複数形] 十15二²，七，八
察中合安 čaɢa'ā-n（白）白い。〈→čaɢān〉二25六，32六；八24四，31四；九20一；十28七
察(中)合安 čaɢa'ā-n（同上）同上。二20四，32一
察中罕 čaɢān（同上）同上。四49四，50七；九20二〈→čaɢa'ān〉
察中忽兀 čaɢ-u'ū（時敢）[čaɢ に疑問の助辞が付いたもの] 土4五
察中渾 čaɢ-un（時裏）[čaɢ の属格形] 三1八
察(中)罕 čaɢān（白）白い。〈→čaɢa'ān〉一43五，九；二15七，16一；六44二；七9五
察里舌児 čalir（鉄鍬）鍬。八7三
察孫 času-n（雪）雪。一19七
察兀舌児 ča'ūr（征進）征旅。土32八
察兀(舌)児 ča'ūr（征）同上。土20八
*察兀舌剌- ča'ūra-（出征，征進）征旅を行なう。
-周 -ǰu 十11六；土32八
察兀舌闌 ča'ūra-n（征進）[ča'ūra- の同時接合副動詞形] 土20八
*察兀舌剌兀勤- ča'ūra-'ūl-（教出征，教征出征）[ča'ūra- の使役形]
-罷 -ba 八10八，24七；十10九，17九
*察亦- čayi-（明）夜があける。
-塔剌 -tala 二22九
攙察 čamča（衫児）肌着。
-班 -bān 一35十
斂中合舌児荅兀倫 čangqarda-'ūl-u-n（教疲乏）[čangqarda-'疲れ果てる'の使役・同時接合副動詞形] 七27六
扯額只 če'ĕǰi（胷膈，胷懐，胸膈，心懐）胸，上半身。八46二；十30三，四，五
-突舌児 -dür 三2二
-突(舌)児 -dür 九23八
-圖児 -ṯür 二40四
徹額只 če'ĕǰi（胷懐）同上。三49一

扯額勒 če'ēl (深) 河流の深い所。二3七; 九1九

徹額勒 če'ēl (同上) 同上。四49九

超堅 čeügen (明) 白い, 明るい。一13一; 二3七; 四49九; 九1七

扯客舌来 čekeraj [→rej] (腔子) 年を取ってぜいぜいと音のする (胸)。

-因 -yin 三2二

扯客舌列 čekere (同上) 同上。

-因 -yin 二40四

*扯児別格勒者温勒- čerbe·ge·lǰe·'ǔ(n)l-(垂) [čerbe- '垂れる' の継続相・使役形]

-周 -ǰü 二46七

扯舌里克 čerig (軍) 軍隊, 兵隊。二44九; 三10六; 四12十, 13八, 32二, 46十; 五10二, 29七, 八, 34一; 六4六, 九, 6一, 25二; 七29六, 32二, 33一; 十6八, 九, 7一², 三, 十, 18九, 19一; 十2三, 12五, 35七; 十3九, 17八², 40一, 二

扯(舌)里克 čerig (同上) 同上。十40五

扯舌里格徹 čerig·eče (軍処) [čerig の奪格形] 十18二

扯舌里吉顔 čerig·iyān [→iyēn] (軍自的行) [čerig の再帰格形] 四12十; 六4八, 6三, 14十; 七27三; 八2七

扯舌里吉耶舌児 čerig·iyēr (軍) [čerig の造格形] 六5十

扯舌里昆 čerig·ün (軍, 軍的) [čerig の属格形] 七29八; 八7八, 8三, 五, 七; 十19二, 五; 十5九, 6五; 十34四

扯(舌)里昆 čerig·ün (軍的) [同上] 九2五

扯舌里克兀惕 čerig·'ǔd (軍毎) [čerig の複数形] 十4九

扯舌里兀惕 čeri'·ǔd (同上) [同上] 二46二, 六; 三15二, 24一; 四11一, 17二, 45一, 46二, 九; 五11三, 20五, 21二, 23七; 六25十, 30八; 七25二, 46五, 47五; 十1九, 2八, 7二, 12四, 七, 八, 13七, 42一, 43四; 十6二, 7七, 20三, 21一

-魯額邉 -lü'ē-bēn 四38二

-突舌児 -ḍür 十19四

-帖 -te 七24六, 45九; 八4七

-途舌児 -tür 七47七

扯舌里兀的 čeri'ǔd·i (軍毎行) [čeri'ǔd の対格形] 三11十; 八43七; 十2四, 4七, 6九, 14八; 十20九

扯舌里兀的顔 čeri'ǔd·iyēn (軍自的行, 軍毎自的行) [čeri'ūd の再帰格形] 三11十, 12二; 六28九; 十13四

扯(舌)里兀的顔 čeri'ǔd·iyēn (軍毎自的行) [同上] 四37七

扯舌里兀的耶舌児 čeri'ǔd·iyēr (軍領着, 軍毎教, 軍毎領着) [čeri'ǔd の造格形] 八1八; 十14二; 十18五, 41六

扯舌里兀敦 čeri'ǔd·ün (軍毎) [čeri'ǔd の属格形] 二46十

誠　čing（至誠）誠実な。十1九

称古勒圖克圖　činggültüg·tü（銅灌的）先の曲がった（？）。三26四

超兀侖　čeü'ül·ü·n（砕）砕いて。九1七［čeü'ül- '砕く' の同時接合副動詞形］

潮舌魯　čeürü（同上）こなごなに砕いて。四49九

*潮兀舌列-　čeü'ü·re-（砕）砕ける。

-魯阿[→額]　-lu'ā[→-lü'ē]　二3七

赤　či（你）お前，汝。—9四，21五，22九，35五，九²，38三，49四；二2八²，九²，十，3九，15四，19二，23三，五，28六，29八，30五，32四，44十，45四；三2七，39五；四41九，42一，43四，六，八；五23三，25七；六4六，6一，7七，21五，六，八，九，十，22五，九，23八，九，24三，五，八，25九，26一，三，八，29二，三，30四，31六，七，34九，35一，七²，九²，36二，38八，九，39十，40二；七6八，九，10九，14一，九，29三，四，十，44三，五，46四，47一；八6十，7三，五，六，14六，15一，三，18五，20二，22一，三，五，29六，30一，32一²，33五，九，35三，八，36四六，八，37二，八，41一，四，43四，五，47七，48一，二；九1二，2四，八，7三，八，8三，四，五，六，七，八，9二，12二，三；十16五，八，22六；十27七²，37八，38一，八；土15十，16八，九，17三，五，22四，十²，23一，九，24十，35三，39十，40二，43五；土3四，八，5六，30三，32四，34四，五，七，九，35七

赤出阿　čiču'ā（鞭子）羊の尻尾の脂。二8五，10二，12四；三48十

赤惕中渾　čidqu·n（傾下的）［čidqu- の同時接合副動詞形］十1七

*赤惕中忽-　čidqu-（注）注ぐ。

-中忽　-qu　四31五；六19八

*赤荅-　čida-（能）できる。

-中忽　-qu　二28六，七；五2一；七14四；土31四

-中忽因　-qu-yin　土41四

-中忽納　-qun-u　二9十

-中忽由　-quyu[→-quį-ū]　七10六

-中灰阿察　-quį-ača　十37十

-中灰巴舌児　-quį-bār　土31五

-中渾　-qun　四45三；六6三

赤丹　čida·n（同上）［čida- の同時接合副動詞形］五44八

赤戈児孫　čigö'r·sü·n（檜木）杉；ひのき。二6一

赤歌忽　čigöd（檜，檜毎）［čigörsün の複数形］十36八，37三

*亦[→赤？]古勒古-　či?gülgü-（ナシ）集まる（？）。

赤乞　čiki（耳）耳。

-邊　-bēn　土25八

赤勒　čiki·n（同上）同上。四24九；八30一；土17四

赤勒不児 čilbūr (韁繩皮) 革條。四8七
亦[→赤]剌兀泥 i[→či]la'un-i (石行) [čila'ūn '石' の対格形] 九1七
赤老溫 čilaɣ'ūn (石) 石。〈→čila'ūn〉二3八; 四49九
*赤列- čile- (喫, 困乏) 疲れる。
-周 -jü 一17八, 19五; 七23六
赤魯篾 (中)古卜赤兀児 čilüme gubči'ūr (網) 魚捕りの網。二7三
赤馬 čima (嘆声) ああ。七29七
*赤馬惕- čimad- (怪責, 嫌少) 責める, 咎める。
-罷 -ba 六31七
-抽 -ču 十23二; 十44七
*赤馬惕中合- čimad·qa- (教悔) [čimad- の他動詞]
-阿速 -'āsu 十25二
赤馬荅 čima·da (你行) あなたに。一4五, 9六; 二39十; 三1七; 六24十, 27四; 七14八; 八29七, 34五, 47五², 48一; 十16八; 十23二, 三, 47三; 十3六
赤馬荅察 čima·da·ča (你自, 你行, 比你, 自你処) あなたから。二33二; 四41五; 五23一; 六30三; 十23十
赤馬都舌児 čima·dur (你行) あなたに。六24三
赤馬都(舌)児 čima·dur (同上) 同上。八18五
赤馬突舌児 čima·dur (同上) 同上。六26一, 30二
赤馬途児 čima·dur (同上) 同上。二29九
赤馬魯阿 čima·lu'ā (你一同) あなたと。九2九
赤馬亦 čima·yi (你行) あなたを。一38二
赤馬宜 čima·yi (同上) 同上。一43十; 二33四, 37二; 三43一; 四41四; 五2九², 15五, 41七, 43六, 七; 六7二, 26八, 27三, 七, 29四, 七, 35六, 七, 39一; 七29四, 46六; 八7七, 10一, 46二, 五, 九; 十23一, 七
赤馬(舌)里中孩 čimariqai (怨) 怨みの。十57七
赤馬(舌)里阿舌児 čimar·i'ār (悔責) [čimar '怨' の造格形] 十46四
赤馬舌児 čimar (怪) 恨み, 叱責。三12十
叱馬舌児 čimar (怪責) 怨み; 叱責。
-圖舌児 -tur 六21四, 31六
*赤馬舌児剌- čimar·la- (怪) 恨む。
-中忽宜 -qu-yi 三12九
叱馬舌侖 čimar·un (怪責的) [čimar の属格形] 六31七
*赤納- čina- (煮) 煮る。
-周 -ju 一11七
赤納都 čina·du (那廂) むこうの。十17九
赤納黑石 čina·gši (往那廂, 那廂) むこうへ, むこうに。六14六, 八
赤納只 čina·ji (同上) むこうの。四37七

赤納納 čina·na (那邊, 邊廂) むこうに。四33六, 七, 39九; 十18七, 37五
赤納舌児 činar (情) 心情。十25三
赤納舌魯 čina·ru (那廂) むこうへ。六4十, 6五
赤納温 čina·'ūn (那廂行) むこうで, むこうを。八9五, 六
赤那 čino (狼) 狼。一1五; 二11十; 七33三; 九3九
-因 -yin 一16七, 八
赤訥 činu (你的) あなたの。一19三, 35六, 七, 八, 37十, 38一, 43二; 二4六, 19七, 37一, 40二, 三; 三1十, 2二, 五, 七, 43九, 44二; 四22二², 三, 四, 八, 九, 23二, 43九; 五2八, 23一, 33八, 43九, 十, 48五, 49七; 六23三, 五, 十, 25一, 四, 七², 27一, 28三, 四, 29九, 十, 30六; 七14七, 29一, 六, 46三, 六, 47五; 八15六, 九, 18七, 八, 九², 20六, 22四, 六, 28六, 九, 29八, 30五, 33六, 36四, 37八, 九, 43二, 46二, 47五; 九21六; 十12八, 24三², 五, 34六, 36八, 十, 37一², 二, 四; 十一8三, 七, 八, 21一, 二, 23九, 35二, 45五; 十三5五, 23三², 33七, 34六
*赤児- čir- (拖) 引きずる。
-抽 -čü 二47三
*赤舌児- čir- (同上) 同上。
-抽 -čü 四5二, 28五; 十39五, 七
*赤(舌)児- čir- (同上) 同上。
-罷 -ba[→-be] 十38九
赤舌来 čirai (顔色, 容顔) 顔色, 容貌。一35六; 二11三; 七42八; 八17七, 十; 十45一; 十三17九, 34四
-阿察 -'ača 一35六
-班 -bān 八44九
-壇 -tan 一35七
*赤[→亦]舌里扯兀勒- či[→i]riče·ül- (分) 分ける。
-周 -jü 八30四
赤速 čisu (血) 血。八20三, 22六, 七
-班 -bān 六34一; 十二25七
-禿 -tu 七4四, 35五
*赤速荅- čisu·da- (被血汚) 血まみれになる。
-周 -ju 四39一
赤速泥 čisu·n·i (血行) [čisun の対格形] 四39一, 三, 43五
赤孫 čisu·n (血) 血。〈→čisu〉四9二, 38九, 39五, 41一; 五11七, 14七; 六13九, 十, 14一, 26六, 34三; 七26十; 九16六, 九
赤兀 či'ü (車轄) 車のくさびの類。三46二
赤温 či'ü·n (同上) 同上。
-突舌児 -dür 五19七, 20二, 六, 九, 26五; 九12六

*赤兀迭兀動- či'ŭ·de·'ŭl- (教倒) [či'ŭde- 'くさびの類がはずれる' の使役形]
-速 -sü 三46二
*赤兀動- či'ūl- (聚) 集まる。
-周 -ju 四31二
*赤温(動)- či'ū(n)l- (同上) 同上。
-周 -ju 二20七
*赤兀勒荅- či'ūl·da- (被聚) [či'ul- の受動形]
-周 -ju 十35五
*赤兀動中合- či'ūl·Ga- (教聚, 教完聚, 教衆) [či'ūl- の他動詞]
-周 -ju 四12十; 九9二, 22五, 29九
-速中孩 -suGai 九9一, 22三
*赤兀魯- či'ūl·u- (聚) 〈→či'ūl-〉
-阿速 -'āsu 三47七, 48一
-黒撒惕 -Gsad 五25三
啜額孛舌里 čŏ'ēböri (豺狼) 豺。二12一
輟額不中忽 čŏ'ē buGu (三歳鹿) 三歳鹿。一8三
-亘 -yi 一9一
-因 -yin 一8八, 9十
啜延 čöyēn (少) 少ない。三14六; 六26二, 45一; 七23五², 31十, 43六, 45六; 八2一, 五, 3五
-捏徹 -neče 七31十
輟延 čöyēn (同上) 同上。一46七; 六22九
啜額客惕 čŏ'ēked (ナシ) [čŏ'ēken の複数形] 七11一
啜額刊 čŏ'ēkan [→ken] (少) わずかの。七13十, 24十
*啜可- čökö- (絶望) あきらめる, 絶望する。
-列埃 -le'āi[→'ēi] 二37一
撦剌亦壇 čolayita·n(空欠)中止する, 中断する。[čolayita-の同時接合副動詞形]三32七
撦列思 čöles (順応着) まっすぐに貫いて。三31九
啜勒客 čolke (川) 草と水の豊かな谷あい。三1九
綽羅 čölö (空隙) 隙き間。七36六, 七
-突舌児 -dür 六12六
*撦乞- čoki- (鑿) ほる, つつく; 打つ。
-周 -ju 八7三
撦斡舌児中合 čo'ōrGa (鎖) 錠。
-台 -tai 三46二
撦沉討兀 čoči·mtaų'ū (驚怕) こわがる。一47二
綽黒台 čoG·tai (固姑) 女性の帽子の羽毛の束の付いた～。三24八
*撦中豁里兀動- čoGoli·'ūl- (推倒) 打ちこわす。[čoGoli- の使役形]

-周　-ǰu 三24八

綽舌児中罕　čorqan（ナシ）覆われた，かぶせられた。三24八

*出不舌里兀勒-　čuburi·'ūl-（教溜，流，流出）[čuburi-‘したたる’の使役形]

-周　-ǰu 四9三；六13九；14一，三，34三

出不舌里兀命　čuburi·'ūl·u·n（教漏）[čubri'ūl-の同時接合副動詞形] 八37六

*出察勒-　čučal-（卸了）ほどく。

-周　-ǰu 二23六

出黒台　čuG·taị（束的）束ねた。一12二，14四

*出黒剌-　čulGa-（束）束ねる。

-周　-ǰu 一12一

出舌剌麻　你出棍 čurama ničügün（赤裸）真っ裸。四39八

充　čung（鍾）酒を貯める大きな器。六34十，35二

*出卜禿思-　čüb tus-（猛投，沉落）沈む，おぼれる。

-抽　-čü 八3四；十39三

*出出-　čüčü-（指）つつく。

-周　-ǰü 十23三

# d

*荅阿- da'ā-（当，儘力掌）持ちこたえられる，耐える；しみこむ。
-周 -ǰu 十12九
-中灰阿察 -quį-'ača 十6六
-恢[→中灰]阿察 -küį[→quį]-'ača 十7二
荅阿中罕 da'āga·n（二歳駒）二歳の馬。五4二
荅阿舌里 da'āri（瘡）鞍傷。
-禿 -tu 一15七，16四
*荅阿舌里- da'āri-（経過，撞譏諷）通りかかる，攻める，おそいかかる，壊す。
-阿楊 -'ād 三8九；五11六
-罷 -ba 三32七
-周 -ǰu 二18九，19六，20九；三6六，七，13十；十37七；十1七，3九
荅阿舌鄰 da'āri·n（経過，撞）[da'āri- の同時接合副動詞形] 三13三，25二，三；六2三，六；七31六；八3八，4一；十18七，九
*荅阿舌零- da'āring-（譏諷）そしる。
-中忽 -qu 十4四，六
*荅阿兀魯- da'ā'ūl·u-（烙透）[da'ā- 'しみこむ' の使役形]
-阿楊 -'ād 六14四
荅卜赤 dabči（羔子）弦のゆるんだ弓。
-禿 -tu 四5九
荅卜中忽舌児 dabqur（重，層）重なった，二重の。五38七；七37八；十7九
*荅卜失- dabši-（拍）足でたゝく。
-恢[→中灰]空舌児 -küį[→quį]-dur 三5八
*荅卜塔- dabta-（疊到）鉄を鍛える；何回もくりかえす。
-黒三 -gsan 七36七
荅卜塔馬勒 dabta·mal（築到的）重ねられた。十32三
荅卜禿阿舌児 ḍab·tu'ār（第五）五番目の。十12八，13一
*荅巴- daba-（過，越過，越）越える。
-阿速 -'āsu 九43一
-罷 -ba 一38一
-黒撒的 -gsad-i 八9一，二
-周 -ǰu 四3十；八2四，4三；十6十；十1四，2六，18十；十20十
-中渾 -qun 九34五
-塔剌 -tala 一36九
荅巴 dabā（同上）同上。〈→daba'ā〉
-阿舌児 -'ār 十1四

荅巴阿 daba'ā（嶺）嶺，峠。八7六; 土12六，20七〈→daba'ān〉
荅巴阿惕 daba'ā·d（嶺每）[daba'ā の複数形] 土2六
荅巴阿勒(→惕) daba'ā·d（同上）[同上] 一37十
荅巴阿泥 daba'ān·i（嶺行）[daba'ān の対格形] 土1六
荅巴安 daba'ā·n（嶺）（同上）〈→dabā, daba'ā〉四45六
*荅巴兀魯- daba·'ūl·u-（教過）[daba- の使役形]
-惕中渾 -dqun 土12六
荅巴兀侖 daba·'ūl·u·n（過，越過，教越過）[daba·'ūl- の同時接合副動詞形] 五28四; 六28六，七27二
荅班 daba·n（越）[daba- の同時接合副動詞形] 五28三; 八7七; 土20八，36九
*荅都- dad·u-（慣）慣れる。
-黒三 -Gsan 六3六
荅子 dadz（金）閃緞。四17三
*荅勒- ḍal-（解）ほどく。
-周 -ǰu 十29四
荅勒巴舌魯 dalbaru（打破，劈閉）ぐさぐさに打ち壊して。九47九; 土29二; 土38三
*荅勒必- ḍalbi-（放下）置く。
-周 -ǰu 一46十
荅勒荅 dalda（遮護）保護物; 隠れて。八46七
-荅 -da 土35二
*荅勒荅惕- dalda·d-（隠）かくれる。
-抽 -ču 二9七，八
*荅勒荅舌里- dalda·ri-（躲避）逃げかくれる。
-黒撒你顔 -Gsan-iyān 土29二
荅来 dalaị（海）海。十40三; 土18五
-突舌児 -dur 八7四
-因 -yin 土52五
荅闌 dalan（七十）七十。四4十; 七18十，19七，21八; 八19六; 九31四; 十2七
荅黒台 daGtaị（樺皮小桶）樺の皮で作った容器。
-突舌児 -dur 六34三
*荅中合- daGa-（随）従う。
-周 -ǰu 一20八; 二48五; 六52七
*荅中合兀勒- daGa·'ūl-（教随）[daGa- の使役形]
-周 -ǰu 九32七，九，33一; 土8四
*荅中合温勒- daGa·'ū(n)l-（随）[同上]
-周 -ǰu 二50一
荅中忽 daqu（襖子，皮襖）毛皮の外衣。二39二，十; 三1八; 五13六
-宜 -yi 二39二

-因 -yin 二40一，二；三1十，2一，四，六

*荅舌児巴勒札- darba·lǰa-（摇閃）摇れる。

-中灰空舌児 -quǰ-dur 三5九

荅舌児巴安 darba'ān（招）招き（？），招集（？）。九17四

荅舌児荅思 darda·s（渾金段子，綉金）[darda '緞子' の複数形] 十13二，五；廿27一

荅児吉 dargi（ナシ）[毛色を強調する語] 鮮明な。二28一，二，七

荅舌児中合惕 darqa·d（自在毎）[darqan '租税などの免除の権利を与えられた人' の複数形] 九25七

荅児(中)罕敦 darqa(n)·d·un（自在的）[darqa(n)d の属格形] 一32一

*荅舌児中合剌- darqa·la-（自在，教自在）租税などを免除され自由に暮らす。

-惕(中)渾 -dqun 九24六

-惕中渾 -dqun 九24八

-舌侖 -run 九25八

-速 -su 九24三，四

荅舌児中合闌 darqa·la·n（自在，做自在）[darqala- の同時接合副動詞形] 三39十；七3一；八42一；九26四

荅舌剌速納 darasu·n·a（酒行）[darasun '酒の一種' の与位格形] 廿56三

荅(舌)魯阿 daru'ā（常川）いつも。一26三

荅舌魯察 daruča（随即）後ろからつづいて。二46六

*荅舌魯察- daruča-（緊随，緊逐，相随，相圧）すぐ後ろからつづく。

-周 -ǰu 三15三；七24三，43四；廿2三

*荅舌魯- daru-（勝，壓）圧する，勝つ。

-阿速 -'āsu 五17六

-罷 -ba 六8六，9三；廿2二

-周 -ǰu 五18一；六8六，9一，三，五，九；八43七；九1三，47八；十43一；廿2四，4七，13三，38七，八，十，39二；廿5七，20十，42六

-主兀 -ǰu'ū 八4十

-中忽 -qu 四27四

*荅(舌)魯- daru-（勝）同上。

-罷 -ba 六8十

*荅舌魯黑荅- daru·Gda-（被勝，被圧）[daru- の受動形]

-阿速 -'āsu 廿4十

-罷者 -ba~je 八20八

*荅舌魯中合剌- daruGa·la-（提調）司どる，長となる。

-黑撒惕 -Gsad 十5四

-周 -ǰu 十5一

-禿中孩 -tuGaǰ 十4十；廿39九

*荅舌魯中合剌黑荅- daruGa·la·Gda-（同上）[daruGala- の受動形]

-黒撒㯳 -Gsad 十5二

荅舌魯兀侖 daru·'ūl·u·n (教鎮) [daru- の使役・同時接合副動詞形] 八42二; 十30三

荅舌侖 daru·n (圧, 勝) [daru- の同時接合副動詞形] 二11六; 四27六; 五17六; 十9十, 10二, 29六

荅兀 da'ū (話) 声; 話。十3四

荅温 ḍa'ū·n (同上) [ta'ū- '追いつづける; ～しつづける' の同時接合形] 十29九

*荅兀勒- ḍa'ūl- (分付) 手渡す。

-周 -ǰu 九47五

*荅兀里- da'ūli- (擄掠) 掠める, 襲う, 奪う。〈→daụ'ūli-〉

-周 -ǰu 四16三

*荅兀思- da'ūs- (盡) 尽きる, 終わる。〈→daụ'ūs-〉

-中忽 -qu 二24十; 八37十

-塔剌 -tala 八37七

荅兀思中罕 da'ūs·qa·n (教盡) [da'ūs- の使役・同時接合副動詞形] 三5一

荅兀孫 da'ūs·u·n (受) [da'ūs- の同時接合副動詞形] 五14五

荅亦訥 dayi·n·u (敵的) [dayin の属格形] 四34三

荅亦舌児 dayir (大) 大きな。十40三

荅因 dayi·n (敵, 敵人, 歹的) 敵。三14三; 四34一; 六8四 [dayisun の複数形]

-突舌児 -dur 三43二

*歹只- daị̈ǰi- (反) そむく, 背を見せる。〈→daị̈yiǰi-〉

-周 -ǰu 六26四

歹真 daị̈·ǰi·n (同上) [daị̈ǰi- の同時接合副動詞形] 三19六; 七43六

歹孫 daị̈·su·n (敵) 敵。十30八

*歹亦只- daị̈yi·ǰi- (反, 反走) そむく, 逃げる; 背を向ける。

-黒撒㯳 -Gsad 十7六

-周 -ǰu 三18二; 六17一; 七5四; 八1六, 2二, 五

歹亦只(黒)赤 daị̈yi·ǰiGči (反的) 敵対的な, 敵対を好む。三5九

*歹亦只兀勒- daị̈yi·ǰi·'ūl- (反了, 教驚) [daị̈yiǰi- の使役形]

-罷 -ba 十40四

-周 -ǰu 七11三

歹亦真 daị̈yi·ǰi·n (反, 入, 驚反) [daị̈yiǰi- 同時接合副動詞形] 五14五; 六30三; 八4八, 5二; 十38二

歹亦泥 daị̈yi·n·i (敵行) [dayin の対格形] 十2二

歹亦訥 daị̈yi·n·u (敵行) [dayin の属格形] 六2三, 14九

歹亦速 daị̈yi·su (反) 敵, 反逆。五26三 〈→daị̈yisun〉

歹亦速納 daị̈yi·su·n·a (敵行) [daị̈yisu(n) の与位格形] 五25十

歹亦速訥 daị̈yi·su·n·u (敵的) [daị̈yisu(n) の属格形] 六14六

歹亦速舌児中罕 daị̈yi·su·r·qa·n (做敵人) [daị̈yisur·qa- の同時接合副動詞形] 十31

十，34九

*歹亦速舌児中合- daiyi·su·r·qa-（反倣）敵対する，逆らう。
-黒撒你顔 -Gsan·iyan 四50三，五

歹亦孫 daiyi·su·n（敵，敵人）敵。四19七，43七，50二；五17五；六14六，36五；八45四，46七；十1十；土5二；土17十
-突舌児 -dur 四19七；五37二；九12二
-突(舌)児 -dur 九25八

歹因 daiyi·n（敵，敵人）敵。〈→dayin〉八39四；六2四，五；土46十，47一
-突舌児 -dur 六36三；七3一

丹突舌児 dan·dur（您行）あなたたちに。[tan の与位格形] 四42二，五

当剌速訥 danglasu·n·u（土塊的）[dangla·sun '土の山' の属格形] 十40三

*倒里- daŋli-（擄，虜，擄掠）襲う，掠め奪う。
-阿揚 -'ād 土52四
-罷 -ba 三13九，14一
-周 -ju 三1五；八1二；土39七

*倒里黒荅- daŋli·Gda-（被虜，被虜）[daŋli- の受動形]
-罷 -ba 六30五
-舌命 -run 七45六

倒鄰 daŋli·n（擄了）[daŋli- の同時接合副動詞形] 五19三，24八

倒兀 daŋ'ū（話）声，話。六21一

擣兀 daŋ'ū（聲）声。一37八；二22十；三5八，15七；六41六；八6六；土35六
-阿舌児 -'ār 四45八；五3四，4七
-巴児 -bār 一37九
-巴舌児 -bār 四7七
-把児 -bār 二18五
-斑 -bān 六46一
-禿 -tu 三7九，8四，26八

*倒兀里- daŋ'ūli-（擄，虜，虜掠，搶）〈→daŋli-〉
-阿揚 -'ād 四36十
-罷 -ba 四19十；五18二；七45五；八44八；十20二
-周 -ju 一23三，40六；五1二，13五，十，27七，32七，八；六28一，29十；七4一；土12三，26二，27九，29二
-主為 -ju'ūi 土38一
-中灰突舌児 -quŋi-dur 六36五

倒兀隣 daŋ'ūli·n（擄掠）[daŋ'ūli- の同時接合副動詞形] 三15三

*倒兀里黒荅- daŋ'ūli·Gda-（被擄，被虜）[daŋ'ūli- の受動形]
-罷 -ba 五33八
-黒三 -Gsan 一48二（擣兀里黒荅黒三）

-周 -ǰu 五33六

-舌侖 -run 五25十; 土22四

*攧兀舌里思- daų'ūris-（震動）響きわたる; 共鳴する。

-塔剌 -tala 一37八

*倒兀思- daų'ūs-（畢, 盡）終わる, 尽きる。

-罷 -ba 土58七

-抽 -ču 七21四

倒兀孫 daų'ūs·u·n（受）[daų'ūs- の同時接合副動詞形] 二9九, 12五; 六26四

攧温 daų'ū·n（聲）声, 話。七10一, 六; 九15五, 17四 〈→daų'ū〉

-突(舌)児 -dur 九14五

*迭卜薛- debse-（跳躍, 喜躍）おどりはねる。

-罷 -ba[→-be] 一39六

-古 -gü[→-kü] 八39六

迭(卜)先 debse·n（跳躍）[debse- の同時接合副動詞形] 一39三

迭卜帖舌児 debter（冊）小冊。八31二

*迭卜帖舌児列- debter·le-（造冊）綴じ合わせて小冊にする。

-克薛泥 -gsen·i 八31五

-周 -ǰü 八31二

*迭不勒- debül-（沸）沸き立つ。

-中灰[→恢] -quį[→-küį] 土35八

*迭不思- debüs-（鋪）敷く。

-抽 -čü 土25九

迭額克石 de'ēgši（往上, 向上）上へ。四35六; 六21七; 七39二

*迭額只列克迭- de'ējile·gde-（崇上）尊敬される。[de'ējile- の受動形]

-古 -gü [→-kü] 一46十

迭額勒 de'ēl（衣服, 衣裳, 衣）モンゴル服。〈→degēl〉一20九; 四39七

-禿 -tü 三23十; 四45七

秆額勒 de'ēl（衣服, 衣）同上。九20二 〈→degēl〉

-台 -taį [→-teį] 三20八

迭額里顔 de'ēl·iyān[→iyēn]（衣裳自的行）[de'ēl の再帰格形] 三7十

迭額侖 de'ēl·ün（衣服的）[de'ēl の属格形] 十12七

迭額児篾 de'ērme（劫賊）略奪, 強盗。二27九, 28四

*迭額児篾惕- de'ērme·d-（劫）略奪する, 強奪する。

-抽 -čü 二27九

*迭額舌児篾惕- de'ērme·d-（擄, 被擄）同上。

-抽 -čü 四2九, 十

*迭額舌児篾惕帖- de'ērme·d·te-（被劫）[de'ērmed- の受動形]

-周 -ǰü 八35一

*迭額舌児篾都- de'ērme·d·ü- (扨, 搶扨) 〈→de'ērmed-〉
-克先 -gsen 八36一
-(舌)列 -re 四2七
*迭額舌児篾都勒扯- de'ērme·d·ü·lče- (共扨) [de'ērmed- の相動形]
-克辞訥 -gsen·ü 八21十
迭額舌児篾敦 de'ērme·d·ü·n (扨) [de'ermed- の同時接合副動詞形] 八36三
迭額舌列 de'ēre (上, 高, 上面, 在上) 上に。一1三, 3八, 8二, 37六, 43六; 二6十, 9六, 17三, 50六, 九; 三6五, 38七, 46三; 四3二, 27六, 八, 35八, 45六; 五2七², 22八, 38七; 六8九, 9八, 九, 12五, 16二, 25八; 七9五, 11四, 六, 15三, 23五, 27六, 39十, 43二; 八10十, 12三, 37六, 38三, 39十, 41八; 九16六, 20三, 36四, 38五, 45一, 三, 48三; 十19十, 41二; 土5八, 7五, 17九, 22十, 23三, 39七, 46四, 六, 56二
-額徹 -eče 六35九; 九19十
-因 -yin 八30十
-顔 -yān[→yēn] 一37六
-延 -yēn 七43三
迭額舌列扯 de'ēre·če (上自) [de'ēre の奪格形] 一3八, 36一; 二50二; 三13八
迭額舌列徹 de'ēre·če (上処) [同上] 四49三, 五, 八; 七43二; 十20一; 土28四
*迭克迭- degde- (騰起) わき起こる。
-克先 -gsen 土35七
迭格勒 degēl (衣服) モンゴル服 〈→de'ēl〉
-禿 -tü 六39五
迭格温 dege'ŭn (従上, 上, 上経過) 上方を。九48五, 七, 49三; 十29七; 土38八, 39一, 三
迭勒 del (鬃) 馬のたてがみ。四3二
迭勒別格迭扯 delbege (韁索行) 車につけられた馬の手綱
-迭扯 -deče 一37一
迭勒堅 del·ge·n (展閉) [delge- '拡げる' の同時接合副動詞形] 七23七, 24七
迭勒格舌児 del·ger (寛洪) 広い, ひらかれた。土27三
*迭列惕- deled- (打) 打つ。
-罷 -ba [→-be] 三7九, 8四
-抽 -čü 一35二, 36三; 八10七
*迭列都- deled·ü- (打) 同上。
-額惕 -'ēd 二17七, 46三; 七30一
迭列該 delegei (天下, 寛) 世の中。八18五; 土35九
迭列篾 deleme (造次, 泛濫) でたらめに。一13四; 五48五
*迭里-① deli- (拽) 矢を引く。
-周 -jŭ 七38二², 五, 六, 七

迭里② ḏeli（許罷）然り，よし。〈→teli〉十24七
迭篾徹 dem·eče（応行）[dem '助け' の奪格形] 九17五
迭篾麼 ḏemeče·n（争）[temeče- '争う' の同時接合副動詞形] 四36五
*迭児別魯- derbel·ü-（顫動）揺れる。
-梅 -müi 二42七
迭舌児格 derge（根前）傍。土35八
迭児格迭 derge·de（同上）そばに。一48八; 二27八
迭舌児格迭 derge·de（同上）同上。四50九; 九32五, 33二, 34六; 十9七, 26一; 土29五, 32五, 48一; 土22八, 九, 23四
-延 -yēn 八29三; 九2一
迭(舌)児格迭 derge·de（同上）同上。九34九
-温 -'ün 六1三 傍を。
*迭児格扯- derge·če-（傍）沿う，傍によりそう。
-周 -jü 一37二, 十
迭舌児格纙 dergeče·n（並）[dergeče- の同時接合副動詞形] 四47一
*迭舌児篾惕帖- dērme·d·te-（却擄）略奪される。[→de'ērme·d-]
-周 -jü 十18四
迭舌列 dere（墊背，藉，枕背）もたれ，枕。五3二, 20八
-突(舌)児 -dür 土25八
-禿 -tü 六46二
*迭舌列列- dere·le-（枕）枕にする，寄りかかる。
-周 -jü 土25九
-古訥 -gün[→-kün]-ü 八38五, 40三
*迭舌列勒古- derelgü-（翻旋）次々に進み退く。
-古 -gü [→-kü] 六3五
迭舌列速訥 deresü·n·ü（蓆棘草的）[deresün 'はやがね草' の属格形] 土9五
迭兀 de'ü（弟）弟。一11一, 28三, 37二; 二5五, 8二, 19七, 36十; 三2八, 十, 4十, 10八, 12九, 17七, 十, 34四, 七, 十, 44十, 45二, 46一; 四2五, 17七; 五11一, 47十; 六4六, 6一, 23十, 38四, 39一; 七1五; 八29六, 31七; 九8九, 22二, 32七; 土47六, 48一, 57五
-邉 -bēn 一34八; 四3八
-迭 -de 三2八, 4九; 六38三; 九23三
-迭扯 -deče 三5一
-迭徹 -deče 土57七
-迭延 -deyēn 一4五; 二19一; 八29七; 九23三
-突舌児 -dür 四9六, 八
-魯額別顔 -lü'ē-beyēn 一3七
-顔 -yān[→-yēn] 九9一, 二, 22五

-耶顔 -yeyān[→-yeyēn] 二8五
-宜 -yi 五13二, 41一; 九32八, 33一
-因 -yin 二9九, 12五
-余延 -yüyēn 一4六, 18七; 五31二; 九22三; 十14三
迭兀捏児 de'ü·ner (弟每, 兄弟每) [de'ü の複数形] 一14十, 22二, 五, 23三; 二8三, 13七, 35八, 44四, 46十, 47一; 五12十
迭兀捏舌児 de'ü·ner (弟每) [同上] 三33八, 十, 34三, 35一; 五2四, 八, 3四, 4六, 八, 36四; 八19八; 十21九; 十23一, 52一, 二
-禿 -tü 八19五
-途舌児 -tür 十43四
迭兀捏舌列 de'ü·ner·e (弟每行, 弟行) [de'ü·ner の与位格形] 八30二; 十22七; 十21五
迭兀捏舌列徹 de'ü·ner·eče (弟内, 兄弟内) [de'ü·ner の奪格形] 五15七; 十37一
迭兀捏舌里 de'ü·ner·i (兄弟每行, 弟每行) [de'ü·ner の対格形] 五2五; 七19二; 十36八, 37四
迭兀捏舌里顔 de'ü·ner·iyān[→yēn] (弟每自的行, 弟自的行, 弟姪每自的行) [de'ü·ner の再帰格形] 一49四; 二21一, 23二, 25七; 五9九, 15七; 六23八, 24二; 十37七; 十24七
迭兀捏舌侖 de'ü·ner·ün(弟的每, 弟每的) [de'ü·ner の属格形] 八29七; 十22十, 43五
迭兀赤連 de'ü·čile·n (做弟)[de'ü·čile- '弟として扱う' の同時接合副動詞形] 八29三
*迭兀児- de'ür- (駄) 馬の背に物を積む。
-別 -be 二43九
點 dem (次序) 順序; 助け。六3五
*登格扯- denggeče- (斉等) 並ぶ。
-坤 -kün 十44九
登格纙 denggeče·n (斉等, 比肩)[denggeče- の同時接合副動詞形] 八31八; 九45四; 十43九
丁 ding (ナシ) 安心して。六21六
*多卜禿勤- dobtul- (衝) 突進する, 攻める。
-罷 -ba 六8七, 9二, 四
-都中孩 -dugai 六4四
-周 -ju 六8六, 八, 十; 八43五; 十2一, 13二
-恢[→中灰]突児 -kui[→-qui]-dur 六12三
-中忽 -qu 二11六, 八, 12三; 六9六, 19一
*朶卜禿勤- dobtul- (衝) 同上。
-周 -ju 四49九, 50一
*朶(卜)禿勤- dobtul- (走馬) 同上。二30八
多卜禿来者 dobtul·ai-je (衝也者) [dobtul-+-ai+je] 六4五

*多卜禿魯- dobtul·u- (衝) 〈→dobtul-〉
-黑三 -Gsan 五17八
*多卜禿勒都- dobtu·ldu- (衝) 衝き進む，突進する。[dabtul- の対動形]
-牙 -yā 六16六
*多卜禿勒中合- dobtul·Ga- (教衝) [dobtul- の使役形] 六3十，4一，二
多卜禿勒中罕 (衝的) dobtul·Gan
-突舌児 -dur 五17九
*多乞- doki- (桔點) 合図する，うなづく。
-周 -ǰu 二32六
朶羅安 dolo'ān (七箇，七) 七。一27一，30四，六，32六，33四，36九，41七；四6三，25四，28六；五13四；九42三，六；十26十，27二，三，34四，八，35八，38四，五；土51九；土44三，六，58六
朶羅阿訥 dolo·'ān·u (七箇的) [dolo'ān の属格形] 十27一
朶羅都阿舌児 dolo·du'ār (第七) 七番目の。土52七
朶抹黒赤 domoG·či (好長話) おしゃべり好きの。八19九
多舌児中忽惕 dorGud (未完) 支配下に入れずに (?)。土19九
多舌児中忽勒(→惕) dorGud (同上) 支配下に入れずに (?)。土15五
*朶舌剌亦塔兀(勒)- dorayi·ta·'ūl- (服下) [dorayita- '屈服する' の使役形]
-周 -ǰu 四26二
*多舌来荅兀勒- doraị·ḍa·'ūl- (屈下) [doraịḍa- '屈服する' の使役形]
-周 -ǰu 七3七
*多舌来亦塔兀勒- doraịyi·ta·'ūl- (同上) [doraịyita- '屈服する' の使役形]
-周 -ǰu 七1二
*朶舌来荅兀勒- doraị·ḍa·'ūl- (壓服下) [doraịḍa- '屈服する' の使役形]
-周 -ǰu 九12五
*朶舌藍只剌- dora(n)·mǰi·la- (下顧) 軽蔑する。
-周 -ǰu 一7八；五46四
*朶舌藍只剌黒荅- dora(n)·mǰi·la·Gda- (同上) [doramǰila- の受動形]
-中忽 -qu 一46八
朶舌藍只闌 dora(n)·mǰi·la·n (下覷着) [doramǰila- の同時接合副動詞形] 五39五
朶舌羅 doro (下) 下に。二24七；五23十；六13六；七28十；九4七；十4八；土23一，39八
朶舌羅黒短 doro·Gši (往下) 下へ。四35六
朶(舌)羅温 doro'ūn (暗地) ひそかに。六5二
*朶舌羅亦惕荅兀勒- doroyi·ḍḍa·'ūl- (教屈下) 屈服させる。
-周 -ǰu 土44十
*朶舌羅亦塔兀魯- doroyi·ta·'ūl·u- (同上) 同上。
-黒三突舌児 -Gsan-dur 土45四
多舌羅木只 doro·mǰi (下等) 下等な (人間)。

-阿察 -'ača 七34七，35十
朶舌羅木真 dorom·ǰi·n（同上）同上。七10五
朶舌羅納 doro·na（東行）東に。六20十，21一；七11一，13十；九13七
-只 -ǰi（東辺）東側の。六18七；七31六
朶脱阿只 doto·'ā·ǰi（袴）下ばき。
-禿 -tu 四39七
朶脱黒石 doto·Gši（往裏）中へ。三38一
朶脱中合 dotoGa（門額）モンゴル包の戸口の上部の空間。
-因 -yin 一13一
朶脱納 doto·na（裏行）中に。九34九；三15二
朶脱舌剌 doto·ra（内，裏）中に，中で，体内。一4二；8三，10一，11二，33五，48八，49三；二7六，八，15一，17八，24十，27三，37六，42六，46八，47二；三42三，46五，49一；四24三，七，十，40八；五12三，26一；六27七；八27七，27十，33六；九19十；十1五，十，35三，36二；三14十，23十
-安 -'ān 四39四，47八；五25一，39六
-班 -bān 二21八
-察 -ča 四9四，25七；三15五
朶脱舌列[→舌剌] doto·re[→ra]（内）同上。三10三
朶脱(舌)剌 doto·ra（内）同上。四43九
朶脱舌剌温 doto·ra·'ūn（裏面）～の中に。四39八
*朶脱舌児剌- doto·r·la-（做裏児）衣服に裏地を付ける。
-黒三 -Gsan 四17三
*多汪中豁喝- do'ongGod-（作聲）声を出す。〈→dungGot-〉
-巴 -ba 一21三
*多牙- doya-（整治）整える。
-速 -su 三46四
朶臣 dŏči·n（四十）四十。六23七
*朶列思格- dölesge-（趁関）～に乗ずる（？）。
-古 -gü [→-kü] 三56八
*朶魯思格- dölüs·ge-（散）散り散りにする。
-周 -ǰü 六21七
朶魯思古- dölüsgü-（趁関）〈→dölesge-〉
-周 -ǰü 三31三
朶児別兀列 dörbe·'ŭle（四箇）四人で。一15一
朶児邉 dörbe·n（四，四人）四。一7五，七，九$^2$，31四，41五；二7五，七
朶(舌)児邉 dörbe·n（四，四箇）同上。四34七；五34二；六31四；九1十
朶舌児 dörbe·n（四，四箇，四班，四件）四。五33五，34一，四，九；六30五，八，九，31一；七33六，八，34五，六；八48一；九1四，九，4九，5一，19

五，36七，40九，41六；十23六，31五，37五；土21四；土42三，九，十，55十，57八，九

朶舌児別泥 dörben·i（四箇行）[dörben の対格形] 四24十；十25七

朶舌児邉泥 dörben·ni（同上）[同上] 三47三

朶(舌)児邉泥 dörben·ni（同上）[同上] 九11二

朶舌児篾該 dörmegei（下等）下等な人間。土31七，32四

朶舌列卜赤 döre·bči（環子）鼻輪。

-禿 -tü 四17三

*朶舌劣- dörö-（生）生れる。〈→töre-, törö-〉

-克先 -gsen 六39九[2]

朶舌劣 dörö（道理，体例）道理，体制。〈→töre, törö〉土50六；土57三

朶帖連 dötele·n（超直）[dötele-'近道を進む'の同時接合副動詞形] 三6三

*朶脱列- dötöle-（抄直）近くなる。

-克先 -gsen 十31六

朶宜 döyi（妹子）妹。五38七〈→düiyi〉

朶亦篾惕 döyi·med（次女）次女。七1七

都舌剌 dura（心，意）心。五39七，40一；六33三；土10九

-阿舌児 -'ār 六52八；土40三

-禿 -tu 四42三

都舌闌 dura·n（心）同上。五44五；六14三；土24九

*都舌剌惕- dura·d-（想）想う。

-拙 -ču 一48二；八20十

*都舌剌惕中合- dura·d·qa-（提説）[durad- の使役形] 提言する。

-阿速 -'āsu 七24四；土6一；土49七

-罷 -ba 土22一

-黒三 -Gsan 土21六；土11三

-周 -ju 土32五；土23五

-主為 -ju'ūi 土50八

-中忽 -qu 土23七

-舌論 -run 七23五；土4四

都舌剌惕中罕 dura·d·qa·n（提）[dura·d·qa- 同時接合副動詞形] 土20七；土2四，33二

*都舌剌惕中合勒都- dura·d·qa·ldu-（共提説）[durad·qa- の対動形]

-周 -ju 八14七

都舌剌都勒孱 dura·d·u·lča·n（共想着）[durad- の相動・同時接合副動詞形] 三25六

*都塔- duta-（闕，缺少）欠ける，不足する。

-罷 -ba 三43十

-塔剌 -tala 七4一

*都塔兀魯- duta·'ūl·u- (缺少) [duta- の使役形]
-阿速 -'āsu 三54三, 四
都塔兀侖 duta·'ūl·u·n (教缺了) [duta·'ūl- の同時接合副動詞形] 九9七, 八
*都塔阿- duta'ā- (走, 逃, 逃走) 逃げる。
-罷 -ba 一36四; 四20一
-周 -ǰu 一36三; 二14二; 八36三
-主兀 -ǰu'ū 三19六
都塔安 duta'ā·n (逃) [duta'ā- の同時接合副動詞形] 三14六
都塔兀 duta·'ū (缺少) 欠けている。八28四, 五
-余安 -yu'ān 九25六
都塔兀納 duta·'ūn·a (乏的行, 缺行) [duta'ū(n) の与位格形] 三47六, 52七
都塔為 duta·'ūi̯ (缺少) 〈→duta'ū〉
-班 -bān 九25三
*都兀勒中合- du'ūlqa- (宣論) 聞かせる, 宣論する。
-中灰 -qui̯ 三37一
都兀勒中罕 du'ūl·qa·n (同上) [du'ūlqa- の同時接合副動詞形] 三46四
*都牙勒- duyal- (観躍) 喜んで躍りあがる (?)。
-周 -ǰu 七34九
都牙侖 duyal·u·n (同上) [duyal- の同時接合副動詞形] 七35八
敦荅 dunda (中, 中間, 半朶, 半朶) 真中の, 中間に。一3四, 22八, 23六; 三30五; 五24十; 十27五; 三52三
敦荅都 dunda·du (中間, 中間的) 真中の, 中間の。一33四; 十27一
*董中豁惕- dungGod- (作聲恠, 恠青) 声を出す。
-罷 -ba 三17二
-抽 -ču 十44三; 三40五
-中忽因 -qu-yin 六7八; 三22五
*董(中)豁惕- dungGod- (作聲) 同上。
-罷 -ba 十23二
*董中豁都- dungGod·u- (作聲, 怪, 恠責, 恠) 同上。
-阿 -'ā 三31二
-埃 -'āi̯ 十36一; 三35五
-木 -mu 二34九; 三46九
-舌侖 -run 十43九; 三46一; 三34二
董中豁敦 dungGod·u·n (恠責) [dungGod- の同時接合副動詞形] 十44四
堆亦 dūi̯yi (妹子) 妹。〈→dǒyi〉
-邊 -bēn 二23八
都列惕 dūled (越, 愈) ずっと, ますます。六4十; 三21八, 22五
都里 dūli (半) 夜ふけ; 昼すぎ。四39二, 四

-迭 -de 六28三
都(舌)里 düli (午) 同上。六1八
*都里- düli- (兼行) (夜を) 徹する。
-額楊 -'ēd 二33四; 六50九
-周 -jü 二33四; 三33六
-耶 -yē 三16三
都鄰 düli·n (同上) [düli- の同時接合副動詞形] 三14三, 31八, 32六; 十28八
*都里勒都- düli·ldü- (共兼行) [düli- の対動形]
-周 -jü 三33九
*都里里格- dülili·ge- (兼行, 兼行兼行) (夜を) 徹する。
-周 -jü 六50七; 十3三
*都舌児別- dürbe- (忙走, 忙起, 忙着行) 逃げまどう。
-克薛楊 -gsed 四45四
-周 -jü 三15一, 二, 四, 16四; 四38二
-坤 -kün 三15六; 四45五
-舌侖 -rün 三23八
-(舌)侖 -rün 四39十
都舌児別兀侖 dürbe·'ül·u·n (忙走) [dürbe- の使役・同時接合副動詞形] 四37五
都舌里 düri (白身) 普通の, 一般の (子弟, 人々) 〈→dürü〉
-因 -yin 九32四, 十, 33九
都舌魯 dürü (同上) 同上。〈→düri〉
-因 -yin 七19二
*都舌魯- dürü- (入, 投) 入れる。
-周 -jü 二13十; 九11四
*都兀舌児- dü'ür- (満) 満ちる。
-抽 -čü 八41九
*都兀舌児格- dü'ür·ge- (教満) [dü'ür- の他動詞使役形]
-周 -jü 九37七; 九38五
-速 -sü 三45八, 九
-禿該 -tügei 九36四
都兀舌児堅 dü'ür·ge·n (同上) [dü'ür·ge- の同時接合副動詞形] 九31十
都兀舌連 dü'üre·n (満) いっぱいに, 満ちた。八21三; 十31八, 32五
都兀舌良 dü'üre·ng (満) いっぱいに。四25八², 39三
都兀申 dü'üšin (黄昏) たそがれ。二32八

## g

*格- gē-（撇，棄，委，弃）すてる。
-罷 -ba[→-be] 六49九； 七8一
-惕坤 -dkün 四22五，十，23三； 五26六； 八22八
-惕冲[→坤] -dkün 八9十
-額惕 -'ĕd 六1四
-(克)薛泥 -gsen-i 四17一
-周 -ǰü 一7八； 二3二，六，4九，5六； 三44一，四； 六26二，45一； 七6七，7六； 十2六
-木 -mü 十21二，四
-速 -sü 六35五[2]
*格卜帖- gebte-（臥）横たわる。〈→kebte-，→kebḍe-〉
-額速 -'ēsü 八20四
-周 -ǰü 九47七
-木 -mü 六46二； 十40一
格卜田 gebte·n（同上）[gebte- の同時接合副動詞形] 四41九； 十24四
*格赤乞列- gečikile-（践踏）踏みつづける。
-中灰[→恢] -quį[→küį] 十30一
*格赤乞兀勒- gečikile·'ŭl-（同上）[gečikile- の使役形]
-主為 -ǰü'ŭį 七9八
*格惕乞- gedki-（踏）踏む。
-罷者 -ba[→-be]~ǰe 八29一
格迭児古 gedergü（仰）仰向けに。二17九
格迭舌児古 gedergü（偃仰）同上。五2七
格格 gegē（明裏）光
-額児 -'ēr 一13一
格格延 gegeyē·n（明，白，明白）光； 明るい。一13二； 二7八，8一，20四； 六11九； 七11五； 八18八； 九3四，23八； 十27二
格堅 gegē·n（明）明るい。四40九
格只格 geǰige（後援，援）後援，しんがり； 辨髪。六4一，二，三，四，5七，八，九； 十37三，四； 十15七，16四，17七，27四，28二
格格只格列兀里 geǰige·le·'ŭl·i（後援行）[geǰige·le·'ŭl '殿をつとめる人' の対格] 十43七
格勒不列 gelbüre（弱）弱小の。二17五，六
格鄰 geli·n（趕）家畜を鞭で打って走らせる，追う。[geli- の同時接合副動詞形] 二11十

*格木舌里兀魯- gemüri·'ŭl·ü-（教怨）うらむ，うらませる。
-額速 -'ēsü 土25四
格木舌里兀侖 gemüri·'ŭl·ü·n（教怨）[gemür'·ŭl·(ü)- の同時接合副動詞形] 十3十
格揑惕 gened（不意）不意の（に），突然。六2十，48三，50六；十20一；土3三
*格揑惕格- genedge-（使不意）不意をつく。
-周 -jŭ 土3二
格揑帖 genete（忽然）突然，不意。二34八
格年 genen（不想）油断せる。三1四
格訥額舌児 genü'ēr（怨悔）うらみ。土25五
格児 ger（家，房，房子）モンゴル包。一10一，11二，15十，26三；二22四，42八，45三，四，50六，九
-都舌里顔 -dür-iyēn 一17九，38四；二29六
-禿児 -tür 二7十
-禿舌里顔 -tür-iyēn 一22一，五，34七，45九，48四；二4四，45二
-圖児 -tür 一45八；二11二，21九，23一，24七，34三，45一，三
格舌児 ger（房子，家，室）同上。三24五，38二，43三，46四，五，47八；四24七；六28二；七16七，20八；八27十；十1二，八，十，4七，5七，7七，9七；土39十，40三
-突舌児 -dür 五48十；九13七
-都舌里顔 -dür-iyān[→iyēn] 五48一
-帖 -te 九12九
-帖徹 -teče 五19七，47二；七23十；十16五；土35五
-田 -ten 土7六
-禿 -tü 土4八，5九
-禿舌里顔 -tür-iyān[→iyēn] 三3九
-途舌児 -tür 八33七，35四
-圖舌児 -tür 三20四；五15九，16三，19九，46三；十5六；土33八，38六
格(舌)児 ger（家，室，帳房）同上。四24十；十1五，5十
-圖舌里顔 -tür-iyān[→iyēn] 二35七
-額 -'ē 十24二
格舌侖 ger·ün（房的，房子的，家的）[ger の属格形] 一13一；二22九，27八；五50四；九48一；十4六，9九，43二；土33八，37八，38四
格(舌)侖 ger·ün（家的）[同上] 九14三
格児該 gergeri（妻）妻；婦女。一1四，二37四，39九
-禿 -tü 一2五，六
格舌児該 gergei（同上）同上。九13七，16一
格舌児堅 gergen（人口）[gergei の複数形] 三46五
格児連 gerle·n（做）[gerle-「包(ゲル)をつくる」の同時接合副動詞形] 二50六，九

格(舌)児魯格 gerlüge (帳房下椿) モンゴル包の床の下に置く土台物。三38七
*格舌列勒- gerel- (恐) 注意する，気をつける。
-周 -jü 十40七
*格舌列勒都- gereldü- (相闘) 争う，喧嘩する。〈→kereldü-〉
-克先 -gsen 七38四
格舌列 gere (光) 光。
-台 -taị[→-teị] 一46二
-田 -ten 七11五
-禿 -tü 一43二; 二18十; 五3十
格舌列勒 gerel (同上) 同上。二42五
格舌里額思 geri'ēs (遣念) 遣言。十3九，24三
格舌里思格 gerisge (遮風) 柵，囲いの一種。三47八
格舌里思格列勒敦 gerisge·le·ldü·n (共遮護) [gerisgele- '囲いをする' の対勤形の同時接合副動詞形] 三47八
格舌里耶昔顔 geriyēs·iyēn (遣念自的行) [geriyēs 〈→geri'ēs〉 の再帰格形] 八47八
格舌魯 gerü (背後，陰，背陰) 山の北斜面。
-別舌児 -bēr 三25一
-荅察 -dača[-deče] 一17六
-迭 -de 五40四; 六1六
-額舌児 -'ēr 六1四
*格思格- gesge- (消) 消す; 化す。
-額速 -'ēsü 十25五
格失兀惕 geši'ŭd (枝毎) 枝々。四10五 [geši'ŭ(n) の複数形]
格兀 ge'ŭ (課馬，騍馬) 牝馬。二29一
-邊 -bēn 八35五
格温 ge'ŭ·n (騍馬) 同上。四31三
格兀惕 ge'ŭ·d (騍馬毎) [ge'ŭ(n) の複数形] 十47九，53五，54一
格兀的顔 ge'ŭ·d·iyān[→iyēn] (騍馬自的行) [ge'ŭd の再帰格形] 四40一
*格耶克- geyeg- (驚駭) 驚く，驚きおびえる。
-抽 -čü 十29二
*格亦- geyi- (明) 明るくなる。
-罷 -ba[→-be] 四40八
-額速 -'ēsü 三33六
-周 -jü 四40九
格因 geyi·n (明，将明) [geyi- の同時接合副動詞形] 二42三，44八; 四45一
格亦兀禽 geyi·'ŭl·ü·n (明，教明) [geyi- 使役・同時接合副動詞形] 五31七; 六11二
*格亦思格- geyis·ge- [→keyis·ge-] (腐) 吹きとばす。〈→keyisge-〉
-坤 -kün 四48一

格亦㗊 geyid（家，家毎）本陣。
-禿舌里顔 -tür-iyān[→iyēn] 二49二，九
格亦(㗊) geyid（家毎）同上。
-禿舌里顔 -tür-iyān[→iyēn] 四16四
鈎吉 geügi（鈎）釣針類。二7一，二，八，8一
*鈎吉列- geügi·le-（鈎）釣針でかける。
-周 -ǰü 二7二，三
堅都 gendü（雄）（動物に関して）雄の。九3九
吉只 giǰi（邊）境，縁，辺境。
-阿(舌)児 -'ār 土18八
吉真 giǰin（沿）～に沿って。土18五，九
斤察思 g̱inčas（回顧）横目で。四27七
斤只 ginǰi（鉄索）鉄鎖。
-邊 -bēn 七34三
*斤只列- ginǰi·le-（鉄索）鎖でつなぐ。
-周 -ǰü 七33七
*歹多㗊- g̱ödöl-［→ködöl-］（動）動く。
-罷 -ba[→-be] 二3五；五28三；六1五，15一
-罷古 -ba~gü［→-be~kü］三32八
-罷者 -ba~ǰe［→-be~ǰe］六29三
-周 -ǰü 二44七；三11七，13六，32六，41十；五5四，14五，31九；六1七，10三，29五，46五；七18二，27三，31四，43六，八；土38二，42十，43一；土9五，六
-主為 -ǰü'ǖ̱ 四45四；五30一，33二；八3七
-主為者 -ǰü'ǖ̱~ǰe 六30四
-恢 -küi̱ 二42六
-坤 -kün 七43二
*歹多魯- g̱ödöl·ü-（同上）同上。
-額㗊 -'ēd 六15二
-克薛額舌児 -gse'ēr 三31七；六1八
-克薛耶舌児 -gseyēr 五31十
-舌侖 -rün 六1五，15一，18四；八3三
-牙 -yā［→-yē］三31八
-耶㗊 -yēd 三41五
*歹[多]㗊- g̱ödöl-（動）同上。
-周 -ǰü 五31十
*歹多㗊迭- g̱ödöl·de-（被動，動）［g̱ödöl- の受動形］
-額速 -'ēsü 六14十

-周 -ǰü 六29四

*歌多勒格- gödöl·ge-（推動，教動）[gödöl- の使役形]

-罷 -ba [→-be] 五18一; 土13一

-周 -ǰü 五1四; 六9 ; 七45四; 土1七, 2三, 13三, 14八

-恢突舌児 -küi-dür 四21八

歌多勒堅 gödöl·ge·n（教動）[gödöl·ge- の同時接合副動詞形] 四27三

*歌多勒格克迭- gödöl·ge·gde-（被推動）[gödöl·ge- の受動形]

-周 -ǰü 四4七

*歌多魯勒扯- gödöl·ü·lče-（共動）[gödöl(ü)- の相動形]

-周 -ǰü 五30五

戈勒篾 gölme（鞍韉）鞍の下敷（皮製，フェルト製，布製）。三5七

戈勒迷 gölmi（旋網）（主に魚を捕る）網。八7五

戈舌劣額 görö'ē（野物）獣（狩の対象になる動物であるが猛獣類は含まれない）。〈→görөyēn〉

-台 -taị[→-teị] 一6二

*戈舌劣額列- görö'ē·le-（捕獣）狩をする；獣を捕える。

-舌列 -re 一8三

戈舌劣額速 görö'ē·sü（獣）狩の対象となる獣（猛獣は除く）。六36九，十

戈舌劣額孫 görö'ē·sü·n（野物，獣，野獣）同上。一6三，16七; 三43五; 六36八; 七3三; 八8二

-突舌児 -dür 六36七; 八8四

-突(舌)児 -dür 九25九

戈舌劣額孫 görö'ēsün（走獣）同上。

-突舌児 -dür 六19一

戈舌劣額速捏徹 görö'ē·sün·eče（野獣行）[görö'ēsün の奪格形] 土48七

戈舌劣額速泥 gör'öē·sün·i（野獣行）[görö'ēsün の対格形] 土57五

戈舌劣額速訥 görö'ē·sün·ü（野物的，野獣的）[görö'ēsün の属格形] 一9五; 三43六，八

戈舌劣格孫 görögē·sün（獣）同上。

-突舌児 -dür 五37三

戈(舌)劣兀魯臣 görö'ǔl·ü·čin（捕野獣的毎）狩人。三14二

*果舌矚- görü-（窺伺）うかがい見る。

-舌列 -re 五26四

歌舌魯列勒敦 görüle·ldü·n（相攻）['敵対する' の対動形]。土24四

戈舌魯兀黎 görü'ūli（可捕）獣，狩の対象の動物。一6四

戈舌魯延 görüyē·n（野物）〈→görö'ē〉三25三

哥兀児 gö'ǔr（小皮桶）皮袋。二25八

管只列 gönǰile [→könǰile]（被子）掛布，掛物。〈→könǰile〉

-迭延 -deyēn 八17三

古 gu [→kü] (也，只) [前接の語を強める小辞] 二39九，41八，43三，四；三12二，15三，28四；四1十，40四，六，47四；五13三，26三，37三；六41一，二²，四；七9十²，18五，21五，23六，48五；八24七，九24六，33十，36一，39九，43十，44一，47六，48九；十4九，36六；士31五；士16九，17三，24三，33七，八，57八

古卜赤泥 gübčin·i[→kübčin·i] (全行) [kübčin の対格形] 一8九

古卜臣 gübčin[→kübčin] (全) 完全な，全くの。二20四；七36五，38一

*(中)古必牙勒都- qubiya·ldu- (分) [→中忽必牙勒都-]

-牙 -ya 二33六

古出 güčü[→küčü] (気力，力) 力。三22八，49四；五6三，六，7四；六51十，52五，七；八9八，28三，五，44七；九28三，31六，33二；十12九，30六，39四；士8三，九²，29十，35六，45三；士11四，士47二

-額舌児 -'ēr 士18四

-帖泥 -ten-i 四25九

-帖耶 -teye [→-tej-e] 士4五；士17九

-禿 -tü 七28六

-禿宜 -tü-yi 士28八

-禿因 -tü-yin 九1二

古出捏 güčü·n·e[→küčün·e] (気力行) [küčü(n) の与位格形] 士6五；士7九

古純 güčü·n[→küčün] (気力) 力。〈→küčü〉 士29二

-突(舌)児 -dür 九31五

-突舌児 -dür 士28五

古出舌児格古泥 güčü·rgeg·ün·i[→küčürkeg·ün-i](気力逞) 力強い。[küčürkeg の複数形] 三46七

古主兀 güǰü'ŭ[→küǰü'ŭ] (頸項) 頸，首。士27一

古主兀捏徹 güǰü'ŭ·n·eče (頸項行，項頸行) [güǰü'ŭ(n) の奪格形] 九11五；士26八

古主温 güǰü'ŭ·n[→küǰü'ŭn] (頸項) [=küǰü'ŭ] 九1三

-都里顔 -dür-iyān[→iyēn] 二51三

古主渾[→温] güǰühŭ·n [→küǰü'ŭn] (同上) [同上]

-迭乞 -de-ki 四47五

古主兀惕 güǰü'ŭ·d (項頸毎) [küǰü'ŭ(n) の複数形] 三46八

古里扯 güliče[→küliče] (等) [küliče- の命令形] 一19九

*古里扯- güliče-[→küliče-] (等，等候) 待つ。

-周 -jü 三30五；四13七，19六；士51十

*古里徹- güliče-[→küliče-] (等) 同上。

-罷 -ba[→-be] 二10四

古里纏 güliče·n (等候) [küliče- の同時接合副動詞形] 士43二

古訥 gün·ü (深的) [kün の属格形] 五41七
古捏速 güne·sü[→künesü] (行粮) 食糧，糧食。
-邊 -bēn 八7九
古捏速捏 güne·sü·n·e (粮行，行粮行) [künesü(n) の与位格形] 六18九; 八8五
古捏孫 güne·sü·n[→künesün] (行粮) 〈→günesü〉 八8一
古捏速列惕 güne·sü·le·d[→künesü-le·d] (做行粮) [künesüle- '食糧をつくる' に動詞語尾 -d のついた形] 七34二
古舌児 gür[→kür] (普) 普き，全体の。四31六; 八29十，30二，七，十², 40一; 九31六; 十24三
古舌里耶舌児 gür[→kür]·iyēr (普教) [kür の造格形] 十14一
古舌児 gür[→kür] (到) [kür- の命令形] 四49十; 九1六
*古児- gür-[→kür-] (到) 到る。
-罷 -ba[→be] 一23四; 二30三，33四，34七，35七
-畢 -bi 二6三
-抽 -čü 一15十，22一，36二; 二23一，26五，39七，44九，46七
-周 -jü 一20四
-恢 -küi 一35六; 六49二
-恢突児 -küi-dür 二9八，24九
-魯額 -lü'ē 一35一
-帖列 -tele 二2十，24七
*古舌児- gür- [→kür-] (同上) 同上。
-罷 -ba[→-be] 四20七; 五18六; 六2四，五，47二; 十43十; 十42二
-罷者 -ba~je[→-be~je] 七3八; 八44五
-別者 -be~je 八19四
-別速 -bēsü 三11七
-抽 -čü 二1九; 三3九，13六; 四3二，三，32三，33十，46七; 五28三，29八，34四，50四; 六1九，11十，12一，13五，九，31一，48一，50九; 七23三，31七，八; 八2八，43八; 九15一，九，27四; 十18一; 十1六，十，2十，3二，三，8七，13三，39八; 十5七
-抽[→抽] -čü 十29三
-出為 -čü'üi 三11八; 七32十
-古宜 -gü-yi [→-kü-yi] 三14二
-古因 -gü-yin[→-kü-yin] 十30八; 十12九
-周 -jü 六8五
-恢魯額 -küi-lü'ē 五47二
-中灰[→恢]突舌児 -qui[→küi]-dür 五3四
-中灰[→恢]宜 -qui[→küi]-yi 七32十
-帖列 -tele 三21六; 五1四; 六52七，53三; 七3一，27四，33三; 八13十，19

三，20六，31三，34二，六，40一，42一，47二；九21一，22六，24七；十2五，7一，25十，38七，39二，46八，49十，九，52二，三；十12五，16一，24八

-禿該 -tügai[→-tügei] 三30二，三，八，九

*古(舌)児- gür-[→kür-] (同上) 同上。

-罷 -ba[→-be] 十4五

-恢魯額 -küi-lü'ē 六48七

-中灰[→恢]因 -qui[→küi]-yin 五34二

*古舌魯- gür·ü- [→kür·ü-] (同上) 同上。

-額惕 -'ēd 一22五，48四；四37五，九

-額速 -'ēsü 一4九；五5五，七；十14九，28九；十8二，12八

-克先 -gsen 七28二

*古(舌)魯- gür·ü- (同上) 同上。

-額速 -ē'sü 七22八；八36二

古舌倫 gür·ü·n[→kür·ü·n] (到，到着) [kür(·ü)- の同時接合副動詞形] 三2四；四1九；五18六，23九；十9十；十3八

古舌児格 gür·ge[→kürge] (教到) [kür·ge- の命令形] 四20七

*古舌児格- gür·ge-[→kür·ge-] (送到，教到，到，送) 到らせる，とゞける，送る。[gür- の使役形]

-罷 -ba[→-be] 三10一；七46十；八38二；十16，十

-罷者 -ba~je[→-be~je] 六28四，五

-額速 -'ēsü 七31八；十43八；十5二，46一

-克薛惕 -gsed 八13九

-克薛的 -gsed-i 七3九

-克薛訥 -gsen-ü 七3六；十43五

-克先 -gsen 八13七

-古 -gü[→kü] 八13二；九15三，十

-周 -jü 三22九；四31十，32二；九17一，43九；十6七，26十

-舌列 -re 五48七

*古(舌)児格- gür·ge- (教到) [同上]

-克先 gsen 十1四

古舌児堅 gür·ge·n (送到，教到，到，送) [kür·ge- の同時接合副動詞形] 三14三；四4三，20九，34二；五48三，49八；七4四，15三

古(舌)児堅 gür·ge·n (送) [同上] 四12七

*古舌児格克迭- gür·ge·gde-[→kür·ge·gde-] (被到) [kür·ge- の受動形]

-額速 -'ēsü 八41三

古舌児格勒敦 gür·ge·ldü·n[→kür·ge·ldü·n] (共到的) [kür·ge- の対動・同時接合副動詞形] 七4五

*古舌児格兀勒- gür·ge·'ül- [→kür·ge·'ül-] (教到) [gür·ge- の使役形]

-罷 -ba[→-be] 十55七
-周 -ǰü 十27三
*古児格兀魯- gür·ge·'ŭl·ü-[→kür·ge·'ŭl·ü] (同上) [同上]
-額楊 -'ĕd 二38三
*古舌児格兀魯- gür·ge·'ŭl·ü-[→kür·ge·'ŭl·ü] (到, 教到, 被到) [同上]
-額楊 -'ĕd 三10一, 14四; 四12八; 七26四, 31九; 九34三
*古(舌)児格兀魯- gür·ge·'ŭl·ü-[→kür·ge·'ŭl·ü] (到) [同上]
-額楊 -'ĕd 四32二
古舌児格兀侖 gür·ge·'ŭl·ü·n[→kür·ge·'ŭl·(ü)-] (教到時) [kür·ge·'ŭl(·ü)- の同時接合副動詞形] 十37六
古(舌)児格兀侖 gür·ge·'ŭl·ü·n[→kür·ge'ŭl·(ü)-] (教送) [同上] 十9八
*古児帖- gür·te-[→kür·te-] (到, 若到) [gür- の受動形]
-額速 -'ĕsü 二2九
-周 -ǰü 二34八
*古舌児帖- gür·te-[→kür·te-] (将到, 被到) [同上]
-古 -gü [→-kü] 三18六, 19三
-周 -ǰü 七26三; 十29一; 十21三
*古(舌)児帖- gür·te- (教到) [同上]
-罷 -ba [→-be] 四28四
*古舌魯勤扯- gür·ü·lče-[→kür·ü·lče-] (教共到, 相到, 共到, 相接, 到) [kür- の相動形]
-楊坤 -dkün 十30五
-古 -gü[→kü] 七34二
-周 -ǰü 四34四, 35六
-恢 -küi 七28七
-恢突舌児 -küi-dür 十24六
-速 -sü 五41八
-禿該 -tügai [→gei] 八10六
*古(舌)魯勤扯- gür·ü·lče- (相接) [同上]
-周 -üǰ 四35五
古舌魯勤鑼 gür·ü·lče·n[→kür·ü·lče·n] (相到) [kür·ü·lče- の同時接合副動詞形] 七28八
*古舌侖勤徹- gür·ü(n)·lče-[→kür·ü(n)·lče-] (相到) 〈→kür·ü·lče-〉
-周 -ǰü 三12二
古舌児都 gürdü [→kürdü] (輪) 車輪。
-辺 -bēn 六23四
-台 -tai [→-tei] 六23四
古舌児都訥 gürdün·ü[→kürdün·ü] (車脚的) [kürdünの属格形] 七28一

古[→中忽]児敦 gu[→qu]rdun (快) 速い。—35—
古禿児敦 gürdün [→kürdün] (輪) 車輪。六23五
*古禿列- güre- (請) 請う。
-周 -jü 二2八
古(禿)列額惕 güre'ē·d [→küre'ē·d] (圈子每) [küre'ēn (=küreyēn) の複数形] 四4四
*古禿列額列- güre'ē·le- [→küre'ē·le-] (下営, 札営, 割圈子) 圈営をしく。
-克薛惕 -gsed 四45二, 三
-周 -jü 四38三
-主兀 -jü'ü 七43七
古禿列額訥 güre'ēn·ü [→küre'ēn·ü] (圈子的) [küre'ēn(=küreyēn) の属格形] 八36二
古禿列干 güregen [→küregen] (女壻) 壻。五22九, 25九
-魯額 -lü'ē- 五23六
古禿列格 gürege [→kürege] (風匣) [→kü'ürge] ふいご。
-辺 -bēn 九5七
古禿列格惕 gürege·d[→kürege·d] (女婿每, 做女婿) [küregenの複数形] 三13九
-魯阿 -lü'ā [→-lü'ē] 八27五
-帖 -te —47三
古禿列格(惕) gürege·d[→küreged] (做女婿) [同上]
-帖 -te 三35八
古(禿)列格(惕) gürege·d[→kürege·d] (同上) [同上]
-帖 -te —47—
古禿列格連 gürege·le·n)[→kürge·le·n] (做女壻) [kürge·le- (壻にする) の同時接合副動詞形] 五22九
*古(禿)列列- gürē·le-[→küre'ē·le-] (下営) 〈→küre'ē·le-〉
-克先 -gsen 四39九
古禿列延 güreyēn[→küreyēn] (圈子, 営) 圈営; 群団。〈→küre'ēn〉 三36三, 41一, 二, 四, 八, 九, 十; 五12三; 六27七
-突禿児 -dür 八36—
-都禿里顔 -dür-iyān [→-iyēn] 七43七
古禿列筵 güreyēn[→küreyēn] (圈子) 同上。九8四
古禿里額訥 güri'ēn·ü[küri'ēn·ü] (圈子的) [küri'ēn〈→küreyēn〉 の属格形] 二30四
古禿里格惕 gürige·d[→kürige·d] (婿每, 做女婿, 做女壻) 〈→kürege·d〉 三17二, 52三
-帖 -te —46十, 49二
古禿里堅 gürigen[→kürigen] (女婿, 女壻婿) 〈→küregen〉 三13一, 八, 九
古[→中忽]禿里牙黒荅- gu [→qu] riya·Gda- (収来)。[quriya- の受動形]

-黒三 -Gsan 二4六
古舌里延 güriyĕn [→küriyĕn] (圈子) 〈→küreyĕn〉 二30三
古舌魯 gürü (右) 大きい石。二15七; 四49十, 50一; 九1六
古舌魯額 gürü'ĕ (酒局) 酒入れ。七2八
古舌魯篾列 gürümele (爽利, 苗条) 聡明な, 立派な。二28十; 五25六
*古薛- güse-[→küse-] (思想) 希む, 頼む。
-周 -jü 土24五
古兀 gü'ŭ[→kü'ŭ] (人) 人。二20四; 五17五
-邊 -bēn 四8五
古兀捏 gü'ŭ·n·e (人行, 人処) [kü'ŭnの与位格形] 一43七; 二21二, 23八; 五17七, 22三, 四; 六66²九; 八8五; 九10一, 25四; 土5九, 6五; 圭6二
古兀捏徹 gü'ŭ·n·eče (人行) [kü'ŭnの奪格形] 土21九, 22六
古兀泥 gü'ŭ·n·i (人行) [kü'ŭnの対格形] 五1三, 17十, 25四, 48三; 六25三; 七37十; 八8三, 13八; 九34七, 45五, 47二, 48九²; 十30八; 圭31八, 57三
古兀訥 gü'ŭ·n·ü (人的) [kü'ŭnの属格形] 四17六, 七; 七9九, 19二, 34二, 37七; 八8七; 九32四, 十, 33九; 土13七; 圭11三, 31九, 34三, 39四, 56五
古兀列勒敦 gü'ŭ·le·ldü·n[→kü'ŭ·le·ldü·n] (毎人) 人に渡し合う。一12二
古兀児格 gü'ürge[→kü'ŭrge] (鼓) 大鼓。十4八
古温 gü'ŭ·n[→kü'ŭn] (人) 人。一8三, 9二, 四², 11一, 三, 13一, 18九, 19三, 20三, 22九, 26四, 33三; 二17五, 18五², 20八, 24五, 28十, 32二, 六, 41四, 44十, 47三; 三27六; 四8七, 27五, 34一, 39二, 45七, 十², 46一, 五, 50三, 六; 五1十, 10一, 20七, 25七², 八, 九, 43三; 六11十, 13五七, 24三, 26二, 52三; 七6十, 7十, 15四, 23八, 24七, 29五, 38九, 43六, 45六; 八2六, 13八, 21五, 八; 九15二, 34三, 41十, 42四; 十19五; 土21八; 圭17一, 十, 20二, 38四, 44一, 三, 四
-突舌児 -dür 三20十; 四43七; 八46七; 土36二; 圭34八
-魯額 -lü'ē 九4一, 二, 11五; 土26八
-途児 -ţür 一13六
古温捏 gü'ŭ·n·ne (人行, 被人行) 〈→kü'ŭn·e〉 一4二; 三20九; 四40四
-別児 -bēr 一4十
古温捏徹 gü'ŭ·n·neče (人行, 人処) 〈→kü'ŭn·eče〉 七38九; 土51三
古温泥 gü'ŭ·n·ni (人行) 〈→kü'ŭn·i〉 三21三, 23二, 39八; 六36五
古温訥 gü'ŭ·n·nü (人的) 〈→kü'ŭn·ü〉 一46八; 四45九; 七33六
*古亦扯- güyiče- (趕上) 〈→güiyiče-, kŭiyiče-〉
-古 -gü [→-kü] 八8三
-周 -jü 四20二
*古趣扯- güyiče- (同上) [同上]
-周 -jü 五28九

*癸趨- güǰyi-（走）走る。
-古 -gü [→-kü] 七35三
-周 -ǰü 二5九，17七，46五；三15八，21一；四39九，41九；六12四；九13三，九14七，15一，六
*癸趨扯- güǰyiče-（趕上）追いつく。〈→güyiče-，küǰyiče-〉
-周 -ǰü 五2四，五；六48九；九13十，15六；十11七，十
癸趨扯克迭- güǰyiče·gde-（被趕上）[güǰyičeの受動形]
-(舌)侖 -rün 七43七
昆 gün（深）深い，深さ。土34十
昆訥 gün·nü（深的）[günの属格形] 八10六 〈→古訥〉
公主 güngǰü（ナシ）王女。土6四

# h

哈赤 hači (讐, 讎, 讎報, 返報, 恩, 還報, 回報) 恩; 讎。—33八; 二7四, 9十, 12五, 48十; 五34十; 六25七, 八; 九11九

-班 -bān 九11八

-禿 -tu 三22九

-顏 -yān 二49一; 三4四, 5六

《中》合赤 hači (還報) 恩; あだ。九17二

*哈赤剌- hači·la- (報) 讎をとる; 恩に報いる。

-(中)渾 -qun 三4四

哈赤《舌》闌 hači·n (報) [hači·la-の同時接合副動詞形] 三17八

哈揭(中)渾 hadqu·n (握) [hadqu- '握る, 摑む' の同時接合副動詞形] 二11四

《中》合揭渾 hadqu·n (握着) [hadqu- の同時接合副動詞形] 一40九

*哈黑- haG- (乾) かわき固まる。

-抽 -ču 四39五

*哈黑荅- haG·da- (被凝) [haG- 'かわき固まる' の受動形]

-舌侖 -run 六13十

哈剌中合訥 halaGan·u (手掌的) [halaGan '手のひら' の属格形] 四49七

*哈里[→黑]- haG- (乾) かわき固まる。

-抽 -ču 四43四

*哈中忽- haq·u- (凝定) かわき固まる。

-黑三 -Gsan 九16六

哈舌児巴敦 harba·d·un (十的, 十毎的) [harbanの複数・属格形] 九32九, 33九, 34二, 36一, 45二; 十17一, 46五

《中》合舌児巴敦 harba·d·un (十的) [同上] 九30十, 十52四

《中》合舌児巴闌 harba·la·n (十做了) [harba·la- '十にする' の同時接合副動詞形] 七18九

《中》合舌児巴訥 harban·u (十的) [harbanの属格形] 七18五

哈児班 harban (十, 十箇, 十歳) 十。—33四, 八; 二17二

-台 -taị 一46五

《中》合児班 harban (十) 同上。一40一

哈舌児班 harban (十, 十箇) 同上。三29八; 四3九, 4四, 18四; 五13九, 46二; 九32六, 33三; 十19六; 十49七; 十32一

《中》合(舌)児班 harban (十) 同上。三26二, 七38三

《中》合舌児班 harban (十) 同上。七18九, 22五; 十29二

(口)合舌児 har (紋) 模様; 縞。

-台 -taị 十15五

《中》合舌児巴敦 harba·d·u（紋）同上。
-台 -taị 亡16五
-禿 -tu 亡26一
哈舌剌 hara（人）人，人々。〈→haran〉十43一
哈舌剌納 hara·n·a（人行）［haranの与位格形］五32二
哈舌剌泥 hara·n·i（人行，人毎行）［haranの対格形］二17六；四18四；五6一，7七；八13九，14二；九34十，48七，八；亡38二，39三
《中》合舌剌泥 hara·n·i（人行）［同上］一35五，九47九
(ロ)合舌剌泥 hara·n·i（人行）［同上］七38三
哈舌剌訥 hara·n·u（人的）［haranの属格形］四18四；七34一
《中》合舌剌訥 hara·n·u（人的）［haran の属格形］亡34四
哈舌闌 hara·n（人，人口，人毎，家人）人，人々；隷民。〈→hara〉一23四；二32一，八，44九；四47三；五5九，十，16三，25三，26一，46二，48五，七2九，33四；八31五；九26二，28五，34四，五，六，47十；十18一，37四；亡37十，42七
《中》合舌闌 hara·n（人）同上。三17六
哈(舌)闌 haran（人）同上。五46六
*哈撒黒- hasaG-（問）尋ねる。
-罷 -ba 二44十
*哈撒(黒)- hasaG-（問）同上。
-罷 -ba 一22九
哈兀惕- ha'ūd-（磨尽）融ける，磨滅する。
-塔剌 -tala 一33八
*哈兀(惕)- ha'ūd-（尽絶）同上。
-塔剌 -tala 亡32一
*哈兀勒- ha'ūl-（奔，破，走）疾走する；略奪する；攻撃する。
-周 -ǰu 一22八；三43二；四34一；五13八；亡37十
-中灰 -quị 亡55四
-中渾 -qun 亡49一
《中》合兀勒- ha'ūl-（擄）仝上。
-周 -ǰu 亡40三
哈兀兪 ha'ūl·u·n（走馬）八8十［ha'ūl-の同時接合副動詞形］
《中》合兀勒荅- ha'ūl·da-（被擄，被剝）［ha'ūl- の受動形］
-阿 -'ā 亡38二
-恢［→中灰］阿察 -küị(→quị)·ača 八17六
*哈兀勒中合- ha'ūl·Ga-（教奔，教走馬，教奔去）［ha'ūl-の他動・使役形］
-阿速 -'āsu 亡49五
-罷 -ba 一22六

-楊中渾 -dqun 八8四
-梅 -muį 士49一
*哈兀勒中合黒荅- ha'ūl·ga·gda-（教奔）[ha'ūl·qa-の受動形]
-阿速 -'āsu 六36四
*哈兀魯- ha'ūl·u-（奔，勦捕，征，尽擄）〈→ha'ūl-〉
-阿速 -'āsu 七3二
-楊中渾 -dqun 士18八
-舌倫 -run 五37二；士48十
-牙 -yā 一21九，22二；五37三
《中》合兀魯中合 ha'ūlugа（道路）道。一38三；二6七；六45十
*哈溫(勒)- ha'ū(n)l-（走馬）〈→ha'ul-〉
-周 -ǰu 二35二
*含帖勒- ham[→hem]tel-（教闕）こわす，砕く。
-罷 -ba[→-be]三23一
*含帖舌列- ham[→-hem]tere-（半）砕ける。
-別 -be 三5三
*含屯勒迭- ham[→hem]tü(n)lde-（被去一半）砕かれる。
-額 -'ē 三4三
*杭中合- hangga-（枯渇，渇）喉が渇く。
-周 -ǰu 四43六；七5五
*杭(中)合 hangga-（枯渇）同上。
-黒三 -gsan 四42九
*好兀勒- haų'ūl-（勦捕）掠奪する，殲滅する。〈→ha'ūl-〉
-周 -ǰu 九25八
*好兀魯- haų'ūl·u-（毀，毀滅）同上。〈→ha'ūl·u-〉
-牙 -yā 三6六，八
*好溫勒- haų'ū(n)l-（奔）同上。〈→ha'ū(n)l-〉
-周 -ǰu 一34七
赫乞 heki（頭項）頭。〈→eki〉二17七
赫里格 helige（肝）肝臓；下腹部。三5四，23一；五13一，15一
-別舌里顔 -ber·iyān(→iyēn) 四3二
-突舌児 -dür 四25七
-禿 -tü 七39六
-図 -tü 士30五
赫里格(ト)赤禿 helige·bči·tü（兜肚(カブト)有的）胴当て（腹巻き）をつけた。四17四
赫里格訥 helige·n·ü（肝的）[helige(n) の属格形] 三4三
*赫児吉- hergi-（旋）巡る，回る。
-周 -ǰū 二44九

赫舌列該 heregeĮ（大拇指）親指。
-突舌児 -dür 四25五
-顔 -yān[→-yēn] 十23二
*赫舌魯- herü-（愁）心配する。
-周 -jǔ 二35八，37一；八43三
赫舌魯巴舌魯 herü baru（尚昏時）朝方のまだ薄暗い頃。
-荅 -da 二44八
*赫兀失耶- he'ŭšiyē-（不宜）悪しとする，よしとしない。
-周 -jǔ 十5七
*赫亦魯- heyil·ü-（離）離れる。
-額速 -'ēsü 四22四
-克薛惕 -gsed 五5四
*希扯- hiče-（羞）恥じる。
-罷 -ba[→-be] 十31二
-舌列 -re 十44六
希纏 hiče·n（羞）[hiče-の同時接合副動詞形] 十31二
*蝳魯阿禿- hilu'ātu-（被蠅蜇咬）ぶよに刺されて苦しむ。
-周 -ju 七5十
*喜(舌)魯中合惕- hiruGad-（惹）争う，闘う。
-罷 -ba 六16三
-中忽由 quyu[→-quĮ-u] 六16三
希舌児篾思 hirmes（瞬眼）まばたきする間，一瞬。十2一
喜舌児篾思 hirmes（轉眄）同上。十25七
喜舌児篾思 hirmes（転）同上。七26九
希舌剌兀舌剌 hira'ūr·a（底行）[hira'ūr '底' の与位格形] 五41八
*希舌離徹- hiriče-（分離）離れる。〈→hiriǰe-〉
-罷 -ba[→-be] 六33九
*希舌里扯兀勒- hiriče·'ŭl-（分離）[hiriče-の使役形]
-周 -jǔ 三44三
*希舌離者- hiriǰe-（分離）[→hiriče-]
-古由 güyü[→-küĮ-ü] 六33六
喜舌魯阿舌剌 hiru'ār·a（底行）[→hira'ūr·a] 八10六
希舌魯額舌児 hirü'ēr（祝寿）祝詞。八20六
*豁阿舌剌- ho'āra-（脱）怠る，ぬける。
-阿速 -'āsu 九42一，三，五，43二；十44一，三，五，九，45三
-黒三 -Gsan 九42一
豁惕 ho·d（星毎）[hodu·nの複数形] 六46一
豁都 ho·du（星）星。

-台 -taị 十1四; 十24一
火敦 hodu·n (星) 同上。
-納察 -n·ača 七24十, 25三, 26六
豁黑脫臣 hoGtoči·n (断着) [hoGtoči- '切断する' の同時接合副動詞形] 十19九
豁黑脫勒 hoGtol (割) [hoGtol-の命令形] 四22三
*豁黑脫勒- hoGtol- (断, 割断) 斬る, 切る。
-周 -ǰu 四5一; 七9四; 八3一; 十23二
*《中》豁黑脫勒- hoGtol- (割断) 同上。
-周 -ǰu 六12七; 七9十
豁黑脫舌児中忽 hoGtorGu (空) 空。三4一
豁(黑)脫舌児中忽 hoGtorGu (空) 同上。三5二
豁黑脫舌児中灰 hoGtorGuị (空, 虚) 同上。三22十, 23一; 十19三
*豁黑脫舌里- hoGtori- (割断) 切り断つ。
-阿惕 -'ād 二16三
豁黑脫舌里中罕 hoGtori·Ga·n (横断) [hoGtori-の使役・同時接合副動詞形] 六49一
豁黑脫舌魯 hoGtoru (横断) 横切って。四49九
豁只塔剌 hǒǰi·tala (衣短) (衣服の丈が) 短かくなるまで。〈→ho'ǒǰitala〉二5八
豁訥 ho·n·u (年約) [honの属格形] 三29六
豁斡只塔剌 ho'ǒǰi·tala (短) 短かくなるまで。〈→hǒǰitala〉十26三
訶斡甲[→申] hǒ'ǒšin (網索) あみ。十8八
*豁舌児赤- horči- (転) 周る, 繞る。
-周 -ǰu 十24一
*《中》豁舌児赤- horči- (繞) 同上。
-周 -ǰu 三38二
火舌児臣 horči·n (周囲) [horči- '周る, 囲む' の同時接合副動詞形] 九47七
豁児臣 horči·n (周囲, 囲) [同上] 一39五; 二14五, 16二
豁舌児臣 horči·n (周囲) [同上] 七20九, 21六, 35二; 十1五, 八, 2一, 9九, 40九; 十42五
《中》豁舌児臣 horči·n (周囲) [同上] 四40十, 41一; 十37八
豁舌児吉勒 horgil (頂) 頂上。七39十
*豁舌児中忽- horGu- (逃) 逃げる。
-周 -ǰu 五14二
豁舌来塔剌 horaị·tala (緊) しっかりと。十26三
豁舌林 horim (径) 小道。〈→horum〉二50五, 九
*豁舌林剌- horim·la- (径依) 小道を行く。
-周 -ǰu 二50五, 九
豁舌魯木 horum (径, 逕) 〈→horim〉十18四, 19二
豁舌魯米牙舌児 horum·iyar (径路依着) [horumの造格形] 十18三

*豁亦馬思- hoyimas-（護）かばう，護る。
-抽 -ču 四8五
槐 hoi（林）林，森。一8三，37八；二48四；三6一；四36八
-突舌児 -dur 十18三
-圖児 -tur 二13七，14二，46五
-因 -yin 八26，41九，42十，14一，三；十15二，五，六，16七，21六
*槐剌- hoi·la-（入林，林裏）林・森に入る。
-周 -ju 五1十，23六
桓 ho·n（年）年。一16十；三29五；五14五；六26四；九20三；十43四，52七；十47五，53三
-突舌児 -dur 八34四；十27三，47五，52五，53三
*桓叱都- hončidu-（怪責）せめる，しかる；処罰する。
-惕(中)渾 -dqun 九43五
桓赤壇 honči·tan（能発箭的）遠射の巧みな。四25八
桓惕 ho(n)d（年）[honの複数形] 十51九
*桓禿察- hontuča-（遠箭射，賽遠射）遠射する。
-周 -ju 十30八；十23一
*訶額- hö'ē-（爛）腐らせる，汚す。
-周 jü 四49八
訶舌列捏 hörе·ne（西）西。〈→höröne〉一19五
訶舌列捏只 hörе·ne·ji（西辺）西の方。六18六；九13一
訶舌羅捏 hörö·ne（西）〈→hörene〉十47四
-扯 -če [奪格形] 二26六
(中)忽必思 hubis（但動）[副詞的動態言] ちょっと動くさま，微動するさま。十2四
*忽荅舌魯- hudaru-（解析）やぶる，違反する。
-阿速 -'āsu 十44五，六
*訐迭- hüde-（送）見送る。
-周 -jü 一33一；二37五
-恢邊 -kü̱i-bēn 一33六
*忽迭- hüde-（送）同上。
-周 -jü 十7一
忽迭速 hüdēsü（皮）皮条。
-禿 -tü 三8五
*(中)忽克迭舌列- hügdere-（重発）病が重くなる。
-周 -jü 六19一
忽札兀児 huja'ūr（根源）根元，根源。一1二
忽札兀舌児 huja'ūr（根源，根脚）同上。四17六；六49三；八20七；九33四
-禿 -tu 九6四

忽札兀舌剌 huǰa'ūr·a (根源行, 根行) [huǰa'ūrの与位格形] 六19八; 八2七, 34三
忽札兀舌剌察 huǰa'ūr·ača (根源行) [huǰa'ūrの奪格形] 九33一
忽客赤泥 hüke·či·n·i (放牛的行) [hüke·čin '牛飼い' の対格形] 十4四, 9十
忽客児 hüker (牛) 牛。二44七
忽客舌児 hüker (牛, 牛児) 同上。三38七; 六23二; 八2三, 6二, 10八; 九14四; 十54二
忽客舌列 hüker·e (牛行) [hükerの与位格形] 十31六, 33六
忽客舌里顔 hüker·iyān[→iyēn] (牛自的行) [hükerの再帰格形] 二46三
忽客舌畜 hüker·ün (牛的) [hükerの属格形] 三8三
*忽勒迭- hülde- (趕, 追, 逐) 追いかける, 追いだす。
-額惕 -'ēd 五28九; 六2四; 七24二, 32二, 十
-周 -ǰü 二14三, 30九; 五10三, 27四, 28五; 六28一; 七32十, 33三, 四², 八36三; 十39二
*《中》忽勒迭- hülde- (趕) 同上。
-罷者 -ba[→-be]-ǰe 六40二
-周 -ǰü 一36十; 六28六; 七33八, 35六
*《中》忽勒荅[→迭]- hülde- (趕) 同上。
-額惕 -'ēd 七32八
*忽(勒)迭- hülde- (趕) 同上。
-周 -ǰü 二29三, 30六; 六25三
*忽勒迭克迭- hülde·gde- (被追) [hülde-の受動形]
-周 -ǰü 五28七
*忽勒迭勒都- hülde·ldü- (相逐) [hülde-の対動形]
-周 -ǰü 七22六
忽勒中渾 hulqun (小独山) 小山。二9六
忽剌安 hula'ān (紅) 赤い。二17三; 三29八; 四45七; 七22六; 八17九
忽剌阿荅- hula'ā·da- (紅) 赤くなる。
-周 -ǰu 九14六, 16十
忽剌畜 hula·lu·n (紅) [hulal- '赤くなる' の同時接合副動詞形] 八33十
*忽列迭- hüle·de- (留) とどまる, 残る。
-罷 -ba[→-be] 十34四
*許列- hüle- (余剰, 剰) 残る, 余る。
-克薛惕 -gsed 三21七; 十13六
-克薛的 -gsed-i 三23二; 五19八; 八4六
*許列克迭- hüle·gde- (被勝) [hüle-の受動形]
-罷者 -ba[→-be]-ǰe 八19七, 20一
*忽列兀勒- hüle·'ül- (剰下) [hüle-の使役形]
-恢額徹 -küi-'eče 七37一

許列兀 hüle·'ü（多，多余，勝）余った。八20八，28三²；22十，23一
許列兀惕 hüle·'ü·d（多余）[hüle'üの複数形] 四37七
*忽魯惕- hülüd-（尽絶）たえる，つきる。
-帖列 -tele 八5三
*忽魯舌里格兀勒- hülüri·ge·'ül-（惧惚）まどわす，まやかす。
-帖列 -tele 七24一
忽篾該 hümegai[→gei]（臭）生ぐさい。五13一，15一
忽捏堅 hünegen（野狐）狐。土1四
忽捏速 hünesü（灰）灰。
-額児 -'ēr 二25六
-額舌児 -'ēr 三21六；四48一；五1四；土5十
忽泥 huni（烟）煙；霧。六21七；十24五，六
忽你舌児 hünir（気息）匂い。〈→hünür〉七44三
*許你思- hünis-（聞）匂う；嗅ぐ。〈→hünüs-〉
-帖列 -tele 一17四
忽訥児 hünür（香気）匂い。〈→hünir〉一35十
忽訥舌児 hünür（気）同上。七11九
*忽訥思- hünüs-（聞，嗅）〈→hünis-〉匂う；嗅ぐ。
-抽 -čü 一35十；十39三
*忽舌児- hur-（翻）反転する。
-罷 -ba 土2一
*忽舌児把- hurba-（翻）同上。
-周 -ju 四35八
忽舌児帖速捏徹 hürtesün·eče（砕裁帛行）[hürtesün '破片' の奪格形] 十12八
《中》忽(舌)剌中合剌- hura·ga·la-（套）わなを作る。
-周 -ju 一16五
忽舌魯兀 huru'ū（順，順水，順着）川下へ，下方へ。一3九，17六，18八，九；二3五，17九，22四，36八；三14五，15一；四13八，31四，33一，37一，二；五28八，33一；六18四，24四，28七，44三；八44三
忽(舌)魯兀 huru'ū（順，順水，順着）一15九；五28五；七31五同上。
忽舌輪 hürü·n（礎）[hür(ü)- 'みがく' の同時接合副動詞形] 五49一，50六
許速 hüsü（髪）髪。
-班 -bān[→bēn] 七43三
許孫 hüsü·n（毛）同上。一19七
*忽塔舌魯- hutaru-（毀）やぶる。〈→hudaru-〉
-阿速 -'āsu 土33四
《中》忽壇 hutan（柳木）旱柳。十2四
*忽兀- hü'ü-（臭爛）くさる。

-禿該 -tügaị[→geị] 十31四
忽牙 huya (拴) 結べ。[huya-の命令形] 五50七
*忽牙- huya- (拴) 結ぶ, 組む。
-黒撒惕 -Gsad 十29四
-黒撒的 -Gsad-i 五50二
-周 -ju 三6四; 五49五, 十; 七33七; 十28十
*《中》忽牙- huya- (結, 拴) 同上。
-周 -ǰu 二7三; 三13七
忽亦侖 huyil·u·n (淀) [huyil- '渦まく' の同時接合副動詞形] 八33十
昏只兀 hunǰi·'u (爛木) 乾れ朽ちた。十2五, 13四
渾只兀 hunǰi·'u (爛木) 同上。七43四; 十20七
渾討兀 huntaų'ū (禍) 禍。三18五, 19二
洪只兀列思 hüngǰi'ŭle·s (乾樹毎) [hünǰi'ŭle '乾樹' の複数形] 一17三
洪失兀惕 hüngši'ŭd (腥気) [hüngši'ŭ(n) '腥い' の複数形] 腥臭。一17四

# ǰ

*札阿- ǰa'ā-（告）告げる，教える。
-巴速 -bāsu 四18六
-黒三 -ɢsan 八39四
-周 -ǰu 二29四
-主兀 -ǰu'ū 十28六
-中忽 -qu 二19二
-中忽因 -qu-yin 五21一
禿中孩 -tuɢaị 土45八
*札阿黒荅- ǰa'ā·ɢda-（告）[ǰa'ā-の受動形]
-周 -ǰu 三20三
*札阿哈- ǰa'ā·hā-（告）[ǰa'ā- の使役形]
-黒三 -ɢsan 一44三
札安 ǰa'ā·n（告）[ǰa'ā- の同時接合副動詞形] 二22二; 土46一
札阿舌里惕 ǰa'āri·d（神告，神告毎）[ǰa'ārin の複数形] 三39二; 十28一
札阿舌鄰 ǰa'ā·ri·n（神告）神のお告げ。三37四; 八39七
*札ト中合- ǰabqa-（不見，失）失う。
-罷 -ba 六45九
-周 -ǰu 土52三
*札(ト)中合- ǰabqa-（失）同上。
-周 -ǰu 二34八
札ト中罕 ǰabqa·n（失）[ǰabqa- の同時接合副動詞形] 土21三
札八 ǰaba（崖縫）谷。二13九
札巴只 ǰabaǰi（口胎）口の両はじ。
-牙(舌)児 -yār 九16十
札巴只你牙舌児 ǰabaǰi·n·iyār（胎依着）[ǰabaǰin[→ǰabaǰi] の造格形] 六13四
札巴只你牙(舌)児 ǰabaǰi·n·iyār（同上）[同上] 六14一
札必闌 ǰabila·n（盤脚，盤）[ǰabila-‘あぐらをかく’の同時接合副動詞形] 二10四; 十29六
札惕 ǰad（世人）他の。一23七
札荅 ǰada（風雨）風雨を呼ぶ術。四35七，八，九
*札荅剌- ǰada·la-（致風雨）ジャダの術を施す。
-中渾 -qun 四35八
*札勒把舌里- ǰalbari-（祷告，告）祈る。
-周 -ǰu 十18十
-梅 -muị 六16八

*札勒吉- ǰalgi-（嚥，吞）のみこむ。〈→札勒乞-〉
-阿速 -'āsu 七37十
-中忽 -qu 二11八
-中灰 -quį 士26五
-速 -su 二11七
*札勒乞- ǰalqi-（嚥）同上。
-阿惕 -'ād 四39三，41六
-中忽宜 -qu-yi 四41六
*札勒中合- ǰalqa-（接）接合する。
-黒三 -ɢsan 三23九
札勒中舍失黒壇 ǰalqamšiɢ·tan（擾怕的）恐るべき；面倒な，厄介な。二42八
札剌麻 ǰalama（ナシ）祭祀のために柳枝につける布片。六16七
札剌為 ǰala'uį（年少）若い。五25六；七10二
*札里舌剌- ǰalira-（怒息）（怒りなどが）おさまる，平静になる。
-周 -ǰu 士45十；士34二
*札《舌》里舌剌- ǰalira-（怒）同上。
-罷 -ba 十44八
*札里舌剌兀勒- ǰalira·'ūl-（教息）[ǰalira- の使役形]
-魯阿速 -l·u·'āsu 士25三
札米牙舌児 ǰam·iyār（站依着）[ǰam '駅站' の造格形] 士49五
札木惕 ǰam·ūd（站每）[ǰam '駅站' の複数形] 士50三，七，55四
札木的顔 ǰam·ūd·iyān（站每自的行）[ǰam·ūd の再帰格形] 士50五
札木臣 ǰam·u·čin（站戸）駅夫。士49三，52八，53六
*札你赤- ǰanči-（打）打つ。
-周 -ǰu 十36五
-主為 -ǰu'uį 十27二
*札你赤黒荅- ǰanči·ɢda-（被打）[ǰanči- の受動形]
-阿 -'ā 十27三
札中合 ǰaqa（衣頭，頭）襟；へり；境。十38七，八，十
-班 -bān 三50六
-察 -ča 士23五
-荅乞 -daki 四47六
-突舌児 -dur 士22八
-思 -s 四27九
-曰 -yin 八18九
札(中)合 ǰaqa（領）同上。
-巴舌児 -bār 十36三
札《中》合 ǰaqa（頭）同上。

-禿 -tu 一20九

札中合温 ǰaqa·'ūn (両間, 其間) あいだ; へり。九48五, 七; 亖39二, 三

札中忽惕 ǰaqu·d (金人毎) 金国の人々。亖55二

札中忽敦 ǰaqu·d·un (金人的) [ǰaqu·d の属格形]

札舌児必牙勒 ǰarbiya·l (枸) 積木; 枷。四47六

札児沉台 ǰarčim·tai (整斉的) 規律のある。二6三

札舌児里黒 ǰarliG (聖旨) 勅。四43十, 50十; 五20十, 21六, 25五, 26三; 六52一, 十, 53二, 四; 七1五, 2六, 3四², 十, 7八, 19七, 20五, 21七, 24五, 31八; 八1十, 4十, 6二, 五, 9二, 十, 11一, 13七, 14一, 22九, 24七, 25一, 27二, 五, 29九, 30六, 31六, 33一, 34六, 38六, 40四, 41七, 42二, 五, 47三, 48三; 九2六, 五4, 八, 6六, 7八, 17六, 21二, 22四, 七, 24九, 31二, 三, 32二, 34二, 三, 40一, 九, 41七, 42八, 九, 43一, 三, 44十, 45六, 九, 47一; 十6十, 7二, 8五, 10三, 16九, 19一, 22七, 26二, 28一; 亖17五, 21七, 28七, 30一, 32一, 九, 33九, 42四, 47八, 50三; 亖6三, 7十², 8十, 10四, 八, 九, 12七, 16七, 八, 17四, 22七, 八, 26九, 28三, 30八, 33七, 36九, 37一, 四, 六, 38九, 十, 39九, 40七, 42八, 43一, 八, 十, 45一, 二, 四, 46八

-吉牙[舌児] -giyār 九36二

-圖舌児 -tur 亖34十

札舌児《舌》里黒 ǰarliG (聖旨) 同上。五23五; 八4五

*札(舌)児里黒 ǰarliG (聖旨) 同上。九9三², 10二, 20四, 25六, 26一, 五, 29二, 32一, 34九, 35十, 36五, 七, 37八, 39七, 40二, 45十, 49一; 十3一, 11三, 21二; 亖21八, 23四, 33四; 亖52十, 54五

札舌児里吉牙舌児 ǰarliG·iyār (聖旨依着) [ǰarliG の造格形] 亖14二, 37二, 53三

札舌児里中渾 ǰarliG·un (聖旨的) [ǰarliG の属格形] 九43一; 亖44一, 45三

札舌児中忽 ǰarGu (断事) 訴訟; 裁判。八30十, 31一; 十8五, 六

*札舌児中忽剌 ǰarGu·la- (断, 教断) 裁断する。

-黒撒泥 -Gsan-i 八31一

-禿中孩 -tuGai 五21五

札[→折]舌列吉顔 ǰa[→je-]reg·iyēn (需自的行) 必要。[ǰereg '必要' の再帰格形] 亖55四

札舌林 ǰarim (半, 一半) 半分, 半ば。三29六; 亖40四

札舌里馬 ǰarim·a (半) [ǰarim の与位格形] 六28四

札舌里米顔 ǰarim·iyān (一半自的) [ǰarim の再帰格形] 亖26五

札舌里木惕 ǰarim·ūd (一半, 一半毎) [ǰarim の複数形] 二4十; 五32八; 六29九; 八1五

札舌里木的顔 ǰarim·ūd·iyān (一半自的行) [ǰarim·ūd の再帰格形] 十6二; 亖40三

*札舌魯- ǰaru- (使, 使喚) 使う。

-周 -ǰu 一10二
-禿中孩 -tuɢaị 六52九
*札撒- ǰasa-（整治，整撾）整える，治める。
-阿揚 -'ād 三12二; 四8四; 五21四
-罷 -ba 二43十
-周 -ǰu 二25八; 十; 三12一; 四37八²; 五29七, 八, 34二; 六8四, 11八, 25二, 28九, 30八; 八2八; 九33二, 八, 41一, 三, 四, 五; 十18九; 土4九, 12五; 土43一, 五, 六, 八
-間[→周] -ǰu 四11一
-舌侖 -run 七32二; 十19一
-禿中孩 -tuɢaị 五21三; 十5七; 土38七, 41一, 三, 五, 八
-由 -yu 七38一
札撒 ǰasa（整治）[ǰasa- の命令形] 六4六, 八, 九, 6一
札三 ǰasa·n（整）[ǰasa- の同時接合副動詞形] 四8三
*札撒勒都- ǰasa·ldu-（整治，相整治，共整治）[ǰasa- の対動形]
-罷 -ba 六5六
-周 -ǰu 二7一; 六29一; 八8九
札撒勒敦 ǰasa·ldu·n（共整治）[ǰasa·ldu- の同時接合副動詞形] 六6三
*札撒兀勒- ǰasa·'ūl-（教整治）[ǰasa- の使役形]
-罷 -ba 七32五, 六
-周 -ǰu 十19七; 土53八
-中忽 -qu 七29六
*札撒兀魯- ǰasa·'ūl·u-（教整治）同上。
-楊中渾 -dqun 土8六
札撒黑 ǰasaɢ（軍法，法度）きまり，軍規，節度。五17五, 18四; 七10八, 24六, 47二; 八9一; 土40四; 土45八
-壇 -tan 二6四
札撒(黑) ǰasa[ɢ]（法度）同上。九43五
*札撒黑剌- ǰasaɢ·la-（法度，法度做，伝号令）きまりを作る。
-周 -ǰu 二17一; 八9一
-(舌)侖 -run 十19五
*札撒黑剌勒都- ǰasaɢ·la·ldu-（共整治）[ǰasaɢ·la- の対動形]
-罷 -ba 五17十
札撒勒 ǰasal（法度）規律。七29八
札興 ǰahing（底襟）奥襟。
-溫 -un [ǰahing の属格形] 八18九
*札兀- ǰa'ū-（咬，啣）咬む。
-罷 -ba 四27八

-黒撒泥 -Gsan-i 二8一

札兀 ǰa'ū (百) 百。七18九

札兀惕 ǰa'ū·d (百, 百毎) [ǰaū'(n) の複数形] 三17六, 21五; 四15四; 六18五, 六, 七; 七38七, 八; 八47五; 九36三², 七; 十23八, 31五

札兀敦 ǰa'ū·d·un (百的, 百毎的, 百戸的, 百戸毎的) [ǰa'ūd の属格形 七19一; 九30六, 23三, 七, 33八, 34二, 36一, 45二; 土17一, 46五, 52三

札兀納察 ǰa'ūn·ača (百処) [ǰa'ūn の奪格形] 九33四

札兀泥 ǰa'ūn·i (百行) [ǰa'ūn 対格形] 八47九

札兀訥 ǰa'ūn·u (百的) [ǰa'ūn の属格形] 七18四

札兀闌 ǰa'ū·la·n (百做了) [ǰa'ūla- '百にする' の同時接合副動詞形] 七18九

札兀中合速 ǰa'ūGa·su (山丹根) 紅百合の根。

-巴児 -bār 二6三

札兀舌剌 ǰa'ūra (間, 其間, 中間, 路間) 間に, 間で, 途中で。一28三, 32九, 42四, 47九, 48三, 49二; 二13十, 24五, 36九, 37三; 三16五, 32六; 四1五, 40三, 42八; 五5五, 46二; 六40一; 七3五, 46五, 八, 47五; 八12七, 33六, 35二; 九25三, 27六; 十39六, 43五; 土13七, 22七, 26五, 49一, 52六; 土1五, 11一, 12六, 34三, 47六, 55三, 58七

札兀(舌)剌 ǰa'ūra (路間) 同上。一9一

札温 ǰa'ū·n (百) 百。五10一; 六24三, 52五; 七1四; 十21九; 土18二, 20二, 五; 土47五, 52六, 53四

札牙 ǰayā (命) 運命。〈→ǰaya'ā〉

-阿舌児 -'ār 七47十

-禿 -tu 三18九

札牙阿 ǰaya'ā (命) 同上。

-禿 -tu 一1三; 三18三; 八19十; 土57五

札牙安 jaya'ā·n (命, 気運) 同上。一46八; 七29九; 土4四

札亦剌 ǰayila (趁了) [ǰayila- の命令形] 十40八

札亦剌 ǰayila- (趁, 躲) 避ける。〈→ǰaiyila-〉

-周 -ǰu 七20七; 九46二; 土37六

札亦闌 ǰayila·n (躲) [ǰayila- の同時接合副動詞形] 三10五

*札亦剌兀魯- ǰayila·'ūl·u- (教躲) [ǰayila- の使役形]

-黒三 -Gsan 四47六

*斎亦剌- ǰaiyila- (躲) 〈→ǰayila-〉

-周 -ǰu 五23二

-速 -su 五23四

盞討兀 ǰantaų'ū (盂) 盃。七7一, 三

掌吉 ǰanggi (結了的) 結合。

-邊[→班] -bēn[→bān] 三50六

站 ǰam (站) 駅站。土49四, 52七, 53七, 八
者 ǰē (外甥) 甥。〈→ǰe'ē〉
-因 -yin 六20一
者額 ǰe'ē (外甥) 同上。
-因 -yin 一44六, 45四
者 ǰē (是, 応許, 応許声, 那般者) はい, よし。[応諾の助辞] 一22一, 46十; 二20八; 三12五; 五45十; 六17五; 九9一; 十24七
-迭扯 -deče 三12六
-迭徹 -deče 土32七
-古 -gü[→kü] 二19五
-因 -yin 土32六
者 -ǰē (也者, 却, 罷) ～だろう, ～にちがいない。一13五, 19八, 35九[2]; 二22三, 24五, 29九, 37二, 39六, 九, 51一; 三2八, 5九, 6二, 23三, 48九, 49一; 四40五, 45七, 47七; 五14二, 四, 十, 22九, 26一, 30八, 九; 六26八, 28三; 七6九; 九23九[2]; 土45七; 土5三, 8八, 35九
折卜薛克 ǰebseg (器械) 武器。十19七
者別 ǰebe (器械) 矢・槍の尖端, 矢じり; 武器。十8四; 土48三
*者別列- ǰebe·le- (戦) 鋭い尖端の武器を使って戦う。
-古 -gü[→-kü] 四49四, 50七
-耶 -ye 四50八
*者惕古- ǰedgü- (当, 阻当) さえぎる, 阻止する。
-周 -jü 土20二; 土57六
*者惕古克迭- ǰedgü·gde- (当, 被止当) [ǰedgü- の受動形]
-周 -jü 七45十; 土11六
者惕坤 ǰedkü·n (止当) [ǰedgü- の同時接合副動詞形] 土12一
者額舌児迭 ǰe'ērde (赤馬) (馬の毛色について) 赤黄色の。
-因 -yin 土32六
*者乞舌児- ǰekir- (冷) 冷える, こごえる。
-抽 -čü 土25三
折舌児 ǰer (器械) 武器。十19七
者舌児格 ǰerge (班列, 次序, 列位, 列, 次) 仲間, 一緒に。
-迭扯 -deče 三12六
-迭徹 -deče 土32七
-突舌児 -dür 八46四
-額舌児 -'ēr 五12四, 29九
*者(舌)児格列- ǰerge·le- (列) 並ぶ, 立ち並ぶ。
-克先 -gsen 九9七
者児格連 ǰerge·le·n (列) [ǰerge·le- の同時接合副動詞形] 一11九

者舌児格連 ǰerge·le·n (列着) [同上] 八46四

*折失- ǰeši- (欲図) もくろむ，望む。

-古 -gü[→-kü] 三31六

者申 ǰeši·n (想望) [ǰeši- の同時接合副動詞形] 三18四，十

折兀 ǰe'ŭ (針) 針。二7二

帖連 ǰem·le·n (做喫的) [ǰem·le- '食糧をつくる' の同時接合副動詞形] 九14四

*沼兀都列- ǰeü'ŭdü·le- (夢) 夢をみる。

-罷 -ba[→-be] 五43，44二

沼兀敦 ǰeü'ŭdü·n (夢) 夢。一43五，十，44二[2]

-突舌児 -dür 八18七; 九23七

-泥顔 -n·iyēn 一43七

沼温 ǰeŭ'ŭn (左) 左。三2十，20八; 八1九，40二; 九9四，七，10三，29一; 十9四，八，39八; 土18五，23八; 土13八，40十，41二，五，七，九，52二

*只阿- ǰi'ā- (告) 告げる。

-楊中渾 -dqun 九43六

-周 -ǰu 九10五

-梅 -muį 三39三

-黒三 -Gsan 三39七

-(黒)撒訥 -Gsan-u 三39四

-中忽 -qu 四41十

-舌倫 -run 十9一

只安 ǰi'ān (告) [ǰi'ā- の同時接合副動詞形] 四50五; 九19五

*只卜失額舌児- ǰibši'ēr- (整擲) 整える，準備する。

-抽 -čü 七27三

*只卜失額(舌)児- ǰibši'ēr- (整擲) 同上。

-抽 -čü 六14十

只卜失額舌倫 ǰibši'ēr·ü·n (整治) [ǰibši'ēr- の同時接合副動詞形] 土20九

只卜失額舌倫勤麋 ǰibši'ēr·ü(n)·lče·n (共整擲) [ǰibši'ēr- の対動同時接合副動詞形] 四35六

只卜失耶舌倫 ǰibšiyēr·ün (整治) [ǰibšiyēr-〈→ǰibši'ēr-〉の同時接合副動詞形] 八24七

只卜失耶(舌)魯勤纓 ǰibšiyēr·ü·lče·n (相整擲) [ǰibšiyēr- の相動・同時接合副動詞形] 四49三

*只卜禿舌剌- ǰibtura- (消滅) 弱る。

-主為者 -ǰu'ūį-je 十45一

只池 ǰiči (却) 更に，一層。二7四; 四12二; 四10七; 五7二，11三，13八，14五，15五，44五; 六24五; 八44五; 九12八，13三; 十18八，21四，44四; 土3二，5一，30七，38十，40五; 土2八

只赤 ǰiči (却，息) 同上。九28二; 十44八

只赤中忽赤 jičiguči（反復）反復して，再三再四。五43四
*只楊古兀勤- jidgü·'ül-（拽）拽かせる，ひっぱらせる。[jidgü- の使役形]
-周 -jü 七37九
只荅 jida（槍，槍）槍。十4六；土39八
-巴児 -bār 二3九
-班 -bān 三7五
鎖荅 jida（槍）同上。
-突舌児 -dur 六3六
-禿 -tu 七35四
只克敦 jigdü·n（前拽）[jigdü-（=jigṯü-）の同時接合副動詞形] 六23二
*只克禿- jigṯü-（拽）引く，拽く。
-周 -jü 三38八；八38一
*只克禿勤都- jigṯü·ldü-（共拽）[jigṯü- の対動形]
-周 -jü 九7四
只勤 jil（年）年。五17二，27二，40十；七5一；八2三，6二，10八，24三；十14二；土1二，10九，11九，36五，52七；土1三，13一，七，20八，58八
只勤荅 jilda（晩，夕，晩夕）晩い，日暮れ。四34九，37十；五29八；六28十；七42十；九49二，十18二；土38八
只勤都 jildü（半截腔子）死んだ家畜から頭と一緒に心臓と肺を取り出したもの。一8八
只羅阿 jilo'ā（牽胃）手綱。〈→jilu'ā〉八43九；土36三
只魯阿 jilu'ā（轡繩，牽胃，調度）同上。〈→jilo'ā〉三15九；土29三
-都舌里顔 -dur-iyān 九31七
只中合臣 jiga·či·n（打魚的每）[jiga·či '漁師' の複数形] 三14二
只中合速 jiga·su（魚）魚。二7一，三
只中合孫 jiga·su·n（魚）同上。八7四
*只舌児中合- jirga-（快楽，快活）楽しむ。
-楊中渾 -dqun 七3一；九26五
-中忽 -qu 一39四
*只舌児中合勤都- jirga·ldu-（共快活）[jirqa- の対動形]
-周 -ju 三28八
*只舌児中合兀(勤)- jirga·'ū(l)-（教快活）[jirqa- の使役形]
-中忽 -qu 三39五
*只舌児中合兀魯- jirga·'ūl·u-（教快活）[同上]
-牙 -ya 土47二
只児中合郎 jirga·lang（快活）楽しみ。一39三
只舌児中合郎 jirga·lang（快活）同上。三39九；十1九
只舌児中豁阿納 jirgo'ān·a（六行）[jirgo'ān の与位格形] 三29四

只舌児中豁安 ǰirɢo'ā·n (六) 六。四13六; 十3一
只舌児(中)豁安 ǰirɢo'ā·n (六) 同上。四19五; 十40五
只舌児中豁都阿舌児 ǰirɢo·du'ār (第六) 六番目の。四17七; 八29六
只児瓦阿納 ǰirwa'ān·a (六行) [ǰirwa'ān の与位格形] 二17二
只舌児瓦安 ǰirwa'ā·n (六, 六箇) 六。〈→ǰirɢo'ān〉六18五; 七18八, 22五
只舌剌木惕 ǰiram·ud (小魚児) 小魚。二7三
只舌里捏 ǰirin·e (両箇行) [ǰirin の与位格形] 二1十
只舌里捏 ǰirin·eče (徹両箇) [ǰirin の奪格形] 八1四
只舌里泥 ǰirin·i (両箇行) [ǰirin の対格形] 二47四; 四10四, 五, 19二
只舌里訥 ǰirin·u (両箇的) [ǰirin の属格形]
只舌林 ǰirim (略歇息) 睡眠, うたたね。十1八
只舌鄰 ǰirin (両箇) 二, 二人。['二' を意味する女性形] 二1八, 2七; 三15八; 四7三; 五27五; 七1六; 八45二; 十33七; 十一41九, 42二
只舌魯格 ǰirüge (心) 心; 心臓。三48十; 七27八, 28三, 29四[2]; 十1八, 19五
-邊 -bēn 二21十
-禿 -tü 四25八
只速 ǰisü (顔色, 容貌) 顔色。一34七
-額舌児 -'ēr 六20一
*只速- ǰisü- (黎閉) きりひらく, きりさく。
-周 -ǰü 七4五
*只速列- ǰisü·le- (色様) 色別する。
-周 -ǰü 十一10一
只孫 ǰisü·n (顔色) 顔色。一44六, 45四
*只兀- ǰi'ū- (趕) 追う, 道を行く。
-周 -ǰu 七35五
只兀舌児 ǰi'ǔr (翅) つばさ。九7四
-禿 -tü 八6九
*只兀舌列[→舌剌-] ǰi'ūre-[→ra-] (調) まぜ合わせる。
-周 -ǰu 四40六
*只兀舌児篾迭- ǰi'ǔrmede- (愈甚) ひどくなる。
-梅 -müi 十一22六
真勒 ǰi(n)l (年) 年。四30一; 七22五
*征古- ǰinggü- (讒譖) 讒言する, 誹謗する。
-古因 -gü[→kü]-yin 十43六
勺卜 ǰöb (是, 正) 正しい。一12九, 40七; 三50五; 四12八; 五7九; 六43九; 七14十; 八41二, 四; 九2八; 十34六; 十一21九; 24十, 49七, 50七
勺(卜) ǰöb (是, 是的) 同上。四48四; 八38一; 十一23九
拙(卜) ǰöb (正) 同上。二18九[2]

勺卜失顔 jöbšiyē·n (道是) [jöbšiye- の同時接合副動詞形] 士32九; 士34一
*勺卜失耶- jöbšiyē- (道是) 是とする。
-額速 -'ēsü 士19八, 49九
-周 -jü 三32五; 六50八, 52一; 七18一, 24五, 48七, 49一; 九28八; 士6二, 47八; 士2九, 20一, 50一
-主為 -jü'üi 士52四, 十
-舌侖 -rün 士52四
*勺卜失耶克迭- jöbšiyē·gde- (被道是) [jöbšiyē- の受動形]
-周 -jü 士53一
*勺卜失耶勒都- jöbšiyē·ldü- (共説是) [jöbšiyē- の対動形]
-周 -jü 五6八
拙別額徹 jöbe'eče (是行) [jöb の奪格形] 士50七
拙別察[→徹] jöbeča[→če] (是上) [jöb の奪格形] 士21九
勺必 jöbi (是麼) [jöb+i 疑問の助辞] 士30六
勺不兀 jöbü'ü (是麼) [jöb+ü'ü 疑問の助辞] 五43一, 46七
勺班 joba·n (辛苦) [joba- の同時接合副動詞形] 士47一
勺般 joba·n (生受) [同上] 五43九
*勺巴- joba- (辛苦, 生受) 苦しむ, 心配する。〈→jobo-〉
-黒撒惱 -Gsad 十22九
-黒三 -Gsan 九17二
*勺巴阿- joba·'ā (教辛苦, 教生受) [joba- の他動詞形]
-木 -mu 五13三
-中忽 -qu 八18八
勺巴安 joba·'ā·n (生受着) [joba·'ā- の同時接合副動詞形] 十16七
*勺孛- jobo- (生受, 辛苦) 苦しむ, 心配する。〈→joba-〉
-周 -ju 五20六
-梅 -mui 五36一
-中忽 -qu 七31三
*勺孛阿- jobo·'ā- (生受, 教辛苦) [jobo- の他動詞形]
-周 -ju 六40七
-牙 -yā 士47一
勺孛安 jobo·'ā·n (教生受, 教辛苦) [jobo·'ā- の同時接合副動詞形] 六40三; 士47三
*勺孛勒都- jobo·ldu- (共転苦, 共生受, 辛苦) [jobo- の対動形]
-梅 -mui 十7五
-黒撒的 -Gsad-i 九30八
-舌侖 -run 士26二
勺孛郎 jobo·lang (生受) 苦しみ。士49二
*拙額- jö'ē- (置) 得る, 獲得する。

-挨　-'āi[→-'ēi] 土35五
-克先　-gsen 九33六
-克薛額舌里顔　-gse'ēr-iyān[→-iyēn] 九29七
-克薛你耶舌里顔　-gsen-iyēr-iyān[→-iyēn] 九7六
*拙額兀勒-　jŏ'ē-'ŭl-（教搬運）[jŏ'e- の使役形]
-古耶　-güi-e[→küi-e] 土55四
*勺乞-　joki-（宜，合宜）合う，適する。
-梅　-mui 八21八
-中忽由　-quyu[→qui-ū] 五44三；七13七
-中灰　-qui 五22四；土49九
-恢[→中灰]　-kui(→-qui) 七10一
-由　-yu 六3五，六
*勺乞勒都-　joki-ldu-（相和，商和）[joki- の対動形]
-周　-ju 四30四
-牙　-yā 四10七，九，19一
*勺勒中合-　jolga-（遇）遇う。〈→joluga-〉
-巴　ba 一42五
-周　-ju 一9二；二29一
-主為　-ju'ūi 五23七
*勺勒中合勒都-　jolga-ldu-（相遇）[jolga- の対動形]
-罷者　-ba~je 八35三
勺里阿　joli'ā（替身）身がわり。土21七，22四
*勺魯中合-　joluga-（遇）〈→jolga-〉
-周　-ju 一8四，34六
*勺魯(中)合-　joluga-（遇）同上。
-周　-ju 一47十
*勺魯中合勒都-　joluga-ldu-（相遇，共遇）[joluga- の対動形]
-罷者　-ba~je 六27三
-周　-ju 三16六
*勺魯中合(勒)都-　joluga-ldu-（相遇）同上。
-罷　-ba 二23八
勺斡連　jŏ'ŏlen（柔弱）やわらかい；軟弱な。七10八
*勺黑撒-　jogsa-（歇息）休む，止む。
-周　-ju 七16六
*卓　jō（肉背）背中の部分。二3九
*勺舌里-　jori-（指）目指す。
-罷　-ba 八18五
-周　-ju 一42八；土8二，12二，35十，36二；土4九，5六

-黑三 -Gsan 九1九

-黑三突舌児 -Gsan-dur 十3十

*勺(舌)里- ǰori- (指) 同上。

-陽中渾 -dqun 十5一

*勺舌里兀動- ǰori·'ūl- (指, 教指) [ǰori- の使役形]

-罷 -ba 三20四

-周 -ǰu 九1五

勺舌里纏 ǰöri·ce·n (交惨) [ǰöriče- '入りまじる, 交叉する' の同時接合副動詞形] 十38二

勺舌鄰 ǰori·n (指着) [ǰori- の同時接合副動詞形] 三10三, 24十, 25四; 四36五, 七, 八, 九

拙舌児中合勤荅- ǰorga·lda- (柴打) うち合う, なぐり合う [ǰorga- の対動形]

-牙 -yā 十30三

荘 ǰöng (先兆) きざし, 前兆; 予感。八41二

*荘列- ǰöng·le- (先兆) きざす; 予感がする, 予測する。

-周 -ǰü 八40八

*主卜赤- ǰübči- (安来, 続, 接) つなぐ, 接続する。

-克先 -gsen 九4二, 三

-周 -ǰü 六41十

-牙 -yā [→-yē] 十30四

*諸額- ǰü'e- (置来) 〈→ǰö'e-〉 得る, 獲得する。

-(克)先 gsen 二34一

主不児 ǰubur (川) 森林, 平原林。一37八, 39二

主額担 ǰü'ēn·e (冷行) [ǰü'ēn '寒冷(な)' の与位格形] 十1七

竹克 ǰüg (処, 各, 各処, 往) 方角, 方向。二44五, 47五; 三32八, 47八, 49八$^{2}$; 四37三; 五10三, 19九$^{2}$, 27三; 六14七, 25三, 28一; 七1二$^{2}$; 八5二$^{2}$; 九46一$^{2}$; 十38九; 十18五$^{2}$, 21一$^{2}$, 26三$^{3}$, 47八, 48三, 49三, 53二, 55七$^{2}$, 57五

-突舌児 -dür 十26三

竹(克) ǰüg (班) 同上。三38五

竹格徹 ǰüge'eče (各処行) [ǰüg の奪格形] 十48三

竹昆 ǰüg·ün (各処的) [ǰüg の属格形] 十47八, 49三, 53二

竹克 ǰüg (正) 正しい方向。

-途舌児 -tür 十4二

-途(舌)児 -tür 十29二

*竹克列兀動- ǰüg·le·ūl- (教正) 方向づける [ǰüg-le- '一定の方向に向く' の他動・使役形]

-周 -ǰü 八29十

主格黎 jügeli（以竿懸肉祭天）祭祀場。
-哭[児] -dür —25十
-迭扯 -deče —26五
*主格舌児- jüger-（詛）のろう；そしる。
-額速 -'ēsü 十24四
主格舌児堅 jüger·ge·n（詛）[jüger- の使役形] 十24五
*主格舌魯- jüger·ü-（詛）〈→jüger-〉
-楊中渾[→坤] -dqun[→kün] 十24四
主札阿納 juja'ān·a（厚行）[juja'ān '厚い' の与位格形] 七37五
主乞耶舌児 jük·iyēr（正依着）[jük〈→jüg〉の造格形] 九30二
主動都 jüldü（領功）一番の手柄。[jildü の転意] 九14九，15三，16一
主訥 jun·u（夏的）[jun '夏' の属格形] 二17二
*主中合- juqa-（対付）もくろむ，はかる。
-主兀 -ju'ū 六35五
主中忽侖 juqul·u·n（抽）[juqul- '引抜く' の同時接合副動詞形] 九13六，14二
*主中忽魯- juGulu-（抽）引抜く。
-黒三 -Gsan 九15七
主中忽思 juqus（急忙）急いで。一36三
主舌魯格 jürüge（心）心臓。四2十；六40三，42七，48十；十2十
-邊 -bēn 八14十，15二，20二
主舌魯格泥 jürügen·i（心行）[jürüge(n) の対格形] 十35八
主舌魯格担徹 jürügen·eče（心行）[jürüge(n) の奪格形] 十25二
主舌魯堅 jürügen（心）〈→jürüge〉十24九
*主撒- jusa-（住夏，過夏）夏を過ごす。
-周 -ju 六27八；十43三，52六；十7五
主撒郎 jusalang（過夏処）夏営地，避暑地。十43三
主撒黒 jusaG（一歳）三才の羊・山羊類。十52六，53四
*主薛舌列- jüsere-（霖雨下）雨が降り続く。
-恢突舌児 -küj-dür 八37四
*主速舌里楊- jusurid-（諂佞）へつらう，こびる。
-抽 -ču 五31一
主速舌里敦 jusurid·u·n（諂佞）[jusurid- の同時接合副動詞形] 六38九
主亦列 jüyil·e（一路）それぞれ。[jüyil の与位格形] 六2一[2]
諄 jun（夏）夏。
-訥 -nu 三29七；七22五
准荅兀動 junda'ūl（乾糞）馬の乾いた糞。六17三

# k

客 ke (特件) (何かある) もの。五18八; 十15二, 16三
-邊 -bēn 六1四
*客ト迭- kebḍe- (臥) 横たわる, 臥す。〈→kebte-〉
-罷 -ba[→-be] 二17十
-周 -jü 二17九
-恢突児 küi̯-dür 二4五
客ト迭石 kebḍe·si (窩巣) ねぐら。
-顔 -yān[→-yēn] 二12一
客ト迭兀勤 kebḍe·ŭl (宿衛) 宿直。〈→kebte·'ŭl〉 十36四
*客ト帖- kebte- (臥, 睡) 横たわる。〈→kebḍe-, gebte-〉
-額(惕) -'ē(d) 三14一
-額速 -'ēsü 二17八; 七16二
-古你顔 -gū[→-kü]n-iyān[→iyēn] 七20五
-周 -jü 二18八; 七21六; 十1三
-禿該 -tügai̯ [→gei̯] 十42六
*客(ト)帖- kebte- (臥) 同上。
-周 -jü 四3三; 十1四
客(ト)帖 kebte (臥着) [kebte- の命令形] 二19二, 七
*客ト帖兀勤- kebte·'ŭl- (教臥) [kebte- の使役形]
-周 -jü 七20九; 八29二, 三; 九43八
客ト帖兀勤 kebte·'ŭl (宿衛) 宿直兵, 当直兵, 当番兵。七18十, 20八, 21六, 八; 九31九, 36三, 39九, 46三, 47三², 四, 六, 七, 八, 48七, 八, 九, 49一; 十1四; 六, 九, 2二, 三, 五, 六², 4六, 八, 九, 十, 5一, 六, 6一, 九, 9六; 十14五; 37七, 八, 九, 十, 38二, 十, 39三, 六, 七, 九, 十, 40二, 四, 六, 42四²
-突舌児 -dür 七21一; 九36四, 48一; 十38四
-突(舌)児 -dür 九46六
-魯 -lü 十7三
-魯額 -lü'ē 九48二; 十38五, 七
客ト帖兀勤速 kebte·'ŭl·sü (宿衛) 宿直兵。[=kebte·'ŭl の集合名詞]
-禿 -tü 九31四
客ト帖兀列 kebte·'ŭl·e (宿衛行) [kebte·'ŭl の与位格形] 七20七; 九46四; 十37五, 38九
客ト帖兀《舌》列 kebte·'ŭl·e (宿衛行) [同上] 九46二, 三49
客ト帖兀列徹 ketbe·'ŭl·eče (宿衛行) [kebte·'ŭl の奪格形] 九48三, 四; 十5二,

四，五，八，九，8六，四，九；廿38一，40四，42六

客卜帖兀里 kebte·'ŭl·i（宿衛行）[kebte·'ŭl の対格形] 九36六；十6十

客卜帖兀侖 kebe·'ŭl·ün（宿衛的）[kebte·'ŭl の属格形] 九84五，六，49二；十5七，7二；廿38八，39一$^{2}$，二$^{2}$，四，六，40七

客卜帖兀《舌》侖 kebte·'ŭl·ün（宿衛的）[同上] 九48四，六

*客別里兀勒- kebeli·'ŭl-（歪）[kebeli- '傾く' の使役形]

-周 -jü 六12六

客別里兀《舌》侖 kebeli·ŭl·ün（斜）[kebeli·'ŭl- の同時接合副動詞形]

六1九

客扯兀 keče'ŭ（剛）剛い。〈→kečeü'ü〉十25十

客扯溫 keče'ŭ·n（剛硬）同上。[keče'ŭ の複数形] 廿17十

客潮兀 kečeü'ŭ（剛）〈→keče'ŭ〉

-別舌里顏 -ber-iyān[→-iyēn] 廿23一

客惕 ked（誰每，誰）[ken の複数形] 六3三，5四；七34五

-別舌児 -bēr 廿21九

客(惕) ked（護[→誰]每）[同上] 四34四

客堆 kedü·i（幾，幾多，幾些）どれだけ(の)。四41七；九11九，33六

-者 -je 六35二

-宜 -yi 二33六

客敦 kedü·n（幾多）どれだけ(の)。八33六 [kedüi の複数形]

*客- kē-（説）（～と）言う，話す。〈→ke'ē-〉

-額惕 -'ēd 一37八，47三，48一，49六；二3三，9五，19二，八，21三，29四，30八，35一，37二，43二；三21一；五16一，31八，49三；六8二，17六，40七；七29十，32一，四；八22七；十35十；廿50六

-額速 -'ēsü 一48十；二8二，25一，28五；四50四；五4三，13四，25八；六16六，20一，二，23六，35七，九；七5七，34五；八15三，21六，22四，36八；九28七；十39十，40一；廿22九，56九

-古 -gü[→-kü] 二11七

-周 -jü 一12一

-主兀 -jü'ŭ 一8七，9七；二4八

-恢突舌児 -küi-dür 四9五

*客題- ke'ē-（説）（～と）言う，話す；（～と）思う。〈→kē-〉

-罷 -ba[→-be] 一13七，19九，20九，21九，22十，46十；二19五，20八，23三，28五，六，30六，32四，34二，35六，40五，46八，47一；三1五，3一，5一，12七，十，30三，31二，八，39五，七，40二，46四，六，九，十，47二，四，九，48九，49二，三，七；四9九，16一，23三，26十，39六，41三，七，42一，43一，46五，47七，48三，四，49五，50二；五6七，7一，五，23三，五，26二，六，31二，35一，50十；六7七，十，11六，12

九，14八，17四，七，42四，49七，50八，51十；七15九，17一，19九，28九，37一；八32二；九2四，十，3一，15四，十，17八，19二，24一，五，29七，30五，35一，36四，十，38六，八，九，39一，44一，47七，48二；十4二，5三，六，九，十，6三，十，8六，九，十，9三，五，六，八，30十，38一，39四，43八，44十；土8九，17一，22四，23四，27四，29七，八，30一，31二，十，32二，三；土2二，27四，32十，36二，42三，46三57十

-罷者 -ba[→-be]-je 八46三

-別 -be 一21五；二33七

-別速 -bēsü 十23十

-畢 -bi 一14五；二8七，42九，45二，四，六，46九；五22十

-惕坤 -dkün 十2九，十；土28七

-額惕 -'ēd 二3八，10四，30一；三19六；四7七，12二，九，19七，20八，28四，40八；五3二；六52三；十37八，40八；土22三，30四，31一；土24九，43十

-額速 -'ēsü 九8八，9一，22四，26一，三；土47四；土2八，4八，22六，32八，52九

-克敦 -gdün 十2七，八

-克先 -gsen 四49十；五50七

-克先突舌児 -gsen-dür 四50一；九1六

-克先突(舌)児 -gsen-dür 九1六

-古 -gü[→-kü] 四42六，43二；六38四，39一，41八², 42一；七6六；土47五；土35一

-周 -jü 一4五，8八，11十，15六，八，26四，33九，38三，43十，45九，48九；二1六，2一，十，8六，9十，12六，15六，八，十，17八，22三，23八，25七，28七，32五，33九，39九，41十；三4四，16三，21四，46四，50七；四1十，4九，11二，13五，22五，25六，34十，48二；五6一，四，六，7三，15五，26二，33十，36七，37一，40七，41八，46十，47一，48十；六2四，七，5二，6五，12二，14五，15一，20三，23七，24二，29五，30六，31五，九，34四，35三，六，十，36一，二，37五，39三，40九，46四，48五；七2一，6八，8一，9三，14二，八，十，25四，27七，31四，34八，35十，37三，39三，42九，44四，五，46七，48五；八15八，47九；九12十，27九，34十，43八；十4一，7九，13三，21七，23一，30九，31二，三，33八，34六，十，38八，41四，44三；土1八，16一，九，19一，26九，35五，七，36四，37六，42五，43五；土3三，4四，5二，五，18二，20三，24四，30六，36一，49十，50二，八

-主兀 -jü'ü 一42九，43一；二1四，2三；五20三；七35八；八12六；九28六；十34八；土30一

-主為 -jü'ü̆i 五30十; 40十, 41二, 三, 六, 44一, 四, 九, 48三, 六, 49三, 九; 六3八, 4五, 六, 8二; 七6九, 7二, 11七, 12三, 五, 13八, 34四, 七, 38十, 39五, 九, 十, 46二, 48六; 八18二, 29五; 十8一; 土4五, 30三, 五

-恢 -kü̆i 十7十

-恢突舌児 -kü̆i-dür 八27十

-恢魯額 -kü̆i-lü'ē 九13九

-中灰[→恢]魯額 -qu[→-kü̆i]-lü'ē 十40五; 土22八

-坤 -kün 土3一, 32八

-列埃 -le'ā̆i [→'ē̆i] 六35五²; 九28九; 土35十

-列額 -le'ē 三2三; 七10六; 八41四

-魯額 -lü'ē 八5一; 土35二; 土3五

-木 -mü 二23五, 33六; 六4八, 7七; 十28二, 三; 土21五, 22四, 29八, 31二, 32三

-木者 -mü~je 土31五

-梅 -müi 四12五; 五44八; 六4十; 七26四; 土28一, 47六

-梅者 -müi~je 十7三

-舌侖 -rün 土22六

-耶 -yē 五6七

*客額克迭- ke'ē·gde- (被説) [ke'ē- の受動形]

-額楊 -'ēd 土30七

-額速 -'ēsü 土31三

-古 -gü[→-kü] 四26一; 十44六

-周 -jü 四10八, 19二, 20五; 六2五, 24九, 36二; 七10十; 九13一, 21十; 十24六, 27八, 28四, 34四; 土3六

-恢 -kü̆i 二2十

-坤 -kün 九28六

-魯額 -lü'ē 土22九; 土23六

-木 -mü 土34四, 五

-梅 -müi 三20十; 五4五; 七11一, 14一, 23九, 23十, 27二; 土5八; 土18二, 26六

-兀者 -'ü̆je 六37三

-宜者 -yi~je 七7一

-由 -yü 二29十; 七38十, 39六

客額克迭楊 ke'ē·gde·d (被説的) [ke'ē·gde- の断定形] 七35七

客額克顚 ke'ē·gde·n (被説) [ke'ē·gde の同時接合副動詞形] 三31四

*客額勒都- ke'ē·ldü- (共説, 相説) [ke'ē- の対動形]

-罷 -ba[→-be] 二19五, 20十; 三23四, 26一; 四31八; 五15二, 20二, 36

八，37四，47四，48二；六5七，九，十；七32四

-額速 -'ēsü 七15四，23四

-克先 -gsen 二39五[2]，八；三1九，26四；五9七，11九，36十；六27五，六

-(克)先 -gsen 三26十

-克薛泥 -gsen-i 四31八

-克薛訥 -gsen-ü 六26九

-周 -jü 二6十，24五，六，49一；三27九，28七，29七；四6八，33一；五5二，20八，45三；六29四

-主為 -jü'üi 七15六，23三

-恢 -küi 五9七，36九，37一

-恢突児 -küi-dür 二20三

-中灰[→恢]突児 -qui[→-küi]-dür 二19三

-列埃 -le'āi[→'ēi] 三12五，七，26五；四20五；五16一，49二；六21十，22四，七

-舌侖 -rün 八17一

-耶 -yē 六29五，十

*客額(勤)都- ke'ē·ldü-（共説）[同上]

-額惕 -'ēd 四35十

-周 -jü 一22三；二20八

客額勤敦 ke'ē·ldü·n（相説，説）[ke'ē·ldü- の同時接合副動詞形] 二46五；四33十

*客額兀魯- ke'ē·'ūl·ü-（被説）[ke'ē- の使役形]

-惕坤 -dkün 六37四

-額惕 -'ēd 十6十

客延 keyē·n（麼道）[ke'ē- の同時接合副動詞形] 一6四，9四，11三，12八，15二，18三，四，八，十，22九，23七，24六，33五，35十，40十，42三，十；二3九，12六[2]，13六，14一，15一，18六，十，21二[2]，23五，30七，33八[2]，37一，38二，39一，六，七，十，41八，44五，七，48九，49十，51三；三1六，九，2二，3十，5三[2]，7七，8二，七，9四，10四，五，12八，14三，15五，17八，18四，十，20五，27七，30九，31一，38五[2]，39一，二，44五，45五，49五，六，50二；四1三，3八，4一，6五，六，7四，10九，11四，12七，15二，三，17五，八，18五，19五，22八，23一，24九，31三，34二，三，四，37八，42三，十，43九，45三，四，七，十，46四，50九[2]；五1十，2四，十，3一，十，4一，二，七，九，5八，6六，7四，九，12二，17十，18七，19四，九，20一，21六，25五，26一，29八，九，31六，37九，38七，十，39四，43二，四，45八，十，46一，七，九，47十，49三，八，50十；六3三，四，5四，6二，11八，15十，16八，19九，21三，24十，25二，九，26八，27三，29一，33九，34一，八，35四，38三，九，39八，40六，41四，九，45二，八[2]，46四，六，七，48二，六，

51七，八，52二，十，53四；七3三，十，6九，7三，六，9八，11四，五，15七，16三，19七，21七，24四，六，十，25一，28四，31八，33五，35四，36三，37五，42三，46二，四，八，47一，二，六，58一，49一，二；八5二，8六，9十，10七，11一，13五，十，14三，15九，17五，八，21一，22五，七，九，24十，27八，28一，29九，30六，九，31六，十，34六，35四，37五，38五，40一，三，41六，42二，五，47三，48二；九2六，4五，八，6六，7八，9三，10二，五，11八，17六，20四，21二，22七，23四，24九，25六，26五，28八，29二，31十，34一，八，36五，七，37七，39七，40二，41六，42七，43三，四，45六，46十，49一；十3一，7二，10一，三，11二，三，12九，13四，16一，九，18六，19一，21二，三，六，22八，23九，24七，26二，27四，28六，44七；土1九，6一，三，8三，9九，12一，三，六，九，13五，九，15四，16四，17五，18三，四，20四，六，21七，27一，28七，31四，32八，33八，35十，38二，40四，41七，九，42三，45九，47六；土1三，3七，十，4三，5六，7九，8二，十，10七$^2$，九，11二，七，12六，七，16六，八，17三，18六，19七，十，21八，九，22一，五，七，26八，28三，29六，30九，34一，37三，六，38九，十，39九，40七，42七，43一，45七，十，46七，49七，52十，54五，57六

**客額里** ke'eli（肚，肚皮）腹，おなか。一13二；三37八，43七；六36十；七27五

-邊 -bēn 一37四

-迭徹 -deče 土24十，25四

-突児 -dür 一13二

-突舌児 -dür 四41七

-額扯 -'eče 一14二

-台 -tai[→-tei] 一22八，23六，40六

**客額児** ke'ēr（野）草原，曠野。一37四

**客額舌児** ke'ēr（曠野）同上。七38四

**客額舌列** ke'ēr·e（野地行，野甸，野甸行，野外）[ke'ēr の与位格形] 一47九；二29七；三5九，6二，13七；五13六；八35六；土33七

**客額舌列徹** ke'ēr·eče（自野甸裏）[ke'ēr の奪格形] 八35九

**客額舌侖** ke'ēr·ün（曠野，曠野的，野外的）[ke'ēr の属格形] 三43六；六36十；土33七，十，35十

**客格速** kegesü（窺讐）うらみ。一48二

***客格速列-** kegesü·le-（陰害）ひそかにうらむ。

-古 -gü[→-kü] 土56九，57一

**客古里顔** kegül·iyān(→-yēn)（鬚髯）前髪，額髪。一37三

**客只額** keǰi'ē（幾遠）どれほど（距離に関して）。二45三

**客客** keke（胞漿）羊水。三37九

**客客孫** kekesü·n（車輻）車の輻。土54四

客勒別思 kelbes（翻着）傾いて。土35十

*客勒乞- kelki-（直連）連らなる，連続する。

-帖列 -tele 七38五

客勒帖該 keltegai[→gei]（半）傾いた；くずれた。六19三

客列 kele（話，舌，説）舌；言葉；情報。四31十²，32一，二，34二²，三，四；六5一，二，7六；七26三，四，42三；八15九

-邊 -bēn 四50四；五49二

-額舌児 -'ēr 五37九；六22七

-額舌魯 -'ēr-ū 六22八

-延 -yēn 土29八

客連 kele·n（言語，話）同上。三2八，9十，14三，四，31六；四4三，四，11四，五，12七²，18七；五48三，49七，八；六1四；七15二，31八，九；八10五，35五；土43七；土21三

-突舌児 -dür 七15三；十24九

客速[→連] kesü[→len]（言語）同上。九48四

*客列- kele-（説来）話す。

-魯額 -lü'ē 二23二

*客列勒都- kele·ldü-（共説）[kele- の対動形]

-恢宜 -küi-yi 一11四

-梅 -müi 一12八

*客列赤列- kele·čile-（通話）知らせる，話しを通す。

-周 -jü 九46七

客列列 kele·le（説）[kele·le- の命令形] 二21二，23八；土22四，六，31二

*客列列- kele·le-（説）話す。

-惕坤 -dkün 九25四，五

-克薛泥 -gsen-i 三40一

-克先 -gsen 三31六

-古 -gü [→-kü] 十27五

-周 -jü 三1二，4九；四12九，13三；七21二，26五；八21四；九48一；土38四

-恢突舌児 -küi-dür 五48六

-舌侖 -rün 五3五

客列連 kele·le·n（説）[kele·le- の同時接合副動詞形] 二38四；四48三；九19七；十26一；土12七

*客列列克迭- kele·le·gde-（被説）[kele·le- の受動形]

-周 -jü 十24七；土50七

*客列列勒都- kele·le·ldü-（共説，教説）[kele·le- の対動形]

-惕坤 -dkün 土2一

-禿該 -tügai [→gei] 土38五

*客列列(勒)都- kele·le·ldü-（説話共）[同上]

-周 -jü 一22五

客列列勒敦 kele·le·ldün（説話）[kele·le·ldü- の同時接合副動詞形] 六49六，八

*客列列兀勒- kele·le·'ül-（教説）[kele·le- の使役形] 九48二

客列田 kele·ten（舌有的，言語毎有的，言語有的毎，言語有的）舌・言葉・情報をもつ（複数形）。七33九；九47十；十33一，35四

客列禿 kele·tü（話有的，舌有的，有語有的）舌・言葉・情報をもつ。五40六，43一，三

客列圖 kele·tü（言語有的）同上。土38三

客里 keli（幾時）いつ。六41七，九；八15三

客木 kem（限）限り，制限。八8四

客木格舌里惕 kemgerid（教砕了）七10一

客木客舌魯 kemkerü（破砕）副詞的状態言の一つ。砕細的動作の際に用いられる。〈→砍客舌魯〉七9八

*客木列- kem·le-（限）限る，制限する。〈→弁列-，坎列-〉

-周 -jü 八8六

客木田 kem·ten（限有的）限りのある。八8七

客篾徹 kem·eče（限行）[kem の奪格形] 土54三

客米耶(舌)児 kem·iyēr（限依着）[kem の造格形] 九33七

客捏 ken·e（任誰，誰行，任誰行，怎生）[ken '誰' の与位格形] 一14四，五；二9十，12五；三18八，19六；四24九；五43十；六37四，38十；七4一；十37一，三；土21二，三，26七，八

客捏徹 ken·eče（誰行）[ken の奪格形] 八28二，三

客泥 ken·i（誰行）[ken の対格形] 土21四；土32五

客納 ken·ü（誰的）[ken の属格形] 一12八；五36一，49二；六38七；八12五；土23七，八，31七

-挨 -'ai[→-'ei] 一18三

-延 -yēn 土42二

客児 ker（怎生）どのように；いかに。一37五，七；二3九，8五，9四，12六，15五，十，20五，24十

客舌児 ker（怎生，怎做，怎）同上。三4二，21一，39四，50五；四7三，9五，18八；五5十，6五，7三，13四，15一，19四，44二，七，46六；六51三，七；七11六，15四，16十，23四；八13八，31八，34二；九7二，15五；25一，27八，49三；十7三，24四，27七，37七，38一；土6一，20四，22七，30八，31四，35九；土5四，29九，47八，56九

-別舌児 -ber 四42二

客(舌)児 ker（怎生，怎）同上。三4四；九28五；土22十

*客舌列- kere-（闘）争う，闘う。
-周 -jü 七27四
*客舌列勒都- kere·ldü-（閉殴，闘殴）争い，闘い合う。[kere- の対動形]〈→gere-ldü-〉
-額速 -'ēsü 九45五；土46七
客舌列克 kereg（所用）必要（なもの・こと）。土55四
-禿 -tü 土5一
客舌列(克) kereg（用）二14一 同上。
客舌列吉顔 kereg·iyān[→iyēn]（用自的）[kereg の再帰格形] 三16二
客舌列勒 kere·l（闘）争い，闘い。七27四
客舌列門 keremü·n（青鼠）栗鼠。一6一；六44三
客舌列兀舌里 kere·'ŭr·i（闘殴的行）[kere'ŭr '闘争' の対格形] 五21四
客舌里額 keri'ē（老鴉）鴉。三47六；八12十；九3十〈→keire'ē〉
*客薛- kese-（戒）懲りて用心する。
-惕坤 -dkün 一33七
*客薛額- kese·'ē-（懲戒）[kese-の他動・使役形]
-周 -jü 八30七
*客薛額克迭- kese·'ē·gde-（懲戒）[kese·'ē- の受動形]
-古 -gü[→-kü] 土45九
客石格徹 kešig①·eče（分子内）[kešig '賜物，供物；恩賜；福' の奪格形] 二2二
客失克 kešig②（班，直班，直，宿衛）当番，宿直（昼間の）。七20七，21四；九33五，34五，37一，二²，三，四，五，六，40十，41二，三，五，七²，九，十，42一，三，五，43二，45九，十，46九²，47四；土40八，九，41二²，四，六，七，八，九，十，42一²，三，四，九²，十，43四，六，七，44一，三，五，九，45一，三
-圖舌児 -tür 土42十
-圖(舌)児 -tür 九37一，42九
*客失克列- kešig·le-（輪班）当番・宿直にする，当番になる。
-克薛惕 -gsed 九41八
-克先 -gsen 土44八
客失克連 kešig·le·n（輪直）[kešig·le- の同時接合副動詞形] 七20十
客失克帖捏 kešig·ten·e（宿衛的毎行，護衛行）[kešig·ten の与位格形] 九42九；土45二，四
客失克帖泥 kešig·ten·i（護衛的行，護衛的毎行，護衛行，班有的行）[kešig·ten の対格形] 九40一，41一²，二²，三，四，五²，九，43五，九；十3七，九，十；土14六，15三，44八
客失克帖訥 kešig·ten·ü（護衛的）[kešig·ten の属格形] 土37一，46五
客失克田 kešig·ten（宿衛的，護衛，護衛毎，護衛的毎，護衛毎的，輪班，扈衛）当

番・宿直に当る者達。七2九，18十，19六，20六，21九； 九31八，32一，三，39十，43二； 十9八； 土45三，46四，47七

-突舌児 -dür 土46六

-突(舌)児 -dür 九45三

-禿 -tü 九31四

客失克禿 kešig·tü（護衛有的，扈衛有的，班有的）当番・宿直に当った。九41十，42二，五，45一； 土43十，44二

-突(舌)児 -dür 九45五

-宜 -yi 九42一； 土45六

-因 -yin 九45三

客失昆 kešig·ün（班的）[kešig の属格形] 九41八，42四； 土40八，44四

客失兀惕 kešiʼŭd（班每）[kešig の複数形] 土41九，42二

客失兀敦 kešiʼŭd·ün（護衛的每，班每的，班的每，班的）[kešiʼŭd の属格形] 九40十，41六，42八，十，43三，45九； 土43二，44八，九，十，45五，六

客帖 kete（火鎌）火打ち金。二25九

客禿格勒穫 ketügelǰa·n[→ǰe·n]（横越）[ketügelǰe- '横切る（何度も）' の同時接合副動詞形] 九47二

*客禿勒- ketül-（渡）渡る。

-罷 -ba[→-be] 一38一

-周 -ǰü 一1四； 五31十； 六29六； 七31五； 土41七，52一

*客禿魯- ketül·ü-（渡）同上。

-額惕 -ʼed 三13七

-舌倫 -rün 八3四

客禿倫 ketül·ü·n（渡，渡的，渡着）[ketül- の同時接合副動詞形] 八3六，7七； 土20八，49九； 土16一

客禿思 ketüs（渡過，横越着）横切って。七38四； 土31八

客兀舌児格 keʼŭrge（鼓）小太鼓。土39七

客兀(舌)魯 keʼŭrü（砕）副詞的動態言の一つ。ものを砕き割る際に用いられる。四94九

客兀思 keʼŭs（横断）副詞的動態言の一つ。また横断的動作に際し用いられる。四31三

*客亦思- keyis-（刮）吹きとぶ。〈→keiyis-〉

-周 -ǰü 一19八

-帖列 -tele 三21六； 土5十

客亦思干 keyis·ga·n[→ge·n]（刮）[keyis- の他動・同時接合副動詞形] 二25六

客亦思堅 keyis·ge·n（ナシ）[同上] 五1五

客亦速木薛児 keyis·ü·müser（曽刮）吹かれることのない。一37四

克 kei（風）風。一19六，37三； 七33十

媽舌列額 keire'ē（老鳥）〈→keri'ē〉三18二

*克亦思- keiyis-（風刮）吹きとぶ。〈→keyis-〉
-恢突舌児 -küi-dür 三6一
坎客侖 kam[→kem]kel·ü·n（撞砕）[kemkel-'砕き割る'の同時接合副動詞形] 九1六
砍客舌魯 kam[→kem]kerü（砕）〈→kemkerü〉七43三
*弇列- kam[→kem]le-（限定）限る，限定する，制限する。[→kemle-，坎列-]
-克先 -gsen 三54二
*坎列- kam[→kem]le-（限定）[→kemle-，弇列-]
-克先 -gsen 九33七
虔 ken（誰）誰。一48九；四49五；五36四；七36三，37五，39五；八30五；九48三，四，五；十44九；三17一，22九，39七，57二
-突舌児 -dür 七7十；八13八
-途児 -tür 一42八
*乞- ki-（做，等，説，盛）する，行う。
-罷 -ba[→-be] 四15七
-額速 -'ēsü 八21七
-額惕 -'ēd 二35八；四6十；五9三，12十；六1四；七44一；十23一
-克先 gsen 八47一
-周 -jü 一15十，37七；三2八；四27七；六16八，34三
-恢突舌児 -küi-dür 十2四
-恢突(舌)児 -kūi-dür 十2三
-坤 -kün 五13四，15二，19四；七15四，23四，26九
-列額 -le'ē 八23三
-禿該 -tügai[→gei] 九46十；三50二
勤 ki·n（做）[ki-の同時接合副動詞形] 十1八，2一；三25八
*乞克迭- ki·gde-（做，被做）[ki-の受動形]
-罷 -ba[→-be] 二4八；四18五
-克薛泥 -gsen-i 三4八
-魯埃 -lü'ai(→'ēi) 三30八
-舌侖 -rün 十34七
乞克顚 ki·gde·n（被做）[ki·gde-の同時接合副動詞形] 四9五，18九
*乞勤都- ki·ldü-（相做）[ki-の対動形]
-梅 -müi 二8四，12六
*乞兀勤- ki·'ül-（教做）[ki-の使役形]
-周 -jü 十37七
乞卜[1] kib（意快）満足。三23十
乞不兀的牙舌児 kibu'ūd·iyār（熟絹教）[kib[2]'極めて薄い絹布'の複数・造格形] 三7三

乞赤昂古 kičí'ānggü[→'ēnggü] (謹愼的) 謹勉な，努力する。土18四
*乞赤額- kičí'ē- (謹愼) 努力する，努める，精励する。〈→kičiyē-〉
-周 -jü 九21七
*乞赤耶- kičiyē- (謹愼) 同上。
-古 -gü[→-kü] 土57三
乞赤延 kičiyē·n (謹愼) [kičiyē- の同時接合副動詞形] 土26一
*乞都- kidu-~qidu- (殺，尽殺，夷滅) 殺りくする。
-阿揚 -'ād 土38十; 土20十,
-罷 -ba 五1五; 土13四
-周 -ju 五19八; 土2五，13四; 土6一，27七
-主為 -ju'uį 土4八
-中忽泥 -qun-i 八4六
-中灰突舌児 -quį-dur 五20七
-(中)灰突舌児 -quį-dur 九12七
-牙 -ya 五19八，20二
乞敦 kidu·n (尽絶) [kidu- の同時接合副動詞形] 五20九
*乞都兀勤- kidu·'ūl- (尽殺) [kidu- の使役形]
-周 -ju 八4六
乞都阿赤 kidu·'ači (好殺的) 殺し好きの; 戦闘的な。六41八
*乞古舌里- kigüri- (縁) 横断する。
-周 -jü 六45三
乞札阿舌児 kiǰa'ār~qiǰa'ār (辺) 境，縁，辺。〈→kiǰi'ār〉土40二
乞札阿舌剌 kiǰa'ār·a (辺行) [kiǰa'ār の与位格形] 二30四
乞只阿舌児 kiǰi'ār (辺) 〈→kija'ār〉土37十，52四
乞只阿舌剌 kiǰi'ār·a (辺行) [kiǰi'ār の与位格形] 四3二; 八36二
乞真 kiǰin (縁着) 縁にそって。[動詞語幹 *kiǰi- が想定される] 七32七
乞勤八舌剌 kilbar·a~qilbar·a (容易行) [kilbar 'たやすい' の与位格形] 一14四，五
乞勤巴舌魯 kilbar·ū (容易麼，容易有) [kilbar の疑問形] 十7七，八
乞勤昆 kilgü·n (轅条，車轅) 車の轅。〈→kiligü, kilgü(n)〉七2一; 八14五; 九16二
乞勤中合孫 kilɢasu·n (尾上毛) 動物の粗硬な毛。
-巴児 -bar 一16五
乞里耶児 kil·iyer (透入光) [kil '物事と物事との境' の造格形] 一13三
乞里古 kiligü (車轅) 〈→kilgün, kilügü(n)〉一37二
乞《舌》零 kiling (怒) 怒り，憤り。
-都舌児 -dur 土34六
乞靈 kiling (怒) 同上。
-都舌里顔 -dur-iyān 十27六
*乞令剌- kiling·la- (怒) 怒る，憤る。[qiling·la- と転写すべきかと思える]

-周 -ǰu 四18八

*乞零剌- kiling·la-（怒）同上。

-周 -ǰu 十45六

*乞《舌》零剌- kiling·la-（怒）同上。

-阿速 -'āsu 十18一

-周 -ǰu 十31六，33九

*乞靈剌- kiling·la-（怒）同上。

-周 -ǰu 七31二，一47；十18六，27五，29五

*乞靈剌黑苔- kiling·la·Gda-（被怒）[kiling·la- の受動形]

-周 -ǰu 十31一

乞魯古 kilügü（轅条）〈→kilgün, kiligü, kilügün〉

-邊 -bēn 六23二

-台 -taị [→-teị] 六23一

乞魯昆 kilügün（轅条）〈→kilgün, kiligü, kilügü〉六23三

乞木勒 kimu·l~qimu·l（指甲）人の爪。〈→kimu(n)l〉十32一，三

乞木速 kimu·su~qimu·su（爪甲）動物の爪。

-阿舌里顔 -'ār-iyān 八7二

乞門勒 kimu(n)·l（指甲）〈→kimul〉一33八

*乞児中合- kirGa-~qirGa-（剃）刈る。

-舌剌 -ra 二45一

乞舌魯額[1] kirü'ē（聚馬）馬寄せ場，馬をつないでおく所。

-迭徹 -deče 十33二

-突舌児 -dür 九46六

乞(舌)魯額薛 kirü'ē·s·e（下馬）[kirü'ē の複数・与位格形]

-額徹 -eče 四8六

乞舌魯額[2] kirü·'ē（鋸子）のこぎり。十19七

*乞舌魯格迭兀勒- kirü·gē·de·'ŭl-（教鋸）[kirügēde-‘のこぎりで切る’の使役形]

-周 -ǰü 十19九

*乞撒- kisa-~qisa-（報）仇をとる，うらみを報ずる。

-周 -ǰu 五19七

乞三 kisa·n（報）[kisa- の同時接合副動詞形] 九12五；十20五

乞散 kisa·n（報）[同上] 一40二

乞撒勒 kisa·l（讎，寃，仇）うらみ，仇。〈→乞散勒〉一40二；九12五；十20五

乞散勒 kisa(n)·l（仇）同上。五19七

乞克[→失] kig[→-š]（怨）うらみ。

-田 -ten 四19四

乞失 kiši（寃）同上。

-田 -ten 九12四

乞禿中孩 kitucaị~qitucaị（刀，刀子，刀児）刀。五2八，20八；九14二，15七，八

-巴舌児 -bār 六34二；九14八

-[巴]舌里顔 -bar-iyān 二16二

-班 -bān 九13六，14三

亦牙舌闌 -yiyārān 五3三

*軽古勒- kinggül-（横断）切りさく。

-罷 -ba[→-be] 十24二

*軽古舌里- kinggüri-（截断）切りさく（続けざまに）。

-惕坤 -dkün 三46八

軽古舌魯 kinggürü（横断）[副詞的動態言。連続的な切断的動作を表わす。] 十29三

軽古思 kinggüs（横断）[副詞的動態言。瞬間的な切断的動作を表わす。] 三6三

勤勒巴児 ki(n)lbar（容易）容易な。一21九

*闊卜失勒都- köbši·ldü-（共寒）[köbši-‘凍える’の対動形]

-周 -jü 八40十；九8六

*闊多勒- ködöl-（動）動く，移動する。〈→歌多勒-〉

-主為 -jü'üị 四36六，七，八，九，37一

*闊多勒格- ködöl·ge-（動）[ködöl-の使役形]

-額惕 -'ed 四37五

*可乞- köki-（軽驚動）こわがる，すぐ驚く。

-迭克 -deg 三5八，6四

*闊乞- köki-（驚）同上。

-周 -jü 三32七

*可乞兀勒迭- köki·'ül·de-（被挑）[köki-の使役・受身形]

罷 -ba[→-be] 六21九

*闊乞兀勒迭- köki·'ül·de-（挑唆）[同上]

-周 -jü 八17四

闊闊 kökö[1]（青）青(い)。二27三；四49十；六34十，35二；八31二，四

闊闊 kökö[2]（乳）乳房。〈→köken〉十29十，30一

闊闊惕 kökö·d（乳毎）[kökö（乳）の複数形] 十30二

闊闊的顔 kökö·d·iyān[→iyēn]（乳毎自的）[kökö·dの再帰格形] 十29六

闊刊 kökan[→ken]（乳）〈→kökö〉十29八

*闊闊- kökö-（乳）乳を吸う。

-克先 -gsen 十29八

*闊可- kökö-（咂）同上。

-周 -jü 七35二

闊惕 köd（脚）足々。[köl‘足’の複数形] 二46七

闊勒 köl（脚）足，脚。五41三；七12一；九43九；十43五；十27二，46一，47一，55九

-突舌児 -dür 八46四

-都舌里顔 -dür-iyān[→iyēn] 八29一; 九11三
-禿 -tü 八24三
-圖児 -ṯür 二24九
闊里顔 köl·iyān[→iyēn] (脚自的行) [köl の再帰格形] 六13六; 八37七
可里耶舌児 köl·iyār[→iyēr] (脚用) [köl の造格形] 四27二
*闊勒- köl- (駕) 家畜に車をつなぐ。
-古 -gü[→-kü] 土54
-周 -jü 三38八; 十28八
*闊(勒)- köl- (駕) 同上。
-周 -jü 二44七
*可勒格- köl·ge- (駕) [köl- の使役形]
-周 -jü 一44九, 45二
*闊勒赤舌児格- kölčirge- (瘟病) [この語, köl čirge- '足をひきずる→疲労する' と解すべきか]
-梅 -müi 土5八
*闊勒迭- kölde- (拿) 足をつかむ。
-周 -jü 五41三
闊勒格 kölge (駕車的) のりもの。十41三
闊列孫 kölesün (汗) 汗。土25十, 26一, 46三
可門(勒)都児格 kömü(n)ldürge (抜胷) 胸がい, 胸あて。二15五
*可門勒都児格列- kömü(n)ldürge·le- (抜胷依旧扣) 胸がいをつける。
-克薛額児 -gse'ēr 二15三
*闊舌児別- körbe- (翻) ひっくりかえる, 覆える。
-周 -jü 土24三
闊舌里速 körisü (地皮) 土壌; 地表; 外皮。
-台 -taị[→-tej] 土24三
闊薛舌列 köser·e (地行) [köser '土地, 地' の与位格形] 四47五; 土47一, 55九
闊薛舌列徹 köser·eče (地行) [köser '土地, 地' の奪格形] 九11三
闊雪舌児 kösör (ナシ) 土地; 曠野 〈→köser〉
-途舌児 -tür 三44一
闊脱臣 kötö·či·n (家人毎, 伴当) 従者, 下僕。八4九; 土46五
《中》闊脱臣 kötö·či·n (伴当) 同上。九45三
闊脱傷 kötö·d (従馬) [kötö(n)l の複数形] 七32六
可圖勒 kötö(n)l (従馬) 余分の牽き馬。二43九
団闊勒 kötö(n)l (従) 同上。一47三
*可脱勒- kötöl- (牽引) (馬などを) 行く。
-周 -jü 一9二
*闊脱勒- kötöl- (牽) 同上。

-周 -ǰü —37—

*可脫(勒)- kötöl- (牽) 同上。

-周 -ǰü 二15二

*闊脫(勒)- kötöl- (牽) 同上。

-周 -ǰü 二28四

*闊脫魯- kötöl·ü- (牽) 同上。

-額惕 -'ēd 七6四

闊脫勒壇[→田] kötöl·tan[→ten] (牽一匹従馬) 従馬をもった (者)。[複数形] 土3二

可兀 kö'ü̈ (児, 子, 児子) 子; 息子。〈→kö'ün〉 一47一, 二, 49五; 三1五, 13九; 五32三, 34五, 36八, 40七; 六16七, 九, 29八, 31二; 九8三; 土16九

-別延 -beyēn —44—

-邊 -bēn —47—, 49—; 二1五, 34七, 八, 41七; 三1五; 五13八, 33七, 44一; 六16—, 33十, 44十; 七37六; 土18二

-禿 -tü 一7五; 五36六

可兀捏 kö'ü̈·n·e (子行, 児子行) [kö'ü̈(n) の与位格形] 六34三, 52五; 十16一

可兀捏扯 kö'ü̈·n·eče (幼小人行) [kö'ü̈(n) の奪格形] 二17六

可兀捏徹 kö'ü̈·n·eče (児子処) [同上] 四28十

可兀捏扯延 kö'ü̈·n·eče·yēn (子処, 子自的行) [kö'ün·eče の再帰格形] 五33五; 六15四, 33一

可兀泥 kö'ü̈·n·i (児子行, 児子, 子行) [kö'ü̈(n) の対格形] —24六; 三32十, 50四; 五36六, 41一, 42四, 44七, 50五; 六17六

可兀泥顔 kö'ü̈·n·iyān[→iyēn] (児自行) [kö'ü̈(n) の再帰格形] —46九

可兀你顔 kö'ü̈·n·iyān[→iyēn] (児子自的行) [同上] 二41五

可兀訥 kö'ü̈·n·ü (児子的, 子的) [kö'ü̈(n) の属格形] 一42九; 六16四, 五, 52九; 九14九, 15三, 九

可兀訥延 kö'ü̈·n·ü·yēn (子自的行, 子自的) [kö'ün·ü の再帰格形] 五34八, 44五; 六31四

可兀惕 kö'ü̈·d (子, 子每, 児子, 児子每, 孩子, 大王, 大王每) [kö'ü̈(n) の複数形] 一7七, 10五, 九, 11二, 三, 12七, 八, 14二, 27十, 28四, 29三, 七, 30四, 31三, 九, 41五, 45七, 49—; 二5五, 6三, 八, 8七, 13七, 20四, 21十, 23三, 43三, 47—; 三20九; 五2四, 五, 4六, 八, 5三, 6八, 32十; 八2十, 3十, 6七, 12五; 九32四²; 十3八, 4六, 26十, 40五; 土21十, 42—, 44三, 45二, 六, 八, 46七, 九, 50五; 土2一, 三, 八, 13七, 八, 九, 16九, 十, 27六, 52—, 三

-魯額邊 -lü'ē-bēn 四6三; 五1九, 2二, 6十; 七45五; 九27五, 十; 十38四

-帖 -te 八30三; 九33三, 八, 九, 十; 十22七; 土21五

-帖延 -te-yēn —14—; 四24八

-途(舌)児 -tür 四29一

可兀(惕) kö'ü(·d) (子每) [同上] 二6四

可兀勒(→惕) kö'ü·l[→d] (子) [同上] 一13五

可兀迭扯 kö'ü·d·eče (子処) [kö'ü·d の奪格形] 三44三

可兀迭徹 kö'ü·d·eče (大王処, 大王每処) [同上] 十22八, 33四

可兀的 kö'ü·d·i (子每, 子每行, 児每, 児每行, 児子每, 児子每行, 児子每的[→行], 児行, 児子行, 人行, 大王行, 大王每行) [kö'ü·d の対格形] 一12七; 二2一, 3二, 五, 5六, 43二; 四4十; 五27六; 六7十; 七19一, 二; 八6四, 9八; 九32六, 八, 九, 十, 36一; 十9九, 11六; 十一41六, 44六, 七, 46一, 八, 50七; 十二8四, 16五, 六, 18六

可兀的顔 kö'ü·d·iyān[→iyēn] (子自的行, 子自的每, 子每行, 子每自的行, 児自的, 児自的行, 児子自的行, 児子每自的行, 児每自的行) [kö'ü·d の再帰格形] 一11九, 32六; 二46七, 十, 11十², 12七, 46十; 三21一; 四17七, 22六; 五3五; 六21五, 44十

可兀的耶舌連 kö'ü·d·iyēr·ēn (児子自的行) [kö'ü·d の造格・再帰格形] 三35三

可兀的耶舌里顔 kö'ü·d·iyēr·iyān[→iyēn] (児子自的行, 児子每自的行, 子每自的行) [同上] 四22一; 八2一; 九23五, 24二

可兀都延 kö'ü·d·ü·yēn (児子每自的, 児子每自的行, 児子自的, 児子每行) [kö'ü·d の再帰格形] 九11七; 十43九; 十一21四; 十二16九, 17二, 三, 七

可兀敦 kö'ü·d·ün (児子的, 児子每, 児子每的, 児的, 子每的, 子每行[→的], 大王的) [kö'ü·d の属格形] 一33四²; 四25四, 六, 28六, 47七; 六23七; 九4六, 17三; 十16五, 22四; 十一22三, 23十, 28六, 29一; 十二17五, 七, 18五, 29五

可兀赤連 kö'ü·čile·n (做児, 做児子) [kö'ü·čile- '子とする' の同時接合副動詞形] 八29二; 九11四

可兀客都延 kö'ü·ke·d·üyēn (児子每行) [kö'üked の再帰格形] 二11二

可兀客泥 kö'ü·ken·i (小児行, 児行, 児子行) [kö'üken '子供' の対格形] 三24一; 四17一, 四, 23五, 24三, 四, 六, 七; 九13四

*可兀列- kö'ü·le- (児生) 児を生む。

-畢 -bi 一23六

可兀舌児格 kö'ürge (鼓) 小太鼓。

-邊 -bēn 三7九, 8四

-因 -yin 三5八

可温 kö'ün (子, 児, 児子, 後生, 幼小) 〈→kö'ü〉 一1九², 十², 2一², 二, 六, 七, 九, 7二, 23七, 八, 九², 十, 24七, 八, 25九, 26九², 27四, 五, 六, 八, 28二, 26四, 五, 30三, 四, 十, 31四, 十, 32六, 43一, 二, 45七, 48九; 二17五, 28十, 29二, 十, 33十, 34九; 三6六, 21七, 34一, 35五, 41七, 八, 九; 四12八, 17六, 八, 21九, 25五, 28八, 九, 30九, 34六, 36六, 47十; 五2八, 27四, 35八, 十, 36五, 八, 37一, 38九, 41七, 44

四，46八，48十；六17五，27六，30一，五，35六，十，38五，六，七，八，39九，十，42六，46二，52六，七；七10四，39六；八1三，八，36五；九7二，13八，21五，36八，九；十12八，13一；土22九，24五，30四

-別延 -beyēn 一9二，六

-突舌児 -dür 五14九，十，42十，六3二，5三

-都舌里顔 -dür-iyān[→-iyēn] 七26五

-魯額邊 -lü'ē-bēn 三36一

-泥 -ni 一10一

*闊亦惕- köyid-（謀起）謀る，画策する。

-抽 -čü 八22一

闊亦田 köyi·ten（寒）寒い。八40十

闊亦由[→田] köyiyü[→ten]（寒）同上。九8六

*款迭- könde-（動）さわる；刺戟する；（事を）あらだてる。

-罷 -ba[→be] 六20五

-額速 -'ēsü 二12一；九43六

款顚 könde·n（動）[könde- の同時接合副動詞形] 土37七，九

*款帖- könţe-（動）〈→könde-〉

-額速 -'ēsü 土45八

寬迭列捏徹 köndelen·eče（(横行）[köndelen '横(の)' の奪格形] 土13二

欠[→款]迭列捏徹 kö[→kön]delen·eče（自横裏）[同上] 五40九

款迭列都 köndele·dü（莫是横）横の，傍の。

-由[→-因] -yu[→-yin] 六21九

款多列都 köndöle·dü（被傍人）横の，傍の(者)。

-迭 -de 八17三

款只列 könǰile（被，被子，被児）かけもの，褥。四14四

-迭延 -deyēn 三28八；土24四

-亦顔 -yiyān[→-yiyēn] 十36二

匡格連 köngge·le·n（軽）[köngge·le- '軽くする' の同時接合副動詞形] 六1四

匡失列篾勤 köngšile·mel（臙）塩づけの乾いた臭気のある。一11七

窟出鼬捏 küčügene（小鼠）小さな鼠。三18九

窟出古児 küčügür（野鼠）山野に住む野鼠。二27四

曲魯克 külüg（俊傑）俊馬，俊傑。八19五

曲魯吉 külüg·i（豪傑行）[külüg の対格形] 八37九

曲魯吉耶舌児 külüg·iyēr（豪傑教）[külüg の造格形] 八36六

曲魯昆 külüg·ün（豪傑的）[külüg の属格形] 八37八

曲魯兀惕 külü·'üd（傑每，傑，俊傑每）[külüg の複数形] 五34四；六31一；土21四

曲駿兀惕 külü·'üd（駿）同上。一2八

曲魯兀的 külü·'üd·i（傑）[külü'üd の対格形] 五33八，34二

曲魯兀的顏 külü·'ŭd·iyān[→iyēn]（傑自的，傑自的行）[külü'ŭd の再帰格形] 五34一，九；六30五，31五；九2一

曲魯兀的耶里顏 külü·'ŭd·iyēr·iyān[→iyēn]（傑自的行）[külü'ŭd の造格・再帰格形] 六30八

曲魯兀敦 külü·'ŭd·ün（傑的）[külü'ŭd の属格形] 六30九

*枯児格- kür·ge-（送到）到らす；とゞける，送る。〈→古舌児格-〉

-周 -jü 二37六

枯舌魯 kürü（石）大石。二1一

窟兀児格 kü'ŭrge（扇爐的風匣）ふいご。

-邊 -bēn 二41四

恢亦徹- kŭiyiče-（趕）追いつく。〈→güiyiče-, güyiče-〉

-周 -jü 二32二，七

坤都 kündü（重）重い。四47五；七28一；八21八

-帖 -te 二5九

孔客- küngke-（離的遠）遠ざかる。

-禿該 -tügaį[→tügeį] 六51八，52二

孔客温動- küngke·'ŭ(n)l-（離遠）[küngke- の他動・使役形]

-周 -jü 二50二

孔牽 küngke·n（逃出）[küngke- の同時接合副動詞形] 四45二

# l

老撒速惕　laṷsa·s·ūd（騾）［laṷsa ‘騾馬’ の二重複数形］。ヒ27三

## m

*馬勒塔- malta-（跑）堀る。八7二
馬里安 mali'ā·n（侍奉）［mali'ā- '仕える，かしづく' の同時接合副動詞形］ 八34五
*馬里牙- maliya-（祭祀）バターなどを塗って祝福する。
-速中孩 -sugaị 二51二
馬納 man·a（俺行）我々に。［ba(n) '我々' の与位格］ 九11七; 十21五
-兀 -'ū 五43十
馬納中合児 manaGar（明，明日，清早，毎早）翌日，明日。二20七，九，28九，29二，42五，51二
馬納中合舌児 manaGar（明，明日，明早，清，清早，早）同上。三45六; 四34九; 五31六，47三，48一; 六29三; 七29三; 八20十; 十26一，44五; 十1十
馬納(中)合[児]石 manaGa[r]·ši（明日）翌日。一46五
馬納中合児石 manaGar·ši（明日行）同上。二3三
馬納中可(舌)児石 manaGar·ši（明日）同上。四35五
馬納中[舌児]石 manaGa[r]·ši（明，明早）同上。七43五
馬納中合舌児石 manaGar·ši（明，明早）。四47二; 六1八; 九16七; 十34一，35二
馬納中合舌里 manaGar·i（早行，明早行）朝; 翌日。六40四; 七21一; 九47三
馬納中合舌魯 manaGar·u（明早，明，早晨）翌日; 明日。五29九; 六28十; 十44四
馬納中合舌倫 manaGar·un（清早的）［manaGar の属格形］ 三45四
馬泥 man·i（俺行）我々を。［ba(n) '我々' の対格］ 二20九; 九15一; 十47一
馬訥 man·u（俺的）我々の。［ba(n) の属格］ 一45七²; 二4七; 三43十，44一，三; 四20七; 六21二; 七47九; 十5十，42一
-埃 -'āị 九15四
馬(中)合 maGa（知他，莫不）はて～だろうか。一19五; 八21八
馬中合 maGa（不知，莫，莫不，且）同上。五22九，44七; 七12一，二，四，28八，九; 八44一; 九11九; 十44六; 十23一，31六，36一，四; 十3一
馬中合惕 maGad（実）確かに。二49九
馬(中)合惕 maGad（真実，実）同上。五49七; 十43三
馬中合来 maGalaị（帽，帽子，皮帽）帽子。四39六; 十28十，29四，39一
-班 -bān 二51四
-因 -yin 十29六
馬中帖来 maGalaị（帽児）同上。
-禿 -tu 三23八
*馬中孩- maqaị-（ナシ）努力する，奮い立つ。
-周 -ju 十45五

馬舌剌阿　mara'ā（肌膚）〈→mariyā〉 土2七
馬舌剌安　mara'ān（仔細）細く詳べる。[mariya- と同根か？] 七47二
馬舌闌勒　mara(n)l（鹿）牝鹿。一1四
馬舌闌《舌》侖　mara(n)l·un（母鹿的）[mara(n)l の属格形] 三23八
馬舌里牙　mariyā（肌膚）肌，皮膚。土2二，5三，11一
　-班　-bān 土1九
馬舌里顔　mariyā·n（皮膚）同上。
　-納察　-nāča 七48一
*馬舌里牙-　mariyā-（窺覘）ひそかに窺う。
　-周　-ǰu 一16八
　-主兀　-ǰu'ū 七6一
馬石　maši（好生）大変，とても。二1三，12八，29八，36十，37一，40一，51一；四15四，八，18八，37十；五20五，21二；七47一；十12六，18六；土4五，13十，17二，三，39十，40五；土1九，13三，31六
　-古　-kü 五20九
*馬危剌-　ma'ūi̯·la-（煩悩）怒る，気にくわない；叱責する。
　-周　-ǰu 五44四；九2七；十27九
*蠻都-　mandu-（長進）育つ；（日が）昇る。
　-塔剌　-tala 十37五
蠻途児　man·ṭur（俺行）我々の処に。[ba(n) の与位格] 一19四
忙吉児速　manggirsu（薤）山葱。
　-阿児　-'ār 二6七
忙吉児速你牙児　manggirsu·n·iyār（薤教）[manggirsu(n) の造格形] 二6二
莽剌納察　mangla·n·ača（頭哨処）[manglan の奪格形] 四33四
莽来　manglai̯（額，頭哨，為頭）額；先鋒。一3四；四33二，四；土37二，38五；土20九
　-突児　-dur 土26一
　-禿　-tu 三26九
　-壇　-tan 七33九
　-因　-yin 土25十，46三
*莽来剌-　manglai̯·la-（先鋒，教做先鋒）先鋒とする。
　-周　-ǰu 六8五
　-牙　-yā 六7七
莽来闌　manglai̯·la·n（為頭，先鋒）[manglai̯·la- の同時接合副動詞形] 六5六，8二；土12五
莽闌　mangla·n（頭哨，頭哨毎）先遣隊。[manglai̯ の複数形] 四33九，34五，八²
莽中忽思　mangGus（蟒）妖怪，魔物。七38九
蟒(中)古思　mangGus（莽蛇）同上。二11七

卯兀 maṷ'ū (歹) 悪い。三18六, 八, 十, 19二
*卯兀剌- maṷ'ū·la- (煩悩) 叱責する。
-畢 -bi 二12八
*卯兀剌動都- maṷ'ū·la·ldu- (煩悩) [maṷ'ū·la- の対動形]
-周 -ǰu 一6二
卯兀納 maṷ'ūn·a (歹毎行) [maṷ'ū[n](maṷ'ū の複数形) の与位格形]十21六
卯兀中合鄰 maṷ'ū·qa·lin (相怪) 仇, 不仲者。四9七
卯兀中罕 maṷ'ū·qan (歹) 悪い。[maṷ'ū の強意形] 七22十, 25一
卯兀壇 maṷ'ū·tan (歹毎有) 悪い。[maṷ'ūtu, maṷ'ūtaị の複数形] 七11九
卯危 maṷ'ūị (歹) 悪い。一21八, 48三, 四, 八, 49三; 三18四, 20十, 45九; 五42六, 44二; 六22十, 33十; 七10二, 五, 44三; 八46三; 十32四
卯危剌- maṷ'ūị·la- (煩悩, 恚) あきたりない; 叱責する。
-周 五44四; 九2七; 十29七
卯温 maṷ'ūn (歹) 悪い。[maṷ'ū の複数形] 六21五[2]; 十37五
篾迭 mede (知者, 知, 管) [mede- の命令形] 一49四; 八32二; 九9二; 十38一; 十5六
*篾迭- mede- (知, 知道, 管, 教管, 教儘) 知る; 支配する。
-罷 -ba[→-be] 四11四
-惕坤 -dkün 五44九
-額惕 -'ēd 四4四, 11五, 15四; 十28七; 十43七
-克先 -gsen 七29五
-古 -gü[→-kü] 五36四; 七28十; 九7二; 十7一
-周 -ǰü 二37一, 39七; 三5三, 四; 六19五, 26九; 八36五, 41十, 48二; 九22六, 36六, 41一, 二, 四, 五; 十18一, 六, 21六, 31五; 十12三, 13五; 十26八
-坤 -kün 四35七; 十16九, 十
-木者 -mü~je 十21七; 十22七
-帖列 -tele 十7九
-禿該 -tügeị 三12九; 四16一; 五34十; 六7十, 12二, 25九, 49七; 八31十, 38五, 40三, 42二; 九24四, 28十, 29二, 38六, 五, 七, 八, 39二, 三; 十21七, 23四; 十24八, 30九, 32十, 36一, 二, 40七, 42四, 49八
*篾迭克迭- mede·gde- (教知, 可得) [mede- の受動形]
-罷 -ba[→-be] 六51三
-古 -gü[→-kü] 十6一
篾迭古迭徹 mede·kü·deče (管的行) [medekü の与位・奪格形] 十40六
篾顚 mede·n (管, 知) [mede- の同時接合副動詞形] 一32五, 七; 六35八[2], 36三; 十50七; 十43三[2]
篾迭額 mede'ē (知) [mede- の未完了形動詞形] 十28三

*篾迭舌列- mede·re- (教知) その通りと自ら認める。
-周 -jü 四20八
*篾迭舌列兀勒- mede·re·ŭl- (教知) [mede·re- の使役形]
-周 -jü 四20九
篾迭兀勒 mede·'ŭl (教管, 教官) [mede·'ŭl の命令形] 十32十, 33一, 二²
*篾迭兀勒- mede·'ŭl- (教管, 教官) 知らせる。[mede- の使役形]
-罷 -ba[→-be] 九29一, 十
-古 -gü[→-kü] 五43十²
-周 -jü 十12四, 33三
-坤 -kün 六39一; 十37一, 三, 六; 十22七
*篾迭兀魯- mede·'ŭl·ü- (教管) 〈→mede·'ŭl-〉
-額速 -'ēsü 三39六
篾迭兀侖 mede·'ŭl·ü·n (教知, 教管) [mede·'ŭl- の同時接合副動詞形] 十31三; 十
6五, 50十, 51二, 四
篾都昔 medü·s·i (般毎行) 〈→metü·s-i〉 三21八, 九
篾格只連 megejile·n (扼着) [megejile- '手で絞める' の同時接合副動詞形] 四27九
*篾古迭- megü[→kü]de- (欠) 足りなくなる。
-速 -sü 三45六
*篾古迭兀勒- megü[→kü]de·'ŭl- (欠少) [meküde- の使役形]
-速該 -sügei 三45四
篾担 mene (繁多, 頻煩) 沢山, 続々。一24八; 十46八
篾(舌)児 mer (傷) 傷。四9六
篾児干 mergan[→gen] (能) 才能ある。二5七
篾薛 mese (器械) 刃物, 刃剣類。
-都舌里顔 -dür-iyēn 十18一
-思 -s 十18二
篾禿 metü (ナシ) ～のように, ～の如く。一24八
篾圖 metü (般) 同上。一13三, 14三², 四, 19七; 二8七, 11五, 六², 七², 八², 十,
12一, 二², 三, 18七, 39六, 九; 三1九; 五4二², 16一, 34七, 36十;
六13七, 17三, 23三, 五, 30六, 34一; 七3九, 29十, 33四, 35三, 36二,
八; 八10九, 十, 31七, 44四, 47一; 十3五, 12四, 五, 24二², 36九,
十, 37一, 二, 三; 十21一, 二², 三, 27二, 三, 30七, 46七, 八; 十23
二², 32一, 34八, 35一, 六
-突舌児 -dür 六16三, 四
-思 -s 六5四 [metü の複数形]
-思 -s 六3二; 十36八 [同上]
篾禿薛 metü·s·e (般毎行) [metü·s の与位格形] 九31二
篾禿昔 metü·s·i (似他般的毎, 般毎行) [metü·s の対格形] 〈→medüs·i〉 五26五;

九32五

篾圖昔 metüs·i (般每行) [同上] 八9三

*米跌舌里- mideri- (踢) 蹴る。

-周 -ǰu 四23二

米納阿 mina'ā (鞭, 鞭子) 鞭。土32六

-壇 -tan 七33十

米訥 minu (我的) 私の。一12七, 13二², 14二, 33八, 35十, 37三, 42九, 43六, 九, 十, 45八², 47一, 二, 48八, 十, 49三, 五²; 二2一, 10三, 11三, 22一, 29九, 32四, 33九, 十, 39五, 八, 51三; 三1五, 4七, 5三, 四, 19五, 20九, 21四, 22七, 38五, 40二, 48八, 49—², 49七, 50四; 四1九, 7七, 9六, 12八, 40八, 41七, 42一, 四, 43三, 五, 八, 九, 46二, 四, 47十, 48一, 49四, 50七, 九; 五3六, 4六, 30六, 九, 33九, 34九, 35七, 八, 九, 36四, 五, 40六, 42八, 十; 六5五, 7十, 16四, 21三, 四, 八, 十, 22四, 八, 九, 24七, 九, 十, 25五, 六, 26九, 27五, 29一, 30四, 五, 九, 31一, 三, 六², 34三, 六, 37二, 38八, 39二², 三, 46二; 七3八, 6六, 10四, 五, 八, 15七, 19五, 六, 33六, 36五, 八, 42四, 48三, 六; 八13二, 五, 14九, 18一, 19四, 九, 20四, 九, 21三, 31七, 35六, 37六, 38—², 46十, 47二; 九4六, 8九, 9九, 11一, 九, 15五, 17二, 三, 21六, 22二, 26三, 43四, 九, 45一, 二, 三, 四; 十1二, 四, 五, 六, 八, 九, 2一, 二, 四, 五, 六, 3五, 六, 七, 八, 4一, 7四, 六, 16五, 22九, 十, 29十, 30三², 五², 34八, 35七, 37四, 五, 43四, 五; 土17四², 22三, 28七, 31六, 33三², 七, 48一; 土8八, 11二², 14六, 23八, 24六, 36十, 42五, 45六, 46四, 五, 六, 55一, 三, 56二, 三, 四, 八, 十, 57一, 二

米中合 miqa (肉) 肉。七34一, 二; 八12七; 土13七; 土39九

-阿舌児 -'ār [miqa の造格形] 七33六

-巴舌児 -bār [仝上] 七37七

米(中)合 miqa (肉) 同上。一8九

米(中)合納察 miqan·ača (肉裏) [miqa(n) の奪格形] 一9六

米中罕 miqan (肉) 肉。十4十

敏中合 minɢa (千) 千。九7二, 六, 29十, 30九, 36四, 六; 土40七

敏中合訥 minɢa·n·u (千的) [minɢa(n) の属格形] 七18四

敏中合惕 minɢa·d (千, 千每) [minɢa(n) の複数形] 八26七, 八, 九, 41七, 48一; 九31八, 32二, 39七, 八, 九; 十23三, 四, 五, 六, 七; 土14五, 47八, 48六, 49三, 53二

-塔 -ta 九32二

敏中合荅察 minɢa·d·ača (千行, 千每行, 千処, 千每処) [minɢa·d の奪格形] 九31八, 35十, 39七; 十3五; 土47九, 49三, 53二

敏中合敦 minɢa·d·un (千的，千每的，千戸的，千戸每的) [minɢa·d の属格形] 七19一；八24十，25一，26十，27一，六；九30八$^2$，31一，32三，六，33三，34二，45一；十15六；廿13十，16十，46三，52三

*敏中合剌- minɢa·la- (千做，做千戸，千戸做) 千戸にする。
-周 -ǰu 七18四，24八；九2九，30五，九
-禿中孩 -tuɢaị 七19五；九29七

敏中合闌 minɢa·la·n (千做了，千做) [minɢa·la- の同時接合副動詞形] 七18九，21七

敏中合里兀惕 minɢa·li'ūd (千戸每，千每) 九45四；廿46六 [mingɢaliɢ '千戸の人々' の複数形]

敏中合里兀歹 minɢa·li'ūd·aị (千戸每的，千的) 千戸の人々に属するもの。九45五
-宜 -yi 廿46七

敏中罕 minɢa·n (千，千戸) 六4三，四，5八，9三，18五$^2$，44二；七18四，八，21八；八24九，27七，43六；九2八，9二，37七，38五，六，七，八，十，39一，二，四$^2$

敏(中)罕 minɢa·n 同上。九38六

敏中干 minɢa·n (千) 同上。九33四

敏(中)干 mingɢa·n (千) 同上。六18五，七；十23八，31四

*抹赤吉- möčgi- (踏，踏蹤) 跡づける。
-周 -ǰü 二26六，28九，30二
-耶惕 -yēd 二26七

*抹(赤)吉- möčgi- (踏蹤) 同上。
-周 -ǰü 二47五

抹赤 moči (木匠) 大工。
-荅 -da 九30二

抹都 modu (木) 木。
-惕 -d 十19九

抹都的 modu·d·i (木每行) [modu·d の対格形] 二16二

抹都納 modu·n·a (木行) [modu(n) の与位格形] 〈→木都納〉 八39七

抹都訥 modu·n·u (木的) [modu(n) の属格形] 四10四

抹敦 modu·n (樹，木) 木。一39五；六17二；廿30四

*抹額列惕- mö'ēled- (椎) 押える，押えたたく。〈→möke'ēled-〉
-抽 -čü 二50三

*抹額列(惕)- mö'ēled- (椎) 同上。
-抽 -čü 二51五

抹只舌児中合中渾 moǰirqaɢ·un (ナシ) [moǰirqaɢ '頑迷な，剛情な' の属格] 九2七

*抹客額列惕- möke'ēled- (椎) 押える，押えたたく。〈→mö'ēled-〉
-罷 -ba[→-be] 六12二

*抹可舌里兀勤- mökörі·'ūl- (斬) [mökörі- '斬る' の使役形]

-罷 -ba[→-be] 五26六

*抹闊舌里兀勒- mökörі·'ŭl- (斬, 合処斬) 斬らせる。

-周 -ǰü 八14二

-坤 -kün 九43六

*抹可舌里兀勒迭- mökörі·'ŭl·de- (被斬, 斬) [mökörі·'ŭl- の受動形]

-古訥兀 -gü[→-kü]n·ü'ŭ [疑問形] 五6二

-坤 -kün 五6一, 7七

*抹闊舌里兀勒迭- mökörі·'ŭl·de- (可斬) [同上]

-古 -gü[→-kü] 土32七

*抹可舌里兀魯- mökörі·'ŭl·ü- (斬) 斬らせる。〈→mökörі·'ŭl-〉

-牙 -yā[→-yē] 五17十

*抹闊舌里兀魯- mökörі·'ŭl·ü- (斬, 処斬) 同上。

-惕者 -d~ǰe 土45九

-惕坤 -dkün 八9五, 13十

-(惕)者 -d~ǰe 九43七

-牙 -yā[→-yē] 土40四

抹闊舌里兀侖 mökörі·'ŭl·ü·n (斬) [mökörі·'ŭl[·ü]- の同時接合副動詞形] 土40五

抹勒孫 möl·sü·n (氷) 氷。十12四

-突舌児 -dür 三26五

抹納[→訥] mönа[→nü] (久) 今, 現在。七3八; 十3八; 土31五

抹那 mönö (久) 同上。六7九; 八46十; 九2十, 28五; 十36九

抹斡舌連 mö'ŏre·n (吼) [mö'ŏr- '(牛が)吼える' の同時接合副動詞形] 三38五, 六, 九[2]

*抹中合阿- moqa'a- (白) 問いつめる。

-周 -ǰu 八30八

抹中合牙 moGaį·a (蛇行) [moGaį '蛇' の与位格形] 五37五, 七; 六22二, 六

抹中孩牙 moGaį·ya (地行) [同上] 二48四

*抹中忽惕中合- moqudqa- (窮極) 極める, 殲滅する。

-周 -ǰu 六28七

抹児 mör (蹤, 道子, 路) ふみ跡, 道。二29四

-台 -taį[→teį] 二2八, 九

-途児 -tür 二28十

抹舌児 mör (路, 道子) 同上。六12八; 九46一; 十16六, 19二, 九

-突舌児 -dür 十19八

-禿 -tü 八21八

-途舌児 -tür 三10四, 32六; 八8二

-禿舌里顔 -tür-iyān[→-iyēn] 九46一

抹(舌)児 mör (道子) 同上。九19八, 十

抹舌児 mör（職分）職務。土37五
-都舌里顔 -dür-iyān[→iyēn] 七21三; 土37五
抹舌列 mör·e（路行）[mör の与位格形] 土19四
抹舌里額舌連 mör·i'ēr·ēn（路自的行）[mör の造格・再帰格形] 二19四
抹舌里牙児 mör·iyār[→iyēr]（蹤跡依着）[mör の造格形] 二30一
抹舌里耶児 mör·iyēr（路行）[同上] 二19五, 20五
抹舌里耶舌児 mör·iyēr（路依着）[同上] 十19四, 八
秣舌驪 mori（馬, 馬毎）馬。二27八, 29三, 30三, 43九
-禿 -tu 二32二; 五14八; 六26七
-顔 -yān 七6三
秣(舌)驪 mori（馬, 馬毎）同上。二9六, 43五², 六², 七², 八², 九
-禿 -tu 二32六, 50五, 八
-顔 -yān 二15一, 16三
秣舌驪㭎 mori·d（馬毎）[mori(n) の複数形] 八35一
秣(舌)驪的顔 mori·d·iyān（馬毎自的行）[mori·d の再帰格形] 二33五, 43四
秣舌驪剌 mori·la（上馬）[mori·la- の命令形]
*秣舌里剌- mori·la-（上馬）馬に乗る; 出陣する。
-罷 -ba 一39十
*秣舌驪剌- mori·la-（上馬）同上。
-阿速 -'āsu 五40九
-罷 -ba 一22五; 三10二; 六2九; 土1三, 11九, 35四, 37二; 土1四
-㭎者 -d~je 土2八
-㭎中渾 -dqun 土20二
-周 -ǰu 二4十; 四4一, 六, 45五; 五27三, 28二; 六24三, 26一, 27九; 七16五, 32一, 33一; 八44七; 九10一; 十28四; 土4一, 20八, 29八
-黑撒阿舌児 -Gsa'ār 六47一
-黑撒阿(舌)児 -Gsa'ār 土8一
-黑三突舌児 -Gsan-dur 五27二; 土10六, 十
-主為 -ǰu'ūi 土38四
-中忽 -qu 五49六
-恢[→中灰]突舌児 -kuị[→-quị]-dur 土20六
-舌倫 -run 三8八, 9一, 10二; 四33一; 七22一; 八44六; 土12一, 35一, 36十
-速 -su 三2九, 4九; 土3七, 19十
-禿中孩 -tuGaị 三4十
-牙 -yā 三8二; 四13五, 19五, 31七, 八, 32十; 七16十; 土20六; 土1二
*秣舌驪《舌》剌- mori·la-（教馬）同上。
-禿中孩 -tuGaị 三2十

*秣(舌)驪剌- mori·la- (上馬, 馬上) 同上。
-罷 -ba 四19八
-周 -ju 二44四; 五10三
*秣舌驪剌黑荅- mori·la·gda- (被上馬) [mori·la- の受動形]
-罷 -ba 十29八
*秣舌驪剌兀勒- mori·la·'ūl- (教上馬) [mori·la- の使役形]
-罷 -ba 十14三; 十16五
*秣舌驪剌兀勒荅- mori·la·'ūl·da- (教上馬) [mori·la·ūl- の受動形]
-周 -ju 十30六
*秣(舌)驪剌温(勒)- mori·la·'ū(n)l- (教上馬) 〈→mori·la·'ūl-〉
-周 -ju 二14二
秣舌驪闌 mori·la·n (上馬) [mori·la- の同時接合副動詞形] 五1十
秣(舌)驪闌 mori·la·n (上馬) [同上] 十18七
秣舌驪納察 mori·n·āča (馬行) [morin の奪格形] 十1九
秣(舌)驪納察 mori·n·āča (馬自) [同上] 二15二
秣舌驪泥顔 mori·n·iyān (馬自的行) [morin の再帰格形] 一47三
秣舌驪你顔 mori·n·iyān (馬自的行) [同上] 六12三
秣舌驪訥 mori·n·u (馬的, 馬) [morin の属格形] 四5二; 六17三
-安 -'ān 四3二; 五34三
秣(舌)驪訥安 mori·n·u·'ān (馬自的) [morin·u の再帰格形] 六30十
秣舌驎 mori·n (馬) 馬。一19三, 36一; 四42八; 六12六, 17二, 48九, 49一; 七22十, 23一, 25一
-突(舌)児 -dur 九16八
秣(舌)驎 mori·n (馬) 同上。
-禿 -tu 一18十
*抹舌劣勒- möröl- (思想) 気づかう。
-周 -jü 二1三
*抹(舌)劣勒- möröl- (思想) 同上。
-古 -gü[→-kü] 二1五
*抹薛勒都- möseldü- (分離) わかれ合う。[möse- '分かれる' の対動形]
-坤 -kün 八9五
抹亦勒孫 moyil·su·n (果名) モイル (果実名)。二5九
*木赤勒者- müči·lje- (哂) 微笑する。
-周 -jü 十28八
木楊 mud (他毎, 他毎也, 他毎但) かの。二46六; 四10七, 35七, 八, 九; 五6九; 六5六, 20二, 51二; 七16九, 42七; 八5一
-古 -gü[→-kü] 四18十, 19一, 七
-魯 -lu 五45七, 46四

木惕勤　müdki·n（踏着）[müdki-‘（足）跡を辿って行く’の同時接合副動詞形] 六12八
木都惕　mudu·d（木頭）木。〈→modu·d〉二13八
木都納　mudu·n·a（樹行）〈=modun·a〉三28七
木都泥　mudu·n·i（木頭行）〈=modun·i〉四47五，六
*木勒禿勒-　mültül-（脱）脱ぐ。
　-周　-jü　—35十；四8九
*木勒禿勒迭-　mültül·de-（被脱）[mültül- の受動・自動詞形]
　-周　-jü　七34三
*木勒禿魯-　mültül·ü-（脱）〈→mültül-〉
　-克先　-gsen　四8十
*木勒禿舌列-　mültüre-（脱）滑り落ちる。
　-周　-jü　二15二，四
*木(勒)禿舌列-　mültüre-（脱落）同上。
　-古　-gü[→-kü]　二15五
木勒禿思　mültüs（倏然）やっと。四42五
*木中忽惕中合-　muqud·qa-（窮絶，窮極，教窮絶，教窮極）潰滅させる。
　-罷　-ba　五28十；十30九；十55二
　-周　-ju　五19三；七43五，九；八44八；十11十；十12十，25十
　-主為　-ju'üi　八4四
*木中忽惕(中)合-　muqud·qa-（絶）同上。
　-周　-ju　五18四
*木(舌)忽惕中合-　muqud·qa-（教窮絶）同上。
　-周　-ju　十11七
木中忽惕中罕　muqud·qa·n（教窮極）[muqud·qa- の同時接合副動詞形] 八12一
木中忽剌舌児　muqula·r（禿角，無角）角のとれて円くなった。三38六；九14四
*木中忽舌里-　muquri-（巡）巡察する。
　-禿中孩　-tuGai　十37九
*木舌児古-　mürgü-（触，叩頭）突く。
　-周　-jü　三38三；十18一
*木舌児古列-　mürgü·le-（触）突く（何回も）。
　-額惕　-'ed　三38三
沐舌列惕　müre·d（河，河毎）[müren の複数形] 十18九，20八
沐舌洌惕　müre·d（河毎）[同上] 十30二，49八
沐舌洌敦　müre·d·ün（河的）[müre·d の属格形] 六37四
沐舌列担　müren·e（河行）[müren の与位格形] 十39二
沐舌洌担　müren·e（河行）[同上] 六26三；十11六
沐舌洌壮[→担]　müren·e（河行）[同上] 八3八
沐舌洌泥　müren·i（江行，河行）[müren の対格形] 十40四；十51七

沐舌列訥 müren·ü（河的）[müren の属格形] 二38十
沐(舌)列訥 müren·ü（河的）[同上] 八9五
沐舌漣 müren（河）川。一15九，18八，20五，36三；二3五，5八，22四，26六，36八；三9一，三；四31四，五，33一；六44三；八7七；十12五；十19五，39五，六，41七
-突舌児 -dür 十39四
-突(舌)児 -dür 十39三
-捏 -ne 一32九，34四；三13六，14二
-泥 -ni 一37八；三6三
-訥 -nü 一1五；二42四；三1一；8九
沐(舌)漣 müren（河）同上。
-惕 -d 十16一
-捏 -ne 五14四
木舌魯 mürü（肩，肩甲）肩。一31六；四8十，19一
*木舌魯迭- mürü·de-（肩上拿）肩をつかむ。
-周 -jü 四27六
木舌魯思 mürü·s（肩甲）[mürü の複数形] 九47九
木速惕 müsü·d（箭，箭幹，条子）[müsü '矢柄' の複数形] 一11九，12一，14二，三，四；十19六
門 mun（是，只，只那，本，他）まさにそれ（その）。一20四，21二，四$^2$，22六；二19四$^2$，五$^2$，20五$^2$，29六；三16二，五，32八；四3一，20十，37十，38十，40五，46十，50七；五3二，23十，26三，27二，31六；六5九，9七，12四，44九，49八；七7九，9二，11三，21三$^2$，五，45二，48七；八6二，9四，五，12二，14一，21五；九14八，33十，34一，36一，42二，四，五，46九$^2$；十28四；十15七，24十，37八；十3二，14一，八，17二，26九，31九，37三，44二，四，47六
門荅 mun·da（卵，顛倒）むしろ，却って。四50四，五；五5一，6二；八18七
門古 mun gü(→kü)（只那，也）その，まさにその。一21三；四38二；五3一
門窟 mun kü（只）同上。二22三
蒙 mung（艱難）苦しみ。二29九
蒙古 münggü（銀）銀。十13二，四；十47三
蒙昆 münggü·n（銀）同上。十5九，6四，15一；十4九，9九，21七，26一
蒙琨 münggü·n（銀）同上。四14四
蒙客 müngke（長生）永遠の。六12二；七3六；八9七，29九，43九；九31五；十18十，28一；十20十，36二；十4一，5五，11四，28五
*蒙塔你- mung·ta·ni-（艱難）自分が苦しむ。
-周 -ju 二29八，33七，34十

## n

衲卜褡舌児中孩 nabdarqaị（破衣）ぼろぼろの。三20八
納赤惕 načid（金段子）金襴（高級な緞子の一種）。十13二，五
納赤都惕 načid·ūd（織金）[načid の複数形] 土27一
納荅 na·da（我行）[bi '私' の与位格] 私に。一9六；二34一；三1八；四42七；五35十；六35一；八29四，35七，47八；九43六；十35五
納荅阿察 na·da·ača（我行将来）私に与えよ（ača '与えよ'）。二32三
納荅察 na·da·ča（我行，比我）[bi '私' の与位・奪格] 私より，私から。五22四²；六4十，5三，6四；九43五
納都舌児 na·dur（我行）[bi '私' の与位格] 私に。三37十，39三；六40八，九；八36五；九8三，17四，23九，25五；土4九，29七
納都(舌)児 na·dur（我行）同上。九11十，31八
納突舌児 na·dur（我行）同上。八31三
納馬 nama（我行）私。[不定格] 六21四，35四，40二，41九；八41三
納麻 nama（我行）同上。四7三
納馬阿児 nama·ār（我行）私を以て。一33六
納馬魯阿 nama·lu'ā（与我一同）[bi '私' の共同格] 私と。八35十
納馬亘 nama·yi（我行，将我，教我）[bi '私' の対格] 私を。一12七；二10一，21一，22一，二，三，25六；三39四，八，48七，49五；四41八，十，42六；五3五，七，八，4五，七，22七，36二；六4八，九，6二；七14七；八18二，20一²，22三，29二，四，33七，37五，40八；九5九，15六，23一，六；十38七，39九；土22十；土23四
*納蠻赤剌兀勒- namančila·'ūl-（教悔過）[namančila-'祈禱する；悔過する' の使役形] -周 -ǰu 十35九
納蠻赤闌 namančila·n（悔過，教悔過）[namančila- の同時接合副動詞語尾] 十34九，38七，39十
納木舌児 namur（秋）秋。六27八；七45二；土52七；土1三
納木(舌)児 namur（秋）同上。五17二
納木舌児中罕 namurɢan（陥泥）泥濘状（に）。四41一
納中合出 naɢaču（母舅）母方の親族。
-納児 -nar 一42十
-納舌剌察 -nar-ača 一42二
納中忽惕 naqud（渾金）あらがね。土27一
納舌剌惕 nara·d（松，松毎）[nara·sun '松' の複数形] 十36八，37三
納舌列[→舌剌]訥 naran·u（日的）[naran の属格形] 九46二
納舌剌塔牙 nara·taị·a（日有行）日のある時に。土37五

納舌闌 nara·n（日，日処）太陽。一13三，43六，六；二17四，28二，29二，30二，32七，51三，五；四38十；六1八，9九；七11四，五，20七，42九；九47一，十12四，28九；十27二，46十；十一37九

-突舌児 -dur 八19三

-納察 -nača 八19三

納舌鄰 narin（細）細い。十25五

*納(舌)魯亦陽- naluyid-（探）身をのり出す。

-抽 -ču 一36一

納速荅 nasu·da（如常）いつも。四8八

納速禿 nasu·tu（歳，歳有，歳有的）歳をもった，～歳の。一41六，七2，42一；二36七；三23十，26二；九13二

-亘 -yi 五13四，十

納孫 nasu·n（歳）歳。一46四

納浯児 na'ūr（海子）湖。一32九；二27三

納浯舌児 na'ūr（海子，海）同上。六43八；八44五；十一27三

-途舌児 -tur 六19八

納兀舌児 na'ūr（海子般）同上。七32三

納浯舌剌 na'ūr·a（海子行）[na'ūr の与位格形] 四18二；五28九；六27二，28七

納兀舌剌 na'ūr·a（海上行）[同上] 五11八

納浯舌剌察 na'ūr·ača（海子行）[na'ūr の奪格形] 八44六

納浯(舌)剌察 na'ūr·ača（海子処）[同上] 六46九

納顔 nayan（八十）八十。〈→naiyan〉九31四，36二

*納亦塔- nayiṭa-（嫉妒）ねたむ。〈→naiṭa-，naiḍa-，naiyiṭa-〉

-周 -ju 十7一

奈 naiˌ（好生）まさに。三50四

*乃荅- naiḍa-（挨悪）ねたむ。

-周 -ǰu 六40二

乃蠻 naiman（八，八箇，八正）八。二27八，29三，30三；八35一；九36三2，39八；十23四；十一14五

*乃塔- naiṭa-（嫉妒）ねたむ。〈→nayiṭa-，naiḍa-，naiyida-，naiyiṭa-〉

-木 -mu 二37一

乃塔黒丹 naiṭa·Gda·n（嫉妒）[naiṭa- の受動・同時接合副動詞形] 二19一

乃顔 naiyan（八十）八十。〈→nayan〉七18十，21八

*乃亦荅- naiyida-（妒，嫉妒）〈→naiṭa-，nayiṭa-，naiyiṭa-〉

-罷者 -ba~ǰe 六35一

-周 -ǰu 五37五

*乃亦塔- naiyiṭa-（嫉妒）〈→naiṭa-，nayiṭa-，naiḍa-〉

-周 -ǰu 九23三

*乃亦塔黒荅- naiyiṭa·Gda-（被嫉妒）［naiyiṭa- の受動形］
-木 -mu 九23四
南巴里思 namba·li·s（越過）—越えして。—35二
南不中合 nambuGa（皮桶）大皮袋。二25八，29七
喃不中合 nambuGa（皮袋）同上。八35六
*南不中合剌- nambuGa·la-（皮桶盛）皮袋に入れる。
-周 -ju 土25八
捏惕客勒 nedkel（乱麻，麻穣）（羊毛などが）からみ乱れた。十36十；土21一
*捏額- ne'ē-（開，聞［→開］）開く。〈→nege-，negü-，nekē-〉
-克先訥 -gsen-nu 九20十
-周 -jü 十43二；土21十
*捏格克迭- negē·gde-（被開）［negē-〈→ne'ē-〉の受動形］
-罷者 -ba[→-be]~je 八43十
捏古思 negüs（倒，傾）グラッと（倒れる，傾く）十36十；土21一
捏古温勒 negü'ü̆(n)l（教開）［negü̆-〈→ne'ē-，negē-〉の使役・命令形］二41十
*捏客-① neke-（襲，追襲，追趕，襲去）（追いつくために）追う。
-罷 -ba[→-be] 四37三，四
-周 -jü 一36九；二32一；四3一，20二；五28四，32六；六2七，11八，29七；八2二，35二，十；十11九；土1十，52二
-速 -sü 二28五，六，七
-耶 -ye 土1九
*捏客-② neke-（織）織る。
-周 jü 土9六
捏客兀侖 neke·'ü̆l·ü·n（教追襲，追襲）［neke-① の使役・同時接合副動詞形］八6四，10七，24五；土39九
捏虔 neke·n（追襲）［neke- の同時接合副動詞形］十11六
*捏客-③ nekē-（開）〈→捏額-，捏格-，捏古-〉
-克薛訥 -gsen-ü 六53一
捏克 nekei̯（羊皮）羊皮。三20八
捏坤 nekün（家人）家つき使用人，召使。八13四
捏勒客 nelkē（褡衣）むつき。九5九，6三
捏勒克 nelkei̯（襲児的袱）むつき。二41七
*捏簽- neme-（添）添える，加える。
-罷者 -ba[→-be]~je 土55十，57九
-周 -jü 三49四
-恢宜 -küi̯-yi 四15十
*捏簽克迭- neme·gde-（被添）［neme- の受動形］
-周 -jü 三22八；八9八，44八；九31六；土45三，47二；土11四

捏綿 neme·n（添）[neme- の同時接合副動詞形] 十35七
捏篾額孫 neme'ĕsü·n（添助）補足，補給。八８五
捏木舌児格 nemürge（穫衫）毛氈などの蔽いもの。
-邊 -bĕn 八37五
捏木舌児堅 nemür·ge·n（教搭）[nemür- '蔽う，かぶせる' の使役・同時接合副動詞形] 八８九
捏木舌児列動教 nemür·le·ldü·n（共蓋）[nemün·le- '蔽いものをする' の対動・同時接合副動詞形] 三47七
*捏木舌魯- nemür·ü-（穫衫被）かぶる，蔽う。
-克薛額舌児 -gse'ĕr 八37六
捏木舌列 nemüre（遮護，遮蔽）遮蔽物。
-帖 -te 十９五
-田 -ten 六17二
捏木舌剌[→舌列] nemüre（遮護）同上。八44四
捏舌列 nere（名，名字，名分，姓名）名前。一４十，23七，24六，40十；二15十；四15四，五，六，十，16一；八19四，24四，五，40二；九７五；十12六；十８五；十10五，25十
-額舌児 -'ĕr 八30三
-台 -tai[→-tei] 一４十，５五，七，27五，41五，46五；二23八，37五；四46二；五22八，25九；十６四，８三
-壇 -tan[→-ten] 一28四
-帖宜 -te[i]-yi 一35九
-田 -ten 一７三，28六；十50四
-禿 -tü 一27六，28二，29六；二30一，33九，41五；三32十；四23四，24三，四，五，七，50六；五28六；七13九，14五；十33六，35六；十６十，10十，18二，40一
捏(舌)列 nere（名字）同上。
-田 -ten 一10六
-禿 -tü 一23八，25七，九；三23十
担[→捏]舌列 nere（名分）同上。九28十
*捏舌列亦惕- nere·yid-（名子与，名子喚，名子做，題名，名）名づける。
-罷 -ba [→-be] 一23七，六
-抽 -čü 一27九，39一；四17八，50九
*捏(舌)列亦惕- nere·yid-（被題）同上。
-抽 -čü 三22九
*捏舌列亦(惕)- nere·yid-（名子做，名）同上。
-抽 -čü 三44五；四50八
*捏舌列亦都- nere·yid·ü-（名，名提，提名来，名分，名喚）同上。

-(克)薛額(舌)児 -gse'ēr 四15六
-克先 -gsen 八27一; 十32四; 十14一
-舌侖 -rün 八25一
-由 -yü 一35九
*捏舌列[亦]都- nere·yid·ü-（提名）同上。
-克薛惕 -gsed 八27六
*捏兀- ne'ü-（起行）〈→neü'ü-〉
-古 -gü[→-kü] 二46三
捏兀列 ne'üle（大木，古樹）切った大木；枯樹。十36九；十21一
捏兀舌里 ne'ü·ri（起行）移動，行程。三30六
[捏]兀舌里 [ne]'ü·ri（起行）同上。三30五
捏兀舌里惕 ne'ü·ri·d（程）[ne'ür·i の複数形] 一3四
捏亦列 neyile（相合）[neyile- の命令形] 十43五
*捏亦列- neyile-（相合）一つになる，合一する。
-罷 -ba[→-be] 六45四; 十4二，14九，43九
-周 -jü 八2六
-主兀 -jü'ü 十38三
-帖列 -tele 七32九
*捏亦列兀勒- neyile·'ül-（相合）[neyile- の使役形]
-周 -jü 五18二
*捏亦列兀列- neyile·'ül·e-（相配）[同上]
-額惕 -'ēd 二37二
⑥捏亦列兀侖 neyile·'ül·ü·n（教相合）[neyile·'ül- の同時接合副動詞形] 七24三; 十39一
捏亦連 neyile·n（相合）[neyile- の同時接合副動詞形] 三10九，25九，34七，42二; 四6四，34十，48二; 五33一; 六30三; 八3九; 十19一
捏亦速[→連] neyilen（相合）[同上] 三34九
*捏亦連勒都- neyile(n)·ldü-（相合）[neyile- の対動形]
-周 -jü 二27二
-牙 -yā[→-yē] 三9四
粘別額 nembe'ē（蓋）蔽った。三47七
粘不列 nembüle（庵）仮小屋。一15十，17八
*撚迭- nende-（搠先，掩襲，潜謀）奇襲する。
-額速 -'ēsü 五40八; 十28三
-周 -jü 八13四
撚顏 nende·n（掩襲）[nende- の同時接合副動詞形] 六50七
年都 nendü（福）幸福。八40十
年都兀惕 nendü·'üd（ナシ）[nendü の複数形] 十4一

*能知- nengǰi-（搜）搜す。
-周 -ǰü 二24七
*能知連(動)都- nengǰile(n)·ldü-（相搜尋）[nengǰi-‘搜す’の対動形]
-罷 -ba[→-be] 二24六
-牙 -yā[→-yē] 二24六
能知兀里 nengǰi·'ü·l·i（搜的每行）[nengǰi·'ü·l‘搜索の人々’の対格形] 二25五
能知温(勤)孫 nengǰi'ü(n)·l·sü·n（搜的每）搜索の人々。二25一
*褥兀- neü'ü-（起）移動する，（家畜と共に）移る。
-罷 -ba[→-be] 一7八；三29九；六18七，八；十41四
-惕坤 -dkün 二3二
-克先 -gsen 九4一
-古 -gü[→-kü] 土11六
-者埃 -je'ēi 二3八
-周 -ǰü 一3九，4三，6五，17七，18九；二28六；三10五，42二；四31四；五12四，40四；六18八
-主為 -ǰü'ūi 二5一
-坤 -kün 二2三
-中厥[→恢]突舌児 -quiǰ[→-küǰ]-dür 九3十；十7六，八
-舌侖 -rün 三29七；八44三
-牙 -yā[→-yē] 十41三
-耶 -ye 三29七
褥温 neü'ü·n（起）[neü'ü-の同時接合副動詞形] 六23五
褥兀克迭- neü'ü·gde-（被起，起，起行）[neü'ü-の受動形]
-周 -ǰü 二5六
-舌侖 -rün 二3六，4七，九
*你阿- ni'ā-（粘）はりつける。
-周 -ǰu 三26七
你出裩 ničügü·n（赤裸）肌の露な。四8九，十，41九，42二
你出《中》裩 ničügün（赤裸）同上。六39九
你多泥 nidoni（去年）去年。三1七；土3四
你都 nidü（眼）目。
-禿 -tü 一3四
你覩 nidü（眼）同上。
-邊 -bēn 土25七
你覩捏扯延 nidün·eče·yēn（眼自的行）[nidü(n)の奪格再帰格形] 六14二
你覩訥 nidün·ü（眼的）[nidü(n)の属格形] 二10一；五26五；九34八；十23九；土44七
你敦 nidü·n（眼）目。四24九，40八，42十，43七；八30一；土17四

-突舌児 -dür 三39二

-都舌里顔 -dür-iyān[→-iyēn] 二18十; 三23十, 38一; 五3九

-你顔 -n-iyān[→-iyēn] 七26八

-禿舌里顔 -t̲ür-iyān[→-iyēn] 一43二, 46三

-延 -yēn 十21十

你都舌剌- nidura-（乾）（水などが）かれる，なくなる，断たれる。

-魯阿 -lu'ā 二3七

你都舌剌塔剌 nidura·tala（緊）ギュッと（'断たれるほど' から)。十26四

你黒撒中合勒札- niG saca·lǰa-（顫動）びっしりと山積になる。

-塔剌 -tala 二28三

你只額勒 niǰi'ēl（毎一隻，一隻）一つずつ。一11九，14三

你只額里 niǰi'ēl·i（一隻行）[niǰi'ēl の対格形] 一11十

你刊 nikan[→ken]（一，一箇，一件，一遍，一次，一下）一（数詞の'一'）。一3七，九，4四$^2$，8二，9二，11七，14五，20三，24五，25九，41五，46四；二7七，八，8一，17一，27八，28十，29九，30三，32一，42五，43四，五，六$^2$，七$^2$，八$^2$，九；三9二$^2$，10七，八，26二，27六，29五，七，32九，36三，41一，二，四，八，九，十；四6十，7二，17一，26九，33五，六，八，40二，45六；五14五，24八，25六，40三，50一；六11九，13五，18五，七，26四；七1四，22十，31三，37六；九8四，28八，32七，八，33一，37二$^2$，三，四，38六，七，八，九，十，39一，二，四$^2$，40十，41二，三，五，47九；十23八，29十，30一，41二；十一49七；十一29二，六，35三，40九$^2$，41一，四，六，43四，六，七，47四，五，52五，六，53三，四，九，56三，八，九

-捏 -n-e 七16二

-帖 -te 一37五，六，七$^2$，二9三，17七，34九$^2$，三4二；四43四；五35八；十28一，二；十一35五

你客捏 niken·e（一処，一処行，一行）[niken の与位格形] 五37二，三；八14六，27五；九30四

你客泥 niken·i（一箇行）[niken の対格形] 十一33三

你客你顔 niken·iyān[→iyēn]（一箇自的行）[niken の再帰格形] 十一32十，33一$^2$，二

你客訥兀 niken·ü'ū（一箇也）[niken の疑問形] 十一33八

你客帖列 nike·tele（一并）一つになるほど。43三七，八；六36八，九，十

你客田 nike·ten（一箇毎的）一つにする，一つをもつ。三37九

*你勒不- nilbu-（唾）唾をはく。

-周 -ǰu 五16二

-主為 -ǰu'ūi̯ 五16四

*你勒不黒荅- nilbu·gda-（被唾）[nilbu- の受動形]

-周 -ǰu 五16三

你勒不速 nilbu·su（涙）涙。十27八，36四，40二
-安 -'ān 十38二
-巴児 -bār 二34八
你勒不孫 nilbu·su·n（涙）同上。六14二；十37八
你勒中合 nilqa（最少的，最小）赤児。五44四；七39六；十22十，24五
你舌魯兀 niru'ū（脊梁）背。四3三，27十，28五；十40十
-班 -bān 四29二
你(舌)魯兀 niru'ū（脊梁）同上。十39七
-班 -bān 四28一
你舌路矸㭎 niru'ū·d（嶺毎）[niru'ū の複数形] 六45三
你舌魯温 niru'ū·n（嶺脊，脊）〈→niru'ū〉四49三；十43三；十24一², 三
*你思- nis-（飛）飛ぶ。
-抽 -čü 八6九，7一
-周 -ǰü 一43六
*你失- niši-（打）打つ。
-㭎者 -d~ǰe 九43八
-中忽牙 -quya[→quị-a] 十19六
-禿中孩 -tuGaị 八9二
你孫 nisun（涕）鼻水。二34八
你禿侖 nitul·u·n（断絶）[nitul-'断つ，切る' の同時接合副動詞形] 九1八
*你兀- ni'ū-（蔵）隠す，かくまう。
-罷 -ba 二24五
-㭎中渾 -dqun 七13八
-周 -ju 四50四；九23六
-速 -su 二44五
你温 ni'ū·n（隠諱，蔵）[ni'ū- の同時接合副動詞形] 九4十，19六
你兀児 ni'ūr（面）顔。二17十
-禿舌里顔 -tür-iyān 一43二，46三；二18十
你兀舌児 ni'ūr（面，面皮）同上。三21一；七27六，48三；九4二，三；十24三
-都舌里顔 -dur-iyān 五3九
-台 -taị 七7一
-途舌児 -tur 五16二
你兀舌児中罕 ni'ūr·qa·n（通面皮）[ni'ūrqa-'いい顔をする' の同時接合副動詞形] 六24六
你兀舌里顔 ni'ūr·iyān（面皮自的行）[ni'ūr の再帰格形] 八17六，九
你亦台塔剌 niyitaị·tala（緊）しっかりと。十26三
那卜失勒都- nobši·ldu-（共湿）[nobši-'しめる，ぬれる' の対動形]
-周 -ju 八40六；九8六

*那都- nödü-（擣，築）（臼などを）つく；築く。
-別古 -be gü[→kü] 五13七
-克先 -gsen 亖8十；亖2四，五
那都兀勒- nödü·'ül-（教築）[nödü- の使役形]
-周 -jü 亖57六
那敦 nödü·n（血塊）血塊。一40九；二11四
*那克扯額- nögče·'ē-（教過去）〈→nögči·'ē-，nögči·yē-〉
-速 -sü 八20二
*那克赤- nögči-（歿，過去）去る；死ぬ。
-罷 -ba[→-be] 一49六；二19二，八，21三；六19二
-主兀 -jü'ü 亖37八，九
*那克赤額- nögči·'ē-（教過去，過去，過）[nögči- の他動詞形]
-周 -jü 八22八，十
-速 -sü 四39四
-禿該 -tügeị 八22七；亖10七
*那乞赤耶- nögči·yē-（教過去）[nögči- の他動詞形]〈→nögči·'ē-，nögče·'ē-〉
-惕坤 -dkün 亖10六
那克臣 nögči·n（過去）[nögči- の同時接合副動詞形] 二22二
*那可扯- nökö̈če-（作伴，做伴）仲間になる，伴になる。
-罷 -ba[→-be] 十40四
-罷者 -ba[→-be]-je 八36六
-額速 -'ēsü 七8一
-克薛額舌児 -gse'ēr 九5十
-周 -jü 六37二；八18六，35十；九17四；亖8十
-古 -gü[→-kü] 八13九，36五
-坤 -kün 亖5三
-中厌[→-恢] -quị[→-küị] 八18二
-魯額 -lü'ē 九30四
-牙 -yā[→-yē] 八14四，22四，36八
-耶 -yē 八18二
*那可徹- nökö̈če-（做伴）同上。
-克薛額児 -gse'ēr 二38六
-克先 -gsen 四51一
-周 -jü 二33八，35一
-恢 -küị 二38六
-坤 -kün 五5十
-舌列 -re 五9一
-速 -sü 二29九，30七

-耶 -yē 二38二

*那闊扯- nökŏče-（做伴，作伴）同上。

-周 -ǰü 四1十，3九

-坤 -kün 四29一

-速 -sü 三4八

*那闊徹- nökŏče-（做伴）同上。

-速 -sü 三49六

*那可扯克迭- nökŏče·gde-（伴当可做）[nökŏče- の受動形]

-古 -gü[→-kü] 六52三

*那闊扯克迭- nökŏče·gde-（被做伴）[同上]

-周 -ǰü 三22七

*那可扯勒都- nökŏče·ldü-（作伴，伴当，做伴）[nökŏče- の対動形]

-罷 -ba[→-be] 八18三

-周 -ǰü 九11十

-速 -sü 八35四

那可徹勒 nökŏče·l（做伴）友たること。五5十

-禿 -tü 四50六

那可纏 nökŏče·n（做伴）[nökŏče- の同時接合副動詞形] 八36九

那可揚 nökö·d（伴当毎，伴当）[nökör の複数形] 二32七；七36十；八12七；九33三

-帖延 -te-yēn 八12四，九

-禿 -tü 八12二，19九；九32六，八

-圖宜 -tü-yi 十18二

那闊揚 nökö·d（伴当）[同上] 三49七；九33九，十

那可迭延 nökö·d·e·yēn（伴当毎自的行）[nökö·d の与位・再帰格形] 六4七

那可的 nökö·d·i（伴当行）[nökö·d の対格形] 六40九

那可的都[→耶]舌里顔 nökö·d·iyēr·iyān[→iyēn]（伴当毎自的行）[nökö·d の造・再帰格形] 八19六

那闊的顔 nökö·d·iyān[→iyēn]（伴当毎自的行）[nökö·d の再帰格形] 四2十

那可的耶舌里顔 nökö·d·iyēr·iyān[→iyēn]（伴當毎領着自的行）[nökö·d の造・再帰格形] 六45一

那可額 nökö'ē（第二）第二の，次の。三29六

那闊額 nökö'ē（第二，第二次，第二件，次，那箇手）同上。六23二，三，四，五；七2一；八45八；九14一，16二；十55三，五，56五

-帖 -te 七9十；八45四，七；九42二；十12十，44三

那可[額] nökö['ē]（第二次）同上。〔「那可」のまゝ，nökŏ と読むことも可能であろう。〕

-帖 -te 三26十

那闊只 nökö·ǰi（第二）同上。

-宜 -yi 六31九

那可児 nökö·r (伴当) 友。一8七; 二8四, 10二, 12三, 29八, 30五, 32三, 33五, 34十

那可舌児 nökö·r (伴当) 同上。五48八; 六4十, 6三; 七6一; 十40一; 十一32六; 十一11三, 35八

-禿 -tü 九33一

-途舌児 -tür 八35四

那可(舌)児 nökö·r (伴当) 同上。九11七

那闊舌児 nökö·r (伴当, 被敵人) 同上。三48五; 五17六

那可舌列 nökö·r·e (伴当行) [nökör の与位格形] 二33八; 七15十, 29二

那可舌里 nökö·r·i (伴当行) [nökör の対格形] 二33七; 七38四

那中合訥 noqa·n·u (狗的) [noqaị の複数・属格形] 七10一, 六

那中合昔顔 noqa·s·iyān (狗毎自的行) [noqaị の被数形, noqas の再帰格形] 九1五, 九

那中合牙 noqa·ị·a (狗行) [noqaị の与位格形] 十一31七, 33七

那中孩 noqa·ị (狗, 狗児, 狗般) 犬。二11五; 五17二, 27二; 七6十, 27四; 十一11七; 十一1三

-思 -s 七33八, 34五

-昔 -s-i 七33六

那(中)孩 noqa·ị (狗) 同上。一13三

-牙察 yača [→ị-ača] 一47二[2]

那中豁安 noGo'ā·n (青草) 青草。

-突舌児 -dur 六2一

那中豁惕 noGo·d (鴨毎) 野鴨たち。一17二, 三

那中豁的顔 noGo·d·iyān (豁毎自的行) [noqaị の複数形, noqod の再帰格形] 十一47一

那中豁速 noGo·su (鴨子) 野鴨。八12十

那(中)忽惕 noGud (鴨毎) [=noGud] 一19六

那牙 noya (ナシ) 首長, 長官。[不定格] 十一40八

那牙惕 noya·d (官人, 官人毎) [nya(n) の複数形] 四47十; 五12十; 八24十, 25一, 27一; 九30九, 十[2], 34二; 十14十, 15一; 十一2一, 三, 八, 13十, 17一, 33六, 43九, 52四

-塔 -ta 九3八, 31一, 45八

-途(舌)児 -tur 九42四

那牙荅察 noya·d·ača (官人行, 官人毎行, 官人毎内, 官人毎処) [noya·d の奪格形] 九45一, 二; 十25六; 十一19二; 十一33五, 46四, 五

那牙的 noya·d·i (官人毎, 官人毎行) [noya·d の対格形] 五25二; 八26十, 27五, 九, 32四; 十15六, 七

那牙的顔 noya·d·iyān (官人毎自的行) [noya·d の再帰格形] 五15七

那牙敦 noya·d·un（官人毎的，官毎的）［noya·d の属格形］七19一；九32四，六，七，九，33三，八，九，36一

*那牙剌- noya·la-（官做，断）ノヤンになる，ノヤンとして振舞う。

-周 -ǰu 八1八

-中忽 -qu 土33七，八

那牙泥 noyan·i（官人行）［noyan の対格形］七32五；十10九，17八，18五，21五

那牙訥 noyan·u（官人的）［noyan の属格形］七18一

那黯失克[→黑] noyamšiG（衰官人）ノヤンのような。一27五

那顏 noyan（官人）首長，長官。一5四，32一；三21三，39六，八，九；五1九，28六；六5八；七15六，九，18四[2]，五，28十，46二，九，47四；九4七，19八，41八；十10十，17九，18一，20九，33五，34七；土4三；土13八，52二

-泥 -ni 土37一

那亦舌児 noyir（睡）睡眠。〈→nuyir〉八37五

那亦壇 noyitan（湿）湿った。八40九；九8六

訥都舌児中合 nudurGa（拳頭）拳。九44一；土46二

-因 -yin 九43十；土46二

-失顏 -š-iyān［複数・再帰格形］九14六

訥亦舌児 nuyir（睡）〈→noyir〉六21六

*弩客列- nüke·le-（鑽眼児）穴をあける。

-周 -ǰü 三26八

弩木 numu（弓）弓。二25九，32三；十8七

-惕 -d 土48二

-壇 -tan 三26六

弩門 numun（弓）同上。

-魯額邊[→-魯阿班] -lu'ā-bān 七16一

訥舌剌思 nura·s（溝）［nura '崖崩れの所' の複数形］

-途(舌)児 -tur 四35九

訥塔 nuta（静）安寧な，堅固な。十1三

訥兀① nu'ū（隅，地角）川の湾曲部（の牧草地）。八34三

-荅 -da 四31五

訥兀② nu'ū（児）男子。

-惕 -d 土9九

訥温 nu'ū·n（児，児孩）同上。一45七；六52六

嫩只 nunǰi（不動的）動かない，緩慢な。土8九；土2五，六

嫩禿黑 nuntuG（営盤）ノタック。一45七；八42一；九24二，六；十9一，24五；土30三；土48五[2]

-阿察 -ača 九11三

-突舌児 -ḍur 五3十
-壇 -tan 土8十; 土2五
-圖 -tu 土4八
-圖児 -tur 二3二, 5六
-圖舌児 -tur 三24一, 32九, 十; 四17一

嫩禿赤塔泥 nuntū·či·tan·i (営営盤的行) 居営地の管理者 (?) 土47十
*嫩禿黒剌- nuntuG·la- (営盤做, 做営盤) ノタックを定める, ノタックとする。
-周 -ǰu 一1五; 二27四; 八42一; 九24三, 六; 土41十, 42三
*嫩禿(黒)剌兀勒- nuntuG·la·'ūl- (做営盤) [nuntuG·la- の使役形]
-中忽牙 -quị-a 土48六
嫩禿黒闇 nuntuG·la·n (営盤做) [nuntuG·la- の同時接合副動詞形] 二39一
嫩禿吉顔 nuntuG·iyān (営盤自的行) [nuntuG の再帰格形] 土2六
嫩禿中合察 nuntuG·ača (営盤行, 営盤処) [nuntuG の奪格形] 三29六; 四17二, 23四, 24二, 四, 五, 六
嫩禿兀赤泥 nuntu·'ū·či·n·i (管営盤的行) [nuntu'ū·čin の対格形] 土48九
嫩禿兀臣 nuntu·'ū·či·n (管営盤的, 管営盤的每) 居営地の管理者。十5九; 土40五, 48六
農中合速 nungGa·su (毛) 羊毛。二24九
-禿 -tu 二23七, 24八
農中合孫 nungGa·su·n (毛) 同上。二24十

# q

中合 qa（皇帝，係官）皇帝。一39四；三50五；四31二；六[2]，36十；土9六
中合陽 qa·d（帝王，皇帝，皇帝每，王子）[qan の複数形] 一13六；二6三；三20九；六36—[2]，三
中合納 qan·a（皇帝行）[qan の与位格形] 七42一；土4三，5八
舌合[→中合]納 qan·a（同上）[同上] 五16三
中合泥 qan·i（皇帝行）[qan の対格形] 五10三；六28五；七43五；八24六；十11一，九；土5三，11一
中合你顔 qan·iyān（皇帝自的行）[qan の再帰格形] 五2九，十，5七，6一，五，7三，六，七，八，15五；九27八，28一，四[2]，六，七
中合訥 qan·u（皇帝的）[qan の属格形] 四12三，25四，六，28六；五9八；14一；土4三
-埃 -'āi 汗のもの，王のもの。土15八，16七
中合 qā（前脚）（動物の）前脚。六36八
中合陽 qad（體）体；体格。九42四
中合阿 qa'ā（那裏）どこ（に，で）。二20五；六17一
-察 -ča どこから。七27九
(中)合阿 qa'ā（同上）同上。一19五
-黒石 -gši どこへ。五22十
中合阿- qa'ā-（団）閉じる；囲む。
-周 -ju 十34五，35九
中合阿勒中合 qa'ā·lga（関）門，戸。土2六
中合阿陽[→勒]中合 qa'ā·lga（門）同上。二47二
中合阿納 qa'ān·a（皇帝行）[qa'ān '皇帝' の与位格形] 四40七，46六，49七；五26三，27七；九28三；十27四，十；土6三，8四，11八，20七，44五，46六，50六
中合阿泥 qa'ān·i（皇帝行）[qa'ān '皇帝' の対格形] 五50九；六45二；十18八，35二，36一，40八；土7一，9四，10七，12二
中合阿訥 qa'ān·u（皇帝的）[qa'ān '皇帝' の属格形] 四42九，49八；五9六；六8一，三；九35十；十12五，33二，土8五，15九，16八，38四[2]
-埃 -āi 土15八，16八，45三
中合阿台 qa'ā·tai（ナシ）閉じられた。二47二
中合卜察勒 qabčal（窄狭処，窄狭，狭処）山峡。三18七；五9十；六24五
中合卜察剌 qabčal·a（窄狭処）[qabčal の与位格形] 三19四
中合卜察剌察 qabčal·āča（狭処）[qabčal の奪格形] 六24七
*中合卜赤① qabči-（夾）はさみつける。

-周 -ǰu 九13五

*中合卜赤-② qabči-（蔵匿）匿す。[上の qabči- の転義]

-中渾 -qun 九4十

中合卜臣 qabči·n（匿）[qabči²- の同時接合副動詞形] 九19六

中合卜赤中合牙 qabčiGaya[→Gaị·a]（狭処）[qabčiGaị '山峡' の与位格形] 四4八; 八22二

*中合卜中合舌里兀魯- qabqari·'ūl·u-（教大咲）[qabqari- '大声で笑う' の使役形]

-揚中坤 -dqun 土30六

中合(卜)塔中孩 qabtaGaị（扁）平らな，扁平な。土25八

中合卜荅孫 qabḍa·sun（板）板。八30四

中合巴舌児 qabar（鼻子）鼻。土54五

中合巴舌剌察 qabar·āča（自畀[→鼻]行）[qabar の奪格形] 十24六

中合必児(中)合児 qabirGar（同上）同上。一8四

中合必舌児中合 qabirGa（肋扇）あばら，肋骨。四1五

中合鐕 qabu（射箭）射ること，射力。十30六

中合卜児 qabur（春）春。一11七

中合不児 qabur（同上）同上。一17二

中合不舌児 qabur（同上）同上。二1八〔巻二における舌児は例外〕

中合不舌児 qabur（同上）同上。三26六; 五40一, 46八; 八2三

中合察児 qačar（腮）頬。一44七

中合察舌児 qačar（腮，鰓[→腮]）同上。三43四; 六16一, 36五; 七48三; 八43八

-途舌児 -tur 六16四

中合察舌里顔 qačar·iyān（腮自的行）[qačar の再帰格形] 六9七; 七26九

*中合勒中忽- qadqu-（荊，挿）突き刺す。

-罷 -ba 土24二

-周 -ǰu 四1五; 六8八, 34二

-主兀 -ǰu'ū 二3十

-中忽牙 quya[-quị-a] 七36六, 七

*中合揚中忽黒荅- qadqu·Gda-（被刺，被擲，戳）[qadqu- の受動形]

-阿速 -'āsu 六26九

-罷 -ba 六21九

-周 -ǰu 八17四

*中合揚中忽勒都- qadqu·ldu-（厮殺）[qadqu- の対動形]

-阿速 -'āsu 七24四

-罷 -ba 四37九

-揚者 -d~ǰe 六15一, 20二

-黒赤 -Gči 五29七

-黒三 -Gsan 六10二, 17七

-周 -ǰu 五9二，18一；六27十；八22二；廿5七
-梅者 -muį~ǰe 六3四
-中忽 -qu 五29七；九21七
-中灰 -quį 三43九；六42三
-中灰突舌児 -quį-dur 八15四，43二；九16四，21八
-中灰因 -quį-yin 五17四
-中渾 -qun 六3二，5四，14九
-舌剌 -ra 五9二
-速 -su 六7九，8二；廿4七
-禿中孩 -tuGaį 七19六
-牙 -yā 四34九；五29八，九，31六；六11八，14五，29一；七31四，32三；廿4十

*中合㭎(中)忽(勒)部- qadqu·ldu-（同上）[同上]
-周 -ǰu 一40一

*中合㭎中渾勒都- qadqu(n)·ldu-（同上）[同上]
-周 -ǰu 四37十
-牙 -yā 四37八

*中合㭎(中)渾勒都- qadqu(n)·ldu-（同上）[同上]
-黑三 -Gsan 四38一

中合㭎中忽勒都阿 qadqu·ldu·'ā（厮殺）突き刺し合い，合戦。七32三；廿4七

中合㭎中忽勒都阿訥 qadqu·ldu·'ān·u（厮殺的）[qadqu·ldu·'ā(n) の属格形] 六42二

中合㭎中忽勒都安 qadqu·ldu·'ān（厮殺的）合戦(の)。七19五；八46六；九2一，39六
-突舌児 -dur 四38八
-突児[→舌児] -dur 九20九

中合㭎中忽勒敦 qadqu·ldu·n（厮殺）[qadqu·ldu- の同時接合副動詞形] 六4九，6四

中合㭎中忽(勒)敦 qadqu·ldu·n（同上）[同上] 三8二

中合㭎中忽舌剌速 qadqura·su（桃皮）山桃皮。
-禿 -tu 三8一

中合荅 qada（崖，崖子）岩山。九1七
-途児 -ṯur 二11五
-因 -yin 六36七

中合打 qada（崖）同上。
-荅 -da 六19三

中合荅兀勒- qada·'ūl-（釘）[qada- '釘を打つ' の使役形]
-罷 -ba 六16五

中合荅阿舌児 qada'ār（轡，轡領）馬勒，くつわ。八8八
-禿亘 -tu-yi 廿39五

中合荅阿孫 qada'ā·sun（釘子）釘。六16五

*中合荅勤- qadal-（分析）尋ねる，探索する。
-周 -ǰu 土46二
中合荅侖 qadal·u·n（根尋着）［qadal- の同時接合副動詞形］二12七
中合荅(舌)侖 qadarun（ナシ）［qadar- '噛る' の同時接合副動詞形か(？)］十29八
中合荅中合 qadaɢa（緊要事，緊要）重要な，主要な。土49四
-禿 -tu 八17五
*中合荅中合剌兀勤荅- qadaɢala·'ūl·da-（被教管）［qadaɢala- '保管する' の使役・受身形］
-周 -ǰu 十7五
中合荅舌児 qadār（轡領）〈→qada'ār〉
-禿亘 -tu-yi 九48十
*中合荅舌剌- qadara-（点）（馬が前後の2本の足で同時に地を蹴って）走る。〈→qaṭa-ra-〉
-周 -ǰu 一20五；二46七
*中合荅兀赤- qada'ūči-（教戒慎）耐えて頑張る。〈→qada'ūǰi〉
-禿中孩 -tuɢaị 六5一
中合荅兀赤 qada'ūči（謹慎）［qada'ūči- の命令形］七42七
中合荅兀只 qada'ūǰi（同上）〈→qada'ūči-〉［qada'ūǰi の命令形］二19八；六6五
-古 ~gu[→~ku] 二19八（助辞の ~kü）
中合的牙舌児 qad·iyār（独自自的行）［qad の造格形］自分で，自ら。九33五
中合敦 qaḍun（娘子）妃。〈→qatun〉四10六，五，六²，19二；五22六，23三，八，24九²，十；六36五；七29五，47三，48四；土20七，21八，24八，27二；土21一
-惕 qaḍu(n)-d 八1三
-荅察 -dača 土1五
-魯阿 -lu'ā 七46八
-納 -na 土13二
-泥 -ni 七48九；土1五
-訥 -nu 七10七，48七，八
中合罕 qahān（皇帝）皇帝。一30三，32五，六，十，33三，五，39三，九，40七，44七；三44五，十，48六，49四；四4四，七，6五，六，9三，10四，11十，13一，七，14一，四，15二，16三，17四，18七，19八，20四，26二，四，九，27七，31七，32一，九，33二，37九，38八，39四，40七，41二，八，43一，45五，八，46六，七，十，47四，49二，50二；五1二，六，5七，八，7五，9二，11八，12一，四，17二，五，19四，20十，22五，六，23一，三，五，24一，八，25一，28一，29五，七，31六，九，32一，33六，37四，38七，39六，46二，47一；六1二，2八，7六，10一，11三，七，12一，14二，18三，六，19二，20四，十，34八，35三，38三，39八，43八，

44九，45五，46十，49五，51十，53一；七1五，七，2六，3四，7八，14十，18一，20五，24五，31九，32四，42九，44二，五，45三，46十，47十，48七，九；八1七，2二，八，4二，五，十，6二，五，10一，12十，13二，六，14三，21二，24八，27五，七，29七，33三，34七，39五，40八，43一，45十，47四，十；九1二，3七，5六，7一，8一，9三，11一，19四，20八，22四，23一，24四，五，九，27四，31三，32一，39十，40九，44十，45九；十1二，4五，6八，11二，12六，十，13七，16四，18六，21六，22七，25十，27四，六，28四，28九，29二，31一，37九，39三，40七，41一，43四，八；廿1二，2二，七，6八，10六，九，11八，12一，九，13九，14六，15一，16三，17一，18四，20一，三，七，21八，23七，29七，30一，31三，32一，四，九，35一，八，36十，39六，41五，九，42四，九，43二，44六，45六，十，47七，八，50二；卅1四，六，2二，十，5三，六，7五，十，9五，10三，四，六，九，12九，13一，14四，15二，五，17四，18三，19五，六，八，20八，21二$^{2}$，十，22十，23一，四，六，八，十，24八，26九，28十，30八，31六，33六，九，34一，九，36九$^{2}$，37二，43八，46十$^{2}$，47二，51十，54十，55一，十，56一，七，57二，八

-突舌児 -dur 四4一，6一，四，22七，32三；五8十，9四，33六，50三；六5二，45四；七7五，46九；八12八；十11一，12二，13六，15七；廿6六，14九，18二，38七，43九

-都舌里顔 -dur-iyān 四48二

-魯阿 -lu'ā 五36七

-納 -na 一33二；四6九，15四，十，18六；五6三，7一，四；六18十，42八，50五，51九；七14六，23五，42二，45八，46一，47五；八1四，24四；廿2九，5二，9七，14七，28九

-納察 -nača 四28二；七48二

-泥 -ni 一33二；二2九；三50二；四4二，27七，31九；五27二；廿1八，14二，三，33九

-訥 -nu 一30四，31九，32五$^{2}$，33四，39一，40一；二1八；四8四，18二；七31七，47四；八26十，31十；廿2七，14一，52五，十，53二

-訥完 -nu'ān 七48五

(中)合罕 qahān (同上) 同上。四37三；九21五

-訥 -nu 一1二

中合《中》罕 qahān (同上) 同上。廿52六

-突舌児 -dur 六49五；廿4二

*中合礼- qaǰa- (咬) 咬む，ギューと咬む。

-黒撒陽 -Gsad 十29九

-中忽 -qu 二11五，八

*中合勤- qal- (惹，鬧) 近付く。

-中忽　-qu 三18五
-中忽由　-quyu[→quį-ū] 五16四
-中渾　-qun 六16五
中合勒　qal（惹）[qal- の命令形] 四49九; 九1六
中合勒不中合　qalbuɢa（匙般）匙。十54四
中合勒都陽　qaldu·d（崖每）[qaldun の複数形] 山峯。
-塔　-ta 五36三
中合勒中合　qalqa（団牌，僩牌，関）楯。三18八; 八46六; 十14七
*中合勒中合剌黒荅-　qalqa·la·ɢda-（被遮護）[qalqa·la-'守る' の受動形]
-罷　-ba 二15一
中合勒中合孫　qalɢasun（破閉柳条的）柳条。二50一
*中合勒塔亦-　qaltayi-（破）剝ぎ取る。
-周　-ǰu 三2六，5六
*中合勒塔舌里兀魯-　qaltari·'ūl·u-（滑擦）[qaltarį-'滑る' の使役形]
-阿陽　-'ād 二16三
中合勒塔舌鄰勒　qaltari(n)·l（避）避けること，滑ること。七26十
中合剌　qala（号令）命令。三43九
中合剌阿舌児　qala·'ār（必然）必ず。十4十
中合剌陽　qalad（猛然，忽然）勢いよく。二11三; 十25一
中合剌兀納　qala'ū·n·a（熱行）[qala'ūn の与位格形] 二24十
中合剌兀納察　qala'ū·n·ača（自熱処，熱的行）[qala'ūn の奪格形] 二11三; 十25一
中合剌温　qala'ū·n（熱，煖）あつい。六14四; 八17七; 十43四; 十2二，5三
中合里敦　qalidu·n（親近）[qalidu-'近づく，せまる' の同時接合副動詞形]
八17六
中合里速　qalisu（残皮）外皮，表皮。三18三
中合里兀泥　qali'ūn·i（黒縈尾馬）[qali'ūn の対格形] 三28一
中合《舌》里温　qali'ūn（黒縈尾黄）たてがみの黒い黄白色の馬。五14八
中合里温　qali'ūn（同上）同上。六26七
中合里牙児孫　qaliyarsu·n（山薤）野韮。二6二
中含禿　qamtu（一箇，一同，同，一処）共に，一緒に。一44十; 二7七，9四，30八; 三29九; 四1六，13五，八，38二; 五23六，30五
中合木黒　qamuɢ（普）全ての，全。一32五，七; 三2六，5六，18五; 五36四; 十25六
中合水[→木]中渾　qašui[→mu]ɢ·un（普的）[qamuɢ の属格形] 一13六
(中)合木(中)渾　qamuɢ·un（同上）[同上] 一33十
*中合納-　qana-（剌）刺して血を出す，嚇血する。
-周　-ǰu 五11七，14七; 六26七
中合納勒中合　qanalɢa（機会）好機。

-突舌児 -dur 四12二，13五

中合泥勒中厮 qanilɢa·n（比着）[qanilɢa- 'なぞらえる' の同時接合副動詞形] 一13六

*中合黒苔- qaɢda-（被射）[qa- '射る' の受動形]

-周 -ju 五34三；六9七，12四，16二，30十

*中合中合- qaqa-（噎）詰える。

-阿速 -'āsu 五43八

*中合中合察- qaɢača-（分離，離，相離）分離する，離れる。

-罷 -ba 六22五，33八；七42九

-罷者 -ba~je 九8五

-周 -ju 一7八；二36七；三34六，八，41六；四6一，三；五33一；六10二；八44二

-黒撒泥 -ɢsan-i 八45四

-黒三 -ɢsan 二40二；三2一；八46七

-中忽 -qu 六12八

-中忽由 -quyu[→quị-ū] 六33八

-(中)灰 -quị 七26七，28九

-中渾 -qun 三37十；六11五

*中合中合察兀勒- qaɢača·'ūl-（教離，教分離）[qaɢača- の使役形]

-罷 -ba 四1六；六34九

-周 -ju 三43十；八30四

中合中合察兀侖 qaɢača·'ūl·un（教離）[qaɢača·'ūl- の同時接合副動詞形] 四1六

中合中合潺 qaɢača·n（分離，分離着，離着）[qaɢača- の同時接合副動詞形] 三31八，41五，十；四36三；六10三；七42二；八3六，14六，17四，45五

*中合中合勒荅- qaɢal·da-（分）分かちあう。

-周 -ju 八17三

中合[→中含]中合侖 qa[→qam]qal·u·n（撞破）[qamqal- '打ち砕く' の同時接合副動詞形] 九1七

中合中合思 qaɢa·s（分離分明，分閉，剪破）分かれて，分離して。六15十；十7九$^{2}$，24七；十40十，41三，五七，54四，五

中合中合孫 qaɢasu·n（梗）小骨。二10一

中合中忽納中合察 qaqunaɢ·ača（衣胞行）[qaqunaɢ '衣胞；陰のう' の奪格形] 十25一

*中合剌亦- qalayi-（回顧）顧みる；遠望する。

-周 -ju 一38二

中合児心速 qarbisu（同上）胞衣。

-班 -bān 二11五

中合舌児必速 qarbisu（胞衣）同上。

-完 -'ān 十29九

中合児必牙勒敦 qarbiya·ldu·n（射箭）[qarbiya- '射る' の対動形・同時接合副動詞形]

三26六

*中合児鑌- qarbu-（射）射る。

-周 -ǰu 一16八

*中合舌児鑌- qarbu-（同上）同上。

-阿速 -'āsu 七38六，八

-黒撒訥 -Gsan-u 四50八；八43九

-周 -ǰu 十30七

-主兀 -ǰu'ū 六49四

-剌阿 -la'ā 四49五，七

-由 -yu 七38二，四，六，七，八

*中合舌児饢- qarbu-（同上）同上。

-周 -ǰu 四3四

*中合舌児不擦- qarbu·ča-（交参）射合う。

-周 -ǰu 十30六

*中合舌児鑌察- qarbu·ča-（相射）仝上

-周 -ǰu 八6八

*中合児不闌勒都- qarbula(n)·ldu-（斮射）[qarbula-'射る'の対動形]

-罷 -ba 二32五

*中合児鑌剌勒都- qarbula·ldu-（相射）同上。

-周 -ǰu 二13九

*中合児鑌闌勒都- qarbula(n)·ldu-（斮射）同上。

-速 -su 二32五

*中合児鑌闌(勒)都- qarbula(n)·(l)du-（同上）同上。

-速 -su 二32三

中合児赤中孩 qarčiGaị（黄鷹）（一般に）鷹；雌鷹。一16三

中合児赤中孩 qarčiGaị（同上）同上。一18二，19四，六

-巴安 -ba'ān 一17二，七

-巴安別児 -ba'ān~ber 一16九

-巴児 -bār 一19六

-圖者 -tu~ǰe 一19四

中合児乞 qarki（溜道）早瀬，忽流。

-圖児 -tur 二17八，18八

*中合舌児馬勒都- qarma·ldu-（共攻聚）[qarma-'集める'の対動形]

-速 -su 三47六

中合舌児中合[→中含] qarGa[→Gam]（胯）尻部。六36六

中合舌児中含 qarGam（臂茆，後胯）同上。三43四；七29二，48四

中合舌児甘 qargam（後胯）同上。[「中甘」Gamを認むべきもの]

-突(舌)児 -dur 十26十

中合舌児石 qarši (行宮) 宮殿。三11六
中合(舌)剌 qara (黒) 黒い。五13五
中合舌剌 qara (同上) 同上。一13五, 35八, 44八; 二11四, 39二, 六, 40一, 44六; 三1三, 2一, 2六, 6一, 7八, 九, 18二, 六, 25四, 44一, 47六; 四42十, 43七, 50一; 五36八; 六25五, 27五, 49三; 七26八, 十; 八12十, 17六, 18七; 九3四, 十, 14四, 23七; 十28八; 三25六, 七², 52七
-荅 -da 五43八
-禿 -tu 三19四
中合舌剌荅察 qara·dača (家活処) [複合語を形成する際の後半の語 eres qara '男ども' の奪格形] 三44二
*中合舌剌- qara- (望, 看) 見る, 望み見る (ものの総体, 全体を見る)。
-周 -ju 一43七
-由 -yu 一45七
*中合舌喇- qara- (望, 望見, 看) 同上。
-周 -ju 一3十; 六45九, 46一
-中忽 -qu 一3五; 五39二
*中合(舌)喇- qara- (望) 同上。
-周 -ju 一3八; 二9六
中合舌闌 qara·n (着[→看]) [qara- の同時接合副動詞形] 五39四
中合舌剌阿 qara'ā (形影, 遠看見) 望遠。六45九
-禿 -tu 三7七, 8三
中合舌剌出 qaraču (下民) 平民。八13一
中合舌剌除 qaraču (同上) 同上。三18六
中合(舌)剌除思 qaraču·s (同上) [qaraču の複数形] 一13七
中合舌剌出撒 qaraču·s·a (下民行) [qaraču·s の与位格形] 二21五
中合舌剌黒赤兀惕 qara·Gči·'ūd (黒毎) [qara の女性形複数] 六3七
中合舌剌中合納 qaraGana (叢草殻) 植物の一種, カラガナ。七32二
中合舌剌訥兀惕 qara·nu'ūd (黒毎) [qara の複数形] 十15二, 八
中合舌剌兀勒 qara·'ūl (哨望) 斥候。四33五, 六, 七, 八; 五28六; 七5六
中合舌喇兀勒 qara·'ūl (哨望的) 同上。七22九, 23一, 24八, 31七
中合舌喇兀(勒) qara·'ū(l) (同上) 同上。七32八
中合舌喇兀勒合 qara·'ūl·(l)un (哨望的) [qara·'ūl の属格形] 十19二
中合舌剌兀勒孫 qara·'ūl·sun (哨望) 斥候。〈→qara·'ūl〉六1七
中合舌剌兀剌 qara·'ūl·a (出哨的行) [qara·'ūl の与位格形] 五28七
中合舌喇兀剌 qara·'ūl·a (哨望的行, 哨望的) [同上] 七22九, 23一
中合(舌)喇兀剌 qara·'ūl·a (哨望的行) [同上] 十18四
中合舌剌兀剌察 qara·'ūl·ača (哨望処, 哨望的行) [qara·'ūl の奪格形] 四34一; 七22十
中合舌剌兀里 qara·'ūl·i (哨望的行) [qara·'ūl の対格形] 七32一, 33七

中合舌喇兀里 qara·'ūl·i (同上) [同上] 七24二, 32八
中合舌喇兀倫 qara·'ūl·un (哨望的) [qara·'ūl の属格形] 七26三
中合舌郎中忽 qarangGu (黒暗) 暗い。三18七, 19四
中合舌邦恢[→中灰] qarangkūi[→qui] (黒) 同上。二20三
*中合舌籃剌- qaram·la- (貪) 貪る。
-周 -ǰu 土57六
中合舌里 qari (一, 外邦, 部落) 外の, 他部族(の)。三43三; 七48三; 八18四; 九8 九², 22二; 土30三
中合(舌)鄰 qari·n (部) [qari の複数形] 四3九
中合舌鄰 qari·n (部落每, 邦) 同上。四31一; 土49七; 土17十, 29二
*中合舌里- qari- (回, 回去) 帰る, 返る。
-罷 -ba 二37四; 五5二, 47二, 48七; 土1八, 7一; 土3一, 27十
-陽中渾 -dqun 五3八, 4六
-周 -ǰu 一35四, 36十; 二15三, 六, 九, 20八, 41三, 45二; 三3二; 四16四, 21七; 五29五; 六10一, 28八; 八4二; 土3一, 4一, 11二, 41五, 52四, 六; 土26四
-主為 -ǰu'ūi 五32九
-中灰突舌児 -qui-dur 六42五
-舌倫 -run 四4十
*(中)合舌里- qari- (回) 同上。
-牙 -ya 五5二
*中合舌里黒蒼- qari·Gda- (被回) [qari- の受動形]
-周 -ǰu 土1八
*中合舌里兀勒- qari·'ūl- (回報, 回, 教回, 教回去, 回復) [qari- の使役形]
-罷 -ba 九11十
-周 -ǰu 三2七; 土6十
-主為 -ǰu'ūi 十33十
-中忽亘 -qu-yi 六25八
-禿中孩 -tuGai 九44一; 土46三
*中合(舌)里兀勒- qari·'ūl- (回) [同上]
-中忽亘 -qu-yi 五34十
*中合舌里兀魯- qari·'ūl·u- (教回) [同上]
-阿陽 -'ād 二38二; 四5八
中合舌里兀倫 qari·'ūl·un (回) [qari·ūl- の同時接合副動詞形] 三5七
中合舌鄰 qari·n (回, 回去) [qari- の同時接合副動詞形] 一34七; 二19三, 四, 五, 20一, 四, 六, 32五; 六17七, 48八; 七6四; 八6七; 土3二, 43九
(中)合(舌)鄰 qari·n (回) [同上] 四73一
中合舌里兀 qari·'ū (回奉, 回, 回復) 返礼。二40一, 三; 三1七, 十, 2一, 四, 六,

30十; 七14三; 九43十²; 十12十; 土28九; 土46二²

中合舌里牙壇 qariya·tan (属的毎, 親属的毎) [qariya·tu '属する' の複数形] 七1十; 八45三; 十33四, 35五

中合撒黒帖児堅 qasaG tergen (大車) 高い車。

-圖児 -tü[→-dü]r 一44八

*中合失- qaši- (甃) ものが崩れないように板などで守りかためる。

-禿中孩 -tuGai 土48十

*中合塔舌剌- qatara- (點着去, 點去, 點) 〈→qadara-〉

-罷 -ba 二46二; 七30一

-周 -ju 一20五; 二44九; 四46七

-主兀 -ju'ū 七7四

-主為 -ju'ūi 七6五

*中合塔舌剌兀勒- qatara·'ūl- (教點) [qatara- の使役形]

-周 -ju 三43五

*中合塔舌剌温勒- qatara·'ū(n)l- (點) [同上]

-周 -ju 一44九

中合(卜)榻孫 qabtasun (板) 板(の)。三20三

*中合塔兀赤- qata'ūči- (謹慎) 〈→qada'ūči-, qada'ūji-〉

-速中孩 -suGai 土31五

中合禿 qatu (婦人, 娘子) 婦人, 既婚の女性。[qatu(n) の不定格] 一34七, 35八; 五24二

-惕 -d 一35八; 二1八, 2七; 五27六

-惕者 -d~je 二47二

中合禿納察 qatu·n·ača (娘子内) [qatu(n) の奪格形] 土36十

中合禿泥 qatu·n·i (娘子行) [qatu(n) の対格形] 五22五, 23八; 土36十

中合禿訥 qatu·n·u (娘子的) [qatu(n) の属格形] 五23十

中合壇 qatan (鋼) 鋼鉄の。三7十

中合堂斤 qatangGi·n (剛硬) 剛直な。七26十

中合唐中忽 qatangGu (鋼硬) 鋼のように固い。三7十

中合堂中忽 qatangGu (同上) 同上。土32三

中合堂中忽牙 qatangGuya[→i·a] (剛硬行, 厳行) きびしく。七47一; 十18九

中合屯 qatun (娘子) 〈→qatu〉 一44九, 45四; 三2七, 5六, 18五, 43三, 四, 十; 四7二, 三

*中合兀赤惕- qa'ūči·d- (旧) 老いる, 老いすぎる。

-罷 -ba 五36三

-抽 -ču 五36三

中合兀臣 qa'ūčin (同上) 古い。土46二

中合兀陳 qa'ūčin (同上) 同上。二12七

中合兀里 qa'ūli (體例) 法規, 規律。

-巴舌児 -bār 九46十
*中合亦- qayi-（尋他蹤）さがし尋ねる。
-巴速 -bāsu 一38二
*中合亦剌- qayila-（叫，喚）泣き叫ぶ。
-阿速 -'āsu 一38二
-周 -ǰu 四46五; 九13八
-恢[→中灰]突児 -küi[→-qui]-dur 二18六
中合亦闌 qayila·n（叫喚）[qayila- の同時接合副動詞形] 四45八，九
*中合亦舌剌- qayira-（愛惜）愛惜する。
-阿速 -'āsu 八22五
*中合亦舌剌剌- qayira·la-（同上）[qayira- の iterative.]
-阿速 -'āsu 八7十
-周 -ǰu 五44六; 十11二
-中渾 -qun 八7九
中合亦舌闌 qayira·n（可惜）惜しい。六16四; 七29七
中合亦舌剌闌 qayira·la·n（愛惜）[qayira·la- の同時接合副動詞形] 二50八
中合翼舌魯中合納 qayiruɢan·a（白翎雀児）[qayiruɢan '雲雀' の与位格形] 五30八
中孩 qai（不知）はて，さて。七47八
*中孩剌- qaila-（叫）呼び叫ぶ。〈→qaiyila-〉
-罷 -ba 五4八
-周 -ǰu 五3五
*中孩亦- qaiyi-（踏）探し尋ねる。〈→qayi-〉
-周 -ǰu 六45十
*中孩亦剌- qaiyila-（叫）〈→qaila-〉
-周 -ǰu 六45十
中含中合兀勒孫 qamqa'ūlsun（蓬高）にがよもぎ（植物の一種）。三6一
中含中合舌魯 qamqaru（砕）砕いて，砕けて。四50一
*中含撒- qamsa-（夾攻）一緒にする; あわせる; 挟撃する。
-傷中渾 -dqun 十37六
-周 -ǰu 四15七; 七14一; 十35二
-牙 -yā 四12二，六，九，13五
中含禿 qamtu（一同，同）一緒に，共に。五37二，三; 六3一; 七46三，九，47四; 九48二; 十32七，38五，七
-巴(舌)児 -bār 十26二
中合[→中含]禿 qa[→qam]tu（一同）同上。一12一
(中)含禿 qamtu（同上）同上。一14五
中含圖 qamtu（相合）同上。八14六
中含三 qamsan（併，逼併）[qamsa- の同時接合副動詞形] 四13九，19五

*中含禿(惕)- qamtu·d-（相合，相同，一同）一緒になる。
-罷 -ba 八14四
-抽 -ču 三11六，14五，24七；四30二，32十；八2七，3三
-忽 -qu 三4十
*中含禿(惕)- qamtu·d-（相同）同上。
-抽 -ču 三24十
*中含禿惕中合- qamtu·d·qa-（合併，教相合，相合）[qamtu·d- の他動詞形]
-罷 -ba 八18四
-黒撒訥 -ɢsan·u 八46八
-周 -ǰu 二40二
*中含禿惕中合勤都- qamtu·d·qa·ldu-（相収合）[qamtu·d·qa- の対動形]
-周 -ǰu 三2二
*中含禿都- qamtu·d·u-（相合）〈→qamtu·d-〉
-阿速 -'āsu 七27一
中含禿敦 qamtu·d·u·n（相合）[qamtu·d- の同時接合副動詞形] 七26七，八，28八
中罕 qa·n（皇帝）皇帝，汗。二39五；三1五，4七，7五，8八，10一，二，七，11五，12一，七，16一，22二，三，24七，25一，43一，二，44五，48一，50二，四²；四1七，八，10十，12六，八，13一，二，七，14一，15二，16一；五9九，10二，11三，13一，七，九，22八，28三，30七²，36九，43七，八；六16七²，21三，四，八，十，22四，八，九，23六，七，八，24七，九，26，八，九，29一，九，30四，31三，六，34九，十，35二，七，九，36二，37一，39十，40三，五，六²，十，41七，45八，46四²；七9二，八，九，10二，八，十，11四，13七，14六，23十，26三，四，27七，28五，六，29一，31二，33一，二，34七，十，35九，36三，37二，四，39一，三，九，42四，43六，八2四，3七，16十，17七，18一，五，24四；十10十；土6二，8五，12三，13五，14四，18一，22九，23四，九，25五，28一，29一，五，35七，37七，十，38一，三，六，九，39五，九，40二，三，52一，二；土14二，三，五，15二，56十
-惕 -d 七11六；土21五，22二
-突舌児 -dur 三50三；五10一，11二，四，14四，40六；六24一；七25一；土5四
-突(舌)児 -dur 四12三
-突舌里顔 -dur-iyān 八13一
-都舌里顔 -dur-iyān 八13七，九
-魯 -lu 六35八
-魯阿 -lu'ā 五9七，11八；六25五
(中)罕 qan（同上）同上。六25五，28二；十28一
中罕納 qan·na（皇帝行）[qan の与位格形] 三9十
中罕納察 qan·nača（皇帝自，皇帝処）[qan の奪格形] 三3八；六25十

中罕泥 qan·ni（皇帝行）[qan の対格形] 五28九; 六19九, 25十
中罕你顔 qan·niyān（皇帝自的行）[qan の再帰格形] 六51六, 52一; 七6七, 7九
中罕訥 qan·nu（皇帝的）[qan の属格形] 三4六, 10七; 七9一, 28十; 八39六; 六8六
中罕出 qanču（袖）袖。
-班 -bān 四8六; 六25八
中罕出惕 qančud（衣袖, 袖毎）[qanču(n) の複数形] 十28十, 29四
中罕出的顔 qančud·iyān（衣袖自的行）[qančud の再帰格形] 十40六
中罕純都舌里顔 qančun·dur·iyān（袖裏自的行）[qanču(n) の再帰与位格形] 五20七
*中罕出剌- qančula-（袖）（ものを）袖に入れる。
-周 -ju 五20八
*中罕荅- qanda-（満立）充たされる, 満足される。
-中忽 -qu 九25一
*中康中合- qangGa-（足）充たす。
-周 -ju 四43八
中康中合思 qangGas（破閉, 劈閉）きり裂いた状態に。一31六; 四9一
中康中罕 qangGan（教足）[qangGa- の同時接合副動詞形] 六21六
*(中)康失- qangši-（搶）匂う。
-塔剌 -tala 十24七
中豁挨 qo'āi（慘白色）淡黄色の, 淡紅色の。一1四
*中豁綽荅- qočoda-（落後）〈→qočor-〉
-由 -yu 七39八
*中豁綽児- qočor-（落後）残る; ～てしまう, ～のままになってしまう。
-罷 -ba 二27十, 32九
*中豁綽舌児- qočor-（同上）同上。
-罷 -ba 五30九
-抽 -ču 三30五; 五3十; 八19八; 十24四
-出兀 -ču'ū 五39七; 六11五; 七6八
-出為 -ču'ūi 六42七
-速 -su 四49八
*中豁撏児- qočor-（墮落）同上。
-出兀 -ču'ū 二15三, 四
*中豁撏(舌)魯- qočor·u-（落後）同上。
-黒撒惕 -Gsad 一49三
*中豁撏舌魯- qočor·u-（落後）同上。
-黒撒惕 -Gsad 四18六
-黒撒你 -Gsan-i 四18三
*中豁綽舌魯- qočor·u-（抛下, 落後）同上。

-黑撒泥 -Gsan-i 三24一，32十；五40一
-黑三 -Gsan 四47十
-兀澤 -'ūǰaị 七16七，八
-由 -yu 七39八

中豁惕 qo·d（箭筒）[qor の複数形] 土48二
*中豁都剌- qodula-（罰）罰として取りたてる；引き抜く。
-中忽宜 -qu-yi 三12九
中豁黑 qoG（砕草）塵芥；残渣。十10二
中豁只惕 qoǰid（落後）後れて。二1九；三12八；十2四
*中豁只荅- qoǰida-（落後）後になる，遅れる。
-罷者 -ba~je 九17五
-黑撒泥 -Gsan-i 三12六
-黑撒你顏 -Gsan-iyān 土29三
-速 -su 三45七
-牙 -yā 三12四
中豁只丹 qoǰida·n（同上）[qoǰida- の同時接合副動詞形] 土32七
*中豁只荅兀魯- qoǰida·'ūl·u-（教落後）[qoǰida- の使役形]
-梅 -muị 二2二
*中豁只荅兀兀勒荅- qoǰida·'uul·da-（被落後）[qoǰida·'uul-〈→qoǰida·'ūl-〉の受動形]
-周 -ǰu 二1九
中豁只兀剌思 qoǰi'ūla·s（枯橘）[qoǰi'ūla '切株' の複数形] 一17三
*中豁勒巴阿舌剌- qolba'āra-（並行）並ぶ。
-塔剌 -tala 土30一
中豁勒巴阿舌闌 qolba'āra·n（同上）[qolba'āra- の同時接合副動詞形] 土29十
中豁勒巴舌闌 qolbāra·n（同上）[同上] 土29二
中豁剌 qola（遠）遠い。〈→qolo〉 土44七
-宜 -yi 八7八
*中豁里- qoli-（和）混ぜる。
-周 -ǰu 一48三
中豁羅 qolo（遠）遠い。〈→qola〉 四41三，四；七11十，34八，35十；八10九；九34八，42七
中豁魯中合 qoluGa（悪的）耳垢。
-惕 -d 二13六
中豁馬兀勒 qoma'ūl（乾糞）家畜の乾いた糞。十10二
*中豁抹舌児- qomor-（囲合）囲む。
-抽 -ču 七15一
中豁木撒 qomsa（費耗）〈→qor qomsa〉
中豁納黑剌- qona·G·la-（当宿食）宿泊食を作る。

-周 -ǰu 土25十

*中豁那- qono-（宿，宿来）泊る，宿る。

-阿速 -'āsu 五46三；六29一；八33八，37三；土1九

-罷 -ba 二15六，九；三16五；四38一，47一；五29九；七43一；土2二

-周 -ǰu 二15一，28九，30二；五31六；六11二，七；八35二；九47三

-黒撒惕 -Gsad 四45一；九46五；土38一

-黒三 -Gsan 四45五

-中忽 -qu 一17九；十7七

-禿中孩 -tuGaį 七20八，21七；九46三；土37六，七，十

*(中)豁那- qono-（宿）同上。

-罷 -ba 四34十；六10二

-巴速 -bāsu 二21九

-周 -ǰu 一46五

中豁難 qona·n（宿）[qono- の同時接合副動詞形] 九46三

中豁那(你)阿兀魯来 qono(n) a·ūl·u·lāį（教宿来）宿りあらしめた。二22一

*中豁那勒都- qono·ldu-（共宿）[qono- の対動形]

-罷 -ba 四38三

-周 -ǰu 七21五；九16七，41十

-中渾 -qun 三28八

*中豁那兀勒- qono·'ūl-（教宿）[qono- の使役形]

-罷者 -ba~ǰe 九12二，三

中豁那兀俞 qono·'ūl·u·n（同上）[qono·'ūl- の同時接合副動詞形] 二17一²

*中豁那温(勒)- qono·'ū(n)(l)-（宿）[=qono·'ūl-]

-恢[→中灰]突児 -kūį[→-quį]-dur 二21九

(中)豁那(你) qono(·n)（宿）[qono- の同時接合副動詞形] 一19五

中豁那黒 qono·G（宿）泊まること，一昼夜。一48三；二15九，50一；八35十；土3一

-途舌児 -tur 三45七

中豁你赤 qoni·či（牧羊，牧羊的）羊飼い。五14二

-荅 -da 九29九

中豁你臣 qoni·či·n（放羊的）[qoni·či の集合名詞形] 同上。十9十

中豁你惕 qoni·d（羊毎）[qoni(n) の複数形] 七33三

(中)豁你惕 qoni·d（同上）[同上] 土54一

中豁你荅察 qoni·d·ača（羊処，羊行）[qoni·d の奪格形] 土47五，52六，53四

中豁你訥 qonin·u（羊的）[qonin の属格形] 六41十

中豁紐 qoni·n（羊）羊。一11七；二45一；土1二，10九；土47四，五，53四

中豁紐赤惕 qonin·či·d（放羊的毎）[qoni(n)či(n) の複数形] 三30二，八

中豁紐惕 qoni·n·d（羊毎）[qonin の複数形] 三45九，十

中豁紉的 qoni·n·d·i（羊毎行）[qonin·d の対格形] 三45七
(中)豁紉的 qoni·n·d·i（同上）[同上] 三45八
中豁紉的顔 qoni·n·d·iyān（羊毎自的行）[qonin·d の再帰格形] 七12二
中豁斡剌牙 qo'ōlaya[→i·a]（喉嚨行）[qo'ōlai の与位格形] 三30三，九
中豁斡来 qo'ōlai（喉嚨）のど。二5九；五3三；九9九
-荅安 -da'ān 一16九
-都舌里顔 -dur-iyān 七37十
-顔 -yān 土26五
中豁斡闌察舌児 qo'ōlančar（饒）食いしん坊の。三45九
中豁斡孫 qo'ōsu·n（空）空っぽの。三6八；五4十；九12一；土26六
中豁乞理 qoqimai（枯乾）枯れた，乾いた。三19三
中豁乞舌児 qoqir（ナシ）頑迷な。三19二
*中豁乞舌剌- qoqira-（罄絶）根絶する。
-塔剌 -tala 三14一
中豁舌児① qor（折損，害）損失。七31十；八21四，七；九15三，九
中豁舌児② qor（箭筒，弓筒）矢筒。三5九，45一，二；七12四，14二，六，16一，五；九37五，46四；十2二，四；土42十
-突(舌)児 -dur 九46七
-壇 -tan 土30二
-禿 -tu 七37十
(中)豁舌児 qor（箭筒）同上。十8七
*中豁舌児- qor-（躲）身を避ける，隠れる。
-罷 -ba 四4八
-出(中)灰 -čuqui 二26八
*中豁舌児中合- qor·ga-（教躲）[qor- の他動詞形]
-罷 -ba 四4九
中豁舌児赤 qor·či（帯弓箭的）矢筒兵。土46五3
-宜 -yi 土20四
-曰 -yin 土15六
中豁舌児赤泥 qor·či·n·i（帯兀箭的行）[qor·či(n) の対格形] 九36八，37二，三，四，六；土47九；土42八
(中)豁舌児赤泥 qor·či·n·i（同上）[同上] 九37四
中豁(舌)児赤泥 qor·či·n·i（同上）[同上] 十2十
中豁舌児赤你顔 qor·či·n·iyān（同上）[qorči(n) の再帰格形] 九37六；土43一
*中豁舌児赤剌兀勒- qor·čila·'ūl-（教帯弓箭）[qorčila-'矢筒を帯びる' の使役形]
-周 -ju 七2十；九24七
*(中)豁舌児赤剌兀勒- qor·čila·'ūl-（同上）[同上]
-周 -ju 九26四

中豁舌児臣 qor·či·n (帯弓箭的, 帯弓箭) [qor·či の集合名詞] 矢筒兵。七20五, 十, 21二; 九31九, 36七, 37一, 45十, 46四, 五, 七; 十5三, 9一, 40九; 土46六; 土14五, 36十, 37四

-魯阿 -lu'ā 九39九

(中)豁舌児臣 qor·či·n (帯弓箭的) [同上] 十8十

中豁(舌)児臣 qor·či·n (同上) [同上] 十2十

中豁舌児中合 qorga (寨子) とりで。四14一; 八1六, 4四

中豁舌児中合納察 qorga·n·ača (寨子処) [qorga(n) の奪格形] 四14二

中豁舌児埋 qormaį (裾, 衣襟) 襦; 襟; 裾。七31六, 32七; 土8五

-班 -bān 土25九

*中豁舌児埋剌- qormaį·la- (包) 裾で包む。

-周 -ǰu 六17三

*中豁舌児中合(黒)剌- qorga·la- (寨子巴) とりでを築く。〈→qorgala-〉

-主兀 -ǰu'ū 五20四

*中豁舌児中合剌- qorga·la- (寨子巴, 巴寨子) 同上。

-主為 -ǰu'uį 八1六

-黒撒惕 -Gsad 八1九, 4四

-黒三 -Gsan 四16十

-黒撒的 -Gsad-i 四14二

*(中)豁舌児中合[剌]- qorga·la- (寨子巴) 同上。

-黒撒惕 -Gsad 五20四

*(中)豁舌児中合剌- qorga·la- (同上) 同上。

-黒撒惕 -Gsad 五20五

*中豁児中豁- qorgo- (趕入) 追い込む。〈→qorga-〉

-巴速 -bāsu 二23四

*中豁舌児中豁- qorgo- (教趕) 同上。

-周 -ǰu 八22二

*中豁児中豁剌- qorgo·la- (寨做) とりでを築く。〈→qorgala-〉

-黒三 -Gsan 二26四

-周 -ǰu 二13七

*中豁舌児中豁剌兀勒- qorgo·la·'ūl- (寨巴) [qorgo·la- の使役形]

-周 -ǰu 土5八

中豁舌児中豁木撒 qor qomsa (費耗) 消耗; 少量。十5二

中豁舌児中豁速訥 qorgosu·n·u (羊糞塊的) [qorgosun '羊糞' の属格形] 三19三, 五

中豁舌藍 qoram (暫) しばらく。土24五

(中)豁舌藍 qoram (暑) 同上。一20三

中豁舌里阿惕 qori'ād (毎二九箇) 二十ずつ; 約二十。土53十

中豁舌里牙安 qoriya'ān (院子) かこい。三19五

中豁舌里牙舌里顔 qor·iyār·iyān (餘儘自的行) [qor の再帰・造格形] 七11二
中豁舌里顔 qor·iyān (同上) [qor の再帰格形] 七14九, 15十, 29十
中豁舌鄰 qorin (二十, 二十箇) 二十。六25三; 七38三; 十53九
中豁舌羅 qoro (毒) 毒。一48三 〈→qoron〉
*中豁舌羅黒- qoroG- (刁) 気づかう; 大切にする。
-抽 -ču 六23十
中豁舌羅中渾 qoroG·u·n (刁, 費) [qoroG- の同時接合副動詞形] 三18七, 19四; 六24四, 35三, 51七, 52二; 十39五
中豁舌欒 qoron (毒) 毒。十11三
*中豁舌魯阿- qoru'ā- (廃) 亡ぼす, 害する。
-周 -ǰu 七4六
中豁舌魯舌剌 qor·u·ra (躲避) [qor- '隠れる' に -ra のついた形] 七16九
中豁舌魯木陽 qorumud (且, 少頃) ほんの少し。〈→qurumud〉 四9九; 六13五
*中豁舌魯兀勒- qoru·'ūl- (教凝) [qor(u)- '凝る' の使役形]
-周 -ǰu 十24九
中豁室 qoš (房子) 小舎。
-都舌里顔 -dur-iyān 五49九
中豁失里黒 qošiliG (帳房) 帳房。十41二
中豁失里中渾 qošiliG·un (帳房的) [qošiliG の属格形] 二15七, 16一; 十42一
中豁失兀納 qoši'ūn·a (觜行) [qoši'ū(n) の与位格形] 十1十, 7一
中豁失兀訥 qoši'ūn·u (觜) [qoši'ū(n) の属格形] 二26八
中豁失兀壇 qoši'ū·tan (觜有的) 鼻面をもった。七33九
中豁失温 qoši'ū·n (山觜) 山鼻; 嘴。一35三, 36一
中豁塔陽 qota·d (城子毎) [qota '城, 城術' の複数形] 〈→qoto·d〉 十6八
-圖舌児 -tur 十6九
中豁脱陽 qoto·d (同上) 〈→qota·d〉 十2八²; 十21一, 六
中豁脱剌 qotola (都行) 全て(の)。三6七, 19二
-宜 -yi 七37十
中豁脱来顔 qotola·iyān (都自的行) [qotola の再帰格形]
(中)豁団 qoto·n (圏子) 羊囲い。三45九
-突舌児 -dur 七33三
中豁牙児 qoyar (両箇, 両, 二) 二。一2八, 十, 7二, 10九, 12七, 30三, 31一, 十, 32一, 九, 37五, 39九; 二7九, 十, 9二, 10五, 11二, 21十, 23三, 25十, 36五, 46七
-圖児 -tur 一40一
中豁牙舌児 qoyar (両箇, 二, 両箭[→箇]) 同上。三2九; 十, 4十, 9二, 九, 10二, 八, 11十, 14五, 24十, 25九, 26七, 29五, 九, 34四, 十, 35三, 41八, 45二, 48七; 四1四, 五, 八, 13二, 七, 16三, 20一, 22一, 六, 27九,

32九，35七，47三[2]；五21六，27六，28一，29五，八，32一，十，35十，36六，40十，49八，50二，四，七，九；六8三，11四，18五，21十，23一，四，30一，35四，38十，40十，41一[2]，二，四[3]，42三，48一，49四，50五；七5四，11五，六，34六[2]；八2六，14四，26八，33七，36四，37十，47五，47六；九14四，六，十，26二，30四，39九；十5八，12三，18七，20九，23七，29六，七，30二；廿13二，八，16二，十，23五，29一，九，30七，38三，六，39五，50四；卅8三，九，14七，29六，七，35三，40八，41一，三，六，43四，五，48九，49六，58七

-魯阿 -lu'ā 八41八

-途舌児 -tur 四31七；五39七

中豁牙(舌)児 qoyar（両箇）同上。四14一；五37四；七11六；九9四，五，10一，17二，25二，29六，30四

(中)豁牙舌児 qoyar（二，豁箇）同上。三4八，49二；四4二，15三，20六；廿42七

-途舌児 -tur 九4五

(中)豁牙(舌)児 qoyar（両箇）同上。十28五

中豁牙舌剌 qoyar·a（両箇行，両箇）[qoyar の与位格形] 二8二；三7七，16一，22七，48五；四1三，20四；六21一，35四；廿7九，8一

中豁牙(舌)剌 qoyar·a（両箇行）[同上] 廿30七

中豁牙舌剌察 qoyar·ača（両箇行）[qoyar の奪格形] 二7九；七10九；九4三

中豁牙舌里 qoyar·i（両，両箇，両箇行）[qoyar の対格形] 一43六；三3十，22五，50三；四1二，六，7六，20三，21七，26九，27四；五11十，18七，37五，46十，47二，49五，九；六23九，25一，26十，31八[2]，35十，39十，46八，九，50九，51三；七22七；九2二，9八，15九，24十；十26三；廿1五，13十，17二，39九，十，47十，52一，三；卅15七，32六，36一，53八

(中)豁牙舌里 qoyar·i（両箇行，両箇）[同上] 一39一；三46十；十26三

中豁牙舌里牙舌児 qoyar·iyār（両箇，両箇行教）[qoyar の造格形] 六41五，45七

中豁牙舌侖 qoyar·un（両箇的）[qoyar の属格形] 二36八；三5十，24九；六1二，27六，38三，40九，48四；七2七，3五；八19二，21十；九25一；廿30十，38九，49一，51三；卅35二，42一[2]

(中)豁牙(舌)侖 qoyar·un（両的）[同上] 一42四

中豁牙兀剌 qoya'ūla（両箇）二つ一緒に，二人一緒に。十30一

中豁亦馬舌児 qoyi·mar（正面）（ゲル内の最北の）奥座。五39二

中豁亦馬舌剌 qoyi·mar·a（同上）[qoyimar の与位格形] 五39三

中豁亦赤 qoyi·či（後）後のこと，将来。

-余安 -yu'ān 卅45七

中豁亦納 qoyi·na（後，在後，後行）後に，後で。一7七，14九，32五；二25五，28二；四2五，19三，30一；五8十，11一，14三，21二，五，28一；六7九，23

七，25九；七3八；八36八，37二，46十；九2十，28五，47一；十3八，33一，36九；土1二，5六，11六，20一，28六；圭3十，13二，37九，38一，55一，十，57八

(中)豁亦納 qoyi·na（後，後頭）同上。一8二，10五，26三；土31五

中豁亦訥[→納] qoyi·nu[→na]（後頭）同上。三26六

中豁亦納察 qoyi·na·ča（後頭自，後自，自後，後行，後自行，後処）[qoyina の奪格形] 後から。一35三，36九；二5一，32一，45五，47四，48五；三38八；四20二；五32六；六1七，11七，九，15九，49二；七34九，36一，37五，39四；九13十；十10二，34十，35十；土37八，九，38九

-安 -'ān 十36七

(中)豁亦納察 qoyi·na·ča（後自，自後，後処）同上。一20八；二3九，50一；六2二，13八；九16九

中豁亦納黑石 qoyi·na·Gši（望後，往後）後へ。七7四，34八，35十；土2一

-荅 -da 一37七

中豁亦納温 qoyi·na'ūn（後，縦後，後行，自後）後を。六48十；九47二；十18四；圭37八

中豁亦図 qoyi·tu（後頭，後頭的）北側の，後ろの。二23七，24八，32八

中豁亦禿思 qoyi·tu·s（後頭的每）[qoyitu の被数形]

中豁亦禿兀剌察 qoyitu·'ūl·ača（後行）[qoyitu·'ūl '北側に一緒にあるもの' の奪格形] 十41一

中管只牙孫 qonǰiyasun（白腸）直腸。三45十

中晃中豁黑赤兀惕 qongGo·Gči·'ūd（黄色）[qongGo·Gči '薄黄色の牝の' の複数形] 三45八

中晃中豁児 qongGo·r（黄馬）黄馬，栗毛の馬。

-途児 -tur 二28三

中晃中豁舌里 qongGo·r·i（甘草黄馬，黄馬行，甘草黄馬行）[qongGor の対格形] 二28一，八，29四，38四；八35七，36八

中荒失兀惕 qongši'·ūd（臭気）臭気。一17三

中忽卜察速 qubča·su（衣服）衣服。七11九

中忽卜察速你顔 qubča·sun·iyān（服自的行）[qubčasu(n) の再帰格形] 四39七

中忽卜察孫 qubča·sun（衣服）衣服。四42七；九48十；土39六

中忽(卜)察孫 qubča·sun（同上）同上。四42四

中忽(卜)濼 qubča·n（同上）[qubčasun の複数形] 四18四

中忽必① qubi（分子，分）分け前。一15二；八30三，31一，八；十23一；土44五

-阿察 -'āča 九33七，十

-亦牙舌児 -iyār 八29七

(中)忽必 qubi（分）同上。九33五

中忽必② qubi（黄馬，淡黄馬）淡黄色の馬。

-圖 -tu —35一
-宜 -yi 二29六; 八35八
-因 -yin —36二
-余安 -yu'ān —35二
*中忽必剌- qubi·la-（分）分ける，部分にする。
-周 -ǰu 八30五
-黒撒泥 -Gsan-i 八31一
中忽必剌勒都 qubi·la·ldu（同上）['qubi·la-'の対動形の命令形] 八29八
*中忽必牙- qubi·yā-（分）分ける。
-周 -ǰu 七1三, 4五; 十22八; 土45一; 土48五
*中忽必牙勒都- qubi·yā·ldu-（共分）[qubi·yā-の対動形]
-惕者 -d~ǰe 五17七
-周 -ǰu 四16四; 土44四, 45二; 土8三
-舌侖 -run —14十
-牙 -yā 五19七
*中忽必牙兀勒- qubi·yā·'ūl-（教共分）[qubi·yā-の使役形]
-罷 -ba 八5三
中忽不舌里 quburi（岡，低山）丘。—35二, 36九; 二30二; 六9九
*中忽察- quča-（吠）吠える。
-(中)灰 -quị 七10一
-梅 -muị 七10七
中忽察勒 quča·l（吠）吠え。七10七
*中忽赤①- quči-（包裹）蔽う，包む; かこむ，めぐる。
-阿速 -'āsu 土31六, 33七
*(中)忽赤- quči-（同上）同上。
-阿速 -'āsu 土31七, 33六
*中忽赤②- quči-（咽）喉に（ものが）つかえる。
-周 -ǰu 土26五
*中忽察阿- quča'ā-（省惜）節倹する，倹約する。〈→quči'ā-〉
-速 -su 八8一
*中忽赤阿- quči'ā-（同上）同上。〈→quča'ā-〉
-惕中渾 -dqun 八7十
*中忽赤勒都- quči·ldu-（共繞，裹，相囲繞）[quči①-の対動形]
-罷者 -ba~ǰe 八37一
-周 -ǰu —36二
-黒撒惕 -Gsad 三21五
*中忽赤兀勒- quči·'ūl-（教繞，繞）[quči①-の使役形]
-周 -ǰu 八10三

-(中)灰突舌児 -quị-dur 三17九; 四43三
-中灰突舌児 -quị-dur 八37一
*(中)忽赤温勒- quči·'ū(n)l- (繞) [同上]
-周 -ju 二48二
中忽臣 quči·n (渋噎) [quči②- '喉につかえる' の同時接合副動詞形] 九9九
中忽赤里思 qučilis (衷過) 一回めぐって。一35四
*中忽惕中忽剌- qudqu·la- (攪) かきまぜる。[qudqu の iterative]
-中忽 -qu 一28一
中忽荅 quda (親家) 夫婦の妻側から見て, 夫側の親族。一42八, 43五, 十, 45八, 九, 47二; 二1五
中忽荅勒 qudal (謊) うそ, いつわり。五21四
中忽荅里 qudal·i (謊行) [qudal の対格形] 八30八
*中忽荅勒都- qudaldu- (買) 買う, 商売する。
-周 -ju 六44三
*中忽荅剌- qudala- (聘) 縁組をする。
-禿中孩 -tuGaị 六52八
中忽都(黒) quduG (福神) 福, 吉慶。三13九
中忽都舌児中合 qudurGa (鞦) (馬の) しりがい。八8八
中忽都舌児中合剌兀勒 qudurGa·la·'ūl (教套) [(馬の) しりがいをつけるの命令形]。八8八
中忽都兀惕 qudu·'ūd (井毎) [quduG '井戸' の複数形] 三48九, 55六
中忽剌 qula (黄馬) たてがみと尾は薄黒色で他は淡黄色の (馬)。
-宜 -yi 四50七
-因 -yin 四49四
中忽剌惕 qula·d (野馬毎, 野馬) [qula の複数形] 七5十; 三1七, 11一
中忽剌的 qula·d·i (野馬行) [qula·d の対格形] 三1六
*中忽剌只- qulaji- (驚出) 驚く。
-周 -ju 十31七
中忽剌勒[→]惕- qulal[→d]- (墜) ころげおちる。
-抽 -ču 七43二
*中忽剌黒- qulaG- (偸) 盗む。
-抽 -ču 三15十, 16九
*中忽剌中忽- qulaG·u- (偸) 盗む。
-黒三泥 -Gsan-ni 四8七
中忽剌黒赤沉 [→泥] qula·Gčim[→n·i] [qula·Gčin '葦毛の牝馬' の対格形] 二25七
中忽剌中孩 qulaGaị (賊, 盗) 盗人。四8七; 五21四
-宜 -yi 八30七
中忽闌 qulan (野馬) 騾馬に似た薄栗毛色の馬。八6八

中忽魯中合納 qulu·gana（老鼠）鼠；（暦の）子。三47五
中忽鼬中合納 qulugana（鼠，鼠児）同上。三18九； 七22五，45二； 十31九； 十三13七，58五
中忽納舌児 qunar（ナシ）（衣類などを含めて）外見。三18十
中忽中忽 quGu（折）［副詞的動態言。後続する動詞の動作の結果，quGu '折れ・割れ' の様態に到ることを示す。］
*中忽中忽赤- quGu·či-（各折折）折る（何回も）。
-周 -ǰu 一11十
*中忽中忽勒- quGu·l-（折，折折，折挫）折る。
-周 -ǰu 一10一； 四27十； 十39八，40十； 十三34五
*中忽中忽勒荅- quGu·l·da-（被折折）［quGu·l-の受動形］
-周 -ǰu 四29三
-中渾 -qun 一14四
*中忽中忽魯- quGu·l·u-（折折，割折）〈→quGul-〉
-陽中渾 -dqun 一11九，12一
-舌剌 -ra 五3三
中忽中忽侖 quGu·l·un（折折）［quGu·l-の同時接合副動詞形］一12二
*中忽中忽舌剌- quGu·ra-（折）折れる。
-阿速 -'āsu 六23二，四
-周 -ǰu 四28一； 八44十
*中忽中忽《舌》剌- quGu·la-（折）折る。
-周 -ǰu 三38四
*中忽中忽《舌》剌(黒)荅- quGu·la·Gda-（被折）［quGu·ra-の受動形］
-周 -ǰu 二46四
中忽中忽舌魯 quGu·ru（折断，折了，折着，断，折，折折）［quGuの多回体］二13八；三6七，13十； 四3三，10五，28五
中忽中忽思 quGu·s（折）［quGuの一回体］二46四
中忽舌児察 qurča（鋒利）厳しい（く），鋭い（く）。七10八； 十三9一，三
-壇 -tan 十三18二
(中)忽児敦 qurdun（快）速い。一36二
中忽児敦 qurdun（同上）同上。二29六
中忽舌児敦 qurdun（快，疾快，疾快的）同上。六48九； 八35八； 九12一； 十二5五； 十三9一，二
(中)古児敦 qurdun（快）速い。一35一
中忽舌児都你顔 qurdun·iyān（快馬自的行）［qurdunの再帰格形］三7九， 8四
中忽舌児堆闌 qurdui·la·n（疾快）［qurdui·la-'速める' の同時接合副動詞形］十二12七
中忽舌剌 qura（雨，両［→雨］）雨。三12四； 八37四，六； 九12一
-荅 -da 十一7七

*中忽舌剌- qura-（衆，聚）集まる。
-阿速 -'āsu 土2三
-周 -ǰu 一39二
*中忽舌剌兀勒- qura·'ūl-（聚）［qura-の使役形］
-周 -ǰu 土9八
*中忽舌剌兀魯- qura·'ūl·u-（収）［同上］
-阿速 -'āsu 土5二
中忽舌剌勒 qura·l（聚会）集まり。
-突舌児 -dur 三12四
中忽舌闌 quran~Guran（七）のろじか。［quran saraは'七月'の意］土58五
中忽舌里 quri（ナシ）［官職の名称の一つ（?）］四15四
*中忽舌里- quri-（聚，聚会）（血縁者が）集まる。
-周 -ǰu 二18六；五36八；八24三；十33二；土14一，58五
-中灰突舌児 -quį-dur 十33三
-中渾 -qun 十33三
中忽舌里門 qurim·un（筵会的）［qurim '同族の集まる宴' の属格形］二17五
中忽舌羅中合 quriGa（羔児）小羊。
-班 -bān 五50一
中忽舌里中合赤傷 quriGa·či·d（放羔児的每）小羊飼い達。三30三，九
中忽舌里牙安 quriyā'ān（収拾）［quriyā'ā- '収集する' の同時接合副動詞形］十22九
*中忽舌里牙- quriyā-（収，収拾）収める，収集する。
-罷 -ba 七43十
-周 -ǰu 三19一；五36一²，43九
*(中)古舌里牙黒荅- quriyā·Gda-（収来）［quriyā-の受動形（こゝでの意味は尊敬）］
*中忽舌里牙勒都- quriyā·ldu-（共収集，共収拾）［quriyā-の対動形］
-黒三 -Gsan 九7四
-速 -su 三47五
中忽舌里牙勒敦 quriyā·ldu·n（共収集）［quriyā·ldu-の同時接合副動詞形］九7三
中忽舌林 qurim（筵席，筵会）（同族の集まる）宴。四8四，六，9四；土29四，七，
-突児 -dur 二17五
*中忽舌林剌- qurim·la-（做筵会，筵席，做筵席）qurimを行なう。
-梅 -muį 六50六
-中灰突舌児 -quį-dur 四18九；土29五
-舌倫 -run 四6八
-牙 -yā 四6八；土29四
*中忽(舌)林剌- qurim·la-（筵会）同上。
-恢［→中灰］突児 -kūį(→-quį)-dur 一31五
中忽舌林闌 qurim·la·n（筵会，做筵席，做筵会，筵席）［qurim·la-の同時接合副動詞

形] 一39三; 三28七; 六48三; 十20一; 廿29八

*中忽舌林剌勒都- qurim·la·ldu-（相筵会）[qurim·la-の対動形]

-周 -ǰu 二17四

中忽舌鄰勒塔 quri(n)lta（聚会）血縁者の会合，クリルタイ。廿58五

中忽舌羅中渾 quroG·u·n（勺了）[qoroG-の同時接合副動詞形] 六26一

舌忽舌魯阿 quru'ā（寨）〈→qorGa〉廿57六

中忽舌魯木惕 qurumud（少時）〈→qorumud〉十38三

中忽舌魯兀的顔 quru'ū·d·iyān（指頭自的行）[quru'ū·d '指（複数形)' の再帰格形]

—33七，八

中忽舌魯兀敦 quru'ū·d·un（指毎的）[quru'ū·d '指（複数形)' の属格形] 廿32一，二

*中忽失兀舌剌- quši'ū·ra-（出尖）鼻面をつきだす。

-周 -ǰu 七36二

*中忽塔黑剌勒都- qutaGla·ldu-（ナシ）[qutaGla- '重なる' の対動形]

-周 -ǰu 七43三

中忽禿黑 qutuG（福神，神，福，吉慶，慶）慶福，吉祥。三6六; 八40七; 十4一

-台 -taị 三19一

-禿 -tu 八14九，33五; 九6四

*中忽兀舌児苔兀勒- qu'ūr·da·'ūl-（教弾）[qu'ūr·da- 'ホールをひく' の使役形]

-周 -ǰu 七9六

中忽牙黑 quyaG（甲，甲器，甲毎）かぶと。七37九; 十8四; 廿48二

(中)忽牙吉顔 quyaG·iyān（甲自的行）[quyaGの再帰格形] 三8五

中灰[→恢] 亦顔 quị[→küị]·yiyēn（臍帯自的）[küị 'へそ' の再帰格形] 十29九

中鸛 qun（天鵝）白鳥。三18九

# G

中合荅 Gadā (外面，外前，在外) 外，外で。五24九，49一
-宜 -yi 土24二
中合荅納 Gada·na (外行) 外の，外に。三20九；九46二，五；土37六
(中)合荅納 Gada·na (外面) 同上。五21三
中合荅納察 Gada·na·ča (自外) [Gadana の奪格形] 外から。九13三
中合荅納都思 Gada·nadu·s (在外每，在外的每) [Gadanadu '外の，外にいる' の複数形] 九44十，45二，四；土46三，四，六
中合荅温 Gada·'ūn (在外，外面，経外面) 外を。三47六；七5九；土37五，八
中合札児 Gaǰar (地) 所，場所。一6四；二42七
-禿舌里顔 -tur-iyān 一6一
-都舌里顔 -dur-iyān 二26五
中合札舌児 Gaǰar (地，地面，也 [→地]) 同上。三38十，44一；七11六；九24三，六；土5七，12九；土21五，22二，三，26六，53七
-都舌里顔 -dur-iyān 五17八
-途舌児 -tur 八7二
中合札(舌)児 Gaǰar (地) 同上。四49八
中合札舌剌 Gaǰar·a (地行，地裏，地面行，他 [←地] 行) [Gaǰar の与位格形] 一3四，5五，37四；三9四，11八，12八，22八，44三；四38一，49十；五14三；六26三，48七；七28一，38二，七，八；八3八，44七；九1九，31五，34八，42七；十16六；土3一，45三，46二，47二，52二；土44七，47二，48七，55五，九
中合札(舌)剌 Gaǰar·a (地行) [同上] 三49四
中合札舌剌察 Gaǰar·ača (地行，址行，地処) [Gaǰar の奪格形] 四45三，五；六10二，17七；土23三；土57四
中合札舌里牙舌児 Gaǰar·iyār (地面裏，地行，地行依着) [Gaǰar の造格形] 五14六，15十；六26五
中合札舌里顔 Gaǰar·iyān (地自的，地自的行) [Gaǰar の再帰格形] 一6二；二19四，20四
中合札(舌)魯 Gaǰaru (地裏) [Gaǰar の方向格] 場所へ。二1八
中合札舌侖 Gaǰar·un (地，地的) [Gaǰar の属格形] 五34十；六25八；八7八；土4四
*中合林舌児赤剌- Gaǰar·čila- (引路) 道案内をする。
-周 -ǰu 十14三，六
中合勒 Gal (火) 火。六14三；七24九
-突舌児 -dur 八33十
-圖児 -ṭur 二23七

中合里牙舌児 Gal·iyār (教火) [Gal の造格形] 七23九, 24一
中合里顔 Gal·iyān (火自的行) [Gal の再帰格形] 十24一
中合勒只舌児中忽 Galǰirgu (被斜人行) 曲った; 斜めの。
-荅 -da 八17四
中合勒只舌児中忽由 GalǰirGuyū [→Galǰirgui̯-ū] (莫是傍) [Galǰirgui̯ '斜めの' の疑問形] 六21八
中合勒訥兀惕 Gal·nu'ūd (火毎) [Gal の複数形] 五29十; 六29二; 七23八, 24六, 八
中合勒塔牙 Galtaya [→i̯-a] (光有行) 日のあるうちに。九46二
中合勒台 Gal·tai̯ (火有) 火を持った, 火のある。一46三
中合勒壇 Gal·tan (火毎, 火有的) [Gal·tai̯ の複数形] 七24十, 25四, 26六
中合勒禿 Gal·tu (火有的, 大 [→火] 有的, 人 [→火] 有的) 火のある。一43二; 二18十, 三23十; 五3九
中合豁兀惕 Galau̯'ū·d (雁毎) [Galau̯'ū(n) の複数形] 一17三
中合豁兀敦 Galau̯'ū·d·un (同上) [Galau'ū·d の属格形] 一19七
中合豁温 Galau̯'ūn (雁) 雁。三18三
中合黑察 GaGča (独) ひとりの, ひとりで。一3四, 11二, 14三²; 二29十, 33十, 50八; 三28八; 四39七, 42四; 五14八, 19三, 36五²; 六13七, 26七; 八36五; 九31七; 十24三; 土23一, 25一; 土31九
-阿児 -'ār 二32二
-阿舌児 -'ār 七46五; 土34七, 35一, 六
-中罕 -qan 二50八; 三18七
-壇 -tan 三37九
中合惕[→黑]察 GadGča (同上) 同上。一14二
中合黑潺荅 GaGčan·da (独次) ただ一度。八37八
中合中孩 Gaqai̯ (猪児) 亥, 豚。五40一; 土13一
中合児 Gar (手) 手。一43六
-都舌里顔 -d̠ur-iyān 二11四
-圖児 -tur 一43九
-禿舌里顔 -tur-iyān 一40八; 二51四
中合舌児 Gar (同上) 同上。三2九, 十, 4九; 五41三; 七12一, 14一, 四, 七; 八13一, 七, 九; 九15七, 43九; 十43五; 土8三, 八, 35二, 四; 土3五, 46一, 47二, 55九
-都舌里顔 -d̠ur-iyān 八9九; 土11五
中合(舌)児 Gar (手) 同上。九14二; 土3二
中合舌剌察 Gar·ača (手行) [Gar の奪格形] 土23六²
中合舌里牙舌児 Gar·iyār (手用) [Gar の造格形] 四27一
中合舌里牙舌里顔 Gar·iyār·iyān (教手自的行) [Gar の再帰造格形] 九14一
中合舌里顔 Gar·iyān (手自的行) [Gar の再帰格形] 二51四

中合舌侖 Gar·un (手的) [Gar の属格形] 八1九, 38四, 40二; 九28十, 29一; 十14二, 土18五, 41六; 土13七, 六, 52一, 二

*中合児- Gar- (出, 上去, 出, 出来, 上, 出去) 出る, 登る。

-罷 -ba 一3八, 8三, 16十, 二30九, 44五, 47六

-抽 -ču 二4八, 15六

-周 -ǰu 二9五

-中忽 -qu 一13四

-(中)灰魯阿 -quį-lu'ā 二16三

-速 -su 二15一, 十

-速中孩 -suGaį 二30六

-也 [→巴] 速 -ye[→-bā]su 二16二

*中合舌児- Gar- (上, 上去, 出, 出去, 纔出, 直上) 同上。

-罷 -ba 七42五, 六, 七, 45五; 土13一

-抽 -ču 四9四, 27六; 五10一; 六4七, 12八, 14八, 23十, 24七, 26二, 四, 40四, 45一; 七5四, 42二, 43八; 八12三; 九12八, 13三, 五, 46三, 47六; 十16六, 38三, 39四, 七; 土13六, 15七, 37五; 土24十, 35五

-出兀 -ču'ū 五44五; 十43二

-中忽 -qu 土17八

-中忽宜 -qu-yi 十5六; 土38六

-中忽魯阿 -qu-lu'ā 十40八

-(中)灰 -quį 六21七

-中渾 -qun 九47六

-塔剌 -tala 土26一

-禿中孩 -tuGaį 十6九; 土40二

*中合(舌)児- Gar- (出) 同上。

-抽 -ču 八32三

*中合児中合- Gar·Ga- (逐出) [Gar- の他動詞形]

-周 -ǰu 一26五

*中合舌児中合- Gar·Ga- (出去, 出, 望, 教出, 教出去) [同上]

-阿速 -'āsu 土4十; 土48七, 52六, 八

-周 -ǰu 五2八; 六2六; 九36二; 十29六; 土5十, 6四, 六, 8四, 9六; 土20三, 47五, 九, 十, 49四, 52七

-主兀 -ǰu'ū 土44五

-中渾 -qun 十7一

-牙 -ya 三12六; 土18五

中合舌児中罕 Gar·Ga·n (教出) [Gar·Ga- の同時接合副動詞形] 八20三, 22六, 八

*中合舌児中合黒荅- Gar·Ga·Gda- (被出) [Gar·Ga- の受動形]

-梅 -muį 十7三

-速 -su 六34一

*中合舌児中合兀勒- Gar·Ga·'ūl- (教出) [Gar·Ga- の使役形]

-罷 -ba 十53四, 六

-周 -ǰu 十53五, 七, 55六

*中合舌児荅①- Garḍa- (被勝) [Gar- の受身形] 出られる, 勝たれる。

-阿速 -'āsu 十23二

*中合舌児荅②- Gar·da- (下手) 手にかける, 手にする。〈→Garta-〉

-罷 -ba 五2十²

-周 -ǰu 五5七, 八, 41三; 八12八; 十10七, 八

-黒撒惕 -Gsad 五6一, 7七

-黒三 -Gsan 八14二

*中合(舌)児荅- Gar·da- (同上) 同上。

-周 -ǰu 五7六

*中合舌児塔 Gar·ta- (同上) 同上。

-周 -ǰu 八45六; 九28二, 四

*中合(舌)児塔- Gar·ta- (同上) 同上。

-黒撒(惕) -Gsa(d) 九28四

*中合舌魯- Gar·u- (出, 上, 上去, 出来, 出去) 〈→Gar-〉

-阿惕 -'ād 三20八

-阿速 -'āsu 五19八, 36三²; 七26十; 八6十; 十6九, 19一; 十40一

-黒撒阿舌児 -Gsa'ār 八2五

-黒撒惕 -Gsad 八3五

-黒撒的 -Gsad-i 十16七

-黒撒泥 -Gsan-i 六51三; 八2二; 十30六, 七

-黒撒訥 Gsan-u 十13二

-黒三 -Gsan 六12八, 17一; 七23十, 28一

-黒三突舌児 -Gsan-dur 二1九

-剌阿 -la'ā 二50六, 十; 十25二

-魯阿 -lu'ā 四43四

-舌侖 -run 一13三; 二11四; 三18二; 六24五; 十39五; 十14十

-兀澤 -ūǰaị 七16九

-牙 -yā 七39十; 十40八

*中合舌魯勒察- Gar·u·lča- (共出) [Gar- の相動形]

-周 -ǰu 九13十

中合舌侖 Gar·u·n (出) [Gar- の同時接合副動詞形] 六47十; 七20八

中合失兀 Gaši'ū (苦) 苦しみ。二8五

中合失温 Gaši'ū·n (同上) 同上。二9九, 12五

中合塔舌児 Gatar (ナシ) 外形, 外見。三18四

*中罕土[→主]中合剌- Gantu[→ju]Ga·la-（馬上揹）ガンヂュガ（馬の鞍についている皮条）につける。
-周 -ju 土25六
中豁阿 Go'a（美）美しい。一4九，44七；三38七，43四；六36五；七48三；土24三
-黒臣 -Gčin 三38一
-思 -s 三39十
-思壇 -s-tan 十21一
中豁多黎 Godoli（禿）ちびた（尾について）。一15七
中豁多里 Godoli（髏頭）かぶら。三26九
*中豁多里揚- Godolid-（教髏頭射）鏑矢を射る。
-中忽 -qu 三21四
*中豁多里都- Godolid·u-（髏頭射）同上。
-黒撒泥 -Gsan-i 二9三
中豁都 Godu（蹄皮）（動物の）脛皮。七36十
中豁敦 Godun（同上）同上。三23九
中豁勒 Gol（脊梁）背筋。一15七
中豁勒 Gol（中軍，中，在内，澗）中心，本隊。六45五；七32五；九40二；土23三；土13九
-突舌児 -dur 三30二，八；七24三，32九；八43七
(中)豁勒 Gol（中軍）同上。六5十
中豁剌察 Gol·ača（在内処）[Gol の奪格形] 土16七
中豁侖 Gol·un（在内）[Gol の属格形] 土14八，15三，52三
中火炉木塔 Golumta（火盤）炉。二10三
中豁魯[木]塔 Golumta（同上）同上。十39一
中豁魯木塔 Golumta（同上）同上。十40六
*中豁斡只- Go'ōji-（退翎）流れ出る。
-主兀 -ju'ū 二13六
中豁中豁孫 GoGosun（韭菜）韭。二6七
中豁舌児吉 Gorgi（弧児）鉄輪，金輪。
-荅察 -dača 十12七
中豁舌洏中合訥 Gorqa·n·u（小河的）[Gorqan '小河' の属格形] 六21一
中豁舌児中豁納 Gorqo·n·a（小河行）[Gorqon(=Goroqan) の与位格形] 三10五
中豁舌児中豁訥 Gorqo·n·u（小河的）[Gorqon(=Goroqan) の属格形] 三10九
中豁舌羅中合納 Goroqa·n·a（河行，小河行）[Goroqan の与位格形] 一21七；二35七，37六
中豁舌羅中合納察 Goroqa·n·ača（小河自）[Goroqan の奪格形] 二38九
中豁舌羅中合訥 Goroqa·n·u（小河的，渓的）[Goroqan の属格形] 二27三；三41五，42一，三；十40四

中豁(舌)羅中合訥 Goroqan·u（河的）[同上] 六20九
中豁舌羅中罕 Goroqan（小河）渓流。一3九，17六，20三；二26六，44七
-訥 -nu 二26七
(中)豁舌羅中罕 Goroqan（同上）同上。一18八
*中忽卜赤- Gubči-（欲，打，収拾，科歛）徴収する。
-周 -ǰu 五12二，14九；六27四；八7六；九30三，33四，七，八，34一；十9十
*中忽卜赤黑荅- Gubči·Gda-（可科歛）[Gubči-の受動形]
-中灰 -quį 十47八
中忽卜赤舌里 Gubči·ri（科歛）家畜による現物人頭税。五12二，14九；六27四
中忽卜赤兀舌児 Gubči·'ūr（拖網）漁網。八7五
中忽臣 Gučin（三十）三十。三40一；六25三；九42六；十21二，十
中忽嗔 Gučin（三十箇，三十）同上。八41三，六；十44六
中忽都速 Gudu·su（靴子）モンゴル靴。
-禿 -tu 三23九
中忽都孫 Gudu·sun（靴）同上。四39六
*中忽只児- Gujir-（毒）害する。
-周 -ǰu 一48二
*中忽剌都- Guladu-（倒）ころげおちる。
-阿陽 -'ād 四35九
中忽納真 Guna·ǰin（三歳）三歳の牝家畜。七37八
中忽難 Gun·an（同上）三歳の牡家畜。一41八
中忽納 Gun·a（崖行）[Gun '峡谷' の与位格形] 十11九
中忽訥 Gun·u（崖的）[Gun '峡谷' の属格形] 三43七
中忽舌児巴納 Gurba·n·a（三箇人）[Gurbanの与位格形] 十12四
中忽舌児巴納察 Gurba·n·ača（三箇行）[Gurbanの奪格形] 十16四
中忽児巴泥 Gurba·n·i（同上）[Gurbanの対格形] 二49十
中忽舌児巴泥 Gurba·n·i（同上）[同上] 四二33，三；十25三；十12七，15三，四，19二
(中)忽舌児巴泥 Gurba·n·i（同上）[同上] 十25九
中忽児把泥 Gurba·n·i（同上）[同上] 二13九
中忽舌児巴訥 Gurba·n·u（三箇的）[Gurbanの属格形] 十24九
中忽児巴兀剌 Gurba·'ūla（三箇）三人で。一35三，36一，九
中忽舌児巴兀剌 Gurba·'ūla（同上）同上。七6二；十44二
中忽児班 Gurba·n（三，三箇）三。一3四，10五，11二，三，12七，29三，31九，35五，48三；二15一，六，九，28九，30二，33四$^2$，35六$^2$，39三，48六，七，49四，50一
中忽舌児班 Gurba·n（三，三箇，三件，三疋）同上。三1二，四，3八，4一，11五，八，12八，17五，六，21五，24七，45三；四3九$^2$，4四，21十，43二，

八; 五11三, 13九, 18五; 六11三, 18六, 七, 37四, 44十, 51一, 五, 六; 七21四², 五, 37七, 八, 九, 46七²; 八10二, 19六, 26七, 35二, 十, 36十, 41七; 九8二, 14九, 32十, 33十, 41九, 42二; 十18一, 24一, 27九, 37五, 38三, 39六; 土16二, 38九, 41六, 42一, 44三, 五, 七², 九, 45十46六, 47九; 土44二

-荅 -da 四43三

-古 -gu[→kü] 四4五

-魯阿 -lu'ā 土12十

-泥 -ni 三46六, 47一

-塔 -ta 三17九; 四40七; 八10三, 37一; 九42五

-塔 -ta 二48二

(中)忽児班 Gurban (三) 同上。

-塔 -ta 一40二

中忽(舌)児班 Gu(r)ban (三) 同上。

中忽舌闌勤禿黒 Gura(n)ltuG (麿子) のろ鹿。三26三

中忽塔阿舌児 Guta'ār (第三) 第三の。〈→Gutu'ār〉 土10三, 44十²

-塔 -ta 土44五

中忽塔阿(舌)児 Guta'ār (同上) 同上。九42八²

中忽禿阿児 Gutu'ār (同上) 同上。〈→Guta'ār〉 二24五

中忽禿阿舌児 Gutu'ār (同上) 同上。四12九; 六51二; 十43一

中忽牙 Guya (腿, 大腿, 腿子, 後脚) 腿; 家畜の後脚。一9十, 35二, 36三; 三43八; 六30十, 36九

中忽揚 Guyang (臀) 家畜の後脚。六49三

*中忽亦- Guyi- (索) のぞむ, 求める。〈→Guyu-〉

-阿速 -'āsu 五38十

-揚中渾 -dqun 九25六

-中渾 -qun 九25三

-舌剌 -ra 十33六, 34四, 35八

-舌侖 -run 五38八

*中忽余- Guyu- (同上) 同上。〈→Guyi-〉

-阿速 -'āsu 一18二; 五46四

-巴速 -bāsu 一46六

-周 -ju 一6七; 五33八; 六25十; 土3八, 21十

-[你] -n 五45二

-舌剌 -ra 十35六

-速 -su 一42三, 十

-牙 -yā 一4五

*中忽余温勤- Guyu·'ū(n)l- (同上) [Guyu- の使役形]

-周 -ǰu 一46六，七

中昆 Gun（崖）山峡。

-途児 -ṯur 一16七

中崑 Gun（崖，山崖）同上。

-訥 -nu 三28六；六36九；七31六，32九，42十

## S

*撒阿- sa'ā-（擠）乳をしぼる。
-阿惕 -'ād 三47九
-周 -ǰu 五14七; 六26六
撒安 sa'ā·n（同上）[sa'ā-の同時接合副動詞形] 二29一; 四40一; 八35五
*撒阿勒都- sa'ā·ldu-（共擠）[sa'ā-の対動形]
-周 -ǰu 五11六
*撒阿兀勒- sa'ā·'ūl-（教擠）[sa'ā-の使役形]
-中渾 -qun 七12二
*撒阿舌剌- sa'āra-（疑，不疑ヲ）ためらう。
-梅 -muį 五26五
-中忽 -qu 二12二
撒阿舌剌 sa'āra（疑）[sa'āra-の命令形] 四11二
*撒阿舌剌黑荅- sa'āra·Gda-（疑惑）[sa'āra-の受動形]
-中忽 -qu 八42五
撒阿舌里 sa'āri（腎）尻。四27六
撒阿鄰 sa'ālin（擠的）乳搾り（牛，馬）。三54一
撒阿《舌》鄰臣塔泥 sa'ālin·čin·tan·i（擠馬每的行）[sa'ālin·čin-tan '乳搾り人達' の対格形] 三47九
撒巴 saba（皿）器。七2八; 九46四; 十4九; 三9九, 11六, 39八
-都舌里顏 -dur-iyān 九46八
撒察 sača（一般，齐等）等しい。七29二; 三29九
*撒察- sača-（搶[→嗆]）むせる。
-阿速 -'āsu 五43八
撒察兀 sača'ū（一般，同共，齐，齐等）等しい。六40一; 八31八; 九11七; 三8三
撒察溫 sača'ū·n（一般每，齐每，同等每，同等，齐等）[sača'ū の複数形] 一21八; 九11五, 43四, 八, 45四; 三26七, 八; 三29十, 45六
*撒出- saču-（祭祀，祭）神々を祭り，祈りを捧げるために酒を天と地にふりかけ，撒きちらす。
-阿惕 -'ād 七22三
-罷 -ba 三7三, 8三
撒純 saču·n（揚着）[saču-の同時接合副動詞形] 三38六[2]
撒出里 saču·li（灑奠）saču-する行為およびその際にふり撒く酒。二51五
撒黑剌舌児 saGlar（鬍鬚）生い茂った。〈→saGlaGar〉八39六
撒黑剌《中》合児 saGlaGar（鬍鬚）〈→saGlar〉一39五
撒黑剌中合舌児 saGlaGar（同上）[同上] 三28六

撒勤　sal（筏子）筏。三6四，13七
*撒勤-　sal-（分）分れる。
　-中忽　-qu　亖30三
*撒勤中合-　sal·ga-（同上）分ける。[sal-の他動詞形]
　-牙　-ya　亖30四
*撒勤中合勤都-　sal·ga·ldu-（教分）[sal·ga-の対動形]
　-牙　-ya　亖30十
*撒魯勤察-　sal·u·lča-（分離）[sal-の相動形]
　-中灰　-quį　亖29三
撒卯兀　samaų'ū（乱）混乱。
　-突舌児　-dur　七47七
*撒卯兀舌剌-　samaų'ū·ra-（乱，作乱）混乱する。
　-中忽　-qu　七46七，47五
撒卯危　samaų'ūį（乱）混乱（せる）。〈→samaų'ū〉七46五
　-突舌児　-dur　七24三
撒中合勤　saqal（髯）髯。八28七，十
　-壇　-tan　亖29一
撒中合勤伯顔　saqal baįyan（猪鬃草）莎草バヤン。三6三
*撒乞-　saqi-（守）守る。
　-周　-ǰu　二14五，16四；四22八；十7七
　-梅　-muį　十7四
　-中忽　-qu　十19二
撒勤　saqi·n（同上）[saqi-の同時接合副動詞形]　亖14四
撒乞勤都-　saqi·ldu-（相守）[saqi-の対動形]
　-周　-ǰu　四39二
*撒乞兀勤-　saqi·'ūl-（教守）[saqi-の使役形]
　-禿中孩　-tuGaį　亖48四
撒乞兀《舌》魯-　saqi·'ūl·u-（同上）[同上]
　-阿速　-'āsu　十43一
*撒乞兀魯-　saqi·'ūl·u-（同上）[同上]
　-牙　-yā　亖48三
撒中忽揚　saqud（些）少し，いくらか。亖48八
撒舌児中忽荅察　sarqud·ača（胙）[sarqud‘祭時に供した飲食類の余餐’の奪格形]二2二
撒舌剌　sara（月）月。一43六；七11五²；九20三
　-荅　-da　亖58五
　-突舌児　-dur　八34四
　-宜　-yi　一43七

-因 -yin 一13三; 二17二; 三29四; 六28四; 七22二
撒舌剌兀舌児 sara'ūr (月明) 月あかり。三15九
撒舌剌兀舌剌 sara'ūr·a (月明裏) [sara'ūr の与位格形] 二18七
*撒塔- sata- (論, 議論) 施す。
-周 -ǰu 八34四; 九20四
*撒兀- sa'ū- (生, 坐, 住坐, 纔坐, 全具) すわる; 住む。
-罷 -ba 一15十; 土19六, 七
-畢 -bi 五23十
-揚(中)坤 -dqun 九10四
-黒撒阿舌児 -Gsa'ār 七2八
-黒撒納 -Gsan-a 九9六
-黒三 -Gsan 四40十; 五23九; 十3八
-周 -ǰu 二6十, 7七, 七, 10四, 47三; 四9四, 39二; 五2七, 24九, 十, 39三, 49一², 50六; 七3九; 八38三, 39十, 47一; 九13二, 八, 46六; 十29六, 36二; 土24五, 26十, 40十, 41五, 七, 47三, 54十
-中忽牙 -quya[→quị-a] 一23四
-(中)灰 -quị 六21六
-中灰突舌児 -quị-dur 十7八, 20二
-中灰魯阿 -quị-lu'ā 十38六
-舌侖 -run 九10二
-塔剌 -tala 四40九; 六49三
-禿中孩 -tuGaị 七21三; 九10四; 48三; 土28三, 39七
撒兀 sa'ū (坐) [sa'ū- の命令形] 二9七; 九13一
撒温 sa'ū·n (同上) [sa'ū- の同時接合副動詞形] 九16八; 土23八
*撒兀黒荅- sa'ū·Gda- (可坐) [sa'ū- の受動形]
-中忽 -qu 七15八, 16十
*撒兀勒- sa'ūl- (坐, 教坐) [sa'ū-の使役形]
-罷 -ba 四47二; 五24二; 土53五
-周 -ǰu 五23十; 八34四; 九20三
*撒兀魯- sa'ūl·u- (教坐) [同上]
-模 -mu 一44十
*撒温(勒)- sa'ū(n)l- (坐) [同上]
-周 -ǰu 一11九
*撒温勒- sa'ū(n)l- (教坐) [同上]
-(中)灰 quị 一45三
*撒兀勒荅- sa'ū·l·da- (同上) [sa'ūl-の受動形]
-周 -ǰu 土56一
撒兀魯中合 sa'ūluGa (皮斗, 皮桶) 皮桶。

-班　-bān　二29七；八35六

撒兀𠯿里　sa'ū·ri（坐位，坐次，坐）座席；宿場　八34三，38三，39十；九10二，20三，48三

-惕　-d　土49四

撒兀𠯿里敦　sa'ū·ri·d·un（坐的）［sa'ū·ri·d(sa'ūrin の複数形）の属格形］土53七

撒兀𠯿里訥　sa'ū·ri·n·u（坐位的）［sa'ū·ri·n の属格形］土39六

撒兀𠯿鄰　sa'ū·ri·n（坐位，坐次，坐，位子，位）座席。四33五，七；九10五；土39一，53七，九

-突𠯿児　-dur　土53九

-都𠯿里顔　-dur-iyān　五23九；七21三；九46八

-圖児　-ṭur　一44九，45三

撒兀𠯿数[→𠯿鄰]　sa'ū·šu[→ri·n]（坐位）同上。四33八

撒亦　sayi（好，好好，好生）よい（こと），よく。一43九；三4七；九12九，十；土27一

-巴𠯿児　-bār　五9六

-惕　-d　一45一；二6八²；三39十；土6一，8三，五

-的　-d-i　九32五；土9八

-泥　-n-i　六23一；九23七

-中合禿𠯿児　-qa-tur　四1十

-壇　-tan　七19三

-禿　-tu　一6四；四17六；十16六

-禿𠯿児　-tur　八22九；十3十；土13八

-途𠯿児　-tur　六37二

撒亦　sayi（恰纔，纔，恰）はじめて，やっと。四9八；八34一；土46七²

撒宜　sayi（纔）同上。十16六

賽亦　saiyi（恰纔）〈→sayi〉五22九

撒因　sayi·n（好，好的）よい，よく。一4四，九，6四，20九，21八，44二；二4六，33七，八，34十；三43三，四；四17六；五23一，25六，34六；六21二，36六；七16二，47九，48四；八41五²；十24三，五，七；土20二，33八；土26八²，52七

*三把-　samba-（抽）番える。

-周　-ju　二9八

*穢失-　samši-（廃耗）痛手を受ける，消耗する。

-主兀　-ju'ū　五20五，九

*穢失牙-　samši·ya-（同上）［samši- の使役形］

-罷　-ba　五21二

*散都𠯿児-　sandur-（溫散）狼狽する，あわてる。

-抽　-ču　三16五

靜撒惕　seče·d（聡明毎）［sečen の複数形］二6四

薛禅 sečen（聡明）賢い。八19四
*薛赤- seči-（戳）つき刺す。
-周 -jü 四1五
*薛㥘乞- sedki-（想）思う。考える。
-罷 -ba[→be] 二10三; 十20九
-罷者 -ba[→be]~je 八28八
-㥘坤 -dkün 八9七
-額速 -'ĕsü 五41七, 42十, 44三; 六33十; 十18八
-克薛你顔 -gsen-iyān[→iyēn] 九19七, 25五; 十26一
-克失突舌児 -gsen-dür 九1五
-古 -gü[→kü] 五16一; 八19一
-古宜 -gü[→kü]-yi 八21四
-周 -jü 二21八; 三4八, 49六; 四1八, 42九, 十, 47九; 五25一, 26三, 38八, 39一, 四; 六26十; 八7八, 8三, 10十, 34一, 三, 36八, 39九, 44四, 46五, 九, 47一; 九23七, 八, 25一; 十3五, 24八; 十27一, 33三; 十34八, 49七
-主兀 -jü'ŭ 十17三
-主為 -jü'ŭi 九28八
-坤 -kün 十43十
-木 -mü 八14六
薛㥘勤 sedki·n（同上）[sedki-の同時接合副動詞形] 五42八; 六30六
薛㥘乞勒 sedkil（心）心。三48八; 四1八, 九, 42一, 九, 43九; 五4五, 7八, 46七; 六40七; 七10九, 48六; 八18八; 九9十; 十5六
-突舌児 -dür 三48四; 十31六
-突(舌)児 -dür 八41二
-田 -ten 十1九
-禿 -tü 八17十; 十27三
薛㥘乞里顔 sedkil·iyān[→yēn]（心自的行）[sedkilの再帰格形] 六40五; 九2四, 25二; 十46九
薛㥘乞命 sedkil·ün（心的）[sedkilの属格形] 八36六
*薛額只格列- se'ĕjige·le-（掛）小筐のように掛ける。
-周 -jü 二51四
薛古兀命 segü·'ŭl·ü·n（巻退, 教抽起）[segü-'たくしあげる'の使役・同時接合副動詞形] 七27二, 五
薛勒帖 selte（連, 帯）～など; ～と共に。五13十, 15九, 27七, 32七; 六31二; 九49一; 十43二, 七; 十11六, 39六
撒[→薛]勒帖 sa[→se]lte（連）同上。七2九
撒[→薛][勒]帖 sa[→se]lte（帯）同上。四11四

薛米耶児 sem·iyēr（噴声的）[sem 'しずかに; ひそかに' の造格形] 二11八
薛米耶舌児 sem·iyēr（同上）同上。
*薛舌児古- sergü-（醒，省）めざめる。
-周 -jü 四39十
-帖列 -tele 士24六
*薛舌児古額- sergü·'ē-（消鮮）[sergü- の使役形]
-周 -jü 六40四
薛舌児古兀侖 sergü·'ül·ü·n（呼醒）[sergü- の使役・同時接合副動詞形] 二2三
薛舌児客昔 serkes·i（羯股癖）[serke '雄の三才以上の山羊' の複数形] 士52五
*薛舌列- sere-（疑）疑う。
-恢 -kūi 一12九
*薛舌列克迭- sere·gde-（被覚）[sere- の受動形]
-罷 -ba[→be] 五47三
薛舌列勒敦 sere·ldü·n（疑的）[sere- の対動・同時接合副動詞形] 一12八
*薛舌列兀勒- sere·'ül-（提省，教省）[sere- の使役形]
-周 -jü 七14九; 八15五
薛舌列勒田 serelten（可防的）注意すべき。六3七
*薛舌里兀都- seri'ü·d·ü-（凉了）涼む。
-額速 -'ēsü 士2七
*薛舌里兀勒- seri·'ül-（喚省）[seri-〈→sere-〉の使役形]
-周 -jü 士32六; 士23六
-古 -gü[→kü] 士23八
*薛舌里兀魯- seri·'ül·ü-（喚教覚）[同上]
-揭坤 -dkün 二43二
*薛舌里兀魯勒扯- seri·'ül·ü·lče-（共覚省）[seri·'ül- の相動形]
-周 -jü 八14八
薛兀迭児 se'üder（影）影。
-禿舌里顔 -tür-iyān[→yēn] 二11七
薛兀迭舌児 se'üder（影児）同上。三48八
-途舌児 -tür 四9三
薛兀迭(舌)児 se'üder（同上）同上。九11七
薛兀迭舌列扯 se'üder·eče（除影児）[se'üder の奪格形] 三48七
薛兀迭舌列徹 se'üder·eče（影外）[同上] 二8四，10二，12三
薛兀勒 se'ül（尾子，尾）尾。〈→se'ü(n)l〉三48十; 六41十; 士30四
-突舌児 -dür 四5二
薛兀列扯 se'ül·eče（尾子処）[se'ül の奪格形] 三48十
薛兀列徹 se'ül·eče（尾外）[同上] 二10二，12四
薛兀薛 se'üse（小厮）小使い。士25十

-昔 -s-i 十26二

薛温勒 se'ü(n)l (尾) 尾。〈→se'ül〉

-禿 -tü 一15七, 16四

薛温(勒) se'ü(n)[l] (同上) 同上。

-額徹 -eče 二8四

掃 sem (禁声, 噤) 静かに, 黙って。一38三; 十23八

襄格舌連 senggere·n (来) [senggere- '注意を向ける' の同時接合副動詞形] 四9二

*僧帖勒- sengtel- (開豁) 掘り開ける, 切り開く。

-罷 -ba[→be] 四43五

*僧帖舌列- sengtere- (同上) 掘り開かれる, 切り開かれる。

-周 -jü 五4五

*嘯兀舌列勒- seü'ürel- (嘆息) 溜息をつく。

-畢 -bi 五25一

石阿 ši'ā (髀石) くるぶしの骨の遊び道具。三26三, 四

失阿 ši'ā (同上) 同上。

-因 -yin 一40八

*石阿勒札- ši'ā·lǰa- (打髀石) ši'ā を投げる。

-中灰突児 -quį-dur 三26五

失把 šiba (乱箭) 乱れ飛び来る矢。

-因 -yin 八2九

失巴児 šibar (泥) 泥。二48三

失鴿兀 šibaų'ū (鷹) 鷹; 鳥 〈→šibaų'ūn〉

-班 -bān 十8四

失保兀中合泥 šibaų'ūqa·n·i (雀児行) [šibaų'ūqaį '鷂' の複数・対格形] 二23四

*失鴿兀剌- šibaų'ū·la- (放鷹) 鷹を放って獲物をとる。

-中忽 -qu 七10九

-中灰 -quį 十40二

*釋鴿兀剌- šibaų'ū·la- (同上) 同上。

-中灰 -quį 十5十

釋鴿兀闌 šibaų'ū·la·n (同上) [šibaų'ū·la- の同時接合副動詞形] 一34四; 十7四

釋鴿兀剌勒敦 šibaų·la·ldu·n (共放鷹) [šibaų'ū·la- の対動・同時接合副動詞形] 十6一

失鴿温 šibaų'ūn (鳥, 鷹) 鷹; 鳥。〈→失鴿兀〉三18八; 七36二, 八; 十9七, 46六

失別額 šibe'ē (藩籬) 防柵, 標垣。二13八

*失別額列- šibe'ē·le- (藩籬把) 防柵をつくる。

-周 -jü 二26四

*失別舌里- šiberi- (長進) 滴る, 流れ出る。

主兀 -jü'ü 二13六

失必勒格舌児 šibilger（綟椎）（一種の）弁髪。〈→šibülger〉九14一，15六
石不格 šibüge（錐子）錐。七33九
-迭 -de 七36六
失不勒格舌里顔 šibülger·iyān[→yēn]（綟椎自的行）[šibülger〈→šibilger〉の再帰格形] 一37五
*拭察班勒札- šičaba(n)lǰa-（爬）這う。
-周 -ǰu 一13四
失惕坤勒 šidkü(n)·l（一見公姑的礼）引出物。二39一
失都 šidü（牙）歯。
-辺 -bēn 二19七
失都舌児中忽惕中合- šidurGu·d·qa-（教直了）征定する。真直ぐにする。
-周 -ǰu 八24二；九31六
*失額- ši'ē-（尿）放尿する。
-恢 -küi 七28一
失額克 ši'ē·g（尿壺）おむつ；溲瓶
-帖額徹 -te[i]-eče 八28九
失吉顔 šigi·yān（牙縫中肉）歯の間にはさまった肉。土25十
失吉中忽舌魯兀訥安 šigi quru'ūn·u·'ān[šigi quru'ūn '小指' の再帰・属格形] 六34二
失(中)灰 šiGui（密）森。二48五
石(中)灰 šiGui（密，密林）同上。二13七，15一；三21二
-都児 -dur 二14四，五
-因 -yin 二15七
失勒 šil（模様，状貌）容貌，姿形（すがたかたち）。七19三；九32五
失勒古惕刊 šilgüd·ke·n（教顔）[šilgüd·ke- 'ふるわす' の同時接合副動詞形] 十1七
失勒只舌鄰 šilǰiri·n（移動）[šilǰiri- '移動する' の同時接合副動詞形] 十1七
*失勒塔- šilta-（推辞）口実をつくる。
-周 -ǰu 五46九
*申勒塔黒荅- ši(n)lta·Gda-（同上）[šilta- の受動形]
-中忽 -qu 七15七
申勒塔阿 ši(n)lta'ā（縁故）原因；理由。土44四
申勒塔阿你牙舌児 ši(n)lta'ā·n·iyār（縁故裏）[šilta'ān の造格形] 七1九
申勒塔安 ši(n)lta'ā·n（縁故）同上。八21七，八
申勒塔吉牙舌児 ši(n)ltaG·iyār（縁故裏）[šiltaG の造格形] 八45二
失勒帖速 šiltesü（編了壁子）柞木〔ははそ——くぬぎ，なら類の木の総称〕
-台 -tai[→tei] 十1八
失列古 šilegü（二歳）二歳の(羊)。三45六；土47四，52五，53三
*失列篾勒扯- šilemelče-（垂涎）よだれを垂らす。〈→失列篾勒穫〉
-周 -ǰü 七36二

失列篾動禮 šilemelǰe·n （同上） [šilemelǰe-(=šilemelče-) の同時接合副動詞形] 七34四，36九

失(舌)里 šili （家活） 俊秀（な）。

-迭扯 -deče 三43十

失里兀牙 šili'ūya[→i·a] （善行） まっすぐに。三31七

失里温 šili'ū·n （清俊） 選りすぐりの。七11十

識理温 šili'ū·n （君子） 忠実な。五31一

失魯格惕 šilüge·d （涎収不的） よだれを垂らした者。二13六

*失魯舌児帖- šilürte- （被傷） 傷つけられる。

-周 -ǰü 四38八

失魯速你顔 šilüsü·n·iyān[→yēn] （涎自的行） [šilüsün の再帰格形] 土25九

*失馬里中合黒荅- šimaliqa·Gda- （被挽） [šimaliqa- 'まき上げる' の受動形]

-舌倫 -run 十40七

*食米- šimi- （咂） 吸う。

-周 -ǰu 六14一；九16七

食民 šimi·n （咂着） [šim- の同時接合副動詞形] 四39一$^{2}$，40十，41一；九16十$^{2}$

*食民- šimi(n)- （咂） 〈→šimi-〉

-周 -ǰu 四43五

湿納阿 šina'ā （洲） 三角洲。

-因 -yin 四31五

失納中合 šinaGa （杓） 杓子。土35九

失你 šini （新） 新しい。土1三

*失中合- šiqa- （靠，擠） 搾る，しめつける；近づく。

-周 -ǰu 三43七，八；六36八，九，37一

-中忽 -qu 二11十

失中罕 šiqa·n （挨，倚，靠） 同上。三30一，二，七；四19七；七16五；土5五

失(中)罕 šiqa·n （挨） 同上。三30八

*失中合黒荅- šiqa·Gda- （被擠） [šiqa- の受動形]

-周 -ǰu 十40七

失舌児不孫 širbüsün （筋） 腱。六45三

*失舌児戈列- širgō·le- （拘） širgō〈→širgü'ē〉 をつけて乳が吸えないようにする。

-周 -ǰü 六26六

*失舌児古額列- širgü'ē·le- （同上） 同上。

-周 -ǰü五11六，14七

失児中合 širGa （慘白色，慘白） 黄白色の。二9六，27八，28四，八，29一，三，30一，三，六，九；八36一

失(舌)児中合 širGa （慘白） 同上。八35一

*失舌児中合- širqa- （傷） 傷つく。

-黒三 -Gsan 八43十
失舌児中罕 širqa·n (傷着) [širqa- の同時接合副動詞形] 十16七
*失児中忽- širGu- (鑽) もぐる。
-阿速 -'āsu 二48四
-周 -ǰu 二14四
*石舌児中窟- širGu- (鑽入) 同上。
-主兀 -ǰu'ū 三21二
-速 -su 三19五
-連[→速] -len[→su] 三18七
*石(舌)児中忽勒荅- širGūl·da- (教鑽了) [širGu- の使役・受身形]
-罷者 -ba~ǰe 六24五
*失舌児中忽兀勒荅- širGu·'ūl·da- (共攢) [同上]
-周 -ǰu 五9十
失舌剌 šira (黄) 黄色。一13一, 三, 47九; 亖26十
-荅 -da 十43二
*失舌剌- šira- (焼) 焼く。
-周 -ǰu 一8四; 八12四
失舌剌馬勒 širamal (黄) 薄黄色の。亖26十
失(舌)闌勒 šira(n)l (黄) ほの黄色の。二42五
*失舌列克迭- šire·gde- (煉来) [šire- '鍛える' の受動形]
-克三[→先] -gsan[→sen] 七36六
失舌列木 širemü (生鋼) 生鉄。
-額舌児 -'ēr 七36五
失舌列門 širemü·n (同上) 同上。七33九
失舌羅 širo (橛子) 掘棒, 串。二6一
失舌羅埃 širo'āi (土[→土], 土) 土埃。三38六; 八31九
失(舌)羅勒中合 širolGa (焼肉) 串にさした焼肉。
-荅 -da 一8七
失舌里 širi (生皮) 皮。六45三
失圖 šitü (般) ～の様に。五36五
失禿 šitü (同上) 同上。亖30三
*失禿額列勒都- šitü'ēle·ldü- (相抗拒) [šitü'ēle- '対峙する' の対動形]
-周 -ǰü 九12二
*失禿額〈列〉勒都- šitü'ēle·ldü- (共抗拒) [同上]
-周 -ǰü 八37三
*失禿勒都- šitü·ldü- (相抗拒, 相抗) 対峙する。[šitü-の対動形]
-周 -ǰü 四38六, 39八, 45一
*失禿[勒]都- šitü·ldü- (相抗) 同上。

-周 -jü 四38一
*失兀- ši'ŭ-（撈）すくい取る。
-周 -jü 二7四; 八7五
石兀赤 ši'ŭči（鑿子）鑿。七33九
失兀赤 ši'ŭči（同上）同上。七32三; 十19七
失兀迭舌里 ši'ŭder·i（露）[ši'ŭder '露' の対格形] 七33十
失兀速訥 ši'üsü·n·u（分例的）食肉; 食物。土54一
失亦舌剌 šiyira（蹄）動物の足の下部。一21八; 土35四
*升格- šingge-（落，透，消化）太陽が沈む; しみ透る; 消化する。
-額速 -'ēsü 二17四
-克薛訥 -gsen-ü 九47一; 土37九
-克先訥 -gsen-nü 二28二
-周 -jü 二32七
-古 -gü[→kü] 一13三
-古額徹 -gü[→kü]-'eče 土46十
-古因 -gü[→kü]-yin 七20七
-恢 -küi 六9九
-中灰[→恢] -qui[→küi] 八17一
*外[→升]格- wai[→šing]ge（落）同上。
-(中)灰 -küi 八19三
升格兀侖 šingge·'ŭl·ü·n（落後）[šingge- の使役・同時接合副動詞形] 四38十
升中豁倘 šingqo·d（海青每）[šingqor の複数形] 十15二
升中豁的牙舌児 šingqo·d·iyār（海青每教）[šingqo·d の造格形] 十15八
升中豁児 šingqor（海青）海青; はげ鷹。一43五，八; 二11八
升中豁舌児 šingqor（同上）同上。八6十
升中忽剌 šingqula（白，白馬，青白馬）灰青色の馬。七22十
-宜 -yi 一15七; 二29五; 八35七
-因 -yin 一16四
升中忽剌中罕 šingqula·qan（白小）白っぽい。七25一
升塔侖 šingtal·u·n（退後）[šingtal- 'ひるます' の同時接合副動詞形] 土46八
昔思該 sisgai[→gei]（氈）フェルト。八24二
*莎必剌- sobila-（試）看病，看護する。
-周 -ju 土3二
鎖赤温[動] soči·'ū(n)[l]（驚）[soči- '驚き恐れる' の使役・命令形] 一47二
*雪都舌児帖- södür·te-（被挑唆）[södür- 'つきさす' の受動形]
-額速 -'ēsü 五37六; 六22二
雪都舌児堅 södür·gen（挑唆）いばらの類。
-突舌児 -dür 五37六; 六22二

*雪[那]額- sö[nö]'ē-（絶了）絶やす。
-罷者 -ba[→be]~je 土39四
莎葛惕 sögöd（跪）[sögöd-の命令形] 十34十
*莎葛惕- sögöd-（同上）ひざまづく。
-抽 -čü 十35三
*莎葛[惕]- sögöd-（同上）同上。
-抽 -čü 二51五
*莎葛惕格- sögöd·ge-（跪了，教跪）[sögöd-の使役形]
-主為 -jü'ǔi 十34十
-梅 müi 十36七
*莎葛惕客兀勒迭- sögöd·ke·'ǔl·de-（教跪）ひざまづかせられる。
-罷 -ba[→be] 十35十
*莎歌都- sögöd·ü-（跪告）〈→sögöd-〉
-額速 -'ēsü 十27四
雪因 söyi·n（教訓）[söyi-'さとす'の同時接合副動詞形]〈→süyü-, süyi-〉五4三
莎只舌児 soǰir（斜）牛などの角が折れて不揃いになった。三38四
莎勒賓 solbi·n（交）[solbi-'交叉する'の同時接合副動詞形] 四27九
雪勒速 sölsü（胆）胆汁；胆力。
-台 -tai[→tei] 二5十
-壇 tan[→ten] 四25十
-禿 -tü 四25七
莎勒塔泥 soltan·i（王行）[soltanの対格形] 土44十
莎勒塔訥 soltan·u（王的）[soltanの属格形] 土43三
莎勒壇 soltan（王）王，スルタン。土38三，六，九，39五，九，47五，52一，二
-突舌児 -dur 土38二，48二；土15六
鎖郎中合 solangGa（黄鼠狼）いたち。二50三
鎖納 sona（新）調教されていない。五4二
雪你 söni（夜）夜。一17八，19五，43五，46五；二5九，20三，22一，33三[2]，35六
-惕 -d 一13一
-迭 -de 二22九；六11六，29二
-訥 -nü 八18七
雪泥 söni（同上）同上。三14三，15九，16二，三，28八，31八，32六，八，33六，九；四3一，24九，39二，四，45二；五29十，31六，49五，50三；六1三，四，51一，三；七20八，21四，五，六，24八，九，43一，46七；八37四，五，七；九3九，12一，16七，23七，46三，47七，八，十；十1二，四，28四，七，43一；土3三；土1十，2二，37七，十，38三
-惕 -d 六50七，九，51五
-迭 -de 三15一，三，16四；五50三；十28八

*雲那額- sönö'ē-（滅）滅ぼす。
-古 -gü[→kü] 十24二
莎那思 sonos（聴）[sonos-の命令形] 三40二
*莎那思- sonos-（同上）聴く。
-罷 -ba 土57七
-抽 -ču 二22十，23一；三15七，27六；四45九；五48七；七15八；十12六；土8六，23七
-中忽因 -qu-yin 二50四；四24九；八30一；土17四
*莎那思荅- sonos·da-（被聴得，聴的）[sonos-の受動形]〈→sonosta-〉
-罷 -ba 六46一
-罷者 -ba~je八21五
*莎那思塔- sonos·ta-（聴得）[同上]
-木 -mu 二42八
*莎那思中合- sonos·qa-（教聴）[sonos-の使役形]
-阿速 -'āsu 九42十；土45四
-揚中渾 -dqun 九42九
-禿中孩 -tuGai 土45二
*莎那速- sonos·u-（聴，聴得）〈→sonos-〉
-阿揚 -'ād 四18七，46七；九34四，43一；土45二
-阿速 -'āsu 九15五
-黑撒你顔 -Gsan-iyān 九4十，19六
*莎那速勒察- sonos·u·lča-（共聴）[sonos-の相動形]
-禿中孩 -tuGai 十8六
莎斡舌児 so'ōr（引闘）戦闘。六12五
-途舌児 -tur 八45一
-圖舌児 -tur 六30二
梭斡舌児 so'ōr（同上）同上。
-圖舌児 -tur 五32九
*莎斡舌剌- so'ōra-（解釈）静まる，安静になる。
-周 -ju 土47七
*莎汪中忽- soongGu-[→songGu-]（選揀）選ぶ。
-周 -ju 八41六；土23二
*莎汪中忽兀魯- soongGu·'ūl·u-（教揀）[soongGu-の使役形]
-阿速 -'āsu 九8九
*莎黒塔- soGta-（酔）酔う。
-罷 -ba 土24六，九
-中忽宜 -qu-yi 土24六
莎中豁舌児 soqor（瞎）めくら。六26七

鎖中豁舌児 soqor（同上）同上。五14八
莎舌里 sori（試）[sori-の命令形] 十19一
*莎舌里- sori-（同上）努める；試みる。
-阿速 -'āsu 七48八
-中渾 -qun 一33九
-速 -su 三47七，九
-牙 -yā 十一八
*莎舌里勤都- sori·ldu-（共試）[sori-の対勤形]
-牙 -ya 十38八，39十
莎亦魯黒 soyiluG（ナシ）あわれむべき。六33七
*莎余- söyü-（教導）いましめる，さとす。
-額惕 -'ēd 九42六
*雪余- sŏyü-（同上）同上。
-惕者 -d-ǰe 十45十
-額惕 -'ēd 十44七
-禿該 -tügaị[→geị] 十44四
雪余額児 sŏyü·'ēr（教訓）教訓。一14一
雪余額舌児 sŏyü·'ēr（教誨）同上。十46四
雷[→雪]余額舌児 sŏyü·'ēr（教訓）同上。十34二
莎余[舌児]中合- soyu[r]qa-（恩賜）〈→soyurqa-〉
-周 -ǰu 十39十
*莎余[舌児]中合黒荅- soyu[r]qa·Gda-（被恩賜）[soyurqa-の受動形]
-罷 -ba 十13四
*莎余舌児中合- soyurqa-（恩賜）おゆるし下さる，嘉みする。
-阿速 -'āsu 五22七，23三，50九；七47十；八20一，31八；九22一，三，23十，24二；十12七；十一5三，45八；十三33九
-罷 -ba 五7九；七49二
-周 -ǰu 六52三，53一；七2一，7九，19四，48十；八18一，20三，41四，46一，48二；九2六；十11三，12十，13七，16一，五，44七；十一17三，31三，47九
-舌侖 -run 八46五；十一7九
-中侖[→舌侖] -run 九24十 [『続攷(中)』の p. 232 では〈舌〉侖と校した]
-速 -su 九8十
*莎余(舌)児中合- soyurqa-（同上）同上。
-阿速 -'āsu 十一9四
-罷 -ba 十一13十
莎余舌児中罕 soyurqa·n（同上）[soyurqa- の同時接合副動詞形] 六52十
*莎余舌児中合黒荅- soyurqa·Gda-（被恩賜）[soyurqa-の受動形]

-阿速 -'āsu 四49八; 六51九
莎余舌児中合兀《舌》命 soyurqa·ūl·u·n (恩賜) [soyurqa- の使役・同時接合副動詞形] 八32三
莎余舌児中合勒 soyurqa·l (恩賜, 賜) 嘉賞。八24十, 27八, 28四, 29四, 七, 31十, 34五; 九8七, 八, 17七, 19一, 24四, 31一, 二²; 土8一, 48二
莎余(舌)児中合勒 soyurqa·l (恩賜) 同上。九23十
速 su (福蔭, 福, 洪福) 幸, 至福; 賢明。
-突舌児 -dur 土29一
-台 -taị 三19一
-壇 -tan 二5十
-圖 -tu 土22十
速別額 sübe'ē (腰窩) 脇腹。四1五
速別思 sübe·s (口子每) 守口, 守備の要所。
-突舌児 -d̠ür 十19三
速不惕 subud (珠, 珠子) 真珠, 東珠。十13二, 五; 土27一
*速荅勒必- sudalbi- (不閇口) 口輪をはずす。
-周 -ǰu 八8九
速都 südü (牙) 牙。
-額舌児 -'ēr 五37六; 六22三, 五
-禿 -tü 五37五; 六22二
速只阿速 suǰi'ā·su (項脉) 頸筋。〈→suǰiyāsu〉
-班 -bān 九16五
速只牙速 suǰiyā·su (項脉脉, 項脉) 同上。
-班 -bān 四38八; 六13九
速客 süke (斧子, 銀錠) 斧; 銀錠。九14六; 十19六
-別舌児 -bēr 九14七
-思 -s 土48二
速勒別舌児帰 sülbergüị (怠慢) だらしのない。七29八
速勒迭児 sülder (吉兆) 吉兆。一44三
速勒迭舌児 sülder (威霊) 同上。
-禿 -tü 土8六
速勒迭舌列 sülder·e (威霊行) [sülder の与位格形] 八20八
速勒迭舌列徹 sülder·eče (同上) [sülder の奪格形] 土8七
*速剌剌- sula·la- (鬆) ゆるめる; 脱す。
-周 -ǰu 二22一
速篾思 süme·s (仏每) 仏像入れ。土9八
速木 sumu (箭) 矢。二25八, 32三
-班 -bān 二9八; 七38二, 五

-赤 -či 二16二
-的顔 -d-iyān 五49一, 50六
-禿 -tü 八6八
速木納 sumu·n·a (箭行) [sumun の与位格形] 六13十; 八2九; 九16五
速木你顔 sumu·n·iyān (箭自的行) [sumun の再帰格形] 三8一, 六
速木訥 sumu·n·u (箭的) [sumun の属格形] 六49二
速門 sumu·n (箭) 矢。四49四
速斡舌剌兀侖 su'ōra·'ūl·u·n (引闘) [su'ōra- '戦う' の使役・同時接合副動詞形] 六51八
*速舌児- sur- (慣, 学) 学ぶ, 習う。
-抽 -ču 土4七
-中忽 -qu 五4一
-禿中孩 -tuGaị 土45七
*速舌児荅- sur·da- (可学) [sur-の受身形]
-(中)忽 qu 八21五
*速舌児中合- sur·Ga- (教訓, 諷, 教) 教える。[sur-の使役形]
-阿速 -'āsu 五4一
-周 -ǰu 土9八
中忽 -qu 五4二
速(舌)児中罕 sur·Ga·n (教訓) [sur·Ga- の同時接合副動詞形] 五4三
*速舌剌- sura- (問, 挨問) 問う, たずねる。
-阿速 -'āsu 一18十
-巴速 -bāsu 二29一
-中忽途児 -qu-dur 一19三
速舌里木孫 surimusun (毛) まつ毛。二10一
*速舌魯勤察- sur·u·lča- (共学) [sur- の相動形]
-速 -su 九34十
速舌魯格徹 sürüg·eče (群行) [sürüg '群れ' の奪格形] 土53三
速舌魯昆 sürüg·ün (群的) [sürüg の属格形] 土47四, 52五
速舌侖 sur·u·n (学) [sur- の同時接合副動詞形] 土46八
*速中忽赤- sucuči (抽出) 抜く。
-周 -ǰu 四10五
速兀 su'ū (肘腋) 腋。
-都舌里顔 -dur-iyān 九13五
*速亦- süyi- (教導) 教えさとす。〈→süyü-, söyü-〉
-禿該 -tügaị[→geị] 九42二, 三
*速余- süyü- (教導) [=söyü-, süyi-]
-禿該 -tügaị[→geị] 土44二

*孫都剌- sundula-（疊騎）騎手の後に乗る。
-周 -ǰu 六13八; 九16八
*孫都剌温勒- sundula·'ū(n)l-（同上）[sundula-の使役形]
-周 -ǰu 二47四
*孫都剌温勒都- sundula·'ū(n)ldu-（教疊騎）[sundula-の使役・対動形]
-周 -ǰu 二46五
暑連 šüle·n（湯）スープ，スープ状の食物。三45六; 七21一; 九12三，46六，七
暑洌捏 šüle·n·e（湯行）[šülen の与位格形] 十47四，52五，53三
*孫都舌児- sundur-（陸続）続く。
-抽 -ču 十2二
循 šün（乳）乳。二22九; 五48六; 七35二; 十24九

# ts

倉 tsang（倉）倉。
-兀楊 -'ūd 亖48三

## t

塔 ta (您) あなた達。一13四, 六, 14二, 四, 五, 44二; 二2二, 三, 3三, 8四, 七, 10一, 三, 12六, 20二, 28七; 三48七, 九, 49一, 二, 三, 五, 七, 50五; 四1四, 六, 七, 八², 15八, 47六, 七²; 五3七, 4六, 7八, 25二, 40八, 42九, 44八²; 六35三, 四, 五, 六, 36一, 37三, 46四; 七9十², 13七, 36九, 37一; 八9五, 七, 十, 11一, 20十; 九1四, 八²; 3七, 8三, 9五, 八, 11二, 十, 15五, 23六, 九, 24一, 25二², 五, 七; 十7三, 30九, 33七, 44一, 三; 土21十, 25一, 二, 28五, 31一, 33五; 土4七, 8三, 九, 32八

塔納 tan·a (您行, 等行) [ta(n) の与位格形] 五40八; 六36二; 土35七

塔泥 tan·i (您行) [ta(n) の対格形] 三49八; 五7七, 20二; 六36一, 三, 46五; 九11八, 23十; 土24十

塔你顔 tan·iyān (您每自的行) [ta(n) の再帰格形] 土26四

塔訥 tan·u (您的, 等的) [ta(n) の属格形] 一12九, 44八; 二14一, 30一; 四15八, 九; 五7九, 16一; 八8二; 九11五, 六, 23七; 十29八, 44一; 土25五, 26二, 七, 八, 九², 27一

壇魯阿 tan·lu'ā (您一同) [ta(n) の共同形] 九27五; 土30十

*塔阿剌- ta'āla- (愛, 喜) 喜ぶ, 愛撫する。

-罷 -ba 七48十

-周 -ǰu 五43二

-主為 -ǰu'ūi 五39六

-(中)渾 -qun 九24一

*塔阿剌黒荅- ta'āla·Gda- (被愛, 被寵) [ta'āla-の受動形]

-罷 -ba 四35十

-周 -ǰu 十43七

-中忽訥 -qun-u 五44七

-中渾 -qun 五43一, 44三

-舌侖 -run 五22六

塔阿闌 ta'āla·n (愛) [ta'āla-の同時接合副動詞形] 二9二, 23六

*塔阿舌剌勒都- ta'āra·ldu- (復) [ta'āra- '合う; 遇う' の対動形]

-禿中孩 -tuGai 九46九

塔巴舌児 tabar (物, 財物) 財宝, 物品。土6五, 47三; 土4十, 26一

塔必 tab·ī (是麼) [tab '適切な' の疑問形] 〈→tab·u·'ū〉 土30六

塔寅 tabi·n (五十) 五十。四18三

塔不兀 tab·u'ū (是麼) [tab '適切な' の疑問形] 〈→tab·ī〉 五43二, 46七

塔不兀剌 tabu·'ūla (五箇) 五つとも, 五人とも。一12二, 14十, 23三

塔奔 tabu·n（五，五隻，五箇）五。一11八，12一，二，14一，二²，33七，41七；二8七；三23十，33十，四17七；五11六，14六；六26五；七23八，24八，38八；八12二，七，26九，27一，六；九8二，13二，32八，33九；十3六，23四，五，八；十32二

塔乞 taqi（也）こそ（強意の助辞）。〈→teki〉一35九；七16一，46六

*塔乞- taqi-（侍奉）奉ずる。

-周 -ǰu 九20三

塔乞牙 taqiya（雞児）鶏；酉。十52七

*塔勒- tal-（脱）解く。

-周 -ǰu 四39七，42四

*塔魯- tal·u-（脱，解）同上。

-阿 -'ā 四42五

-陽中渾 -dqun 三50六

*塔勒必- talbi-（放，放下，放了，留下，放来）放つ，置く；～しつくす。

-阿陽 -'ād 十29四

-阿速 -'āsu 七38二，五

-罷 -ba 一15九，17四，20六；二29七；四33六；十39三

-黒撒陽 -Gsad 三14三；四40一；七35一；十15五

-黒三 -Gsan 四34一；十42十

-周 -ǰu 一47四，49二；五6二，六，九，7四，20四；六1七；七9五；八35九；九23六，27九，28三；十50四；十26二，四，27十，31十，32二，40四，49四，55八

-魯阿 -lu'ā 十19九

-速 -su 一47一

-禿中孩 -tuGaị 七28八；十6三

塔勒賓 talbi·n（放）talbi-の同時接合副動詞形］六40五；十25八

*塔勒必舌剌- talbira-（放慢）和らぐ，鎮まる。

-梅 -muị 十22七

塔勒必舌闌 talbira·n（放）［talbira-の同時接合副動詞形］十21八

*塔勒必兀勒- talbi·'ūl-（教放，放）［talbi-の使役形］

-罷 -ba 四33七，八；五16二；六19三；十55五

-周 -ǰu 八35七；十41三；十47二，52七，55九

-中忽 -qu 十50七

*塔勒必兀魯- talbi·'ūl·u-（教放）［同上］

-舌侖 -run 十53八

*塔勒必温[勒]- talbi·'ū(n)l-（教放）［同上］

-周 -ǰu 二29五

塔剌 tala（容貌）姿，外見。八46三

*塔剌- tala-（虜，搶）掠め収める，没収する。
-罷 -ba 八45七; 亖27八
-中灰突舌児 -quị-dur 四17一
塔闌 tala·n（掠着）[tala-の同時接合副動詞形] 三15三
塔剌兀勒- tala·'ūl-（虜，教虜）[tala-の使役形]
-罷 -ba 七1三，2二; 八4七; 亖5十，7四
-罷者 -ba~je 七4四
*塔木- tamu-（禿，尽無）すりへる，なくなる。
-塔剌 -tala 一33八; 亖32三
塔納 tana（大珠）真珠母，螺鈿。
-思 -s 十13二，五; 亖27一
-禿 -tu 四14四
*塔泥- tani-（認）識る，知る。
-周 -ǰu 一20五
*塔你- tani-（同上）同上。
-周 -ǰu 三15七，九，十; 七9五
塔紐 tani·n（認得，認）[tani-の同時接合副動詞形] 一48一; 七5八
*塔你黒荅- tani·Gda-（認，認得）[tani-の受動形]
-中忽 -qu 五26一
-中渾 -qun 八9三，四
*塔紐勒都- tani(n)·ldu-（相認）[tani-の対動形]
-周 -ǰu 三12三
*塔你兀魯- tani·'ūl·u-（教認）[tani-の使役形]
-阿速 -'āsu 亖29六
*塔児巴中合赤剌- tarbaGa·čila-（土撥鼠捕）タルバガンを狩る。
-舌剌 -ra 二28一
塔児巴中合惕 tarbaGa·d（土撥鼠毎）[tarbaGan の複数形] 二27四，28三
塔舌児巴中罕 tarbaGa·n（土撥鼠）タルバガン。八7一
*塔児中合- tarqa-（散）散会する，四散する。
-罷 -ba 二17四
-黒撒惕 -Gsad 二18六
-周 -ǰu 二20四
*塔舌児中合- tarqa-（同上）同上。
-黒撒訥 -Gsan-u 亖38一
*塔舌児中合黒荅- tarqa·Gda-（散）[tarqa- の受動形]
-罷 -ba 亖30八
塔児中合兀侖 tarqa·'ūl·u·n（散教）[tarqa-の使役・同時接合副動詞形] 二17六
塔児《中》合兀侖 tarqa·'ūl·u·n（散，教散）[同上] 二21一，九

塔舌児中忽陽 tarGu·d（肥每）[tarGun '太っている' の複数形] 七15八，27五
塔舌児中忽剌兀魯- tarqu·la·'ūl·u-（教肥）[tarqu·la- '太る' の使役形]
-陽中渾 -dqun 六42四
塔舌剌 tara（散）散り散りに。[cf. bura] 九8十，22二
塔舌剌黒 taraG（酪）ヨーグルト。四40二，五，六
塔舌里牙陽 tariya·d（田禾）[tariya 'たなつもの' の複数形] 六28二
*塔速勒- tasu·l-（断）断つ。
-周 -ju 四22十
-禿中孩 -tuGaị 八47三
*塔速魯- tasu·l·u-（同上）同上。
-黒撒陽 -Gsad 十29九
*塔速勒荅- tasu·l·da-（被断）[tasul-の受動形]
-周 -ju 十35四
塔速勒丹 tasu·l·da·n（教断）[tasul·da-の同時接合副動詞形] 十20四
*塔速《舌》剌黒荅- tasu·la·Gda-（被断）[tasul(a)-の受動形]
-周 -ju 五28八
塔申 taši·n（拍着，拍）[taši-'拍する;（日が）沈む' の同時接合副動詞形] 二30二；六9十
*塔塔- tata-（扯，掉，做妾，提，縮，縛）引く。
-阿陽 -'ād 四28五；十3二
-黒三 -Gsan 十44八
-周 -ju 一25九；二17六；四27十；九11五，六，15七；十2一，7三，23六，七，26七，八，36三；十29三
-(中)灰 quị 二7八
-中灰魯阿 -quị-lu'ā 九14二
塔壇 tata·n（減）[tata-の同時接合副動詞形] 七38七
*塔塔剌- tata·la-（扯，相扯，施出）何度も引く。
-周 -ju 二13八，24九；四10五
*闥兀- ta'ū-（趕）追う。〈→討溫 taụ'ū·n〉
-周 -ju 六44二
塔兀来 ta'ūlaị（兎児）うさぎ。〈→taụlaị〉十14二
*塔赤- tayi-（祭祀）供物・犠牲を供えて祭る。
-主為 -ju'ūị 七9七
-牙 -ya 七9三
*塔赤黒荅- tayi·Gda-（被祭祀）[tayi-の受動形]
-舌倫 -run 七9七
台中合勒 taịqal（山頂）岩峯。八4三
*談禿魯- tamtul·u-（扯）裂き破く。
-黒[→陽]中渾 -G[→d]qun 三50七〔『全釈（中）』のp.381では「談禿魯《陽》中渾」

と校した]。

儻吉 tanggi (弱) 臆弱な，甘えん坊の。七23十

討兀 ta·ų'ū (遍) [ta '遍，回' の疑問形] 一46六，七

討来 taųlaį (兎，兎児) うさぎ。〈→ta'ūlaį〉 土36九；土20八

討温 taų'ū·n (趕) [taų'ū- '追う' の同時接合副動詞形] 〈→隧兀-〉 土10一

*討兀勒- taų'ūl- (分付) ゆだねる，託する。

-罷 -ba 土14八²

-周 -ǰu 九46四，47六

*帖卜赤- tebči- (棄，弃捨，捨棄，弃，捨) 棄てる。

-楊坤 -dkün 二10四

-古 -gü[→kü] 五44二；十24四

-周 -ǰü 五41一；六35五；七6七，7十；九27八

-速 -sü 五44八

帖卜臣 tebči·n (捨，棄捨) [tebči-の同時接合副動詞形] 五6五，7三，八，15五；六51七，52一；九27九，28二，六，七

帖卜赤勒敦 tebči·ldü·n (相棄) [tebči-の対動形]

帖別担 tebene (大針) 大針。

-迭 -de 七36七

*別帖舌里 teberi- (抱) 抱く。

-周 -ǰü 九16九

*帖別舌鄰勒都- teberi(n)·ldü- (相見) [teberi-の対動形]

-罷 -ba[→be] 四46八

帖別舌鄰勒敦 teberi(n)·ldü·n (相抱) [teberi(n)·ldü-の同時接合副動詞形] 三15十

帖迭 tede (那的每，那每，那，那的，他每，那裏，他每行) それら (の)，その人たち (の)。一4三，九，5三，7九，17七，18二，三，四，19三，22二，23三，24一，九，27十，28二，五，29七，八，31一，35五，48一；二4十，22三，30六，32八，46二，十，48六，十，49九；三15六；四21四，46九，47三，48一，49三；五17四，40三，41六；六3四，七²，11六，17二²，43十；七11一，四，12四，26九，33三，七，八²，34一，二，四，五²，六，34七，35一，四²，七，八，九；十27一，36五，37一，三，六，七；土5一，三；土2六²，16三，18一，二，30二

-額舌児 -'ēr 五42六

-額舌里 -'ēr-i 六17四；七11九；土30三

帖迭担 teden·e (他每行) [tede(n)の与位格形] 十37七

帖迭泥 teden·i (他每行，那的每行，他行) [tede(n) の対格形] 一21九；五5二，四；八4九，6九；土30十；土30四

帖迭客勒 tedeked (那些，那幾箇) 彼等。七11七，14二

帖顧 teden (他每) それら (の)，その人たち (の)。

-突舌児 -dür 四34八; 六3九

帖堆 tedüi (那般, 般, 便, 只那般, 那些, 那即便, 那遍) そのように。一7五, 38四, 40八; 二13五, 15七, 16一, 25十, 46二, 50七, 十; 三1二, 19四, 五, 21二, 23三, 41四; 四10四, 16二, 49七; 五20九, 25五; 六2九, 42五, 43八, 46七, 48六; 七1二, 4六, 7四, 21七, 24七, 32八, 45七; 八24二; 十40三, 四; 十41五, 42九; 十20九, 25十

帖対 üedti (随即) 同上。

-古 -gü[→-kü] 五26六

*帖額- te'ē- (載) 積む。

-周 -jü 二46八, 九; 三39一

帖古思 tegüs (全) 完全な (に), すっかり。七7七

*帖只額- teji'ē- (養) 養う。〈→teǰiyē-〉

-罷 -ba[→-be] 二5十, 7四; 四24十; 五12三, 14九

-罷者 -ba[→-be]~je 六27七; 九11八

-畢 -bi 二6二

-[克]薛[惕] -gsed 二6二

-克薛伯 -gsed 二6四, 七

-克先 -gsen 九11八

-周 -jü 七33六, 37七

-舌合 -rün 二5七, 6一; 四24八; 九11四

-耶 -yē 二6九; 五46九

帖只額勒敦 teji'ē·ldü·n (養兼着) [teji'ē-の対動・同時接合副動詞形] 一16十

*帖只耶- teǰiyē- (養) 〈→teji'ē-〉

-罷(原作別) -ba[→-be] 三33二

帖只延 teǰiyē·n (養来的) [teǰiyē-の同時接合副動詞形] 九17二

帖乞 teki (也) こそ (強調の助辞)。〈→taki〉 四41七; 五2十, 3一

帖勒中忽舌里中罕 tel quriGan (喫二母乳的羔児) (二匹の親羊の乳をのむ) 子羊。二25六

帖列格 telege (車) 鉄車。八10七

-禿 -tü 十11五

-禿宜 -tü-yi 八6三

帖列堅 telege·n (同上) 同上。

-突舌児 -dür 十54一

帖里 teli (那事, 那箇) それ。〈→deli②〉 十44七; 十36二, 四; 十5三, 35十

*帖篾徹- temeče- (争) 争う。

-惕 -d 一44七, 十

*帖篾扯- temeče- (同上) 同上。

-克赤 -gči 三6一

-耶 -yē 七39二

帖篾纏 temeče·n (同上) [temeče-の同時接合副動詞形] 七42五; 十12六

*帖篾扯勒都- temeče·ldü- (相争) [temeče-の対動形]

-惕坤 -dkün 十39四

-額速 -'ēsü 九14十

驖篾額 teme'ē (駱駝) ラクダ。〈→temeyēn〉

-惕 -d 十9五, 十, 10九, 52五

-禿 -tü 六44二

鐵篾額 teme'ē (駱駝) 同上。

-惕 -d 十9十

帖篾額的顏 teme'ē·d·iyān[→yēn] (駱駝自的行) [teme'ē·dの再帰格形] 五14一

帖篾額訥 teme'ēn·ü (駱駝的, 駱駝的) [teme'ēn の属格形] 五11七, 14七

驖篾額訥 teme'ēn·ü (駱駝的) [同上] 六26六

帖篾延 temeyēn (駱駝) ラクダ。〈→teme'ēn〉十28七

驖篾延 temeyēn (駱駝) 同上。十4九, 5九

鉄篾延 temeyēn (同上) 同上。十7七

驖篾臣 temē·čin (放駱駝的) 駱駝飼い。十9十

帖篾額赤泥 teme'ē·čin·i (放駱駝的行) [teme'ē·čin〈→temē·čin〉の対格形] 十4六

帖木(舌)児 temür (銕, 鉄) 鉄。七33十; 八6三

帖木舌児 temür (鉄, 鉄) 同上。八10七; 十11五

帖木舌里耶舌児 temür·iyēr (鉄教) [temür の造格形] 七36七

帖児干 tergan[→gen] (車子) 車。

-圖児 -tür 二23七, 24七, 八

帖舌児干 tergan[→gen] (同上) 同上。三38二

帖舌児格 terge (車) 同上。〈→tergen〉十7六, 9七

-惕 -d 三30五; 十54二

-敦 -d-ün 三29九; 十39八, 40十

-台 -tai[→tei] 十28八

帖児格勒 tergel (円光) 円い太陽の照る。二17三

帖舌児格勒 tergel (光) 同上。三29八

帖舌児格列 tergel·e (光行) [tergel の与位格形] 七22六

帖児格担扯 tergen·eče (車自) [tergen の奪格形] 二47三

帖舌児格担扯 tergen·eče (車子自) [同上] 三15七

帖舌児格担徹 tergen·eče (車処, 車子行) [同上] 四40二; 十29三

帖舌児格泥 tergen·i (車子行) [tergen の対格形] 三46二, 三; 十4七

帖児格訥 tergen·ü (車的) [tergen の属格形] 一4四; 二46四, 47二

帖児堅 tergen (車, 車子) 車。二46七

-都舌里顏 -dür-iyān[→yēn] 一35四

-圖児 -ṯŭr 一45一; 二44七

帖舌児堅 tergen (同上) 同上。三46四; 五2六; 六23一, 四; 十7七; 士39十

-突舌児 -dür 四39九; 五2一; 十6二; 士40三

帖舌児格兀舌児 terge·'ŭr (車路) 広い道。三46三

帖舌児格兀舌里耶舌児 terge·'ŭr·iyēr (車路依着) [terge·'ŭr の造格形] 三38八

帖舌児篾 terme (撒帳) とばり。六48三, 50六; 七2七; 士4八

帖舌列 tere (那, 那箇) その, それ。一5七, 9一, 四, 五, 十, 10一, 14三, 四, 16十, 20十, 21四, 22九, 23六, 八, 24五, 六, 七, 25八, 26六, 31六, 32一, 34四; 二1八, 2七, 16一, 17四, 六, 18五, 20五, 22六, 26七, 29一, 30四, 38五, 39二, 48九; 三1六, 2四, 5七, 6四, 14四, 18一, 20五, 29六, 33六; 四8四, 八, 11五, 34二, 38八, 40十, 45十, 46一, 五, 49六; 五9一, 10五, 12三, 17二, 六, 25八, 30十, 31十, 32九, 39六, 44一, 四, 48五; 六1八, 2七, 十, 3八, 4六, 14九, 23三, 五, 27六, 七, 52二; 七1八, 4六, 6十, 14三, 23一, 24三, 27七, 37五, 38十, 39五, 43一, 七; 八2五, 12六, 13六, 27七, 29五, 33六, 34一, 二, 41一, 44二², 四, 45六; 九5十, 23六, 34七, 42一, 48九²; 十12九, 31六; 士8一, 10六, 九, 37六; 士1二, 十, 10二, 17十, 18三, 26七, 34六, 39四, 47七

帖(舌)列 tere (那) 同上。一23八, 26三; 二32六; 四8六; 六30二; 七28十

帖舌里兀 teriŭ (頭, 等, 名項, 等項, 等項, 為頭) 頭, 源。一21八, 28一; 三44一; 四5一; 七9二, 四; 八3一

-辺 -bēn 士25六

-場 -d 六42二

-壇 -tan[→ten] 士18六

-帖 -te 七22八

-田 -ten 一27十, 40五; 三41一; 四3八, 12四, 13二, 十, 30二, 三, 四, 五, 六, 七; 八4一, 6四, 七, 27九; 九3八; 十11六; 士11七, 20二, 四, 41八, 50十; 士13七, 八, 九, 16二, 五, 27五, 九, 51十

-由[→田] -yü(→ten) 士33六

-禿 -tü 一13五, 20九

帖(舌)里兀 teri'ŭ (等項) 同上。

-田 -ten 四11三

帖舌里兀捏 teri'ŭ·n·e (源行, 源頭行, 頭行) [teri·'ŭn の与位格形] 一1五; 二42四; 三8十, 八24三; 十39一

帖舌里兀捏徹 teri'ŭ·n·eče (源頭処, 頭処) [teri·'ŭn の奪格形] 五11十; 七24九

帖舌里温 teri'ŭ·n (頭, 源, 源頭) 頭, 源。二17二, 38十; 三11七, 29七; 六37四; 七9七, 九, 22五

-突舌児 -dür 十43十

-都舌里顔 -dür-iyan[→yen] 三18六，19三

*帖舌里兀列- teri'ŭ·le-（為頭）頭となる，率いる。

-周 -jü 九4七；十48九

帖舌里兀連 teri'ŭ·le·n（同上）[teri'ŭ·le-の同時接合副動詞形] 四6十，7三²，十5五；十9九

帖(舌)里兀連 teri'ŭ·le·n（同上）[同上] 四7一

帖兀別舌児 te'ŭ·bēr（為那般）それによって；そのように。十30四

帖兀捏徹 te'ŭn·eče（那箇行）それから。八37九

帖兀泥 te'ŭn·i（那的行）それを。三17八

帖兀訥 te'ŭn·ü（那的，那的的）それの。一8二；三26四；四2五，19三，28八，30一，33六，七；五8十，11一，14二，28一；六5九，25九；七34九，36一，39四；八36八，37二；十33一；十1一，11六，20一，37八，九

帖兀訥埃 te'ŭn·ü'āi[→'ēi]（他的）彼のもの。一11三，26四

*帖兀舌列兀勒- te'ŭre·'ŭl-（教壊）[te'ŭre-‘こわれる’の使役形]

-速 -sü 三46三

帖温 te'ŭ·n（那的）それ。

-突舌児 -dür 五7五；六16六；七11八，12三，15六，31二；十38二；十47六

-突(舌)児 -dür 九24五

-圖児 -ṭür 二4八

*帖亦列温勒- teyile·'ŭ(n)l-（餓）[teyile-‘家畜類の腹が小さくなる，飢える’の使役形]

-周 -jü 一17二

帖亦木 teyimü（那般，那般有，那般有的）そのような。一6八；四51一；五37一；十7十，31七，44一；十24五；十24十

帖亦模 teyimü（那般，那般有）同上。一18九²，十，38五，40十；二38六；三26十，27八；四26一；八10四

帖亦門 teyimü·n（那般，那般毎）そのような。[teyimü の複数形] 四26二；八13八；十6一

帖因 teyi·n（那，那般）そのように。一10四，16三，22一；二8三，10三，19一，七，23五，26四，48三；三16六，39六；四8十，9一，14二，18五，37二，42九，45九；五14十，31一，37九，40一，42八，十，47十，48四，六，49三；六1二，3九，8二，17五，18八，21八，24十，26八，48五；七6七，7六，9七，12三，24五，31三，32四，十，33四，34四，35三，八，九，39一，九；八8九，32八，42四；九9一，八，20四，22五，33八，34一，37六，46十；十7八，33三，37七；十28五，六，33三；十3六，50一，57二

-古 -gü[→-kü] 二9三，四，19二

忝迭克 temdeg（明白）印，しるし，一13五〈→temṭeg·ün〉

忝帖昆 temṭeg·ün（明白的）[temṭeg〈→temdeg〉の属格] 八39八

*添古- temgü-（拾）拾う，摘む。

-周 -ǰü 二5九

*忝古勒都- temgü·ldü-（同上）[temgü-の対動形]

-周 -ǰü 一16九

*忝帖勒- temte·l-（磨[→摩]）手探りする。

-周 -ǰü 九13六

田迭 tende（那裏，裏）そこに，そこで。一6七，12六，13七，15十$^{2}$，35五，40五，六，七；二4五，27二，36九；三1十，16五，17十，26五，48五；四4七，5八，6二，四，13十，14三，四，15五，16三，20十，27三，31六，38二，十，46十；五1二，5五，9三，12十，13八，14四，15五，18四，20十，21六，22五，六，23八，25一，28八，九，29十，30五，31六，32十，33十，34六，38十，45九，46三；六3一，三，9七，15九，16二，19二，20九，24八，25六，29七，30四，七，31三，42六，43九$^{2}$，46六，49四，九；七5八，7六，9七，九，10十，14十，18四，五$^{2}$，八，十，19四，22九，23三，四，33一，二，34二，46二；八1四，八，2九，3二，4五，十，9四，十，12二，四，22三，十，24五，七，33三，35三，39八；九13一，14八，23三，27七，十，28七；十20十，27十，31七，43三，八；土1七，八，5六，16三，17一，18四，20六，23八，35八，39四，43二，44八，51九，52六；土2二，3三，4十，9八，10六，八，21二，26十

-扯 -če 一21七，22一；二36六，41三，45三；三10六，11五，16一，42二

-徹 -če 二9二；四5八，15六，16二，31四，39六，41四；五11五，29五，31八，32一，45七；六2七，18三，24五，25四，28八；七7二，35八，46八，十；八4二；九30三；十34五，35九，41四；土28五；土7八，51十

-額徹 -'eče 七39一

-古 -gü[→kü] 七44一；八24五

騰格里(克) tenggelig（車軸）車軸。〈→騰吉里格〉二46四

-遣 -bēn 二46四

騰格舌里 tenggeri（天）天。〈→tenggiri〉土5六，57四

騰格舌理 tenggeri（同上）同上。二15五，八；四40四，五34十；六12二，25八；七11四；八44七；九31五；土4四，24一，45三，47二

-迭 -de 四35十；五42十，44三，七；六36四；七3六；八9七，10十，29十，41二，43九；十43六；土36二；土4一，11四

-突舌児 -dür 八6十；土13一

-額扯 -'eče 一1三

-額徹 -'eče 八19十

-宜 -yi 十18十

-因 -yin 七47十；八39七；九31五；十28一；土28十

騰吉舌里 tenggiri（同上）同上。三22三，38十，49四

-迭 -de 三22八

-因 -yin —13五

騰吉思[→里]格 tenggis[→li]ge (ナシ) 車軸。〈→tenggelig〉

-台 -tai[→tei] 三46三

挑兀別児 teü'ü·bēr (為那般) それによって。—13五

挑兀別舌児 teü'ü·bēr (同上) 同上。八19十, 39九

脱阿 to'ā (数, 数目) 数。〈→脱安, 脱斡〉九48六, 八; 十三1三, 39一, 四

-班 -bān 七18三

*脱阿[黒]荅- to'ā·gda- (被数) [to'ā-の受動形]

-周 -ju —15六

脱安 to'ān (数) 数。〈→to'ā, to'ō〉 —15二

脱必察兀[陽] tobiča'ūd (西馬毎) アラビア馬。[tobičag の複数形] 十27二

*脱迭額- tōde·'ē- (止当) 止める。[tōde- '止まる' の他動詞形]

-周 -jü 七47一; 十35八

脱中豁阿泥 togo'ān·i (鍋) [togo'ān〈→togo'ō〉 の対格形] 十35九

脱中豁斡[陽] togo'ō·d (鍋毎) [togo'ō〈→togo'ā〉 '鍋' の複数形] 四4十

脱中鶴舌剌兀泥 togura'ūn·i (鵠鶴) [togura'ūn '鶴' の対格形] 三18三, 十

脱歌舌里該 tögörigai[→gei] (円) 普ねき。八18三

脱古門 tögü[→kü]m·ün (宮的) [tökūm '盆地' の属格形] —5三

脱勒格 tölge (卦) 占い。

-突舌児 -dür 八21六

脱勒格赤捏 tölge·či·n·e (卜人行) [tölge·čin '占い師' の与位格形] 十21四

脱勒格列兀魯- tölge·le·'ūl·ü- (教卜) [tölge·le- '占う' の使役形]

-額速 -'ēsü 十21四

*脱勒乞思- tolkis- (震動波浪) 波立つ。

-塔剌 -tala —37八

脱列[陽] tōled (替頭) 代りに, 代って。十47十 [*töle- に同時接合語尾 -d (複数形) がついた形]。

脱里 toli (指弾) 指の腹。六34二

脱羅[黒] tolog (大穫) 大氈。七9五

*脱那- tono- (剝脱) 剝ぎ取る。

-主為 -ju'ūi 四18四

脱那[黒] tono·g (同上) 剝ぎ取られたもの。七4四, 35五

脱那[黒]臣 tono·gči·n (剝脱的毎) 剝ぎとるところの。七35五

脱斡 to'ō (数, 正数) 数。〈→to'ā(n)〉 六18四

-禿 -tu 十19五

*脱斡- to'ō- (算) 数える。

-来 -lai 五32二

*脱斡剌- to'ō·la- (数) 数える。〈→脱兀剌-〉

-周 -ǰu 土16三
*脱斡剌勤都- to'ō·la·ldu-（共数）[to'ō·la-の対動形]
-阿速 -'āsu 六18四
-罷 -ba 六18四
-周 -ǰu 七18三
*脱斡剌兀魯- to'ō·la·'ūl·u-（教数）[to'ō·la-の使役形]
-舌命 -run 土15二
*脱斡(舌)里- tō'ŏri-（迷）迷う。
-罷者 -ba[→be]~ǰe 九8五
*脱斡舌里- to'ōri-（転）転る，転戦する。
-恢[→-(中)灰] -küi̯[→qui̯] 六3五
*脱斡舌鄰- to'ŏri·n（周囲，繞）[to'ōri-の同時接合副動詞形] 十40六，九
*脱斡舌里中合- to'ōri·Ga-（繞）[to'ōri-の他動詞形]
-周 -ǰu 七34九
脱斡舌里中罕 to'ōri·Ga·n（繞着）[to'ōri·Ga-の同時接合副動詞形] 七35二
脱斡孫 to'ōsun（塵）砂塵。七2七，八，14六，七
脱中忽兀勤 toqu·'ūl（教鞴）[toqu-‘鞍を置く’の使役・命令形] 二41九
*脱舌児荅- tor·da-（被碍）[tor-‘つっかえる’の自発形]
-由 -yu 七38一
脱児古惕 törgü[→kü]·d（家）[törküm ‘実家’の複数形] 一42二
脱舌児魯黒 torluG（ナシ）木偶。七10四，八，13七
脱舌児中合惕 torGa·d（段匹，段匹毎）[torGan ‘緞子’の複数形] 十13三，五
脱舌児中罕 torGa·n（紵絲）緞子。四17三
*脱舌列- töre-（生）生れる。〈→脱舌劣-，脱舌羅-，朶舌劣-〉
-罷 -ba[→be] 一14二，24八，41五
-畢 -bi 一41六
-額速 -'ēsü 六52六，七；土31八，33七
-克先 -gsen 一1三，六，10九，25七，27四，28五，29六，46八；二5十；三37八；七10四，16一，38九；土20十，21四，25二，四
-(克)先 -gsen 一5七，6七
-古 -gü[→kü] 土33八
-古因 -gü[→kü]-yin 土23十
-古魯額 gü[→kü]-lü'ē 八33四
-周 ǰü 二5七
-主為 -ǰü'ü̯i 一40八，九
-恢突児 -küi̯-dür 一40八
-中灰[→恢]突舌児 -qui̯[→-küi̯]-dür 九5九
-中灰[→恢]魯額 -qui̯[→-küi̯]-lü'ē 九6二

-列埃 -le'ā̱[→ē̱] 土24十
-里吉 -ligi 二11四
*脱(舌)列- töre- (同上) 〈→脱舌劣-, 脱舌羅-, dörö-〉
-罷 -ba[→be] 一25九, 40十
-周 -jü 八19五
*脱舌列勒都- töre·ldü- (共生) [töre-の対動形]
-克先 -gsen 八33二
*脱舌列兀勒- töre·'ŭl- (生) [töre-の使役形]
-畢 -bi 一7二, 24五
*脱舌列兀魯- töre·'ŭl·ü- (生, 教生) [同上]
-克先 -gsen 七48一
-列額 -le'ē 七10四
*脱舌列温勒- töre·'ŭ(n)l- (生) [同上]
-畢 -bi 一10五, 11二, 12七
*脱舌劣- törö- (生) 〈→töre-, dörö-〉
-克先 -gsen 土57五
*脱舌羅- törö- (同上) [同上]
-恢突児 -kü̱i-dür 二41七
*脱舌羅勒都- törö·ldü- (共生) 〈→töreldü-〉
-克先 -gsen 九6二
脱舌倫 törü·n (生) [töre-, törö-の同時接合副動詞形] 六16九
脱舌列 töre (道理) 筋道, 制度。〈→d̲öre〉 八46五, 47一
脱舌列勒乞 törelki (生) 生まれつき。
-突舌児 -dür 八19二
*脱舌里揚- törid- (止) とどまる。
-抽 -čü 七23四, 六
*脱舌里揚格- törid·ge- (教止止住, 止) [törid-の他動詞形]
-額速 -'ēsü 四38九
-主為 -jü'ŭ̱i 七46四, 八
-舌倫 -rün 七46四
脱舌劣 törö (道理, 理, 体例) 〈→d̲örö〉 八46九; 九19七; 土51四
-亘 -yi 三39七; 九28八
脱(舌)劣 törö (道理) 〈同上〉
-迭徹 deče 六33七
脱舌羅倫 torolu·n (疾霊) [torolu- 'めぐる' の同時接合副動詞形] 七35二
脱舌魯勒乞 törü·lki (生像) 〈→törelki〉
-禿 -tü 八20七, 八
脱舌魯勒米石 törülmiši (ナシ) 支配下の。七10五

脱舌侖勒乞 törü(n)·lki（生的）〈→törülki, törelki〉 八19四
脱孫 tosu·n（蘇油）油。土24九
*脱兀剌- to'ü·la-（数）〈→to'öla-〉
-周 -ju 土1三
脱兀舌児中合 to'ürga（帳裙）帳幕。
-禿 -tu 八24二
脱兀速泥 to'üsun·i（塵土行）[to'üsun '砂塵' の対格形] 六2三
脱宣 toyi（陳勢）支配力，統率力。六3五
*脱亦惕- toyid-（撥）自分の足を相手の足に掛ける。
-抽 -ču 四27二
禿卜連 tüb·le·n（面北）[tüble-'北面する' の同時接合副動詞形] 九10四
*土卜失惕客- tübši·d·ke-（教平）平定する。
-罷 -ba(→be) 八18四
土卜申 tübšin（平安）平和な。土26四
*土別- tübe-（配）とつぐ，配する。
-周 -jü 三20十
土不舌里温 tübüri'ün（震的声）馬の蹄の音。二42八
禿不兀的 tüb·ü'üd·i（大槩行）[tüb '基盤' の複数・対格形] 五32二
土奔 tüb·un（中的）[tüb '中，中央' の属格形] 九29一
禿惕中合(舌)剌 tudqar·a（使喚行）[tudqar '使役者' の与位格形] 一23四
禿惕中合舌里 tudqar·i（ナシ）[tudqar '使役者' の対格形] 三46五
禿黒 tuG（旄纛）旗旄，纛。六42三；七22六；八24五；十4八；土39七
-壇 -tan 六3七
禿乞顔 tuG·iyān（英頭自的行）[tuG の再帰格形] 三7七，8三
*禿黒剌- tuG·la-（莫頭拿）纛をたてる。
-周 -ju 二4九
禿中合舌児 tuGar（恰纔）さっき。五49二
禿中合舌剌察 tuGar·ača（同上）[tuGar の奪格形] 一21四
禿中合舌侖 tuGar·un（恰纔，恰纔的）[tuGar の属格形] 一21七；三31五；五49七
禿中合中侖[→舌侖] tuGar·un（恰纔）[同上] 一14二
*土格- tüge-（儘勾）つぐ；配る。〈→土客-〉
-帖列 -tele 二34一
*禿格- tüge-（勾）同上。
-帖列 -tele 七4三
*禿格額- tüge·'ē-（給散）分け与える。〈→土客額-〉
-惕坤 dkün 九10二
-額速 -'ēsü 九9九
-舌侖 -rün 十5五

-禿該 tügaį[→geį] 十5五
*禿格額勒都- tüge·'ē·ldü- (共散，共散与，教共給散) [tüge·ē-の対動形]
-罷 -ba[→be] 七4二
-周 -jü 七4二
-禿該 -tügaį[→geį] 十8八，十
禿中忽侖 tuGul·un (犢的) [tuGul '仔牛' の属格形] 七28二
*禿客- tüke- (給散) 〈→tüge-〉
-禿該 -tügaį[→geį] 十5四
*禿客額- tüke·'ē- (給散) 〈→tüge·'ē-〉
-舌侖 -rün 九9五; 十5三
*禿乞舌児- tükir- (唆) けしかける。
-抽 -čü 十47一
禿客勒 tükel (平安) 平和な。十26四
*禿勒巴勒- tulbal- (劈破) きりさく。
-罷 -ba 十24一
禿勒巴思 tulbas (倒) [副詞的様態言] どっと (倒れる)。十21三
禿勒八思 tulbas (同上) 同上。十37二
禿剌 tula (上頭) ので。一27五，八，28一，三; 二18十，32四，50四²; 三39四; 四7二，六，9六，26一，50八; 五9九，10四，21一; 六26十，52四，53一，三; 七1四，2七，3六; 八21十，29八，39八，41四，43九，45九，十; 九2七，7五，20十; 十21九，30六，43五，六; 十30八，51四; 十12九
禿(舌)剌思墳 tura·s·tan (方牌有的毎) 盾をもった (複数形)。四37七
*土列- tüle- (焼) 燃やす。
-周 -jü 二23七
*土烈- tüle- (同上) 同上。
-周 -jü 七23八
*禿列- tüle- (同上) 同上。
-周 -jü 十10三
*土烈兀勒- tüle·'ül- (教焼) [tüle-の使役形]
-罷 -ba[→be] 七24八
-周 -jü 五29十; 六29二
*土烈兀魯- tüle·'ül·ü- (同上) [同上]
-惕坤 -dkün 七24六
-額惕 -'ēd 六14三
土烈食連 tüle·ši·le·n (做焼飯)[tüle·ši·le-'焚物にする' の同時接合副動詞形] 五31八
土烈失連 tüle·ši·le·n (同上) [同上] 六29五
*禿里- tüli- (盖) 押す。
-周 -jü 十42十

禿魯 tulu（柱脚）支柱，支え。十37一；廿21二

禿魯黑 tuluG（倚仗）柱杖。五44二

禿《舌》魯黑 tuluG（同上）同上。五42九；六37三；九26四

*土木不剌- tumbu·la-（為頭）筆頭とする。

-周 -ju 六5六

土木不闌 tumbu·la·n（同上）[tumbu·la-の同時接合副動詞形] 六5五

禿木荅阿 tumda·'ā（円全）全て。〈→tumtaG·ā, tundaG·ā, 屯荅合〉七1十

土木塔中合 tumtaG·ā（完全行）完全に。〈→禿木荅阿，屯荅合〉八45三

土篾 tüme（万）万。八41九

土篾惕 tüme·d（万，万毎）[tüme(n) の複数形] 三2九，十，4八，十，10二，11十；四3十，4五

土篾敦 tüme·d·ün（万的，万戸的，万毎的）[tüme·d の属格形] 九30十，31一，32三；十15六；廿13九，16十，52三

*禿篾列- tüme·le-（万做）万戸をつくる。

-周 -jü 九30十

土篾訥 tüme·n·ü（万戸，万戸的）[tümen の属格形] 三39六，八，九；九4七

土綿 tüme·n（万，万戸）万，万戸。三9二$^{2}$，三，10七，八；五9三；八38五，40三，42二；廿14六，15三

禿綿 tüme·n（同上）同上。九28十，29一$^{2}$，31十，39十，40一；十3七，十，14四，六，九，15十，23一，25五

土綿的耶舌児 tüme·(n)d·iyēr（万教）[tüme·d の造格形] 三10八

*禿你- tuni-（完愉）解放する；なしとげる。

-黒三 -Gsan 廿35一，六

禿舌児格捏 türge·n·e（緊行）きびしく；はやく。〈→禿舌児古捏〉廿22五

禿舌児古捏 türgü·n·e（緊行）同上。廿21六，九，22四

禿舌児魯黑 turluG（ナシ）怯懦の。七29九

土舌児中合黑 turGa·G（散班）当直，当番。七19六

禿舌児中合黑 turGa·G（散班，侍衛）同上。九31四，八，九，39五，46八；廿18三

禿舌児中合吉 turGa·G·i（散班毎行）[turGaG の対格形] 十2八

土舌児中合兀惕 turGa·'ūd（撒班，散班的毎，宿衛的）[turGaG の複数形] 七18十，20五，十，21二，八

禿舌児中合兀惕 turGa·'ūd（散班，散班毎）[同上] 九38四，39八，45十，46五；十2八，9二，四，40九；廿14五，36十，37四

-魯阿 -lu'ā 九36十

土舌児中合兀的 turGa·'ūd·i（散班的）[turGa·'ūd の対格形] 七19七

土(舌)児中合兀的 turGa·'ūd·i（護衛行）[同上] 六4三

禿舌児中合兀的 turGa·'ūd·i（護衛行，散班，散班行）[同上] 八43六；九38六，七，九$^{2}$，十，39四；十9九；廿43五，六，七

禿(舌)児中合兀的 turɢa'ūd·i (散班，散班行) [同上] 九39一，三
土舌児中合兀的牙舌児 turɢa·'ūd·iyār (ナシ，依着，護衛領着) [turɢa·'ūd の造格形] 四3十；六9四
土児中合兀的顔 turɢa·ūd·iyān (伴当的每) [turɢa·'ūd の再帰格形] 二13五
禿舌児中合兀敦 turɢa·'ūd·un (護衛的，散班的，散班每的) [turɢa·'ūd の属格形] 六4四，5八；九37五，40九；十9一；十一42十，43二
*禿舌里- türi- (推，推動) 追い上げる。
-周 ǰü 四11四，12四；十一30一
土舌林台 turimtaị (竜多児) 雀鷹。二23四
*禿舌魯- turu- (瘦) やせる。
-埃 -'āị 八7八
-黒撒泥 -ɢsan-i 六28四
-周 -ǰu 五12二；十一13七
禿舌魯黒 turuɢ (遠，久遠) 久しく。八20五，40九
土舌魯訥 türŭn·ü (始初的) [türŭn の属格形] 五17八，九
土舌魯中合惕 turuqad (瘦，瘦每) やせた。[turqan の複数形] 五46九；七15五，七，23二，26五，27一
禿舌侖 turu·n (瘦) [turu-の同時接合副動詞形] 八7十
禿舌侖 türŭn (初) 以前，かって。三17三
圖思 tus (正主) 当該の；自分の。五5七，十，6五，7三，六，八；六51六，52一；七7九；八13七，九；九27八，28一，四，七
圖昔顔 tus·iyān (正主自的行) [tus の再帰格形] 五5八
圖速安 tus·u'ān (同上) [同上] 十一56十
*禿思- tus- (到，要打) 当る，命中する。
-抽 -ču 十一22九
-中忽阿察 -qu-ača 十34七
*土思荅- tus·da- (被著) [tus-の受動形]
-周 -ǰu 六13十
*禿思荅- tus·da- (被中，被射) [同上]
-阿速 -'āsu 九16五
-周 -ǰu 八2九
土撒 tusa (済，恩，息) 助け。二33八，34一，二；三4七；四15八，47七；七3五，九，16一；八15六，九，18六，28三，四，33五，34三，43一，44二，45八，47一；九6一，16三，17三，21十，23六
-昔 -s-i 四43九
-孫 -s-un 八29八，46九
-塔納 -tan-a 八27八
-宜 -yi 四15九；八34一

-因　-yin 六25七，53三；七1四，2七；九20十
禿撒　tusa（恩）同上。九11九
*土失　tüši-（委付，伸頸）任命する。
-罷　-ba[→be] 三49八；七18五，六，八；八30十；十51五
-額楊　-'ēd 八27七
-周　-ǰü 四20八；七21八；八24十；九30十，31一；十14十，37二，51一；十20二，四，33十
-舌侖　-rün 十40八，43三
-速　-sü 七49二
-耶　-yē 九28九
*禿失-　tüši-（委付）同上。
-罷　-ba[→be] 十10一，25七，八，九，26三，四²
-周　-ǰü 九41六
-舌侖　-rün 九40四；十18九
*委[→禿]失-　üi̯[→tü]ši-（同上）同上。
-罷　-ba[→be] 十26五
土申　tüši·n（同上）[tüši-の同時接合副動詞形] 六6二；八25一；十22六
土失牙勒敦　tušiyaldu·n(相対)[tušiyaldu-'ぶつかる，戦う'の同時接合副動詞形] 六3十
*土速勒察-　tus·u·lča-（猛到）[tus-の相動形]
-罷　-ba 三15十
*禿速舌児-　tüsür-（注，傾）注入する。
-抽　-čü 十48三
-出為　-čü'ü̆i̯ 四6十
-灰[→恢]　-qui̯[→küi̯]-yin 四7二
*禿速舌魯-　tüsür·ü-（傾）同上。
-額楊　-'ēd 二22九
-由　-yü 四7四
禿速舌児格　tüsürge（甕，酒局）酒入れ。四6十，7二；十5八；十42七
-因　-yin 十38五
禿速(舌)児格　tüsürge（酒局）同上。
-因　-yin 九10三
*禿塔黒荅-　ṯutaɢda-（被欠）欠ける，足りなくなる。
-周　-ǰu 九30二
*土賧阿-　ṯuta'ā-（走，逃走）逃げる
-周　-ǰu 六24四，26二；七43八，45六
-主兀　-ǰu'ū 五23七
-中忽　-qu 五28七
*禿塔阿-　ṯuta'ā-（走，逃）同上。

-罷 -ba 土39六
-主兀 -ǰu'ū 六48八
土禿木 tutum (每遍, 每) ～每。〈→tutun〉六3五[2]
-突舌児 -dur 九8十
禿禿迷 tutum·i (每行) [tutum の対格形] 八18四
土屯 tutun (每, 各, 各各) 〈→tutum〉一17三, 四, 35七, 八; 四25九; 五20七; 七23八; 土47八
-突舌児 -dur 土53九
禿屯 tutun (每裏) 〈同上〉九22二
*禿兀- tu'ū- (落) (鳥などが) とまる。
-巴 -ba 一43六
-罷 -ba 一43九
*禿兀(舌)児必- tu'ūrbi- (倣) 試みる, 行う。
-阿速 -'āsu 十18八
禿牙勒 tuyal (羣鳥, 雀羣) 雀の一種。十37二; 土21三
*禿亦惕- tüyid- (遮) 妨げる。
-抽 -ču 十36三
拖亦闌 toyi·la·n (ナシ) [toyi·la-'宴をはる' の同時接合副動詞形] 三28八
*推(惕)- tüid- (生) 妨害する。
-恢突舌児 -küi-dür 七47七
屯 tün (林) 林。二17八
-突舌児 -dür 四6八, 18九
-納 -na[→ne] 三1三; 五36八; 土52七
-捏 -ne 二39六; 六25五, 27五
-泥 -ni 二18七; 三25四
-圖児 -tür 一31五
屯荅中合 tundaG·ā (全) [tundaG〈→tumdaG, tumtaG〉'ひとまとまり' の与位格形] 〈→禿木荅阿, 禿木塔合〉八5一
*統中合- tungqa- (伝, 伝布, 宣布) 伝達する, 公布する。
-罷 -ba 七24六
-舌侖 -run 九32二, 41七, 45十
*統中合阿- tungqa·'ā- (伝, 宣布, 宣諭) [tungqa-の使役形]
-周 -ǰu 五23五; 土18五
-舌侖 -run 土38二
統中合黑 tungqa·G (伝説) 布告。五20四
統中渾 tungqu·n (作新) [tungqu-'改めて行う' の同時接合副動詞形] 土37一
*統中忽勒都- tungqu·ldu- (重新, 共重新) [tungqu-の対動形]
-周 -ǰu 三26一, 27八

# y

*牙阿舌剌- ya'āra- (忙) 急ぐ。
-周 -ǰu 四41五, 47九; 八35九
-中忽 -qu 四47九
-由 -yu 土23九
牙阿舌剌勒 ya'āra·l (同上) 急ぎ。〈→ya'āra(n)l〉 土38三
牙阿舌闌 ya'āra·n (同上) [ya'āra-の同時接合副動詞形] 四48二
牙阿舌闌勒 ya'āra(n)·l (急忙) 〈→ya'aral〉 九47十
迓步 yabu (行) [yabu-の命令形] —20九, 35十; 四50九; 六40四; 土23六
*迓步- yabu- (行) 行く, 進む; (時が) 経過する, 暮す; 仕える。
-阿惕 -'ād 六45四; 七22八, 31五
-阿速 -'āsu 八8十, 10十, 14九, 15一
-罷 -ba 土7三; 24六
-罷者 -ba~ǰe 六36三; 八17七, 18一, 41一; 九8七, 23八, 土24五, 七
-巴速 -bāsu 二22十
-惕 -d 七34一
-惕中渾 -dqun 二3三; 八9六; 土42五; 土8四, 43十
-荅黑 -daG 五43一
-周 -ǰu —21三, 37十, 48四; 三29十, 38二; 四34三; 五25十, 28六; 六12八; 七27三, 四; 八21三, 36八; 九2七, 10一, 13五, 34九, 46三; 十5九; 土51九; 土35二, 37五, 40五
-主兀 -ǰu'ū 五26四
-主為 -ǰu'ūi 四34八; 土38五
-(舌)厥 -quį 土26二
-(舌)厥班 -quį-bān 九34六
-恢[→中厥]突舌児 -kuį(→quį)-dur 五14一; 六18九
-剌阿 -la'ā 五4三, 26二
-魯阿 -lu'ā 六4九, 6四, 35八
-木 -mu 一9五; 五15一
-黑三 -Gsan 四50三; 十19四, 八
-黑撒阿舌児 -Gsa'ār 三35九
-黑撒惕 -Gsad 土36十
-黑撒你顔 -Gsan-iyān 五14十
-中忽 -qu 四8九; 八44四; 九47二, 49三; 十19二; 土38八
-中忽宜 -qu-yi 一9二; 五23七; 八42四
-中忽牙 -quya[→-quį-a] 土52九

-中灰 -quį 土26六
-中灰班 -quį-bān 九42六
-中灰突舌児 -quį-dur 三15二，四，五；四45六；五28五；六2二，12四，49一；八8三
-中灰突(舌)児 -quį-dur 九13六；十7五
-中灰顔 -quį-yān (一qu-iyān) 土44六
-中灰宜 -quį-yi 四9三
-中渾 -qun 三15二；九32五，48七，八；十18三；土42三；土15二，37三，十，39三²
-舌剌 -ra 十18二
-舌侖 -run 五14六，30五
-塔剌 -tala 八38一
-禿中孩 -tuGaį 七21三；八8九；九48五，六；十6二，7十，8九，9三，五，六，八，10三；土37三，39二²，40
-禿(中)禿孩 -tuGaį 八42四
-牙 -yā 土5五
-由 -yu 五13二；六38九，41十；土17九
*迓歩黒荅- yabu·Gda- (可行，被行) [yabu-の受動形]
-中忽 -qu 九2九
-舌侖 -run 土39二
*迓歩動都- yabu·ldu- (共行，共行来) [yabu-の対動形]
-罷 -ba 一18五
-黒撒傷塔 -Gsad-t-a 八24九 [yabuGsad の与位格形]
*迓歩兀動- yabu·'ūl- (教行，行) [yabu-の使役形]
-罷 -ba 四33三，四
-周 -ju 四35五；土21一
-中忽泥 -qun-i 九33二
迓奔 yabu·n (行) [yabu-の同時接合副動詞形] 四35九；土14六
迓歩荅動 yabu·dal (行，行動，行止，行程) 行為。九46一；十21七；土37一，49一
-壇 -tan 十2五，7九
迓歩中合傷 yabu·Gad (歩行) 徒歩の (者)。[yabuGan の複数形] 二27十
迓歩中合的牙児 yabu·Gad·iyār (歩行着) 徒歩で。[yabuGad の造格形] 二46五
迓歩中罕 yabu·Gan (歩行) 徒歩で。二28三；十33九，34一，三，35七
迓歩(中)罕 yabu·Gan (同上) 同上。六12四
*迓荅- yada- (不能，不得) できない。
-阿速 -'āsu 十19五
-罷 -ba 一12三，40二；二48三；五15五；六45十；七4六；九28六
-罷者 -ba-je 六36一

-黑三 -Gsan 五7八; 九28七
-周 -ǰu 一9五; 三30四, 十; 四13七, 35九, 39十, 40二; 五6五, 7四, 28三, 43五; 六6四, 34九, 36二, 42七, 48十, 51七, 52一; 七43八; 八2十, 3一, 三, 17七, 十, 44十; 九27六, 28二; 十三3一, 52四; 十三3一
-主為 -ǰu'ūi 二48五
-木 -mu 七29四
-木者 -mu~ǰe 十9三
-梅 -muị 十30九
-梅者 -muị~ǰe 十9二
-中忽 -qu 二11六; 五2六; 七29十
-中忽宜 -qu-yi 九16八
-忽由 -quyu[→quị-ū] 五4四
-(中)灰宜 quị-yi 七29四
-舌侖 -run 七27八, 28三
-塔剌 -tala 十10一; 十46三
-由 -yu 六23二, 五
*牙荅黑荅- yada·Gda- (被不敢) [yada-の受動形]
-周 -ǰu 四2十
牙丹 yada·n (不得, 不能) [yada-の同時接合副動詞形] 二9九, 12五; 四27六; 六4九, 45三; 八17六; 十29六; 十三35六
*牙但- yada(n)- (不得, 不能, 貧乏, 窮乏) 仝上 〈→yada-〉
-周 -ǰu 二11十, 14四; 五11七, 14六, 八; 六29五, 八, 27三, 45三; 51二; 九12八
牙当吉 yadanggi (窮乏) 窮乏した。一9二
牙舌剌 yara (傷, 傷痕) 傷。
-禿 -tu 二4三
-禿宜 -tu-yi 六10一
-昔顔 -s-iyān 六18十
牙速 yasu (骨頭, 骨) 骨。七43三; 八2十, 22八, 十
-禿 -tu 三21三; 五1三
牙速訥 yasu·n·u (骨頭的) [yasun の属格形] 十21九
牙孫 yasu·n (骨殖, 骨, 骨頭) 骨。六19三; 八20四
-魯阿 -lu'ā 七16二
牙兀 ya'ū (怎, 甚, 如何) どんな, いかなる。一11十; 四20五; 五26一, 五, 40九, 49二; 六11五; 八13二, 五, 36五, 42四; 十37六; 十三16四, 22四, 29八, 31一, 二; 十三20一, 35六
牙兀 ya'ū (甚麼, 物件, 物件等) 何。三31一; 五15十, 16一, 18八, 26四, 27七, 41七; 六1四, 6三, 7七, 20四, 21十; 十三15二, 16三, 31一, 三, 32三

-巴 -ba 三40一
-惕 -d 七33三，四，35一
-壇 -tan 七12四
牙兀真 ya'ū·jin（甚氏）[ya'ū の女性形] 一22九
牙兀納 ya'ū·n·a（甚麼行）[ya'ūn の与位格形] 一20十，21二；四9二；五43六
牙兀訥 ya'ū·n·u（甚的）[ya'ūn の属格形] 一12八
牙兀訥埃 ya'ū·n·u·'āi（甚的）何のもの。一18三
牙温 ya'ū·n（甚麼，有甚）どんな，いかなる。一9四，15六，18四，21四，44二，二34二，十，44十，46八；三39八；四7七，41二，43二，45九；五5九；25七；六21四；七10一，15十，29七；八9十，18六，28四，五；十30二，35七，36一；十一22四，52六
才[→牙]温 tsai[→ya]'ū·n（甚麼）同上。五48五
黯巴児 yam·bar（甚麼）どんな，なんらかの。一43九
黯巴舌児 yam·bar（甚麼，怎，怎生）同上。四1七，41三；五19八，48三；六31六；八29四，44一；九8七，23十；十36七；十一22十，30九；十一19六
也古兀者埃 yegü·'ŭje'ei（休）[yegü-'けなす' の懸念形] 二8三
也客 yeke（大）大きな。一21八，27七，八，30五，37九，46五；二2一，18五，30四，36十，45一；三38七，八；四7七，15八，十，40二，45七，46十；五3三，四，4七，19二，21一，二，27四；六4五，5十；七9二，11二，13七，16四[2]，九，28十，32九，47四，49二；八1三，43七，44二，46五；九10三，28八，40二；十5八，7七，18二；十一4三，四，17二，18十，19六，29六，35八，37一；十一5四，五，16九，23二，29四，32六，54十，56一，58五
-迭 -de 五24十；七38六
-思 -s 十2八，十；十一20四
-薛 -s-e 二1八
-孫 -s-un 二2一
-台 -tai[→tei] 一4十
-禿 -tü 七16三
-宜 -yi 六48八
也客只列- yeke·jile-（做大）尊大にかまえる。
-坤 -kün 五46六
也客只連 yeke·jile·n（大做）[yeke·jile-の同時接合副動詞形] 五38十，39四
*也乞- yēki-（做甚，做甚麼）どうする。
-克薛惕 -gsed 十36四，37六
-坤 -kün 五5一，41六
-兀澤 -ŭjai[→jei] 五3七
-兀者 -ŭje 七11八
*耶乞- yēki-（做甚，怎做）同上。

-別 -be 十29十

-坤 -kün 七15五

也勤 yēki·n (如何，為甚) [yēki-の同時接合副動詞形] 一13四，六，14五；二2二，8三，七，10一，三，23二，五，30八；四1五，七，41九，47七，九；五6十，31一，42八，43四，十，46七；六21六，七；七6七，15七，八，29四，35三，44四，46十；十36六；土11十，15十，16九，23九，28五，45六，46八

也琴 yēki·n (怎地) [同上] 九15二

也舌連 yeren (九十) 九十。八27一，六

也舌速[→舌連] yesüren (同上) 同上。十3六

也速惕 yesü·d (九) 九。[yesün の複数形] 土9九，十², 10一

也孫 yesü·n (九，九箇，九次) 一41六，42一；二9六，15九，36七；七38二，七；八24三，29八，38三；九6五，17五，24八；十23三，33一，35四；土9九，十², 10一

-帖 -te 二51五

*也兀惕格- ye'ŭd·ge- (交換，交代) 交代する。

-周 -jü 九47五

-恢 -küi 土4五

*也兀惕格勤都- ye'ŭdge·ldü- (替換) [ye'ŭdge-の対動形]

-周 -jü 七21六

*也兀惕客- ye'ŭdke- (換，更改) 改めさせる。

-周 -jü 八37八

-坤 -kün 八31五

-禿該 -tügai[→gei] 八31五

*也兀惕客勤都- ye'ŭdke·ldü- (交班，交換) [ye'ŭdke-の対動形]

-中灰[→恢]突舌児 -qui[→küi]-dur 土45一

-舌侖 -rün 九47四

-禿該 -tügai[→gei]

*約児赤- yorči- (去) 赴く。

-罷 -ba 一42三；二4九，9五，22四，25一，27十，29三；四28六

-周 -ju 一15九², 20六；二35六

*約舌児赤- yorči- (同上) 同上。

-罷 -ba 六14八；土8一

-畢 -bi 五22十

-周 -ju 五11四，48八，49六，50三；六27二；七5九，32二；十27九，28八；土39七

主兀 -ju'ū 八3二

-主為 -ju'ūi 八4二

-牙 -yā 五49八

約舌児赤勘 yorči·l (行) yorči-すること。七32二

約舌里顔 yor·iyān (響鏑頭) [yor '骨製或いは木製の鏑矢のやじり' の再帰格形] 三26八

約速 yosu (道理, 理) 筋道。五37一; 九28七; 土17三, 50六; 圭56四, 七

-阿舌児 -'ār 五11九, 36十; 六27五; 七21五; 八9六; 九33十, 46十; 土37九; 圭14八, 17三, 37三, 四, 44二, 45三

-阿(舌)児 -'ār 九43二

-塔泥 -tan-i 八30八, 九

-台 -taị 二2八, 九

-壇 -tan 九43六, 七; 十44二

-禿 -tu 圭45九, 十

*約速剌- yosu·la- (議擬) 筋道をたてる。

-周 -ju 八31四

約孫 yosu·n (理, 道理) 筋道。一6八, 38五; 二38六; 三16七, 26十, 27七; 四25三, 26一, 51一; 五9八, 36九; 六27六, 38四, 39一; 九19九; 十21一, 31六, 36七; 土51四; 圭17五, 18七, 24十

-突舌児 -dur 六31七; 土50七

約兀舌児中合 yo'ūrga (墻) 壁。圭57六

-禿 -tu 八31九

# 元朝秘史全釈語句・事項総索引

## 凡　例

本索引は『元朝秘史全釈（上・中・下）』及び『元朝秘史全釈続攷（上・中・下）』に於て施された数多の註の検索の便をはかるために作成されたものである。本索引の利用に当り，以下のことに御留意願いたい。

（1）　索引の排列はa, b, c, ……順によった。

（2）　索引中の（上），（中），（下）は『元朝秘史全釈』の上巻，中巻，下巻を示し，（続上），（続中），（続下）は『元朝秘史全釈続攷』の上巻，中巻，下巻を示す。例えば，「（上）p. 80, 195」は「『全釈』の上巻の80頁及び195頁」の意味であり，「（続上）p. 358」は「『全釈続攷』の上巻の358頁」の意味である。

（3）　索引中の「～」は見出し語の重出を示す。例えば，「阿主兀 a~ǰu'ū（上）p. 17, 30…」の項のすぐ下行の「～の，推測の意《ようだ》を表わす用法」は「阿主兀 a-ǰu'ū の，推測の意《ようだ》を表わす用法」の意味である。

（4）　キリル文字による現代モンゴル語の語句及び事項は当該の諸項の末尾に排列した。例えば，「бай-, байз, байна」等は「b」の項の項末に бай-, байз, байна の順に――即ちキリル文字のアルファベットの順に――排列した。

（5）　語句でなく事項についての註は当該の諸項の最後に――即ちキリル文字の語句の次に――一括して示した。例えば「語幹末音決定原理」はgの項の最後部に置かれている。

## a

阿- a- (存在動詞) の意義素 (上) p. 80, 195, (中) p. 131, (続上) p. 358, (続中) p. 66, 225
a-と bü- の意味のちがい (上) p. 174, (続上) p. 58-59, (続中) p. 130, 225
a-から派生された若干の語 (続上) p. 59
a-と撒兀- sa'ū- を連続して用いる表現 (上) p. 143, 183
阿黒撒阿舌児 a-Gsa'ār (続上) p. 358
阿黒撒惕 a-Gsad (続上) p. 330
阿只埃 a-ǰi'āi (上) p. 21, (続下) p. 260
阿主 a-ǰu (続中) p. 65
阿周別舌児 兀窟周別舌児 a-ǰu ber ükü-ǰü ber (続上) p. 58
阿主兀 a-ǰu'ū (上) p. 17, 30, 107, 194, (下) p. 270
～の, 推測の意《ようだ》を表わす用法 (中) p. 165, (続上) p. 269
～の「～である」を表わす用法 (下) p. 76
～と不列額 bü-le'ē (上) p. 257, (下) p. 77, (続下) p. 259-260
阿魯阿 a-lu'ā という形が用いられている理由 (上) p. 107, 194-196
阿塔剌 a-tala (上) p. 107
阿都中孩 a-tuGai の転写法 (中) p. 198, 375
阿禿中孩 a-tuGai (続下) p. 370
阿兀勒荅- a-'ūl-da- (続中) p. 61
阿牙 a-ya (続中) p. 65
-a/-e (与位格語尾) の意義素 (上) p. 42, 258, (続下) p. 117
～の形容詞を副詞化する用法 (下) p. 337, (続上) p. 342, (続中) p. 94
～の「～にある」と訳しうる例 (上) p. 23, (続下) p. 268
～の「～によって」を表わす用法 (中) p. 163
～の「～のために」表わす用法 (上) p. 216, 262, (中) p. 15, 33, (続上) p. 92 [(続下) p. 117, 404 も参照]
$-a^2$ 系語尾の解 (uqaǰu aqui-a の -a) (続下) p. 285-288
[この -a/-e については -da/-de の項も参照]
-a/-e (「呼びかけ」) (続中) p. 171, (続下) p. 404
$-a^2$ (間投詞) (続下) p. 210
-阿/-額 -'ā/-'ē, ～ -埃 -'āi/-'ēi (未完了の形動詞語尾) (上) p. 59-60, (下) p. 156, (続上) p. 92, 153, (続下) p. 159
[-'$ā^2$～ -'$āi^2$] の全ての用例 (続下) p. 263-264
[-'$ā^2$～ -'$āi^2$] の意義素 (上) p. 274, (中) p. 284, (続下) p. 264
[-'$ā^2$～ -'$āi^2$] の終止形としての用法 (中) p. 254, (続下) p. 155

-埃　不列額　-'āi̯/-'ēi̯ bü-le'ē　(続上) p. 153-154
-阿　兀都為　-'ā üdü'üi̯　(続下) p. 264
-埃　兀都為　-'āi̯/-'ēi̯ üdü'üi̯　(続上) p. 92, 153, (続下) p. 264
阿ト-, 阿〈不〉 ab-の補助動詞的用法　(上) p. 167, (続上) p. 136
ab-の factitive 形について　(続中) p. 12-15
阿ト抽　中合〈舌魯〉 ab-ču ɢar-　(下) p. 163
阿ト中合兀勒- ab-qa-'ūl-　(続中) p. 12-15
阿把　保兀- aba bau̯'ū-　(続上) p. 276
阿巴舌里- abari-　(続上) p. 332
阿ト赤舌剌- abčira-　(上) p. 100
阿必惕 abid, 阿必惕剌- abidla-　(上) p. 84-86, (続下) p. 459
阿ト里中合 abliɢa　(続上) p. 206, (続中) p. 225
阿備巴備 abui̯ babui̯　(続上) p. 84
阿ト鄰 abulin　(上) p. 190
阿不舌里 aburi　(続下) p. 209, 364
阿不〈舌闌〉 abura-　(上) p. 220
¯ača/-eče　(奪格語尾) の「全体の中の一部」を表わす用法　(上) p. 98, (続中) p. 118, (続下) p. 63, 86, 325, 485-486
～の「～からの」を意味する用法　(続中) p. 89
～の「～による, ～によっての」を意味する用法　(上) p. 13
～の「～を通して」と解せる例　(続上) p. 308
～の「するほど (の)」を意味する用法　(続下) p. 157
～の原因・理由を表わす用法　(下) p. 294, (続中) p. 81, (続下) p. 289
～と -dača/-deče の使い分けの原則　(上) p. 12, (続下) p. 395
阿察　ača　《与えよ, 呉れ》　(中) p. 172
阿赤〈敦〉 ačid　(続下) p. 523
-'ād/-'ēd (副動詞語尾) の「逆説」の意味　(上) p. 103, (続上) p. 202
阿荅里惕中合- adali-d-qa-　(続中) p. 67
阿荅舌児- adar-　(下) p. 304, (続上) p. 127
阿荅舌児中罕 adarɢan　(続上) p. 127
阿都兀 adu'ū, 阿都温 adu'ūn　(上) p. 135
阿都温亦咥額〈捏〉 adu'ūn ide'ēn　(上) p. 186
阿都兀剌兀勒孫 adu'ūla- 'ūlsun　(続上) p. 127
阿都孫 adūsun, 阿都兀孫 adu' ūsun　(上) p. 135
阿黒塔, 阿黒騨 aɢta　(上) p. 39, (下) p. 39, (続上) p. 23, (続中) p. 67, (続下) p. 63, 462
阿黒騨 aɢta を用いた比喩表現　(続中) p. 87
阿黒騨昔顔　把舌里周　中豁那周　aɢtas-iyan bariǰu ɢonoǰu (続上) p. 59
阿黒騨壇　aɢta-tan の -tan の解釈　(中) p. 77

-aị （動詞語尾 -u の複数形） （下） p. 15, （続上） p. 36, 329, （続下） p. 260, 399 [u の「-u/-ü, -i, -aị （動詞語尾）」の項参照]
-埃 -'āị/-'ēị 《～のもの》 （上） p. 158, （続下） p. 262
埃莎亦魯黒 aị, soyiluG （続上） p. 138
阿只舌剌- ajira- （下） p. 275
阿勒中渾 al-qun の al- について （続下） p. 332
阿剌突舌児 失額克帖額徹 ala-dur ši'ēg-te （続中） p. 105
阿剌出〈中合〉 alačuG （中） p. 335
阿剌黒赤剌- alaGčila- （続下） p. 497
阿蘭中豁阿 Alan Go'ā という名の由来 （上） p. 75, （下） p. 264
阿郎吉舌児 alanggir （中） p. 325
阿剌沙 alaša （続下） p. 470
阿剌兀納, 阿剌閔納 ala'ūn-a （下） p. 309, （続中） p. 206
阿勒荅- alda- （中） p. 117, （続下） p. 332
～の補助動詞的用法 （中） p. 147, （続下） p. 366
阿勒荅兀勒- alda'ūl- （下） p. 509
阿勒中合撒- alGasa- （続上） p. 170, （続下） p. 364
阿勒斤赤 alginči （上） p. 179, （続上） p. 328, （続下） p. 472
ali 《どれ》 （続中） p. 66, （続下） p. 212, 337
阿里別舌児 ali-ber （続下） p. 468
阿勒札- alja- （下） p. 50, （続上） p. 69, 87, （続下） p. 458
阿勒只阿思 alji'ās （続下） p. 557
阿勒只牙- aljiya- （下） p. 159, （続上） p. 87
阿勒〈三〉 alsa- （続上） p. 331
阿勒壇 不薛 altan büse （中） p. 328, （続下） p. 86
阿勒壇 阿舌児中含只 altan arGamji （続下） p. 281
阿勒壇 只羅阿 巴禿荅 塔塔周 亦舌列額速 altan jilo'ā batuda tataju ire'ēsü （続下） p. 337
阿魯児中孩 alurqaị （中） p. 152
阿魯思 alus, 阿魯思 薛揚乞- alus sedki- （下） p. 116, （続中） p. 34
阿馬阿舌児 斡魯勒察- ama'ār olulča- （続上） p. 126
阿馬阿舌剌〈鄰〉 ama'ārali- （下） p. 306
阿蛮都兀舌連 客列列- aman dü'ürren kelele- （続中） p. 92
阿蛮客連 阿勒荅- aman kelen alda- （続中） p. 40
阿蛮客連 札卜〈中罕〉 aman kelen jabqa- （続下） p. 458
阿蛮你舌里兀 aman niri'ū, 阿蛮你舌魯兀 aman niru'ū （下） p. 175
奄都舌里- amduri- （下） p. 151
阿米 額舌魯〈孫〉 ami erüs- （続上） p. 83

阿民 札兀舌剌 amin ǰa'ūra （続上）p. 222
阿民 斡羅兀勤- amin oro'ūl- （下）p. 163
阿木撒阿舌里 amsa'āri （続上）p. 341
an 系の三人称代名詞 （続上）p. 86, 212, （続下）p. 336
安都舌児 an-dur
阿你，阿泥 an-i ― （上）p. 18, （続上）p. 86, 212, （続下）p. 268
阿訥 an-u
阿納埃 ana'āi （続上）p. 306
安荅 巴 中豁牙〈舌侖〉 anda ba qoyar という表現法 （続中）p. 86
安都舌里- anduri- （下）p. 151
昂中忽阿 速木 angGu'ā sumu （続上）p. 345
昂吉荅 anggida （中）p. 177, （続中）p. 268
昂吉荅 斡額舌列 anggida ö'ēre の読み方 （続下）p. 56
阿中合 aqa （上）p. 56, （続中）p. 229, （続下）p. 440
阿中合 迭兀 aqa de'ŭ （下）p. 49, 277, （続中）p. 229
-阿舌児 -'ār （出動実詞接辞）（続下）p. 367
阿舌藍 aram （中）p. 370
阿舌剌孫你牙舌児 arasun-iyar と阿舌剌速巴舌児 arasu-bar （中）p. 269
阿舌児巴- arba- （続下）p. 465
阿舌児必剌- arbila- （中）p. 312
阿舌児中合 arGa （続上）p. 172
阿児中合察 arGa-ča （中）p. 25, （続下）p. 336
阿舌児中合〈丹〉 arGada- （下）p. 114, （続中）p. 121
阿舌児中含只 arGamǰi （続下）p. 281
阿舌里赤 ariči （中）p. 328
阿舌里黑兀孫 ariG usun （中）p. 362
阿舌里牙- ariya- （下）p. 114, 353
阿舌里牙勤 兀該 ariyal ügei （下）p. 114, 353
asa- （続上）p. 331
阿撒黑- asaG- と 阿撒中忽- asaGu- （下）p. 55
阿撒黑塔- asaGta- （続下）p. 458
阿撒舌剌- asara- （続下）p. 33, 50
阿失吉- asigi- （下）p. 36
-阿速／-額速 -'āsu/-'ēsŭ （仮定の副動詞語尾）（上）p. 57, 166
～の意味・用法 （中）p. 130, （続中）p. 43, 65
～の「譲歩 (concessive)」の意に用いられた例 （上）p. 236, （下）p. 54
～の《～なので》と解せる例 （中）p. 224, （下）p. 301, （続下）p. 102
～の《～して》と解すべき例 （続下）p. 396

～で率いられる従属文 (続下) p. 102
～と -bāsu/-bēsü (上) p. 57, 166, 236
-'āsu/-'ēsü taki/teki《～するとしても》(続上) p. 268
-'āsu² ülü bol- (下) p. 54, (続下) p. 303, 320
阿兀 a'ū (下) p. 123, (続下) p. 325
阿兀惕〈勤〉 a'ūdqi- (続下) p. 324-325
阿兀牙 a'ūi̯-a (続下) p. 535
阿兀中合 a'ūGa (続中) p. 38
阿兀剌 a'ūla (続上) p. 150
阿兀舌児 a'ūr (下) p. 104
阿兀舌児 那都- a'ūr nüdü- (下) p. 229
阿兀舌魯黒 a'ūruG (下) p. 82, (続下) p. 50-54
阿兀舌剌速 a'ūrasu, 阿兀舌剌孫 a'ūrasun (続下) p. 64, 236, 243, 261
阿牙剌-, 阿牙〈闌〉 ayala- (続下) p. 368-369, 440
阿亦中合黒剌- ayiGaGla- (下) p. 230
阿寅勒 ayi(n)l (中) p. 110
ayil と ger (中) p. 110
阿亦馬黒 ayimaG (下) p. 258
～の複数形 (続中) p. 280, 301, (続下) p. 38
ayis- という動詞の意味用法 (上) p. 48, (続上) p. 51
阿亦賽 ayis-ai̯ (上) p. 49, (下) p. 15, (続上) p. 36, 329, (続下) p. 260, 399
阿亦石 ayis-i (上) p. 49, (中) p. 22, 211, 287, (下) p. 15, 128, (続上) p. 34, 36, (続下) p. 260, 323, 399
阿亦速 ayis-u (上) p. 48, (中) p. 22, 211, 287, (下) p. 15, 128, (続上) p. 34, 36, 121, (続下) p. 260, 323, 399
ayis- と ire- (上) p. 48
阿亦速舌倫 ayisurun (上) p. 93, (続中) p. 204, 242
阿余兀魯 ayu-'ūl-u (下) p. 15, (続上) p. 121

-aa⁴ (形動詞語尾) (上) p. 274, (中) p. 254, (続上) p. 153, (続下) p. 155,
-aaгуй⁴ と -сангуй⁴ (上) p. 59, (続上) p. 92
-aac⁴ болж (続下) p. 487
-aач⁴《動作を行う人, 行う者》(続上) p. 474
авхуул- (続中) p. 15
ажээ (аж) (中) p. 165
～と билээ (中) p. 165, (続下) p. 260
～の直接の遡旧形 (下) p. 76, (続下) p. 260
айл と гэр (中) p. 110
айсуй (上) p. 48, (続上) p. 51, (続下) p. 261

алга と байхгүй （上）p. 60
алга の語構成 （上）p. 62,（続上）p. 59,（続下）p. 332
алд- （続下）p. 366
алзахгүй （下）p. 50,（続上）p. 69
андуур- と эндүүр- （上）p. 112 [анд-, андуур- については（下）p. 151-152]
аргада- と аргала- （下）p. 114
ах の形容詞的用法 （下）p. 251

-'ā- によって拡大された動詞語幹 （続中）p. 33→[（中）p. 70 参照]

アイラグ (aĭpar) （上）p. 157,（中）p. 135,（続上）p. 149
家族の包の配置状況 （中）p. 211, 212

## b

巴 ba（人称代名詞）（上）p. 112,（中）p. 348,（続中）p. 86-87
巴 ba（強調の助辞）（中）p. 312,（続中）p. 237,（続下）p. 190, 236, 322
把 ba（接続詞）（上）p. 159
-ba/-be （動詞終止形語尾）の意義素 （上）p. 78,（下）p. 270, 273
～の「直前の過去」を表わす用法 （上）p. 227-228
～と -ǰu'ū/-ǰü'ü̆ （下）p. 270
「罷」 (-ba/-be, 過去の語尾）の転写法 （上）p. 23
-巴安／-別延 -ba'ān/-beyen から -班／-辺 -ban/-ben への推移 （上）p. 45
巴阿吉里歹 Ba'āridaį という名の由来 （上）p. 187
-bačuˀ （蒙古文語の副動詞語尾）（続中）p. 42
巴荅吉児乞周 badar ki-ǰü （下）p. 369
巴黒荅- baɢta- （続下）p. 366
巴黒荅阿勒荅荅剌 baɢta aldatala （続下）p. 365
-bai/-beį （動詞終止形語尾）（上）p. 78,（下）p. 200, 271
「-罷由」(-baį-ū) の転写法 （下）p. 200
擺亦- baįyi- の意味と,［現代語の］бай- (bayi-) の意味 （中）p. 160,（下）p. 40, 51,（続中）p. 188,（続下）p. 197
擺亦- baįyi- (bayi-) の使役形 （下）p. 259
擺亦荅勒突吉児 兀者- baįyidal-dur üje- （下）p. 281
巴剌中合速 balaɢasu, 巴剌中合速〈納〉 balaɢasun （続下）p, 354, 534
巴剌中合惕 balaɢad （続下）p. 534
-balǰaˀ-, -malǰaˀ- （動詞接辞）（続下）p. 294
巴勒渚納 Balǰuna《バルヂュナ湖》（続上）p. 175

-ban （再帰語尾） （続中） p. 155, （続下） p. 350
邦剌你- banglani- （続中） p. 129
-巴児／-別児 -bar/-ber （造格語尾） の注意すべき用法 （上） p. 264, （中） p. 182, 306, （続下） p. 250
巴舌剌- bara- （中） p. 85, （下） p. 337, （続中） p. 208-209, （続下） p. 346
～の他動詞的意味の例 （中） p. 88
～の補助動詞的用法 （中） p. 57, （続上） p. 304
巴舌剌黒撒惕 baraGsad （中） p. 85
巴舌剌禿壇 bara-tu-tan （続上） p. 256
巴舌剌温 額帖額惕 barn'ūn ete'ēd （続下） p. 190
巴児忽歹蔑児干 BarGudaị-mergen （上） p. 66
把舌里- bari- （上） p. 191, （中） p. 117, （下） p. 115, 232, （続下） p. 37
把舌里阿思 barị'ās （下） p. 232
把舌里勒都- barildu- （下） p. 115
把舌林 barim （上） p. 191
巴舌里牙 古温 阿勒荅罷 bariya kü'ün aldaba の解 （中） p. 117
巴舌魯阿 buru'ā の基本的意味 （続上） p. 190
巴舌魯阿〈納〉 baru'ān （続上） p. 349
把舌魯黒 baruG （上） p. 201, （中） p. 88
把撒阿剌- basa'āla- （中） p. 373, （続下） p. 189
保里牙 baụlia （続下） p. 323, 368
保兀- baụ'ū-の意義素と派生的意味 （下） p. 69, （続上） p. 276
「保兀-」 baụ'ū- という表記 （続下） p. 39
保兀周 亦舌列- baụ'ū-ju ire- （続下） p. 362
保兀勒- baụ'ūl-, 保温勒- baụ'ūl- [bau'ū- の使役形] （上） p. 268, 274, （中） p. 194, （続下） p. 39-40
保兀舌児臣 baụ'ūrčin （中） p. 369, （続中） p. 188
伯顔 bayan （上） p. 35, （中） p. 261
別 be （疑問の助辞） （上） p. 159
別 be （強調の助辞） （上） p. 159, 272, （中） p. 312, （続下） p. 322
-be （過去の語尾 -ba の女性形） [-ba/-be の項参照]
「-別」 （-be 過去の語尾） という表記 （上） p. 23
別勒 bel （起文詞） （下） p. 326, 328, （続下） p. 186
別連 belen （下） p. 171, （続下） p. 449, 531
別勒格 belge （中） p. 135
別勒只額勒 belǰi'ēl と，文語形の belčiger （続下） p. 308
別舌児 ber （強調の助辞）《～は，～も》 （上） p. 59, （中） p. 338, （下） p. 300, （続上） p. 59, 129 （続中） p. 43, （続下） p. 35, 288, 290, 322

ber -'āsu/'ēsü《～であっても》（続上）p. 129,（続中）p. 42
ber bŏ'ēsü（譲歩の意味を示す形）《～であっても》（続上）p. 128,（続中）p. 42
別舌里額思　beri'ēs（続中）p. 293
別舌里列-　beri-le-（続上）p. 249
別舌里捏的顔　beri-ned-iyen の -ned- の成立について（続上）p. 121, 249
別児客　berke（続下）p. 439
　～の副詞的用法（中）p. 33
別舌児客勒都克迭周　berke-ldü-gde-jü の解（続下）p. 439
別舌魯迭　berü-de（続下）p. 466
別帖舌児　beter（続下）p. 495
別耶　中合的牙舌児　beye qad-iyār（続中）p. 267
別耶　薛勒帖　beye selte（続下）p. 205
別耶昔顔　beyes-iyēn の示す副詞的意味（続上）p. 235
別耶延　beye-yēn と別耶邊　beye-ben（中）p. 234
別延格敦　beyengedün の解（下）p. 326
必　bi（人称代名詞）（中）p. 169
-畢　-bi（動詞語尾 -ba/-be の女性形）（下）p. 78,（中）p. 50, 206,（下）p. 258,（続上）p. 250
必荅　bida と巴　ba（中）p. 348
必荅訥埃　bidan-u'ā̤i（続下）p. 262
必剌-　bila-（続上）p. 159
必勒都兀舌児　bildü'ŭr（下）p. 274-275,（続中）p. 244
必列兀〈舌列〉　bile'ŭr（中）p. 17
必里-　bili-（上）p. 122,（続下）p. 462
必勒只兀児　bilǰi'ŭr（中）p. 75,（下）p. 275,（続中）p. 244
敝中合舌児荅兀侖　biqarda-'ūl-un（続上）p. 306
必撒舌里-　bisari-（続下）p. 160
必禿-　bitü-, 必禿溫勒-, 必禿兀〈侖〉　bitü'ŭl-（上）p. 115
孛多　bodo（下）p. 250,（続上）p. 343
孛黒塔剌-　boɢtala-（中）p. 41,（続下）p. 305
孛勒-　bol-（下）p. 54,（中）p. 148, 359,（続中）p. 33,（続下）p. 297
　～の代動詞的用法（上）p. 133
　bolai（文語形）（下）p. 15,（続上）p. 36,（続下）p. 399
　孛勒荅-　bol-da-（中）p. 58, 173, 301,（下）p. 140, 253,（続上）p. 371
　孛勒荅忽由　bolda-quyu（中）p. 301
　孛勒中合-　bolɢa-（中）p. 148
　孛勒周　bol-ǰu（続中）p. 143,（続下）p. 487
　孛勒阿惕　bolu'ād（上）p. 243

孛魯者 bol-u-je の -u について （続上）p. 256,（続下）p. 323, 398
孛倫 bolun （中）p. 359,（下）p. 28, 316,（続中）p. 16, 144
孛魯宜 boluyi の解釈 （下）p. 15, 86,（続中）p. 33-34
孛勒荅黒，孛勒荅〈中合〉 boldaG （下）p. 260,（続上）p. 36,（続下）p. 563
孛勒中合 bolGa （中）p. 96
孛勒中合阿- bolGa'ā- （下）p. 350,（続上）p. 371
孛勒中合- bolGā-，孛勒中罕 bolGā-n の表記 （続上）p. 371,（続下）p. 206-208
孛勒札勒都- bolǰa-ldu- （続上）p. 185
孛斡勒 bo'ōl （続上）p. 162
孛舌児 荅舌剌速〈納〉 bor darasun （続下）p. 556
孛舌児臣莎那 borčín sono （続中）p. 56
孛舌騾，孛舌羅，騍舌騾 boro （上）p. 38,（中）p. 189,（続下）p. 395
孛舌羅 失鶻温 boro siba'ūn （続下）p. 368
孛舌羅罕図児 borohan-dur （続下）p. 118
孛舌児孩 borqaị （続上）p. 161
孛舌羅兀勒 Boro'ūl（人名）（下）p. 98
孛莎- boso- と bos- （続中）p. 60-61
孛莎中合 bosoGa （下）p. 98,（続中）p. 60,（続下）p. 192
孛莎中合因 孛斡勒 bosoGa-yin bo'ōl （続上）p. 162
孛速 bosu （続中）p. 173
孛- bö-《ある，いる》（上）p. 103,（下）p. 17,（続上）p. 12
孛額揭 bö'ēd （下）p. 17,（中）p. 210,（続中）p. 53
～の，《まさに》《こそ》《すら》などと訳せる例 （中）p. 336,（続上）p. 294,（続中）p. 37,（続下）p. 236
～の，文末で《いざ》と訳せる例 （中）p. 271
～の söni bö'ēd という例 （中）p. 338,（続上）p. 12
～の逆説的意味を表わす例 （上）p. 103,（中）p. 336,（続上）p. 267,（続下）p. 336
～の本質的機能の総括的検討 （続上）p. 12-16
孛額速 bö'ēsü （下）p. 17
孛額帖 bö'ēt-ē，bö'ēt-e （中）p. 210,（続上）p. 14
孛額帖列 bö'ētele （上）p. 106,（下）p. 17,（続下）p. 336
孛額〈舌〉列 bö'ēre （中）p. 197
孛克禿舌魯- bögtür(ü)- （中）p. 189
孛戈禿児 bögötür （中）p. 189
孛刊 böken （中）p. 210
孛客列- böke-le- （続中）p. 266
孛闊 bökö （続下）p. 192
孛勒迭亦揭- böldeyid- （下）p. 259,（続上）p. 36

孛連 bōlen (下) p. 170
孛児帖 bōrte (上) p. 16
不 bu (禁止の助詞) (上) p. 222
不敦 budun (続中) p. 59 〔(中) p. 234 参照〕
不倒兀 budaų'ū (上) p. 136
不吉 buGi (続下) p. 548
不黒撒- buGsa- (続上) p. 329
不吉牙 秣舌驢 bugiya mori (中) p. 235
備 buį (上) p. 108-109, (中) p. 9
備者 buį-je (上) p. 108
不舌剌阿 bula'ā (<bulaG+ā) (下) p. 122
不勒中合 bulGa, 奔勒中合 bu(n)lGa (中) p. 96, (下) p. 210, (続上) p. 175, (続中) p. 94, (続下) p. 124, 242,
不勒中合-, 孛勒〈中罕〉 bulGa-, 奔勒中合- bu(n)lGa- (中) p. 96, (下) p. 210, (続上) p. 175, (続下) p. 124, 421
不里- buli- (中) p. 70, (続中) p. 33, (続下) p. 218
奔勒只- bu(n)lǰi- (中) p. 224, 235
不勒闥舌里- bultari- (続中) p. 271
不中合兀 buqa'ū (中) p. 113
不中忽- buqu- (中) p. 164, (続中) p. 130
不舌剌 塔舌剌 bura tara (続中) p. 187
不舌剌兀 bura'ū (上) p. 137, (下) p. 303
不舌児備 額舌児古兀勒- burbuį ergü'ŭl- (続下) p. 306-308
不児中合里黒 察孫 burGalig časun (上) p. 164
不峒〈中罕〉 孛思中合黒三 Burqan bosqaGsan の解釈 (上) p. 72
不峒〈中罕〉中合勒敦 Burqan-qaldun (上) p. 26
不舌魯惕- burud-, 不舌魯兀惕- buru'ūd- (上) p. 227, (続上) p. 17～20
不舌雷〈闌〉 burūį̈la-, 不舌魯為〈闌〉 buru'ūį̈la-, 不舌魯兀亦〈闌〉 buru'ūyila- (続上) p. 17
buru'ūd- と burūį̈la- 系の語 (続上) p. 17～20
不舌魯兀牙 buru'ūį-a (下) p. 337, (続上) p. 18, (続中) p. 94
不散中合- busanGa-, 不桑中合- busangGa- (中) p. 313, (続中) p. 94
buši と busu の使い分けと語構成 (中) p. 4～9
不失, 不石, 不實 buši (上) p. 222, (中) p. 4～9
不速 busu (上) p. 222, (中) p. 4～9, (続中) p. 173
「不速禿」(busutū, busud-ū) の読みかた (中) p. 255
不塔舌剌- butara- (続中) p. 187, (続下) p. 135
不兀勒札舌児 亦咥舌列 bu'ūlǰar idere (下) p. 336

不亦 阿舌里勒中合- buyi arilga- (続下) p. 306-308
備由 buyu (中) p. 9
～の転写法 (上) p. 52, 108
～の意味 (上) p. 164
不由者, 備由者 buyu-je (上) p. 108, 164
不 bü (否定辞) (続上) p. 127, 170, (続下) p. 26
不- bü-《ある, いる》 (上) p. 106, (中) p. 9, (下) p. 245, (続上) p. 57, 170
bü-の意味 (意義素) 用法 (上) p. 107, 173, 194, (中) p. 292, (下) p. 252, 327, (続中) p. 225
bü- と a- の意味のちがい (上) p. 174, (続上) p. 58-59, (続中) p. 130, 225
bü- と bu- の二つの stem を立て得るか否かについて (上) p. 108, (下) p. 17
不額勒 bü'ed (上) p. 103, (下) p. 351, (続上) p. 14
卜克先 bü-gsen (下) p. 252
不周 bü-jü (続上) p. 257, (続中) p. 53
büjü'ü (上) p. 107
不主為 büjü'üi (上) p. 195-196, (中) p. 292
不恢 büküi (中) p. 322, (続上) p. 163
「不中灰」の転写法 (büküi か buqui か) (中) p. 322, (下) p. 7, 17
不坤, 不古〈泥〉 bükün (上) p. 173
～から現代語 бухэн への意味変化 (下) p. 245 [(続上) p. 57 参照]
不列額 büle'ē (上) p. 39, 43, 107, 125, 195, (続上) p. 153
～と aju'ū (上) p. 257, (下) p. 77, (続下) p. 259-260
～の《～である, ～であった》を表わす用法 (上) p. 39, 125, (下) p. 62, 76, 260
不列埃 büle'ēi (上) p. 195, (続上) p. 70, 256
不里亦 büliyi (女性形) の用法 (上) p. 235
不舌倫 bürün (上) p. 94, 246, (中) p. 164, 276, (下) p. 62, 76, 178, 289, (続中) p. 17, 295
～の用法の全22例による検討 (続中) p. 49～54
不禿該 bütügei の意味変化 (中) p. 72, (下) p. 50, (続上) p. 257, (続中) p. 226
bütügei -bitügei (続下) p. 26
不敦 büdün (中) p. 234
不克迭兀〈里〉 bügde'ül (続中) p. 248
不克勒- bügüd- (中) p. 195, (続上) p. 57, (続中) p. 291, (続下) p. 349
bügüde (中) p. 195, (続上) p. 57, (続下) p. 349
不克楊格- bügüdge- (続上) p. 57
不克楊客- bügüdke- (中) p. 195, (続上) p. 57, (続中) p. 290, (続下) p. 350
bükü (бух) (続上) p. 57, (続下) p. 349
不列- büle- (中) p. 136, (続下) p. 300

不勒惕 büled （続下）p. 299
不列額〈捏〉 büle'ēn （続下）p. 299
不舌列勒- bürel-, 不舌連勒- büre(n)l- （中）p. 247, （続下）p. 231
不舌児古- bürgü- （続中）p. 130
不舌里 büri の用法 （続下）p. 163
不舌里額台 塔舌剌黒 büri'ētei tarag （下）p. 155
不舌児乞〈舌連〉 bürkire- （中）p. 269
不薛勒〈昆〉 büselgü- （続上）p. 355
不石舌列-, 不失〈舌連〉, 不識〈舌怜〉 büšire- （上）p. 10, 137, （中）p. 310, （下）p. 204, 303
不帖- büte- （続上）p. 294, （続中）p. 157, （続下）p. 219, 420
不帖- bütē- （下）p. 92, （続中）p. 157
不帖額- büte'ē- （下）p. 92, （続上）p. 295, （続中）p. 157, （続下）p. 420
不禿額- bütü'ē- （続中）p. 157

ба （上）p. 159
бай- （中）p. 160, （下）p. 40, 51
байз, байзна （下）p. 51
байна と бий （上）p. 62
бий （続下）p. 260
бизээ （上）p. 109
билээ （上）p. 125-126, （下）p. 62, 76, （続下）p. 259-260
битгий （下）p. 50
битүү （下）p. 419
биш （中）p. 9, （続下）p. 260
бод мал と бог мал （下）p. 250, （続上）p. 343
бол- （下）p. 54, （続中）p. 33
болж （続下）p. 487
болбол （中）p. 160
бололтой （下）p. 203
болон （続上）p. 13
болоод （上）p. 243, （続上）p. 13
боль- （上）p. 237
бөгөөд （中）p. 336, （続上）p. 12～14
буруу, буруул-, бурууд-, бууут- （下）p. 337, （続上）p. 17～20
бус （中）p. 9
буу- （下）p. 69
бүлгээ （上）p. 125

бүр （下）p. 163
бүх, бүхэн （下）p. 245,（続下）p. 351
бэлэн （続下）p. 531
бэрх （中）p. 33
-вч （続中）p. 42
вэ(бэ) （上）p. 159

b～g の交替（文語形の語中における交替）（続上）p. 79
-b- と -l- とが入れ替った形 （続上）p. 22
b～m の交替現象 （中）p. 112,（下）p. 48
ブリヤート方言と秘史の言語 （上）p. 244,（中）p. 47,（下）p. 274, 329
文法的女性扱い （続上）p. 34,（続下）p. 7
文末の述語動詞の他動性・使役性のカヴァーする範囲 （続上）p. 35
母音で終わる動詞語幹：その母音が除去されて -ga-(-qa-), -gü-(-kü-) が附された動詞語幹（ほぼ意を同じくするペアーの動詞）（続下）p. 203
母音の円唇化，a>o, e>ö の変化 （下）p. 212,（続中）p. 177,（続下）p. 331, 394
母音の交替による造語法 （上）p. 23, 111, 129, 226,（中）p. 30, 270,（下）p. 150
〔以下，「母音」に関する事項〕
本来的な長母音の表記 （中）p. 200～201
モンゴル祖語における長母音の発見 （上）p. 53
秘史モンゴル語の母音間の「中合，中豁，中忽，格」の現代モンゴル諸語での実現 （続上）p. 150
秘史の「V' V」の現代語での現われ （下）p. 123～124
秘史の言語での，「長母音化」「長母音の出現」の可能性 （上）p. 81,（続上）p. 131,（続中）p. 58
v+g(g)+v に由来する長母音 （中）p. 200～201
現代語で長母音をもっている語 （上）p. 81,（中）p. 200,（続上）p. 150,（続中）p. 58
文語の「V+y+V」（続上）p. 332

## c

察阿荅 ča'āda （続中）p. 284
察阿勒孫 ča'ālsun （続中）p. 117,（続下）p. 16
察阿(舌)侖 Ča'ālung （人名）（下）p. 264
察卜赤- čabči- （下）p. 122,（続下）p. 321
察中合阿〈納〉 čaga'ān と中合舌剌 qara （下）p. 327
察中罕 鑱篾額禿 čagān teme'ētü （続上）p. 175

察黒都兀勒孫 čaɢdu'ūlsun (続中) p. 58, 205, (続下) p. 523
察黒剌- čaɢla- (続中) p. 118, (続下) p. 43～45, 547
察黒圖 那可舌児 čaɢtu nökör (続上) p. 41, (続下) p. 45
察中合 čaqa (上) p. 278, (下) p. 328
察兀惕 中忽舌里 Ča'ūd-quri (続上) p. 155
察兀舌児 ča'ūr (続中) p. 102
察兀舌剌- ča'ūra- (続中) p. 102, (続下) p. 76
潮舌魯 čaų'ru (下) p. 176
潮兀舌剌- čaų'ūra- (中) p. 28-30, (続中) p. 167
扯額只 額児点禿 če'ēji erdemtü (続下) p. 164
扯額勒 če'ēl (中) p. 28-29
扯克徹児 Čegčer (地名) (上) p. 250
超堅 čegen, čeügen (上) p. 119, (中) p. 29
扯客舌列 čekere (中) p. 196
扯児別格勒者温勒- čerbegelǰe'ū(n)l- (中) p. 217
扯舌児必〈泥〉 čerbi(n), 扯舌児寅 čerbin (続上) p. 276, (続下) p. 49, 64
扯舌里克 čerig, 扯舌里兀惕 čeri'ŭd (続中) p. 301, (続下) p. 38, 403
扯舌里克 中合舌児- čerig gar- (続下) p. 48
扯舌里昆 脱斡禿 古温 čerig-ün to'ōtu kü'ŭn (続下) p. 116
扯舌里兀敦 阿中合納児 čeri'ŭd-ün aqanar (中) p. 219
超兀〈侖〉 čeü'ŭl- (続中) p. 167
潮兀舌列- čeü'ŭre- (続中) p. 167
-či 《～好きの》 (下) p. 103, (続上) p. 349, (続中) p. 88, (続下) p. 322
-či (職業に従事する人を表わす接辞) (続中) p. 250
赤赤吉納 čičigina (中) p. 48
赤出阿 čiču'ā (中) p. 71
赤丹額列 委亦列都惕坤 čida-n ele üǰiyiledüdkün (下) p. 332
赤戈児孫 čigörsün (中) p. 46
-čila²- (出実動詞形成接辞) (続中) p. 201, 308
赤勒不舌児 čilbūr (中) p. 292
赤魯箑古 中古卜赤兀児 čilümekü ɢubči'ūr (中) p. 64
赤馬 čima (中) p. 282, (続上) p. 310, (続下) p. 367
赤馬里阿舌児 čimali'ār (続下) p. 367
赤馬舌児, 吃馬舌児 čimar (中) p. 281, (続上) p. 121
赤馬里中孩 兀格 čimaliqaį üge (続下) p. 367
赤馬舌児剌- čimarla- (中) p. 281, (続上) p. 121, (続下) p. 367
*čina-系の語と*ina-系の語 (続上) p. 37～40
赤納納 činana (続上) p. 38 (続下) p. 268

赤納舌魯 činaru （続上）p. 37
成吉思 Činggis という名の由来 （上）p. 8
成吉思中合罕 額赤格 Činggis-qahan ečige （続下）p. 326
成吉思中合罕訥 阿兀舌魯黒 Činggis qahan-nu a'ūruG （下）p. 82
成吉思中合罕訥 忽札兀児 Činggis qahan-nu huǰa'ūr （上）p. 4, （続上）p. 97
činu （人称代名詞属格）（続下）p. 20
撘中豁里兀勒- čoGuli'ūl- （中）p. 318
撘剌亦〈壇〉 čolayita- （続下）p. 330
撘斡舌児中合 čo'ōrGa （中）p. 371
綽舌児中罕 čorGan （中）p. 318
輟額不忽 čö'e buGu （上）p. 84
啜額孛舌里 čö'ēböri （中）p. 87
輟延討兀 čö'ēn-ta-'ū （上）p. 270
川勒，啜勒 čöl （続上）p. 238, （続下）p. 292
啜列思 čöles （下）p. 45, （続下）p. 328
啜勒客 阿兀剌 čölke a'ūla （続下）p. 219
綽羅 čölö/čolo （続下）p. 331
啜延，輟延 čöyēn （下）p. 35
啜延 別耶昔顔 čöyēn beyes-iyēn （中）p. 287
出察勒- čučal- （中）p. 138
出出- čuču- （続下）p. 462
-čūd² と -čūl² （続下）p. 439
出勒兀勒札兀舌剌 čul uǰa'ūr-a （続下）p. 290～294
充 čung （続上）p. 148
出舌剌中合 čuraGa （中）p. 87
出卜禿思抽 cūb tuscu の解 （続中）p. 17

-ч （続上）p. 130, 349, （続中）p. 88
чанартай （続下）p. 374, 486
чи бид хоёр （続中）p. 86
цаас （続下）p. 16
цагаан と цэгээн （上）p. 112
цойл- （続下）p. 204
цөл と говь （続上）p. 238
цэцэн үг や зүйр үг，俚諺を盛り込んだ表現 （上）p. 89, 169, （中）p. 260, （下）p. 260, （続下）p. 114

č～s の交替（語頭）（続下）p. 330

-č- と -t- の交替 (下) p. 310
cooha (満洲文語) (続中) p. 102, (続下) p. 76

チンギス汗碑文 (下) p. 103
チンギス・ハーンの生れた地 (上) p. 246

## d

-惕 -d (動詞終止形語尾) (上) p. 127, 261, (下) p. 236, (続上) p. 250, (続中) p. 114, 168, 299
　～の特徴と意義素 (上) p. 127, (続中) p. 299
-惕 -d (副動詞語尾 -n の複数形) (続上) p. 29, 250, (続下) p. 300, 533
-d (実詞の複数語尾) (中) p. 94
-d- (実詞から自動詞を形成する接辞) (続中) p. 30
-d- (形容詞から動詞を形成する接辞) (下) p. 301
-da (副詞形成接辞) (続上) p. 148
-da-$^{2}$ (動詞受身形形成接辞) (続中) p. 16, (続下) p. 208
　～の尊敬表現に使われた例 (下) p. 338
　～の自発の意味 (中) p. 58
-da-$^{2}$ (自動詞語幹に附され自動詞をつくる接辞) (続上) p. 160, 350
-da-$^{2}$ (形容詞に附され『過剰性』を示す動詞をつくる接辞) (続下) p. 461
-da 系 (-a/-e 系) 語尾と -dur 系語尾 (与位格) (上) p. 150, 193, 216. 258, (中) p. 51, 127, (下) p. 219, (続中) p. 229, (続下) p. 140～142
-da 系 (-a/-e 系) 語尾と -dur 系語尾の意義素 (続下) p. 141
「-da$^{2}$+ -(G)da$^{2}$-」 (続上) p. 68, (続中) p. 16, 78, 80
荅阿-, 荅〈安〉 da'ā- (上) p. 150, (続上) p. 69, (続下) p. 253, 381
荅阿舌里- da'āri- (中) p. 264, (続下) p. 399
荅阿舌零中忽 da'āring-qu の「舌零」の字 (続下) p. 399
荅卜赤禿 中豁児 dabčitu qor (中) p. 258
荅卜失- dabsi- (中) p. 256
dad- と das- (続上) p. 62
荅子 dadz (下) p. 75～76
-daG/-deg (形動詞語尾) (上) p. 128
荅黒台 dagtai (続上) p. 141
-歹 -dai (部族・氏族の男性を表わす接辞) (上) p. 37, 95, 186, 187, (下) p. 277, (続中) p. 301
歹亦只- daiyiji- (続上) p. 236
歹亦速 daiyisu, 歹亦孫 daiyisun (下) p. 261
荅来因 中合罕 dalai-yin qahan (続下) p. 545

荅闌 dalan （下）p. 20
荅勒巴舌魯 察卜赤- dalbaru čabči- （続下）p. 321
荅勒周 dal-ǰu （続下）p. 160
當剌速〈訥〉 danglasun （続下）p. 194
荅舌剌速〈納〉 darasun （続下）p. 556
荅舌児巴安 darba'ān （続中）p. 212
荅舌児巴勒札- darbalǰa- （続中）p. 213
荅舌児荅思 dardas （続下）p. 479
荅児吉 dargi （中）p. 161
荅舌児中合剌-，荅舌児中合〈闌〉 darqala- （中）p. 352，（続上）p. 222，（続中）p. 236
荅児中罕 darqan （上）p. 210，（中）p. 352，（続上）p. 222，（続中）p. 236
荅舌魯阿 daru'ā （上）p. 196
荅舌魯- daru- （続下）p. 73, 377, 473
荅舌侖 daru-n （上）p. 196，（続下）p. 72～73
荅舌魯察 daruča （続下）p. 222
荅舌魯察- daruča- （続上）p. 358，（続下）p. 221
荅舌魯中合臣 darugačin と荅舌魯中合思 darugas （続下）p. 377, 473
荅舌魯中合剌- darugala- （続下）p. 36
荅舌魯勒察- darulča- （続上）p. 358
倒里- daụli- （中）p. 245
荅温 da'ūn （続下）p. 161-162
荅兀思- da'ūs- （中）p. 144
荅兀昔 da'ūsi （続下）p. 479-481
倒兀 把里-，擣兀 把里- daụ'ū bari- （続上）p. 120，（続中）p. 27-28
倒兀里- daụ'ūli- （上）p. 182，（続下）p. 118
～と，塔剌- tala-の意味のちがい （続上）p. 226
擣兀舌里思- daụ'ūris- （上）p. 236
倒兀〈孫〉 daụ'ūs- （中）p. 80
荅因 dayin 《敵達》（続上）p. 236
～に対して動詞の女性形語尾が用いられる理由 （中）p. 23, 287，（下）p. 128，（続上）p. 34［（続中）p. 34にも関連事項］
荅罽児，荅亦舌児 dayir （上）p. 38，（続下）p. 194
迭卜帖舌児列- debterle- （続中）p. 117
迭額舌列 de'ēre （下）p. 251-252
de'ēre tenggeri-eče ǰaya'ātu töregsen （上）p. 11～16，（続中）p. 89
迭格列〈泥〉 degelen （続下）p. 251
迭格勒禿 朶舌劣克先可温 degeltü töregsen kö'ün と你出禰 朶舌劣克先 可温 ničü gün töregsen kö'ün （続上）p. 168

迭格温 dege'ün （続中）p. 310, （続下）p. 262
迭列惕 deled- （続中）p. 42
迭列篾 deleme （上）p. 126
迭勒〈堅〉 delge- （続上）p. 292
迭里温 孛勒荅〈中合〉 Deli'ün-boldaG （上）p. 246, （続上）p. 36
點, 迭〈篾〉 dem （続上）p. 31, （続中）p. 212
登薛勒- dengsel- （続上）p. 87
迭児別〈魯〉 derbel- （中）p. 203
迭舌列 阿奔 兀窟- dere abun ükü- （下）p. 195
迭舌列列- derele- （続中）p. 134
迭舌列勒古- derelgü- （続上）p. 30
迭舌児格〈躔〉 dergeče- （下）p. 169
迭舌児格迭温 dergede'ün （下）p. 155. （続上）p. 16
迭兀担児 可兀〈的〉 de'ü-ner kö'üd （中）p. 219
迭兀児格 de'ürge （中）p. 182
丁 撒兀- ding sa'ü- （続上）p. 122
多ト禿来者 dobtulaį-je の -aį について （下）p. 15, （続上）p. 36
朶羅安 dolo'ān （上）p. 232
朶羅安 孛勒荅兀惕 Dolo'ān-bolda'üd （下）p. 87, （続下）p. 563
朶抹黒赤 domoG-či （続中）p. 88
domoG の語構成 （続中）p. 89
多舌児中忽惕 dorGud （続下）p. 438, 450
朶舌羅 doro （続下）p. 493
朶舌羅納只 doronaǰi （続上）p. 91
朶舌羅温 doro'ün （続下）p. 262
朶脱阿只 doto'āǰi （下）p. 155
朶脱中合 dotoGa （上）p. 120, （下）p. 94
朶脱納 dotona （続中）p. 271
朶脱舌剌 dotora （中）p. 68, （下）p. 152, 157, （続下）p. 421
朶脱舌剌温 dotora'ün （下）p. 155, （続上）p. 16, 192, （続下）p. 262
dotu- 《中》（文語形） （下）p. 347
多牙- doya- （中）p. 373
朶魯思格- dölüs-ge- （続上）p. 122, （続下）p. 494
朶魯思古- dölüsgü- （続下）p. 494
朶舌列ト赤 dörebči （下）p. 75
朶舌児篾該 dörmegeį （続下）p. 493
朶舌羅 dörö （続下）p. 32～34
朶帖連 dötele-n （中）p. 260

朶宜 döyi （下）p. 308,（続上）p. 211
朶亦篾惕 döyimed （続上）p. 211
-惕中渾／-惕坤 -dqun/-dkün （中）p. 27, 81,（続上）p. 265
-dqun² と -Gtun² （中）p. 81,（続下）p. 18
-du²（出実実詞形成接辞）（続上）p. 148,（続中）p. 79
-du/-dü～-duį/düį（形容詞形成接辞）（続上）p. 124,（続中）p. 281
敦荅都 dundadu の読み方 （続下）p. 153
-dur 系語尾と -tur 系語尾 （上）p. 69
-dur/-dür 系語尾（与位格）（続下）p. 94
～の意義素 （上）p. 77,（続下）p. 117, 141
都舌剌 dura （下）p. 312,（続下）p. 421
都舌闌 duran （下）p. 330,（続上）p. 69
dura(n) の意義素 （続上）p. 69
都兀勒中罕 du'ūl-Ga-n （続下）p. 367
都牙勒- duyal- （続上）p. 332
都列惕 düled （続上）p. 37,（続下）p. 459
都里 düli （続上）p. 20, 200
都里- düli- （続上）p. 200,（続下）p. 225
都里里格- dülilige- （続上）p. 200,（続下）p. 224
都舌児別- dürbe- （下）p. 138
都兀申 dü'ūšin （中）p. 173

даа- （上）p. 150,（続下）p. 382
дараа （上）p. 196
дарга （続下）p. 474
дөт （中）p. 260
дэрлэ- （続中）p. 134
дээгүүр （続中）p. 312
дээж （続上）p. 92

-d- と -r- の交替（音節末）（続上）p. 309
-d- と -s- の交替（音節末）（下）p. 95
ダウール・モンゴル語の三人称代名詞 （上）p. 18,（続上）p. 212,（続下）p. 268
奪格語尾の母音の長さ （下）p. 41
動詞終止形語尾の体系 （上）p. 78
動詞語尾の女性形の用法 （上）p. 78, 235,（中）p. 22, 50, 86, 206, 287,（続上）p. 34,（続下）p. 302, 505

## e

-e の解（与位格語尾か呼びかけの -e か） （続下） p. 404
厄別臣 ebečin （続下） p. 397
額別惕 ebed- （続上） p. 309, （続下） p. 395
額別舌列- ebere- （続上） p. 309
額寅 ebin （続上） p. 48
額不都克帖 ebüdüg-te （上） p. 242
額不干，額不堅 ebügen （上） p. 45
額不格思 額赤格〈昔〉 ebüges ečiges （続下） p. 413
額不舌児 ebür （下） p. 228
額不舌児途舌児 闊勒突舌児 斡舌羅- ebür-tür, köl dür oro- （続中） p. 159
額不舌里惕 ebürid- （下） p. 228
額赤惕格- ečidge- （続下） p. 131
額赤格 ečige （上） p. 56, （続中） p. 229, （続下） p. 326
額赤捏 ečine （続上） p. 83, （続下） p. 131, 262
額赤捏溫 ečine'ün （続下） p. 262
額迭 ede （上） p. 107
額惕客- edke- （下） p. 95
額朶額 edö'ē （中） p. 246, （続下） p. 232
額朶額惕圖舌児 edö'ēd-tür （続下） p. 232
額都 edü （中） p. 351, （下） p. 24
edüge （文語） （中） p. 246, （続下） p. 232
額堆 edüi （上） p. 60, （中） p. 351, （下） p. 24, （続上） p. 85, （続下） p. 285
額敦 edün （下） p. 24, （続上） p. 85, （続下） p. 285
edür（文語形）という形について （上） p. 45, （続上） p. 93
額額迭 e'ēde （中） p. 262
額額迭- e'ēde- （続下） p. 297
額額捏克徹 e'ēnegče （下） p. 310
額額舌列-，額額〈舌連〉 e'ēre- （下） p. 244, （続下） p. 8
額克迭- egde- （続中） p. 55
額格赤 egeči の形容詞的用法 （下） p. 251
額格赤篾惕 egečimed （続上） p. 211
額甘 egem （続上） p. 150, （続下） p. 308
eǰen （続下） p. 459
額氈 兀該 eǰen ügei （下） p. 196
額只額 eǰi'ē （下） p. 324, （続中） p. 141

額客 斡難 eke Onan (中) p. 58
額客宜 乞靈剌黒荅周 eke-yi qilinglaɑdaǰu (続下) p. 165
額客因 失惕坤勒 eke-yin sidkü(n)l (中) p. 193
額客額舌児-, 額客額〈舌魯〉 eke'ēr- (下) p. 237, (続上) p. 52
額客舌侖 eke-rün→eker-ü-n (下) p. 139, (続上) p. 52
額客温勒- eke'ŭ(n)l- (中) p. 62
額乞 eki と, teri'ŭn (上) p. 202
額勒別速 elbesü, 額勒別孫 elbesün (続上) p. 84, 251
額勒臣, 額勒赤〈泥〉 elčin (続下) p. 397, 536
額勒赤田 elčiten (続下) p. 180～183
額列 ele (続上) p. 330, (続下) p. 322, 336
額列額都 ele edü の読み方 (中) p. 351, (下) p. 25, (続上) p. 330
額勒古兀児 鈎吉 elgü'ŭr geüǧi (中) p. 59
額隣出〈昆〉 elinčüg (続上) p. 161
額劣兀惕 elö'ŭd (続下) p. 480
額勒薛-, 額勒〈先〉 else- (続上) p. 100, (続下) p. 92, 233
奄不舌魯 embürü (中) p. 263
奄出 emčü, 奄出 中忽必 emčü qubi (続中) p. 177, 268
額篾可兀 eme kö'ŭ (中) p. 245
額篾古温 那中孩 你兀舌児台 eme kü'ŭn noqaị ni'ūrtaị (続上) p. 239
額篾格禿 emege-tü (nemege-tü) の解 (続中) p. 83
奄古- emkü- (続上) p. 344
額木捏 emüne《～のために》 (下) p. 299, (続下) p. 92
額木思格勒 emüsgel (上) p. 192, (中) p. 195
額捏 ene, 額迭 ede (近称の指示代名詞兼形容詞) の訳出法 (上) p. 107
額捏雪你 ene söni (上) p. 256
「昂」の転写法 (eng) (中) p. 363
昂格思格 中合察舌児 enggesge qačar (続上) p. 77
昂格失格- enggešige- (続下) p. 496
昂客 engke (中) p. 363
額舌児別格勒折- erbegelǰe- (続下) p. 113
額舌列- ere- (続下) p. 294
額舌列賓 erebin→ 額舌列寅 ere-yin (続下) p. 401～403
額舌列坤 斡抹中渾 erekün omoqun (中) p. 58, (続下) p. 402
額舌廉迭克 贍迭克 只中合速 eremdeg ǰemdeg ǰiɑasu (中) p. 61
額舌列木克 eremüg (中) p. 147
額舌列兀舌列- ere'ŭre- (続下) p. 346
額舌列延の解 (ereye-n, ere-yen) (続上) p. 183

額舌児古- ergü- (下) p. 159
額舌里格列- erige-le- (中) p. 237
額舌里兀勒孫 eri'ŭlsün (続中) p. 58, 205
額児帖 erte (中) p. 210, 298
額舌魯格 erüge (上) p. 119, (中) p. 263, (続下) p. 6, 9, 203
erüge de'ēre-če daụ'ūli- という表現 (続下) p. 120
額舌魯思-, 額舌魯〈孫〉 erüs- (中) p. 223, 306
～の意義素 (下) p. 160, (続上) p. 83
額舌魯思帖- erüste- (中) p. 173, (続下) p. 290
額薛 ese (と兀魯 ülü) (上) p. 55, 380, (続上) p. 329, (続下) p. 264
額薛舌児古 esergü (中) p. 352, (続下) p. 192～194, 261, 345, 538
額薛児古 中合〈舌隣〉 esergü qari- (中) p. 173
額薛兀 ese'ŭ の用法 (続上) p. 329
額思格勒 esgel (中) p. 328
額失格 ešige の語頭母音 (続上) p. 340
額速克, 額速〈吉〉 esüg (上) p. 157, (中) p. 135
額速克赤列- esügčile- (上) p. 157
額速勒扯- es-ü-lče- (続中) p. 177
額禿堅, 額禿格〈担〉 etügen～斡脱堅 ötögen (中) p. 311, (続下) p. 295
額閃闡 e'ŭden (中) p. 76, 201, 307, (続中) p. 60, (続下) p. 190, 191, 195
額兀闡 孛莎中合 札兀舌剌 e'ŭden bosoɢa ǰa'ūra (続下) p. 192
額閃闡 塔舌魯周 擺亦- e'ŭden daruǰu baiyi- (続中) p. 310
額兀顛 只羅阿 捏格克迭罷者 e'ŭden ǰilo'ā negegdebe-ǰe (続中) p. 154
e'ŭden-dür oro- と ŭden-ber oro- (中) p. 308
額兀迭訥 奄出 孛斡勒 e'ŭden-ü emčü bo'ōl (続上) p. 162
額兀連 e'ŭlen の母音の長さ (中) p. 200
額兀舌列 e'ŭre (続中) p. 90
額兀舌列 e'ŭre- (続上) p. 271
額兀思- e'ŭs- (下) p. 64
額兀思格- e'ŭsge- (上) p. 222, (中) p. 185
額耶 eye (下) p. 231, 243, 316, 337, (続上) p. 52, (続下) p. 233
額耶禿- eyetü-, 額耶屯- eyetü(n)- (上) p. 177, (下) p. 243, (続下) p. 233
eyetü-ldü- (上) p. 177, (下) p. 243, (続中) p. 17
額因 eyin (続上) p. 307, (続下) p. 236
額因 客額- eyin ke'ē- (続下) p. 49

ɜe と ɜв (下) p. 231
ɜɜrɣй (下) p. 196

элэг～элгэн （続上）p. 347
элэнцэ, элэнцэг （続上）p. 161
энэ шөнө と өнгөрсөн шөнө （上）p. 256

e-:te- の対立 （中）p. 76, （続上）p. 40, （続下）p. 236
（語頭） e-:ü-（文語：秘史）（続上）p. 93

## G

-G/-g （出動実詞形成接辞）（下）p. 85, 324, （続上）p. 130, （続中）p. 137
-Ga- （動作の継起性，継続性を意味する接辞）（下）p. 133
-Gā- （文語）（自動詞を他動詞化する接辞）（続下）p. 218
中合察兀舌剌 Gača'ūra （中）p. 319
-Gači/-geči （文語）（動作を行う人を意味する接辞）（続下）p. 473
中合荅 Gada の転写 （下）p. 347
中合温 Gada'ūn （中）p. 376, （続上）p. 192, 237, （続下）p. 344
中合黒察 只魯阿 都舌里顔 斡舌羅兀〈魯〉 Gacča jilu'ā-dur-iyān oro'ūl- （続中）p. 262
中合札舌児 Gaǰar （続下）p. 547
中合札舌児 兀速訥 額者惕中罕惕 Gaǰar usun-u eǰed qad （続下）p. 459
-Galǰa-2 （中）p. 217, （続中）p. 309
中合勒只舌児中忽 Galǰirgu （続中）p. 80
中合勒只舌児中忽由 Galǰirquḭ-ū （続上）p. 123
-Gana （植物を意味する語を作る接辞）（続上）p. 128
-Gana-2 と -lǰa2-, -Galǰa2- （中）p. 217-218, （続上）p. 332-334, （続下）p. 113
Ganǰuga （続下）p. 184, 303
中罕主中合剌- Ganǰuga-la- （続下）p. 303
中合舌児 Gar （下）p. 319, （続上）p. 154
中合舌児闊脱勒田 Gar kötölten （続下）p. 224
中合舌児- Gar-の意味 （上）p. 83, （中）p. 103, （続上）p. 61, （続下）p. 555
～の補助動詞的用法 （中）p. 225
-Gar/-ger （形容詞形成接辞）（中）p. 225
中合舌児荅- Garda- （下）p. 319
中合荅舌児 Gatar （中）p. 300
中合兀魯中合 Ga'ūluga （中）p. 54
-Gči/-gči （形動詞語尾）の成立 （続上）p. 130, 348-349
-Gčin/-gčin （動物の牝やその毛色を表わす接辞） （上）p. 20, 37, 144, （中）p. 147, （続上）p. 32～34

-Gda²-（受身の接尾辞）（下）p. 294,（続下）p. 209
～の「可能」を意味する用法（上）p. 257,（続上）p. 268,（続中）p. 168
～の「尊敬」を表わす用法（中）p. 34
～の解（受身か敬語表現か）（続下）p. 24, 326-327
～が使役的意味を表示していると解することも可能な例（続下）p. 165
中豁阿 Go'ā（上）p. 35, 37
中豁多黎 Godoli（上）p. 140,（中）p. 307
中豁多里楊- Godolid-（中）p. 307
中豁都 Godu（続上）p. 340
中豁中豁孫 GoGosun（中）p. 54
中豁勒 Gol（中）p. 335, 356,（続上）p. 36, 328,（続下）p. 548
中豁勒 荅阿舌里禿 中豁多黎 薛温勒禿 Gol da'āritu, Godoli se'ŭltū（上）p. 140
中豁魯木塔 帖舌里兀捏 Golumta teri'ŭn-e（続下）p. 190-192
中豁斡只- Go'ōǰi-（中）p. 93
中豁舌児吉 GorGi（続下）p. 85
中豁舌羅中罕 Goroqan と沐舌連 müren と中豁勒 Gol（中）p. 356
中豁舌羅中罕 Goroqan,（文語）Goruqan,（ハルハ方言）горхи（上）p. 146
-黒撒阿舌児／-克薛額児 -Gsa'ār/-gse'ēr（副動詞語尾）の成立と本来の意味（中）p. 379,（下）p. 69,（続上）p. 358,（続中）p. 246
-黒撒楊／-克薛楊 -Gsad/-gsed（形動詞語尾）（中）p. 226, 285,（下）p. 62, 202,（続上）p. 330,（続中）p. 280,（続下）p. 37, 162
～が名詞的に用いられた例（中）p. 85,（下）p. 202,（続中）p. 283
-黒三／-克先 -Gsan/-gsen の用法，職能（上）p. 29, 191, 208,（続上）p. 338
-黒三／-克先 阿主兀 -Gsan/-gsen aǰu'ū（上）p. 66,（続下）p. 259
-Gsan² aǰu'ū と -Gsan² bülüge（続下）p. 259
-Gsaniyar²（続中）p. 247
-Gtun²（-gtün/-Gtun),-Gtud（文語）（中）p. 27,（続下）p. 18
-Gu-/-gü-（出動動詞形成接辞）（下）p. 153,（続上）p. 199
-Gu²（出動実詞形成接辞）（続中）p. 80
中忽卜赤舌里 Gubčiri（下）p. 216
中忽卜赤兀舌児 Gubči'ūr（続中）p. 31
中忽都思 Gudus（中）p. 30
中忽只児 Guǰir-（上）p. 275
中忽剌楊-，中忽剌〈都〉Gulad-（下）p. 134,（続上）p. 356
中昆 Gun(qun)（上）p. 147
中忽納真 孛多 亦咥失禿 Gunaǰin bodo idešitü（続上）p. 343
中忽舌闌撒舌剌 Guran sara（続下）p. 562
中忽舌闌勒禿黒 石阿 Gura(n)ltuG ši'ā（中）p. 323

中忽塔阿舌児 Guta'ār, 中忽禿阿舌児 Gutu'ār (続中) p. 294
中忽禿阿舌児 雪泥 兀都舌児 失舌剌荅 Gutu'ār sōni ūdūr šira-da (続下) p. 204
中忽牙 Guya (上) p. 100
中忽余(你)不列額 Guyu(n) büle'ē (下) p. 335

rap- (続下) p. 555
～の補助動詞的用法 (中) p. 168
гатал- と гэтэл- (上) p. 23, 111
гурил (続上) p. 308
гутгаар, дөтгээр (続中) p. 294

-G-(-g-) の消失と保存 (下) p. 123, (続上) p. 150, (続下) p. 535
(語末の) -G/-g が -ūd/-ŭd などの添加に伴ない脱落, 弱化する例 (上) p. 39, (中) p. 93, (下) p. 82, 122, 294, (続中) p. 280, 301, (続下) p. 38
G(g) と r との交替 (続上) p. 57, (続下) p. 497

## g

格- gē-《棄てる》の母音の長さ (上) p. 81, (中) p. 27, 200, (続下) p. 283
-格- -ge- (動作の持続性を示す接辞) (続上) p. 294
-ge- (動作の到終性を意味する接辞) (続上) p. 200
格格 gege と格格延 gegeyen (上) p. 120-121, (中) p. 69
格格延 孛勒中合- gegeyen bolGa- (続上) p. 60
格只格 geǰige (続上) p. 35, (続下) p. 524
格只格列兀〈里〉 geǰigele'ŭl (続下) p. 524
格勒不舌列 gelbüre (中) p. 112
格〈鄰〉 geli- (中) p. 87
「格木」の解 (gē-mü か ge-mü か) (続下) p. 283
格木舌里- gemüri- (続下) p. 25, 302
gene-の原義 (中) p. 245, (続上) p. 27-29, 190, (続下) p. 224
格年 genen (中) p. 244, (続上) p. 27, 190, (続下) p. 119, 224
格捏惕 gened (中) p. 245, (続上) p. 27, 190, (続下) p. 118-119
格捏惕格- gened-ge- (続上) p. 29, 190, (続下) p. 223
genedte (文語) (続上) p. 37, 190
格捏帖 genete (続上) p. 37, 190
格訥額舌児 genü'ēr (続下) p. 302
格児 ger (中) p. 110, 350
格舌児 帖舌児格 (堅) ger terge(n) (続下) p. 50, 66～72

格舌侖可兀惕 ger-ün kö'ŭd （続下）p. 30, 72
格舌列 gerē(gere) （上）p. 254,（続上）p. 255
格舌列勒- gerel- （続下）p. 196
格舌連勒 失闌勒 gere(n)l šira(n)l （中）p. 203
格児該 gergei の「該」の字 （上）p. 17
格児該 保温勒- gergei baų'ū(n)l- （中）p. 194
格舌児堅 gergen （上）p. 184,（中）p. 373
格舌里額思 geri'ēs （続下）p. 24
格舌里思格 gerisge （中）p. 376
格児魯格 gerlüge の語構成 （中）p. 350
格舌魯 gerü （上）p. 156
格耶克- geyeg- （続下）p. 160
格亦- geyi- （中）p. 343
鈎吉 geŭgi （中）p. 60, 62
斤察思乞周 ginčas kiǰu （下）p. 45, 111
戈勒篾 gölme （中）p. 256
歌勒迷 gölmi （続中）p. 31
果舌矚- gör-(ü-) （下）p. 262
戈舌劣額 göre'ē （上）p. 97
戈舌劣額速〈訥〉 göre'ēsün （上）p. 97
戈舌劣兀魯臣 görö'ŭlüčin （中）p. 285
歌舌魯列 görüle- （続下）p. 295
戈魯兀黎 görü'ŭli （上）p. 71
歌兀児 gö'ŭr （中）p. 149
-gsed → [-Gsad]
-克薛你耶〈舌里〉 -gsen-iyer （続中）p. 247
-克敦 -gtün （続下）p. 18
-克禿惕 -gtüd （続下）p. 18
古舌劣勒古 莽中忽思 gürelkü mangGus （続上）p. 346
古舌魯 gürü と赤老温 čilaų'ūn （中）p. 105
古舌魯額 gürü'ē （続上）p. 221
古舌魯篾列 gürümele （中）p. 162

гэ-《～と云う》（続下）p. 283
гээ- （続下）p. 283
гэгээ と гэгээн （上）p. 120-121,（続上）p. 255
гэнд, гэнэн （続上）p. 28
гэндэ- （続下）p. 223

гэр （上）p. 114, （中）p. 110, （下）p. 156
гэрлүүгээ харь- と гэрээдээ харь- （上）p. 47

「語幹末音決定原理」（上）p. 70
「語種類決定原理」（上）p. 69
語中の重子音 （上）p. 149
疑問語形成の語根（ke- と ya-）（続上）p. 171, （続中）p. 66
疑問の助辞の位置 （続上）p. 264

## h

哈赤 hači の意味（《恩》と《讎》）（上）p. 220, （中）p. 226, （続上）p. 134
哈赤 中合舌里兀勒- hači qari'ūl- （続上）p. 134
哈赤 帖只額- hači tejiye- （中）p. 65
哈黒- haG-, 哈中忽黒三 haG-(u-Gsan) （下）p. 153, （続中）p. 212
杭中合- hangGa- （続上）p. 236
合舌児 har （続下）p. 261
哈舌闌 haran （上）p. 48, 183, （下）p. 203, （続中）p. 270
哈舌児斑 中忽舌児斑 古舌列額惕 harban Gurban küre'ēd （下）p. 18
哈舌里 失(舌)里 hari šili （中）p. 362
哈兀惕- ha'ūd- （上）p. 219, （続下）p. 495
哈兀勒-, 哈兀〈魯〉 ha'ūl- （上）p. 168, 174, （中）p. 265
好兀〈魯〉 haụ'ūl- （中）p. 265
赫乞 heki （上）p. 114, （中）p. 202
赫里格 helige （下）p. 11, 228, （続上）p. 347
赫里格禿 helige-tü の解 （続上）p. 347
赫里格卜赤 heligebči （下）p. 76
含屯勒- hemtü(n)l- （中）p. 255
赫舌魯巴舌魯荅 herü baru-da （中）p. 211
赫兀失耶- he'ūšiye- （続下）p. 234
赫亦〈魯〉 heyil- （下）p. 94, 202
希扯舌列 hičer-e （続下）p. 210
蟹魯阿 hilu'ā （続上）p. 239
蟹魯阿禿- hilu'ātu- （続上）p. 80, 239
希舌里扯- hiriče- （続上）p. 139, （続中）p. 115
希舌離者- hirije- （続上）p. 139, （続中）p. 115
喜舌児篾思 hirmes （上）p. 208, （下）p. 45
喜舌魯中合惕- hiruGad- （続上）p. 79-81
豁阿舌剌- ho'āra- （続中）p. 293

豁阿思簇舌児乞〈敦〉 Ho'ās-merkid （続上）p. 366
豁黒脱舌児中忽 hoGtorGu （中）p. 254,（続上）p. 18
豁黒脱舌児中厥 hoGtorGuį （続上）p. 18
豁黒脱舌児中厥 額舌児別格勒折兀勒周 hoGtorGuį erbegelǰe'ŭlǰü （続下）p. 110～114
豁黒脱舌里〈中罕〉 hoGtori-Ga- （続上）p. 191
豁黒脱舌魯 hoGtoru （下）p. 177,（続下）p. 321
槐 主不児 hoį ǰubur （上）p. 236
槐 帖簇扯- hoį temeče- （中）p. 260,（続上）p. 347
豁只塔剌 hoǰi-tala, hōǰi-tala, 豁斡只塔剌 ho'ōǰi-tala （中）p. 43,（続下）p. 305
恒 hon と只勒 ǰil,［он と жил］（秘史での用法と現代語での用法）（続下）p. 355
恒突舌児 hon-dur （続下）p. 481
恒叱都- hončid(u)- （続中）p. 298
恒赤壇 honči-tan （下）p. 102
豁舌来塔剌 horaį-tala （続下）p. 305
豁児臣，豁舌児臣 horči-n （中）p. 107,（続下）p. 197
訶額- hö'ē- （下）p. 176
款迭 hönde- （続中）p. 298
訶斡申 hö'ŏšin （続下）p. 63
訶舌列捏只 höreneǰi （続上）p. 91
忽必思 hubis （下）p. 45,（続下）p. 16
忽荅〈舌魯〉 hudar- （続下）p. 210
忽札兀児，忽札兀舌児 huǰa'ūr （上）p. 6, 9, 136,（続中）p. 90, 122, 177, 265
～の，語尾 -a を伴った場合の意味 （続上）p. 96～99
huǰa'ūr 系統の語と hiǰa'ūr 系統の語 （上）p. 9～11
忽剌安不中合因 迓歩黒三 抹舌里耶舌児 hula'ān buqa-yin yabuGsan mör-iyer（続
忽剌安迭格列〈泥〉 Hula'ān degelen （続下）p. 251 ㄴ下）p. 115
忽剌安 帖児格勒 兀都児 hula'ān tergel üdür （中）p. 110,（続上）p. 290
忽剌安 帖舌児格列 hula'ān tergel-e （続上）p. 290
忽里牙禿 速卜赤揭 huliyatu subčid （中）p. 319
忽勒中渾 hulqun （中）p. 77
忽泥 huni （続上）p. 122,（続下）p. 132, 135
渾只兀 hunǰi'ū ～ hüngǰi'ū （続上）p. 357,（続下）p. 222
渾討兀 huntaų'ū （中）p. 300
忽舌剌中合剌- huraqala- （上）p. 145
忽舌児罷- hurba- （続下）p. 219～220
忽舌児罷 塔塔- hurba tata- （続下）p. 219
忽舌魯兀 huru'ū （上）p. 46
忽迭速 hüdēsü （中）p. 271

忽客赤〈泥〉 hühečin （続下）p. 30
忽客舌児 hüker （続下）p. 31
忽勒迭- hülde- （上）p. 232,（中）p. 168,（続上）p. 291
忽勒迭周 中合児- hüldejü gar- （中）p. 168
忽勒迭勒都- hüldeldü- （続上）p. 291
許列- hüle-, 許列克迭- hülegde- （続中）p. 87-88
忽列迭- hülede- （続下）p. 503
許列兀 hüle'ü （上）p. 137,（下）p. 304,（続中）p. 88
忽魯舌里格- hülürige- （続上）p. 294
忽篾該 hümegei （下）p. 228
忽担堅 hünegen （上）p. 154
忽担速額舌児 客亦思- hünesü'ër keyis- （続下）p. 401,［(中) p. 147 に関連事項］
昏只兀，渾只兀 hünji'ü （続下）p. 222
洪只兀列思 hüngji'üle-s （上）p. 153,（続下）p. 222
洪失兀惕 hüngši'üd （上）p. 154
忽你児 hünir （上）p. 154
忽你思- hünis- （上）p. 154
忽訥児 hünür （上）p. 154
忽訥思- hünüs- （上）p. 154
忽兀- hü'ü- （続下）p. 494

（語頭の）h- （上）p. 154,（中）p. 114, 254, 272.（下）p. 43, 154,（続上）p. 80, 347, 357,（続中）p. 87,（続下）p. 234
～を保持している形と失った形が共存する例 （続下）p. 16
～を保存している方言 （上）p. 46,（中）p. 272,（続上）p. 236, 347
（語中に）-h-をもつ語 （続中）p. 82,（続下）p. 118
秘史漢字音訳本の底本〔Urtext, 原典〕（上）p. 206,（中）p. 15, 149, 164, 168, 220, 226,（下）p. 5, 101,（続下）p. 181
秘史漢字音訳上の特徴
1) 語の意味に関連づけた用字 （上）p. 3
2) 漢字の意味を考慮し，音声上の差異を犠牲にした音訳 （上）p. 9, 23, 45,（中）p. 29, 34, 61,（下）p. 44,（続上）p. 62, 293,（続下）p. 399, 558
3) 「古」の字の特殊性 （上）p. 53,（中）p. 125,（続上）p. 239, 345,（続中）p. 130
4) 「忙」の字と「蒙」の字 （上）p. 36
5) -n で終わる実詞＋対格語尾 i を，-n-ni とする音訳 （上）p. 66,（中）p. 39,（続下）p. 395
秘史モンゴル語の特徴的な表現法
1) 「必 bi」の位置 （中）p. 169

2)　最初に概略的に地域を示し次にその場所を限定する表現法　(上) p. 24, 66-67, (下) p. 233, (続下) p. 563
3)　同一内容を別の表現で繰返す修辞法〔頭韻〕　(上) p. 261, 263, (中) p. 89, 335, 371, (続上) p. 31, 80, 127, 139, 162, (続中) p. 37, 80, (続下) p. 242, 289, 299, 301, 548
秘史モンゴル語に特徴的な使役構文と受動構文
1)　使役構文　(中) p. 113, 188, 276, (下) p. 124, 280, (続上) p. 136, 182, (続中) p. 187, 238
2)　受動構文 (受身形)　(上) p. 132, (中) p. 107, 127, 163, 173, 217, (下) p. 10, 211, 338, (続上) p. 68, 371, (続中) p. 16, 78, 229, (続下) p. 157, 184, 185, 458, 506
3)　使役形と受身形の意味の相違　(下) p. 152, (続上) p. 56, 303〔(下) p. 140, 280,
4)　受身表現の二つの様式　(続上) p. 32, 265, (続下) p. 189　└(続上) p. 60 も関連┘
5)　使役的意味を表示する二様式　(続下) p. 421～423
否定を意味する語　(上) p. 60
否定の形 (動詞と実詞)　(続下) p. 159
副詞的動態言，副詞的様態言　(下) p. 45, (続上) p. 72, 292, (続中) p. 30, 155, 167,
複数形成接辞，複数語尾　(続下) p. 38, 95, 439　└187, (続下) p. 16, 331, 338, 464
複数形の解釈　(続下) p. 487～488
honorific plural 表現　(続下) p. 48, 488
不定格　(上) p. 218, 241, (中) p. 125, 256, 269, 382, (下) p. 36, 201, 238, 265, (続中) p. 121, 122, 145, 156, 202, 205, (続下) p. 76, 231, 431, 354
補助動詞　(上) p. 96, 114, 141, 167, (中) p. 57, 78, 101, 160, 168, (下) p. 44, 95, 113, 115, 152, 196, (続上) p. 136, 271, (続下) p. 120, 161

花嫁の嫁入り道具を表わす語　(上) p. 191～192
羊の肉　(上) p. 112, (続下) p. 462, 547

## i

-i̱ (述語的に機能する実詞形成接辞)　(上) p. 103
-i (動詞語尾 -u の女性形) の用例　(中) p. 211, (続下) p. 302, 505
-i (疑問の -ū/-ǖ の一変種と見られるもの)　(下) p. 325
-i～-yi「指定の i」「強調指定の-i」　(下) p. 219～221, 324, 346, (続上) p. 163, 170, 292, 341, (続中) p. 142, (続下) p. 258, 370
-i～yi (対格語尾) の，《～のことを》と訳すべき用法　(中) p. 374, (下) p. 170
～を繰り返し附する用法　(続上) p. 120
～の，主格表示→[j の「従属節の主語を示す対格語尾-i～-yi」の項参照]

～の二とおりの読み方の可能な例 (続中) p. 134, (続下) p. 478
亦不侖 ibülün (ibül-～ ibülü-) (続下) p. 13
亦赤勒勤 札舌児中合黒 ičilkin ǰarGaG (中) p. 315
亦出-, 亦〈純〉 ičču- (中) p. 35, (続下) p. 486
亦出阿- ičču'ā- (中) p. 35
亦出中合- ičuGā- (中) p. 35, (続下) p. 486
-id- (-yid-) (出実動詞形成接辞) (下) p. 229, (続上) p. 161, (続下) p. 331
亦哩- ide- (続上) p. 135
亦哩延 ideyen (中) p. 167
亦惕客勒 薛惕乞- idkel sedki- (下) p. 171
亦惕〈中罕〉 idqa- (続下) p. 210
亦都兀惕 idu'ūd (続下) p. 84
亦都舌列- idüre- (下) p. 160, (続上) p. 253
亦古勒古- igülgü- の二つの解 (続上) p. 198
亦剌阿舌里 ila'āri (下) p. 50
ila-〔《勝つ》の文語形〕の生じた過程 (下) p. 55
ila-:ilaGu- (ял- と ялгуу-) (下) p. 55
亦剌黒- ilaG- (下) p. 55, (続下) p. 155, 157
ilbi (文語) (続上) p. 84, 251
ilbi- と ili- (文語) (上) p. 122-123
亦列- ile- (上) p. 77, (続上) p. 200, (続下) p. 184, 485
～の補助動詞的用法 (下) p. 113, 196
亦魯卜帖 ilübte (続下) p. 546
亦魯該 ilügeį (下) p. 112
亦馬阿舌里 ima'ār-i (上) p. 18, (下) p. 221, 324, (続上) p. 212, (続中) p. 142, (続下) p. 268
亦馬荅 imada (上) p. 18, (続上) p. 212, (続下) p. 267
亦馬宜 imayi (上) p. 18, (続上) p. 86
*in, *an 系の三人称代名詞 (上) p. 18, (下) p. 324, (続上) p. 212, (続下) p. 268
*ina- 系の語と*čina-系の語 (続上) p. 37～40
亦捏舌魯 inerü (中) p. 13
影吉舌児察黒 inggirčaG (続上) p. 60
引者 inǰe (上) p. 191
亦訥 inu (上) p. 18, (続下) p. 20, 131-132
～の読み方 (前置の inu か後置の inu か) (続中) p. 267
亦舌忽舌里- iquri- (下) p. 132
亦舌剌荅 irada (中) p. 44
亦舌列- ire- と与位格語尾 (上) p. 77

ire-の意義と用法　(上) p. 49, 223, (続下) p. 80, 337
亦舌列埃　ire-'ēi の訳　(上) p. 274
亦舌列克迭-　ire-gde-　(下) p. 210, (続下) p. 241, 421-423
亦舌列兀〈魯〉　ire-'ūl-　(続上) p. 182
亦舌児格　irge《モンゴル包の下縁部の細い帯》(続下) p. 15
亦舌児格　irge《去勢羊》(中) p. 370, (続上) p. 176, (続下) p. 462, 545
irge～irgen《人々》(下) p. 212
亦児堅，亦舌児堅　irgen という語の，現代諸方言での用法　(上) p. 47
～の「文法的複数扱い」(上) p. 51, (下) p. 61-62, (続上) p. 257
～と ulus (と haran) の意味のちがい　(上) p. 48, (中) p. 360, (下) p. 25, 105, (続上) p. 268, (続中) p. 201
亦舌児格訥　嫩禿黒　irgen-ü nuntuG　(続中) p. 200
亦舌里扯兀勤-　iriče'ūl-　(続中) p. 115
亦薛舌里　iseri　(下) p. 351
亦思該　isgeį　(続中) p. 100
亦帖格勒　itegel　(下) p. 171
亦禿格孫　itüges-ün　(下) p. 54
-iyan/-iyen　(再帰格語尾)　(続中) p. 156, 202, (続下) p. 350, 438
～の呼びかけ的用法　(中) p. 219
～の再帰属格形としての用法　(下) p. 78, (続中) p. 81
-iyar/-iyer (造格語尾) の《～を通って》を意味する用法　(続上) p. 68, (続中) p. 9, (続下) p. 250
～の《～を伴なって，～と共に》を意味する用法　(中) p. 343, (続中) p. 9

ир-　(上) p. 223, (続下) p. 80

i 母音の転位　(上) p. 149, (続上) p. 294, 368, (続下) p. 204
i の折れ　(上) p. 137, (中) p. 47, (下) p. 303, (続上) p. 125, 306, 368, (続中) p. 211
(語末に) -į をもつ形と然らざる形の交替　(下) p. 193, 337, (続上) p. 18, (続下) p. 562
i を含まない語：i を含む語 (文語：ハルハ方言)　(上) p. 146
i-～ni-の交替　(中) p. 36
(語末の) -į と -r の交替　(続中) p. 210
(第一音節の) i：u/ü (文語：秘史の言語)　(上) p. 10, 136, (中) p. 310, (下) p. 45, 133, 303, (続下) p. 14, 221, 419, 463
(秘史モンゴル語における) i～ü の交替現象　(続中) p. 18, 209, 244, (続下) p. 354
-į で終わる実詞の複数形　(中) p. 94, (下) p. 128

# ǰ

札阿- ǰa'ā- (続中) p. 136
札阿中合- ǰa'āGa- (上) p. 258
札阿舌里陽 ǰa'ārid (中) p. 349, (続下) p. 158
札阿舌鄰 ǰa'ārin (中) p. 349, (続中) p. 136, (続下) p. 158
札巴只你牙舌児 ǰabaǰin-iyar の解 (続上) p. 66
札卜中合- ǰabqa- (中) p. 181, (続下) p. 458
札陽 ǰad (上) p. 186
札荅 ǰada (下) p. 133
札荅剌- ǰadala- (下) p. 133
札中忽陽 亦舌児堅 ǰaGud irgen, 札中忽敦 亦舌児堅 ǰaGud-un irgen (続下) p. 554～555
札興 ǰahing (続中) p. 82
札剌麻 ǰalama (続上) p. 84
札剌兀 ǰala'ū～札剌危 ǰala'ūi ～ (札剌溫) ǰala'ūn (上) p. 20, (続下) p. 252
札勒把舌里- ǰalbari- (続上) p. 85
札里舌剌- ǰalira- (続下) p. 211, 301
札勒含失黒壇 ǰalqamšiGtan (中) p. 204
蓋討兀 ǰantaṷ'ū (続上) p. 241
札中合 ǰaqa (続中) p. 313, (続下) p. 294
札中合溫 ǰaqa'ūn (続中) p. 313, (続下) p. 262, 294
札舌児必牙勒 ǰarbiyal (下) p. 170
札舌児中忽 ǰarGu (続中) p. 116, (続下) p. 61～63
札舌林 ǰarim と札舌里木陽 ǰarimūd (と qaGas) 〔意味の変化と保存〕 (下) p. 287～289, (続下) p. 40～43, 44
札舌児里黒 孛〈魯〉 ǰarliG bol- (続中) p. 9, 27
札舌児里黒 篾迭禿該 ǰarliG medetügeị (続下) p. 288
札撒- ǰasa- (下) p. 39, (続中) p. 290, (続下) p. 522
札撒黒 ǰasaG (中) p. 109, (続上) p. 368, (続下) p. 116, 346
札撒黒 孛勒中合- ǰasaG bolGa- (続上) p. 368, (続下) p. 346
札撒黒 款迭- ǰasaG könde- (続中) p. 298, (続下) p. 346
札撒黒剌- ǰasaGla- (中) p. 109, (続下) p. 115
札撒兀勒 ǰasa'ūl (続下) p. 522, 524
札兀陽中忽舌里 ǰa'ūd-quri (下) p. 68, (続上) p. 155, (続下) p. 555
札兀中合速 ǰa'ūGasu (中) p. 51
招討 ǰaṷtaṷ (下) p. 69

札牙阿禿 脱舌列克先 ǰaya'ātu töregsen（秘史の冒頭部分）の ǰaya'ā とは？ （上）p. 14
札亦剌 中合舌魯牙 ǰayila ɢaruya （続下）p. 197
者 ǰe（間投詞）（上）p. 176, 272,（中）p. 280,（続下）p. 330
者 安荅中合舌児壇 ǰe andaɢartan （中）p. 280
者 孛魯勒察- ǰe bolulča- （上）p. 272
者 帖里 ǰe teli （続下）p. 337
者因那可舌児 ǰē-yin nökör （続下）p. 330
者 ǰe（当為的推量の助辞）（上）p. 228
者 ǰe（強意の助辞）（続中）p. 236
者別列- ǰebele- （下）p. 175, 178
折不格 ǰebüge （中）p. 63
者惕古- ǰedgü- （続上）p. 366
者額 ǰe'ē （上）p. 261
者額舌児迭 ǰe'ērde （続下）p. 331
者乞舌児- ǰekir- （続下）p. 301
帖連 ǰemlen （続中）p. 210
征古- ǰenggü- （下）p. 277
者舌児格 ǰerge （中）p. 280,（下）p. 219
者舌児格額舌児 ǰerge'ēr （下）p. 218
折失-, 者〈申〉 ǰeši- （中）p. 299, 336
趙官 ǰeüɢan （続下）p. 249
-只 -ǰi（partitive の接辞）（続上）p. 91, 136
-ǰi'āi（-ǰu'ū の女性形）（上）p. 21,（中）p. 165
只卜失額舌児-, 只卜失額〈舌侖〉 ǰibši'ēr- （下）p. 133,（続上）p. 71,（続下）p. 281
只池 ǰiči （下）p. 56, 232,（続下）p. 224
只中合臣 ǰiɢačin （中）p. 285
只克禿- ǰigtü- （中）p. 351
只勒荅 ǰilda （下）p. 140
只勒荅 孛勒荅- ǰilda bolda- （下）p. 130, 140,（続上）p. 56
只勒都 ǰildü （上）p. 91,（続中）p. 211
只羅阿 ǰilo'ā （続中）p. 154, 262,（続下）p. 337
只魯阿 ǰilu'ā （続下）p. 486
-ǰin（「部族・氏族」を表わす女性形）（上）p. 37
征古- ǰinggü- （続下）p. 208
整〈坤〉 ǰingkü- （下）p. 277
只舌剌木惕 ǰiramūd （中）p. 65
只舌林 ǰirim （続下）p. 13

只舌鄰 jirin (中) p. 20, (続下) p. 182～183
只舌魯格 jirüge (下) p. 104, (続上) p. 172, 191
只舌魯格 牙荅- jirüge yada- (続上) p. 307, (続下) p. 117
只舌児瓦安 jirwa'ān と只舌児中豁安 jirgo'ān (数詞の《六》) (続上) p. 90
只速列- jisüle- (続下) p. 418
只兀- ji'ū- (続上) p. 334
只兀舌児篾克 ji'ūrmeg (続下) p. 460
卓 中忽都思 中合揚中忽- jō Gudus qadqu- (中) p. 31
勺乞- joki- (続上) p. 264
拙舌児乞篾思 jor kimes (下) p. 104
拙舌児中合勤荅- jorgalda- (続下) p. 488
勺莎 joso (続下) p. 395
拙卜 jöb (中) p. 119, (下) p. 325, (続上) p. 266
勺卜額薛 孛魯- jöb ese bol- (続下) p. 463
勺必 塔必 孛勤- jöb-ī tabī bol- (下) p. 325, (続下) p. 490
勺不兀 塔不兀 jöb-ü'ū tabu'ū (下) p. 325
拙額- jö'ē- (中) p. 177, (続中) p. 181, 246
荘 jöng (続中) p. 143
-ju/-jü (副動詞語尾) (上) p. 22, (下) p. 8, (続中) p. 205
-ju(-ču) a-(bū-) (中) p. 131, (続下) p. 156
-ju ab- (上) p. 167, (続上) p. 136
-ju(-ču) ile- (下) p. 113, 196
-ju ülü bol- (続中) p. 271
-ju yada- (中) p. 97, (続上) p. 152
主不舌児 jubur (中) p. 319
主中合- jugа- (続上) p. 150
主中忽思 jugus, juqus (上) p. 227, (下) p. 45
主札阿納 阿亦速中渾 juja'ān-a ayisuqun (続上) p. 342
准荅兀勤 junda'ūl (続上) p. 86
主撒- jusa- (続下) p. 393
主撒黒 jusaG (続下) p. 545
主速舌里〈敦〉 jusurid- (続上) p. 160
-ju'ū/-jü'ū 系語尾の, 意味・意義素 (上) p. 194, (中) p. 106, 292, (下) p. 64, 270, 273, (続上) p. 58
～の《～していた》を表わす用法 (下) p. 64, 130, (中) p. 279
～の《～している, ～してある》と訳出すべき例 (続上) p. 58
～の《～してしまう》を表わす用法 (下) p. 275
～と -ba/-be のちがい (下) p. 270, 273

～と -la'ā 系語尾 (下) p. 273
-主為 -ǰu'ūį (-ǰu'ū の複数形) (続下) p. 183
-周 不列埃 -ǰü büle'ēį (続上) p. 71
-周 斡克- -ǰü ög- (下) p. 95
主因 亦児堅 J̌ü-yin irgen (上) p. 216
主卜赤- ǰübči- (ǰubči-) (続上) p. 171, (続中) p. 173, (続下) p. 489
諸額- ǰü'ē- (中) p. 177, (続中) p. 181
竹克竹克 抹舌児抹舌児 禿舌里顔 ǰüg ǰüg mör mör-tür-iyen (続中) p. 307
主乞耶舌児 ǰüg-iyēr (続中) p. 251
竹克列兀勒- ǰüg-le-'ūl- (続中) p. 114
竹克途舌児 斡舌羅兀勒- ǰüg-tür oro'ūl- (続下) p. 399, 486
主格黎 ǰügeli (上) p. 192, (続下) p. 465
主格〈舌魯〉 ǰüger- (続下) p. 465
主勒都 ǰüldü (続中) p. 211
主舌魯格 ǰürüge の第三音節の子音の有声・無声について (続上) p. 172, 191
主舌魯格 牙荅- ǰürüge yada- (続上) p. 172, 191
ǰürüke(n) (上) p. 137
主亦列 主亦列 ǰüyil-e ǰüyil-e (続上) p. 23

за (と тийм) (上) p. 176, (中) p. 280
зарим (と хагас) (下) p. 288, (続下) p. 42
зөв (中) p. 120
зөвхөн (続上) p. 267
зүргаа(н) (続上) p. 90
зүгээр (続中) p. 251
зүрх (下) p. 11, (続上) p. 172, 191, 307, (続下) p. 117
зүтгэ- (中) p. 351
зэрэг, зэргээр (中) p. 280, (下) p. 219
зээ (上) p. 272
-ж(-ч) бай- (中) p. 131
-ж болохгүй (続中) p. 271
-ж хоцор- (中) p. 101
-ж яд- (下) p. 268
жуулчин (続上) p. 335

-ǰ- と -d- の交替 (中) p. 75
-ǰ- と -y- の交替 (上) p. 142
実詞の性と数 (上) p. 102

実詞の造格形で終わる表現 (続下) p. 114～115
実詞語幹・動詞語幹共用の語 (上) p. 88, 137, 276, (中) p. 96, 189, 207, (下) p. 134, 260, (続上) p. 41, 175, 200, 327, (続中) p. 63, 102, (続下) p. 98, 222, 367
自動詞の受身形 (中) p. 58, 107, 174, (下) p. 10, 210～211, 338, (続上) p. 371
自・他両用の動詞 (中) p. 89, 141, (下) p. 62, 63, (続上) p. 292, (続中) p. 36
従属節の主語を示す対格語尾 (上) p. 80, 134, 236, (中) p. 28, 127, (下) p. 196, 211, 301, (続上) p. 48, 78, 96, (続中) p. 215, 235, (続下) p. 36, 102, 108-109, 194, 396, 478
受動文・受動表現→ [h の「秘史モンゴル語に特徴的な使役構文と受動構文」の項参照]
順序数詞を形成する接辞 (続中) p. 294
女性形語尾が人以外の対象物に関して用いられた例 (続上) p. 32～34, 250
属格語尾を表記するのに用いられる文字 (続下) p. 403

## k

客 ke (牙兀客 ya'ū ke) (下) p. 238
客- kē-《～と言う》(上) p. 81, (続上) p. 51
客卜帖兀勒 kebte'ŭl (続上) p. 277, 283, (続中) p. 284, 311～313, (続下) p. 37, 63～65
客扯兀 keče'ŭ (続下) p. 142～145
客額- ke'ē-《～と言う》(続下) p. 85
ke'ē- と kele- (中) p. 136, 138, (続上) p. 51, (続下) p. 49
ke'ē- で受ける文の起点 (上) p. 217, (中) p. 129
客額里 ke'ēli (上) p. 180
客格速 kegesü (上) p. 274, (続下) p. 557
客格速列- kegesüle- (上) p. 275, (続下) p. 557
客古〈里〉 kegül (上) p. 234
克 keį (上) p. 233
客亦速木薛児 keįsümüser (上) p. 234, (続下) p. 107
客只額 keǰi'ē (中) p. 211, (続中) p. 66, 142
客客 keke (中) p. 349
客客孫 kekesün (続下) p. 557
客勒別思 kelbes (下) p. 45, (続下) p. 336
客列 (客連) kele(n) (下) p. 129, (続上) p. 16, (続中) p. 308
客列 阿〈不〉 kele ab- (下) p. 128
客列 (客連) 亦吾列兀〈魯〉 kele(n) ire-'ŭl- (下) p. 124, (続上) p. 16
客列 (客連) 古児格兀〈魯〉 kele(n) kürge-'ŭl- (下) p. 63, 124, (続上) p. 16
客連 乞- kelen ki- (続上) p. 16

客連 古舌児〈堅〉 kelen kürge-の二通りの解釈 (下) p. 345～346
客列- kele- (中) p. 136, 138, (下) p. 345, (続下) p. 49
客列赤列- kelečile- (続中) p. 308
客里 keli《いつ》 (続上) p. 171, (続中) p. 66, (続下) p. 337
客勒乞- kelki- (続上) p. 346
客勒帖該 中合打 keltegeį qada (続上) p. 93
客魯舌連 Kelüren (続上) p. 308
坎客〈侖〉 kemkel- (続上) p. 250, (続中) p. 166
客木格里惕 kemkeri-d (続上) p. 250
客木客舌魯, 砍客舌魯 kemke-rü (中) p. 263 (下) p. 177, (続上) p. 250, 357, (続下) -ken (下) p. 75, (中) p. 315, ⌊p. 321
ken (下) p. 238
客舌児 ker (下) p. 311, (続中) p. 314
客舌列- kere- (続上) p. 305
客舌列勒 kerel (続上) p. 305
客舌列兀〈舌里〉 kere'ŭr (下) p. 245
客舌列〈吉〉 kereg (中) p. 293
客薛- kese- (上) p. 218
客失克, 客石〈格〉 kešig (中) p. 16, (続上) p. 278, 283
客失克 豁阿舌剌- kešig ho'āra- (続中) p. 296
客失克 斡舌羅- kešig oro- (続上) p. 282～284, (続中) p. 262
客失克田 kešigten (続上) p. 276, 277, (続中) p. 262, 284, 297
客失克帖泥 篾迭- kešigten-i mede- と客失克帖泥 札撒- kešigten-i ǰasa- (続中) p. 289
客禿格勒〈徨〉 ketügelǰe- (続中) p. 309
客禿勒- ketül- (上) p. 22, (続下) p. 329
客禿思 ketüs (下) p. 45, (続下) p. 328～329
(文語の) keü(n) と köbegün (上) p. 32～34
客兀舌児格 ke'ŭrge (続下) p. 31
客兀舌魯 ke'ŭrü (中) p. 263, (下) p. 177, (続下) p. 321
客兀思 ke'ŭs (下) p. 45
客兀思 察卜赤- ke'ŭs čabči- と quGus čabči- (下) p. 122
客延 keyē-n《～と言って》 (中) p. 136, (下) p. 77, (続上) p. 181, (続下) p. 253, ～の形動詞的用法 (続上) p. 29 ⌊382
客亦不舌児 keyibŭr (続上) p. 345
乞赤都惕 kičidŭd (続下) p. 480
乞赤昂古 kiči'ēnggŭ (下) p. 193, 337, (続下) p. 446
乞額惕 ki'ĕd の意味と用法 (下) p. 29, 208, (続下) p. 130

乞古舌里- kigüri- (続上) p. 181
乞里古 kiligü (上) p. 233, (続上) p. 129
乞魯古 kilügü (続上) p. 129
乞里耶児 kili-yer (上) p. 123
乞木勒 kimul と乞木速 kimusu (上) p. 219
kinggü (続下) p. 464
軽古勒- kinggül- (続下) p. 464
軽古舌里- kinggüri- (中) p. 375, (続下) p. 464
軽古舌魯 察卜赤- kinggürü čabči- (続下) p. 321, 464
軽古思 kinggüs (中) p. 260, (下) p. 45
乞舌魯額 kirü'ē (下) p. 41, (続下) p. 180
乞〈散〉 kisa- (上) p. 244
乞撒勒 kisal (上) p. 244
乞(失)田 kišiten (下) p. 85
乞禿中孩 kituGaị (下) p. 193
闊卜失勒都- köbšildü- (続中) p. 142
闊朶額阿舌剌〈侖〉 Ködö'ē-aral (下) p. 87
歌多勒- ködöl-の意味 (中) p. 203, 211
～と neụ'ŭ- (文語 negü-) の意味のちがい (下) p. 182, (続上) p. 90
歌多勒 (格)- ködöl(ge)-の「歌」の表記 (下) p. 18, 93
可乞- köki-, 可乞兀勒迭- köki-'ŭl-de- (中) p. 257, (続上) p. 125, (続中) p. 79
闊闊 kökö, kökö- (下) p. 93
闊闊迭卜帖舌児 kökö debter (続中) p. 117
闊勒 köl (中) p. 143, 211, (下) p. 93, 319
闊勒巴児中忽真 脱古木 Köl barGujin tököm (上) p. 65
闊勒阿訥 闊薛舌列 中合舌児 阿訥 中合札舌剌 köl anu kösör-e Gar anu Gaǰar-a という表現の含意 (続下) p. 531
闊勒都舌里顔 都舌魯- köl-dür-iyēn dür- (続中) p. 201
闊勒- köl- (上) p. 263, (中) p. 210
闊勒赤舌児格- kölčirge- (続下) p. 234-235
闊勒迭 kölde- (下) p. 319
可勒格- köl-ge- (上) p. 263
款迭- könde- (続上) p. 101
款迭列都由 köndeledüị-ŭ (続上) p. 123
款多列都 köndöledü (続中) p. 79
匡失列篾勒 köngšile-mel (上) p. 111
可舌里速 körisü (中) p. 298
闊薛〈舌列〉 köser (続中) p. 201

闊脱臣　kötöčin　(続中) p. 19
闊脱惕　札撒兀勒罷　kötöd ǰasa'ūlba.　(続上) p. 327
可團勒　kötö(n)l　(中) p. 207, (続上) p. 327
kötöl ǰasa-　(続上) p. 327
kötöl-　(中) p. 207, (続上) p. 327
可兀　kö'ū　(中) p. 315, (下) p. 75, (続上) p. 49, (続中) p. 207
可兀赤〈連〉　kö'ūčile-　(続中) p. 201
可兀惕　kö'ūd　(中) p. 58, 125, (続上) p. 49
可兀都延 (kö'ūd-ü-yēn～kö'ūd-ü'ēn) の解釈・転写　(続中) p. 201, (続下) p. 284
可兀客〈都〉　kö'ūked　(上) p. 32
可兀客都延　kö'ūked-ü-yēn の -ü- の解釈　(中) p. 85
可兀客〈泥〉　kö'ūken　(上) p. 32, (中) p. 315, (下) p. 75, (続中) p. 207
可温　kö'ūn　(上) p. 31, (中) p. 112, 125, (続中) p. 207
可温古温　kö'ūn kü'ūn　(中) p. 112
可兀舌児格　kö'ūrge (続下) p. 31
闊亦惕-　köyid-　(続中) p. 93
闊亦田　köyiten　(続中) p. 142
古　kü (助辞・小辞)　(上) p. 57, (中) p. 338, (続下) p. 322
-古　-kü (形動詞語尾)　(上) p. 54, 55, (続上) p. 163
古卜臣　kübčin　(中) p. 125, (続上) p. 339
古出　küčü　(上) p. 54, (続下) p. 446
古出　牙〈丹〉　küčü yada-　(続下) p. 335
窟出鼬捏　küčügene　(中) p. 302
窟出古児　küčügür　(中) p. 154
古出舌児格古〈泥〉　küčürgeg-ün　(中) p. 374
-恢　-küi (形動詞語尾 -kü の女性形)　(中) p. 203, (続上) p. 163
　～が「-古宜」 -küyi と表記されたと見ることの可能な例　(続上) p. 163 [関連事項 (続中) p. 262]
曲魯克, 曲魯〈吉〉　külüg の意味・用法　(上) p. 39, (下) p. 294, (続中) p. 132
曲駿兀〈的〉　külü'ūd　(下) p. 294
曲駿兀惕　阿黒駿思　külü'ūd actas　(上) p. 39
kümüs (文語)　(続下) p. 403
-kün (形動詞語尾)　(続中) p. 134
坤都　抹舌児禿　古温　kündü mörtü kü'ūn　(続中) p. 92
古捏速捏　阿把〈闌〉　künesün-e abala-　(続上) p. 92
孔客-, 孔〈牽〉　küngke-　(中) p. 233, (下) p. 169
古舌児-　kür-　(上) p. 54, 55
　～の意味　(上) p. 183, (中) p. 51, (続上) p. 230

～と格語尾 (上) p. 77, (中) p. 51
～の受動形 (続下) p. 475
古舌児格勒〈敦〉 kürgeldü- (続上) p. 230
古舌児格兀〈魯〉 kürge'ŭl- (中) p. 188, 276, (下) p. 124, (続上) p. 302～303
古舌児帖- kürte- (続上) p. 302, (続下) p. 475
古児敦 kürdün (上) p. 226
古舌列格 kŭrege (続中) p. 176
古舌列干 küregen (上) p. 272
古舌零 küreng (続下) p. 480
古舌列延 küreyen (中) p. 355
古舌里格惕帖 küriged-te (上) p. 272
古舌里延 küriyen (上) p. 54, (中) p. 166
古兀 kü'ŭ (kü'ŭn の不定格) (上) p. 114, (中) p. 125, (続下) p. 403
古兀列勒敦 kü'ŭle-ldü-n (上) p. 114
古温 kü'ŭn (中) p. 125, 139, 141, (続下) p. 403
～の「古」の表記について (上) p. 53
古兀舌児格 kü'ŭrge (上) p. 54, (続下) p. 31
窟兀児格 kŭ'ŭrge (続中) p. 176

-х《～のもの》 (上) p. 158
хий (上) p. 233
хийгээд (下) p. 29, 209, (続上) p. 13
хил (上) p. 123
хөдөл-と хөдөлмөрлө- (中) p. 203
хөлөг (上) p. 39, (続中) p. 132
хөлчүү (続下) p. 235
хөхөл ～ гөхөл (上) p. 234
хүн (中) p. 113
хүний сайныг ханилаж мэд.… (上) p. 52, (続中) p. 132
хүр- (上) p. 183, (中) p. 51
хүү, хүүхэн, хүүхэд (上) p. 32, (中) p. 112, 125, 315, (下) p. 75, (続下) p. 207
хэзээ (続中) p. 142
хэрүүл (下) p. 245, (続上) p. 305
хэрэг (中) p. 293
хэцүү (続下) p. 143

kŏ を表わす文字 (下) p. 93, (続上) p. 55
kü を表わす漢字 (上) p. 54

仮定の副動詞語尾→ [-'āsu/-'ēsü の項]
敬語形語尾，敬語表現　(上) p. 56, 178, 253, 272,　(中) p. 34,　(下) p. 212, 338,　(続中) p. 187,　(続下) p. 48, 351, 458, 463, 475
形容詞的実詞形成接辞の体系　(上) p. 20, 102

## l

-l-　(iterative の接辞)　(続上) p. 332, 346
-l- と -la- の，実詞を自動詞にするのに用いられた例　(続上) p. 252
-la-/-le-　(出実動詞形成接辞) の意義　(上) p. 114
-la'ā 系語尾の意義素　(上) p. 195,　(下) p. 273,　(続上) p. 359
-la'ā 系語尾と -lu'ā 系語尾　(上) p. 253
-lāi̯　(-la'āi̯ の縮約形)　(中) p. 131
老撒　lau̯sa　(続下) p. 481
-lča→ [-ldu- と -lča-]
-ldai̯　(男性の個有名詞作成の接辞)　(上) p. 37,　(下) p. 49
-ldu- と -lča-　(上) p. 71, 135,　(下) p. 133
(文語の) -lG$a^2$-　(causative の接辞) の成立　(続下) p. 40
-liG　(出実実詞形成接辞)　(中) p. 104,　(続上) p. 200
-ligi　(動詞女性形語尾)　(中) p. 86
-lǰa$^2$-　(中) p. 162, 217,　(続上) p. 66, 330,　(続下) p. 113, 318
-lǰa$^2$- と -Gana-$^2$ のちがい　(続上) p. 332～334
-lǰin　(下) p. 49
-ltai̯/-ltei̯　(下) p. 203,　(続下) p. 561
-lten　(下) p. 203
-ltuG/-ltüg　(中) p. 324
-lu'ā　(動詞語尾)　(上) p. 195, 253
-lu'ā/-lü'ē　(共同格語尾)　(続中) p. 111, 144,　(続下) p. 62
-lun/-lün　(女性名に附加される接辞)　(下) p. 264
-魯　-lü　(小辞)　(続下) p. 322
-魯額　你客捏　-lü'ē niken-e　(続中) p. 111

l～n の交替　(上) p. 164,　(続上) p. 328,　(続下) p. 194
l 音と r 音にかかわる異化現象と，両者の入れ替わり　(上) p. 235,　(続上) p. 308
-l～-sun の交替　(上) p. 219
-l-sun (sün) の -l- の脱落　(続下) p. 16

-л と -д の交替　(上) p. 113

## m

-ma/-me（出動実詞形成接尾辞）（下）p. 105
-mad/-med（続上）p. 211
馬中合 maɢa（上）p. 163,（下）p. 330,（続中）p. 93,（続下）p. 210
-maɢaị（動詞接辞）（続下）p. 493
-mal/-mel（出動実詞形成接辞）（上）p. 111
馬里〈安〉 mali'ā-（続中）p. 123
馬里牙- maliya-（中）p. 236
馬納中合児 manaɢar（中）p. 369,（下）p. 338,（続上）p. 169, 309,（続下）p. 210
manaɢar 系の語と marɢaši 系の語（下）p. 132
manaɢari（続下）p. 210
馬納中合(舌)児石 manaɢarši（下）p. 132,（続上）p. 20,（続下）p. 210
馬納中合舌魯 manaɢaru（続下）p. 210
忙吉児速〈你〉 manggirsun（中）p. 45, 49, 270
蟒古思，莽中忽思 mangɢus（中）p. 86,（続上）p. 346
莽来 manglaị（下）p. 128
莽来敦荅 中合黒察 你都禿 manglaị dumda ɢaɢča nidütü（上）p. 41, 125
莽剌〈納〉 manglan（下）p. 128
馬納 manu（中）p. 34
馬中孩- maqaị-（続下）p. 363
馬舌剌〈安〉 mara'ā-（続上）p. 367
馬舌里牙- mariya-, mariyā-（上）p. 149,（続上）p. 369
馬舌里顔 mariyan（続上）p. 369
maɣ'ū～maɣ'ūị～maɣ'ūn（上）p. 20, 102,（続下）p. 251, 252, 285, 419
　卯兀 maɣ'ū
　卯危 maɣ'ūị の用法（上）p. 102
　卯温 maɣ'ūn の意味（続下）p. 188, 288
卯危 斡惕- maɣ'ūị od-（上）p. 276
卯危剌- maɣ'ūịla-（下）p. 329,（続中）p. 167
卯兀剌- maɣ'ūla-（中）p. 90,（続中）p. 167
卯兀中合鄰 maɣ'ūqalin（下）p. 49
篾迭- mede-（続中）p. 290,（続下）p. 237, 288
　～と兀中合- uqa-（中）p. 232
篾迭額 兀該 mede'ē ügeị の解（続下）p. 159
篾迭舌列- medere-（下）p. 88
篾格只〈連〉 megejile-（下）p. 113

篾勒〈氈〉 melǰe- （続下）p. 363
篾捏 mene～篾年 menen （上）p. 188, 197
篾舌児 mer （下）p. 48
篾児干 mergen （上）p. 34, （中）p. 40
篾薛 mese （下）p. 193
篾圖，篾禿 metü （上）p. 188, （続下）p. 131
米跌舌里- mideri- （下）p. 96
米納阿 mina'ā （上）p. 164, （続上）p. 328
敏中合里兀惕 mingali'ūd （続中）p. 301
敏中合里兀歹 mingali'ūdaị （続中）p. 301
米訥 minu の解釈（呼格か主格か）（上）p. 132
～の文中における位置（前置と後置）（続下）p. 20, 188
～の一用法 （続下）p. 432
米訥埃 minu'āị （続下）p. 262
抹赤 moči （続中）p. 250, （続下）p. 31
modun （続中）p. 250, （続下）p. 31, 489
抹敦薛兀勒 modun se'ŭl （続下）p. 489
抹只舌児中合〈中渾〉 moǰirqag （続中）p. 167
忙中豁勒 Mongol の「忙」の字の転写 （上）p. 36
「忙中豁侖 紐察 脱(卜)察安」 Mongolun niuča tobča'ān という表題 （上）p. 7, （続上）p. 265
抹中合阿- moqa-'ā- （続中）p. 116
抹中忽惕中合- moqudqa- （続上）p. 136
mori(n) （下）p. 40, 197
mori unu- （上）p. 178, （中）p. 163
抹舌臘剌- morila- （上）p. 77, （下）p. 192
～の意味変化 （上）p. 178, （下）p. 212
抹舌驎禿 morintu （上）p. 161
抹亦勒孫 moyilsun （中）p. 44
抹赤吉- močgi- （中）p. 152, （続上）p. 62
抹額列惕- mö'ēled- （中）p. 233, （続上）p. 60
抹客額列惕- möke'ēled- （続上）p. 60
抹可舌里-, 抹闊舌里- mökörі- （下）p. 203, （続中）p. 62, 299
木勒禿思 möltüs （下）p. 159
抹那 mönö～抹訥 mönü （中）p. 182, （続上）p. 49, 224
抹舌児 mör （中）p. 10, 121, （続上）p. 61, 285
抹舌里額舌連 mör-i'ēr-ēn の解釈 （中）p. 121
抹舌劣勒- möröl- （中）p. 9

-msar² （続下）p. 107
-msiG/-msig （上）p. 200, （中）p. 204
-mu/-mü～-muį/-müį の意義素 （上）p. 96, 172
～の historical present の用法 （続上）p. 85, 183
木㹠 mud （下）p. 57, 86, （続上）p. 285, （続中）p. 34
門 mun （下）p. 57, 178, （続上）p. 285
門荅 munda （下）p. 178, 201
蒙 mung （中）p. 166, （続中）p. 129
蒙塔你- mungtani- （中）p. 166, （続中）p. 129
木中忽剌舌児 muqular （中）p. 350, （続中）p. 209
木中忽里 木思中忽里 muquli musquli （続下）p. 427
木赤勒者- müčilje- （続下）p. 318
木㹠 müd → mud （中）p. 217, （下）p. 57
木㹠〈勤〉 müdki- （続上）p. 62
木勒禿勤- mültül- （続上）p. 329
木勒禿舌列- mültüre- （中）p. 101
門 mün → mun （上）p. 171, （中）p. 120, 182, （下）p. 57
蒙客 騰格舌里因 古純突舌児 müngke tenggeri-yin küčün-dür の解釈 （続中）p. 259
沐舌漣 müren （中）p. 356, （続下）p. 374
木舌魯迭- mürüde- （下）p. 111
-müser （上）p. 234, （続下）p. 107

магад （上）p. 163
манай, танай （続中）p. 301
морь （下）p. 40, 212, （続下）p. 395
морьт хүн, морьтой хүн （上）p. 226
морил- （上）p. 178, （下）p. 212
мөн （上）p. 171, （中）p. 120, 182
мөнөө と өнөө （続上）p. 49
мөрөөд- （中）p. 9
мяраа- （続上）p. 368

m>n の変化 （下）p. 151
-mb-（蒙古文語など）>-m-（現代の言語） （中）p. 149

モンゴル語での「一日」の分け方 （中）p. 343, 369, （下）p. 205, 351, （続上）p. 21, 23, 169, （続下）p. 205

モンゴル語の《翌日，明日；朝》を意味する語　(下) p. 132,（続下) p. 210
モンゴル語の《川，河，江》を意味する語　(中) p. 355-356
モンゴル語の《速い》を意味する語　(続下) p. 460
モンゴル語の《人間の死》に対する表現　(続下) p. 463
モンゴル語の《揺れる》を表わす語　(中) p. 203,（続上) p. 87
モンゴル語の《刀剣類》を表わす語　(下) p. 52
モンゴル語の〈敵を襲撃する〉に際しての慣用表現　(続下) p. 120
モンゴル語の数詞，「多数」と「吉数」　(上) p. 233, 248,　(下) p. 20,　(続中) p. 101,
モンゴル語の数詞，《二》を意味する語　(上) p. 20　　└(続下) p. 180
モンゴル語の数詞による表現　(続上) p. 134
モンゴル語の月名表示の様式　(続下) p. 562
モンゴル語的（モンゴル的）表現　(続下) p. 462, 531
モンゴル語とテュルク語起源の語との二つによる表現　(上) p. 236,　(中) p. 18, 315,
モンゴル人にとっての《時》(続下) p. 44～45　　└371,（続下) p. 465, 466, 474, 481
モンゴル人の女性観が言語面に現われている一例　(中) p. 20～23,（続上) p. 240
モンゴル人のいみ嫌う存在　(続中) p. 173
モンゴル人の慣習《吉凶を占う》(続下) p. 459
モンゴル人の慣習「宴」(下) p. 47
(モンゴル人の) 婚約の際の儀式　(下) p. 336
モンゴル人が常食とする羊肉　(続下) p. 462→[h の「羊の肉」の項参照]
モンゴル人の乗用の馬　(下) p. 39,（続下) p. 462
モンゴル牧民の遊牧形態　(中) p. 166
モンゴル牧民の家畜の乳搾り　(下) p. 215～216
モンゴル牧民のしきたり　(中) p. 143,（続下) p. 199
モンゴル牧民の視力　(上) p. 41
モンゴルの児童の遊び　(上) p. 246
モンゴルの駱駝　(続上) p. 175
モンゴル包（ゲル）　(上) p. 114,　(中) p. 235, 351,　(下) p. 156,（続下) p. 12, 16, 39, 68, 191, 199, 424
モンゴル包（ゲル）の入口・戸口　(中) p. 77, 263, 307,　(下) p. 94, 309, 311
モンゴル包（ゲル）の《車》を置く位置　(中) p. 143,（続下) p. 198
モンゴル包（ゲル）の中での席次　(下) p. 311, 352,（続中) p. 122, 188
モンゴル包（ゲル）の中での“右側，左側”(続下) p. 190

## n

-n（副動詞語尾）の機能　(上) p. 127, 223
　～の《～しに》・《～するために》の意を示す例　(上) p. 160,（続上) p. 16,（続下)

p. 252
～の「動作の様式」を表わす用法 （下）p. 332
～の形動詞的用法 （続上）p. 29, （続下）p. 72, 281
～を省略する（落す）語法 （上）p. 163, （中）p. 78, 130, （下）p. 336
-n a-（副動詞語尾＋存在動詞）の意義素 （上）p. 213, （中）p. 131, （続中）p. 130, 225, （続下）p. 73, 156
-n alda- （中）p. 117, （続下）p. 366
-n bö'ētele （続下）p. 336
-n bü- （続中）p. 130, （続下）p. 156
-n sori. （続下）p. 110
-n tu'ūrbi- （続下）p. 108
-n yada- （中）p. 97, （下）p. 268, （続上）p. 152, 230
-n yadan （下）p. 111
-n（複数語尾）（上）p. 70, （中）p. 374, （下）p. 14, 85, 121, 128, （続中）p. 188
nabči （上）p. 164, （続下）p. 489
納赤都惕 načid-ūd （続下）p. 480
乃塔- naịta- （中）p. 120, 185
納舌魯亦惕- naluyid- （上）p. 229
納麻 nama（一人称単数代名詞，語幹兼不定格）（下）p. 36
納蛮赤剌- namančila- （続下）p. 185
南巴里思 nambalis （上）p. 227, （下）p. 45
南不中合 nambuga （中）p. 149, 182, （続中）p. 130
納中忽 naqu-d （続下）p. 480
納舌闌 升格兀〈侖〉 naran šingge'ūl- （下）p. 152
納兀舌児 撮亦勒都勒 na'ūr baịyildul （続上）p. 326
柰亦荅- nayida- （続上）p. 149
-ned（複数形成語尾）の成立 （続上）p. 249
捏惕客勒 nedkel （続上）p. 187, 282
捏額- ne'ē- （続中）p. 154
捏格- negē- （続中）p. 154
捏古- negü- （中）p. 201
捏古思 negüs （下）p. 45, （続下）p. 187, 282
捏古思 斡〈都〉 negüs od- （続下）p. 187, 282
捏客- neke- （続上）p. 205
～と hülde- （上）p. 232
捏坤 nekǔn をǔと長母音で表記する理由 （続中）p. 57
粘不列 nembüle （上）p. 142
捏木舌列 nemüre （上）p. 142, （続上）p. 85, （続下）p. 242
捏木舌児〈堅〉 nemür-ge- （続中）p. 35

撚迭-, 撚〈顚〉 nende- (下) p. 318, (続上) p. 200, (続中) p. 61, (続下) p. 158
年都 nendü (続中) p. 143, (続下) p. 25
年都兀惕 nendü-'üd (続下) p. 25
能知温勒孫 nengǰi'ū(n)lsün (中) p. 144
捏舌列亦惕- nereyid- (中) p. 311, (下) p. 78, 228, 260, (続上) p. 161, (続下) p. 331
捏兀列 ne'üle (続下) p. 186, 282
捏兀舌里 ne'üri (中) p. 335
捏兀舌里惕 ne'ürid (上) p. 41
褥兀古 中合舌児石 neü'ükü qarši (続下) p. 424
neyile- (上) p. 77
你多泥 nidoni (中) p. 246
你都舌剌- nidura- (中) p. 28-29, (続中) p. 167, (続下) p. 305
你敦禿舌里顔 中合勒禿 你兀児禿舌里顔 格舌列禿 nidün-dür-iyēn Gal-tu, ni'ūr-tur-iyān gerētü (上) p. 253, (続上) p. 255
你黒撒中合勒札塔剌 niG saGalǰatala (中) p. 161
你只額勒 niǰi'ēl (上) p. 112
你刊 niken の表記について (上) p. 44
～の意味 (中) p. 166
你刊 額耶田 孛勒- niken eyeten bol- (下) p. 316
你客帖列 niketele (中) p. 361
你勒中合 嫩禿黒 nilqa nuntuG (続下) p. 132～135
你勒中合桑昆 nilqa Senggüm (下) p. 311
你舌里温 niri'ūn～你舌里兀 niri'ū と, 你舌魯温 niru'ūn～你舌魯兀 niru'ū (続下) p. 354
你失- niši- (続中) p. 36, (続下) p. 117
你禿〈侖〉 nitul- (続中) p. 167
你兀- ni'ū- (中) p. 141, (続上) p. 265
紐察 脱卜察安 niūča tobča'ān (続上) p. 265
你兀〈舌里〉 ni'ūr と 赤舌来 čiraį (続中) p. 81
你兀舌児〈中罕〉 ni'ūrqa- (続上) p. 131
你亦台- niyitaį- (続下) p. 305
那卜失勒都- nobšildu- (続中) p. 142
那中豁安 noGo'ān と, ebesü(n) (続上) p. 25
noqaį (続下) p. 251, 285
那中孩 客舌列勒 客舌列- noqaį kerel kere- (続上) p. 305
那中合〈訥〉 noqan (続上) p. 250, (続下) p. 251, 285
那黯失克 noyamšiG (上) p. 200
那亦壇 noyitan (続中) p. 142

那可額，那闊額 nōkö'ē （中）p. 334,（続上）p. 129, 136
那闊只 nōköji （続上）p. 136
那闊舌児，那可舌児 nōkör とその原義 （中）p. 226,（下）p. 237,（続下）p. 423
那可舌児 薛兀迭舌児 nōkōr se'üder （続中）p. 202
訥都舌児中合 nudurga （続中）p. 211
（文語の）-nuGūd²（複数形成語尾）の成立 （続下）p. 95
農中合速 nungGasu （中）p. 219,（続上）p. 49
嫩只 nunǰi （続下）p. 241
嫩禿黒 nuntuG （上）p. 27, 149,（続下）p. 38, 50
嫩禿黒 荅舌児中合剌- nuntuG darqala- （続中）p. 236
嫩禿黒 中合舌剌- nuntuG qara- （上）p. 267
嫩禿黒剌- nuntuGla- （上）p. 27
嫩禿赤 nuntūči （続下）p. 37
嫩禿兀臣，嫩禿兀赤〈泥〉 nuntu'ūčin （続下）p. 37, 66
訥舌剌思 nuras （下）p. 134
訥兀 nu'ū （下）p. 123,（続上）p. 150,（続中）p. 122,（続下）p. 535
訥温 nu'ūn （続下）p. 535
那都- nüdü- （続下）p. 241

-на⁴ （上）p. 172
нөгөө, нөгөөдөр （中）p. 334
нөхөр （中）p. 226,（下）p. 237,（続下）p. 423
нуруу （続下）p. 354
нүүр （続上）p. 81
*наа- と *цаа- （続上）p. 39
-н(-n) をもたない "яв явсаар", "гүй гүйсээр" という形 （続下）p. 366

0～n の交替語幹 （上）p. 121, 218,（中）p. 254,（下）p. 261
n-:l-（文語・ハルハ方言など：ダウール語）（続中）p. 37
ni-～i- の交替（語頭） p. 320
人称代名詞 （上）p. 18,（下）p. 36,（続上）p. 86, 212
人称代名詞の属格の位置 （上）p. 117, 132,（中）p. 35,（続中）p. 267,（続下）p. 20

## o

斡惕- od- （上）p. 77, 216, 276,（中）p. 153,（続上）p. 238,（続下）p. 187, 208
斡惕荅- odda- （下）p. 338,（続下）p. 208
斡惕塔- odta- （下）p. 10,（続下）p. 555
斡黒札惕- oGǰad- （続中）p. 29

斡黑札惕中合- oGǰadqa- (続上) p. 292, (続下) p. 9
斡中豁都児 oGodur (中) p. 161
斡勒札 olǰa (続下) p. 293
斡欒古温 olon kü'ün (続下) p. 441
斡欒討兀 olon-ta'ū (上) p. 270
斡欒 兀都舌児 olon üdür (続上) p. 279, (続中) p. 280
斡魯勒察-, 斡魯勒〈滝〉 olulča- (下) p. 305, (続上) p. 126, (続下) p. 335
斡抹黒 omoG (続下) p. 504
汪吉禿 onggitu (中) p. 272
汪札勒荅- ongǰa-l-da- (続中) p. 155
汪舌剌只- ongraǰi- (中) p. 375
斡那 ono (中) p. 273
斡那- ono- (続下) p. 410
斡那剌- onola- (中) p. 273
斡笏卜赤 onubči (続上) p. 140
斡斡児- o'ōr- (中) p. 76
～の補助動詞的用法 (上) p. 113
斡斡舌児察黒 o'ōrčaG (下) p. 261
斡舌児朶格舌児 ordo ger (続下) p. 39, 69
斡舌児朶 格舌児 帖舌児格 ordo ger terge という三語連鎖の解 (続下) p. 66～72
斡舌児中合 orGa (下) p. 212
斡児乞〈敦〉, 斡舌児乞惕- orkid-(orqid-) (中) p. 89, (続下) p. 365
斡羅 oro (中) p. 253, (続下) p. 231, 533
斡舌羅 兀該 oro ügei (続下) p. 208
斡舌羅- oro- (中) p. 70, (続上) p. 237, (続中) p. 205, 280, (続下) p. 95
～と与位格語尾 (上) p. 77, 193
斡羅阿 戈舌劣額孫 oro'ā görö'ēsün (中) p. 360
斡舌羅出 迭兀 oroču de'ǔ (続中) p. 114
斡舌羅黒 oroG (上) p. 140
斡舌欒 oron (続下) p. 9, 224
斡舌羅申 orošin (続下) p. 533
斡舌羅兀勒- oro'ūl-の解 (続下) p. 93
斡因, 斡亦〈納〉 oyin (続下) p. 469
斡亦速剌- oyisula- (上) p. 275
斡亦速剌惕-, 斡亦速剌〈敦〉 oyisulad- (上) p. 275, (続下) p. 559

овоо (続上) p. 84
он と жил (続下) p. 355-356

〔名詞属格形〕+орон∂ (続上) p. 225
отгон тэнгэр (中) p. 311

《王に推戴する》を表わす表現 (続下) p. 431

## ö

斡〈繩〉 öče- (続下) p. 363
斡赤- öči-の使役形 (続上) p. 370
斡惕刊 ödken (中) p. 271, (続下) p. 35
斡惕刊別舌児 米中罕 亦哩額〈泥〉 ödken ber miqan ide'ēn (続下) p. 34
斡惕刊 米中合 ödken miqa (続下) p. 523
斡額迭 ö'ēde (上) p. 47, 233
ö'ēr と ö'ēsün の現代語での現われ (続下) p. 349
斡額舌児 ö'ēr, 斡額舌倫 ö'ēr-ün (下) p. 211, (続中) p. 65, (続下) p. 348, 350
斡額舌児禿 〔~都〕舌里顔 ö'ēr-t[~d]ür-iyēn (続中) p. 291~293, (続下) p. 438
斡額舌児迷赤〈連〉 ö'ērmičile- (続中) p. 65
斡額孫 ö'ēsün (下) p. 211, (続下) p. 348, 350
斡克- ög-の補助動詞的用法 (下) p. 95
~の受身形 (斡克迭- ögde-と 斡克帖- ögte-) (上) p. 66
~と与位格語尾 (続下) p. 141
斡乞 öki と斡勤 ökin (上) p. 218, (中) p. 125, (下) p. 261, 264, (続下) p. 76
斡乞 中合禿 öki qatu (上) p. 223, (下) p. 264
斡乞惕 古舌里格惕 ökid küriged (続下) p. 443
斡乞都延 ökid-ü-yēn という表記について (続中) p. 156
斡列 öle (上) p. 263
斡郎 öleng (続下) p. 327
斡里児孫 ölirsün (中) p. 44
斡勤澤禿 槐因 亦舌児格〈泥〉 ölǰeǰtü hoǰ-yin irgen (続下) p. 98
完勤只格 ölǰige (上) p. 51
斡羅速木薛児 ölösümüser (上) p. 234, (続下) p. 107
斡魯克牙孫 ölüg yasun (続中) p. 89
斡魯木列- ölümle- (続中) p. 157, (続下) p. 304, 558
斡篾児- ömēr-, 斡篾舌列- ömēre- (中) p. 87, (続下) p. 155
斡捏赤惕 önečid (続上) p. 49
önečin kö'ü の意味 (続上) p. 49
汪格古 önggegü (続中) p. 35
斡那児 önör (中) p. 255

斡舌児中豁里牙舌児 ör gol-iyar （続下）p. 548
斡舌列 öre （中）p. 10,（続上）p. 344,（続下）p. 548
斡舌劣額列 öre'ēle （上）p. 99
斡舌児篾格 örmege （続下）p. 243
斡舌羅 örö （中）p. 10,（続下）p. 548
斡舌魯克 örüg （続下）p. 9, 50, 322
斡舌魯格 örüge ～ 額舌魯格 erüge （続下）p. 9
——の意味と現代諸方言での形 （上）p. 119,（続下）p. 6-7
斡思- ös- （続中）p. 177
斡速勒扯- ös-ü-lče- （続中）p. 177
斡〈旋〉 öse- （上）p. 244
斡雪勒 ösöl （上）p. 244
斡帖児篾列- ötermele- （中）p. 81
斡脱克 ötög, 斡脱克列- ötögle- （下）p. 246,（続上）p. 221
斡脱古思 兀格思 ötögüs üges （中）p. 89,（続下）p. 365
斡耶薛- öyese- （続上）p. 339
斡亦速列〈都〉 öyisüled- （上）p. 275,（続下）p. 558

өвдөгцөө （上）p. 242
өвөг эцэг （続下）p. 413
өвөрмөц （続中）p. 65
өг-（補助動詞）（下）p. 95
өдий （下）p. 24, 48
өлмий （続中）p. 158,（続下）p. 305
өмнөөс （下）p. 300
өнжи- （続中）p. 173
өнөө （続上）p. 49
өө （続下）p. 234
өөд と уруу （上）p. 47
өөрөө （中）p. 288,（続上）p. 235
өр, өрөвдө- （中）p. 10,（続上）p. 344
өрх （上）p. 119,（続下）p. 6
өтгөн （中）p. 271

## q

中合 qa（qan の不定格）（上）p. 241,（中）p. 382,（続下）p. 431
中合 額舌児古- qa ergü- （上）p. 241,（続下）p. 431

中合 qa《貢物》（続下）p. 243
中合 qā《前脚》（続上）p. 153
中合- qa-《射る》（下）p. 294,（続上）p. 78
中合阿 qa'ā《何処》（続上）p. 307
qa'ā-《閉じる》（中）p. 220
中合阿納 qa'ān-a, 中合阿泥 qa'ān-i, 中合阿訥 qa'ān-u（上）p. 9
中合阿台 qa'ātai（中）p. 220
中合巴舌剌察 忽泥 康失塔剌 qabar-ača huni qangšitala（続下）p. 135
中合卜赤- qabči-（続中）p. 174
中合必児中合 qabirga（続下）p. 459
中合必児中合塔 qabirga-ta（上）p. 241
中合必児中合児 qabirgar（上）p. 84
中合卜闌 qablan（中）p. 86
中合卜中合舌里- qabqari-（続下）p. 325
中合鑌古出 額舌児點 qabu küčü erdem（続下）p. 164
qabur qaburǰi-（続下）p. 393
中合赤都惕 qačid-ūd（続下）p. 479-481
中合荅中合 兀該 qadaga ügei（続下）p. 537
中合荅勒-, 中合荅〈侖〉 qadal-（中）p. 89,（続下）p. 365
中合荅(舌)侖 荅温 qadar-u-n da'ūn（続下）p. 161
中合荅舌剌 qadara（中）p. 63
中合荅舌剌- qadara-（中）p. 220
中合荅兀只- qada'ūǰi-（中）p. 121
中合惕中忽舌剌速 qadqurasu（中）p. 270
中合中合察- qagača-（続中）p. 78
中合中合勒荅- qagalda-（続中）p. 77
中合中合孫 qagasun（中）p. 80
中合中合思 qagas（上）p. 208,（下）p. 45,（続中）p. 79
～の意味の変化（続上）p. 76,（続下）p. 42, 548-549
～を繰返した表現（続下）p. 54-56
中合罕 qahān（続下）p. 326, 545
～の「罕」の表記について（上）p. 9
中合罕 額徹 qahān-eče の解（続下）p. 326
中合勒- qal-（続上）p. 79, 81
中合剌 qala（中）p. 361
中合剌阿舌児 qala'ār（続下）p. 231
中合剌惕 qalad（中）p. 85,（続下）p. 299
中合勒都惕塔 中合〈舌魯〉 qaldud-ta gar-（下）p. 302

中合勒中合孫 qalGasun （中）p. 235
中合里速 qalisu （中）p. 298
中合里温，中合里兀〈泥〉 qali'ūn （中）p. 328，（下）p. 230
中合里牙児孫 qaliyarsun （中）p. 49
中合勒塔赤- qaltači- （中）p. 247
中合勒塔舌鄰勒 兀該 qaltari(n)l ügei （続上）p. 304
（文語の）qamiGa 系の語 （続上）p. 307
中合木中合〈侖〉，中含中合〈侖〉 qamqal- （続上）p. 250，（続中）p. 166
中含中合舌魯 qamqaru （中）p. 263，（下）p. 177，（続中）p. 166，（続下）p. 321
中含中合兀勒孫 qamqa'ūlsun （中）p. 259
中含禿惕-，中含禿〈敦〉 qamtud- （続上）p. 303，（続中）p. 17
～と 捏亦列- neyile- （続中）p. 15
中含撒- qamsa- （下）p. 63，（続下）p. 344
中合木黒 忙中豁勒 qamuG MongGol （上）p. 212
中罕 qan （上）p. 241，（続下）p. 430，459
中罕 額舌児古- qan ergü- （続下）p. 430
中罕 額赤格 qan ečige （続下）p. 326
中合納勒中合 qanalGa （下）p. 62
中罕荅- qanda- （続中）p. 238
中罕荅中孩 qandaGai （続下）p. 327
中慷- qang- （続下）p. 464
中康中合思 qangGas （上）p. 208，（下）p. 45，122
中康失- qangši- （続下）p. 137
中合泥勒〈中罕〉 qanilGa- （上）p. 129
中合中忽納黒 qaqunaG （続下）p. 299-300
qar～qara（附属語） （上）p. 184
中合舌剌 qara （下）p. 327，（続下）p. 303
中合舌剌中忽舌魯 qara quru （上）p. 145
中合舌剌 帖舌里兀 qara teri'ŭ （中）p. 362
中合舌剌 帖舌里兀禿 古温 qara teri'ŭtü kü'ŭn （上）p. 129
中合舌剌 兀台 qara ū-tai （上）p. 51
中合舌剌訥兀惕 qara-nu'ūd （続下）p. 95
中合舌剌禿 qara-tu （中）p. 303
中合舌喇- qara- の意義素 （上）p. 42
中合舌喇- qara- と兀者- üje- （上）p. 43，49
中合舌剌中合納 約舌児赤勒 qaraGana yorčil （続上）p. 326
中合舌剌黒赤兀惕 阿剌黒赤兀惕 禿黒壇 qaraGči'ūd alaGči'ūd tuGtan （続上）p. 32
中合舌藍伯 那中豁速 qarambai noGasu （続中）p. 54

中合舌郎中忽 qarangGu ～中合舌郎中灰 qarangGuị (下) p. 193, (続上) p. 18, (続下) p. 562
中合舌剌兀勒 qara'ūl (続下) p. 523
～と中合舌剌 (舌腕) 兀勒孫 qara'ūlsun (中) p. 45, 145, (続上) p. 23, (続中) p. 58,
中合舌剌兀勒 迸歩- qara'ūl yabu- (下) p. 268 ⌊205
中合児必牙- qarbiya- (中) p. 325
中合児察 qarča (中) p. 236
中合舌児中含, 中合舌児中甘 qarGam (中) p. 360, (続下) p. 308
中合舌里 qari (中) p. 360, (下) p. 14, 121, (続下) p. 325
中合〈舌鄰〉 qari- (続中) p. 29-31, (続下) p. 224
中合舌鄰 塔塔- qarin tata- (続下) p. 223-224
中合舌撒 qarin (下) p. 14, 121
中合児乞 qarki (中) p. 114
中合舌児中合- qarqa- (続上) p. 26
中合撒児 qasar〈狗名〉 (中) p. 86
中合壇 qatan, 中合唐中忽 qatangGu (中) p. 270
中合塔兀赤- qata'ūči- (中) p. 121
qatu～qatun (上) p. 218, (下) p. 261, 264
中合禿揚 qatud の二つの解 (下) p. 264
中合兀赤揚- qa'ūčid- (下) p. 300-302
中合亦剌- qayila-と, ungši- (中) p. 118
中合翼舌魯中合納 qayiruGana (下) p. 274
乞卜 qib (続下) p. 464
乞不兀的牙舌児 qib-u'ūd-iyār (続下) p. 237
乞都- qidu- (続下) p. 222-223
吉〈真〉, 乞〈真〉 qiǰi-(n) (続下) p. 268
乞只阿舌児 qiǰi'ār (続下) p. 268
乞靈剌- qilingla- (続下) p. 165
中豁埃 qo'āị (上) p. 18
中豁綽荅- qočoda- (続上) p. 350
中豁撦児-, 中豁綽児- qočor- (下) p. 312, (続上) p. 350
～の補助動詞的用法 (中) p. 101, 160, (続上) p. 271
中豁都剌- qodula- (中) p. 281
中豁黒 qoG (続下) p. 73
中豁只兀剌思 qoǰi'ūlas (上) p. 152, (続下) p. 222
中豁乞埋 qokimaị (中) p. 303
中豁乞舌児 qokir (中) p. 302
中豁勒巴〈舌闌〉 qolbāra- (続下) p. 320

中豁魯中合楊 qoluGad （中）p. 93
中豁馬兀勤 qoma'ūl （続下）p. 73
中晃中豁〈舌里〉 qongGor （中）p. 161
中豁紐 qonin （続下）p. 545
中管只牙孫 qonǰiyasun （中）p. 371
中豁那(你)阿主兀 qono(n) aǰu'ū （上）p. 163,（中）p. 130,（下）p. 336
中豁那(你)阿兀魯来 qono(n) a'ūlulaį （中）p. 130
中豁斡来顔 中忽赤- qo'ōlaį-yān quči- （続中）p. 189,（続下）p. 306
中豁舌児 qor （中）p. 369,（続上）p. 221
中豁中里顔 迭列〈都〉 qor-iyān deled- （続上）p. 311
中豁舌児中豁木撒 qor qomsa （続下）p. 36
中豁舌児- qor- （下）p. 19
中豁舌児赤剌- qorčila- （続上）p. 221
中豁舌児臣 qorčin （続中）p. 284,（続下）p. 63, 64-66
中豁舌児中合 qorGa《とりで》（下）p. 19
中豁舌児中合- qorGa-（qor-の他動詞形）（上）p. 148,（下）p. 19
中豁児中豁- qorGo- （中）p. 138
中豁児中豁剌- qorGola- （中）p. 95,（下）p. 19
中豁舌羅黒- qoroG- （上）p. 229
中豁舌児埋 札撒兀〈魯〉 qormaį ǰasa'ūl- （続下）p. 412
中豁舌魯木楊 qorom-ūd （上）p. 165
中豁舌魯- qor(u)- （続下）p. 297-298
中豁室 qoš （下）p. 351
中豁失里〈中渾〉 qošiliG （中）p. 104,（下）p. 351
中豁園 qoton （中）p. 371
中豁牙児 qoyar と只舌鄰 ǰirin （中）p. 20
中豁亦剌兀楊 qoyila'ūd （中）p. 54
中豁亦馬舌児 qoyimar （下）p. 311, 352,（続中）p. 122
中豁亦納察 qoyina-ča （中）p. 212
中豁亦納察 速木訥 古舌児恢 兀主兀舌列 qoyina-ča sumun-u kürkūį ūǰü'ǔr-e （続上）p. 192
中豁亦納温 qoyina'ūn （続上）p. 192,（続下）p. 262
中豁亦圖 農合速禿 帖児干 qoyitu nungGasutu tergen （中）p. 143
中撒亦禿兀〈剌〉 qoyitu'ūl （続下）p. 198
-qu-/-kü- （強調辞）（中）p. 301
-中忽／-古 -qu/-kü（形動詞語尾）の平叙文での終止用法 （上）p. 271,（続上）p. 184
-中忽 -qu で過去の事実を表現した例 （続下）p. 123
-qu² bol- （続上）p. 237,（続下）p. 123, 156

-中忽 不列額 -qu(-kū) bŭle'ĕ の意味 (上) p. 126, (中) p. 177, 307, (下) p. 110
-qu² ügeị (続下) p. 159
中忽卜溏 qubčan (下) p. 85
中忽必 qubi (上) p. 137, 226, (続中) p. 268
中忽不舌里 quburi (上) p. 226
中忽赤-, 中忽〈臣〉 quči- (上) p. 227, (中) p. 223, (続中) p. 33, 189, (続下) p. 306
中忽赤阿- quči'ā-, 中忽察- qučā- (続中) p. 33
中忽赤里思 qučilis (上) p. 227, (下) p. 45
中忽赤兀勤- quči'ūl-, 中忽赤溫勤- quči'ū(n)l- (使役形の訳出) (中) p. 223, (下) p. 162
中忽荅 quda (上) p. 252
中忽荅勤都周 阿不- qudaldu-ǰu ab(u)- (続上) p. 176
中忽中忽赤- quGuči-と中忽中忽〈魯〉 quGul-のちがい (上) p. 113
中忽中忽舌剌- quGura-と中忽中忽勤荅- quGul-da- (下) p. 113
中忽中忽舌魯 quGuru (中) p. 95, 263, (下) p. 11, 177, (続下) p. 321
中忽中忽思 quGus (上) p. 208, (中) p. 216, (下) p. 45, 122
-中灰 -quị が -quyi (中忽宜) と音訳されたと思われる例 (続中) p. 262 [関連事項, (続上) p. 163]
-quị²-a² と -quị²-dur² (続下) p. 117, 286
-quị-ača/-küị-eče (続上) p. 340-341, (続下) p. 157, 237
-中忽由 -quị-ū (-qu-yū) の転写法について (中) p. 103, 301, (下) p. 198～200, [関連事項, (続上) p. 79]
中鶡剌都, 中忽剌都 quladu (中) p. 301, (続中) p. 56
中忽剌黑- qulaG-系の語と, 中忽剌中忽- qulaGu-系の語 (下) p. 55
中忽剌中孩 把舌里- qulaGaị bari- (下) p. 42
中忽剌黑赤〈泥〉 qulaGčin (中) p. 147
中忽鼈中合納 quluGana (続下) p. 328
-中渾 -qun (-qu の複数形) (上) p. 51, (下) p. 348, (続下) q. 49
中忽納舌児 qunar (中) p. 302
中忽舌剌- qura- (中) p. 118, (続下) p. 561
中忽舌児堆〈闌〉 qurduị la-と, 実詞 qurduị の存在の推定 (続下) p. 252
qurdun (続下) p. 252, 460
中忽舌里- quri- (中) p. 70, (続中) p. 33
～と qura- (中) p. 118, (続下) p. 561
中忽舌里中罕 quriGan (中) p. 147
中忽舌鄰勤塔 quri(n)lta と, quriltaị という形 (続下) p. 560
中忽舌林 札撒- qurim ǰasa- (下) p. 39

中忽舌里牙- quriya- (中) p. 34
「(中)古舌里牙-」quriya-という表記 (中) p. 34
中忽塔黒剌- qutaGla- (続上) p. 356
中忽禿黒 qutuG (続中) p. 143

-x (文語 -ki) 《～のもの》 (上) p. 158
-x (動詞語尾) (続上) p. 184
-x бол- (続下) p. 123
хавирга (上) p. 86
хагас (続上) p. 42, 76, (続下) p. 549
хазаар (続下) p. 557
хамхуул (中) p. 259
ханила- (上) p. 129
хар (附属語) (上) p. 184, (続上) p. 220
хар- と үз (上) p. 43
хойлог (中) p. 56
хоймор (続中) p. 122
худ と худгуй (上) p. 252
-хуйц/-хүйц (続上) p. 340, (続下) p. 157
хурал と хурим (と хуралдаан) (中) p. 119, (続下) p. 561
хурууд (続下) p. 298

## r

-ra²-, -l- (-la-/-le) による自動詞と他動詞の形成 (上) p. 114, (続下) p. 16
-ra²- (反照動詞〔middle verb・再帰動詞〕形成接辞) (上) p. 220, (続下) p. 155, 290, 466
-ra/-re (目的副動詞) (中) p. 33, (下) p. 262
-ra/-re (場所・方位を意味する接辞) (中) p. 79
-ri (出動実詞形成接辞) (続下) p. 243
-ri- (出動動詞形成接辞) (中) p. 375, (下) p. 152, (続中) p. 63, (続下) p. 10
-rqa-/-rke- (出実動詞形成接辞) (下) p. 204, (続上) p. 133, (続下) p. 235
-rqaG/-rkeg (中) p. 374-375
-舌魯 -ru/-rü をもつ副詞的状態言〔副詞的動態言〕(中) p. 95, 263, (下) p. 11, 177, (続上) p. 357, (続下) p. 321
-舌倫 -run/-rün (上) p. 93, 216, (中) p. 129, 164, (下) p. 139, 289, (続中) p. 9, 263, 296, (続下) p. 210
～の意義素〔意味の本質・基本的職能〕(上) p. 246-248, (続上) p. 130, (続中) p.

27, (続下) p. 85
～の理由の提示を意味する例 (続中) p. 40
～の用法の原則 (続下) p. 85
～の発生的な意味, 起源について (上) p. 279, (下) p. 290, (続中) p. 204, 242

o～-r-, -r の交替語形〔語末に -r をもつ形ともたない形の共存〕(上) p. 85, (続中) p. 91, (続下) p. 466
-r>-l の変化 (語末) (中) p. 292, (下) p. 245
-ri- と -yi- の交替 (続上) p. 366
reduplication の語法 (続下) p. 154

駱駝 (下) p. 229, (続上) p. 175, (続下) p. 401

## S

-s (複数形語尾) (下) p. 104
-思 -s (動作の瞬間性を表わす接辞) (上) p. 208, 227, (中) p. 216, 260, (下) p. 45, 122, (続上) p. 77, (続下) p. 187, 188, 282, 329, 336
-s と -ru/-rü (中) p. 260, 263, (続下) p. 321
-s ki-, -s kiǰü (下) p. 111, (続上) p. 355
-s- (自動詞形成接辞) (続上) p. 123
-sa-/-se- (出実動詞形成接辞) (続上) p. 339
撒阿- sa'ā- (続上) p. 150, (続中) p. 130, (続下) p. 39
撒安阿舌命 sa'ā-n a-run の a- の用法 (続中) p. 130
撒阿兀動- sa'ā-'ūl- (続下) p. 39
撒阿舌鄰臣 sa'ālinčin (続下) p. 532
撒察兀 sača'ū ～撒察温 sača'ūn (上) p. 20, 102, (続中) p. 296
sača'ūn の二つの解 (続中) p. 296
撒出- saču- (中) p. 269
撒出里 sačuli (中) p. 237
撒中合- saGa- (中) p. 162
撒黒剌中合児抹教 saGlaGar modun (上) p. 241
撒中忽惕 saGud (続下) p. 535
撒卯兀 samaṷ'ū (続上) p. 367
撒卯危 samaṷ'ūi̯ (続上) p. 367
三把- samba- (中) p. 79
毯失- samši-, 毯失牙- samšiya- (下) p. 244
撒中合勒伯顔 saqal bayan (中) p. 261

撒舌剌兀舌児 sara'ūr （中）p. 292
撒舌児中忽〈荅〉 sarqud （中）p. 17
撒塔- sata- （続中）p. 123, 223
撒兀- sa'ū- （続中）p. 138,（続下）p. 471. 536, 555
～の補助動詞的用法 （中）p. 78,（下）p. 152,（続下）p. 120
撒兀 不恢突児 sa'ū büküi̯-dür （上）p. 163,（中）p. 78,（下）p. 336
撒兀黒荅- sa'ū-Gda-の意味 （続上）p. 268
撒兀黒撒阿舌児 sa'ū-Gsa'ār （続上）p. 217
撒兀勒荅- sa'ūlda-の表記 （続下）p. 555
撒兀舌里 sa'ūri （続中）p. 121, 138
撒兀舌鄰 sa'ūrin （下）p. 128,（続下）p. 546
掃花 sau̯qua （中）p. 316
撒亦 sayi (sayinの不定格)（上）p. 218,（中）p. 256,（下）p. 261,（続中）p. 205
撒亦 兀者速 sayi ǔǰesü （続下）p. 308
撒亦，撒宜 sayi（文語形 saya）（続中）p. 121,（続下）p. 97
撒亦巴舌児 sayibar （下）p. 209
撒亦中合禿舌児 sayiqatur （下）p. 7
薛赤- seči- （下）p. 4
薛惕乞勒突舌児 斡脱舌児 朶脱列- sedkil-dür ötör dötöle- （続下）p. 165
薛惕乞兪 曲魯吉耶舌児 sedkil-ün külüg-iyer （続中）p. 132
薛額只格列- se'ēǰigele- （中）p. 237
薛古- segü- （続上）p. 304
sele- ～selgü- （下）p. 153,（続上）p. 199
薛勒帖 selte （続上）p. 220,（続下）p. 205
撏 孛里 sem boliの解釈 （上）p. 237
襄格〈舌連〉 senggere- （下）p. 46
僧帖勒- sengtel- （下）p. 163
僧帖舌列- sengtere- （下）p. 201
薛舌列- sere- （上）p. 117
～と薛児古- sergü- （下）p. 153,（続上）p. 199
薛兀迭舌児 se'ǔder （下）p. 47
薛兀薛 se'ǔse （続下）p. 470
嘯兀舌列勒- seü̯'ǔrel- （下）p. 258
失阿 ši'ā と，その現代語での形 （上）p. 246
失把 šiba （続中）p. 15
失保兀中合〈泥〉 šibau̯'ūqan （中）p. 136
失別舌里- šiberi- （中）p. 94
失必勒格舌児 šibilger ～失不勒格〈舌里〉 šibülger （上）p. 235,（続中）p. 209

拭察班勒札- šičabalǰa- (上) p. 124
失惕坤勒 šidkü(n)l (上) p. 192, (中) p. 195
失都舌児中忽 šidurGu (続下) p. 426
失都舌児忽惕中合- šidurGudqa- (続中) p. 261
失都 šidü (下) p. 304
失額克 ši'ēg (続中) p. 113
失吉顔中豁納黒剌- šigi-yēn qonaGla- (続下) p. 304
失乞刊中忽都中忽 Šigiken-quduGu (下) p. 78
失勒 šil (続上) p. 279
失列古 šilegü (中) p. 370, (続下) p. 532, 545
失列篾勒穫 šileme-lǰe-n (続上) p. 329
失勒古勒〈刊〉 šilgüd-ke- (続下) p. 10
失里溫 šili'ün (続上) p. 257
失勒只〈舌鄰〉 šilǰi-ri- (続下) p. 10
失勒帖速 šiltesü (続下) p. 12
失魯格惕 šilüged (中) p. 94
失魯舌児帖- šilürte- (下) p. 150
失馬里中合黒荅- šimaliGa-Gda- (続下) p. 195
濕納阿 šina'ā (下) p. 123
哂赤伯顔 Šinči-bayan (上) p. 73
失怎 šini (続下) p. 393
失中合-, 失〈中罕〉 šiqa- (続上) p. 269, (続下) p. 197, 400
失舌剌阿勒壇 šira altan と失舌剌馬勒 阿勒塔壇 širamal altatan (続下) p. 479
失舌闌勒 šira(n)l (中) p. 203
失舌児不孫 širbüsün (続上) p. 182
失舌列- šire- (続上) p. 339
失舌列木 širemü (続上) p. 339
石舌児中忽勒荅罷者 širGūldaba-ǰe の転写と「長母音の出現」(続上) p. 131
失舌児戈列- širgöle- (続上) p. 135
失舌児古額列- širgü'ēle- (下) p. 215
失舌里 širi (続上) p. 182
失舌羅 širo (中) p. 46
失舌羅勒中合 širolGa (上) p. 87
失舌児中合-, 失舌児〈中罕〉 širqa- (続中) p. 154, (続下) p. 98
昔思該 sisgeį (続中) p. 100
失圖, 失禿 šitü (下) p. 302, (続下) p. 325
失禿- šitü- (下) p. 140, (続中) p. 133
失禿額列勒都 šitü-'ē-le-ldü- (続中) p. 133

失兀赤 中合楊中忽勒都阿 ši'ŭči qadquldu'ā （続上）p. 326
失兀速〈訥〉 ši'ŭsün （続下）p. 547
-šiya-/-šiye-（出実動詞形成接辞）（下）p. 347,（続上）p. 72,（続中）p. 271,（続下）p. 234
失亦舌剌 siyira （上）p. 191
莎必剌- sobila- （続下）p. 397
鎖中豁孫 soGosun （中）p. 69
莎只舌児 soǰir （中）p. 349
莎勒〈寅〉 solbi- （下）p. 113
鎖納 sona （下）p. 196
莎汪中忽- soongGu- （続中）p. 144, 187
梭斡舌児，莎斡舌児 so'ōr （下）p. 289,（続上）p. 203
莎斡舌剌- so'ōra- （下）p. 289,（続下）p. 370
鎖中豁舌児 soqor （下）p. 230
鎖舌里- sori- （上）p. 220,（続下）p. 110, 219
莎余舌児中合- soyurqa- （下）p. 204
雪泥 söni （続下） p. 205
雪泥 額舌児帖 söni erte の解釈 （下）p. 348
雪泥迭 söni-de （下）p. 352
雪都舌児- södür-（südür-）（下）p. 304,（続上）p. 125
雪都舌児堅 södürgen（südürgen）（下）p. 304,（続上）p. 125, 127
雪余-，莎余- söyü- （続中）p. 293
雪余額舌児 söyü'ēr （上）p. 131,（続下）p. 367
-速 -su（一人称の希願を表わす語尾）（続上）p. 140
速 su，速壇 sutan （中）p. 46
速荅勒必- sudalbi- （続中）p. 36
速只牙速 sujiyasu （下）p. 149
-su(n)/-sü(n) をもつ語：-su(n)/-sü(n) をもたない語（秘史：文語や現代の諸方言）（中）p. 45, 145, 270,（下）p. 149,（続上）p. 23, 251,（続中）p. 84
-su(n)/-sü(n) で終わる実詞の複数形 （中）p. 287,（下）p. 128
-su(n) で終わる実詞からの動詞形成 （続下）p. 196
孫都舌児- sundur- （続下）p. 220
速斡舌剌- su'ōra- （下）p. 289,（続上）p. 203
速別赤 sübeči （続上）p. 237
速都 südü《歯》（šidü の交替形）（上）p. 10, 137,（下）p. 303,（続上）p. 125
速敦 südün（植物名）（中）p. 47
速客思 sükes （続下）p. 539
速勒別舌児歸 sülbergüi （続上）p. 310

速勒迭児，速勒迭〈舌列〉 sülder （上）p. 258,（続中）p. 91
暑漣，暑洌〈捏〉 šülen （続上）p. 284,（続中）p. 203,（続下）p. 545
～の表記と現代語での形 （続下）p. 531-532
速篾思 sümes (sümeの複数形)（続下）p. 417
速舌魯〈昆〉 sürüg （続下）p. 545
速亦- süyi-，速余- süyü- （続中）p. 293

-саар⁴ （中）p. 379,（下）p. 69,（続上）p. 358
-саар⁴ と -снаар⁴ （続中）p. 247
сайн と сайтар （下）p. 7
сайн と сайнаар （下）p. 209
-сан⁴ ажээ と -сан⁴ билээ （続下）p. 259
сархад （中）p. 18
соёл （続中）p. 294
суу-の補助動詞的用法 （中）p. 78
суурь （下）p. 128
сэл- ～сэлгэ- （続上）p. 30, 199
шагаа ～ шагай （上）p. 246
шинэ （続下）p. 393
шөл （続上）p. 284
шөлөглөн саа- （下）p. 216

-s- ～ -d-の交替（音節末）（上）p. 219,（下）p. 103,（続上）p. 62, 355
（モンゴル文語の音節）si のあらわす音，[si] と [ši][ʃi] （続上）p. 125,（続中）p. 100
再帰格語尾・再帰曲用方式 （中）p. 219, 234,（下）p. 78, 112,（続下）p. 350
再帰対格・再帰属格 （下）p. 11, 134,（続中）p. 81, 202, 229,（続下）p. 351, 395, 441, 558
再帰不定格 （続中）p. 156, 202
指上形・指下形 （続中）p. 229,（続下）p. 209
指示代名詞 （上）p. 108,（続上）p. 212
主格か対格か （下）p. 229
性と数の一致 （上）p. 39, 248,（中）p. 51, 58, 89, 139, 217,（下）p. 61, 139, 348,（続上）p. 16, 32, 49, 138, 355,（続中）p. 280,（続下）p. 285
性と数の一致の崩壊過程を示す例 （上）p. 248, 279

シャーマニズムの祭事・祭礼，シャーマン祈禱 （上）p. 14, 75, 192, 241,（続上）p. 84, 251
戦闘時の三つの戦法 （続上）p. 326

## t

-ta（回数を表わす接辞）（上）p. 270
-ta/-te（高さ格の語尾）（上）p. 242,（続上）p. 340
塔 ta （下）p. 6,（続下）p. 182, 209
塔阿舌剌勤都- ta'āra-ldu-（続中）p. 309
-taị/-teị（-tu/-tü の女性形）の用法（続下）p. 7, 470
台中合勤 taịqal（続中）p. 8
塔乞 taki（助辞）（上）p. 229,（続上）p. 268→[teki 参照]
塔勤-, 塔魯- tal(u)-（中）p. 382,（下）p. 155
-tala/-tele（副動詞語尾）の，本来の意味（続上）p. 369
～の「逆説」の意味（中）p. 160
～と a-, bü-（上）p. 106-107
～で率いられる従属節（続上）p. 78
～の珍しい用法（続下）p. 336
～の実詞語尾性（中）p. 361
塔剌- tala-（続上）p. 226
塔勤必- talbi-の補助動詞的用法（上）p. 141
塔勤必黒撒惕 talbiGsad（中）p. 285
探馬 tamma, 探馬赤 tammači, 探馬臣 tammačin（続下）p. 470, 474
談禿〈魯〉 tamtul-（中）p. 382
-tan[2]（-taị の複数形）（続下）p. 374
-壇／-田 -tan/-ten《～等, ～達》（上）p. 202,（中）p. 78,（下）p. 209
-壇 孛倫 -tan bolun（下）p. 25
塔納 tana（下）p. 65
儻吉 tanggi（続上）p. 293
塔乞- taqi-（taki-）（続上）p. 248,（続中）p. 222
塔舌剌黒 不舌里額禿 taraG büri'ētü（下）p. 155
塔児巴中合惕 tarbaGad（中）p. 154
塔児中忽台 TarGutaị（下）p. 192
塔兀勤- ta'ūl-（続中）p. 307
討兀勤- taụ'ūl-（続下）p. 431
塔亦- tayi-（続上）p. 247,（続中）p. 222
-te（現象・物事の程度を表わす）（続上）p. 37
帖卜騰格舌里 Teb-tenggeri（続下）p. 154
帖卜赤- tebči-（中）p. 81,（続中）p. 244
帖迭 tede（中）p. 168,（続上）p. 86

帖迭 孛侖 tede bolun （下）p. 316
帖堆 tedüi （上）p. 60, 80, （中）p. 244
～の副詞的用法と形容詞的用法 （続上）p. 210
帖額- te'ē- （中）p. 200
帖乞 teki《～さえ，～も》（下）p. 194, （続上）p. 268
帖勒 tel （中）p. 147
帖列格 telege （続中）p. 28
帖里 teli (te-li) （続中）p. 66, （続下）p. 211, 337
忝迭克，忝帖〈昆〉 temdeg の語構成 （上）p. 128, （続中）p. 137
帖篾徹-，帖篾扯- temeče- （上）p. 265, （中）p. 260, （続上）p. 347
帖篾額的顔 阿都剌兀〈侖〉 teme'ēd-iyēn adūla'ūl- （下）p. 229
驐篾延 阿赤阿 temeyēn ači'ā （続下）p. 400
忝古- temgü- （上）p. 149, （中）p. 45
-ten (-tü の複数形) （続中）p. 262
田迭 tende （下）p. 24, （続上）p. 266
田迭徹 tendeče の接続詞的用法 （中）p. 75
騰格舌理 tenggeri （上）p. 11, （続下）p. 295
騰汲思 Tenggis （上）p. 21
帖舌列 tere （続下）p. 337
～の漠然とした《その》を表わす用法 （下）p. 283
～の文全体をひきしめる機能 （続下）p. 345, 504
～の《そのように，かくして》と訳しうる例 （続下）p. 241
帖舌列 兀主兀舌列 tere üjü'ŭr-e の解 （続下）p. 445
帖舌児格 阿撒舌剌- terge asara- （続下）p. 50
帖舌児格敦 兀主兀舌列 terged-ün üjü'ŭr-e （続下）p. 198
帖児格勒 tergel （中）p. 111
帖舌里兀，帖舌里温 teri'ŭ(n) （上）p. 24, 202, （続上）p. 98, （続下）p. 190
帖舌里兀捏 teri'ŭn-e の -e の解 （上）p. 23
teri'ŭn と禿舌侖 türün （上）p. 26
帖舌里兀邉 中罕主中合剌- teri'ŭ-ben ganjuGala- （続下）p. 303
帖舌里温突舌児 古舌児- teri'ŭn-dür kür- （続下）p. 209
帖舌里兀連 teri'ŭle-n （下）p. 32
帖舌里兀田 teri'ŭten （上）p. 202, （続中）p. 172
帖舌児篾 terme （続上）p. 189, （続下）p. 400
帖兀別舌児 te'ŭ-ber （続下）p. 164
帖兀訥埃 te'ŭn-ü'ēi （続下）p. 262
帖兀舌列兀勒速 te'ŭre'ŭlsü （中）p. 373
帖亦列- teyile- （上）p. 152

帖亦木 teyimü の文終止の用法 (下) p. 303
帖因 客額- teyin ke'ē- (続下) p. 49
帖因客額惕 teyin kē'ēd《そして，それから》(続上) p. 50
帖因古 teyin-kü (中) p. 75
脱阿 to'ā，脱斡 to'ō (続下) p. 393, 394
脱阿班 脱斡剌勘都- to'ā-bān to'ōlaldu- (続上) p. 276
脱安 to'ān (上) p. 137
脱必察兀惕 tubičaūd (続下) p. 480
脱勘乞思- tolgis- (上) p. 235
脱里 toli (続上) p. 140
脱納黒 tonaG，脱那黒 tonoG (続上) p. 227, 335
脱斡剌- to'ōla- (続下) p. 394
脱斡舌里中合- to'ōriGa- (続上) p. 332
脱舌児魯黒 torluG (続上) p. 251
脱舌羅侖 torolu-n (続上) p. 334
脱兀剌- to'ūla- (続下) p. 394
脱兀舌児中合 to'ūrGa (続中) p. 101
脱亘 toyi (続上) p. 30
脱亦惕- toyid- (下) p. 109
拖亦〈闌〉 toyila- (中) p. 329
脱孛都惕 那中豁〈的〉 töbödŭd noqad (続下) p. 369
脱迭額- töde'ē- (töde-の他動詞形) (続上) p. 367
脱歌舌里該 tögörigei, "tögörigei ulus" (続中) p. 82
脱列惕 töled (続下) p. 533
脱舌列 töre ～ 脱舌劣 törö (続中) p. 160
töre～törö と約孫 yosun (続中) p. 160, 220
脱舌列 薛惕乞- töre sedki- (続中) p. 160
脱舌劣 乞赤耶- törö kičiye- (続下) p. 558
脱舌列- töre- と脱舌列兀勘- töre'ŭl- (上) p. 77
脱舌列勘乞 törelki (続中) p. 85
脱舌里惕- törid- (下) p. 151, (続上) p. 366
脱児古惕 törkŭd (上) p. 249
脱舌魯勘乞禿 törülkitü (続中) p. 88
脱舌魯勘米石 törül-miši (続上) p. 252
倉兀惕 tsang-ūd (続下) p. 534
-tu/-tü, -taị/-teị, -tan/-ten (実詞形成接辞)《～をもつ》(上) p. 58, 102, (中) p. 139, (下) p. 62, (続下) p. 7, 374
[-tu², -taị², -tan²] の使い分け (続下) p. 78

[-tu², -taị², -tan²] の文（或いは節）構成力 （続中）p. 28
[-tu², -taị²] の用法 （続下）p. 470
禿楊中合〈舌刺〉 tudqar （上）p. 183, （中）p. 373
土敦 tudun （上）p. 197
禿黒 tuG （続上）p. 32, （続中）p. 101
-tuGaị/-tügeị （中）p. 10, 379, （続上）p. 285, （続下）p. 26, 288, 370
禿中忽〈侖〉 tuGul （続上）p. 308
禿剌 tula（後置詞）（続中）p. 167
禿勒巴 tulba （続下）p. 464
禿勒巴勒- tulbal- （続下）p. 464
禿勒八思 tulbas （下）p. 45
禿勒八思 斡〈都〉 tulbas od- （続下）p. 188, 464
禿魯 tulu （続下）p. 187
禿魯黒 tuluG （下）p. 324, （続上）p. 155, （続中）p. 142
土木不〈闌〉 tumbula- （続上）p. 41
禿木荅阿 tumda'ā （続中）p. 20
土木塔中合 tumtaGa （続中）p. 20
屯荅中合 tundaGa （続中）p. 20
統中忽-, 統〈中渾〉 tungqu- （中）p. 323, （続下）p. 522
禿你- tuni- （続下）p. 505
禿乞舌児- tuqir- （続下）p. 369
禿舌剌思壇 turastan （下）p. 139
禿舌児中合黒 turGaG （続中）p. 262, 280, 284
禿舌児中合兀楊, 土児中合兀〈的〉 turGa'ūd （中）p. 93, （続上）p. 277, 282, （続中）p. 262, 280
土舌林台 turimtaị （中）p. 136
禿舌魯黒 turuG （下）p. 324, （続中）p. 90, 141
禿舌魯中合楊 turuGad（turuqan の複数形）（続上）p. 267
圖思 中合你顔 tus qan-iyān （続下）p. 558
圖思 中罕你顔 tus qan-niyan （続上）p. 202
圖昔顔 tus-iyān, 圖速安 tus-u'ān （続下）p. 558
土思-, 土〈速〉 tus- （中）p. 293, （続中）p. 16, （続下）p. 294
土撒 tusa （中）p. 256
土失 tuši- （中）p. 70, （下）p. 89 →[tüši-]
土失牙勒〈敦〉 tušiya-ldu- （続上）p. 34
土屯 tutum （上）p. 153
禿兀- tu'ū- （上）p. 256
禿兀児必- tu'ūrbi- （続下）p. 108

禿牙勒 tuyal (続下) p. 188
土別- tübe- (中) p. 307
土卜申禿客勒 tübšin tükel (続下) p. 474
土不舌里温 tübüri'ün (中) p. 204
禿格- tüge-, 禿格額- tüge'ē- (続上) p. 226
土格帖列 tügetele (中) p. 178
推惕恢突舌児 tüidküi-dür (続上) p. 369
土烈食〈連〉 tülešile- (下) p. 282, (続上) p. 136
禿里- tüli- (続下) p. 203
統格黎克 中豁舌羅中罕 Tünggelig Goroqan (上) p. 46
土箕 tüme (tümen の不定格) (続中) p. 145
土綿 tümen (続上) p. 225
禿綿 斡亦舌剌惕 tümen Oyirad (続下) p. 91
禿舌児格捏 türgen-e (続下) p. 460
türi- と tülki- (続下) p. 204
禿舌侖 türün (türün) (上) p. 26, (中) p. 297
禿失-, 土失- tüši- (続中) p. 245, (続下) p. 141 →[tuši-]
禿速舌児格 tüsürge (下) p. 33, (続下) p. 37, 190, 232
禿亦惕- tüyid- (続上) p. 366, (続下) p. 186

-т と -тай$^{3}$ (と тан$^{4}$) の productive 性 (生産性) (続下) p. 7, 78-79
тавь- (上) p. 142
тамга と тэмдэг (上) p. 128
тар- と тарх- (続上) p. 26
тат- (上) p. 192
тонох (続上) p. 228
тоо, тооло- (上) p. 137
туу- (続下) p. 162
түргэн と хурдан (続下) p. 460
тэгээд (続上) p. 51
тэр と наадах чинь (上) p. 108
тэргүүтэн (上) p. 202

対格的不定格 (下) p. 261
～と与位格的不定格 (続下) p. 354
「高さ格 -цаа$^{4}$」「-tsā$^{4}$ (高さの限度)」 (上) p. 242, (続上) p. 340
定格 (下) p. 330, (続下) p. 76, 431→ [「不定格」の項参照]
倒置語法 (上) (中) p. 57

## u

-u/-ü, -i, -aị～-uị (進行中の動作を表わす動詞語尾) (中) p. 211, (下) p. 86, (続上) p. 36, 121, 256, (続下) p. 261, 323, 398, 399,
——の意義素 (下) p. 15
-ū/-ǖ (疑問の助辞) (中) p. 255, (下) p. 200, (続上) p. 264, 269
～の動詞の後に来ない語法 (続下) p. 232
-ū/-ǖ, -ūị/-ǖị, -ūn/-ǖn (実詞形成接辞) (上) p. 102
-u'-āị/-ū-ēị (～に属するもの) (上) p. 158, (続中) p. 212, (続下) p. 262, 284
兀- ū- (上) p. 81
-u'ān (続下) p. 441, 558
兀卜赤黒台 Ubčiɢtaị (下) p. 276
兀必思 ubis ～忽必思 hubis (下) p. 45, (続下) p. 16
兀不児 速不児 ubur subur (中) p. 171
兀赤舌剌- učira- (続上) p. 177
兀出馬 Učuma (続上) p. 77
-ūd² (複数形成接辞) (続下) p. 38, 84, 95
兀荅阿舌剌-, 兀荅阿〈舌闌〉 uda'āra- (続上) p. 185, (続下) p. 289
兀都- udu- (続上) p. 305
～と udurid- (続上) p. 23, (続中) p. 156
兀中忽勤札 uɢulǰa (続中) p. 44
兀哈里 uhāli (続下) p. 118
-兀斎, -兀澤 -'ūǰaị/-'ǖǰeị (中) p. 173, 380, (下) p. 49, 195, (続上) p. 87, 256, 271, (続中) p. 31, (続下) p. 26, 364
-兀只宜 -'ūǰiyi (-'ūǰaị の一変種) (続中) p. 31
兀乞塔剌 ukitala (中) p. 41, (続下) p. 305
-兀勒- -ūl-/-'ǖl- (使役形接辞) (中) p. 144, (続上) p. 182, (続下) p. 39-40
～の「～してもらう」と訳せる例 (上) p. 268, (中) p. 235
～の「～られる」と訳せる例 (上) p. 271, (中) p. 233, (続上) p. 265, (続中) p. 12
～の《～られる》と訳せる場合の -ɢda- との意味のちがい (続上) p. 82
～の敬語法,「君主たることの権威」を示す語法 (続中) p. 187, 238
～の謙譲用法 (続上) p. 370
-兀勒 -'ūl/-'ǖl (出動実詞形成接辞) (中) p. 144, 237, (続上) p. 23, 277, (続中) p. 58, 248, (続下) p. 523
兀剌阿 ula'ā (続中) p. 32
兀剌阿 古出 ula'ā küčü (続中) p. 265
兀藍 ulam (続上) p. 225
兀勒〈斤〉 ulgi-, 兀勒〈勤〉 ulki- (下) p. 277

兀里思 ulis- (続下) p. 505
-'ūlsun/-'ǖlsün (続上) p. 23
兀魯思 ulus (上) p. 48, 265, (下) p. 25, (続中) p. 201
兀魯孫 孛可 ulus-un bökö (下) p. 110, 117
兀木不 umbu (中) p. 225
-温 -'ūn/-'ǖn (-ūn²) (場所的副詞形成の接辞) (中) p. 376, (下) p. 155, (続上) p. 16, 192, 237, (続中) p. 311～313, (続下) p. 192, 262
-un (属格語尾) の一用法 (続上) p. 170
-un²-iyan² (再帰属格形) (続中) p. 156
兀納- una-, 兀納中合- unaqa- (続下) p. 395-396
温都舌侖 undur-u-n の読み方 (続上) p. 295
翁中合孫 unqasun と農中合孫 nungqasun (中) p. 219, (続上) p. 49
翁失- ungši- (中) p. 96, 118, (下) p. 130, (続下) p. 208
～と uri- (続中) p. 213
温只勒札- unǰilǰa- (続上) p. 66
穏榻舌剌- untara- (続下) p. 290
兀訥- unu- の要求する格語尾 (中) p. 206, (続中) p. 130, (続下) p. 395
兀訥阿 unu'ā (続上) p. 86
兀訥中忽臣 unuqučin (続下) p. 533
兀中合 uqa- (中) p. 232, (続上) p. 172, (続中) p. 168, (続下) p. 131, 285～288
兀中合惕 uqad (上) p. 127, (続中) p. 168
兀中含撒舌児 uqamsar (続下) p. 106-108
uraqa (上) p. 145
兀舌児邦 urbang (続上) p. 182
兀舌里惕 urid と, 兀舌里荅 urida と, 兀舌里都 uridu (続上) p. 148, (続中) p. 281
兀舌里荅 urida (続上) p. 203, (続下) p. 91, 110
兀舌里荅温 urida'ūn (続上) p. 192, (続下) p. 262
兀舌里牙 uriya, 兀舌里- uri- (続中) p. 213
兀舌里牙舌児中渾 uriyarqun (続下) p. 17
兀速〈闌〉 usula- (続上) p. 176
兀速舌児中合- usurqa- (続上) p. 238
兀速壇 沐舌洌惕 usutan müred の -tan の用法 (続下) p. 374
-'ūta (副動詞語尾) (中) p. 232
兀禿舌剌- utura- (中) p. 360
兀禿舌剌兀勒荅- utura-'ūl-da- (続上) p. 154
u'ū- (続上) p. 135
-uyi (続中) p. 33 →[孛魯宜 boluyi]

удаа (続上) p. 185
удган мод (上) p. 241
узуур (上) p. 10
улс と улсууд (上) p. 48
урд, урьд (続中) p. 282
уруу と өөд (上) p. 46

u²～i の交替語幹 (続下) p. 354

## ü

兀卜 üb (続上) p. 335
兀不勒 übül (上) p. 45, (続上) p. 93, (続下) p. 393
兀不勒者- übülǰe- (続下) p. 393
兀出格惕 üčüged (中) p. 40, (下) p. 33, (続下) p. 188
兀出兀干 üčü'ügan(gen) (中) p. 40
兀出兀堅 üčü'ügen (中) p. 40, (下) p. 33
兀迭 üde (中) p. 369, (続上) p. 169, (続下) p. 105
兀迭〈舌鄰〉 üderi- と兀迭舌里惕- üderid- (上) p. 275, (続上) p. 22, 81, 190, (続中) p. 156
兀迭失 üdeši (中) p. 369, (下) p. 351
兀都- üdü- と, 現代モンゴル語の өд-, ödö- ödǒ- (続下) p. 218
兀都惕 üdüd (üdür の複数形) (続中) p. 280, (続下) p. 31
兀都舌児 üdür (上) p. 45, 60, (中) p. 27, (続上) p. 93, (続中) p. 280, (続下) p. 31
兀都舌児都里 üdür düli (続上) p. 20
兀都舌児 格亦- üdür geyi- (中) p. 343, (続上) p. 60
兀都舌児 格亦兀〈禽〉 üdür geyi'ül- (下) p. 280, (続上) p. 56, 60
兀都舌児途舌児 üdür-tür (続上) p. 295
兀都舌禽 額舌児帖 üdür-ün erte (中) p. 298
兀都為 üdü'üi (否定語) (上) p. 59, (下) p. 48, (続上) p. 153, (続下) p. 264
兀格 巴舌剌黒荅- üge baraɢda- (続下) p. 211
兀格 把舌剌勒都- üge baraldu- (中) p. 363, (下) p. 344, (続下) p. 346
兀格額舌児 荅阿舌里- üge'ēr da'āri- (続下) p. 399
-ü'ēn (続下) p. 284→[-ü-yēn 参照]
兀該 ügei (上) p. 20, 55, 60, 101, (続上) p. 355
～の用法と意味 (続下) p. 159
兀該兀 ügei'ü ～兀該為 ügei'üi ～兀該温 ügei'ün (上) p. 101
ügei'ü (下) p. 227
ügei'ün (下) p. 302, (続上) p. 355

兀格兀 üge'ŭ ～兀格為 üge'ŭi ～兀格温 üge'ŭn （上）p. 20, 101
üge'ŭ （下）p. 227
鳴詁列- ügüle- （続下）p. 156
鳴詁列惕 ügüle-d （上）p. 127
鳴詁列舌論 ügülerün の用法 （下）p. 202, （続上）p. 181, （続中）p. 9, 91, 252
委亦列帖〈泥〉 üiyileten-i （下）p. 245
兀者- üje- （中）p. 34, （続上）p. 202
兀瞻 牙荅-, 兀氈 牙荅- üje-n yada- （続上）p. 146, 165, （続中）p. 81
-兀者埃 -ŭ'je'ēi （中）p. 71
兀主兀〈連〉 üjü'ŭle-n （続中）p. 41
兀窟- ükü- （中）p. 107, （続上）p. 355
兀窟惕古- üküdgü- （続上）p. 354
兀窟克迭- ükügde- （中）p. 107
-兀勒- -'ŭl-（使役形接辞）の謙譲用法 （続上）p. 370
兀勒都 üldü （上）p. 10, 136, 193, （下）p. 303
兀勒格- ülge- （続上）p. 345
兀里- üli- （下）p. 243
兀里惕〈刊〉 ülidke- （続中）p. 203
兀里格 ülige （続中）p. 158
üliger （下） p. 243
兀禄, 兀魯 ülü （上）p. 60, 222, （中）p. 379
～と ese （上）p. 80, （続上）p. 329, （続下）p. 159
～の否定性の及ぶ範囲〔ülü が否定するもの〕 （続中）p. 219, （続下）p. 26
兀禄 阿勒札中忽 ülü alǰaqu （下）p. 50
ülü bol- （下）p. 54, （続中）p. 33, （続下）p. 302, 320, 323, 523
兀禄 升格恢 亦咥額 ülü šinggeküi ide'ē （続中）p. 76
兀禄兀 ülü-'ŭ （中）p. 379
「兀禄兀——兀澤」 ülü'ŭ——'ūǰai （中）p. 379, （続上）p. 271, （続下）p. 26
「兀禄兀——兀只宜」 ülü'ŭ——'ūǰiyi （続中）p. 31
兀魯惕客- ülüdke- （中）p. 256, （続中）p. 203
兀篾克石 ümegši （下）p. 352
兀篾舌列 ümere （中）p. 79, （下）p. 352, （続下）p. 466
温都惕帖 中合〈舌魯〉 ündüd-te Gar- （下）p. 301
温都舌児 帖篾扯耶 ündür temeče-ye （続上）p. 347
兀年米石格- üne(n)mišige- （下）p. 347
兀年古 ünen-kŭ （上）p. 57
温只- ünǰi- （続中）p. 173
兀訥昆 ünügün （中）p. 329

兀児-, 兀舌児- ŭr- (中) p. 200, (続中) p. 58, 176
兀舌里額 üri'ē (下) p. 197
兀圖 都舌魯曰 古兀〈訥〉 ütü dürü-yin kü'ŭn (続上) p. 278
-ü'ŭ (疑問辞) (続上) p. 269
兀也中合牙 üye qaya (上) p. 105
兀耶列- üyele- (続上) p. 120
-ü-yēn (再帰曲用属格形) の成立 (続下) p. 350, 440, [(中) p. 85, (続中) p. 201, (続下) p. 284 参照]
兀耶〈訥〉 üyen (続上) p. 170
兀亦勒孫 üyilsün (続下) p. 16

Үйл, Үйлтэн (下) p. 246
үүр гий-, үүр цай- (中) p. 343

《馬》を表わす語彙 (上) p. 39, (下) p. 39, 197, (続下) p. 470
《馬に乗る》に当るモンゴル語の表現 (上) p. 178, (中) p. 163, (下) p. 212, (続中) p. 130, (続下) p. 395
《馬の毛色》を表わす語彙 (上) p. 37, 140～141, 226, (中) p. 147, 161, 329, (下) p. 230,
《馬の走り方》を表わす語彙 (上) p. 167, 175 (続上) p. 33, (続下) p. 331, 395
馬の「足を縛る索条」と「鞍の附属物」(中) p. 235, (続下) p. 184

## y

-牙／-耶 -ya/-ye (一人称の願望を表わす語尾) (続下) p. 36, 219
(文語における) -ya-/-ye- をもたない語根のままの動詞 (中) p. 70, (続中) p. 33
迓歩- yabu- (上) p. 96, (下) p. 260, 268, (続中) p. 266, (続下) p. 66
～の意義素 (上) p. 94
～の補助動詞的用法 (下) p. 44, (続中) p. 81, 168, (続下) p. 297
迓歩(你)鳴詁列舌論 yabu(n) ügülerŭn (上) p. 163, 169
迓歩黒荅- yabu-Gda- の意味 (続中) p. 168
迓歩勒荅- yabu-ldu- (上) p. 159
迓歩荅黒 客列禿 yabudaG keletü (下) p. 325
迓歩中罕 yabuGan の意味・用法 (続下) p. 183
迓歩中罕 額篾額勒 yabuGan eme'ēl (続下) p. 183-184
牙荅- yada-, 牙怛 yada-(n) (中) p. 97, (下) p. 267, (続上) p. 152
牙速 yasu (下) p. 181, (続下) p. 124
牙速把〈舌鄰〉 yasu bari- (続中) p. 16
牙速許速 yasu hüsü (続上) p. 357
牙兀客 ya'ū ke (下) p. 237

牙温 ya'ūn（疑問語）（続上）p. 310,（続中）p. 112
也古兀者埃 yegü-'üje'ēi （中）p. 70
也客 中豁勒 yeke Gol （続上）p. 36
也客 格児 yeke ger （中）p. 211
也客可兀 yeke kö'ü と阿中合 aqa （続下）p. 440
也乞兀者 yēki-'ü-je, 也乞兀澤 yēki-ü-je(i) （下）p. 195,（続上）p. 256
也客薛 中合札舌魯 亦捏舌魯 中合舌魯黒三突児 yekes-e Gaǰaru inerü Garugsan-dur （中）p. 13
-顔 -yēn (-iyēn)（再帰属格形）（続中）p. 229
也孫 yesün （上）p. 233,（続下）p. 180
也孫 闊勒禿 察中合安禿黒 yesün költü čaGa'ān tuG （続中）p. 101
也兀惕格- ye'üdge- （続下）p. 231
-宣 -yi（指定の -i～-yi）（続下）p. 258 →[-i～-yi]
-亘 -yi（対格語尾）（続上）p. 37,（続中）p. 145 →[-i～-yi の項]
-yi (deductive present -yu/-yü の女性形) （上）p. 228,（続上）p. 241,（続中）p. 33,（続下）p. 302, 505
-yid-（出実動詞形成接辞）（中）p. 220,（続上）p. 36,（続下）p. 331 →[-id]
亦克禿捏- yigtüne- （下）p. 63
-yin（属格語尾）の,《～のもの》と解される例（続中）p. 212
～の従属節の主語を示す例（続上）p. 96, 203, 223
約舌里顔 yor-iyān （中）p. 325
約舌児赤- yorči- （上）p. 141, 142,（続上）p. 238, 326
～の補助動詞的用法（下）p. 115
約孫 yosu(n)（続下）p. 380
約兀舌児中合 yo'ūrGa （続中）p. 117
-yu/-yü (deductive present)（上）p. 228,（中）p. 301,（続上）p. 241,（続中）p. 33,（続下）p. 302, 505
-yū/-yǔ（疑問の助辞）（中）p. 103,（下）p. 200
-余安／-余延 -yu'ān/-yü'(y)ēn の意味・用法（上）p. 56, 134,（続中）p. 229,（続下）p. 350, 440
-yu'ān/-yü'(y)ēn と -u'ān/-ü'ēn (-ūyēn)（続下）p. 285, 440, 558
-yüyēn と -yēn（続中）p. 229
-yu'ān/-yü'(y)ēn と -bān/-bēn (-ba'ān/-be'ēn)（上）p. 56
-yuGān² (モンゴル文語)（上）p. 56,（続下）p. 284, 350, 440

яв- （上）p. 96,（下）p. 260,（続下）p. 66
ясан, юу(н)（続上）p. 310
яд- （下）p. 117, 268,（続上）p. 152

язгуур, ёзоор （上）p. 10
ялаа, шумуул, батгана （続上）p. 239
-юу/-юү （中）p. 103,（下）p. 200

与位格語尾の -du/-dü（文語形）（上）p. 193
与位格語尾を伴わない慣用表現 （続下）p. 48
与位格的不定格 （続中）p. 122,（続下）p. 354

# あ と が き

いつものことながら，校正刷りの点検は，心身消耗を余儀なくされる作業である。心臓に持病をもつ私には，この作業は本当にこたえる。今回は風間書房の佐藤和久氏の協力が得られて，私の苦しみは減少したが，それでも校正洩れの責は勿論私自身にあるので，力の及ぶ限度で私は校正刷りと苦闘した。今はただただ誤植の少しでも少なからんことを祈って本書の出版を待つ心境である。

「はしがきに代えて」に誌した様に，元朝秘史蒙古語の研究は近い将来，その終点に近づけそうな感をもっているが，この文献のもつ，幾つかの大きな，文献学的，書誌学的な課題まで考慮に入れれば，「はしがきに代えて」で誌した文言は訂正を迫られることになる可能性なきにしもあらずである。

秘史蒙古語研究に終止符を打って，次の研究課題——今，頭に浮かぶ課題だけでも五指に余る——に進み入るのは何時になるのであろうか。その日の到来のおそからざることを自分自身に願って，この短かいあとがきを結びたい。今は，疲れ果てた体をゆっくり癒して，次の課題への体力を貯わえねばならない。

モンゴルの美しい碧空は，訪れるたびに，私の心を洗ってくれるが，日本の冬晴れの清明な美しさを，私は日本人として，少年時代からこよなく愛し続けて来た。この冬晴れの様な澄みきった心で，これからもモンゴル系の言語の研究にいそしみたいと思う。

平成五年二月十一日，日本の建国に思いをはせつつ。

小 沢 重 男

## 著者略歴

1926年8月18日東京に生れる。
1947年3月東京外事専門学校蒙古語学科卒業。
1951年3月東京大学文学部言語学科卒業。
1951年4月より東京外国語大学に奉職し、モンゴル語の教授・研究に従事し1989年3月に退官。その間、多くの著書・論文を発表し、『元朝秘史全釈（上・中・下）』、『元朝秘史全釈続攷（上・中・下）』はその一つの集大成であり、また『現代モンゴル語辞典』(大学書林1983)もその代表作の一つである。
現在、東京外国語大学名誉教授の他、モンゴル国立ウラーン・バートル大学名誉教授、内蒙古大学名誉教授、モンゴル科学アカデミー海外会員、国際モンゴル学会会長、日本モンゴル学会会長。

平成5年2月20日　印刷
平成5年2月28日　発行

元朝秘史蒙古語文法講義

定価　25,750円
(本体25,000円)

著者　小澤重男
発行者　風間　務
印刷者　千葉昭男

発行所　株式会社　風間書房

〒101　東京都千代田区神田神保町1の34
電話　(3291)5729番　振替東京1−1853番

(中台整版・有朋製本)

ISBN4-7599-0850-1